

中津川遺跡

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川~石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書5

平成23年3月

国 土 交 通 省
財団法人茨城県教育財団

中津川遺跡

一般国道6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川~石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書5

平成23年3月

国 土 交 通 省
財團法人茨城県教育財団



中津川遺跡遠景（遠方に霞ヶ浦を望む）



第1号道路跡発掘状況

序

茨城県では、地域の特性を生かした県土の均衡ある発展を目指して、広域的な交通ネットワークの整備を進めるとともに、道路事情の実態を勘査してバイパスを整備するなど、交通の円滑化や利便性の向上に努めています。

千代田石岡バイパスは、その一環として整備されるのですが、この事業予定地内には、埋蔵文化財包蔵地である中津川遺跡が所在することから、発掘調査を実施する必要があるため、当財団が国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から委託を受け、平成20年12月から平成21年3月までと平成21年5月から10月までの10か月間にわたって埋蔵文化財の発掘調査を実施しました。

本書は、その成果を収録したものです。学術的な研究資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深めるために活用されることによりまして、教育・文化の向上の一助となれば幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者である国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所から多大な御協力を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、石岡市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し深く感謝申し上げます。

平成23年3月

財團法人茨城県教育財團

理 事 長 稲 葉 節 生

例　　言

1 本書は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所の委託により、財団法人茨城県教育財團が平成20・21年度に発掘調査を実施した、茨城県石岡市大字中津川字清水久保台123番地の1ほかに所在する中津川遺跡の発掘調査報告書である。

2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

調査 平成20年12月1日～平成21年3月31日

平成21年5月1日～平成21年10月31日

整理 平成22年3月1日～平成22年3月31日、平成22年4月1日～平成23年3月31日

3 発掘調査は、調査課長池田晃一のもと、以下の者が担当した。

平成20年度

首席調査員兼班長 三谷 正

主任調査員 田原康司

主任調査員 斎藤貴史

平成21年度

首席調査員兼班長 白田正子

主任調査員 皆川 修

調査員 近江屋成陽

4 整理及び本書の執筆・編集は、平成21年度は整理課長村上和彦、平成22年度は整理課長樋村宣行のもと、以下の者が担当した。

平成21年度

主任調査員 櫻井完介 第1章～第3章第2節

平成22年度

調査員 近江屋成陽 第3章第3節・第4節

調査員 大久保隆史 第3章第3節7(1)

5 本書の作成にあたり、古道の調査方法については財団法人とちぎ生涯学習文化財団埋蔵文化財センター調査部長補佐中山晋氏、骨の同定については、大学共同利用機関法人国立歴史民俗博物館教授西本豊弘氏にご指導いただき、考察は付章として巻末に掲載した。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、X = + 19,280 m, Y = + 40,920 mの交点を基準点（A 1 al）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C …、西から東へ 1, 2, 3 … とし、「A 1 区」「B 2 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c … j、西から東へ 1, 2, 3, … 0 とし、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 al 区」「B 2 b2 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 SB - 掘立柱建物跡 SD - 溝跡 SE - 井戸跡 SF - 道路跡 SI - 壁穴住居跡 SK - 土坑 SX - 不明遺構 PG - ピット群 P - ピット

遺物 DP - 土製品 TP - 拓本記録土器 M - 金属製品・銭貨 Q - 石器・石製品 T - 瓦
土層 K - 搾乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 250 分の 1、各遺構の実測図は 60 分の 1 の縮尺で掲載することを基本とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

■	焼土・赤色・施釉・道路跡硬化面	■	炉・火床面・織維土器断面
■	窯部材・粘土・黒色処理・貝層・	■	煤・油煙・柱痕
墨痕・炭化材			

●土器・陶器 ○土製品 □石器・石製品 △金属製品 ■瓦 ★骨 - - - - 硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。

5 一覧表・遺物観察表の表記については、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g である。なお、現存値は () で、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物観察表の備考欄は、残存率や写真版番号、その他必要と思われる事項を記した。

(3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真版に記した番号と同一とした。

6 壁穴住居跡の「主軸」は、炉（窯）を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

目 次

序 例 言	
凡 例	
目 次	
中津川遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	5
第1節 調査に至る経緯	5
第2節 調査経過	6
第2章 位置と環境	7
第1節 地理的環境	7
第2節 歴史的環境	7
第3章 調査の成果	13
第1節 調査の概要	13
第2節 基本層序	13
第3節 遺構と遺物	14
1 縄文時代の遺構と遺物	14
(1) 壺穴住居跡	14
(2) 炉跡	40
(3) 陥し穴	40
(4) 土坑	42
2 弥生時代の遺構と遺物	123
(1) 壺穴住居跡	123
(2) 土坑	139
3 古墳時代の遺構と遺物	141
壺穴住居跡	141
4 奈良時代の遺構と遺物	155
壺穴住居跡	155
5 平安時代の遺構と遺物	159
壺穴住居跡	159
6 中世・近世の遺構と遺物	169
(1) 掘立柱建物跡	169
(2) 方形壺穴遺構	177
(3) 井戸跡	181
(4) 道路跡	183
(5) 火葬土坑	232
(6) 墓坑	233
(7) 土坑	241
(8) 溝跡	261
(9) 不明遺構	263
7 その他の遺構と遺物	264
(1) 土坑	264
(2) 溝跡	270
(3) ピット群	275
(4) 不明遺構	280
(5) 遺構外出土遺物	280
第4節 まとめ	282
付 章	296

写真図版
抄録
付図

PL 1 ~ PL52

なかつがわいせき がいよう 中津川遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

中津川遺跡は石岡市の南東部、山王川右岸の標高 21 ~ 24m の台地上に立地しています。今回の調査は、一般国道 6 号千代田石岡バイパスの建設に先立って行いました。道路予定地内には当遺跡があることから遺跡の内容を図・写真に記録して保存するために、茨城県教育財團が発掘調査をしました。



調査の内容

今回の調査区域は、遺跡全体からみると北東部の一部分にあたります。調査の結果、縄文時代前期（約 6000 年前）から近世（約 150 年前）までの遺構と遺物が確認でき、長期間にわたって土地利用していたことが明らかとなりました。中心となるのは、縄文時代中期（約 5000 年前）、弥生時代後期（約 1800 年前）の集落跡と中世・近世の墓域や交通路で、台地平坦部から緩やかな斜面に堅穴住居跡 28 軒、陥し穴 3 基、掘立柱建物跡 8 棟、方形堅穴遺構 5 基、井戸跡 1 基、道路跡 8 条、火葬土坑 2 基、墓坑 13 基、溝跡 16 条などを確認しました。



中津川遺跡全景（遠方に筑波山を望む）

～縄文時代から弥生時代の建物跡～



えんけい ろ 円形で炉をもつ住居跡

縄文時代中期（約 5000 年前）の住居跡は、平面形が円の形をしており、中央には煮炊きをしたとみられる炉の跡が確認できました。



えかがみ 柄鏡の形をした住居跡

縄文時代後期（約 4000 年前）の住居跡は、平面形が柄鏡のような形をしています。張出部が入り口であると考えられています。県内では発見例が少なく、貴重な発見です。



弥生時代後期の竪穴住居跡

弥生時代（約 1800 年前）の竪穴住居跡は、平面形が隅丸長方形の形をして主柱穴の中央部に炉を持っています。炉は煮炊きを行ったり暖房の役割をしています。



じゆうけいつ 住居跡の柱穴から出土した弥生土器

柱材を抜き取った後に、埋められた状態で発見されました。

現代の道路と並行している道路跡



路面に残された足跡



江戸時代（約400～150年前）の遺構は、道路跡や土坑などを確認しました。道路跡は、県道石岡・田伏・土浦線（高浜街道）と並行して見つかりました。県道は、石岡と高浜を結ぶ重要な道です。今回の調査では、全長187mが確認できました。当初古代の道路跡を想定して調査を進めましたが、調査の結果、江戸時代の道路であることが明らかになりました。道路の路面には、荷車の轍の跡や人の足跡が見つかっています。

寛永通宝の出土状況

路面を構築している土の中から寛永通宝のほかに、染付の碗や皿といった磁器の破片や煙管が出土しています。このことから、17世紀後半代、18世紀代、19世紀代の3時期に道路が作られたことがわかりました。



足跡の歩行の様子

人の足跡は、埋まった砂の下から確認できました。水田の遺跡で火山灰や洪水による泥流の下から足跡がよく見つかることがあります。今回の調査のように道路から足跡が見つかるのはとても珍しいことです。

～発掘された主な遺物～



古墳時代後期（約1400年前）の
竪穴住居跡からは、土師器の壊が置
かれた状態で出土しました。廃棄時
にマツリをしたのかも知れません。

平安時代（約1200年前）の竪穴
住居跡の竈からは、須恵器の壊や甕
が出土しました。



中津川遺跡から出土した弥生土器は、栃木県中央部から茨城県西部に分布する
二軒屋式土器や茨城県北東部に分布する髭釜式土器の影響がみられ、両方の特
徴的な文様を取り入れています。これらの地域から移動してきた人達が交流し、
当遺跡周辺で独自の文化を生み出したのかも知れません。

調査の成果

中津川遺跡は、縄文時代から平安時代に断続的に集落が営まれ、中世から近世にかけては墓域や道路として利用されていました。特に弥生時代の住居跡がまとまって確認でき、他地域との交流から生まれた独自の弥生土器が出土したことや、調査例の少ない江戸時代の道路跡の調査は、道路の構築方法を知る上でも貴重な成果であったと考えられます。

第1章 調査 経 緯

第1節 調査に至る経緯

国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所は、かすみがうら市及び石岡市において一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）の道路整備を進めている。

平成10年11月12日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、一般国道6号千代田石岡バイパス新設事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けた茨城県教育委員会は、路線予定地内の中津川地区について平成11年2月8日から3月3日に現地踏査を、平成12年8月31日、9月1・4・5日、12月7日に試掘調査を実施し、中津川遺跡の所在を確認した。平成12年11月21日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、事業地内に中津川遺跡が所在すること、及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。

平成15年3月10日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して、文化財保護法第94条の規定に基づく土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成15年3月12日、茨城県教育委員会教育長は現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、中津川遺跡について工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成20年2月8日、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長に対して一般国道6号千代田石岡バイパス（かすみがうら市市川～石岡市東大橋）新設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成20年2月14日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長あてに、中津川遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて埋蔵文化財の調査機関として財團法人茨城県教育財團を紹介した。

財團法人茨城県教育財團は、国土交通省関東地方整備局常陸河川国道事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成20年12月1日から平成21年3月31日、同年5月1日から10月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

中津川遺跡の調査経過については、その概要を表で記載する。

平成 20 年度

工程	月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認					
遺構調査					
遺物洗浄 注記 写真 作業整理					
補足調査 収集					

平成 21 年度

工程	月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
調査準備 表土除去 遺構確認							
遺構調査							
遺物洗浄 注記 写真 作業整理							
補足調査 収集							

第2章 位置と環境

第1節 地理的環境

中津川遺跡は、石岡市大字中津川字清永久保台123番地の1ほかに所在している。

石岡市域の地勢は、霞ヶ浦の北西。県中央部に広がる洪積台地を主体としている。筑波山系の加波山に源を発する恋瀬川が、北西から南東方向に流れ霞ヶ浦の高浜入に注ぎ。両岸には標高20～30mの起伏が緩やかな台地が広がっている。市の北西城は、恋瀬川とその支流によって、高地、台地、低地と起伏に富んだ地形が形成され、恋瀬川右岸の台地上には、柿岡地区を中心とした旧八郷市街地が発達している。南東域は南端の高浜から市域の中央部に位置する龍神山麓まで約8kmにわたり、幅約1.5kmの狭長な台地が形成され、恋瀬川と園部川。その中間を流れる山王川によって支谷が刻まれている。恋瀬川左岸に位置するこの台地は石岡台地と呼ばれ、標高20～25mほどの平坦な地形で、現在は石岡市街地が発達している。

地質は、未固結の砂を主とする石崎層、浅海成の貝化石を産する海成の砂層である見和層を基盤とし、その上に茨城粘土層と呼ばれる層、さらに褐色の関東ローム層が連続して堆積し、最上部は腐食土層となっている。

当遺跡は、山王川右岸の標高21～24mの河岸段丘上で、石岡市街中心部から南東に馬の背状に延びる台地の中央部に位置している。当遺跡の北に広がる台地は畠地及び市街地として、南に広がる恋瀬川流域の低地は水田として利用されている。当遺跡の調査前の現況は畠地である。

第2節 歴史的環境

恋瀬川流域の石岡市やかすみがうら市には、多くの遺跡が分布している。ここでは、恋瀬川流域の主な遺跡を中心に、時代ごとに概観する。

恋瀬川流域における旧石器時代は、未だ不明な点が多い。当遺跡から北西方向に約5.5km離れた位置に存在する宮平遺跡では石核3点、正月平遺跡や田島遺跡（田島下地区）（8）では、ナイフ形石器がそれぞれ出土している。近年の開発に伴う発掘調査により、ほかの遺跡からも旧石器時代の遺物が出土しているが、石器製作跡や人々の生活痕跡を示す遺構は、まだ確認されていない¹⁾。

縄文時代の遺跡は、草創期から晩期にかけて各時期のものが確認されている。当遺跡周辺では、小目代遺跡（13）、三面寺遺跡（9）、田島遺跡（田島下地区、南光院・南光院下地区）、外山遺跡、大谷津遺跡（21）、鐵鬼塚遺跡、宮部遺跡（16）、新池台遺跡（20）などがある²⁾。これらの遺跡は、恋瀬川から霞ヶ浦にかけての舌状台地上に分布しており、集落が営まれていたと考えられる。

弥生時代に入ると生活や文化に変化が見られるようになる。水田耕作による農耕文化の始まりである。弥生時代の遺跡については、新池台遺跡や宮平遺跡、外山遺跡などがあり、恋瀬川や園部川に面する台地縁辺部に集中している。のことから、入りくんだ谷津の地形を利用して農耕生活を営み、集落を構成していたことをうかがい知ることができる。他に後期初頭の土器が出土した鐵鬼塚遺跡、弥生土器と土師器の共伴が確認されたことで知られる外山遺跡などが存在している。約3km上流の恋瀬川右岸には後期の住居跡9軒が確認された松延遺跡、同じく後期の住居跡11軒が確認された石岡別所遺跡³⁾などが存在しているなど、恋瀬川流域の台地上や河岸段丘上には後期に比定される遺構が確認されている。

古墳時代に入ると多くの遺跡が確認されている。集落跡のみならず古墳も多く、18群132基の古墳が確認されている。その多くは恋瀬川沿いに位置しており、中津川地区から高浜にかけては、舟塚山古墳をはじめ、府中愛宕山古墳・大日塚山古墳など大形の古墳を含む舟塚山古墳群（4）が存在している。舟塚山古墳は東日本第2位の規模を誇るもので、この地における強大な権力をもった首長墓とみられる。恋瀬川左岸には方形周溝墓3基と円墳11基、前方後円墳1基からなる後生車遺跡、右岸には円墳7基、方墳2基、前方後円墳1基からなる松延古墳群、円墳6基、前方後円墳3基が確認された別所古墳群、県指定史跡の熊野古墳などが存在している。恋瀬川流域の沖積地に面した台地縁辺部や河岸段丘上には多くの集落が存在していたことが明らかとなっている。左岸には前期と後期の堅穴住居跡が確認された田島遺跡（南光院・南光院下地区、三面寺地区）や4・7世紀代の集落跡である田崎遺跡³⁾（7）など、右岸には南原A遺跡（5）、宮台遺跡（6）、前期から後期の姥久保遺跡のほか、その上流には松延遺跡、前期の市川遺跡などが存在している。

奈良・平安時代になると、律令制により国・郡・里（郷）制がしかれた。石岡市域は茨城郡に属し、常陸国府が置かれた。常陸国衙跡（14）は從来から現石岡小学校敷地説が有力であったが、近年の継続的な調査によって、1町四方の区画内に正殿、前殿が置かれ、その東西に脇殿が整然と配された国衙跡が確認されたことで、石岡小学校敷地が常陸国衙の中枢部である国庁であったことが判明した。当遺跡の北方には鹿の子遺跡（18）、常陸國分尼寺跡（19）や常陸國分寺跡（17）のほか、茨城郡衙跡（11）、茨城廃寺跡（12）などが存在しており、石岡市域は古代常陸国の中心地であった。特に鹿の子C遺跡は、国衙成文書など常陸国政の一端を知る貴重な漆紙文書が発見された遺跡として注目されている。ほかに集落跡として、左岸の田島遺跡（三面寺地区）、右岸の姥久保遺跡、志筑遺跡など多くの遺跡が存在している。

中世になると、武家が台頭して勢力争いが起こり、戦国乱世へ流れていく中、各地に城郭が築造されるようになる。石岡市域では、鎌倉時代に常陸国衙において政務を執っていた常陸大掾馬場資幹が外城の地に石岡城（10）を築城した。南北朝時代には、大掾氏と小田氏との間で抗争が激化し、8代詮国は現在の石岡小学校の場所に城を移して府中城（15）とした。これにより石岡城は府中城の出城としての性格を強めた。高野浜城跡（2）、三城跡（3）などは、この時期に築城された出城跡である。旧千代田町域では、下河辺政義が13世紀に創建したとされている県指定史跡の志筑城跡のほか、市指定史跡の中根長者屋敷などが台地上に所在している。やがて中世末期には、大掾氏や小田氏の抗争が起こり、北から勢力を伸ばしてきた佐竹氏の支配下に入るようになった。

徳川家康が江戸に幕府を開いた近世は、大掾氏に代わって佐竹氏が天正18年から約12年間支配したが、その後は江戸や城下町に住む将軍や大名、あるいは旗本のような幕藩領主による支配を経て、元禄13年水戸藩徳川頼房の五男頼隆が府中城の一画に陣屋を置いて統治した⁴⁾。古来から水運交通に恵まれていた石岡の地は、周辺集落や各地からの物産集散地としての性格を色濃くし、特に酒・醤油など、醸造業を中心とした商人層の活躍が目覚ましかった。また、陸路も発達し、江戸から水戸、さらには東北地方へ延びる浜街道が整備された。

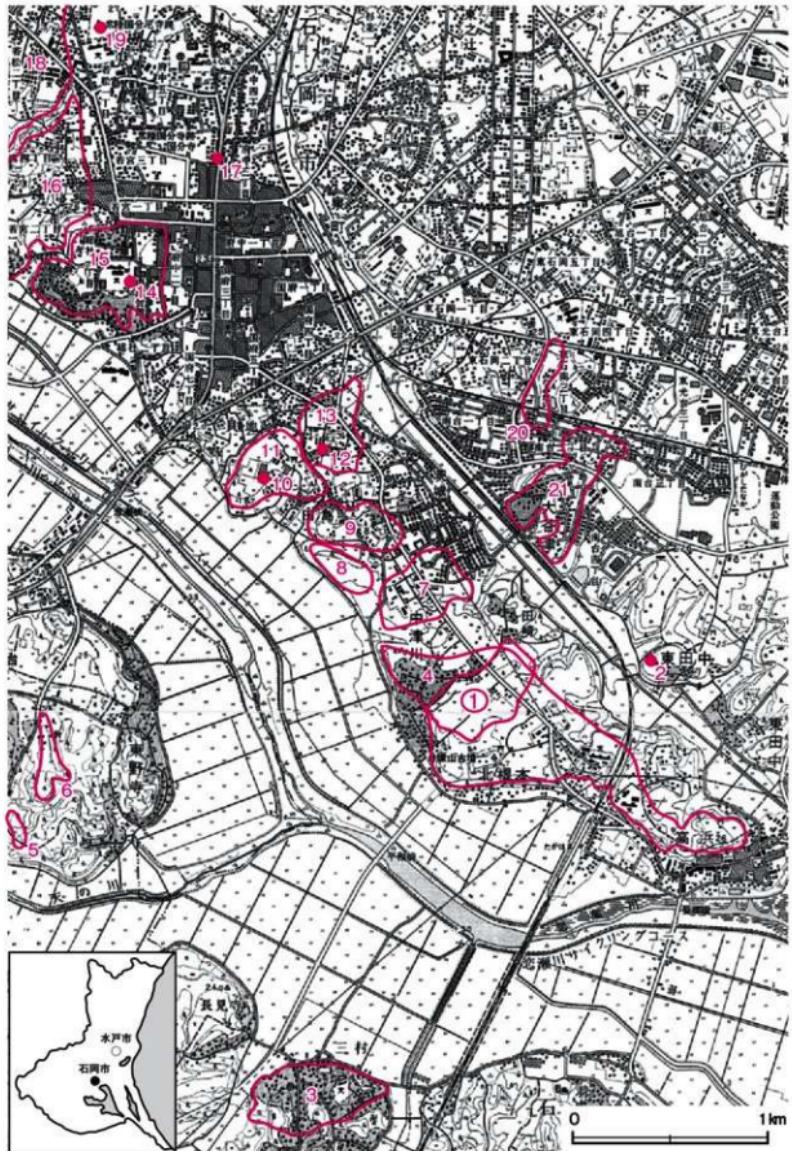
※文中の〈 〉内の番号は、表1、第1図の番号と同じである。なお、本章は『茨城県教育財團文化財調査報告』第327集を基にし、若干加筆したものである。

註

- 1) 石岡市文化財関係資料編纂会『常甫石岡の歴史』 石岡市教育委員会 1997年3月
- 2) 後藤孝行「石岡別所遺跡 一般国道石岡つくば線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書』『茨城県教育財团文化財調査報告』第244集 2004年3月
- 3) 斎藤寅史「田崎遺跡 一般国道6号千代田石岡バイパス (かすみがうら市市川~石岡市東大橋) 事業地内埋蔵文化財調査報告書4』『茨城県教育財团文化財調査報告』第327集 2010年3月
- 4) 竹内理三編『角川日本地名大辞典 8 茨城県』角川書店 1983年12月

参考文献

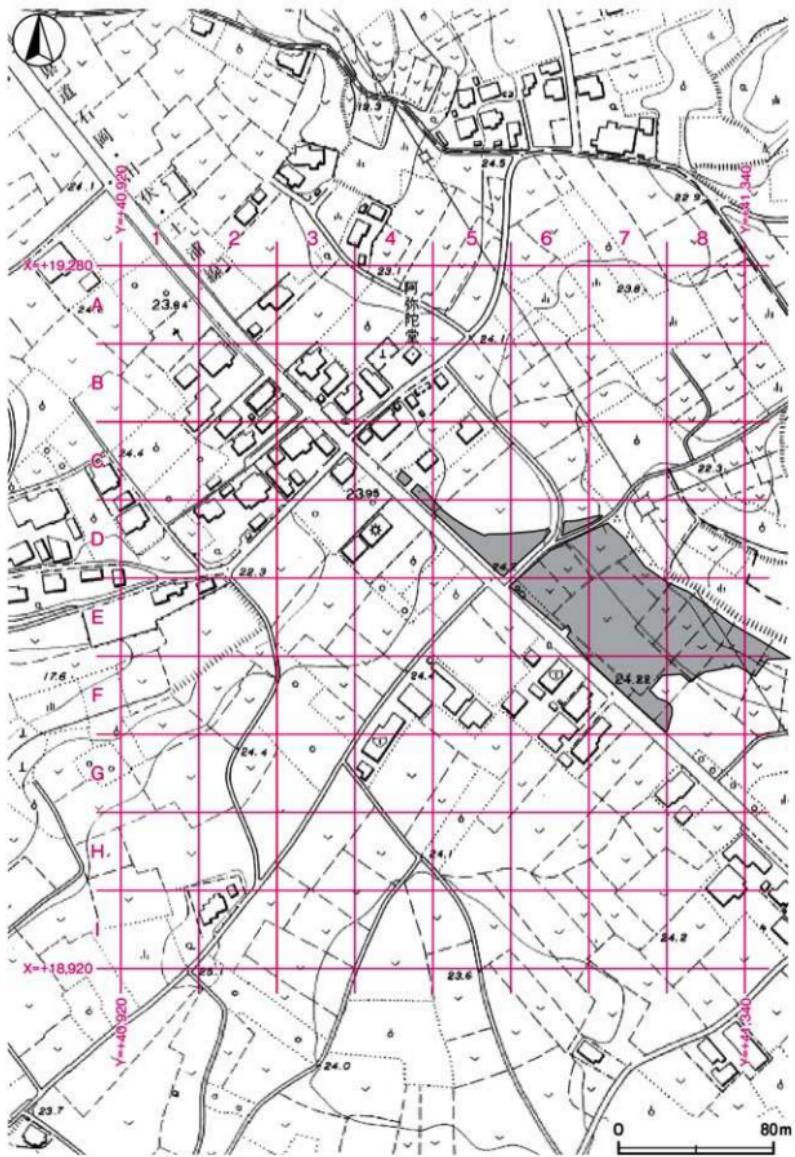
- ・茨城県教育庁文化課『茨城県遺跡地図(地名表編・地図編)』 2001年3月
- ・石岡市史編さん委員会『石岡市史』(上巻) 石岡市 1990年7月



第1図 中津川遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000 分の 1 「石岡」・「常陸高浜」）

表1 中津川遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代					番号	遺跡名	時代						
		旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良・平安			旧石器	繩文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	中津川遺跡	○	○	○	○	○	○	1 7常陸国分寺跡					○		
2	高野浜城跡					○		1 8鹿の子遺跡	○	○	○	○	○	○	
3	三村城跡	○		○		○	○	1 常陸国分尼寺跡					○		
4	舟塚山古墳群			○				2 0新池台遺跡	○						
5	南原A遺跡		○	○				2 1大谷津遺跡	○			○	○	○	
6	宮台遺跡			○	○			- 宮平遺跡	○	○	○	○	○		
7	田崎遺跡	○	○	○	○	○	○	- 外山遺跡	○	○	○	○			
8	田島遺跡 (田島下地区)	○	○		○	○	○	- 蛾鬼塚遺跡	○	○	○	○	○		
9	三面寺遺跡	○			○	○		- 松延遺跡	○	○	○		○	○	
10	石岡城跡				○	○		- 石岡別所遺跡	○	○	○	○	○	○	
11	茨城郡衙跡				○			- 後生車古墳群				○			
12	茨城廢寺跡				○			- 別所古墳群				○			
13	小目代遺跡	○		○	○	○		- 熊野古墳				○			
14	常陸国衙跡				○			- 姪久保遺跡				○	○	○	
15	蔚中城跡					○	○	- 市川遺跡				○			
16	碧部遺跡	○		○	○	○		- 志筑城跡				○	○		



第2図 中津川遺跡調査区設定図（石岡都市計画基本図 2,500 分の 1 を使用）

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

中津川遺跡は、山王川右岸の標高約21～24mの台地上に立地している。調査前の現況は畠地であり、調査面積は6556m²である。

今回の調査によって、堅穴住跡28軒（縄文時代13、弥生時代7、古墳時代4、奈良時代2、平安時代2）、掘立柱建物跡8棟（中世・近世）、方形堅穴造構5基（中世）、井戸跡1基（中世）、道路跡8条（近世）、炉跡1基（縄文時代）、火葬土坑2基（中世）、墓坑13基（中世・近世）、土坑540基（縄文時代403、弥生3、中世・近世86、時期不明48）、陥し穴3基（縄文時代）、溝跡16条（中世・近世2、時期不明14）、ピット群6か所（時期不明）、不明造構2基（中世、時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に55箱出土している。主な出土遺物は、縄文土器（深鉢・浅鉢）、弥生土器（壺・広口壺）、土師器（壺・碗・壇・高杯・壺・壺・瓶・ミニチュア・手握土器）、須恵器（壺・高台付壺・蓋・高杯・高盤・鉢・短頸壺・フラスコ瓶・提瓶・長頸瓶・壺・瓶・転用硯）、土師質土器（内耳鍋・擂鉢・目皿）、瓦質土器（火鉢・七厘）、瓦（丸瓦・平瓦・桟瓦）、陶器（天目茶碗・灯明皿・受皿・片口鉢・碗・擂鉢・瓶類・焜炉）、磁器（皿・碗・香炉）、土製品（土玉・管状土錐・支脚・紡錘車・土器片錐・土器片円盤）、石器・石製品（石斧・台石・磨石・敲石・凹石・臼臼）、金属器・金属製品（刀子・鎌・煙管・馬具・鍵・鉗）などである。

第2節 基本層序

調査区の中央部（D7a1区）にテストピットを設定し、基本土層の堆積状況の観察を行った（第3図）。

第1層は、現耕作土で、層厚は16～24cmである。

第2層は、暗褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は7～24cmである。

第3層は、褐色を呈するソフトロームとハードロームブロックを含む層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は4～38cmである。

第4層は、褐色を呈するソフトロームとハードロームブロックを含む層である。粘性・締まりとともに普通で、層厚は4～27cmである。

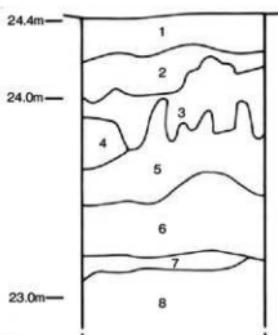
第5層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は17～48cmである。

第6層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は26～40cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層で赤城鹿沼軽石（A g - K P）を含む層である。粘性は普通で、締まりは強く、層厚は5～14cmである。

第8層は、褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに強く、層厚は44cmまで確認したが、下層は未掘のため不明である。

住居跡などの遺構は、第2層上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

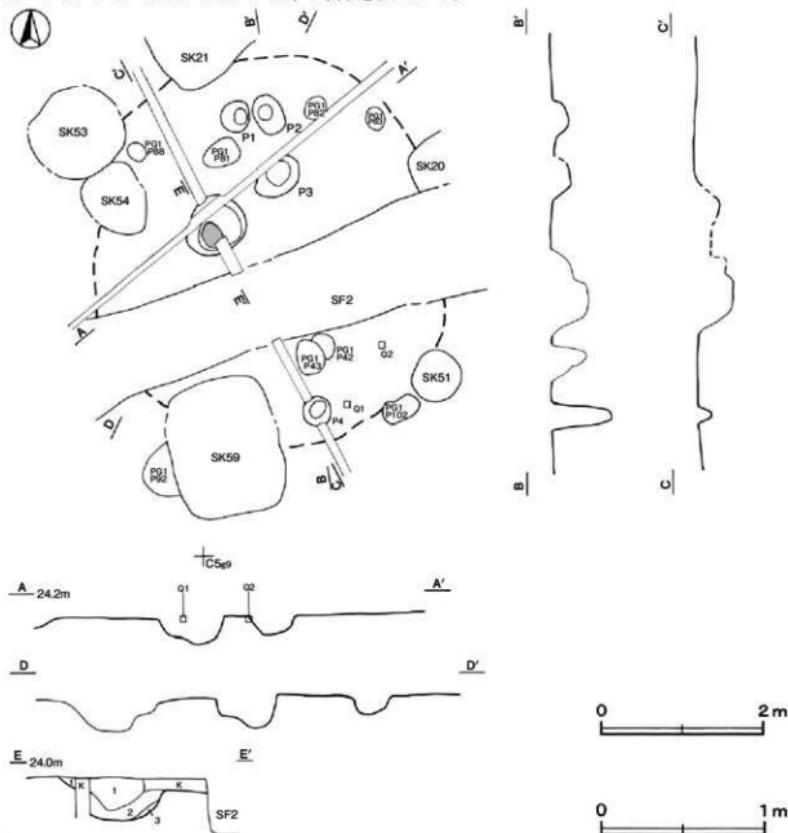
当時代の遺構としては、竪穴住居跡13軒、炉跡1基、陥し穴3基、土坑403基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 竪穴住居跡

第2号住居跡（第4・5図）

位置 調査区北西部のC5伊区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第67・90号土坑を掘り込み、第2号道路、第20・21・51・53・54・59号土坑、第1号ピット群（P42・P43・P81～P83・P88・P102）に掘り込まれている。



第4図 第2号住居跡実測図

規模と形状 確認面が床面であったため、壁は確認できなかったが、炉と柱穴の位置から、長径 4.82 m、短径 4.40 m の円形と推測できる。

床 ほぼ平坦で、全体的に締まっているが、顯著な硬化面は認められなかった。

炉 ほぼ中央部に付設されていたと推測できる。形状は長径 80cm、短径 64cm の楕円形である。深さ 24cm で炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

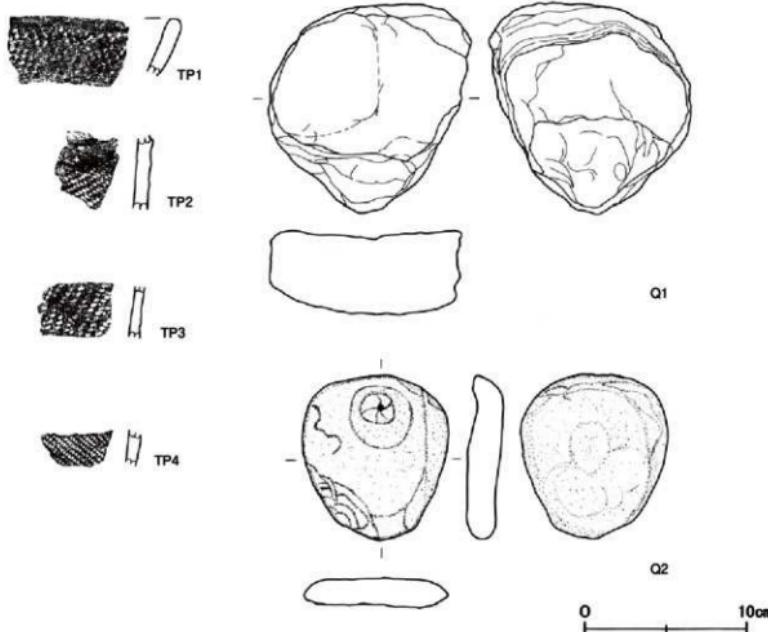
1 黒褐色 塗土ブロック・炭化物・ローム粒子微量
2 暗褐色 塗土ブロック・炭化物微量

3 赤褐色 塗土ブロック少量・炭化物・ローム粒子微量

ピット 4か所。P 1～P 3 は深さ 26～41cm で、主柱穴である。P 4 は深さ 76cm で、南東壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

遺物出土状況 繩文土器片 14 点（深鉢）、石器 2 点（台石・凹石）のほか、混入した土師器片 2 点（甕）も出土している。Q 1・2 は南側寄りの床面から、TP 1・3・4 は南側寄りの覆土下層からそれぞれ出土し、TP 2 は炉の覆土中から出土している。図示できない縄文土器も同時期の様相を示している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E II 式期）と考えられる。



第5図 第2号住居跡出土遺物実測図

第2号住居跡出土遺物観察表（第5図）

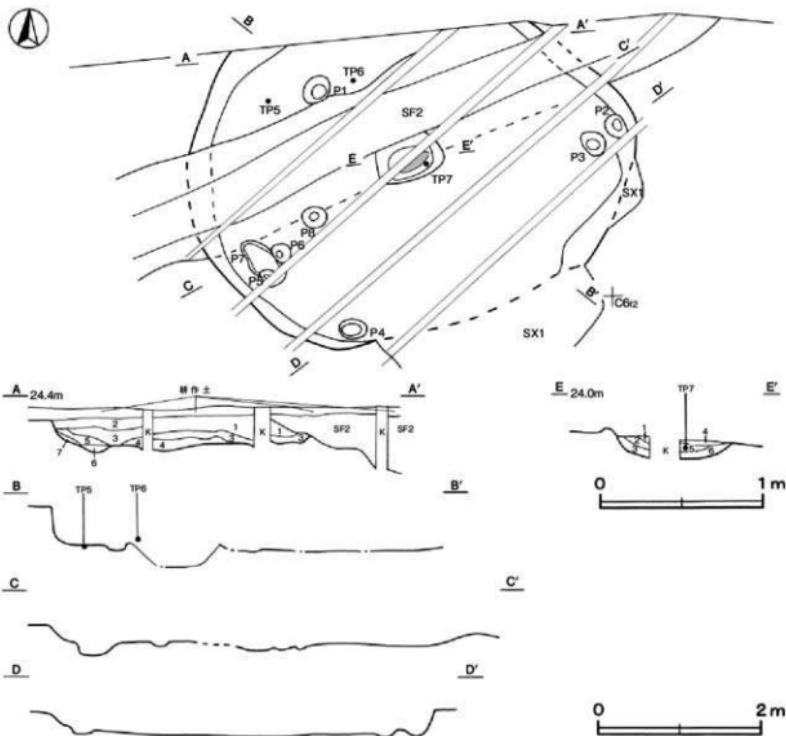
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP 1	縄文土器	深鉢	長石・雲母	黒褐 / にぶい橙 文	胴部内面横方向のヘラ磨き、外面単面R L縄文施文	覆土下層	
TP 2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	胴部外面単面L R縄文沈窓区画文で充填	印内	
TP 3	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	胴部外面単面L R縄文施文	覆土下層	
TP 4	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	胴部外面単面R L縄文施文	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 1	石斧	128	125	53	1023.5	多孔隕岩	片面一面磨面	床面	
Q 2	石斧	101	90	23	302.1	安山岩	被熱により劣化、凹痕1か所	床面	

第3号住居跡（第6・7図）

位置 調査区北西部のC 6 el 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号道路、第1号不明遺構に掘り込まれている。



第6図 第3号住居跡実測図

規模と形状 北部は調査区域外に拡がっている。調査区内で確認できた形状から、平面形は楕円形と推測できる。確認できた規模は長径 5.52 m、短径 3.70 m で、主軸方向は N - 50° - E である。壁高は 12 ~ 32 cm で外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、全体的に締まっているが、顯著な硬化面は認められなかった。

炉 ほぼ中央部に付設されていたと推測できる。第 2 号道路に掘り込まれているため遺存状態が悪いが、長径 80 cm、短径 60 cm の楕円形と推定できる。深さ 14 cm の地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 黒褐色	燒土ブロック・ローム粒子・炭化物少量	4 黒褐色	燒土ブロック・炭化物微量
2 暗褐色	燒土ブロック・炭化物中量、ロームブロック微量	5 暗褐色	ロームブロック・燒土ブロック少量
3 褐色	ロームブロック中量、燒土ブロック・炭化物微量	6 にい褐色	燒土ブロック中量、ロームブロック微量

ピット 8か所。P 1 ~ P 6 は深さ 6 ~ 8 cm で、主柱穴である。P 7 は深さ 8 cm で、南西壁際の中央部に位置していることから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 8 は深さ 7 cm で性格は不明である。

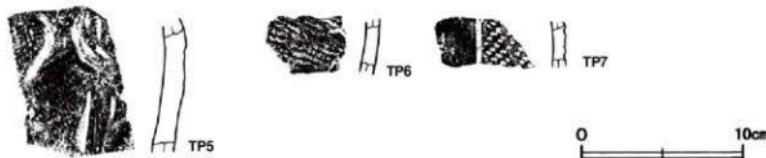
覆土 7 層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子少量	5 褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子中量	6 暗褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック多量、燒土ブロック・炭化粒子微量	7 褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 黄褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量		

遺物出土状況 繩文土器片 10 点（深鉢）のほか、流れ込んだ須恵器片 1 点（甕）も出土している。TP 5, 6 は北西側の床面から、TP 7 は炉内から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉（加曾利 E Ⅱ式期）と考えられる。



第7図 第3号住居跡出土遺物実測図

第3号住居跡出土遺物観察表（第7図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	出土位置	備考
TP 5	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にい褐色	胴部單節 R L 繩文施文後縁楕円形の区画文で区画 2条の断面垂直施文	床面	
TP 6	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にい黄橙	胴部無節 L 繩文施文	床面	
TP 7	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にい橙	胴部單節 R L 繩文施文後縁断面垂直施文	炉内	

第6号住居跡（第8 ~ 10図）

位置 調査区北西部の C 615 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 163 ~ 166・169 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 4.00 m、短径 3.58 m の楕円形で、主軸方向は N - 4° - E である。壁高は 6 cm で外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 第 164・165 号土坑に掘り込まれ、炉は確認できなかったが、床面の硬質部分が中央部に確認できるため、

ほぼ中央部に付設されていたと推測できる。

ピット 8か所。P 1 ~ P 8は深さ12~25cmで、炉と推測できる中央部から、環状に巡っていることから支柱穴と考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|-----------|--------|---|---|---|---|-----------|--------|
| 1 | 褐 | 色 | ロームブロック中量 | 燒土粒子微量 | 3 | 暗 | 褐 | 色 | ロームブロック少量 | 燒土粒子微量 |
| 2 | 褐 | 色 | ロームブロック中量 | 燒土粒子微量 | | | | | | |

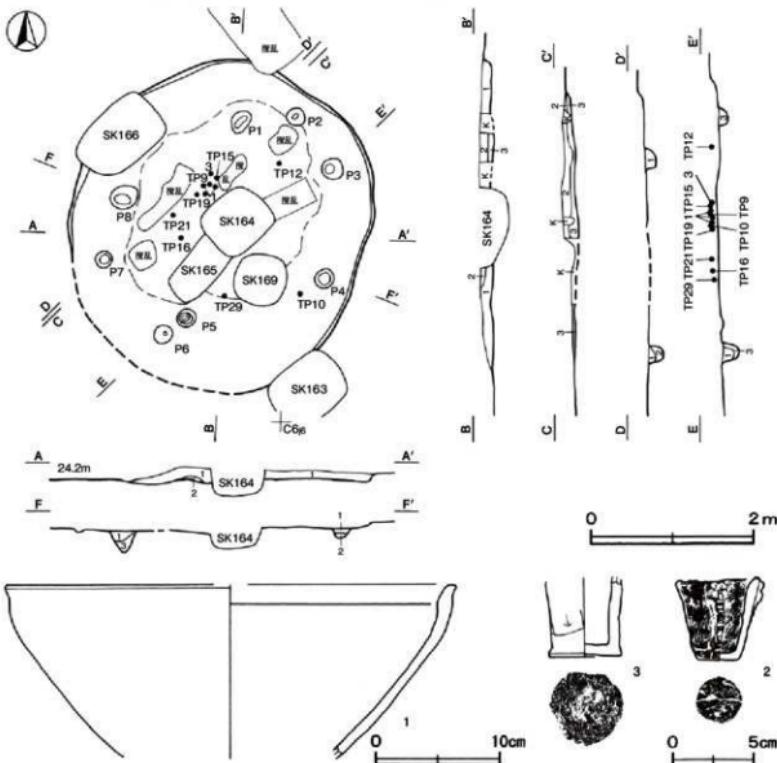
覆土 暗褐色を基調に3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれ、ほぼ水平に堆積していることが埋め戻されている。

土層解説

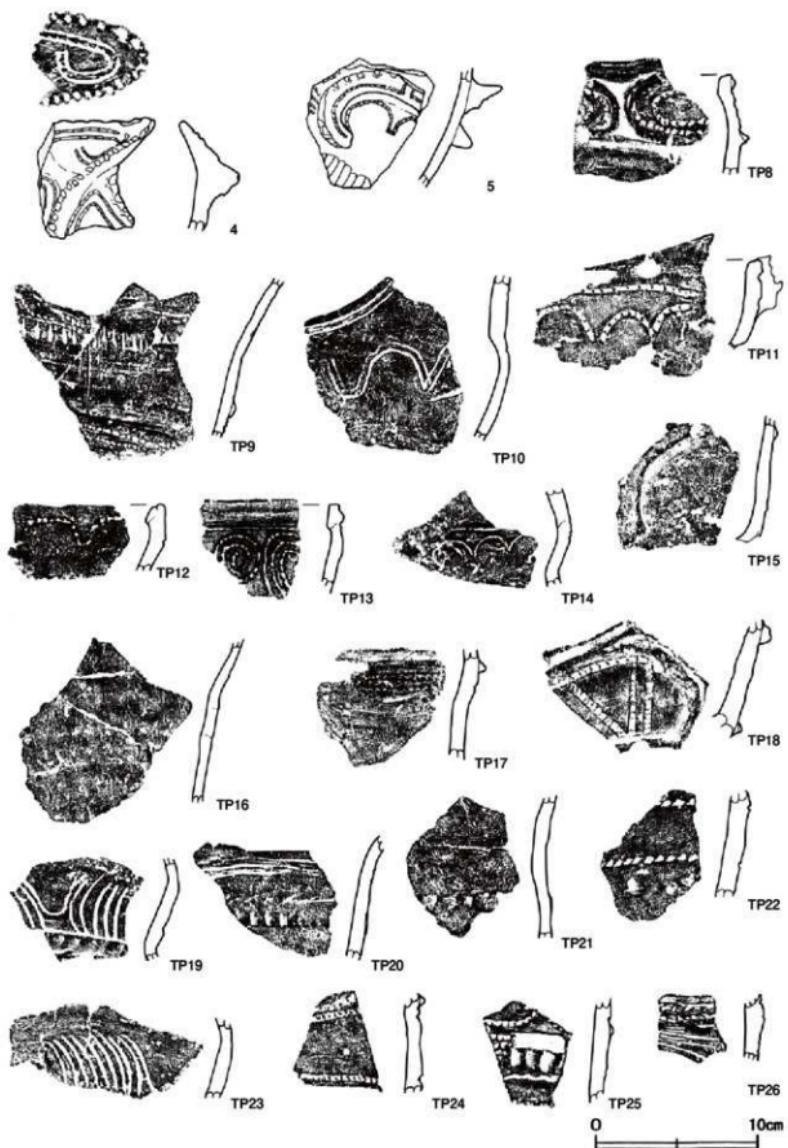
- | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|-----------|--------|---|---|---|---|-----------|--------|
| 1 | 褐 | 色 | ロームブロック少量 | 燒土粒子微量 | 3 | 暗 | 褐 | 色 | ロームブロック多量 | 燒土粒子微量 |
| 2 | 褐 | 色 | ロームブロック中量 | 燒土粒子微量 | | | | | | |

遺物出土状況 繩文土器片603点(深鉢・浅鉢)、石器1点(凹石)のほか、混入した須恵器片3点(壺・盤・甕)も出土している。中央部に集中して1・3・TP 9・10・12・15・16・19・21・29が床面から、Q 3は覆土中からそれぞれ出土している。

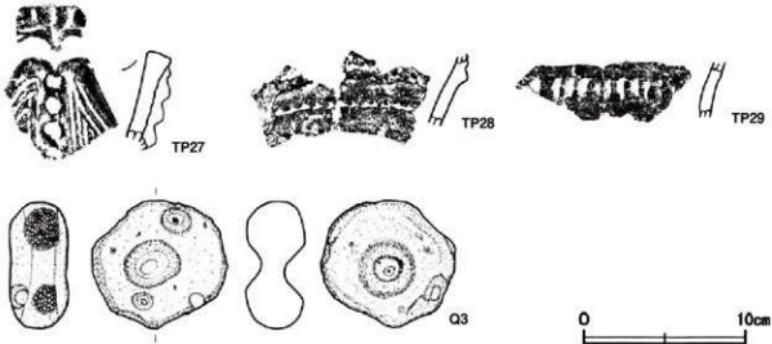
所見 時期は出土土器から中期中業(阿玉台Ⅱ式期)と考えられる。



第8図 第6号住居跡・出土遺物実測図



第9図 第6号住居跡出土遺物実測図（1）



第10図 第6号住居跡出土遺物実測図（2）

第6号住居跡出土遺物観察表（第8～10図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
1	礎文土器	浅鉢	36.6	(14.0)	—	長石・石英・雲母	赤褐色	普通	胴部内面横方向の剥き 外面ペラ削り後横方向の剥き 粗面土器	床面	10%
2	礎文土器	深鉢	4.9	5.2	2.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	口部部山形の剥み 脇部4單位の山形の貼付文施文 上化粧文 下位乳頭文 ミニチュア土器	覆土中	60% PL37
3	礎文土器	深鉢	—	(4.9)	4.6	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	胴部外側横方向の剥き 内面ペラナメ 粗製ミニチュア土器	床面	60%
4	礎文土器	深鉢	—	(6.6)	—	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	普通	突起部外側縁帯に沿って山形の剥み 亂帯に沿って2つの角押文	覆土中	5% PL37
5	礎文土器	深鉢	—	(7.0)	—	長石・石英・雲母	褐色	普通	胴部外側縁帯に沿って山形の剥み 上位縁帯に沿って角押文 下位有筋縫隙文	覆土中	5% PL37

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP 8	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	口縁部外側横円形の貼付文で区画して重ね有筋縫隙文施文 陰帯貼付け部前縁部沈縫隙文	覆土中	
TP 9	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部外側横円形の貼付文で区画して重ね有筋縫隙文施文 陰帯貼付け部前縁部沈縫隙文	床面	
TP10	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	深底口部2列に沿って半軸状管による2条の沈縫隙 頂部波状の2条の沈縫隙を施文	床面	
TP11	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口縁部外側横円形の貼付文で区画して重ね有筋縫隙文施文 陰帯貼付け部前縁部沈縫隙文	覆土中	
TP12	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗赤褐色	折り返し二重口縁 有筋縫隙弧状に施文	床面	
TP13	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	口縁部外側横円形の貼付文で区画して重ね有筋縫隙文施文 陰帯貼付け部前縁部沈縫隙文	覆土中	
TP14	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小繊維	にぶい橙	胴部外側横状と弧状の有筋縫隙文	覆土中	
TP15	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部外側横状に隆起部貼付け	床面	
TP16	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	胴部外側 内面ナメ	床面	
TP17	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部外側縁帯の下に斜めによる弧状の凹凸文施文 内面剥き	覆土中	
TP18	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小繊維	橙	鶴衝抜工具による複数孔状沈縫隙文 施文	覆土中	
TP19	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	鶴衝抜工具による複数孔状沈縫隙文 施文	床面	
TP20	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小繊維	明赤褐色	鶴衝抜工具による複数孔状沈縫隙文 施文	覆土中	
TP21	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小繊維	明赤褐色	鶴衝抜工具による複数孔状沈縫隙文 施文	床面	
TP22	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	鶴衝抜工具による複数孔状沈縫隙文 施文	覆土中	
TP23	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小繊維	明褐色	鶴衝抜工具による複数孔状沈縫隙文 施文	覆土中	
TP24	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	鶴衝抜工具による複数孔状沈縫隙文 施文	覆土中	
TP25	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	胴部外側に踏道跡による凸凹文施文 亂帯に沿って一列の角押文 下位に鶴衝抜工具による複数孔状沈縫隙文	覆土中	
TP26	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい橙	胴部外側に2条の連続斜稜柱文による複数孔状沈縫隙文 施文 手取管状による三角区画文施文	覆土中	
TP27	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小繊維	褐灰	底状口縁に沿って有筋縫隙文施文 亂帯斜稜柱文施文	覆土中	
TP28	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小繊維	褐色	胴部外側縁帯に沿って角押文施文	覆土中	
TP29	礎文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	胴部外側角押文施文	床面	

番号	部種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 3	玉石	83	78	32	176.7	多孔質玄武岩	磁石と玉石の併用 両面凹板 背面2か所鋸打痕	覆土中	PL.39

第8号住居跡（第11・12図）

位置 調査区中央部のC 6j8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号住居、第2号ピット群（P 16）に掘り込まれている。

規模と形状 確認面では後世の耕作により削平され、壁は確認できなかったが、炉と柱穴の位置から平面形は楕円形と推測できる。確認できた規模は南北6.00m、東西5.50mである。主軸方向はN-80°-Wである。

床 後世の耕作により、削平され、顕著な硬化面は認められなかった。

炉 柱穴の位置から中央部から西寄りに付設されていたと推測できる。形状は長径96cm、短径54cmの楕円形で、深さ9cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

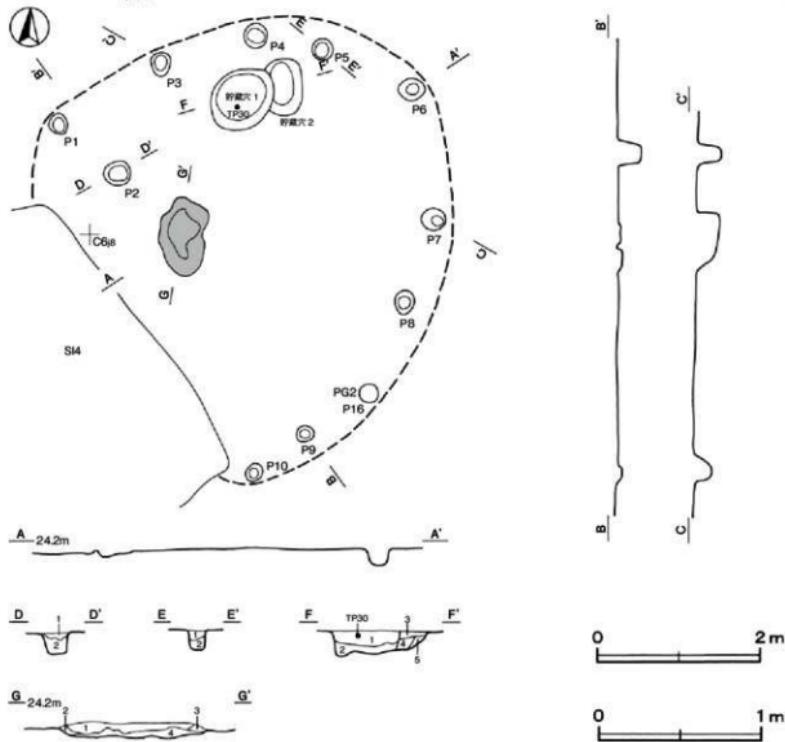
炉土層解説

1 塗赤褐色 燈土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化物微量

3 塗赤褐色 燈土粒子多量、炭化物少量

2 塗赤褐色 燈土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化物微量

4 ぬい赤褐色 ロームブロック中量、燈土ブロック少量



第11図 第8号住居跡実測図

ピット 10か所。P 1～P 10は深さ7～28cmで、主柱穴である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1 帽 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

2 壁 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

貯蔵穴 北寄りに2基確認されている。土層の観察から2が古く、1が新しい。1は長径90cm、短径69cmの梢円形で、深さは26cm、底面は平坦である。壁は直立している。2は長径72cm、短径35cmの梢円形で、深さは21cm、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。覆土は第1・2層が1の堆積土で、第3～5層は2の堆積土である。各層にロームブロックが多く含まれていることから埋め戻されている。

貯蔵穴土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

4 帽 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

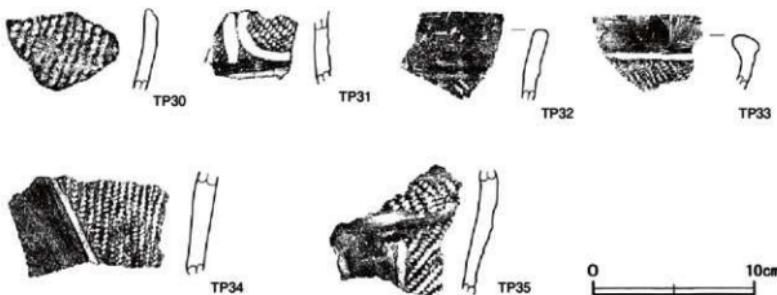
2 褐 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

5 壁 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

3 帽 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片12点（深鉢）のほか、流れ込んだ土師器片5点（甕）も出土している。TP30は貯蔵穴1の覆土上層、TP31～35は北西側の覆土下層から出土している。細片のため図示できなかったが、炉の覆土中から出土した3点も図示した土器と同時期の様相を示している。

所見 時期は出土土器から中期後葉（加曾利E II式期）と考えられる。



第12図 第8号住居跡出土遺物実測図

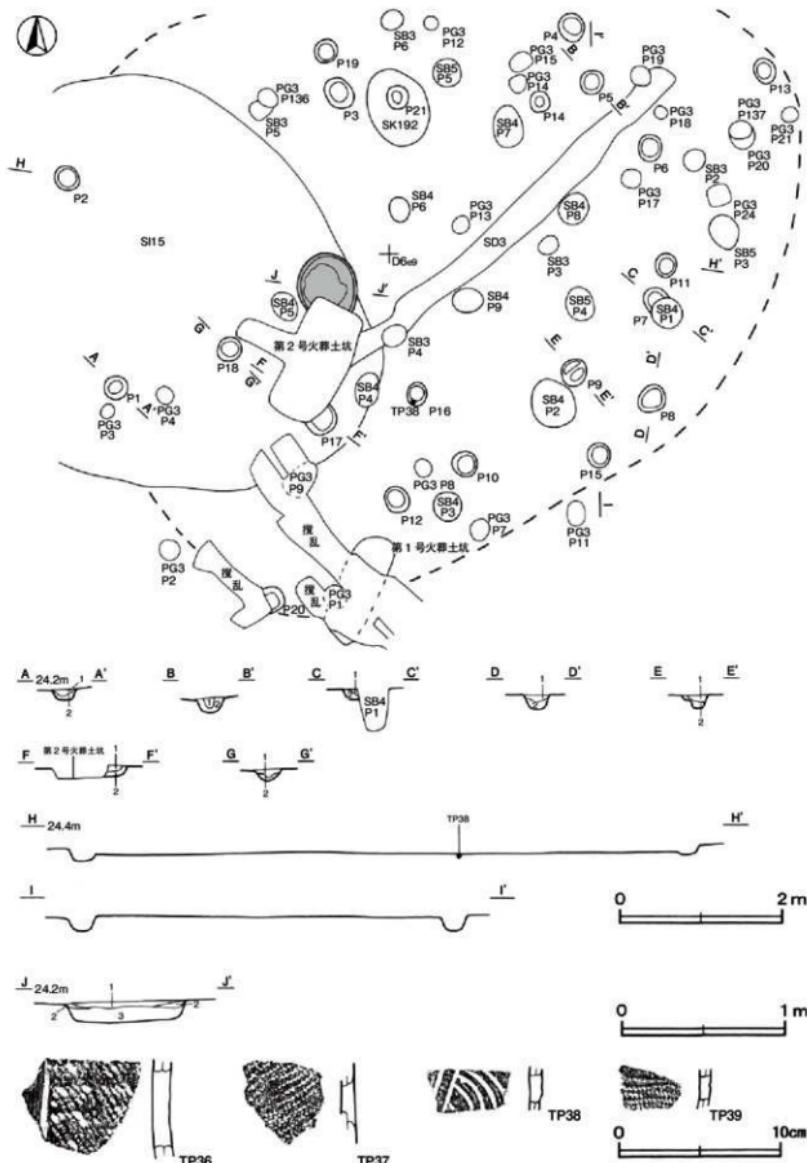
第8号住居跡出土遺物観察表（第12図）

番号	種 別	部 構	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出 土 位 置	備 考
TP30	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	口縁部外面単節LR 繩文施文	貯蔵穴1内	
TP31	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小理	橙	胴部外面梢円形区画文で単節LR 繩文充填	覆土下層	
TP32	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐色	口縁部と胴部の間に隆帯施し無文帯と繩文構成	覆土下層	
TP33	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	口縁部に沈線造らせ以下單節LR 繩文施文	覆土下層	
TP34	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐	胴部外面単節RL 繩文施文し磨消垂文で区画	覆土下層	
TP35	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小理	にぶい赤褐	胴部外面単節LR・RL 繩文施文し横位の沈線文磨消垂文で区画	覆土下層	

第10号住居跡（第13図）

位置 調査区西部のD 6e9区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第14号住居跡、第213号土坑を掘り込み、第15号住居、第3～5号掘立柱建物、第1・2号火葬土坑、第192号土坑、第3号ピット群、第3号溝に掘り込まれている。



第13図 第10号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状 確認面が床面であったため、壁は確認できなかったが、炉と柱穴の位置から平面形は楕円形と推測できる。確認できた規模は長径 9.40 m、短径 7.50 m である。主軸方向は N - 48° - W である。

床 ほぼ平坦で、顯著な硬化面は認められなかった。

炉 柱穴の位置から中央部から西寄りに付設されていたと推測できる。長径 74cm、短径 70cm で南側を第 2 号火葬土坑に掘り込まれているが、平面形は残存部分の形状から、楕円形と推測できる。深さ 13cm の地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1	暗	褐	色	燒土ブロック中量	ロームブロック・炭化物微量	3	明	赤	褐	色	燒土ブロック多量	炭化物少量
2	暗	褐	色	ロームブロック	・燒土ブロック微量							

ピット 20か所。P 1 ~ P 20 は深さ 15 ~ 18cm で、主柱穴である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	暗	褐	色	ロームブロック中量
2	暗	褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 15 点（深鉢）が炉と柱穴から出土している。TP36・39 は炉の覆土中層、TP37 は覆土下層、TP38 は P 16 の覆土中層からそれぞれ出土している。その他の土器片は細片のため図示できなかったが、図示した土器と同時期の様相を示している。

所見 時期は出土土器から中期後葉（加曾利 E II 式期）と考えられる。

第 10 号住居跡出土遺物観察表（第 13 図）

番号	種別	器種	胎	土	色	調	手	法	の	特	質	は	か	出土位置	備考
TP36	繩文土器	深鉢	長石・石英	に	ぶい	褐	胴部外縫單筋 RL	繩文施文し	施	消済垂文で	区画	印内			
TP37	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明	赤	褐	胴部外縫單筋 LR	繩文施文						覆土下層	
TP38	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に	ぶい	褐	胴部外縫斜位	施繩と曲線的な施縫多施文				P 16 内			
TP39	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	に	ぶい	褐	胴部外縫横位	施繩以下を單筋 RL	繩文施文					炉内	

第 12 号住居跡（第 14 図）

位置 調査区中央部の D 7 d1 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 6 号掘立柱建物、第 3 ~ 5 号方形竪穴造構、第 158・170 ~ 174 号土坑、第 3 号ピット群（P 37、P 47 ~ P 52、P 57 ~ P 61、P 101、P 103、P 113）に掘り込まれている。

規模と形状 確認面が床面であったため、壁は確認できなかったが、炉と柱穴の位置から平面形は楕円形と推測できる。確認できた規模は長径 5.38 m、短径 4.89 m である。主軸方向は N - 75° - E である。

床 後世の耕作により、削平され、顯著な硬化面は認められなかった。

炉 柱穴の位置からほぼ中央部に付設されていたと推測できる。形状は長径 46cm、短径 34cm の楕円形で、深さ 6 cm の地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

炉土層解説

1	暗	赤	褐	色	燒土ブロック・ローム粒子少量	炭化粒子微量	2	暗	褐	色	ロームブロック多量
2	暗	褐	色	ロームブロック中量	炭化粒子微量		5	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量
3	暗	褐	色	ロームブロック少量							

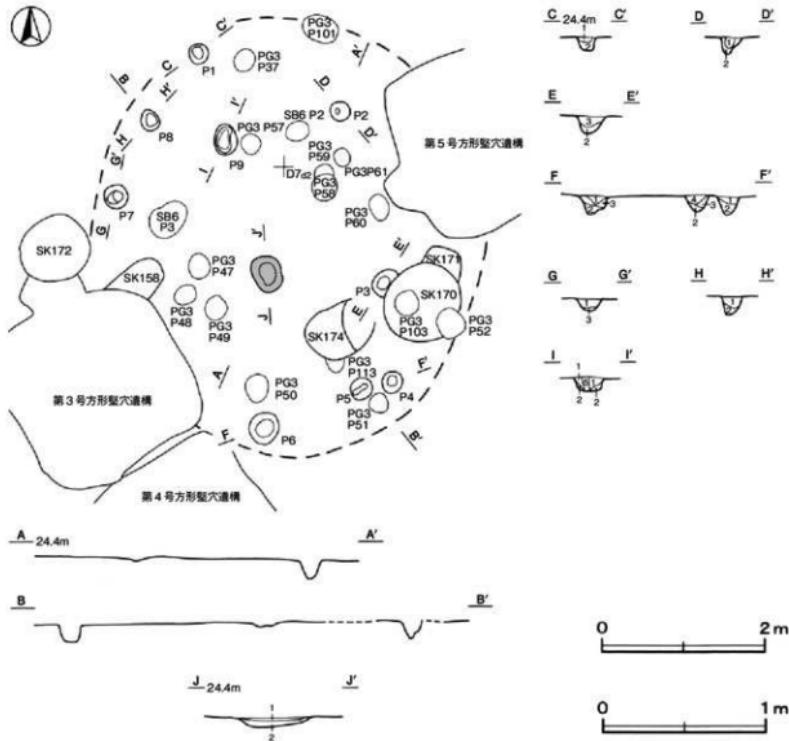
ピット 9か所。P 1 ~ P 8 は深さ 17 ~ 24cm で、主柱穴である。P 9 は深さ 18cm で、出入り口ピットである。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	暗	褐	色	ロームブロック中量	炭化粒子微量	4	暗	褐	色	ロームブロック少量	焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック中量	炭化粒子微量	5	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	
3	暗	褐	色	ロームブロック少量							

遺物出土状況 遺物の出土は見られなかった。

所見 時期は炉や柱穴の覆土や配置状況から中期の所産と考えられる。



第14図 第12号住居跡実測図

第13号住居跡（第15・16図）

位置 調査区中央部のD7c3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第260号土坑を掘り込み、第1号墓坑、第138・200・203号土坑、第3号ピット群（P104）、第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 確認面が床面であったため、壁は確認できなかったが、炉と柱穴の位置から平面形は梢円形と推測できる。確認できた、規模は長径7.30m、短径6.50mである。主軸方向はN-65°-Wである。

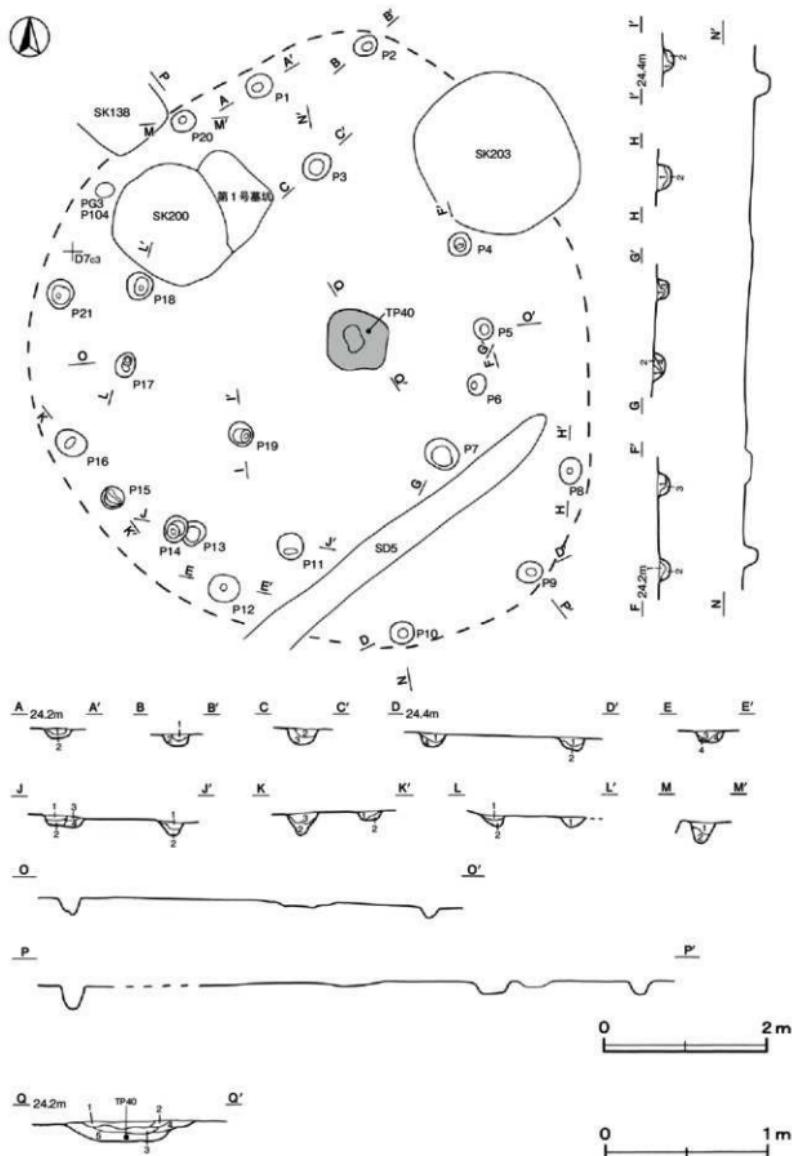
床 ほぼ平坦で、顯著な硬化面は認められなかった。

炉 柱穴の位置からほぼ中央部に付設されていたと推測できる。形状は長径84cm、短径81cmの梢円形で、深さ13cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変しているが、硬化は弱い。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、炭化物微量
- 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量
- 3 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化粒子微量

- 4 暗赤褐色 焼土ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土ブロック中量、炭化物微量



ピット 21か所。P 1～P 21は深さ11～32cmで、主柱穴である。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量

3	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子少量
4	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片2点(深鉢)のほか、混入した土器片1点(甕)も出土している。TP40・41はともに炉内より出土している。

所見 時期は出土土器から中期後葉(加曾利E式期)と考えられる。



第16図 第13号住居跡出土遺物実測図

第13号住居跡出土遺物観察表 (第16図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	出土位置	備考
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	側部外面単面 RL 縄文施文	炉内	
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	側部外面単面 LR 縄文施文	炉内	

第14号住居跡 (第17・18図)

位置 調査区中央部のD 6 c0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9・10号住居、第3・5・6号掘立柱建物、第3号方形堅穴造構、第172号土坑、第3号ピット群(P 22・P 25～P 35・P 39・P 40・P 42～P 45・P 62～P 65・P 67～P 71・P 112)に掘り込まれている。

規模と形状 確認面が床面であったため、壁は確認できなかったが、炉と柱穴の位置から平面形は円形と推測できる。規模は南北5.80m、東西5.40mである。主軸方向はN-48°-Eである。

床 ほぼ平坦で、顯著な硬化面は認められなかった。

炉 柱穴の位置からほぼ中央部に付設されていたと推測できる埋甕炉である。掘方は径40cmの円形で、正位の状態で埋設されていた。炉床は、火を受けた痕跡を確認することができなかった。そのため、住居内入り口部に付設される埋設土器とも考えられるが、位置的に炉跡と判断した。

炉土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・燒土粒子少量、炭化粒子微量
2	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

ピット 14か所。P 1～P 14は深さ8～29cmで、主柱穴である。

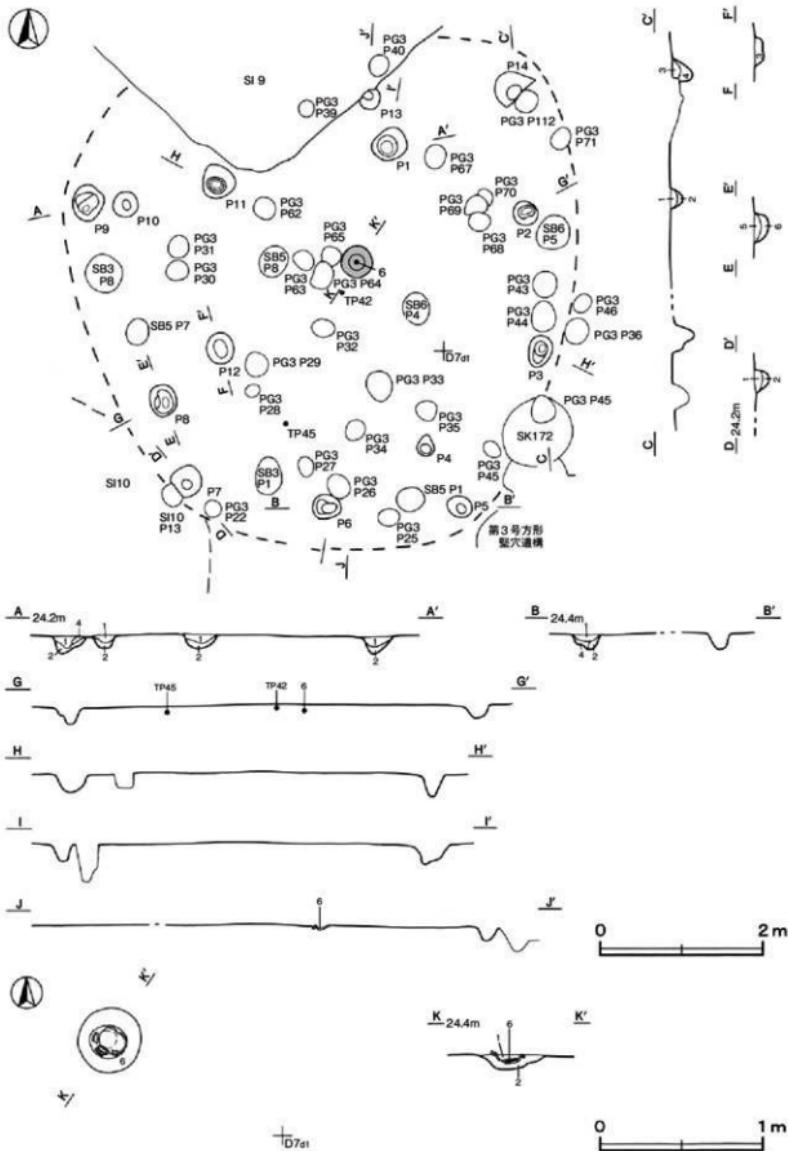
ピット土層解説 (各ピット共通)

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

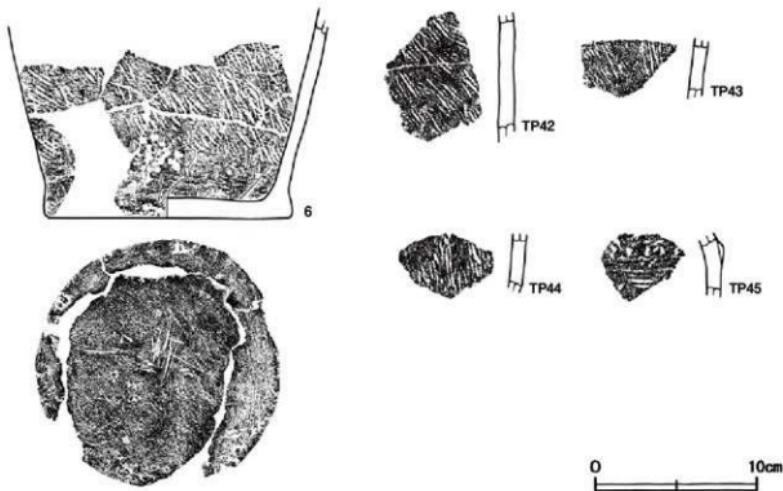
4	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量
5	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片18点(深鉢)のほか、流れ込んだ土器片1点(甕)、須恵器片1点(壺)も出土している。TP42は炉の南側、TP45は南側寄りの床面から、TP43は覆土下層から、TP44はP 2の覆土中からそれぞれ出土している。6は埋甕炉に使用された土器である。

所見 時期は出土土器から中期後葉(加曾利E式期)と考えられる。



第17図 第14号住居跡実測図



第18図 第14号住居跡出土遺物実測図

第14号住居跡出土遺物観察表（第18図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	繩文土器	深鉢	-	(13.1)	14.9	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	普通	胴部外面熱帯文施文	埋設	30% PL37

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP42	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	胴部外面熱帯文施文	床面	
TP43	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい橙	胴部外面熱帯文施文	覆土下層	
TP44	繩文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐	胴部外面熱帯文施文	P 2内	
TP45	繩文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	胴部外面白目段痕直施文 外面削みを施した微隆起線文	床面	

第15号住居跡（第19・20図）

位置 調査区西部のD 6e8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号掘立柱建物、第2号火葬土坑、第213号土坑、第3号溝、第3号ピット群（P 3・P 4・P 9）に掘り込まれ、第10号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径5.62m、短径4.50mの楕円形である。主軸方向はN-53°-Wである。壁高は12cmで外傾して立ち上がっている。

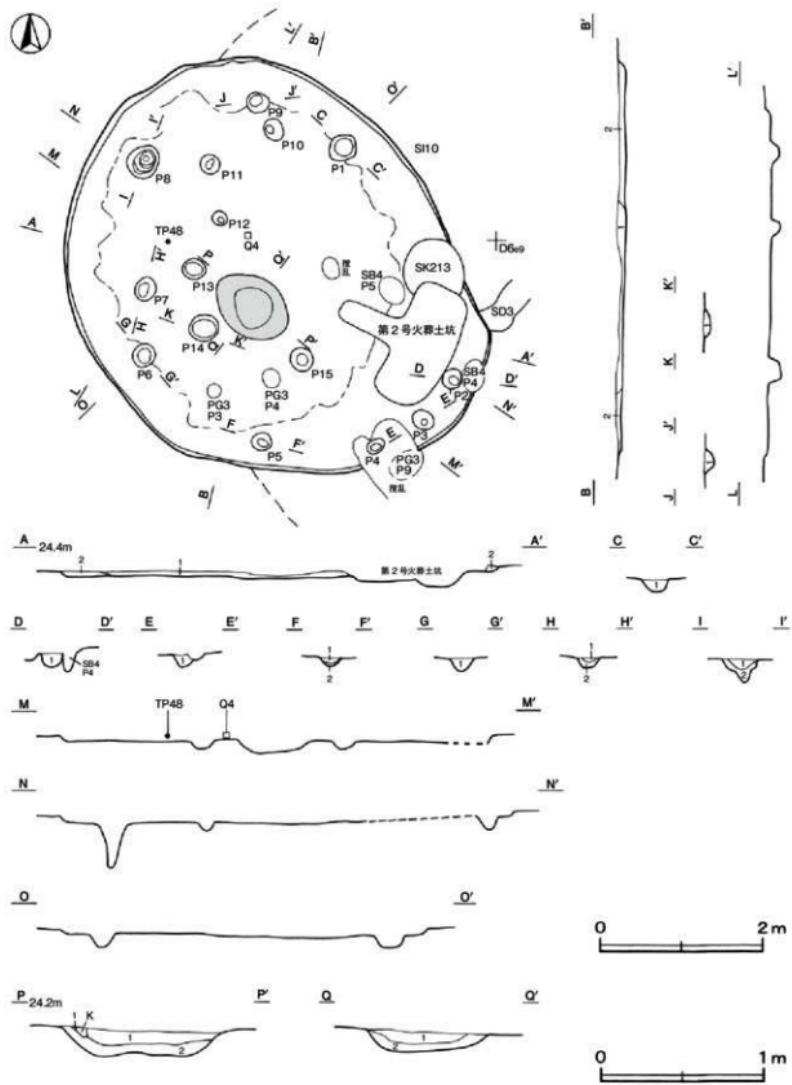
床 炉を中心に壁柱穴にかけて、顯著な硬化面が確認できた。

炉 やや南西寄りに付設されている。形状は長径91cm、短径81cmの楕円形で、深さ15cmの地床炉である。炉床は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 級 赤褐色 塗土ブロック中量、ロームブロック少量

2 級 赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量



ピット 15か所。P 1～P 15は深さ14～21cmで主柱穴である。P 8は深さ59cmで、位置から出入り口に伴う施設の一部の可能性が考えられる。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 細 細 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 細 細 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

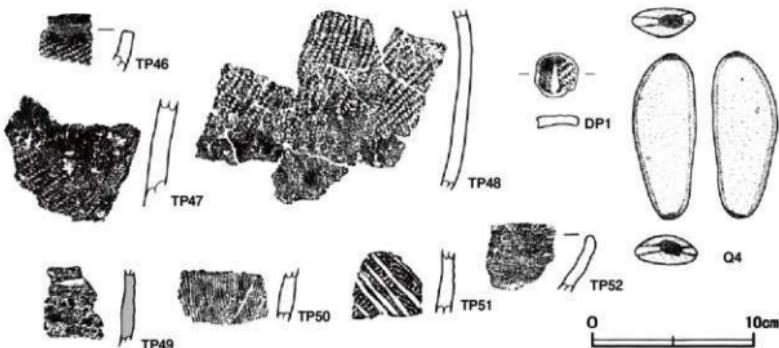
覆土 2層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

1 細 細 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 細 細 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 楩文土器片45点(深鉢)のはか、土製品1点(土器片円盤)、石器2点(剥片、敲石)が出土している。TP46は南西壁際、Q 4は中央部、TP48は北西部の覆土下層から、50・52は北西側の覆土下層から、TP51はP 7、TP47、DP 1はP 9の覆土中からそれぞれ出土している。その他の土器片は細片のため図示できなかったが、図示した土器と同時期の様相を示している。

所見 時期は、出土土器から中期後葉(加曾利E II式期)と考えられる。



第20図 第15号住居跡出土遺物実測図

第15号住居跡出土遺物観察表 (第20図)

番号	種類	器種	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
TP46	楳文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	口縁部無文帯、胴部単節LR楳文施文	覆土下層	
TP47	楳文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部外縁単節LR楳文施文後縫接消文施文 内面保付着	P 9内	
TP48	楳文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部外縁単節LR楳文施文 下端板方向の縦き 内面横積方向の縦き	覆土下層	
TP49	楳文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい・黒	無文	覆土中	流れ込み
TP50	楳文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・黒	胴部外縁撫突状工具による8本単位の沈線文施文 内面ナデ	覆土下層	
TP51	楳文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	胴部外縁単節LR楳文施文後沈線文施文	P 7内	
TP52	楳文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・黄褐色	口縁部無文帯	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 1	土器片 円盤	(27)	(26)	0.6	(6.4)	土(長石・雲母)	舞韻一部研磨 沈線文 単節Rし楳文	P 9内	深鉢軸用

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 4	敲石	10.3	3.9	1.7	92.8	砂岩	側面2か所敲打痕	覆土下層	PL38

第17号住居跡（第21・22図）

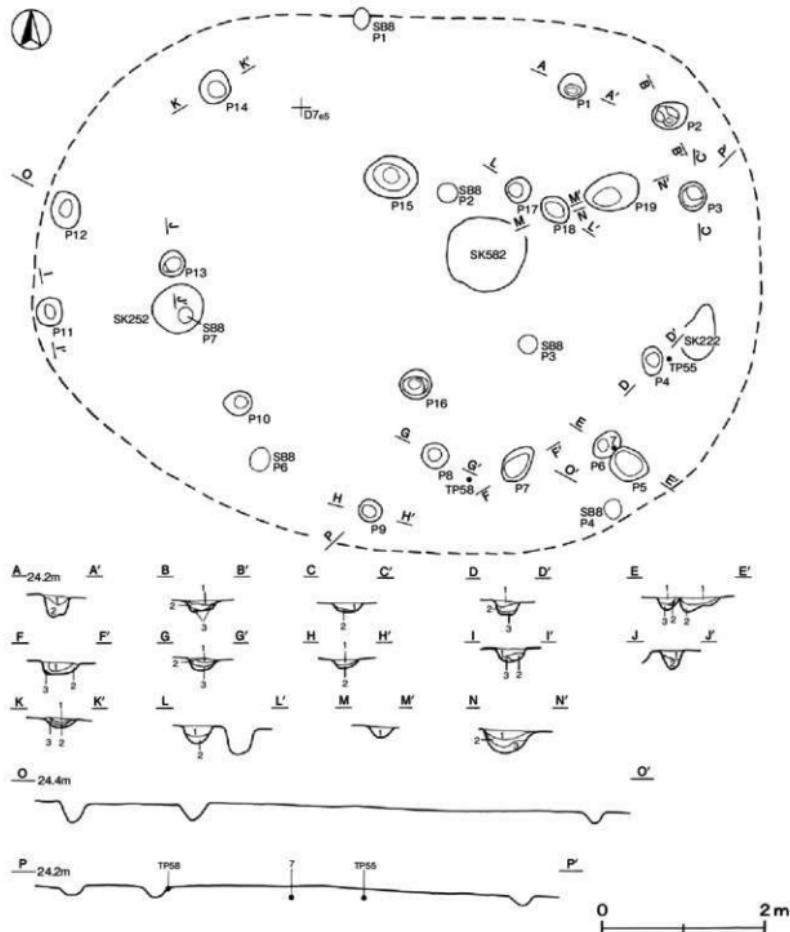
位置 調査区中央部のD 7 e5 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号掘立柱建物、第222・252・582号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 後世の耕作により削平され、壁は確認できなかったが、炉と柱穴の位置から平面形は楕円形と推測できる。確認できた規模は東西 8.20m、南北 7.50m である。主軸方向は N - 45° - W である。

床 後世の耕作により削平され、顯著な硬化面は認められなかった。

炉 中央部を第582号土坑に掘り込まれており、確認できなかった。



第21図 第17号住居跡実測図

ピット 19か所。P 1～P 19は環状に巡っており、深さ10～30cmで主柱穴である。

ピット土層解説（各ピット共通）

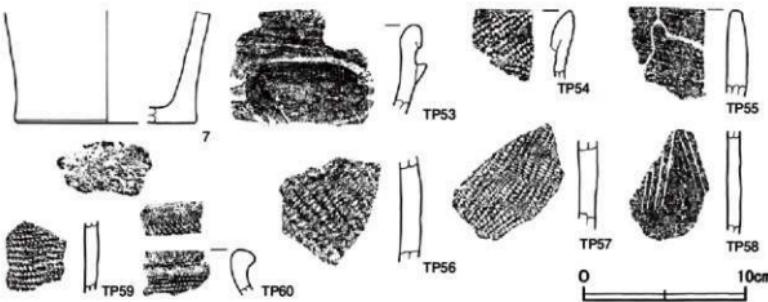
1 細 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 規 色 ロームブロック多量

3 細 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 繩文土器片44点（深鉢）、砾1点が出土している。TP58は南部のP 7・P 8間の床面から、7はP 6の覆土中層、TP54・56・57・59は北東部、TP55は東部の覆土下層からそれぞれ出土している。その他の土器片は細片のため図示できなかったが、図示した土器と同時期の様相を示している。

所見 時期は出土土器から中期前半（阿玉台式期）と考えられる。



第22図 第17号住居跡出土遺物実測図

第17号住居跡出土遺物観察表（第22図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手 法 の 特徴 は か	出土位置	備考
7	繩文土器	深鉢	-	(6.8)	(11.0)	長石・石英	橙	普通	胴部内面ヘラナデ 外面縦方向の擦き	P 6内	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手 法 の 特徴 は か	出土位置	備考
TP53	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	折り返し口縁 桟円形の貼付文	覆土中	
TP54	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	内面に折り返し複合口縁 外面單節LR 繩文施文	覆土下層	
TP55	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	LR縁外面單節R L繩文施文 外面黒斑	覆土下層	
TP56	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部外面单道LR L繩文施文	覆土下層	
TP57	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黒色粒子	にぶい黄橙	胴部外面单道LR L繩文施文	覆土下層	
TP58	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	側面状工具による4本単位の沈線文施文	床面	
TP59	繩文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にぶい赤褐	胴部外面单道RL繩文施文	覆土下層	
TP60	繩文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	口唇部から頭部にかけて撚糸文施文	覆土中	

第24号住居跡（第23・24図）

位置 調査区南東部のD 8 h2 区、標高23 mほどの緩斜面部に位置している。

重複関係 第25号住居跡を掘り込み、第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径464 m、短径4.00 mの楕円形の主体部に、北部側に長さ1.45 m、幅1.35 mの張り出し部がつく柄鏡形住居である。主軸方向はN-140°-Wである。壁高は4～23cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 炉を中心に壁柱穴にかけて硬化面が認められた。

炉 中央部よりやや北寄りに付設している。長径1.41 m、短径1.05 mの楕円形で深さ22cmの地床炉である。

炉床は火を受けて赤変硬している。第4・6層下面が使用面、第7層以下が掘方の埋め戻し土である。

炉土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	7 赤 褐 色 焼土ブロック多量
2 暗赤褐色 焼土粒子少量・炭化物微量	8 褐 色 ロームブロック多量
3 暗赤褐色 焼土ブロック少量・炭化粒子微量	9 褐 色 ロームブロック中量
4 暗赤褐色 焼土ブロック中量・炭化粒子微量	10 褐 色 ロームブロック少量
5 暗赤褐色 焼土ブロック・炭化粒子微量	11 明 褐 色 ロームブロック多量
6 暗赤褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	

ピット 14か所。P 1～P 4は、深さ18～30cmで主柱穴である。P 5～P 8は深さ17～21cmで壁柱穴である。

張り出し部のP 9～P 12は、深さ29～33cmで出入り口施設の柱穴である。P 13, P 14は不明である。

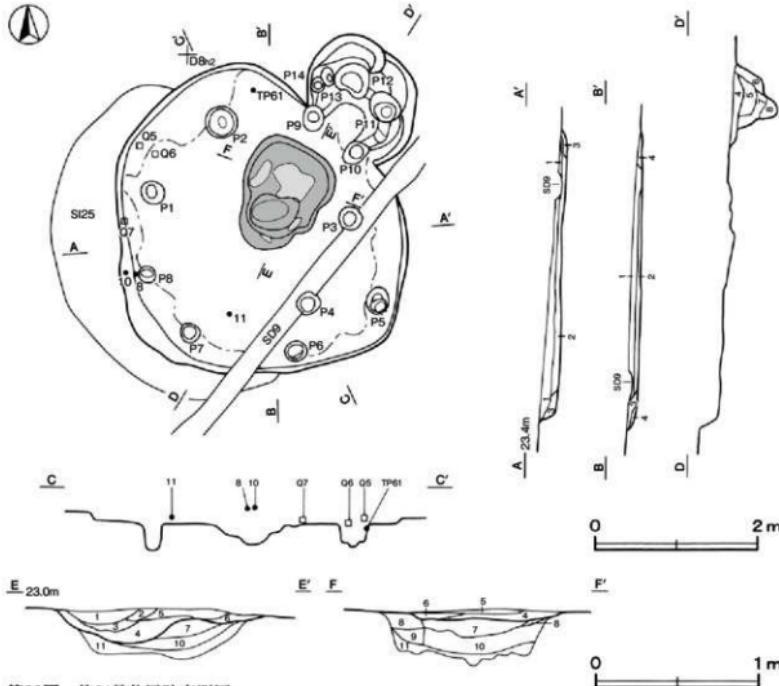
覆土 8層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

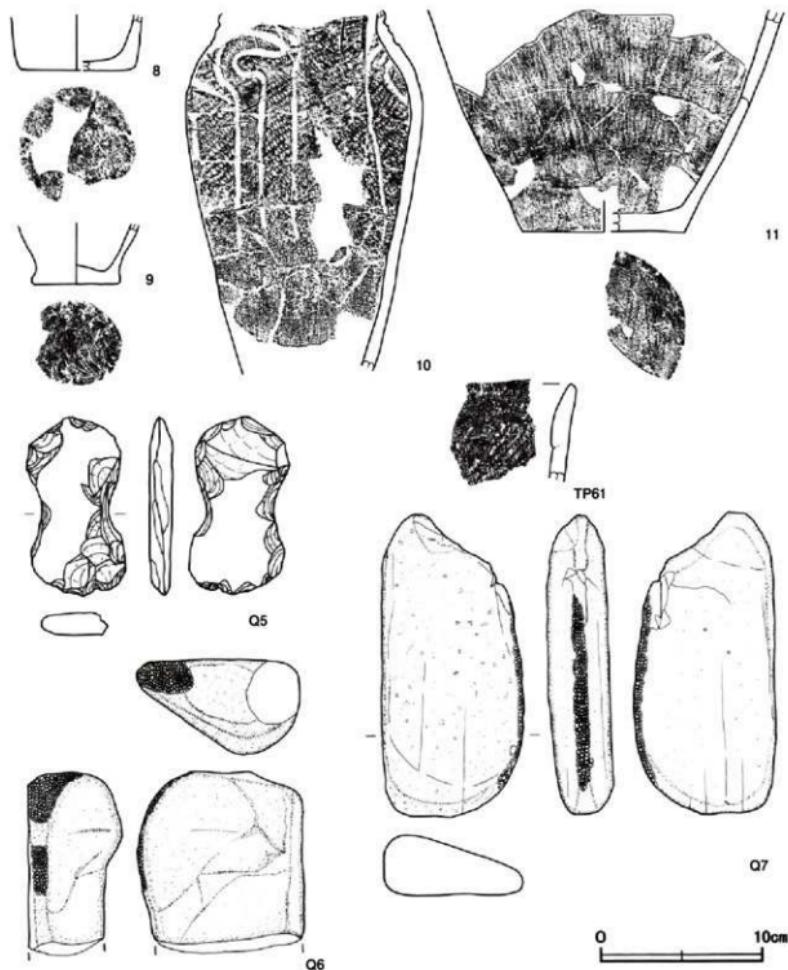
1 黒 褐 色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗 褐 色 ロームブロック少量・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック多量・焼土粒子少量・炭化粒子微量	6 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗 褐 色 ロームブロック少量
4 黒 褐 色 ロームブロック中量	8 明 褐 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 糙文土器片35点(深鉢)のほか、石器3点(打製石斧1、敲石2)、混入した土師器片4点(甕)、弥生土器片1点(広口壺)も出土している。8～10は西壁際の覆土上層から、11は南部の覆土中層から、TP61は北壁際、Q 5・6は北西壁際、Q 7は西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。その他の土器片は細片のため図示できなかったが、図示した土器と同時期の様相を示している。

所見 時期は、出土土器から後期前半(堀之内I式期)と考えられる。



第23図 第24号住居跡実測図



第24図 第24号住居跡出土遺物実測図

第24号住居跡出土遺物観察表（第24図）

番号	種 别	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
8	繩文土器	深鉢	-	(3.5)	6.8	長石・石英	明赤褐色	普通	胴部下端から底部外・内面ハラナデ	覆土上層	10%
9	繩文土器	深鉢	-	(3.7)	5.4	長石・石英	にぶい褐色	普通	胴部下端から底部内面ハラナデ 外面ハラ削り	覆土上層	10%
10	繩文土器	深鉢	-	(22.3)	-	長石・石英	にぶい赤褐色	普通	胴部縦位の沈線と縦手縦文で單屈し官窯文を区画 縦手縦文内には消音施文	覆土上層	40% PL37
11	繩文土器	深鉢	-	(137)	[10.0]	長石・石英・黒色粒子	浅黄褐	普通	無文の粗製土器 胴部内面横方向の剥き 外面剥き 方向の剥き 底部へテ剥き	覆土中層	20%

番号	種別	部種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP61	縄文器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	口縁部外面單脚R.L.縄文施文	覆土下層	
Q5	打製石斧	11.0	6.0	14	116.0 緑色粘板岩 片面調整 分割形	覆土下層	PL39
Q6	敲石	(11.2)	10.1	5.8	(908.2) 砂岩 側面2か所敲打痕	覆土下層	
Q7	敲石	18.5	8.7	3.7	870.3 砂岩 側面1か所敲打痕	覆土下層	PL39

第25号住居跡（第25・26図）

位置 調査区南東部のD8h1区、標高233.3mほどの緩斜面部に位置している。

重複関係 第558号土坑を掘り込み、第24号住居、第9号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第24号住居、第9号溝に掘り込まれており、遺存状態は悪い。南北3.74m、東西0.83mしか確認できなかった。確認できた形状から平面形は楕円形と推測できる。主軸方向は不明である。壁高は13cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

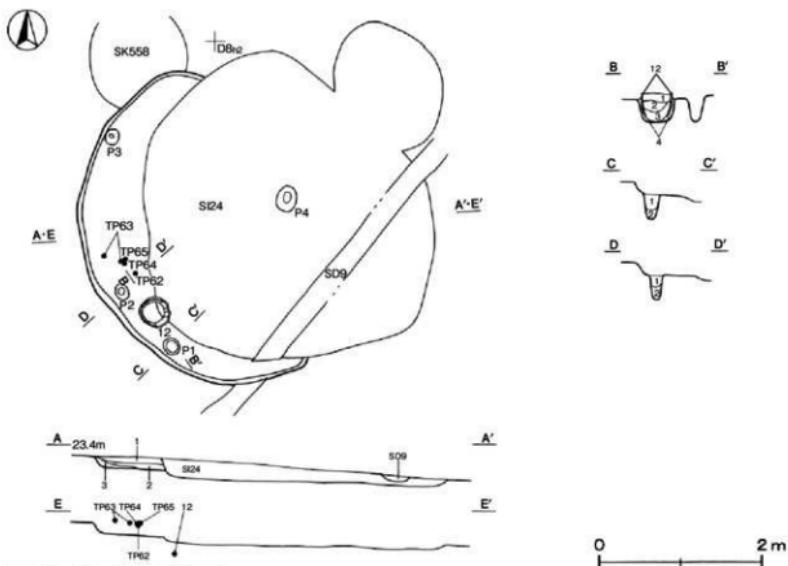
床 確認できた範囲内では、全体に硬化面が認められた。

炉 第24号住居に掘り込まれ、確認できなかった。

ピット 4か所。P1～P3は深さ28～32cmで、壁間に位置することから壁柱穴であると考えられる。P4は深さ81cmで、位置から出入り口施設に伴う柱穴であると考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	褐	褐色	ロームブロック少量	燒土粒子・炭化粒子微量	3	褐	褐色	ロームブロック中量
2	褐	褐色	燒土粒子中量	ロームブロック少量	4	褐	褐色	ロームブロック中量



第25図 第25号住居跡実測図

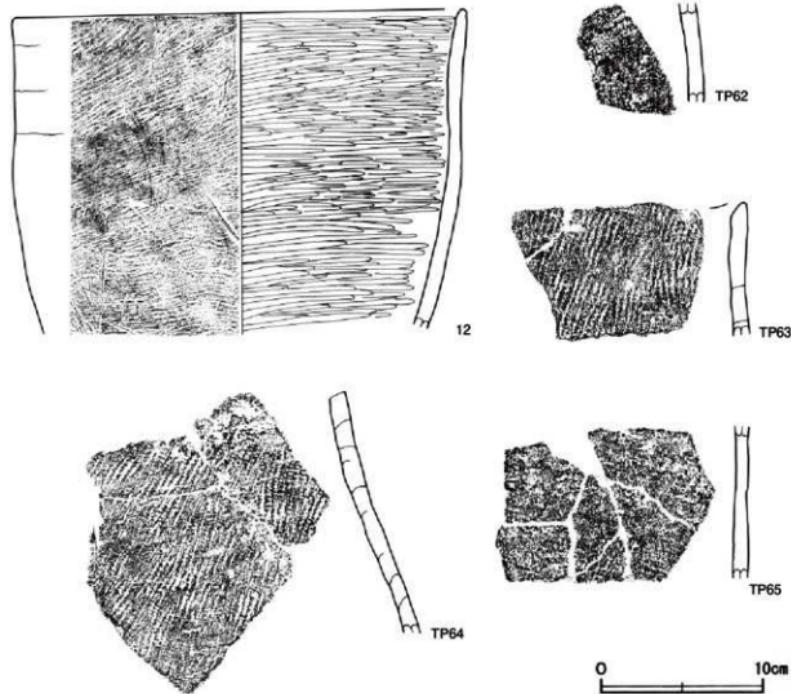
覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

- | | | | |
|-----|--------------------|-----|--------------------|
| 1 種 | 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 種 | 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 種 | 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 繩文土器片 31点（深鉢）が出土している。12は正位の状態で埋設された土器である。TP62～65は西壁際の覆土上層から出土している。その他の土器片は細片のため図示できなかったが、図示した土器と同時期の様相を示している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺式期）と考えられる。



第26図 第25号住居跡出土遺物実測図

第25号住居跡出土遺物観察表（第26図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
12	縄文土器	深鉢	36.4	(27.7)	-	長石・石英・雲母・細隕	明黄褐色	普通	胴部外面無鉢 L.R 縄文施文 内面横方向の磨き	埋設	60% PL37	
TP62	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明黄褐色	胴部外・内面ナデ 無文の粗製土器	覆土上層						
TP63	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細隕	橙	波状口縁 外面單面L.R 縄文施文	覆土上層						
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	胴部外面單面L.R 縄文施文 内面ナデ	覆土上層						
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色隕子	にぶい黄褐色	胴部外・内面ハラ削り後ナデ 無文の粗製土器	覆土上層						

第28号住居跡（第27・28図）

位置 調査区南部のE7e7区、標高24.2mほどの台地平坦部に位置している。

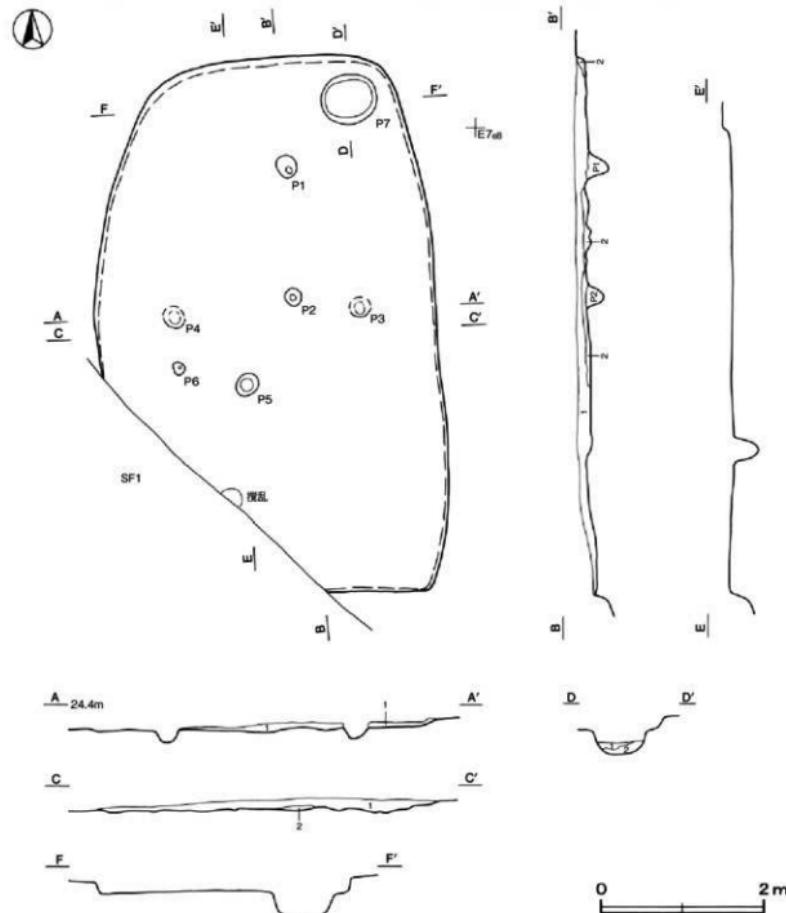
重複関係 第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 規模は長軸6.58m、短軸4.18mの長方形である。主軸方向はN-5°-Wである。壁高は9~24cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、特に硬化面は認められなかった。

炉 確認できなかった。

ピット 7か所。P1~P5は深さ20~32cmで位置から主柱穴であると考えられる。P6は深さ23cmで、径



第27図 第28号住居跡実測図

12cmであることから支柱的な性格が推測できる。P7は長径69cm、短径60cm、深さ14cmであり、北東隅に位置していることから、貯蔵穴の可能性が考えられる。

P7土層解説

1 緑褐色 ロームブロック少量

2 緑褐色 ロームブロック中量

覆土 2層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示すことから自然堆積である。

土層解説

1 緑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 緑褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片13点(深鉢)のはが、混入した土器片10点(甕)、須恵器片1点(甕)、陶器片1点(擂鉢)、礫2点も出土している。TP66~69は、覆土下層から出土している。その他の土器片は細片のため図示できなかったが、図示した土器と同時期の様相を示している。

所見 時期は、出土土器から前期前半(黒浜式期)と考えられる。



第28図 第28号住居跡出土遺物実測図

第28号住居跡出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	地土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黒	口縁部外面櫛目状工具による沈線文施文	覆土下層	
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英	12ぶい黄褐	胴部外縁Lの撚糸文施文	覆土下層	
TP68	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	褐色	胴部外縁単縦RL縄文施文	覆土下層	
TP69	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	赤褐色	胴部外縁正反の合(一段)施文	覆土下層	

表2 縄文時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形 長軸×短軸(m) (径)(径)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)	
							柱穴	出入口	ビット					
2	C 5 d	不明	(円形)	4.82 × 4.40	—	平坦	—	3	1	—	如	—	縄文土器、白石、凹石 中期後葉	
3	C 6 e1	N 50°-E	(椭円形)	5.52 × (3.70)	12~32	平坦	—	6	1	1	如	—	自然 縄文土器 中期後葉	
6	C 6 e5	N 4°-E	(椭円形)	(4.00) × 3.58	6	平坦	—	8	—	—	如	—	人為 縄文土器、凹石 中期後葉	
8	C 6 j8	N 80°-W	(椭円形)	6.00 × 5.50	—	平坦	—	10	—	—	如	2	—	縄文土器 中期後葉
10	D 6 e9	N 48°-W	(椭円形)	(9.40) × (7.50)	—	平坦	—	20	—	—	如	—	縄文土器 中期後葉	S14, SK213 → S15 → SF2, PG2, PG1 本跡
12	D 7 d1	N 75°-E	(椭円形)	(5.38) × (4.89)	—	平坦	—	8	1	—	如	—	—	中期 SK158他 SK260 → 本跡 → 第1号墓坑、SK138、 200~205PG3, S16
13	D 7 c3	N 65°-W	(椭円形)	(7.30) × (6.50)	—	平坦	—	21	—	—	如	—	縄文土器、土師 器 中期後葉	本跡 → SF9, 10, S13 ~ 5, PG3他 S10 → 本跡 → S14 第2号水槽土坑、 SK213, SDG1他 SK260 → 本跡 → 第1号墓坑、SK138、 200~205PG3, S16
14	D 6 e0	N 48°-E	(円形)	(5.80) × (5.40)	—	平坦	—	14	—	—	如	—	縄文土器 中期後葉	本跡 → SF9, 10, S13 ~ 5, PG3他 S10 → 本跡 → S14 第2号水槽土坑、 SK213, SDG1他 SK260 → 本跡 → 第1号墓坑、SK138、 200~205PG3, S16
15	D 6 e8	N 53°-W	(椭円形)	5.62 × 4.50	12	平坦	—	15	—	—	如	—	自 縄文土器、土師 片内盤、敲石 中期後葉	本跡 → SF9, 10, S13 ~ 5, PG3他 S10 → 本跡 → S14 第2号水槽土坑、 SK213, SDG1他 SK260 → 本跡 → 第1号墓坑、SK138、 200~205PG3, S16
17	D 7 e5	不明	(椭円形)	(8.20) × (7.50)	—	平坦	—	19	—	—	—	—	縄文土器 中期前半	本跡 → SF8, SK222, SK223, SK224, SK225 → SF9, 10, S13 ~ 5, PG3他 S10 → 本跡 → S14 第2号水槽土坑、 SK213, SDG1他 SK260 → 本跡 → 第1号墓坑、SK138、 200~205PG3, S16
24	D 8 h2	N 140°-W	(椭円形)	4.64 × 4.00	4~23	平坦	—	8	4	2	如	—	自然 中期前半	本跡 → SF8, SK222, SK223, SK224, SK225 → SF9, 10, S13 ~ 5, PG3他 S10 → 本跡 → S14 第2号水槽土坑、 SK213, SDG1他 SK260 → 本跡 → 第1号墓坑、SK138、 200~205PG3, S16
25	D 8 h1	不明	(椭円形)	3.74 × (0.83)	13	平坦	—	3	1	—	—	—	自然 後期初期	本跡 → SF8, SK222, SK223, SK224, SK225 → SF9, 10, S13 ~ 5, PG3他 S10 → 本跡 → S14 第2号水槽土坑、 SK213, SDG1他 SK260 → 本跡 → 第1号墓坑、SK138、 200~205PG3, S16
28	E 7 e7	N 5°-W	(長方形)	6.58 × 4.18	9~24	平坦	—	5	—	2	—	—	自 縄文土器 前期前半	本跡 → SF1, SD8

(2) 炉跡

第1号炉跡 (第29図)

位置 調査区南東部のD 8g2区、標高23.4mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 南北径1.1mで、東西径は後世の土取りにより0.5mだけ確認できた。平面形は、楕円形と推測できる。深さは4cmで、底面はほぼ平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。周囲からの流れ込んでいる状況から自然堆積である。

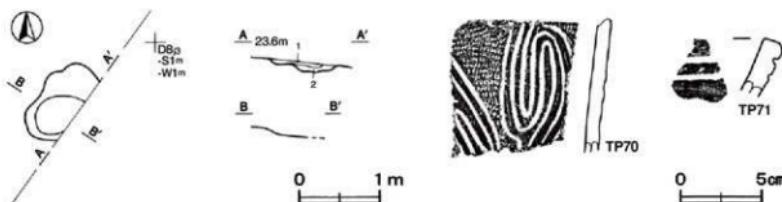
土層解説

1 基 赤褐色 炭化材・焼土粒子少量 ロームブロック微量

2 基 黄褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。TP70・71は、覆土中から出土している。

所見 住居跡の炉の可能性があるが、周辺にピットを確認することができなかつたことから炉跡とした。時期は、出土土器から後期前半(堀之内式期)に比定できる。



第29図 第1号炉跡・出土遺物実測図

第1号炉跡出土遺物観察表 (第29図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	側部外面單面LR縄文施文後溝巻文施文	覆土中	
TP71	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	褐灰	L口縁部外面平行沈継文這らず	覆土中	

(3) 陷し穴

第1号陷し穴 (SK116) (第30図)

位置 調査区北部のC 7g5区、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径2.03m、短径0.95mの楕円形で、長径方向はN-76°-Wである。深さは140cmで、底面はほぼ平坦で、壁はやや内傾して立ち上がっている。

覆土 9層に分層できる。第1~3層は混入物が少なく、周囲から流入している状況から自然堆積で、第4~9層はロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量

6 褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量

7 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

8 褐色 ロームブロック少量

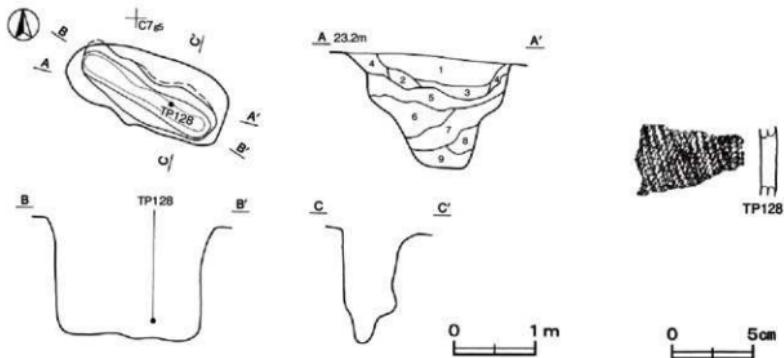
4 黒褐色 ロームブロック中量

9 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

5 黑褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片9点(深鉢)が出土している。TP128は、東寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期以降と推測できる。



第30図 第1号陥し穴・出土遺物実測図

第1号陥し穴出土遺物観察表（第30図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP128	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	胴部外面単面RL縄文施文	覆土下層	

第2号陥し穴 (SK272) (第31図)

位置 調査区中央部のD 6b0区、標高24 mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号住居、第3号ピット群 (P100) に掘り込まれている。

規模と形状 東西径195 m、南北径0.42 mしか確認できなかった。東西径の方向はN - 60° - Wである。残存している深さは、39cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

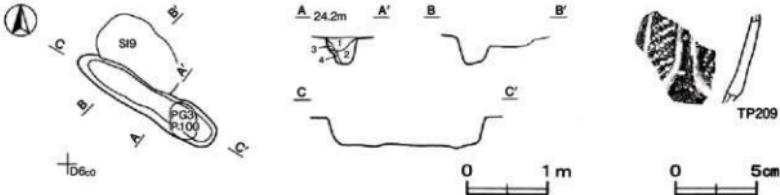
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐	色	ロームブロック中量	3	黄	褐	色	ロームブロック中量
2	褐	色	ロームブロック少量	4	黄	褐	色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。TP209は、覆土中から出土している。

所見 上部は第9号住居に掘り込まれて不明であるが、下部の形状から陥し穴である。時期は、出土土器から中期後半(加曾利E式期)に比定できる。



第31図 第2号陥し穴・出土遺物実測図

第2号陥し穴出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP209	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部外面単面LR縄文施文後梢円状沈線で区画	覆土中	

第3号陥し穴 (SK483) (第32図)

位置 調査区東部のD 8b2区、標高 21.3m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第19号住居に掘り込まれている。

規模と形状 東西径 2.47m、南北径 1.23m しか確認できなかった。南北径の方向は N - 57° - E である。残存している深さは、90cm である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

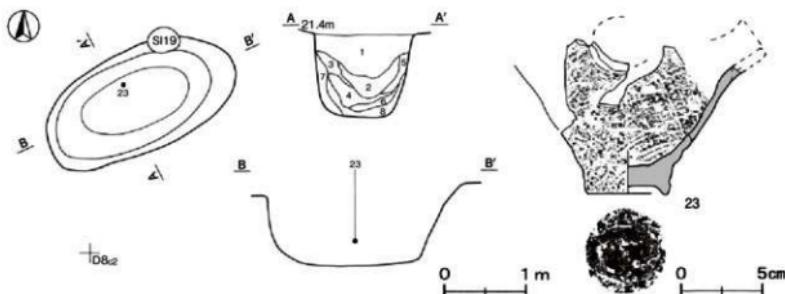
覆土 8層に分層できる。混入物が少なく、周囲から流入している状況から自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量	5 細 褐 色 ロームブロック少量
2 黒 色 ローム粒子・炭化粒子微量	6 細 褐 色 ロームブロック微量
3 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	7 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 細 褐 色 ロームブロック・炭化物微量	8 細 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 繩文土器片 1 点 (片口付深鉢) が出土している。23 は、覆土中層から出土している。

所見 上部は第19号住居に掘り込まれ不明であるが、下部の形状から陥し穴である。時期は、出土土器から前期前半 (関山式期) に比定できる。



第32図 第3号陥し穴・出土遺物実測図

第3号陥し穴出土遺物観察表 (第32図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	ほか	出土位置	備考
23	縄文土器	片口付深鉢	-	(8.0)	5.0	長石・紫母・赤色粒子・鐵錆	にぶい橙	普通	胴部外面羽状織文施文		覆土中層	30% PL37

表3 縄文時代陥し穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模			底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)	底面					
1	C 7g5	N-76°-W	楕円形	2.03 × 0.95	140	平坦	内傾	人為	縄文土器		
2	D 610	N-60°-W	(楕円形)	(1.95 × 0.42)	(39)	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→ SI9 → PG3	
3	D 812	N-57°-E	(楕円形)	(2.47 × 1.23)	(90)	平坦	直立	自然	縄文土器	本跡→ SI9	

(4) 土坑

第8号土坑 (第33図)

位置 調査区北部のC 6e3区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.65 m、短径 0.47 m の楕円形で、長径方向は N - 7° - W である。深さは 22cm で、底面はほ

は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

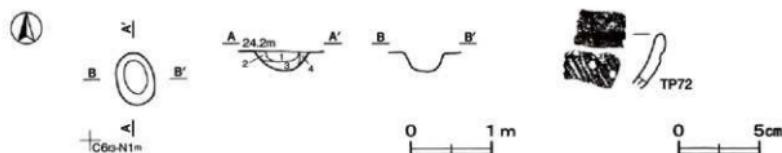
土層解説

- | | | | |
|---|---|----|-----------|
| 1 | 縫 | 褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 | 縫 | 褐色 | ローム粒子多量 |

- | | | | |
|---|---|----|-----------|
| 3 | 縫 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 縫 | 褐色 | ロームブロック微量 |

遺物出土状況 繩文土器片1点(深鉢)が出土している。TP72は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半(加曾利E式期)に比定できる。



第33図 第8号土坑・出土遺物実測図

第8号土坑出土遺物観察表(第33図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP72	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐色	口縁部外面沈継文巡らず 脚部外面單継文し繩文施文	覆土中	

第14号土坑(第34図)

位置 調査区北部のC6f1区、標高24mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.96m、短径0.68mの楕円形で、長径方向はN-40°-Eである。深さは42cm、底面は凹凸で、壁は外傾して立ち上がっている。南西部に性格不明のピットを確認した。深さは9cmである。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

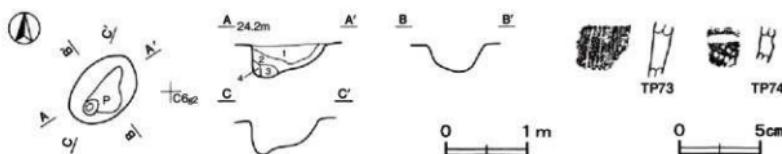
土層解説

- | | | | |
|---|---|----|-----------------------|
| 1 | 縫 | 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 縫 | 褐色 | ロームブロック中量 |

- | | | | |
|---|---|----|-----------|
| 3 | 縫 | 褐色 | ロームブロック中量 |
| 4 | 縫 | 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 繩文土器片2点(深鉢)が出土している。TP73・74は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半(加曾利E式期)に比定できる。



第34図 第14号土坑・出土遺物実測図

第14号土坑出土遺物観察表(第34図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP73	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細繩	褐色	脚部外面梅瓣状工具による沈継文	覆土中	
TP74	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	脚部外面單継文RL繩文を横位の沈継文で区画	覆土中	

第15号土坑（第35図）

位置 調査区北部のC 6f1区、標高24mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.92mの円形で、深さは40cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

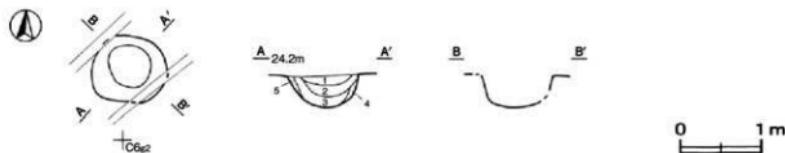
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐色	ロームブロック少量	4	褐	褐色	ロームブロック中量
2	褐	褐色	ローム粒子中量	5	褐	褐色	ロームブロック多量
3	褐	褐色	ロームブロック少量				

遺物出土状況 繩文土器片3点（深鉢）が出土しているが、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第35図 第15号土坑実測図

第27号土坑（第36・37図）

位置 調査区北部のC 6h1区、標高24mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径2.30mの円形で、深さは41cmである。底面は平坦で、中央部にピットが掘られている。壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 2か所。P 1は深さ57cm、P 2は深さ12cmである。P 1が梯子ピットの主穴、P 2が支穴と推測できる。

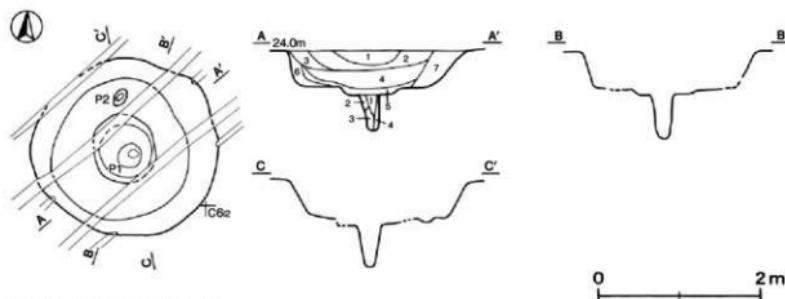
ピット土層解説

1	褐	褐色	ロームブロック少量	3	褐	褐色	ロームブロック微量
2	褐	褐色	ロームブロック中量	4	褐	褐色	ロームブロック多量

覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

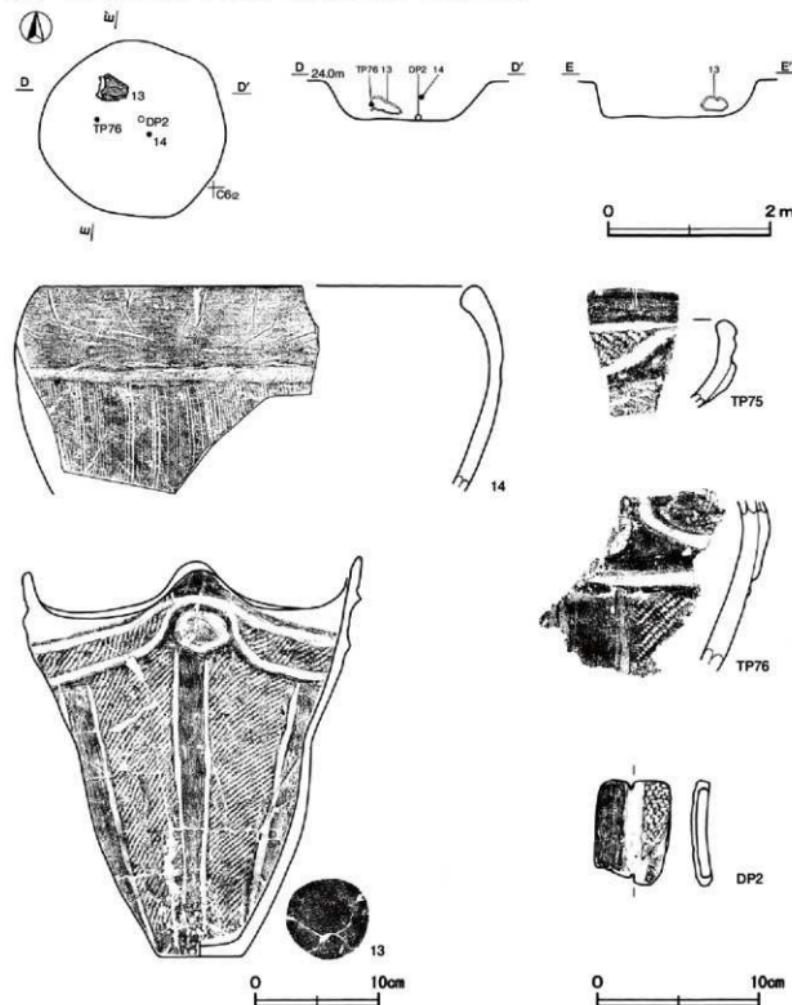
1	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化物、燒土粒子微量	5	褐	褐色	ロームブロック中量
2	褐	褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量	6	褐	褐色	ロームブロック多量
3	褐	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	7	暗	褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
4	褐	褐色	ロームブロック中量、炭化物微量				



第36図 第27号土坑実測図

遺物出土状況 糸文土器片 141 点（深鉢）、土製品 5 点（土器片錐 4、土器片円盤 1）、剥片 3 点が出土している。DP2 は、中央部の底面から出土している。13 は北西部の壁寄りに土圧で潰れて横位の状態で、TP76 は 13 と近い位置の覆土下層からそれぞれ出土している。14 は中央部の覆土中層から、TP75 は覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E II 式期）に比定できる。



第37図 第27号土坑・出土遺物実測図

第27号土坑出土遺物観察表（第37図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
13	縄文土器	深鉢	27.4	32.4	6.8	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	普通	波状口縁、4等分の円形模様文、單脚L字縄文を施す沈縄文で区別。側面外縁单節L字縄文で界面を構成する。	覆土下層	95% PL37
14	縄文土器	深鉢	(27.0)	(12.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にふい模様	普通	L字縁部外縁单節の沈縄文を施す。側面外縁单節状工具による底面の沈縄文	覆土中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP75	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にふい模様	L字縁部外縁单節L字縄文後横筋円柱沈縄文で区別	覆土上層	
TP76	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にふい模	L字縁部下位外縁单節の沈縄文と密接壓重文で区別	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 2	土器片飾	6.5	4.7	1.2	42.9	長石・雲母	両端に縫掛けの刻み	側面研磨	沈縄文 単脚L字縄文

第29号土坑（第38図）

位置 調査区北部のC 6 f2 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第3号土坑に掘り込まれているため、東西径 1.28 m 、南北径 0.94 m しか確認できなかった。深さは 40 cm 、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

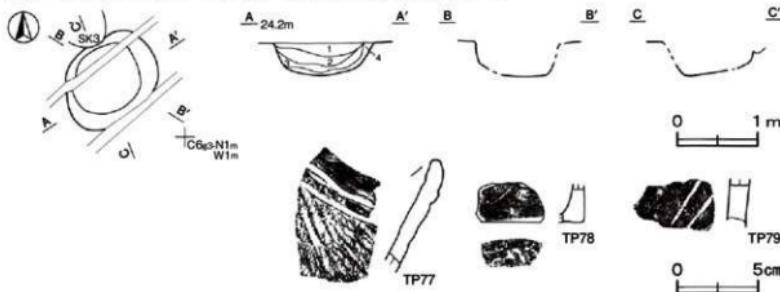
土層解説

- 1 基 極 色 ロームブロック、炭化粒子微量
2 無 極 色 ローム粒子微量

- 3 暗 極 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 明 極 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 4 点（深鉢）が出土している。TP77～79 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第38図 第29号土坑・出土遺物実測図

第29号土坑出土遺物観察表（第38図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP77	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	にふい模様	波状口縁、口縁部外縁单節L字縄文後横筋2条の平行沈縄文を施す。	覆土中	
TP78	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐色	底部外縁磨削文で無文帶を構成	覆土中	
TP79	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	側面外縁重下沈縄文	覆土中	

第34号土坑（第39図）

位置 調査区北部のC 6 e2 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第40号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.00 m、短径 1.21 m の橢円形で、長径方向は N - 49° - W である。深さは 54 cm、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。北部に性格不明のピットが確認できた。深さは 26 cm である。

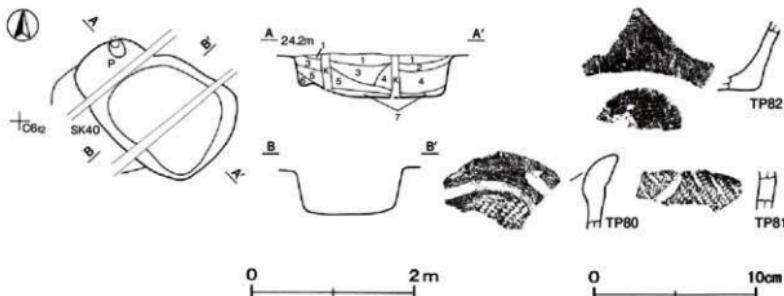
覆土 7 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック中量
2	無暗褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7	褐色	ロームブロック少量
4	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量			

遺物出土状況 繩文土器片 43 点（深鉢）が出土している。他に、混入して土師器片 6 点（坏）、須恵器片 1 点（坏）が出土している。TP80 ~ 82 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第39図 第34号土坑・出土遺物実測図

第34号土坑出土遺物観察表（第39図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP80	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部外面單面 L R 繩文施文後沈線文で区画	覆土中	
TP81	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	側部外面單面 RL 繩文施文後弧状沈線文施文	覆土中	
TP82	繩文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶい橙	側部外面下端削りを施し無文帶を構成	覆土中	

第35号土坑（第40図）

位置 調査区北西部のC 5 e7 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 調査区域外の北側に延びているため南北径 0.80 m、東西径 0.75 m しか確認できなかった。深さは、19 cm である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

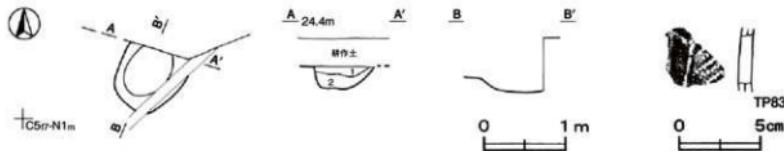
覆土 2 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
---	----	------------------	---	-----	------------------

遺物出土状況 繩文土器片 3 点（深鉢）が出土している。TP83 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第40図 第35号土坑・出土遺物実測図

第35号土坑出土遺物観察表（第40図）

番号	種別	部種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP83	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	側部外縁単面L.R縄文施文後縫消済垂文施文	覆土中	

第40号土坑（第41図）

位置 調査区北部のC 612区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第34号土坑と第1号ピット群（P105）に掘り込まれている。

規模と形状 第34号土坑と第1号ピット群（P105）に掘り込まれているため、南北径143m、東西径127mしか確認できなかった。深さは、56cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

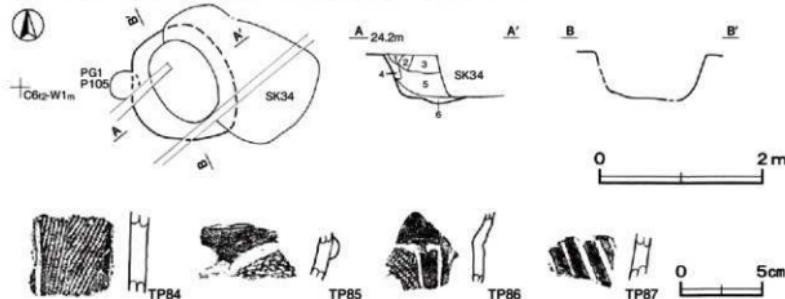
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4	褐褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片16点（深鉢）が出土している。TP84～87は、覆土中から出土している。

所見 時期は、山土器から中期後半（加曾利E II式期）に比定できる。



第41図 第40号土坑・出土遺物実測図

第40号土坑出土遺物観察表（第41図）

番号	種別	部種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP84	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗褐色	側部外縁単面L.R縄文施文後縫消済垂文で区画	覆土中	
TP85	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	側部外縁単面L.R縄文施文後縫消済垂文で区画	覆土中	
TP86	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	側部外縁単面L.R縄文施文後縫消済垂文で区画	覆土中	
TP87	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	暗赤褐色	側部外縁単面L.R縄文施文	覆土中	

第44号土坑（第42図）

位置 調査区北西部のC 5 e9区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第46号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.66m、短径0.60mの楕円形で、長径方向はN-22°-Eである。深さは27cm、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 層	色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	3 層	色	ロームブロック多量
2 層	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量			

所見 時期は、出土遺物がないため明確ではないが、縄文時代の土坑と形状や覆土の状況が似ており、さらに第46号土坑を掘り込んでいることから、中期後半以降と思われる。

第46号土坑（第42図）

位置 調査区北西部のC 5 e9区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第44号土坑、第1号ピット群（P87）に掘り込まれている。

規模と形状 第44号土坑と第1号ピット群に掘り込まれているため、東西径0.50m、南北径0.41mしか確認できなかった。深さは、19cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

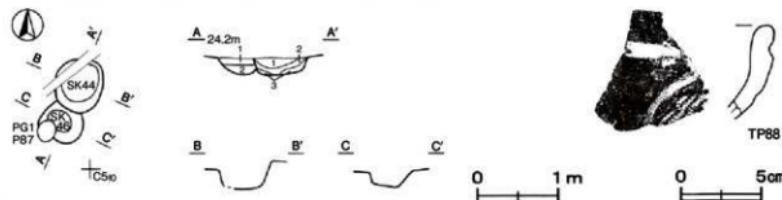
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 層	色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	2 层	色	ロームブロック多量
-----	---	------------------	-----	---	-----------

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。TP88は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第42図 第44・46号土坑、第46号土坑出土遺物実測図

第46号土坑出土遺物観察表（第42図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP88	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐色	口縁部横位の沈線を認むる。胴部外縁單面R.L.縄文施文後物凹状沈線で区画	覆土中	

第50号土坑（第43図）

位置 調査区北西部のC 5 f7区、標高23.7mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.49m、短径0.44mの楕円形で、長径方向はN-60°-Eである。深さは32cm、底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

ピット 1か所。径 18cm、深さ 10cmである。性格は不明である。

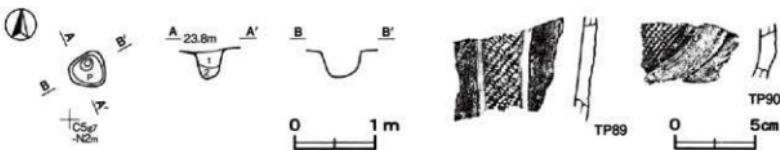
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 級 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 級 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 6点（深鉢）が出土している。TP89・90は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第43図 第50号土坑・出土遺物実測図

第50号土坑出土遺物観察表（第43図）

番号	種別	亞種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP89	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	側部外面単層LR縄文施文後縫消整垂文で区画	覆土中	
TP90	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰	側部外面単層LR縄文施文後弧状沈縫文で区画	覆土中	

第52号土坑（第44図）

位置 調査区北西部のC 5 e7区、標高 23.7 mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 墓乱に掘り込まれているため、南北径 0.83m、東西径 0.40 mしか確認できなかった。深さは 15cm、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

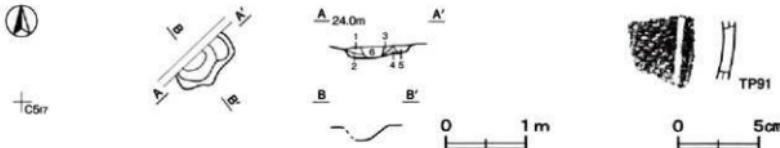
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 級 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 4 級 色 焼土ブロック・ローム粒子少量
2 級 色 炭化物多量、ロームブロック・焼土ブロック少量 5 黒 級 色 ローム粒子・焼土粒子微量
3 級 色 焼土ブロック中量、ローム粒子微量 6 黒 級 色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片 1点（深鉢）が出土している。TP91は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第44図 第52号土坑・出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表（第44図）

番号	種別	亞種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP91	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	側部外面単層LR縄文施文後縫消整垂文で区画	覆土中	

第53号土坑（第45図）

位置 調査区北西部のC 5 e8 区、標高 23.8 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第54号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径 1.20 m の円形で、深さは 38 cm である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

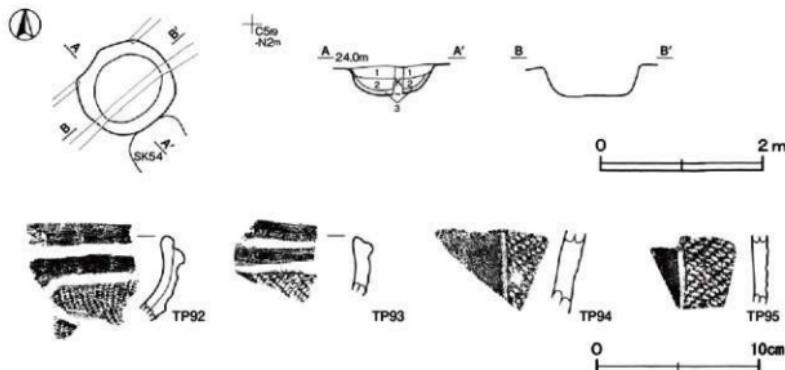
覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量	3 黄褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	

遺物出土状況 繩文土器片 27 点（深鉢）、石器 1 点（磨石）が出土している。TP92～95 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第45図 第53号土坑・出土遺物実測図

第53号土坑出土遺物観察表（第45図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP92	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	口縁部外面沈麻文施文 剥離外面單節R L繩文施文	覆土中	
TP93	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	口縁部外面沈麻文施文 剥離外面單節R L繩文施文	覆土中	
TP94	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	剥離外面單節L R繩文施文後剥離消済垂文施文	覆土中	
TP95	繩文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黒	剥離外面單節L R繩文施文後剥離消済垂文施文 内面堆付着	覆土中	

第60号土坑（第46図）

位置 調査区北西部のC 5 f8 区、標高 23.8 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号道路、第61・77号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第2号道路、第61・77号土坑に掘り込まれているため、南北径 2.52 m、東西径 2.38 m しか確認できなかった。深さは、39 cm である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

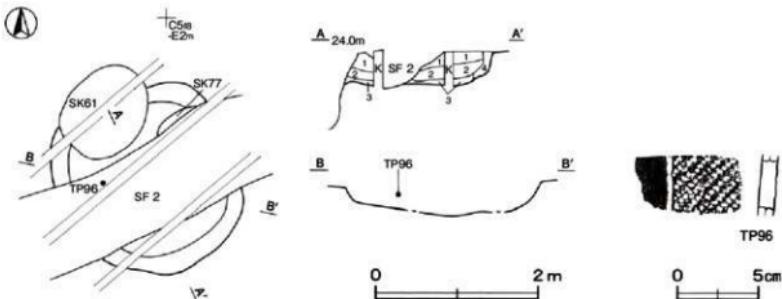
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| 1 細 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 黒 褐 色 硫土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量 | 4 褐 色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 繩文土器片 12 点（深鉢）が出土している。TP96 は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第46図 第60号土坑・出土遺物実測図

第60号土坑出土遺物観察表（第46図）

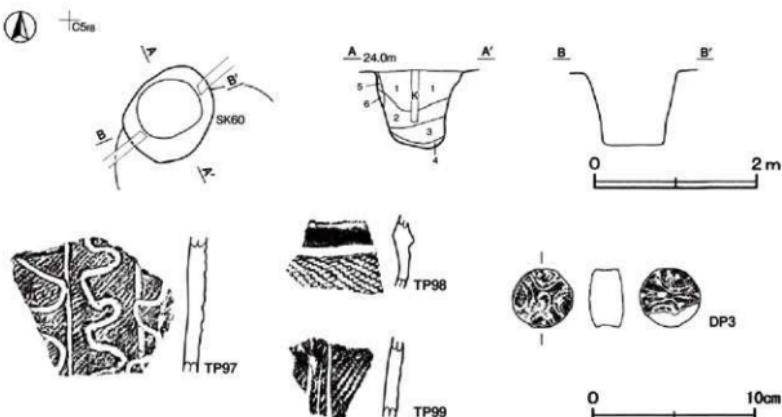
番号	種 別	部種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 ほ か	出 土 位 置	備 考
TP96	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明快	胴部外面單面LR縄文施文後縁消済兼文施文	覆土中層	

第 61 号土坑（第47図）

位置 調査区北西部のC 5 f8 区、標高 238 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 60 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.23 m、短径 1.00 m の楕円形で、長径方向は N - 29° - E である。深さは 90cm、底面は



第47図 第61号土坑・出土遺物実測図

平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量	4	暗褐色	ロームブロック多量
2	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	5	褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 繩文土器片 17点（深鉢）、土製品 1点（耳栓）が出土している。TP97～99、DP3は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半（堀之内式期）に比定できる。

第61号土坑出土遺物観察表（第47図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP97	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐色	側部外面無施しの縄文施文後巻手状の沈継文施文	覆土中	
TP98	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	側部外面単縦LR縄文施文後横位の沈継文施文	覆土中	
TP99	縄文土器	深鉢	長石・石英	灰褐色	側部外面単縦LR縄文施文後巻手状	覆土中	

番号	器種	径	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP3	耳栓	37	—	21	(30.2)	長石・雲母	表面に2条の弧状沈線で十字形の文様を施し中央部に刺突文を施す	覆土中	PL38

第67号土坑（第48図）

位置 調査区北西部のC5e9区、標高23.9mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号住居跡を掘り込み、第2号道路・第20号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第2号道路・第20号土坑に掘り込まれているため、南北径0.63m、東西径0.45mしか確認できなかった。深さは、11cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

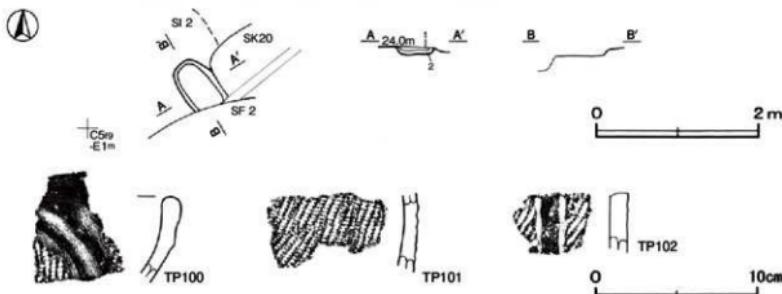
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子、炭化粒子微量	2	暗褐色	ロームブロック多量
---	-----	-----------------------	---	-----	-----------

遺物出土状況 縄文土器片 7点（深鉢）が出土している。TP100～102は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）であると比定できる。



第48図 第67号土坑・出土遺物実測図

第67号土坑出土遺物観察表（第48図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP100	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	胴部外面単面LR縄文施文後弧状沈線文で区画	覆土中	
TP101	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部外面単面LR縄文施文	覆土中	
TP102	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	胴部外面単面LR縄文施文後磨消済垂文で区画	覆土中	

第71号土坑（第49図）

位置 調査区北部のC 6g1区、標高23.8mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第1号溝に掘り込まれているため、東西径1.20m、南北径0.97mしか確認できなかった。残存している深さは、51cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がりっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

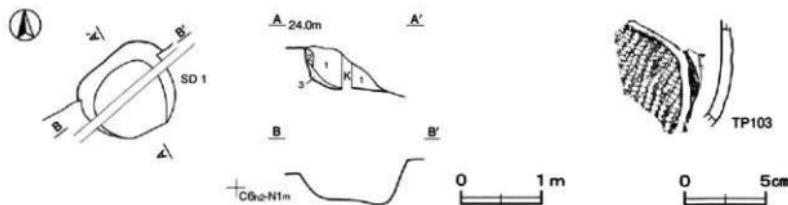
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量
2 褐色 ロームブロック中量

3 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器4点（深鉢）が出土している。TP103は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に北定できる。



第49図 第71号土坑・出土遺物実測図

第71号土坑出土遺物観察表（第49図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP103	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐	胴部外面単面LR縄文施文後弧状沈線文で区画	覆土中	

第77号土坑（第50図）

位置 調査区西北部のC 5f8区、標高23.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第60号土坑を掘り込み、第2号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第2号道路に掘り込まれているため、南北径0.95m、東西径0.82mしか確認できなかった。残存している深さは、91cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

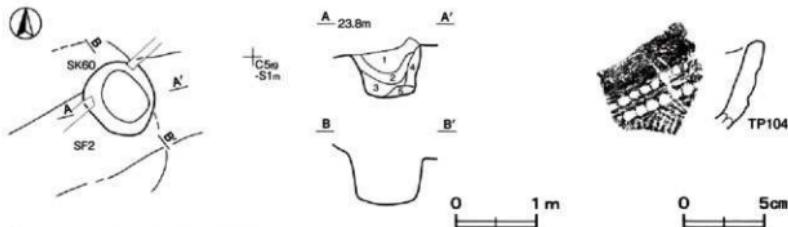
土層解説

1 褐褐色 ロームブロック多量
2 褐褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 褐褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

4 褐色 ロームブロック多量
5 黒褐色 ロームブロック微量

遺物出土状況 繩文土器片 1 点（深鉢）が出土している。TP104 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉（黒浜式期）に比定できる。



第50図 第77号土坑・出土遺物実測図

第77号土坑出土遺物観察表（第50図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP104	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	波状口縁・口縁部2条の刺突文を施す・腹部外面 波状縄文施文	覆土中	

第80号土坑（第51・52図）

位置 調査区北西部の C 5 c2 区、標高 232 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第1号道路に掘り込まれ、南西部は調査区外に延びているため、北西・南東径 3.17 m、北東・南西径 1.19 m しか確認できなかった。残存している深さは、37cm である。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

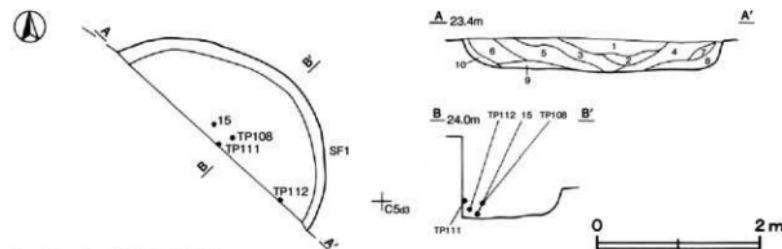
覆土 10 層に分層できる。混入物が少なく、周囲から流入している状況から自然堆積である。

土層解説

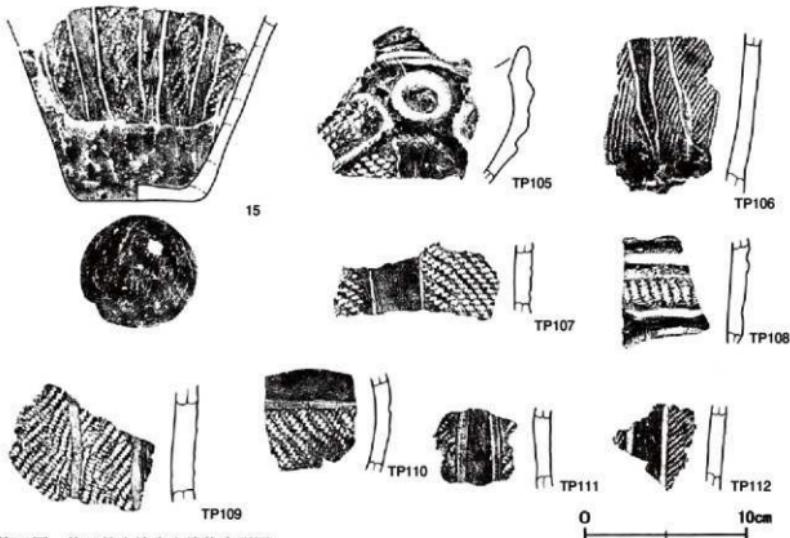
1	無暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6	褐	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	7	褐暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3	無暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8	褐暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9	褐	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5	黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	10	褐	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 23 点（深鉢）が出土している。15. TP105～111 は確認できた遺構の中央部から集中して、TP112 は、南東壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E II 式期）に比定できる。



第51図 第80号土坑実測図



第52図 第80号土坑出土遺物実測図

第80号土坑出土遺物観察表（第52図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
15	織文土器	深鉢	-	(11.5)	7.0	長石・石英・雲母	橙	普通	胴部内面保有 異面单面R L織文施文後消痕 垂文施文	覆土下層	20% PL37

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP105	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	單節R L織文を施し捺円状の縦帶で区画 中央 部の「の」字状の陰文	覆土中	
TP106	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	單節L R織文施文後素手文で区画	覆土中	
TP107	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黃褐色	胴部外表面R L R織文施文後消痕垂文施文	覆土中	
TP108	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰褐色	胴部外表面單節R L織文施文後横位の沈線文施文	覆土下層	
TP109	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	胴部外表面單節R L織文施文後懸垂文施文	覆土中	
TP110	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤 色粒子	褐色	胴部外表面單節R L織文施文後横位無文施文 を区画	覆土中	
TP111	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤 色粒子	黃灰	胴部外表面單節R L織文施文後消痕垂文施文	覆土下層	
TP112	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母・黑 色粒子	橙	胴部外表面單節R L織文施文後消痕垂文施文	覆土下層	

第83号土坑（第53図）

位置 調査区北西部のC5b2区、標高23.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第1号道路に掘り込まれているため、南北径0.76m、東西径0.70mしか確認できなかった。残存している深さは、20cmである。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。混入物が少なく、周囲から流入している状況から自然堆積である。

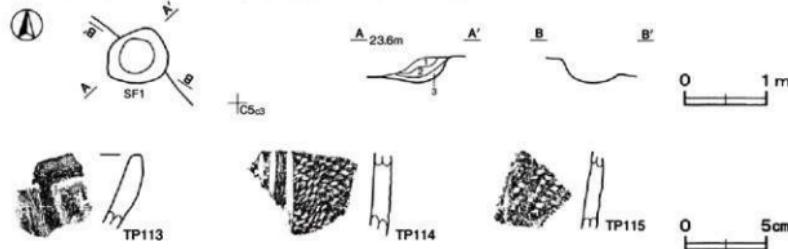
土層解説

- 1 細褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 細褐色 ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量

3 細褐色 ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片 9 点（深鉢）が出土している。TP113～115 は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E II 式期）に比定できる。



第53図 第83号土坑・出土遺物実測図

第 83 号土坑出土遺物観察表（第 53 図）

番号	種別	地層	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP113	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐	口縁部外面横円状の微隆起線文施文	覆土中	
TP114	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	胴部外面單面 L R 縄文施文接懸垂文施文	覆土中	
TP115	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	胴部外面單面 L R 縄文施文接懸垂文施文	覆土中	

第 92 号土坑（第 54 図）

位置 調査区北西部の C 6 j6 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

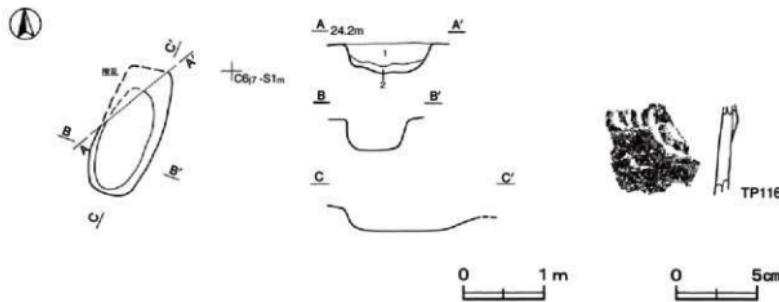
規模と形状 扰乱坑に掘り込まれているため、南北径 1.64 m、東西径 0.78 m しか確認できなかった。残存している深さは 36cm である。底面はほぼ平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 2 層に分層できる。混入物が少なく、周囲から流入している状況から自然堆積である。

土層解説

- 1 細褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

2 にぶい褐色 ローム粒子中量・焼土粒子・炭化粒子微量



第54図 第92号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 繩文土器片 2 点（深鉢）が出土している。TP116 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前半（阿玉台式期）であると比定できる。

第 92 号土坑出土遺物観察表（第 54 図）

番号	種 別	部種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP116	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	脚部外縫弧の貼付けと角押文を施す	覆土中	

第 101 号土坑（第 55 図）

位置 調査区北部の C 6 h7 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号掘立柱建物、第 2 号ピット群（P11）に掘り込まれている。

規模と形状 第 1 号掘立柱建物、第 2 号ピット群に掘り込まれているため、南北径 0.45 m で、東西径は 0.30 m しか確認できなかった。残存している深さは、24cm である。底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。混入物が少なく、周囲から流入している状況から自然堆積である。

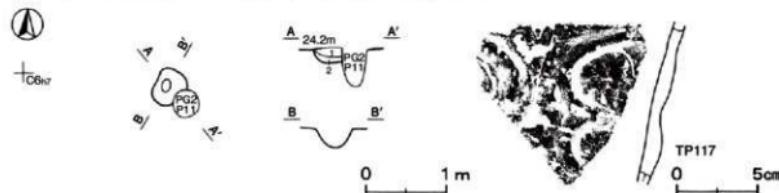
土層解説

1 帽 色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 帽 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片 9 点（深鉢）が出土している。TP117 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前半（阿玉台式期）に比定できる。



第 55 図 第 101 号土坑・出土遺物実測図

第 101 号土坑出土遺物観察表（第 55 図）

番号	種 別	部種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP117	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・磁鐵	にぶい赤褐	脚部外縫弧帶に沿って結節沈線文施文	覆土中	

第 106 号土坑（第 56 図）

位置 調査区北部の C 7 e2 区、標高 23.3 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.76 m の円形で、深さは 53cm である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 6 層に分層できる。混入物が少なく、周囲から流入している状況から自然堆積である。

土層解説

1 黒 褐 色 炭化粒子少量、ローム粒子・燒土粒子微量

4 黒 褐 色 ローム粒子・燒土粒子微量

2 黒 褐 色 ローム粒子・燒土粒子・炭化粒子微量

5 帽 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

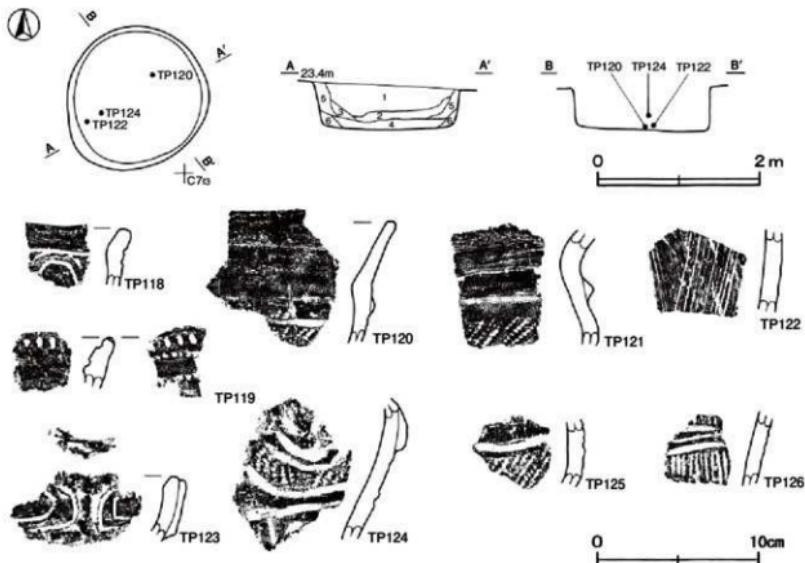
3 黒 褐 色 ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量

6 帽 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片 123 点（浅鉢 2、深鉢 121）が出土している。TP120・122 は覆土下層から、TP124

は覆土中層から、TP118・119・121・123・125・126は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E II式期）に比定できる。



第56図 第106号土坑・出土遺物実測図

第106号土坑出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴	出土位置	備考
TP118	縹文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部外側横位と弧状の角押文を施文	覆土中	
TP119	縹文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	口唇部山形状の削み 口縁部内面2条の角押文	覆土中	
TP120	縹文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	頭部外側横帯に沿って洗継を造らず 脚部外側單 筋L.R織文施文	覆土下層	
TP121	縹文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	頭部外側横帯に沿って洗継を造らず 脚部外側單 筋L.R織文施文	覆土中	
TP122	縹文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	脚部外側横筋状工具による複数の条継を施文	覆土下層	
TP123	縹文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部外側横帯に沿って2条の角押文を施文	覆土中	
TP124	縹文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	頭部單筋L.R織文を施文後弧状洗継を施文 脚部 横位「の」字状洗継で区画 以下無垂文施文	覆土中層	
TP125	縹文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤 色粒子	にぶい黄橙	口縁部單筋L.R織文施文後弧状洗継で区画	覆土中	
TP126	縹文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	頭部外側横位の条継を造らず 脚部外側横位の条 縹文施文	覆土中	

第110号土坑（第57図）

位置 調査区西部のD 6 a5区、標高238mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.48m、短径0.37mの梢円形で、直径方向はN-45°-Wである。深さ51cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。混入物が少なく、周囲から流入している状況から自然堆積である。

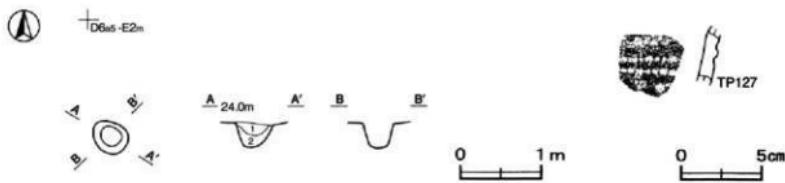
土層解説

1 黒褐色 炭化粒子少量、ローム粒子・焼土粒子微量

2 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 檻文土器片 1 点（深鉢）が出土している。TP127 は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前半（阿玉台式期）に比定できる。



第57図 第110号土坑・出土遺物実測図

第110号土坑出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP127	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・磁鐵	にぶい赤褐	腹部外側縁帯に沿って角押文を施文	覆土中	

第133号土坑（第58図）

位置 調査区中央部のC 73区、標高 238 m の台地級斜面部に位置している。

規模と形状 径 2.20 m の円形で、深さは 46 cm である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

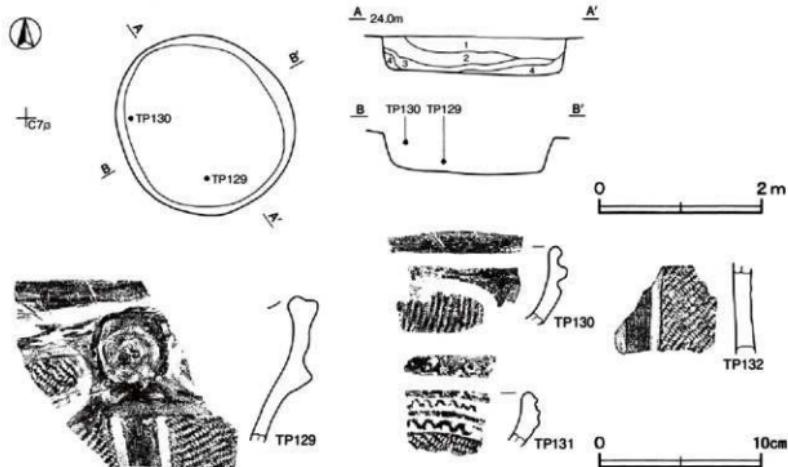
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 基褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

3 箱褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

4 基褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量



第58図 第133号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 繩文土器片 25 点（深鉢）が出土している。混入して土師器片 4 点（甕）が出土している。

TP129 は覆土下層、TP130 は覆土中層、TP131・132 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E II 式期）に比定できる。

第133号土坑出土遺物観察表（第58図）

番号	種別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP129	繩文土器	深鉢	長石・石英	黒褐色	L1縁部外単節L1繩文施文内縁部泥文で凹面 中央部「の」字状施文施文 施面部外単節L1繩文施文内縁部泥文	覆土下層	PL38
TP130	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	L1縁部外単節の沈縫を残す 施面部外単節L1繩文施文内縁部泥文で区画	覆土中層	
TP131	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	L1縁部外単節2条単位の刺突文を施文 以下単節R上繩文を施文	覆土中	
TP132	繩文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	施面部外単節L1繩文施文後縫消済參文で区画	覆土中	

第135号土坑（第59図）

位置 調査区西部のD 6d6 区、標高 24 m の台地緩傾斜部に位置している。

規模と形状 径 1.14 m の円形で、深さは 30cm である。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

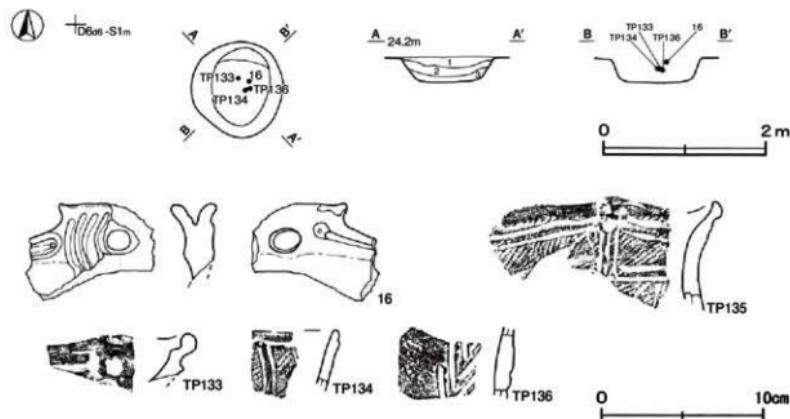
覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 埋 地 色 ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量 | 3 埋 地 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 埋 地 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 繩文土器片 29 点（深鉢）、甕 3 点が出土している。16 は覆土上層、TP133・134・136 は覆土中層、TP135 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半（堀之内式期）に比定できる。



第59図 第135号土坑・出土遺物実測図

第135号土坑出土遺物観察表（第59図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	施成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
16	繩文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・雲母	褐	普通	突起部に刺突文を施文 口縁部内・内部沈縫消済參文で区画 中央部穿孔 孔の両端に4本単位の弧状沈縫文	覆土上層	5%

番号	種別	部種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP133	绳文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	L1縁部外側面沈線文を巡らす 液道部下にボタン状の附け文施文	覆土中層	
TP134	绳文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	L1縁部外側面横位の沈線文を巡らす 縫部外面單節L.R.帯消褪文施文後段位の条綱文で区別	覆土中層	
TP135	绳文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	L1縁部外側面单節L.R.帯消褪文施文後段位の条綱文で区別	覆土中	
TP136	绳文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細纖	灰黄褐	縫部外面横面状工具による斜位の沈線文施文後段位の沈線を施す	覆土中層	

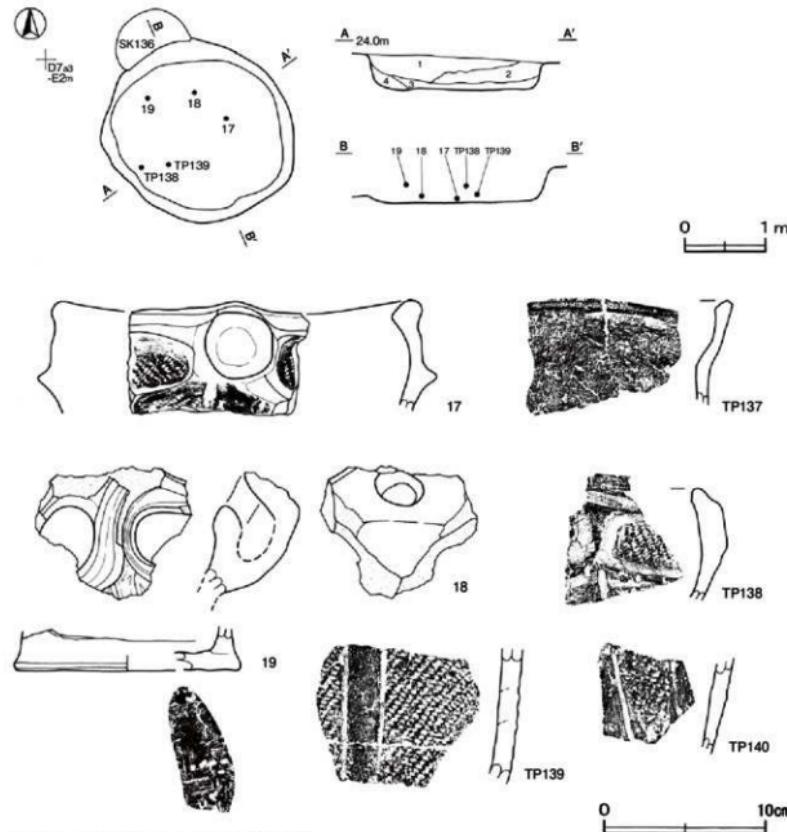
第137号土坑(第60図)

位置 調査区中央部のD7 a3区。標高23.8mの台地緩傾斜部に位置している。

重複関係 第136号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 径2.28mの円形で、深さは40cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。



第60図 第137号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

3	褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片 26 点（深鉢）が出土している。混入して土師器片 1 点（甕）が出土している。

17・18. TP139 は覆土下層から、19. TP138 は覆土上層から、TP137・140 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E 式期）に比定できる。

第137号土坑出土遺物観察表（第60図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
17	縄文土器	深鉢	(21.4)	(6.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	口縁部外面直面文と「の」字状貼付文 単面RSL繩文を捺印状況 沈痕文で判別 刻痕外周部R L繩文を奈良堅垂文で区画	覆土下層	5%
18	縄文土器	深鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	把手に沈線文施文 内面から穿孔	覆土下層	5%
19	縄文土器	深鉢	-	(27)	(13.4)	長石・石英・雲母	橙	普通	側部外面下端横ナギ 底部内面ナギ 外面削代板	覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP137	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	粗製土器 口縁部外面ヘラ削り 内面磨き	覆土中	
TP138	縄文土器	深鉢	長石・石英・織縫	にぶい褐	口縁部外面單面R L繩文を捺印状況隆起線で区画	覆土上層	
TP139	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・小窓	にぶい黄橙	側部外面單面R L繩文施文接縫消痕垂文施文	覆土下層	
TP140	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	側部外面單面R L繩文施文接縫消痕垂文施文	覆土中	

第140号土坑（第61図）

位置 調査区北西部のB 4 h6 区、標高 232 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第1号道路に掘り込まれ、南西部は調査区域外に延びているため、南北径 1.54 m、東西径 0.54 m しか確認できなかった。残存している深さは、30cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを多量に含んでいることから埋め戻されている。

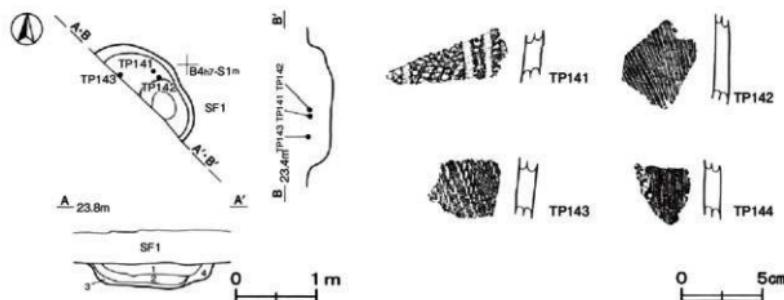
土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量

3	褐色	ロームブロック多量
4	黄褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 10 点（深鉢）が出土している。TP141～143 は覆土上層から、TP144 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E 式期）に比定できる。



第61図 第140号土坑・出土遺物実測図

第140号土坑出土遺物観察表（第61図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP141	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐色	胴部外面単面LR縄文施文後横垂文施文	覆土上層	
TP142	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部外面撫垂状工具による条縦文施文	覆土上層	
TP143	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	胴部外面撫垂文施文	覆土上層	
TP144	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒	胴部外面単面LR縄文施文後横垂文施文	覆土中	

第142号土坑（第62図）

位置 調査区北西部のB418区、標高23mの台地平坦部に位置している。

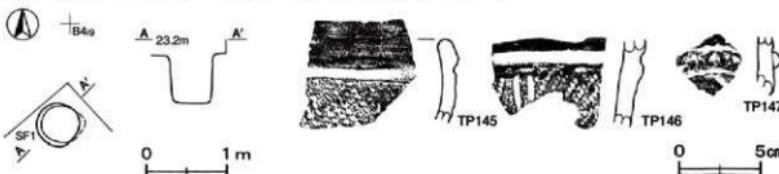
重複関係 第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 径0.55mの円形で、上部は第1号道路に掘り込まれているため、深さは59cmしか確認できなかった。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 調査途中に崩落したため、土層の図示はできなかった。土層の観察から、ロームブロックを多量に含んでいたため埋め戻されていると推測できる。

遺物出土状況 縄文土器12点（深鉢）が出土している。TP145～147は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第62図 第142号土坑・出土遺物実測図

第142号土坑出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP145	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	外面単面RL縄文施文後横位の沈線で胴部と区间	覆土中	
TP146	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐色	LI縄部横位の沈線を高らす 単面し及縄文施文後 2条単位の横垂文で区间	覆土中	
TP147	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	胴部外面腰帶に沿って角押文施文	覆土中	

第143号土坑（第63図）

位置 調査区北西部のB419区、標高23.4mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第1号道路に掘り込まれ、北東部は調査区域外に延びているため、南北径1.00m、東西径0.57mしか確認できなかった。残存している深さは、116cmである。壁はほぼ直立している。

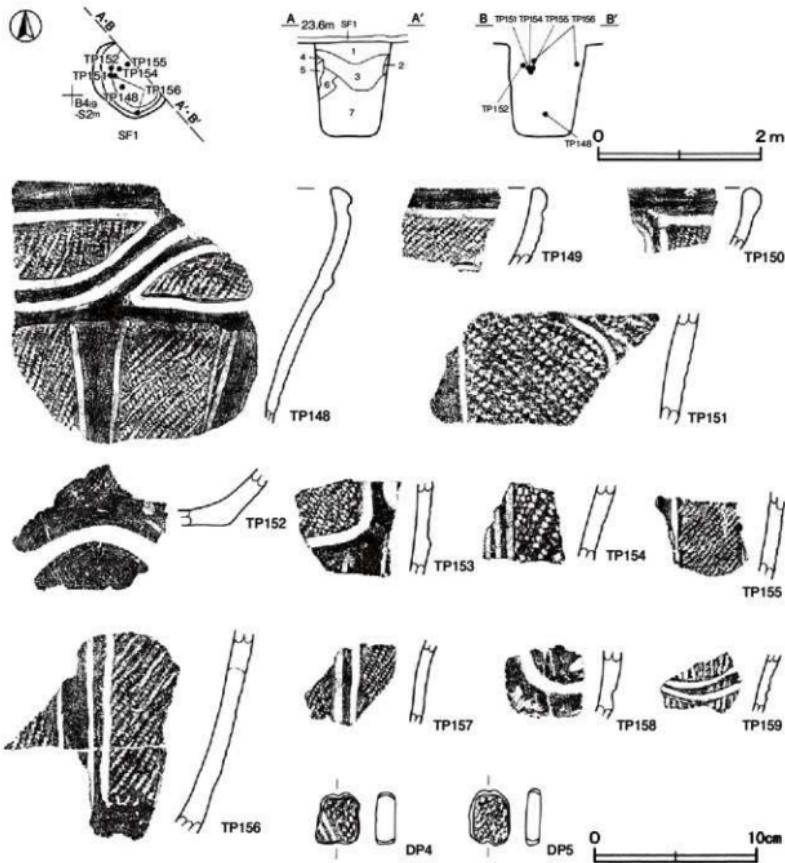
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック微量	5 黄褐色	ロームブロック中量
2 黄褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック微量	6 紺褐色	ロームブロック中量
3 紺褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック微量	7 紺褐色	ロームブロック多量
4 黄褐色	ロームブロック多量		

遺物出土状況 繩文土器片 45 点（深鉢）、土製品 2 点（土器片錐）、礫 2 点が出土している。TP148 は覆土下層、TP151・152・154～156 は覆土上層、TP149・150・157～159、DP4・5 は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E II 式期）に比定できる。



第63図 第143号土坑・出土遺物実測図

第143号土坑出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP148	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部外面單面 L R 縄文施文後捺印凹側面起線文で区画 胸部外表面單面 L R 縄文施文後消痕新文施文	覆土下層	
TP149	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部外面單面 L R 縄文施文後沈綿文で区画 内面赤彩	覆土中	
TP150	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部外面單面 L R 縄文施文後沈綿文で区画	覆土中	
TP151	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胸部外表面單面 L R 縄文施文後弧状沈綿文と新消痕 垂文で区画	覆土上層	

番号	種別	部種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP152	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	側部外縁下端單路L.R縄文施文後磨消を施す 内面赤彩	覆土上層	
TP153	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	側部外縁單路L.R縄文施文後磨消と並んで区画	覆土中	
TP154	縄文土器	深鉢	長石・石英・黒色粒子	にぶい黄橙	側部外縁單路L.R縄文施文後懸垂文で区画	覆土上層	
TP155	縄文土器	深鉢	長石・石英・針状鉱物	にぶい黄橙	側部外縁單路L.R縄文施文後磨消懸垂文で区画	覆土上層	
TP156	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	側部外縁單路L.R縄文施文後懸垂文で区画 下端磨消による無文帯	覆土上層	PL38
TP157	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	側部外縁單路L.R縄文施文後磨消懸垂文で区画	覆土中	
TP158	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐	側部外縁弧状沈線文施文	覆土中	
TP159	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	側部外縁單路L.R縄文施文後横位の2条の沈線文で区画	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP 4	土器片	32	26	13	12.1	長石	両端に縫掛けの剥み 個面研磨 単路L.R縄文懸垂文	覆土中	
DP 5	土器片	34	25	09	9.8	長石・雲母	両端に縫掛けの剥み 個面研磨 単路L.R縄文	覆土中	

第 149 号土坑（第 64 図）

位置 調査区北西部のB 4 j9 区、標高 23.2 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 186・190 号土坑を掘り込み、第 1 号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第 1 号道路に掘り込まれているため、南北径 0.62 m、東西径 0.53 m しか確認できなかった。確認できた深さは、35cm である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 細 極 色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化粒子微量 3 黄 極 色 ロームブロック多量
2 細 極 色 ロームブロック多量、焼土ブロック微量

遺物出土状況 縄文土器片 2 点（深鉢）が出土している。TP160 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E 式期）に比定できる。

第 181 号土坑（第 64 図）

位置 調査区北西部のB 4 j0 区、標高 23.2 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第 1 号道路に掘り込まれているため、南北径 0.83 m、東西径 0.73 m しか確認できなかった。確認できた深さは、49cm である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 細 極 色 ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化物微量 3 細 極 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 細 極 色 ロームブロック多量、焼土ブロック・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片 3 点（深鉢）が出土している。その他混入して弥生土器片 1 点（壺）、土師器片 1 点（甕）が出土している。TP161・162 は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E II 式期）に比定できる。

第 182 号土坑（第 64 図）

位置 調査区北西部のC 4 a0 区、標高 23.2 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 186 号土坑を掘り込み、第 1 号道路、第 4 号ピット群（P17）に掘り込まれている。

規模と形状 第1号道路に掘り込まれているため、南北径0.98m、東西径0.89mしか確認できなかった。確認できた深さは、103cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

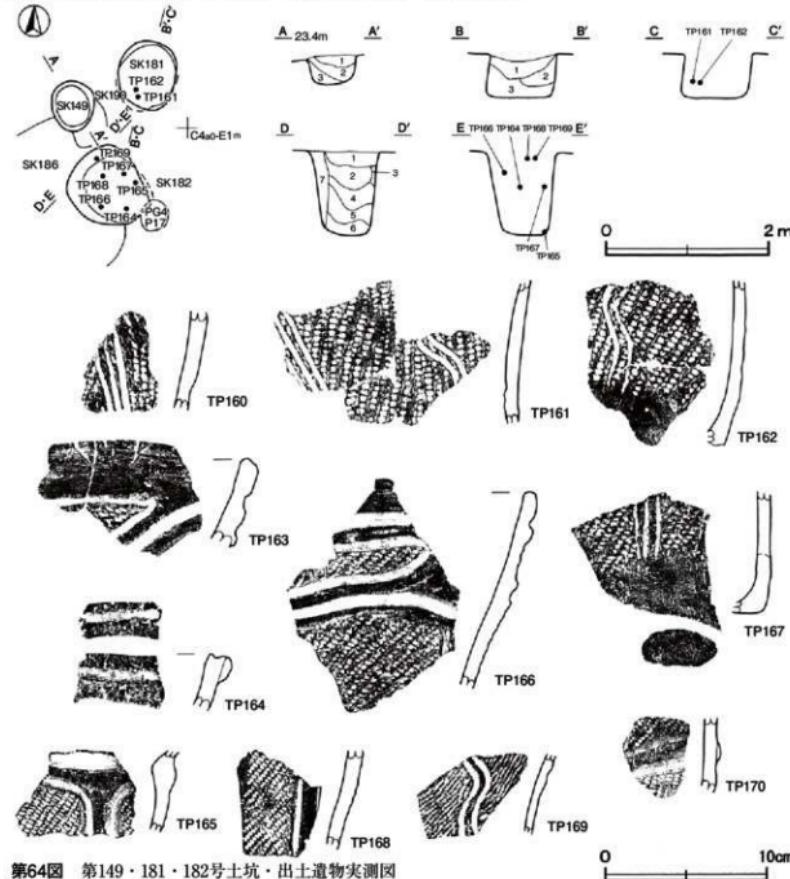
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 細褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量	5 黄褐色 ロームブロック多量
2 細褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量	6 細褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 細褐色 ローム粒子多量	7 細褐色 ロームブロック多量
4 細褐色 ロームブロック中量	

遺物出土状況 繩文土器片52点(深鉢)が出土している。混入して弥生土器片1点(壺)、土師器片6点(壺)、土製品1点(土器片錐)、石器2点(剥片)も出土している。TP164~169は覆土上層から下層にかけて、TP163・170は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半(加曾利EⅡ式期)に比定できる。



第64図 第149・181・182号土坑・出土遺物実測図

第149・181・182号土坑出土遺物観察表（第64図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP160	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい橙	胴部外面單面L.R.縄文施文後3条の型垂文施文	覆土中	SK149
TP161	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	胴部外面單面L.R.縄文施文後懸垂文施文	覆土中層	SK181
TP162	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	胴部外面單面L.R.縄文施文後懸垂文施文 下端崩落による無文帶	覆土中層	SK181
TP163	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	L.R.縄部外面單面L.R.縄文施文後三角状沈窪文で区画	覆土中	SK182
TP164	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	L.R.脇部沈窪文施文	覆土中層	SK182
TP165	縄文土器	深鉢	長石・石英	黄灰	胴部外面單面L.R.縄文施文後側面隆起縦文で区画	覆土下層	SK182
TP166	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	L.R.縄部外側沈窪文ならず 胴部外面單面L.R.縄文施文後側面沈窪文と弧状沈窪文で区画	覆土上層	SK182
TP167	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	赤褐色	胴部外面單面L.R.縄文施文後3条の型垂文施文 下端崩落による無文帶	覆土中層	SK182
TP168	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	灰褐色	胴部外面單面L.R.縄文施文後消痕垂文で区画	覆土上層	SK182
TP169	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	胴部外面單面L.R.縄文施文後波状の条線で区画	覆土上層	SK182
TP170	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐色	胴部外面單面L.R.縄文施文後側面隆起文で区画	覆土中	SK182

第170号土坑（第65図）

位置 調査区西部のD7d2区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号住居跡、第171号土坑を掘り込み、第3号ピット群（P52）に掘り込まれている。

規模と形状 第3号ピット群に掘り込まれているため、南北径1.00m、東西径0.89mしか確認できなかった。平面形は、ほぼ円形と推測できる。確認できた深さは、30cmである。底面は平坦で、壁面は緩やかに立ち上がっている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子少量
 3 暗褐色 ロームブロック少量

- 4 黒褐色 ロームブロック少量
 5 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。その他混入して、弥生土器片1点（広口壺）、土師器片1点（甕）が出土している。TP171は、覆土中から出土している。

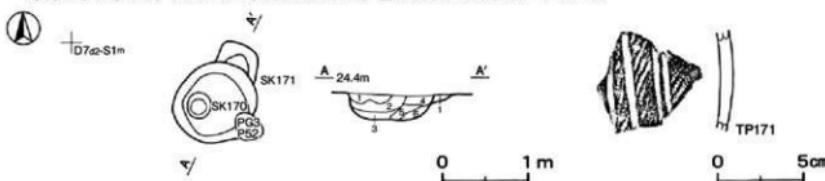
所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。

第171号土坑（第65図）

位置 調査区西部のD7d2区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12号住居跡を掘り込み、第170号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第170号土坑に掘り込まれているため、東西径0.50m、南北径0.25mしか確認できなかった。確認できた深さは、11cmである。底面は皿状で、壁面は緩やかに立ち上がっている。



第65図 第170・171号土坑、第170号土坑出土遺物実測図

覆土 確認できた部分は単一層である。層厚が薄いため、堆積状況は不明である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 繩文土器片 1 点（深鉢）が出土している。混入して須恵器片 1 点（壺）が出土している。

所見 時期は、本跡に伴う出土遺物はないが、縄文時代の土坑の形状と覆土の色調が似ていること、中期後半（加曾利E式期）の第 170 号土坑に掘り込まれていることから、中期後半以前と思われる。

第 170 号土坑出土遺物観察表（第 65 図）

番号	種 別	部 様	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出 口 位 置	備 考
TP171	縄文土器	深鉢	長石・石英	褐	脚部外面單面 L.R 縄文施文後懸垂文で区画	覆土中	

第 183 号土坑（第 66 図）

位置 調査区北西部の C 4 a0 区、標高 23.2 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号道路、第 184 号土坑、第 4 号ピット群（P13）に掘り込まれている。

規模と形状 第 1 号道路、第 184 号土坑、第 4 号ピット群に掘り込まれているため、南北径 1.23 m、東西径 1.05 m しか確認できなかった。確認できた深さは、95cm である。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 5 層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 褐褐色 ロームブロック中量

4 褐褐色 ロームブロック中量

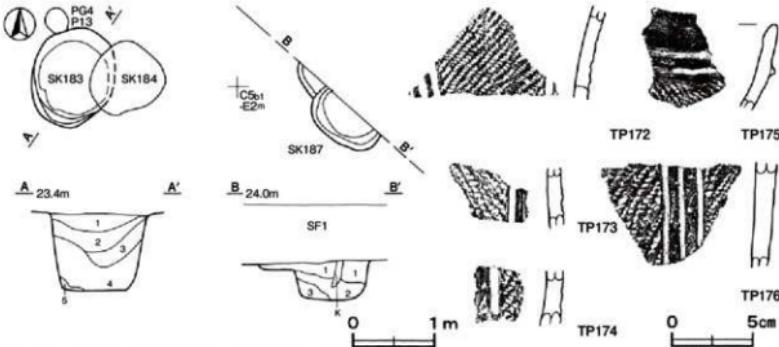
2 黒褐色 ロームブロック多量

5 褐褐色 ローム粘土少量、炭化粒子微量

3 褐褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 16 点（深鉢）、土製品 3 点（土器片錠）が出土している。混入して土師器片 2 点（壺）が出土している。TP172～174 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E 式期）に比定できる。



第 66 図 第 183・187 号土坑・出土遺物実測図

第 187 号土坑（第 66 図）

位置 調査区北部の C 5 b1 区、標高 23.2 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第1号道路に掘り込まれ、北東部は調査区域外へ延びるため、南北径1.48m、東西径0.44mしか確認できなかった。深さは50cmである。底面はほぼ平坦で、壁はやや外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

2 灰褐色 ロームブロック多量

3 灰褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 繩文土器片16点(深鉢)が出土している。TP175・176は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半(加曾利EⅡ式期)に比定できる。

第183・187号土坑出土遺物観察表(第66図)

番号	種別	部種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP172	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黒褐色	側部外縁単路LR繩文施文後削消済垂文で区画	覆土中	SK183
TP173	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐色	側部外縁単路RL繩文施文後削消済垂文で区画	覆土中	SK183
TP174	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黒褐色	側部外縁単路LR繩文施文後削消済垂文で区画	覆土中	SK183
TP175	繩文土器	深鉢	長石・石英	黒褐色	側部外縁単路RL繩文施文後横稜起線にによる区画	覆土中	SK187
TP176	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黒褐色	側部外縁単路LR繩文施文後削消済垂文で区画	覆土中	SK187

第193号土坑(第67図)

位置 調査区中央部のD7e2区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.75mの円形で、後世の削平を受けており、残存している深さは5cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

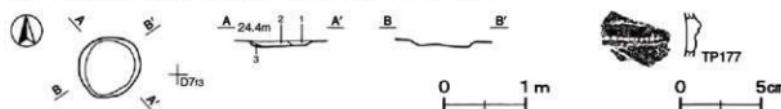
1 黒褐色 ロームブロック微量

2 黑褐色 ロームブロック少量

3 灰褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 繩文土器片3点(深鉢)が出土している。TP177は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前半(阿玉台式期)に比定できる。



第67図 第193号土坑・出土遺物実測図

第193号土坑出土遺物観察表(第67図)

番号	種別	部種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP177	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄褐色	側部外縁隆起線に沿って2条の角押文施文	覆土中	

第200号土坑(第68図)

位置 調査区中央部のD7b3区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第13号住居跡に掘り込み、第1号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 第1号墓坑に掘り込まれているため、南北径1.50m、東西径1.26mしか確認できなかった。平面形は、楕円形と推測できる。残存している深さは、66cmである。底面はほぼ平坦で、壁はやや外傾して立ち上がっている。

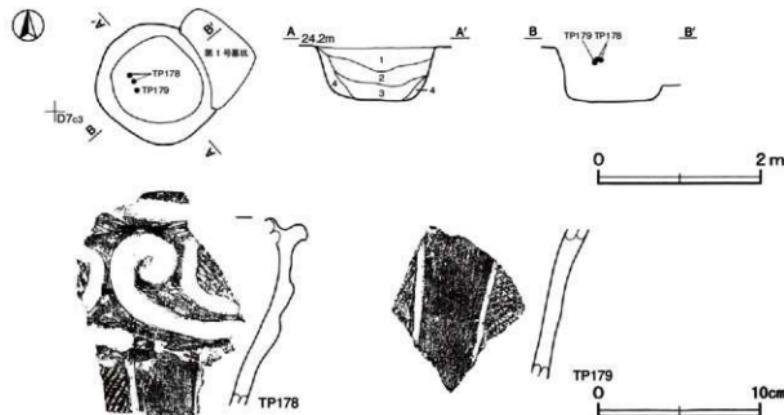
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片 19 点（深鉢）が出土している。その他混入して、弥生土器片 1 点（広口壺）が出土している。TP178・179 は、西部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E II 式期）に比定できる。



第68図 第200号土坑・出土遺物実測図

第200号土坑出土遺物観察表（第68図）

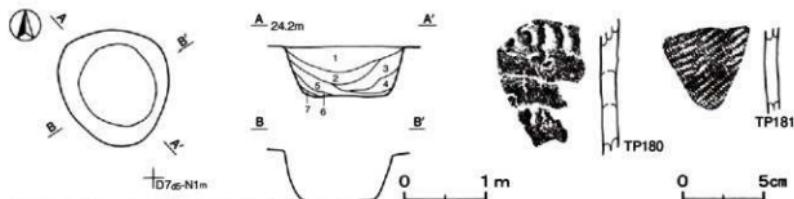
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP178	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	口部に泥濁を帯びせる。口部外側單面R縄文施文後幅広の筋消整文で区別。下の「丁字式施文」削除外側單面R縄文施文後幅広の筋消整文で区別。	覆土上層	PL38
TP179	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	側部外側單面R縄文施文後幅広の筋消整文で区別	覆土上層	PL38

第201号土坑（第69図）

位置 調査区中央部の D 7 e4 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 1.46 m の円形で、深さ 64 cm である。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 7 層に分層できる。混入物が少なく、周囲から流入している状況から自然堆積である。



第69図 第201号土坑・出土遺物実測図

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック少量・焼土粒子・炭化粒子微量	6 暗褐色 ローム粒子少量・炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量	7 黑褐色 ロームブロック中量
4 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子微量	

遺物出土状況 繩文土器片 22 点（深鉢）出土している。TP180・181 は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、中期前半（阿玉台式期）の土器が混入しているが、他の土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。

第 201 号土坑出土遺物観察表（第 69 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP180	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・纖維	にぶい黄	胴部外面横位の角押文施文	覆土中	混入
TP181	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部外面単面 L-R 縄文施文	覆土中	

第 202 号土坑（第 70 図）

位置 調査区中央部の D 7 d2 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号溝、第 3 号ピット群（P53・114）に掘り込まれている。

規模と形状 南東部が第 5 号溝、北部が第 3 号ピット群に掘り込まれているため、南北径 0.82 m、東西径 0.80 m しか確認できなかった。深さは 14cm である。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

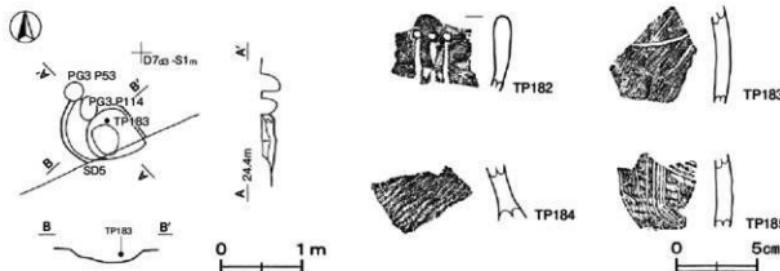
覆土 2 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量・炭化粒子微量	2 暗褐色 ロームブロック多量・炭化粒子微量
------------------------	------------------------

遺物出土状況 縄文土器片 8 点（深鉢）が出土している。TP183 は覆土中層から、TP182・184・185 は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半（堀之内式期）に比定できる。



第 70 図 第 202 号土坑・出土遺物実測図

第 202 号土坑出土遺物観察表（第 70 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP182	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明褐色	口縁部外面小突起の下に刃状突起文・以下刺突文・あわせ壓垂文	覆土中	
TP183	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明黄褐色	胴部外面撫觸状工具による弧状沈線文施文（入組文）	覆土中層	
TP184	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明黄褐色	胴部外面無筋 L の縄文施文	覆土中	
TP185	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	胴部外面無筋 L の縄文文と文後撫觸状工具による条線を混ぜて施文	覆土中	

第203号土坑（第71図）

位置 調査区中央部のD 7 b4 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第13号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径 2.03 m の円形で、深さは 62 cm である。底面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がっている。

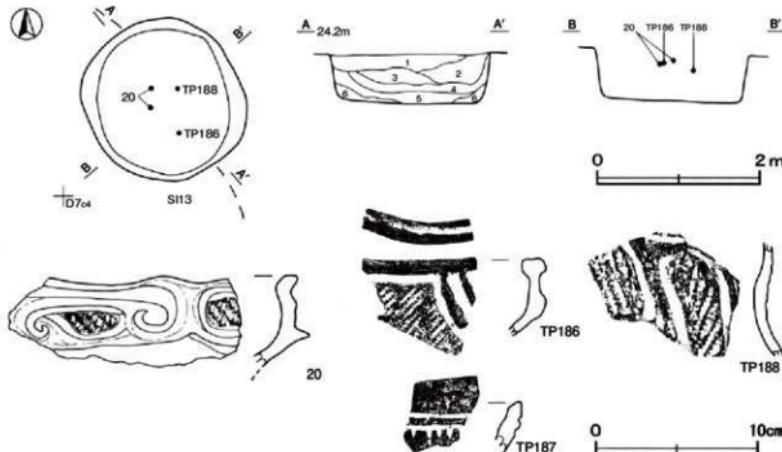
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量	4	褐色	ロームブロック多量、燒土粒子・炭化粒子少量
2	褐色	ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子少量	5	褐色	ロームブロック多量、炭化物少量、燒土粒子微量
3	褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量	6	褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片 53 点（深鉢）が出土している。その他混入して土師器片 3 点（甕）、石器 2 点（刮片・磨石）が出土している。20. TP186・188 は、覆土上層から中層にかけて、TP187 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E II 式期）に比定できる。



第71図 第203号土坑・出土遺物実測図

第203号土坑出土遺物観察表（第71図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
20	縄文土器	深鉢	-	(5.6)	-	長石・石英・雲母 芸母・細繊	黄褐色 にい・須背	普通	口縁部外面「n」字状沈継文支文 単脚足し縄文 を格円状沈継文で区画	覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP186	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黄褐色	口縁部外面を這らす口縁部外面單脚し 縄文施文後沈継に沿う縁帶文で区画	覆土上層	
TP187	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐色	口縁部外面平行沈継文を這らせ沈継に刻み目 を施す	覆土中	
TP188	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にい・褐色	側面部外縁單脚 L R 縄文施文後格円状の沈継で区画 内面黒焦・炭化物付着	覆土中層	

第204号土坑（第72図）

位置 調査区中央部のD 7 c1 区、標高 24.2 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 径0.99mの円形で、深さは30cmである。底面はほぼ平坦で、壁はやや外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

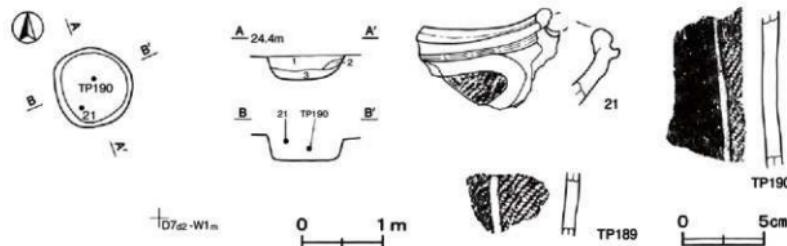
1 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

2 灰褐色 ロームブロック・炭化粒子微量

3 閑色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片31点(深鉢)が出土している。21・TP190は、覆土上層から中層にかけてそれぞれ出土している。TP189は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半(加曾利E式期)に比定できる。



第72図 第204号土坑・出土遺物実測図

第204号土坑出土遺物観察表(第72図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
21	繩文土器	深鉢	-	(6.2)	-	長石・石英・雲母	にい・黄褐色	普通	波頭部穿孔 口縁部に沿って沈線を巡らす 単脚 L.R繩文を構円状複数で区画	覆土上層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP189	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黃褐色	側部外面單腳L.R繩文施文後磨消溝垂文で区画	覆土中	
TP190	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にい・黄褐色	側部外面單腳L.R繩文施文後磨消溝垂文で区画	覆土中層	

第206号土坑(第73図)

位置 調査区西部のD 6g0区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長径11.0m、短径0.83mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。深さは42cm、底面は平坦で、壁面はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 灰褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量

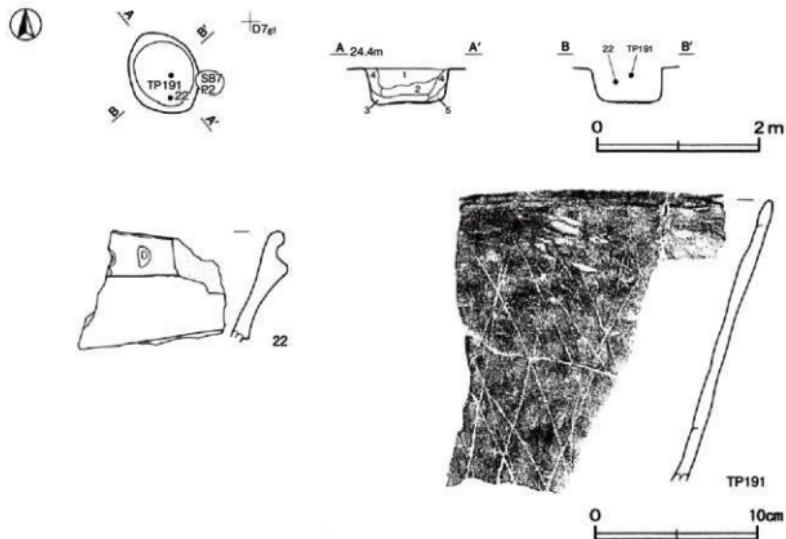
3 灰褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

4 灰褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

5 灰褐色 ロームブロック多量、炭化物少量、焼土粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片37点(深鉢)、礫1点が出土している。22・TP191は、覆土上層から中層にかけてそれぞれ出土している。その他は、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から後期前半(堀之内式期)に比定できる。



第73図 第206号土坑・出土遺物実測図

第206号土坑出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	口径	器高	底様	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
22	縄文土器	深鉢	-	(6.8)	-	長石・雲母	にぬき黄	普通	L1縁部面通斜刺突文施文 外・内面晒き 腹部 外面沈刻文を残す	覆土中層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP191	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細纖	にぶい黄	腹部外面斜格子目文施文 内面焼成方向の晒き	覆土上層	

第213号土坑（第74図）

位置 調査区西部のD 6e8区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第15号住居跡を掘り込み、第2号火葬土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第2号火葬土坑に掘り込まれているため、南北径0.76m、東西径0.72mしか確認できなかった。

残存している深さは62cmである。底面は階段状で、壁は外傾して立ち上がっている。

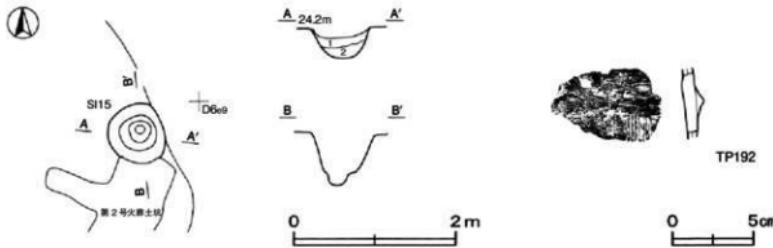
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 燃土ブロック中量、ロームブロック・炭化粒子少量 2 塗褐色 ロームブロック多量、燃土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）が出土している。TP192は覆土中から出土している。その他混入して弥生土器片1点（壺）が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第74図 第213号土坑・出土遺物実測図

第213号土坑出土遺物観察表（第74図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP192	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	褐灰	頭部外側隆起を這らす 以下彫痕状工具による複数の条線文を施文	覆土中	

第216号土坑（第75図）

位置 調査区中央部のD 7 b6区、標高23.4mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 径1.36mの円形で、深さは30cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

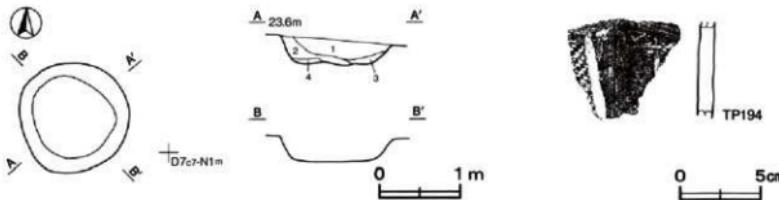
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|------------------|---|-----|-----------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 | 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化物微量 |

遺物出土状況 繩文土器2点（深鉢）が出土している。TP194は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第75図 第216号土坑・出土遺物実測図

第216号土坑出土遺物観察表（第75図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP194	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母・細礫	にぶい黄棕	頭部外面單面L.R繩文施文接觸消溝垂文で区画	覆土中	

第235号土坑（第76図）

位置 調査区中央部のD 7 h3区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.60mの円形で、深さは19cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

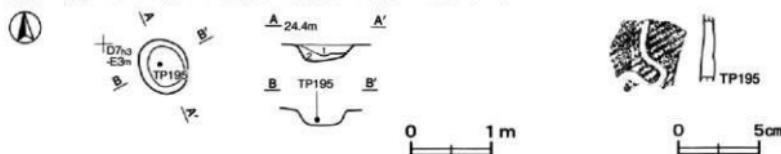
土層解説

1 薄 黄褐色 ロームブロック少量

2 厚 黄褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片2点(深鉢)が出土している。TP195は、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半(加曾利E式期)に比定できる。



第76図 第235号土坑・出土遺物実測図

第235号土坑出土遺物観察表(第76図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP195	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	胸部外腹単線LR縄文施文後底手状沈線文を施す	覆土下層	

第236号土坑(第77図)

位置 調査区西部のD7h4区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.73mの円形で、深さは30cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

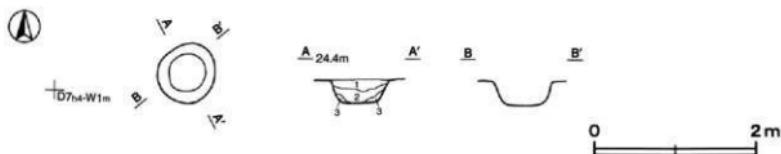
1 薄 黄褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 厚 黄褐色 ロームブロック中量

3 明 黄褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が出土しているが、細片のため図示できなかった。その他混入して弥生土器片1点(広口壺)が出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半(加曾利E式期)に比定できる。



第77図 第236号土坑実測図

第237号土坑(第78図)

位置 調査区中央部のD7g2区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.57mの円形で、深さは20cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

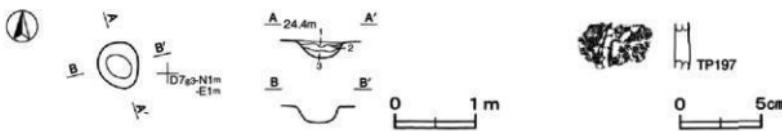
土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック多量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量

- 3 褐 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 繩文土器片5点(深鉢)が出土している。TP197は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前半(阿玉台式期)に比定できる。



第78図 第237号土坑・出土遺物実測図

第237号土坑出土遺物観察表 (第78図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP197	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	側部外縁部に沿って角押文を施す	覆土中	

第239号土坑 (79図)

位置 調査区中央部のD712区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.96m、短径0.77mの楕円形で、長径方向はN-38°-Wである。深さは12cm、底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

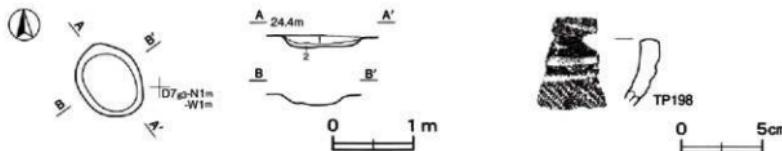
土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック少量

- 2 褐 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。TP198は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半(加曾利E式期)に比定できる。



第79図 第239号土坑・出土遺物実測図

第239号土坑出土遺物観察表 (第79図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP198	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぼい橙	口縁部外縁部に平行沈線文を施す 側部外縁部にR縄文施す	覆土中	

第242号土坑 (80図)

位置 調査区中央部のD7g1区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.76mの円形で、深さは20cmである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

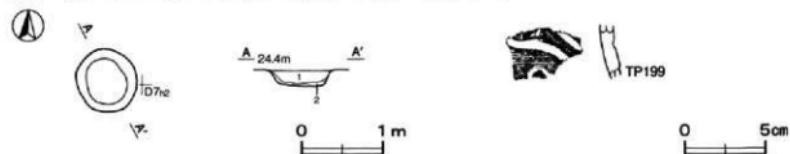
土層解説

1 埋 地 色 ロームブロック多量

2 埋 地 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 繩文土器片 1点（深鉢）、縄 1点が出土している。TP199は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利E式期）に比定できる。



第80図 第242号土坑・出土遺物実測図

第242号土坑出土遺物観察表（第80図）

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP199	縩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	胸部外面単錐LR縩文施文後梢円状沈線で区画	覆土中	

第245号土坑（第81図）

位置 調査区西部のD7g1区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.75m、短径0.63mの梢円形で、長径方向はN-17°-Wである。深さは38cmで、底面はほぼU字型で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

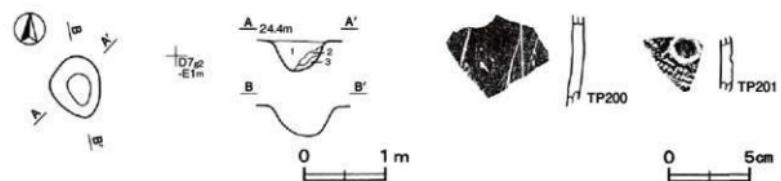
1 埋 地 色 ロームブロック少量

3 明 地 色 ロームブロック多量

2 埋 地 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縩文土器片6点（深鉢）が出土している。TP200・201は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半（樅之内式期）に比定できる。



第81図 第245号土坑・出土遺物実測図

第245号土坑出土遺物観察表（第81図）

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP200	縩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄緑	胸部外面単錐SC縩文施文	覆土中	
TP201	縩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄	胸部外面単錐RL縩文を施文後剣突文施文	覆土中	

第248号土坑（第82図）

位置 調査区西部のD7h2区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.47m、短径0.40mの梢円形で、長径方向はN-40°-Wである。深さは10cm、底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

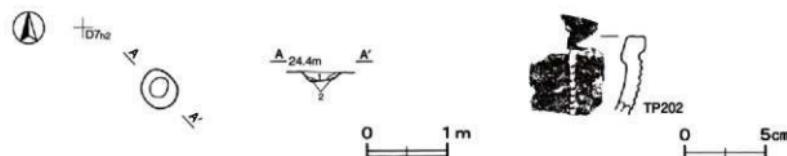
土層解説

1 級 暗 色 ロームブロック多量

2 明 暗 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 繩文土器片1点（深鉢）が出土している。TP202は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から中期前半（阿玉台式期）に比定できる。



第82図 第248号土坑・出土遺物実測図

第248号土坑出土遺物観察表（第82図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴は	出土位置	備考
TP202	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい暗	口縁部に沿って角押文施文・胴部外面部に角押文施文	覆土中	

第253号土坑（第83図）

位置 調査区西部のD7g1区、標高24.3mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.96m、短径0.79mの不定形で、長径方向はN-65°-Wである。深さは30cm、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 暗 色 ロームブロック少量

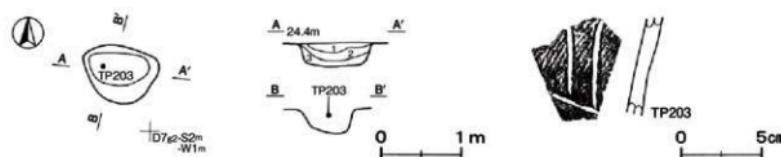
2 暗 色 ロームブロック中量

3 明 暗 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）、環1点が出土している。混入して土師器片1点（壺）が出土している。

TP203は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭（称名寺I式期）に比定できる。



第83図 第253号土坑・出土遺物実測図

第253号土坑出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP203	繩文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	胴部外面單面LR繩文施文後沈線文で区画	覆土中層	

第260号土坑（第84図）

位置 調査区中央部のD7b4区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第13号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.15mの不整円形で、深さは60cmである。底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

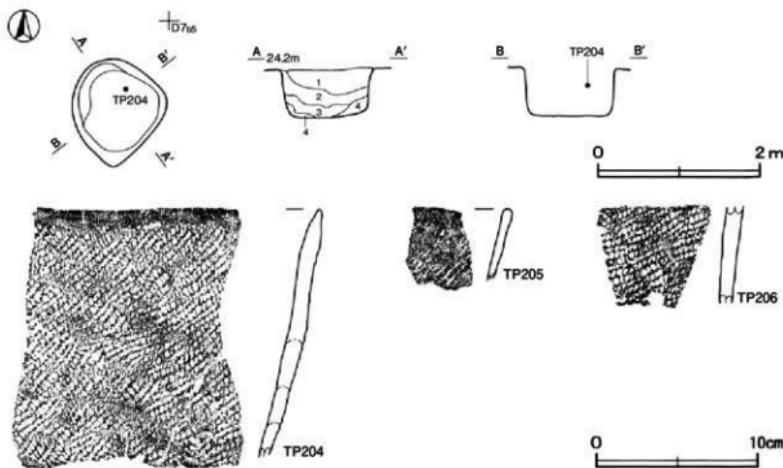
土層解説

1 層	褐	色	ロームブロック多量、燒土粒子少量	3 層	褐	色	ロームブロック多量、燒土粒子少量
2 層	褐	色	ロームブロック中量、燒土粒子少量	4 層	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 繩文土器片10点（深鉢）が出土している。混入して土師器片2点（甕）が出土している。

TP204は覆土中層から、TP205・206は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半（縄之内式期）に比定できる。



第84図 第260号土坑・出土遺物実測図

第260号土坑出土遺物観察表（第84図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP204	繩文土器	深鉢	長石・石英	褐	粗製土器 脇部外面單面LR繩文施文	覆土中層	
TP203	繩文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	粗製土器 脇部外面Lの捲糸文施文	覆土中	
TP206	繩文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	粗製土器 脇部外面單面LR繩文施文	覆土中	

第263号土坑（第85図）

位置 調査区中央部のD7b4区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径 0.75 m の円形で、深さは 32 cm である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

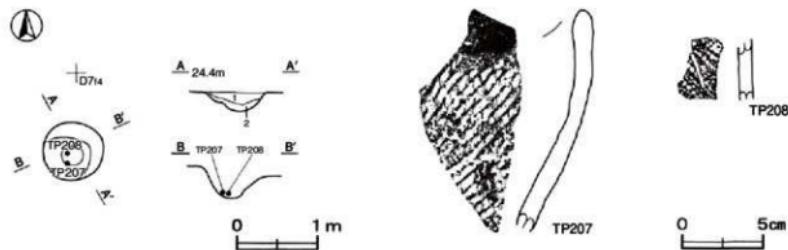
覆土 2 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 帽 紺 色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量 2 岩 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 繩文土器片 6 点（深鉢）が出土している。TP207・208 は、覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半（加曾利 E 式期）に比定できる。



第85図 第263号土坑・出土遺物実測図

第 263 号土坑出土遺物観察表（第 85 図）

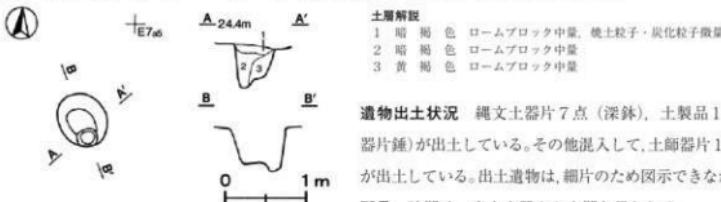
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP207	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	波状 L 形縁 脚部外腹単辯 L R 縄文施文	覆土下層	
TP208	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	脚部外腹単辯 L R 縄文施文後懸垂文施文	覆土下層	

第 288 号土坑（第 86 図）

位置 調査区南西部の E 7 a4 区、標高 24.2 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 0.69 m、短径 0.58 m の楕円形で、長径方向は N - 38° - W である。深さは 43 ~ 50 cm で、底面は段階状で、壁は直立している。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。



遺物出土状況 縄文土器片 7 点（深鉢）、土製品 1 点（土器片錐）が出土している。その他混入して、土師器片 1 点（甌）が出土している。出土遺物は、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中期と思われる。

第86図 第288号土坑実測図

第 298 号土坑（第 87 図）

位置 調査区南西部の D 7 j4 区、標高 24.2 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.82 m、短径 1.65 m の楕円形で、長径方向は N - 6° - W である。深さは 27 cm、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

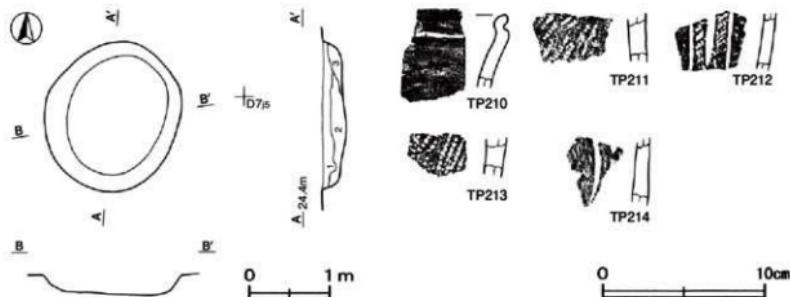
土層解説

- 1 細 暗 色 ロームブロック少量
2 暗 色 ロームブロック多量

- 3 細 暗 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 繩文土器片7点(浅鉢1、深鉢6)が出土している。TP210~214は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期初頭(称名寺II式期)に比定できる。



第87図 第298号土坑・出土遺物実測図

第298号土坑出土遺物観察表(第87図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP210	繩文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	口縁部外面沈線を這らす 外・内面横方向の削き	覆土中	
TP211	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	胴部外面単道L R繩文施文	覆土中	
TP212	繩文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	胴部外面単道L R繩文施文後腰消済垂輪文施文	覆土中	
TP213	繩文土器	深鉢	長石・石英	灰黄	胴部外面単道L R繩文施文	覆土中	
TP214	繩文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	胴部外面沈線で列点文充填	覆土中	

第303号土坑(第88・89図)

位置 調査区南西部のD7 b4 K、標高242m台地平坦部に位置している。

重複関係 第304号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.24mの円形で、深さは48cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

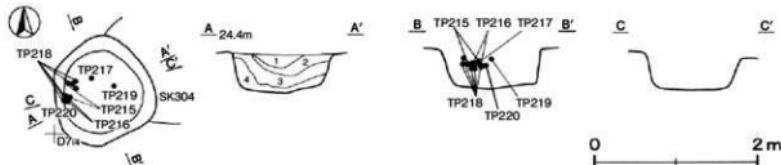
土層解説

- 1 細 暗 色 ロームブロック少量
2 暗 色 ロームブロック中量

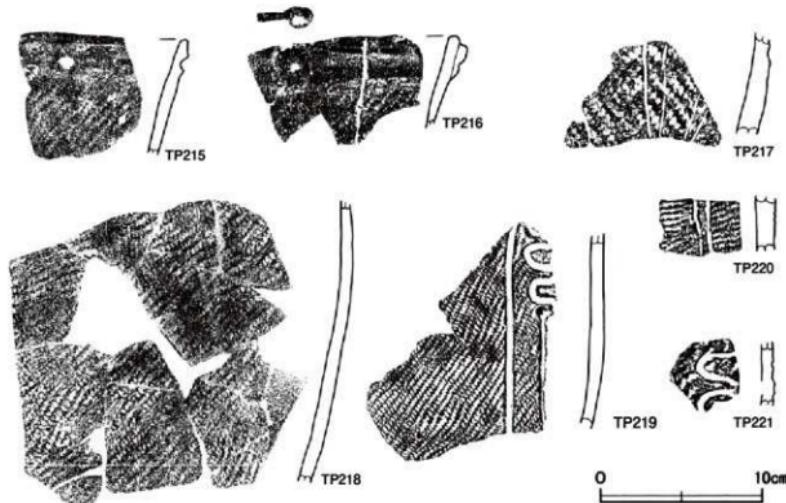
- 3 細 暗 色 ロームブロック中量
4 暗 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 繩文土器片40点(深鉢)が出土している。TP215~220は覆土上層から中層にかけて出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半(楕之内式期)に比定できる。



第88図 第303号土坑実測図



第89図 第303号土坑出土遺物実測図

第303号土坑出土遺物観察表（第89図）

番号	種別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP215	繩文土器	深鉢	長石・石英	黄褐色	口縁部下に刺突文を施文・胴部外面單鋸L.R消溝繩文施文	覆土中層	
TP216	繩文土器	深鉢	長石・石英	黄褐色	口縁部ボタン状の貼付文施文・胴部外面單鋸L.R消溝繩文施文	覆土中層	
TP217	繩文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	胴部外面單鋸L.R繩文施文後懸垂文施文	覆土中層	
TP218	繩文土器	深鉢	長石・石英	黄褐色	粗製土器・胴部外面單鋸L.R繩文施文後懸垂文施文	覆土中層	
TP219	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい褐色	胴部外面單鋸L.R繩文施文後懸垂文施文	PL38	
TP220	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐	胴部外面單鋸L.R繩文施文後消溝垂文施文	覆土中層	
TP221	繩文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	胴部外面消溝文施文後懸垂手状の懸垂文施文	覆土中	

第315号土坑（第90図）

位置 調査区南西部のD7g4区、標高24mの台地平坦部に位置している。

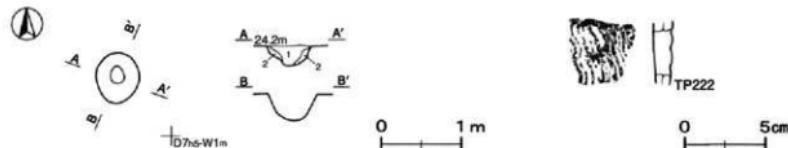
規模と形状 径0.60mのほぼ円形で、深さは33cmである。底面はU字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 級 黄褐色 ロームブロック中量

2 級 黄褐色 ロームブロック多量



第90図 第315号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 繩文土器片 1 点（深鉢）が出土している。TP222 は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半（諸磯式期）に比定できる。

第 315 号土坑出土遺物観察表（第 90 図）

番号	種 別	器種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
TP222	縄文土器	深鉢	長石・石英・磁鐵	にぶい黄橙	胴部外表面齒状工具による波状沈線文施文	覆土中	

第 363 号土坑（第 91 図）

位置 調査区南西部の D7 h5 区、標高 242 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 361 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第 361 号土坑に掘り込まれているため、東西径 1.10 m、南北径 0.78 m しか確認できなかった。深さは 36cm である。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

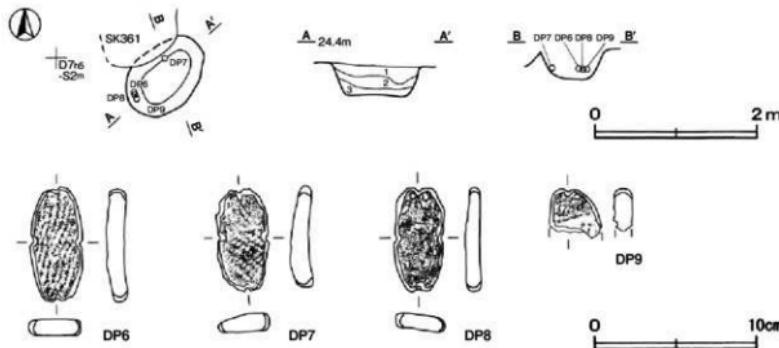
土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック少量
2	褐	色	色	ロームブロック多量

3	暗	褐	色	ロームブロック中量
---	---	---	---	-----------

遺物出土状況 縄文土器片 2 点（深鉢）、土製品 4 点（土器片鉢）、縄 1 点が出土している。DP 6～9 は、覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物から中期に比定できる。



第91図 第363号土坑・出土遺物実測図

第 363 号土坑出土遺物観察表（第 91 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特 質	出土位置	備 考
DP 6	土器片鉢	7.0	3.3	1.3	34.7	長石・石英・ 岩母	4か所に縄掛けの刻み 側面研磨 単鋸 R L 縄文	覆土中層	PL38
DP 7	土器片鉢	6.3	3.3	1.3	26.7	長石・石英・ 岩母	4か所に縄掛けの刻み 側面研磨 単鋸 L R 縄文 唇消文	覆土中層	PL38
DP 8	土器片鉢	6.4	3.1	1.0	26.4	長石・石英・ 岩母	4か所に縄掛けの刻み 側面研磨 単鋸 R L 縄文 唇消文	覆土中層	PL38
DP 9	土器片鉢	(2.9)	3.2	1.2	(12.2)	長石・ 岩母	1か所に縄掛けの刻み残存 R縄文 沈線文	覆土中層	PL38

第 411 号土坑（第 92 図）

位置 調査区南西部の D7 h6 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 21 号住居に掘り込まれている。

規模と形状 第21号住居に掘り込まれているため、東西径1.62m、南北径1.43mしか確認できなかった。深さは72cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

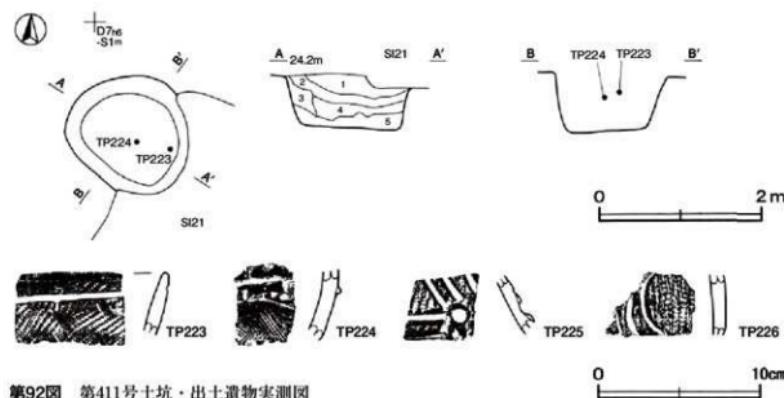
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化物微量	4 暗褐色 ロームブロック多量
2 黒褐色 ロームブロック多量	5 褐色 ロームブロック中量
3 青褐色 ロームブロック多量	

遺物出土状況 繩文土器片101点(深鉢)が出土している。混入して弥生土器片2点(広口壺)、土師器片8点(甕)が出土している。TP223・224は、覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半(堀之内式期)に比定できる。



第92図 第411号土坑・出土遺物実測図

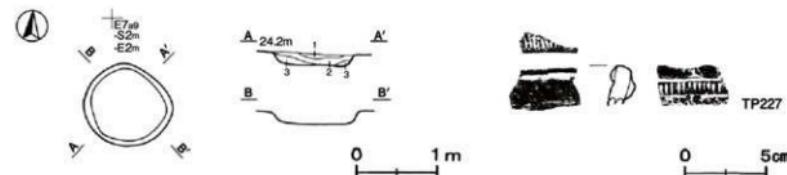
第411号土坑出土遺物観察表(第92図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP223	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	灰黄褐色	L1縁部外側横幅の沈漫文を盛らす。胴部外側單筋L.R繩文施文。	覆土中層	
TP224	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	褐灰	胴部外側横幅を盛らす。胴部外側横縞状工具による沈漫文施文。	覆土中層	
TP225	繩文土器	広口壺	長石・石英・雲母	にいし黄褐色	胴部外側单筋L.R繩文施文後沈漫による区画文で充填。ボタン状の貼付文施文。	覆土中	
TP226	繩文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐色	胴部外側单筋L.R繩文施文後弧状沈漫による区画文まで充填。	覆土中	

第538号土坑(第93図)

位置 調査区南東部のE7a9-E2n区。標高24mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径1.07mの円形で、深さは16cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。



第93図 第538号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|----------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 繩文土器片3点(深鉢)が出土している。TP227は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半(堀之内式期)に比定できる。

第538号土坑出土遺物観察表(第93図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP227	縄文土器	深鉢	長石・石英・小礫	にぶい褐色	口唇部刷み目を施す。口縁部外側隆起を造らず。内面陰面に沿った平行な線間に刷み目を施す。	覆土中	

第551号土坑(第94図)

位置 調査区南東部のD812区、標高227mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.88m、短径0.75mの楕円形で、長径方向はN-40°-Eである。深さは29cm、底面は平坦で、壁面は外傾して立ち上がりっている。

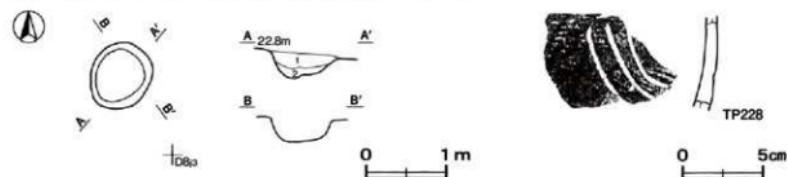
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 2 暗褐色 ロームブロック多量 |
|-----------------|-----------------|

遺物出土状況 繩文土器片4点(深鉢)が出土している。TP228は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半(堀之内式期)に比定できる。



第94図 第551号土坑・出土遺物実測図

第551号土坑出土遺物観察表(第94図)

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP228	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	胸部外側単路R.L.帯消滅文施文後沈繩文で区画	覆土中	

その他の土坑(第95~112図)

第3号土坑土層解説

- | | |
|-----------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック少量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 4 暗褐色 ローム粒子多量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック中量 | |

第4号土坑土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 3 黄褐色 ロームブロック中量 | |

第6号土坑土層解説

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子中量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | 4 暗褐色 ローム粒子多量 |

第9号土坑土層解説

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 3 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量 | |

第 16 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 灰化物・ローム粒子・燒土粒子微量
2 暗 色 ロームブロック中量
3 暗 色 ロームブロック少量、灰化粒子微量
4 暗 色 ローム粒子中量

第 17 号土坑土層解説

- 1 暗 暗 色 ロームブロック少量、灰化粒子微量
2 暗 色 ロームブロック中量

第 18 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ロームブロック中量
2 短 暗 色 ロームブロック少量
3 暗 色 ロームブロック中量
4 暗 色 ロームブロック微量
5 暗 色 ロームブロック少量

第 19 号土坑土層解説

- 1 暗 色 ロームブロック・灰化粒子少量
2 暗 色 ローム粒子少量

第 21 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ロームブロック・灰化粒子微量
2 短 暗 暗 色 ローム粒子少量、灰化粒子微量
3 暗 暗 暗 色 ロームブロック少量、灰化粒子微量
4 暗 暗 色 ロームブロック中量、灰化粒子微量
5 暗 暗 色 ロームブロック中量、灰化粒子微量
6 暗 色 ロームブロック多量、灰化粒子微量

第 22 号土坑土層解説

- 1 暗 色 ロームブロック・灰化物少量
2 短 暗 暗 色 ロームブロック少量、灰化物微量
3 暗 色 ロームブロック少量、灰化物微量

第 23 号土坑土層解説

- 1 暗 色 ロームブロック・灰化粒子微量
2 暗 暗 暗 色 ローム粒子少量、灰化粒子微量

第 30 号土坑土層解説

- 1 暗 色 ロームブロック少量、灰化粒子微量
2 暗 暗 暗 色 ローム粒子少量、灰化粒子微量
3 暗 暗 色 ローム粒子少量、灰化粒子微量

第 31 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ローム粒子・燒土粒子・灰化粒子微量
2 短 暗 色 ローム粒子・灰化粒子微量
3 短 暗 色 ロームブロック中量、灰化粒子微量

第 33 号土坑土層解説

- 1 暗 色 ロームブロック少量
2 短 暗 暗 色 ロームブロック少量、灰化粒子微量
3 短 暗 色 ロームブロック中量
4 短 暗 色 ロームブロック中量、灰化粒子微量
5 暗 色 ロームブロック多量

第 36 号土坑土層解説

- 1 暗 色 ロームブロック中量
2 短 暗 色 ロームブロック微量
3 暗 色 ロームブロック多量

第 38 号土坑土層解説

- 1 暗 色 ロームブロック中量、灰化粒子微量
2 暗 色 ロームブロック中量
3 暗 色 ロームブロック多量
4 暗 色 ロームブロック多量、灰化粒子微量

第 39 号土坑土層解説

- 1 黑 暗 色 ロームブロック・灰化粒子微量
2 黑 暗 色 ロームブロック中量

第 41 号土坑土層解説

- 1 暗 色 ロームブロック・灰化物・燒土粒子少量
2 暗 色 ローム粒子多量
3 暗 色 ロームブロック中量

第 42 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ロームブロック少量
2 暗 色 ロームブロック少量
3 暗 色 ロームブロック中量、灰化粒子微量
4 暗 色 ロームブロック多量

第 43 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ロームブロック少量、燒土粒子・灰化粒子微量
2 短 暗 色 ローム粒子少量、燒土粒子・灰化粒子微量
3 暗 色 ロームブロック中量

第 47 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ロームブロック少量、燒土粒子・灰化粒子微量
2 短 暗 色 ローム粒子少量、燒土粒子・灰化粒子微量
3 暗 色 ロームブロック中量

第 48 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ローム粒子少量
2 短 暗 色 ロームブロック中量、灰化粒子微量

第 49 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ロームブロック少量
2 短 暗 色 ローム粒子少量
3 暗 色 ローム粒子中量
4 暗 色 ロームブロック中量
5 暗 色 ロームブロック多量

第 54 号土坑土層解説

- 1 暗 色 ロームブロック中量
2 短 暗 色 ロームブロック少量
3 暗 色 ローム粒子中量

第 57 号土坑土層解説

- 1 黑 暗 色 ロームブロック・灰化粒子微量
2 暗 色 ロームブロック多量

第 69 号土坑土層解説

- 1 黑 暗 色 ロームブロック・灰化粒子微量
2 短 暗 色 ロームブロック少量、灰化粒子微量
3 短 暗 色 ロームブロック中量、灰化粒子微量
4 暗 色 ロームブロック少量

第 70 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ロームブロック少量、灰化粒子微量
2 短 暗 色 ロームブロック中量、灰化粒子微量

第 72 号土坑土層解説

- 1 黑 暗 色 ローム粒子中量、灰化粒子微量
2 短 暗 色 ロームブロック少量

第 76 号土坑土層解説

- 1 黑 暗 色 ロームブロック中量
2 短 暗 色 ロームブロック中量
3 暗 色 ロームブロック多量
4 暗 色 ロームブロック多量、灰化粒子微量

第 81 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ロームブロック・灰化物微量
2 黑 暗 色 ローム粒子・灰化粒子微量

第 82 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ロームブロック少量、灰化粒子微量
2 短 暗 色 ロームブロック少量
3 暗 色 ロームブロック中量
4 黑 暗 色 ロームブロック少量

第 85 号土坑土層解説

- 1 短 暗 色 ロームブロック・灰化物微量
2 暗 色 ロームブロック多量
3 暗 色 ロームブロック中量

- 第 286 号土坑土層解説**
1 黒 暗褐色 ロームブロック中量
2 閑 色 ロームブロック多量

第 287 号土坑土層解説
1 黒 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 閑 色 ロームブロック多量
3 明褐色 ロームブロック多量

第 288 号土坑土層解説
1 黒 暗褐色 ローム粒子少量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 閑 色 ロームブロック多量

第 290 号土坑土層解説
1 暗褐色 ローム粒子少量
2 明褐色 ロームブロック多量

第 291 号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック多量

第 292 号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 293 号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック多量
2 黄褐色 ロームブロック中量

第 294 号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック中量
2 黄褐色 ロームブロック多量

第 295 号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量
2 黄褐色 ロームブロック中量

第 296 号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量
2 黑褐色 ロームブロック中量
3 暗褐色 ロームブロック中量

第 297 号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量
2 黑褐色 ロームブロック少量

第 299 号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 ロームブロック多量
3 黑褐色 ロームブロック中量
4 暗褐色 ロームブロック中量
5 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 300 号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック多量

第 301 号土坑土層解説
1 黑褐色 ローム粒子微量
2 黑褐色 ローム粒子少量

第 302 号土坑土層解説
1 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
4 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
5 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 304 号土坑土層解説
1 暗褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量

第 305 号土坑土層解説
1 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

- 第 306 号 土坑土屑解説**
1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第 307 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 褐 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第 308 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック少量
2 褐 褐 色 ロームブロック中量

第 309 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック少量
2 褐 褐 色 ロームブロック中量

第 311 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック多量
2 褐 褐 色 ロームブロック少量
3 褐 褐 色 ロームブロック中量

第 312 号 土坑土屑解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第 313 号 土坑土屑解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黑 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第 314 号 土坑土屑解説
1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黑 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 黑 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 316 号 土坑土屑解説
1 黑 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黑 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 317 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック少量
2 褐 褐 色 ロームブロック中量

第 318 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック少量
2 褐 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 319 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック少量
2 褐 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 320 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量
2 褐 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子少量

第 321 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック・焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 褐 褐 色 ロームブロック多量

第 322 号 土坑土屑解説
1 黑 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黑 褐 色 ロームブロック多量

第 323 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック中量、炭化物・焼土粒子微量
2 黑 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第 325 号 土坑土屑解説
1 褐 褐 色 ロームブロック中量
2 褐 褐 色 ロームブロック多量

第 540 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 541 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 544 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 545 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 546 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 547 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 548 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 549 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 褐色 ロームブロック多量

第 550 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 552 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 553 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 554 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量
- 3 褐色 ロームブロック多量

第 556 号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 557 号土坑土層解説

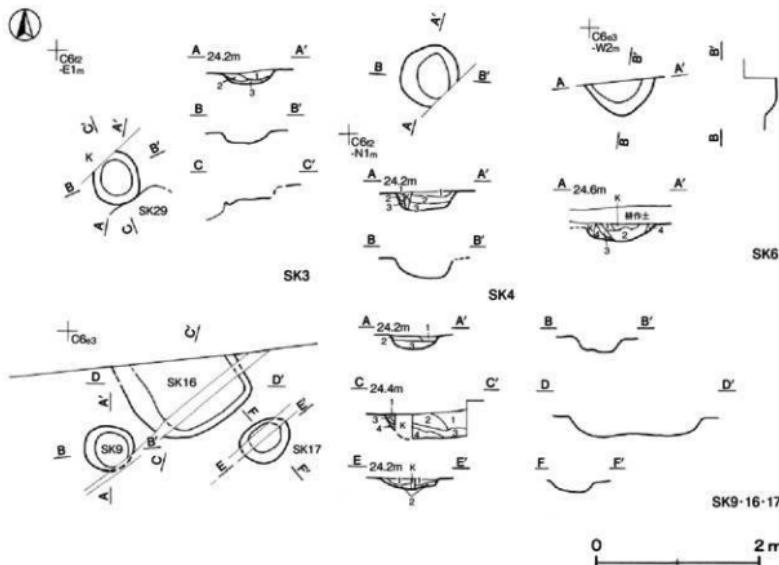
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量

第 558 号土坑土層解説

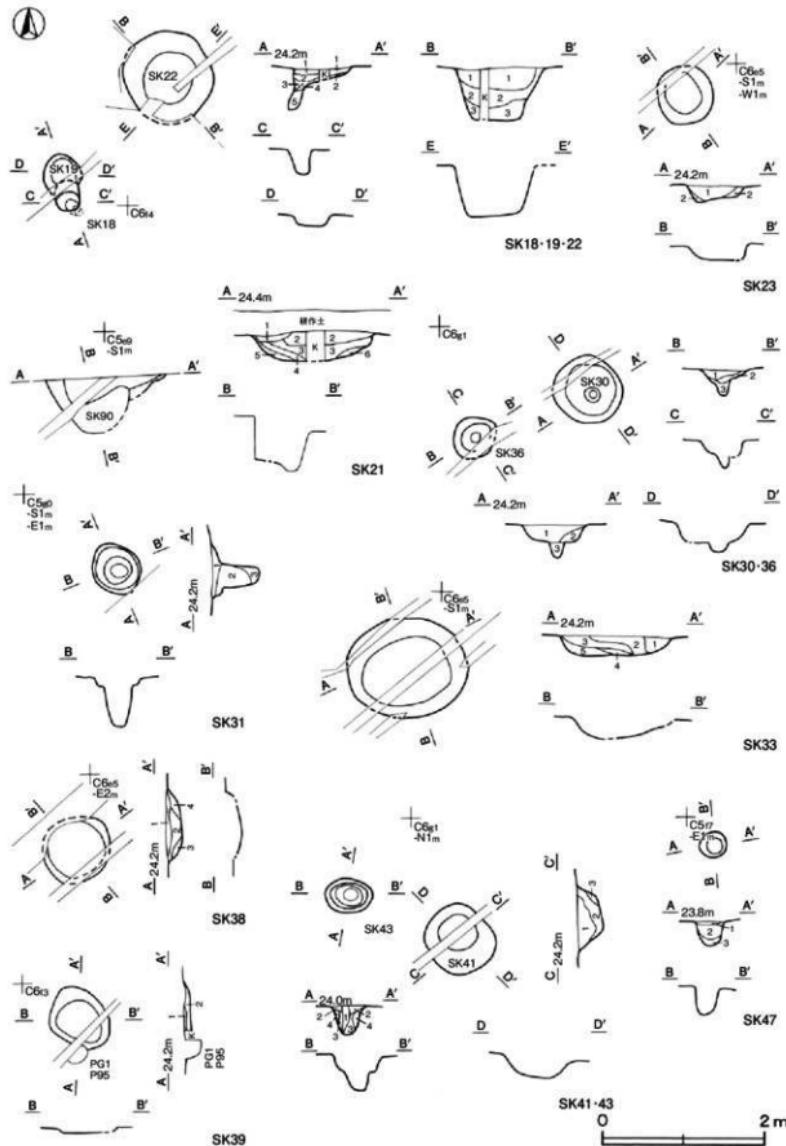
- 1 黑褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 2 黑褐色 ロームブロック多量

第 582 号土坑土層解説

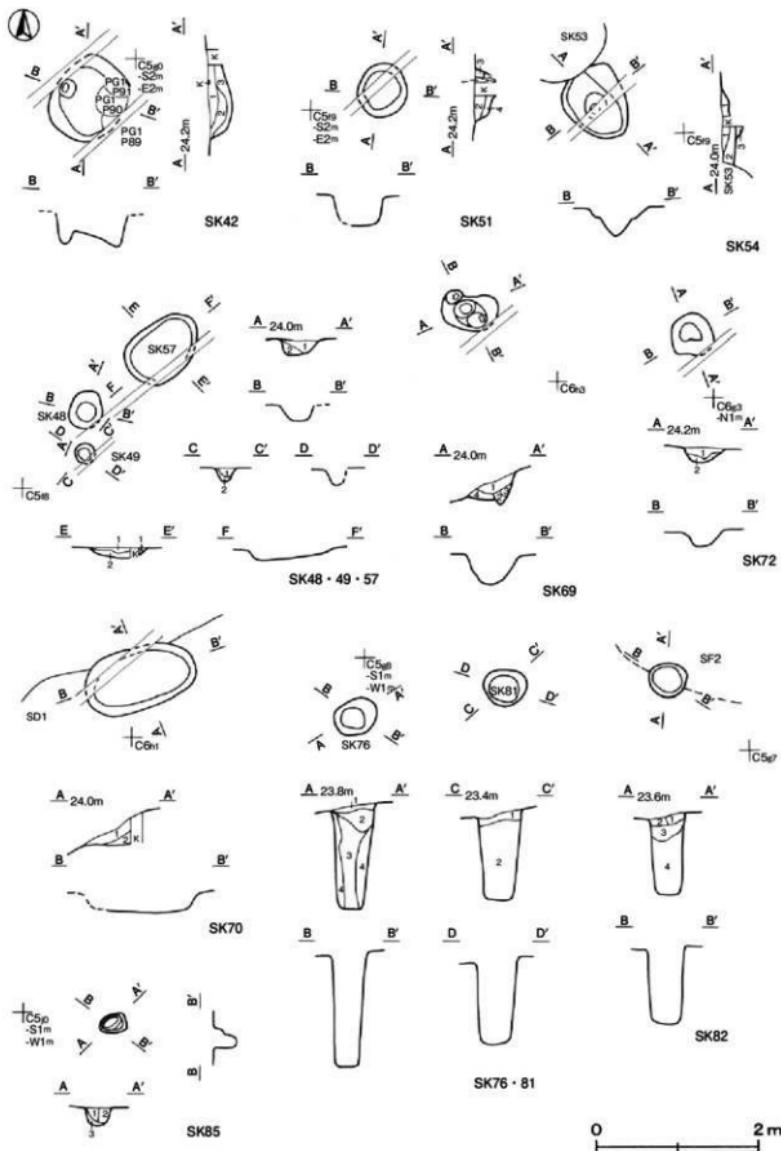
- 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量
- 4 暗褐色 ロームブロック多量



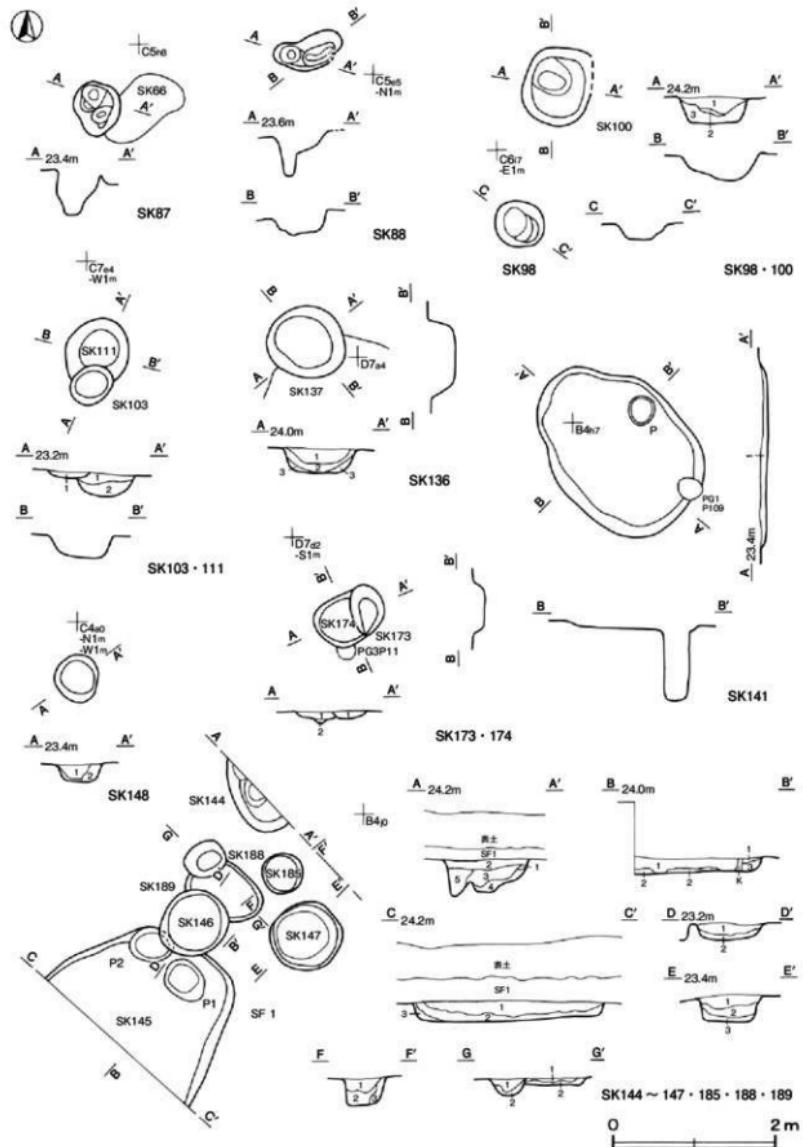
第95図 その他の土坑実測図（1）



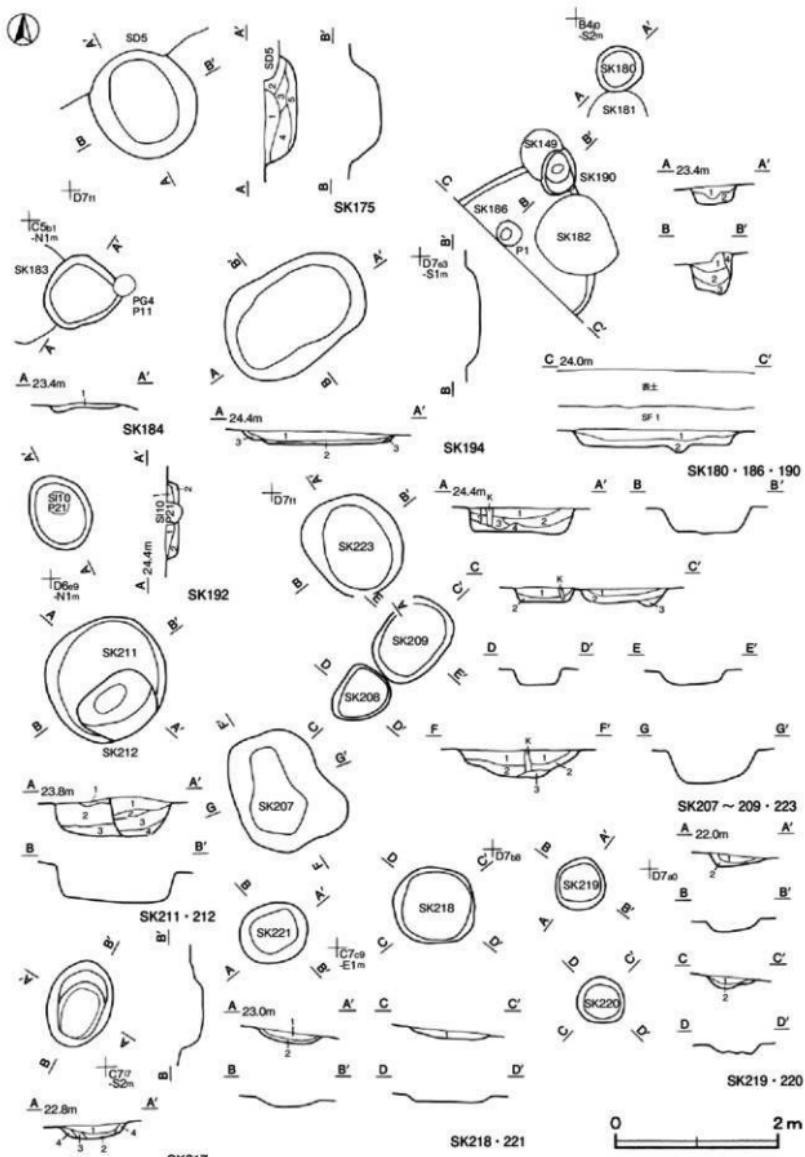
第96図 その他の土坑実測図（2）



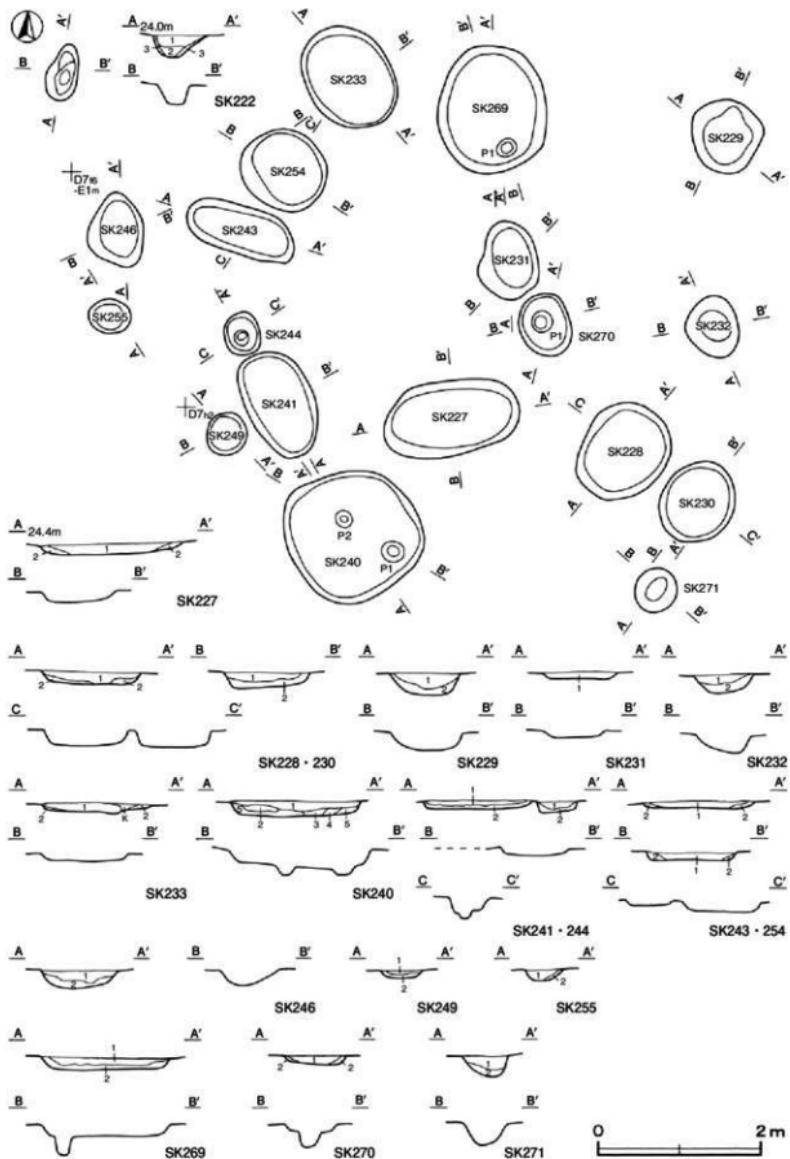
第97図 その他の土坑実測図（3）



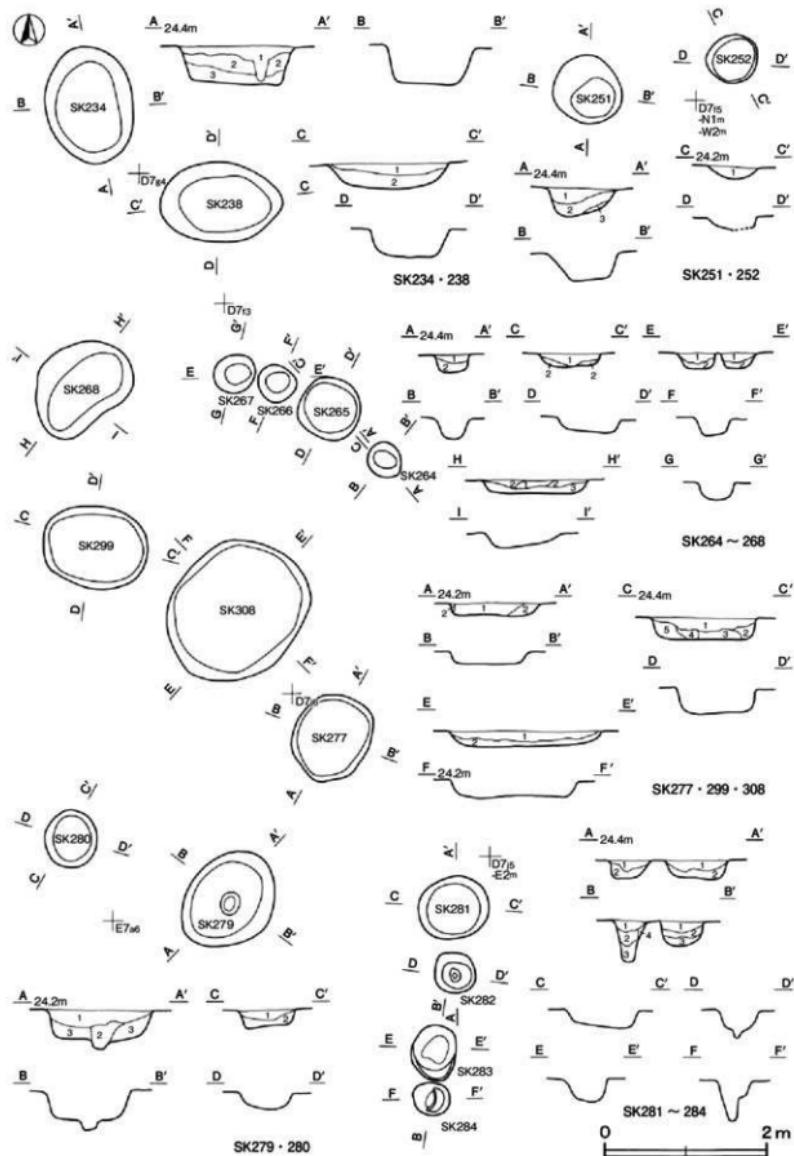
第98図 その他の土坑実測図 (4)



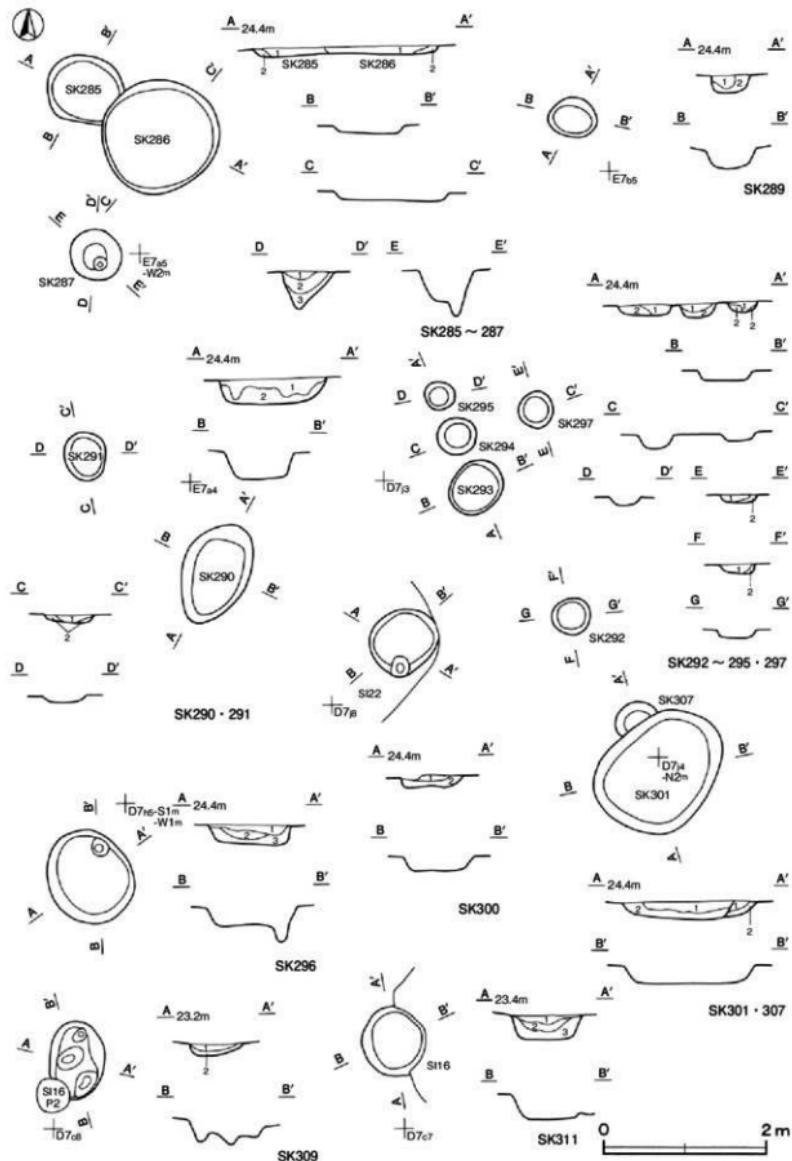
SK217



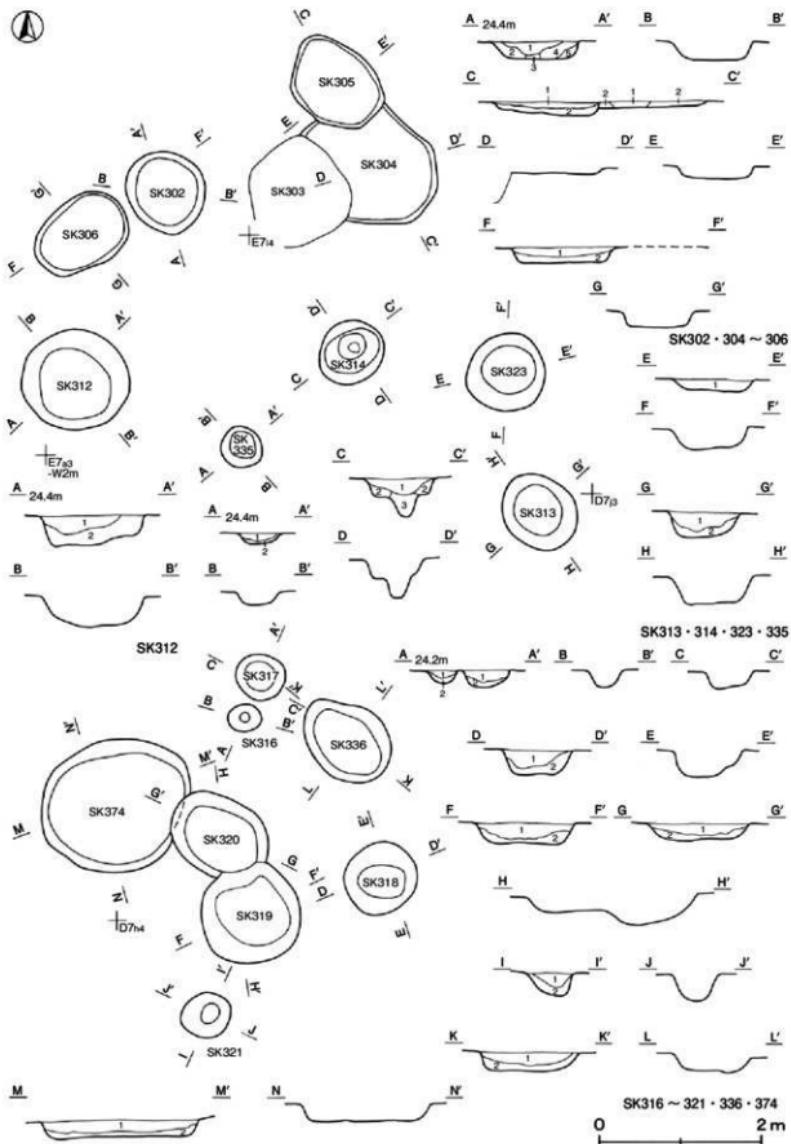
第100図 その他の土坑実測図 (6)



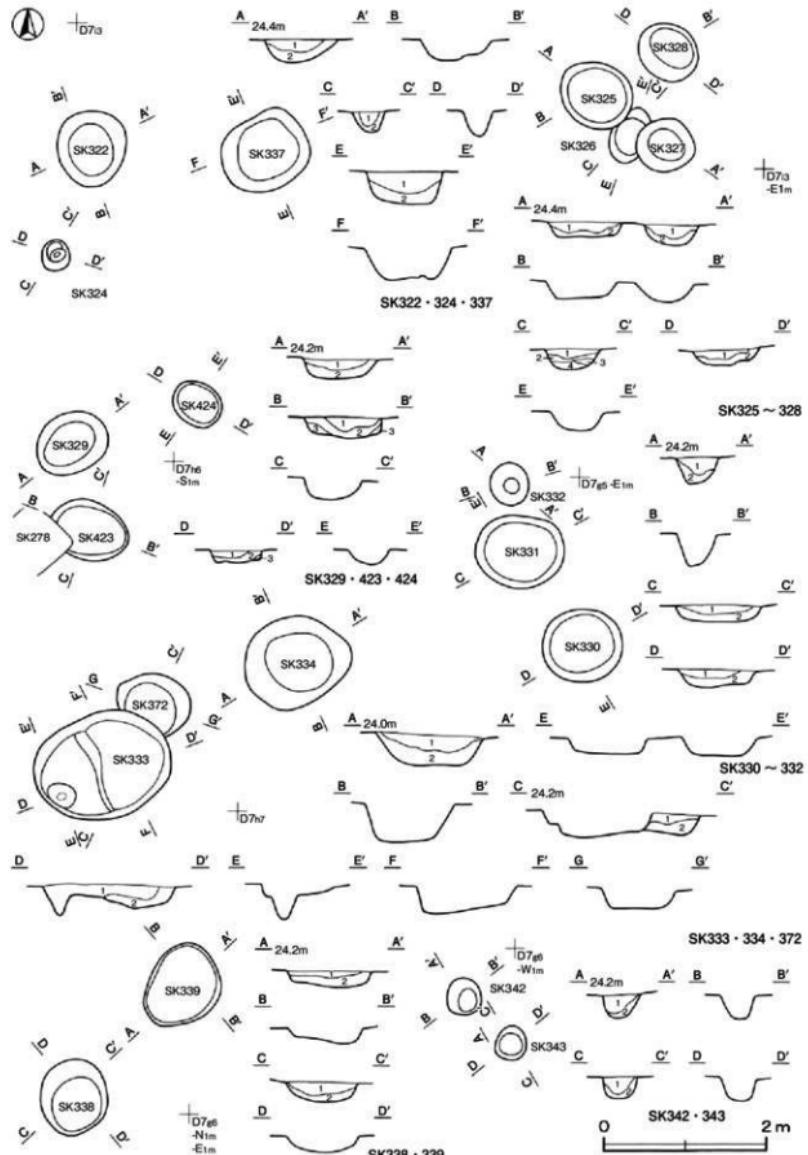
第101図 その他の土坑実測図 (7)



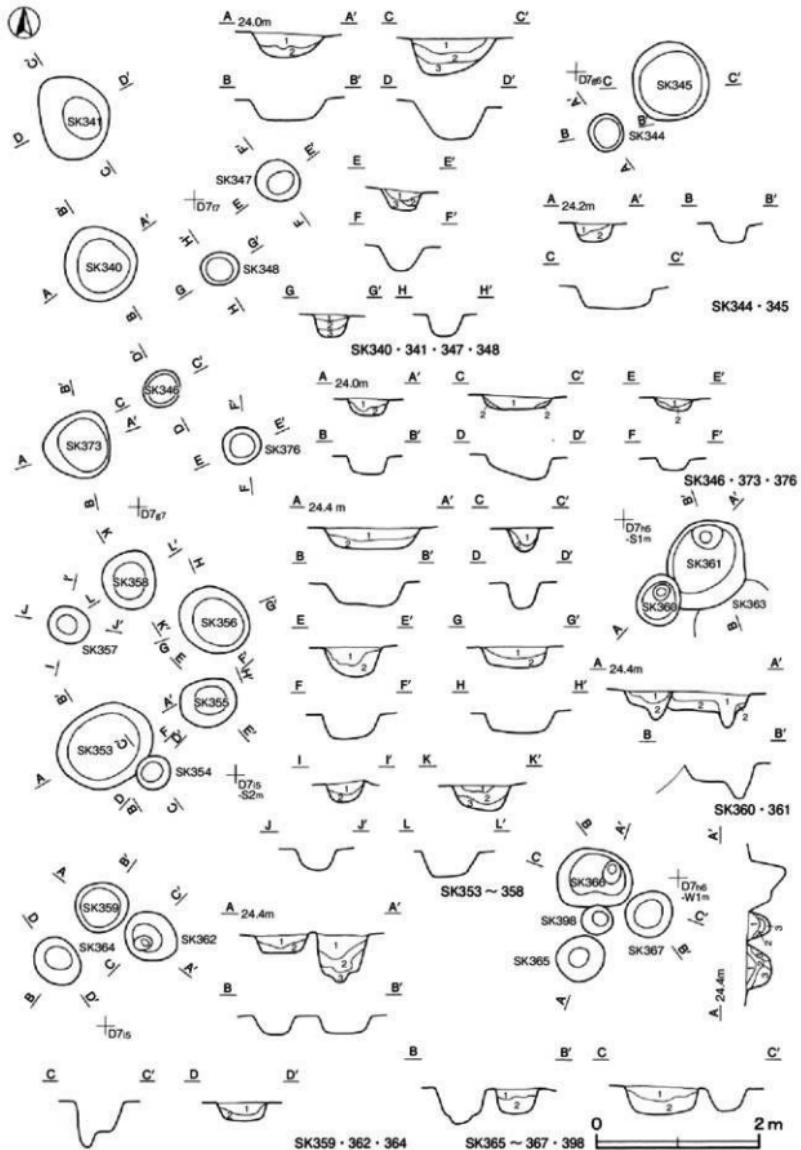
第102図 その他の土坑実測図 (8)



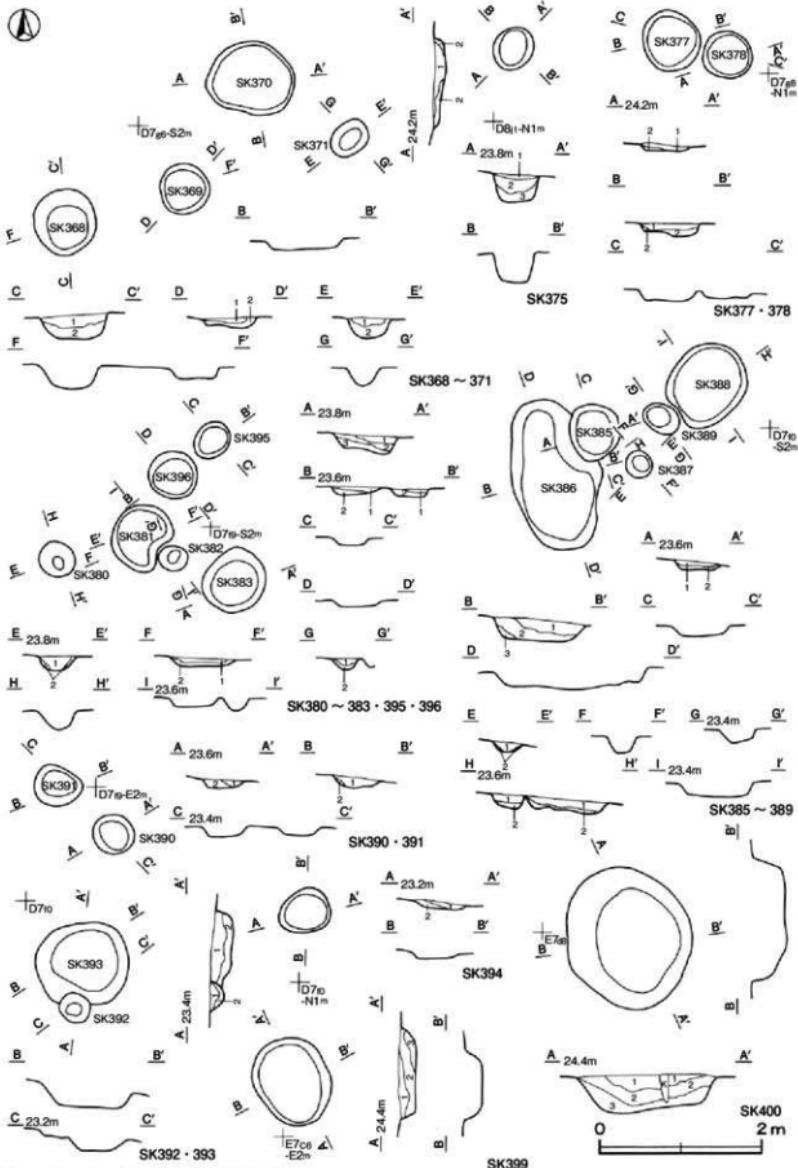
第103図 その他の土坑実測図（9）



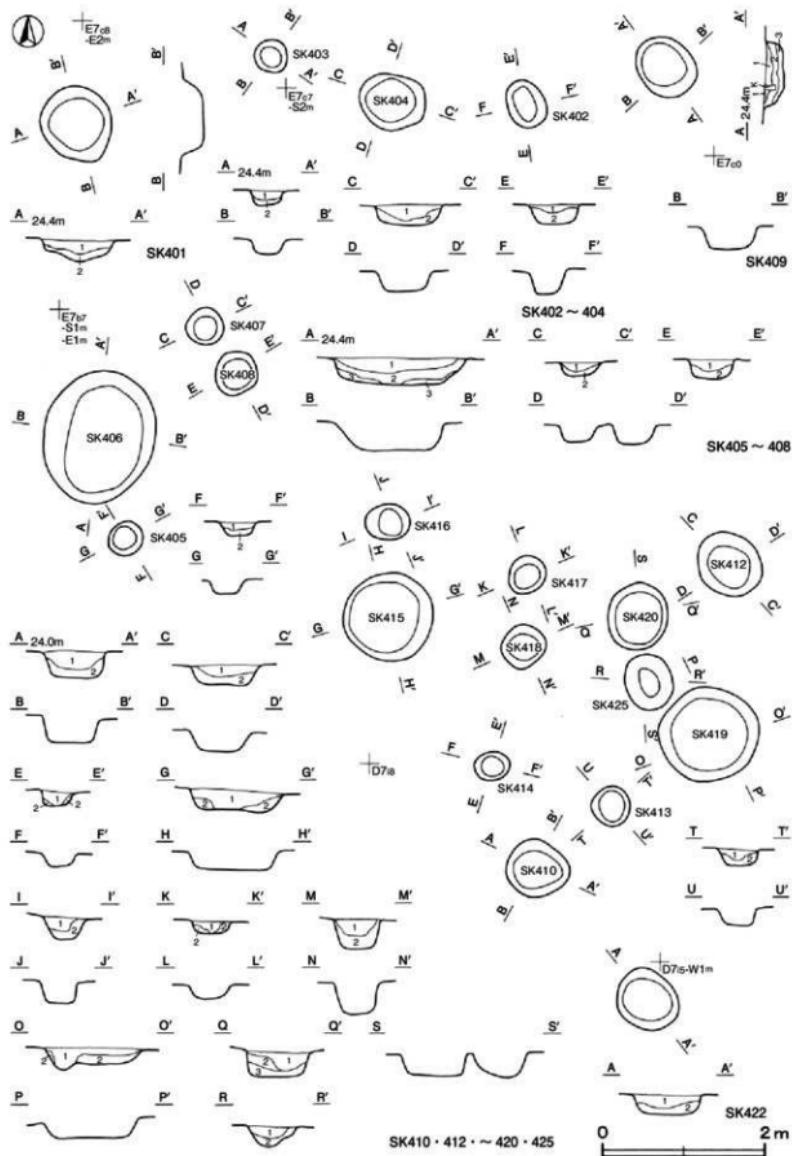
第104図 その他の土坑実測図 (10)



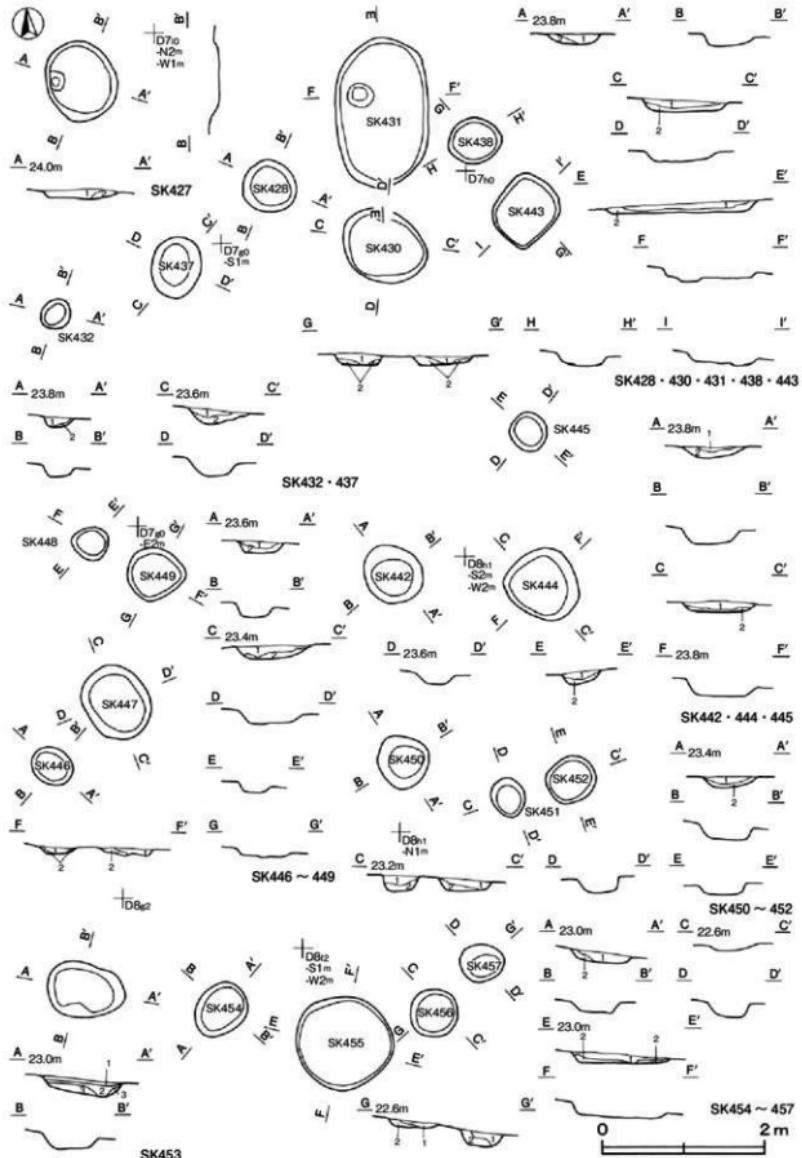
第105図 その他の土坑実測図 (11)



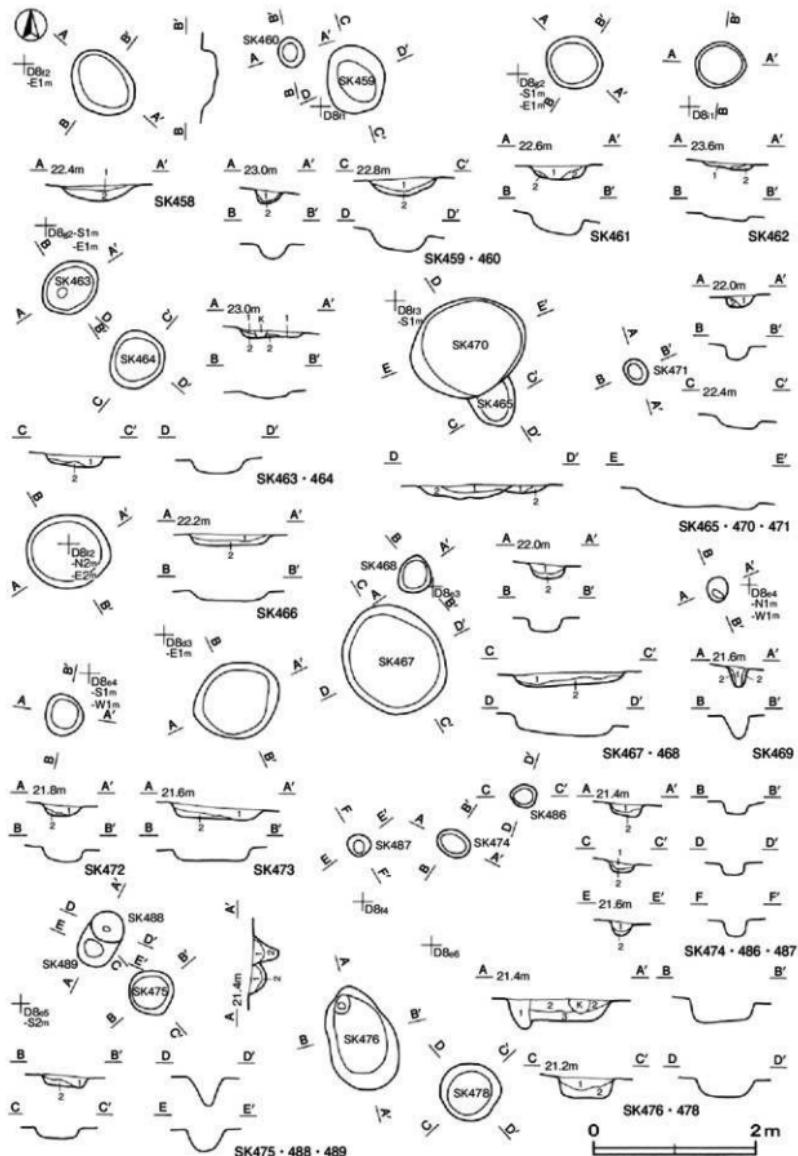
第106図 その他の土坑実測図(12)



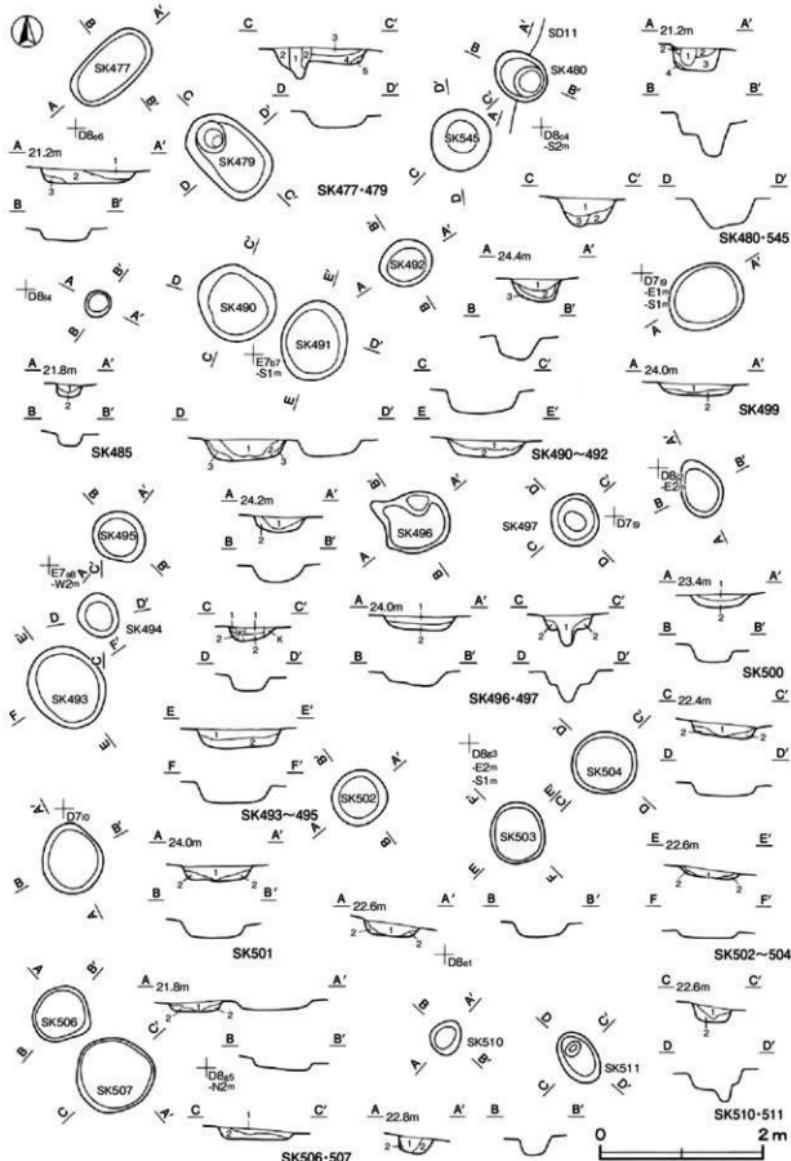
第107図 その他の土坑実測図 (13)



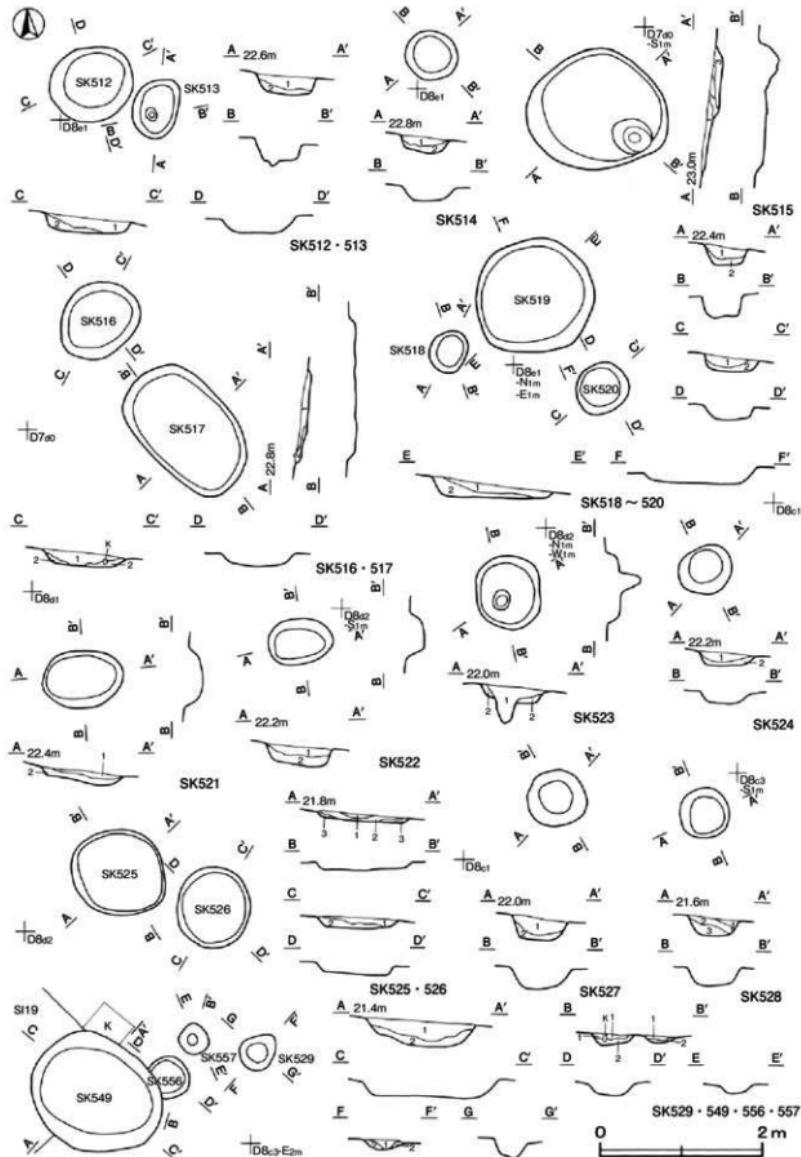
第108図 その他の土坑実測図 (14)



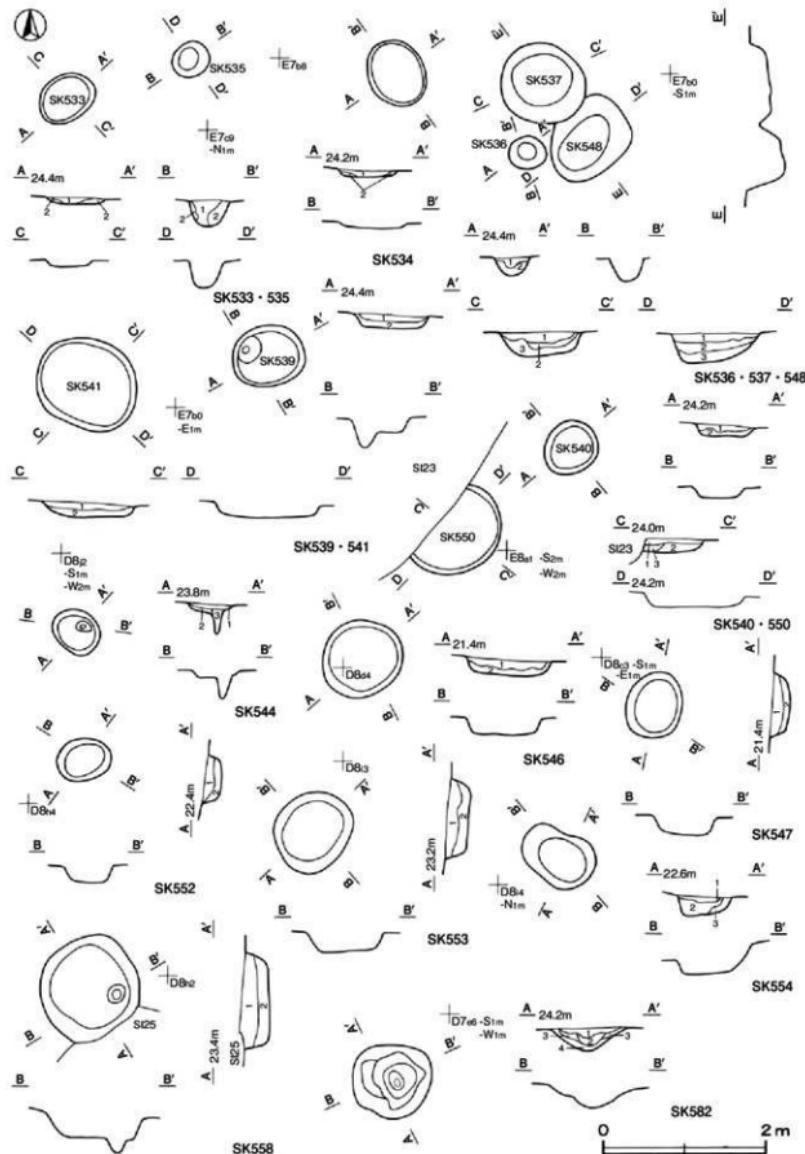
第109図 その他の土坑実測図 (15)



第110図 その他の土坑実測図 (16)



第111図 その他の土坑実測図 (17)



第112図 その他の土坑実測図 (18)

表4 繩文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3	C 6e2	N-21°・W	(円形)	(0.62) × 0.58	13	平坦	緩斜	自然	縄文土器	SK29 → 本跡
4	C 6e2	[N-0°]	(円形)	0.71 × (0.70)	22	平坦	外傾	自然	-	
6	C 6e2	-	(楕円形)	(0.85) × (0.40)	20	皿状	緩斜	人為	-	
8	C 6e3	N-7°・W	楕円形	0.65 × 0.47	22	平坦	外傾	人為	縄文土器	
9	C 6e3	-	円形	0.60	16	平坦	緩斜	自然	-	
14	C 6f1	N-40°・E	楕円形	0.96 × 0.68	42	凹凸	外傾	人為	縄文土器	
15	C 6f1	-	円形	0.92	40	平坦	外傾	人為	縄文土器	
16	C 6e3	-	直角五方形	1.40 × (1.20)	23	平坦	外傾	自然	縄文土器	
17	C 6e3	N-51°・E	楕円形	0.63 × 0.50	10	皿状	緩斜	人為	縄文土器	
18	C 6e3	-	円形または楕円形	0.34 × (0.28)	50	V字状	内傾	人為	埴輪器、灰陶器、瓦質土器	SK19 → 本跡
19	C 6e3	-	円形または楕円形	(0.32) × 0.48	13	平坦	外傾	人為	-	本跡 → SK18
21	C 5e9	-	不明	(1.48) × (0.35)	32	平坦	緩斜	人為	縄文土器、土師器	本跡 → SK90
22	C 6e4	-	円形	1.12	63	平坦	外傾	人為	縄文土器	
23	C 6e4	-	円形	0.92	19	平坦	外傾	人為	-	
27	C 6h1	-	円形	2.30	41	平坦	外傾	人為	縄文土器、土器片、縄目、陶器	
29	C 6f2	-	(楕円形)	1.28 × (0.94)	40	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SK3
30	C 6g1	-	円形	0.85 × 0.80	25～34	凹凸	直立	人為	-	
31	C 5g0	N-28°・W	楕円形	0.67 × 0.59	11～60	凹凸	直立	人為	縄文土器	
33	C 6e1	N-75°・E	楕円形	1.46 × 1.20	27	皿状	緩斜	自然	縄文土器	
34	C 6f2	N-49°・W	楕円形	2.00 × 1.21	54	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器、埴輪	SK40 → 本跡
35	C 5e7	-	(楕円形)	(0.80) × 0.75	19	平坦	外傾	人為	縄文土器	
36	C 6g1	-	円形	0.58	35	凹凸	緩斜	人為	-	
38	C 6e5	-	円形	0.89	16	皿状	緩斜	人為	-	
39	C 6f3	N-50°・W	楕円形	0.80 × 0.65	10	平坦	緩斜	人為	-	本跡 → PG1
40	C 6f2	-	(楕円形)	1.43 × [1.27]	56	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SK34 → PG1
41	C 6g1	N-45°・W	楕円形	0.85 × 0.79	26	平坦	緩斜	人為	-	
42	C 5g0	N-48°・E	楕円形	1.02 × 0.85	25	凹凸	直立	人為	縄文土器	本跡 → PG1
43	C 5g0	N-87°・W	楕円形	0.61 × 0.41	45	平坦	外傾	人為	-	
44	C 5e9	N-22°・E	楕円形	0.66 × 0.60	27	平坦	外傾	人為	-	SK46 → 本跡
46	C 5e9	-	(楕円形)	0.50 × (0.41)	19	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SK44 → PG1
47	C 5f7	N-47°・E	楕円形	0.33 × 0.28	32	平坦	直立	人為	-	
48	C 5e8	N-8°・E	楕円形	0.47 × 0.42	20	平坦	外傾	人為	縄文土器	
49	C 5e8	N-43°・W	楕円形	(0.27) × 0.24	21	平坦	外傾	人為	-	
50	C 5g6	N-60°・E	不整楕円形	0.49 × 0.44	32	平坦	直立	人為	縄文土器、陶器	
51	C 5f9	-	円形	0.63	36	平坦	緩斜	人為	-	
52	C 5e7	-	不定形	0.83 × (0.40)	15	平坦	外傾	人為	縄文土器	
53	C 5e8	-	円形	1.20	38	平坦	外傾	人為	縄文土器、石器	SK54 → 本跡
54	C 5e8	N-41°・W	楕円形	(0.90) × 0.68	35	V字状	緩斜	人為	縄文土器	本跡 → SK53
57	C 5e8	N-47°・E	楕円形	1.00 × 0.67	12	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
60	C 5f8	-	楕円形	2.52 × 2.38	39	平坦	緩斜	人為	縄文土器	本跡 → SK61・77 → SF2
61	C 5f8	N-29°・E	楕円形	1.23 × 1.00	90	平坦	直立	人為	縄文土器、耳朶、磁器	SK60 → 本跡
67	C 5e9	-	(楕円形)	(0.63) × 0.45	11	平坦	外傾	人為	縄文土器	SI2 → 本跡 → SK20 → SF2
69	C 6g2	N-66°・E	不整楕円形	0.67 × 0.58	35	皿状	緩斜	人為	縄文土器、土師器	
70	C 6g1	-	楕円形	(1.39) × 0.75	24	平坦	緩斜	自然	-	本跡 → SD1
71	C 6g1	-	楕円形	(1.20) × 0.97	(51)	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SD1

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
72	C 6 f2	N 54°・W	不整円形	0.56 × 0.32	20	直状	破片	人為	縄文土器	
76	C 5 g7	N 58°・E	楕円形	0.56 × 0.43	139	平坦	直立	人為	縄文土器	
77	C 5 h8	—	楕円形	(0.95 × 0.82)	(91)	平坦	直立	人為	縄文土器	SK60 → 本跡 → SF2
80	C 5 e2	—	(楕円形)	(3.17 × 1.19)	(37)	平坦	破片	自然	縄文土器	本跡 → SF1
81	C 5 g7	N 72°・W	楕円形	(0.53 × 0.43)	(104)	平坦	直立	人為	—	本跡 → SF1
82	C 5 b6	—	円形	(0.45)	(96)	平坦	直立	人為	—	SF2 → 本跡
83	C 5 b2	—	円形	(0.26)	(20)	直状	破片	自然	縄文土器	本跡 → SF1
85	C 5 j0	—	円形	(0.36)	(29)	直状	直立	人為	—	本跡 → SF1
87	C 5 h7	N 20°・E	不整楕円形	(0.65 × 0.57)	53	平坦	外傾	人為	—	SK66 → 本跡, SF1
88	C 5 d4	N 78°・E	楕円形	0.84 × 0.40	22	凸凹	外傾	人為	縄文土器, 石臼片	
92	C 6 j8	—	(楕円形)	(1.64 × 0.78)	(36)	平坦	直立	自然	縄文土器, 土師器	
98	C 6 i7	—	円形	0.63	20	平坦	外傾	—	縄文土器	本跡 → SB1
100	C 6 h7	N 13°・E	楕円形	0.96 × 0.82	33	平坦	外傾	人為	—	
101	C 6 h7	—	不定形	0.45 × (0.30)	(24)	直状	破片	自然	縄文土器	本跡 → PG2, SB1
103	C 7 e3	N 24°・E	楕円形	0.50 × 0.45	7	直状	傾斜	人為	—	SK111 → 本跡
106	C 7 e2	—	円形	1.76	53	平坦	直立	自然	縄文土器, 土師器	
110	D 6 a5	N 45°・W	楕円形	0.48 × 0.37	51	平坦	外傾	自然	縄文土器, 土師器	
111	C 7 e3	N 24°・E	(楕円形)	0.79 × (0.60)	28	平坦	外傾	人為	縄文土器, 頸壺器	本跡 → SK103
133	C 7 j3	—	円形	2.20	46	平坦	外傾	人為	縄文土器, 土師器	
135	D 6 d6	—	円形	1.14	30	平坦	破片	人為	縄文土器	
136	C 7 j3	—	円形	0.97	32	平坦	破片	自然	縄文土器	SK137 → 本跡
137	D 7 a3	—	円形	2.28	40	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SK136
140	B 4 h6	—	(楕円形)	(1.54 × 0.54)	(30)	平坦	傾斜	人為	縄文土器, 土師器	本跡 → SF1
141	B 4 h7	N 49°・W	不整楕円形	2.28 × 1.69	10	平坦	破片	人為	—	本跡 → SF1, PG1
142	B 4 i8	—	円形	(0.55)	(59)	平坦	直立	—	縄文土器	本跡 → SF1
143	B 4 i9	—	楕円形	1.00 × (0.57)	(116)	平坦	直立	人為	縄文土器, 土器片錐	本跡 → SF1
144	B 4 i9	N 43°・W	(楕円形)	1.10 × (0.37)	38 ~ 42	凸凹	傾斜	人為	縄文土器	本跡 → SF1
145	B 4 j9	N 43°・E	(楕円形)	2.38 × (1.57)	25	平坦	外傾	人為	縄文土器, 土師器	本跡 → SK146 → SF1
146	B 4 j9	—	円形	0.84	20	平坦	外傾	人為	—	SK145 · 189 → 本跡 → SF1
147	B 4 j9	—	円形	0.93	33	平坦	外傾	人為	—	本跡 → SF1
148	B 4 j9	—	円形	0.57	21	平坦	外傾	人為	—	本跡 → SF1
149	B 4 j9	—	楕円形	0.62 × 0.53	(35)	平坦	直立	人為	縄文土器	SK186 · 190 → 本跡 → SF1
170	D 7 d2	—	円形	1.00	(30)	平坦	破片	人為	縄文土器, 弦生土器, 土師器	SI12 → SK171 → 本跡 → PG3
171	D 7 d2	—	(楕円形)	0.50 × (0.25)	(11)	直状	破片	人為	縄文土器, 頸壺器	SI12 → 本跡 → SK170
173	D 7 d2	N 0°	楕円形	0.64 × 0.40	21	平坦	破片	人為	—	SK174 → 本跡
174	D 7 d2	N 56°・E	(楕円形)	0.65 × (0.47)	13	凸凹	傾斜	人為	—	本跡 → SK173
175	D 7 e1	—	円形	1.36	37	平坦	破片	人為	縄文土器, 弦生土器, 土師器	本跡 → SD 5
180	B 4 j0	—	円形	0.58	21	平坦	外傾	人為	—	本跡 → SF1
181	B 4 j0	—	楕円形	0.83 × 0.73	(49)	平坦	袋狀直立	人為	縄文土器, 弦生土器, 土師器	本跡 → SF1
182	C 4 a0	—	楕円形	0.98 × 0.89	(103)	平坦	直立	人為	縄文土器, 弦生土器, 土師器	SK186 → 本跡 → SF1, PG4
183	C 4 a0	N 35°・E	(楕円形)	1.23 × [1.05]	(95)	平坦	直立	人為	—	PG4 → 本跡 → SK184 → SF1
184	C 5 a1	—	円形	0.91	7	平坦	破片	人為	—	SK183 → PG4 → 本跡 → SF1
185	B 4 j9	—	円形	0.48	31	平坦	直立	人為	—	本跡 → SF1
186	C 4 a9	N 47°・W	(楕円形)	2.03 × (1.13)	21	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SK149 · 182 · 190 → SF1
187	C 5 b1	—	[不整楕円形]	1.48 × (0.44)	50	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SF1

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
188	B 4·9	N-58°·E	楕円形	0.50 × 0.42	21	皿状	緩斜	人為	縄文土器	SK189 → 本跡 → SF1
189	B 4·9	N-45°·W	楕円形	(0.82 × 0.45)	9	平坦	外傾	人為	—	本跡 → SK146 · 188 → SF1
190	C 4·9	N-19°·W	(楕円形)	(0.54) × 0.44	50	平坦	外傾	人為	—	SK186 → 本跡 → SK149 → SF1
192	D 6·9	N-32°·W	楕円形	0.98 × 0.74	14	平坦	直立	人為	—	本跡 → SH10
193	D 7·2	—	円形	0.25	(5)	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
194	D 7·2	N-55°·E	楕円形	1.90 × 1.16	16	平坦	緩斜	自然	縄文土器、弦生土器	
200	D 7·3	—	(楕円形)	1.50 × (1.26)	(66)	平坦	外傾	人為	縄文土器、弦生土器	本跡 → 第1号墓坑
201	D 7·4	—	円形	1.46	64	平坦	外傾	自然	縄文土器	
202	D 7·2	N-44°·W	(楕円形)	0.82 × (0.80)	14	平坦	緩斜	人為	縄文土器	本跡 → PG3SD5
203	D 7·4	—	円形	2.03	62	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器、磨石、酒片	SI13 → 本跡
204	D 7·C1	—	円形	0.99	30	平坦	外傾	自然	縄文土器	本跡 → SB6
206	D 6·g	N-38°·W	楕円形	1.10 × 0.83	42	平坦	直立	人為	縄文土器	本跡 → SB7
207	D 6·h	N-33°·W	不整楕円形	1.50 × 1.12	41	平坦	外傾	自然	縄文土器	
208	D 7·1	N-40°·E	不整円形	0.70 × 0.64	21	平坦	外傾	自然	縄文土器	
209	D 7·1	N-41°·E	楕円形	1.10 × 0.79	18	平坦	外傾	自然	縄文土器	
211	D 6·e	—	円形	1.52	40	平坦	外傾	自然	縄文土器、土師器	本跡 → SK212
212	D 6·e	N-49°·E	楕円形	0.95 × 0.73	40	階段	外傾	自然	—	SK211 → 本跡
213	D 6·e	—	円形	0.26	62	階段	外傾	人為	縄文土器	SI15 → 本跡 → 第2号火葬土坑
216	D 7·6	—	円形	1.36	30	平坦	外傾	人為	縄文土器	
217	C 7·16	N-19°·E	楕円形	1.10 × 0.77	24	平坦	緩斜	自然	—	
218	C 7·7	—	円形	1.00	10	平坦	外傾	自然	縄文土器	
219	C 7·9	—	円形	0.62	14	平坦	外傾	自然	—	
220	C 7·9	—	円形	0.57	13	凸凹	緩斜	自然	—	
221	D 7·19	N-67°·E	楕円形	0.86 × 0.72	11	平坦	緩斜	自然	—	
222	D 7·6	N-13°·E	楕円形	0.70 × 0.37	26	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SI17
223	D 7·1	N-37°·W	楕円形	1.31 × 1.12	29	平坦	外傾	自然	—	
227	D 7·2	N-81°·E	楕円形	1.70 × 0.92	15	平坦	緩斜	自然	縄文土器	
228	D 7·3	N-34°·E	不整楕円形	1.24 × 1.02	18	平坦	緩斜	人為	—	
229	D 7·3	—	円形	0.90	23	皿状	緩斜	人為	縄文土器	
230	D 7·3	N-35°·E	楕円形	1.05 × 0.88	19	平坦	外傾	人為	—	
231	D 7·3	N-20°·W	不整楕円形	0.93 × 0.77	11	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
232	D 7·3	—	不整円形	0.66 × 0.58	20	皿状	緩斜	人為	縄文土器	
233	D 7·2	N-41°·W	楕円形	1.35 × 1.06	9	平坦	緩斜	人為	—	
234	D 7·3	N-10°·W	楕円形	1.46 × 1.09	45	平坦	外傾	人為	縄文土器	
235	D 7·3	—	円形	0.60	19	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
236	D 7·4	—	円形	0.23	30	平坦	緩斜	人為	縄文土器、弦生土器	
237	D 7·2	—	円形	0.57	20	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
238	D 7·4	N-84°·E	楕円形	1.52 × 1.00	34	平坦	外傾	人為	縄文土器	
239	D 7·2	N-38°·W	楕円形	0.96 × 0.77	12	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
240	D 7·2	N-39°·W	不整方形	1.61 × 1.60	20	凹凸	緩斜	人為	縄文土器、土師器	
241	D 7·2	N-26°·W	楕円形	1.37 × 0.86	8	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
242	D 7·1	—	円形	0.26	20	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
243	D 7·2	N-69°·W	楕円形	1.40 × 0.60	8	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
244	D 7·2	N-69°·W	楕円形	0.55 × 0.43	17	凹凸	緩斜	人為	縄文土器	
245	D 7·1	N-17°·W	楕円形	0.75 × 0.63	38	U字状	緩斜	人為	縄文土器	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
246	D 7 g1	N-12°・W	不整格円形	0.95 × 0.73	20	皿状	緩斜	人為	縄文土器、弥生土器、土師器	
248	D 7 h2	N-40°・W	稍円形	0.47 × 0.40	10	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
249	D 7 h2	-	円形	0.53	10	平坦	緩斜	自然	縄文土器	
251	D 7 f1	-	円形	0.85	33	平坦	緩斜	人為	縄文土器、土師器	
252	D 7 e1	-	円形	0.64	14	皿状	緩斜	人為	-	SH18 → 本跡 → SH17
253	D 7 g1	N-65°・W	不定形	0.96 × 0.79	30	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器	
254	D 7 g2	N-56°・W	稍円形	1.10 × 0.97	10	平坦	外傾	人為	縄文土器	
255	D 7 g1	N-90°	稍円形	0.52 × 0.42	13	平坦	外傾	人為	-	
260	D 7 b4	-	不整円形	1.15 × 1.11	60	平坦	直立	人為	縄文土器、土師器	SH13 → 本跡
263	D 7 f4	-	円形	0.75	32	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
264	D 7 f3	-	円形	0.45	23	平坦	緩斜	人為	-	
265	D 7 f3	-	円形	0.80	16	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
266	D 7 f3	-	円形	0.48	23	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
267	D 7 f3	-	円形	0.50	22	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
268	D 7 f2	N-42°・E	不整格円形	1.33 × 0.96	19	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
269	D 7 g2	N-16°・W	稍円形	1.55 × 1.35	15	平坦	緩斜	人為	-	
270	D 7 g3	N-17°・W	稍円形	0.77 × 0.62	10	凹凸	緩斜	自然	縄文土器	
271	D 7 h3	-	円形	0.55	28	皿状	緩斜	自然	-	
277	D 7 f6	N-28°・E	稍円形	1.11 × 0.93	16	平坦	外傾	人為	縄文土器、弥生土器	
279	D 7 f6	N-43°・E	稍円形	1.33 × 1.06	37	平坦	外傾	人為	-	
280	D 7 j5	-	円形	0.70	21	平坦	外傾	人為	-	
281	E 7 a5	N-83°・E	稍円形	0.87 × 0.78	18	平坦	外傾	人為	縄文土器	
282	E 7 a5	N-43°・W	稍円形	0.58 × 0.52	28	凹凸	外傾	人為	-	
283	E 7 a5	N-8°・E	稍円形	0.68 × 0.53	27	階段	直立	人為	-	
284	E 7 a5	-	円形	0.47	17	階段	外傾	人為	-	
285	D 7 j4	[N-64°・W]	(格円形)	(0.87) × 0.85	5	平坦	緩斜	人為	-	本跡 → SK286
286	D 7 j4	-	円形	1.45	10	平坦	緩斜	人為	-	SK285 → 本跡
287	E 7 a4	N-47°・W	稍円形	0.67 × 0.60	38	階段	直立	人為	-	
288	E 7 a4	N-38°・W	稍円形	0.69 × 0.58	43	階段	直立	人為	縄文土器、土師片疊、土師器	
289	E 7 a4	-	円形	0.62	35	平坦	外傾	人為	-	
290	E 7 a3	N-30°・E	稍円形	1.33 × 0.84	31	平坦	直立	人為	-	
291	D 7 j3	N-23°・W	稍円形	0.60 × 0.52	6	平坦	緩斜	人為	-	
292	D 7 j3	N-85°・E	稍円形	0.48 × 0.42	11	平坦	外傾	人為	-	
293	D 7 j3	N-48°・E	稍円形	0.72 × 0.70	10	平坦	直立	人為	-	
294	D 7 j3	-	円形	0.49	18	平坦	外傾	人為	縄文土器	
295	D 7 j3	-	円形	0.37	18	皿状	直立	人為	-	
296	D 7 h4	N-36°・W	稍円形	1.17 × 1.04	25	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器	
297	D 7 j3	-	円形	0.45	10	平坦	直立	人為	-	
298	D 7 j4	N-6°・W	稍円形	1.82 × 1.65	27	平坦	外傾	人為	縄文土器	
299	D 7 i5	N-75°・W	稍円形	1.29 × 1.02	32	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器	
300	D 7 i8	N-58°・W	稍円形	0.84 × 0.70	19	平坦	外傾	人為	-	本跡 → SI22
301	D 7 h4	N-42°・E	不整格円形	1.66 × 1.30	20	平坦	緩斜	人為	-	SK307 → 本跡
302	D 7 h3	-	円形	1.03	22	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
303	D 7 h4	-	円形	1.24	48	平坦	外傾	人為	縄文土器	SK304 → 本跡
304	D 7 h4	N-61°・W	(格円形)	1.80 × 1.40	9	平坦	緩斜	人為	縄文土器	本跡 → SK303・305
305	D 7 h4	N-46°・W	不整長方形	1.23 × 0.93	15	平坦	外傾	人為	-	SK304 → 本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
306	D 7h3	N-51°・E	楕円形	1.21 × 0.88	20	平坦	外傾	人為	縄文土器	
307	D 7j3	-	[円形]	0.52	18	平坦	緩斜	人為	縄文土器	本跡→ SK301
308	D 7i5	N-41°・E	楕円形	1.89 × 1.55	23	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
309	D 7i8	N-15°・W	楕円形	0.93 × 0.70	15 ~ 27	凸	外傾	自然	-	本跡→ SI16
311	D 7i7	-	円形	0.85	30	平坦	外傾	自然	-	本跡→ SI16
312	D 7j2	-	円形	1.34	38	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
313	D 7j2	N-35°・W	楕円形	1.02 × 0.88	32	平坦	緩斜	人為	-	
314	D 7i2	N-53°・E	楕円形	0.87 × 0.75	46	凸	外傾	人為	縄文土器	
315	D 7g4	-	円形	0.60	33	U字 状	緩斜	人為	縄文土器	
316	D 7g4	N-90°	楕円形	0.42 × 0.35	21	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
317	D 7g4	-	円形	0.60	22	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器	
318	D 7g4	-	円形	0.91	34	平坦	外傾	人為	-	
319	D 7h4	-	円形	1.27	27	平坦	外傾	人為	縄文土器	SK320 → 本跡
320	D 7g4	N-58°・W	楕円形	1.30 × 0.96	20	平坦	緩斜	人為	縄文土器	SK374 → 本跡→ SK319
321	D 7h4	-	円形	0.56	29	平坦	外傾	人為	縄文土器	
322	D 7i3	N-90°	楕円形	1.45 × 0.85	26	直状	緩斜	人為	縄文土器	
323	D 7i2	-	円形	0.96	25	平坦	緩斜	人為	-	
324	D 7i2	-	円形	0.36	30	直状	外傾	人為	-	
325	D 7h2	-	円形	0.91	20	平坦	緩斜	人為	-	SK326 → 本跡
326	D 7h3	N-32°・E	(楕円形)	0.55 × 0.45	22	平坦	緩斜	人為	-	本跡→ SK325・327
327	D 7h3	-	円形	0.72	27	平坦	緩斜	人為	-	SK326 → 本跡
328	D 7h3	-	円形	0.78 × 0.70	22	直状	外傾	人為	-	
329	D 7h5	N-51°・E	楕円形	0.92 × 0.78	23	平坦	外傾	人為	縄文土器	
330	D 7g5	-	円形	1.00	18	平坦	外傾	人為	縄文土器	
331	D 7g5	N-90°	楕円形	1.10 × 0.91	18	平坦	外傾	人為	-	
332	D 7g5	-	円形	0.51	40	平坦	外傾	人為	縄文土器	
333	D 7g6	N-69°・E	楕円形	1.71 × 1.30	10 ~ 32	階段	外傾	人為	縄文土器	SK372 → 本跡
334	D 7g7	-	円形	0.44	44	平坦	外傾	人為	-	
335	D 7i1	-	円形	0.51	16	平坦	緩斜	人為	縄文土器、土師器	
336	D 7g4	N-45°・W	楕円形	1.22 × 0.94	20	凸	緩斜	人為	縄文土器、土師器	
337	D 7i3	-	円形	1.09	40	凸	外傾	人為	縄文土器	
338	D 7i5	-	円形	0.95	18	直状	外傾	人為	縄文土器、土師器	
339	D 7i6	N-30°・E	楕円形	1.09 × 0.86	15	平坦	外傾	人為	縄文土器	
340	D 7i6	-	円形	0.95	50	平坦	外傾	人為	-	
341	D 7e6	N-45°・W	不整楕円形	1.02 × 0.94	45	直状	外傾	人為	-	
342	D 7g5	-	円形	0.43	37	直状	直立	人為	縄文土器	
343	D 7g5	-	円形	0.41	36	直状	直立	人為	縄文土器	
344	D 7g6	-	円形	0.44	23	平坦	外傾	人為	縄文土器	
345	D 7g6	-	円形	0.97	26	平坦	直立	人為	縄文土器	
346	D 7i7	N-25°・E	楕円形	0.50 × 0.43	20	平坦	直立	人為	-	
347	D 7e7	-	円形	0.55	30	平坦	緩斜	人為	-	
348	D 7i7	N-90°・E	楕円形	0.46 × 0.40	27	平坦	外傾	人為	-	
353	D 7i4	N-55°・E	楕円形	1.21 × 0.98	29	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→ SK354
354	D 7i4	-	円形	0.41	29	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器	SK353 → 本跡
355	D 7i4	N-51°・E	楕円形	0.72 × 0.62	30	平坦	外傾	人為	-	
356	D 7i4	N-53°・W	楕円形	0.90 × 0.75	27	平坦	外傾	人為	縄文土器	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
357	D 7 14	N 0°	楕円形	0.54 × 0.48	22	平坦	外傾	人為	縄文土器	
358	D 7 14	—	円形	0.73	31	平坦	外傾	人為	—	
359	D 7 14	—	円形	0.65	20	平坦	外傾	人為	縄文土器	
360	D 7 15	N 26° -E	楕円形	0.61 × 0.53	40	平坦	緩斜	人為	縄文土器、土器器	SK361 → 本跡
361	D 7 15	N 0°	楕円形	1.09 × 0.95	43	平坦	外傾	人為	縄文土器、土器器	SK363 → 本跡 → SK360
362	D 7 15	N 50° -W	楕円形	0.68 × 0.61	48	平坦	直立	人為	—	
363	D 7 15	—	楕円形	1.10 × (0.78)	36	平坦	外傾	人為	縄文土器、土器片疊、土器器	本跡 → SK361
364	D 7 15	N 35° -W	楕円形	0.62 × 0.52	22	平坦	外傾	人為	—	
365	D 7 15	—	円形	0.59	30	平坦	外傾	人為	—	
366	D 7 15	N 90°	楕円形	0.90 × 0.73	45	凸	外傾	人為	縄文土器	SK398 → 本跡
367	D 7 15	—	円形	0.59	30	平坦	外傾	人為	—	
368	D 7 15	—	円形	0.82	30	直	外傾	人為	—	
369	D 7 15	—	円形	0.64	12	平坦	直立	人為	—	
370	D 7 15	N 85° -E	楕円形	1.10 × 0.92	13	平坦	緩斜	人為	—	
371	D 7 15	N 43° -E	楕円形	0.54 × 0.37	21	直状	外傾	人為	—	
372	D 7 15	[N 65° -W] (楕円形)	0.95 × (0.58)	22	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SK333	
373	D 7 16	N 10° -W	不整円形	0.82 × 0.81	12 ~ 25	楕斜	直立	人為	—	
374	D 7 16	N 85° -E	楕円形	1.81 × 1.63	22	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡 → SK320
375	D 8 1	N 42° -E	楕円形	0.55 × 0.47	46	平坦	直立	自然	—	
376	D 7 17	—	円形	0.48	15	平坦	外傾	自然	—	
377	D 7 17	—	円形	0.74	11	平坦	外傾	人為	縄文土器、土器器	
378	D 7 17	—	円形	0.61	10	平坦	外傾	人為	—	
380	D 7 18	—	円形	0.45	38	直立	緩斜	人為	—	
381	D 7 18	N 35° -E	不定形	0.80 × 0.62	10	平坦	緩斜	人為	—	
382	D 7 18	—	円形	0.36	14	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
383	D 7 19	—	円形	0.80	20	平坦	緩斜	人為	—	
385	D 7 19	—	円形	0.68	12	平坦	緩斜	人為	—	SK386 → 本跡
386	D 7 19	N 15° -W	不整形	1.87 × 0.90	24	直状	緩斜	人為	—	本跡 → SK385
387	D 7 19	N 30° -W	楕円形	0.35 × 0.30	20	平坦	緩斜	人為	—	
388	D 7 19	N 23° -E	楕円形	1.08 × 0.89	16	平坦	外傾	人為	縄文土器	
389	D 7 19	N 52° -W	楕円形	0.46 × 0.34	15	平坦	外傾	人為	—	
390	D 7 19	—	円形	0.52	10	平坦	緩斜	人為	—	
391	D 7 19	N 82° -W	楕円形	0.61 × 0.50	12	平坦	緩斜	人為	—	
392	D 7 19	—	円形	1.18	5	凸	緩斜	人為	—	SK393 → 本跡
393	D 7 19	—	円形	0.40	18	平坦	緩斜	人為	—	本跡 → SK392
394	D 7 e0	N 66° -E	楕円形	0.65 × 0.53	5	平坦	緩斜	人為	—	
395	D 7 19	N 45° -E	楕円形	0.48 × 0.40	10	平坦	緩斜	人為	—	
396	D 7 19	—	円形	0.60	8	平坦	緩斜	人為	—	
398	D 7 15	—	円形	0.29	27	U字	外傾	人為	—	本跡 → SK366
399	E 7 16	N 25° -W	楕円形	1.14 × 0.89	21	平坦	外傾	人為	—	
400	E 7 18	N 14° -W	楕円形	1.77 × 1.58	38	平坦	外傾	人為	—	
401	E 7 c8	N 33° -W	楕円形	0.98 × 0.86	23	平坦	外傾	自然	—	
402	E 7 c7	N 7° -W	楕円形	0.60 × 0.49	25	平坦	外傾	自然	—	
403	E 7 c6	—	円形	0.40	16	平坦	直立	自然	—	
404	E 7 c7	N 72° -W	楕円形	0.85 × 0.66	23	平坦	外傾	自然	—	
405	E 7 b7	—	円形	0.44	19	平坦	外傾	自然	—	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
406	E 7 b7	N-11°・E	楕円形	1.64 × 1.32	29	平坦	直立	人為	-	
407	E 7 b7	N-61°・W	楕円形	0.49 × 0.43	19	平坦	外傾	人為	-	
408	E 7 b7	N-40°・E	楕円形	0.56 × 0.50	23	平坦	外傾	自然	-	
409	E 7 b9	N-37°・W	楕円形	0.80 × 0.65	22	平坦	直立	人為	-	
410	D 7 b8	-	円形	0.26	30	平坦	直立	自然	縄文土器	
411	D 7 b6	-	楕円形	(1.62) × 1.43	72	平坦	外傾	人為	縄文土器、弥生土器、土器	本跡→SK21
412	D 7 b9	N-51°・W	楕円形	0.84 × 0.74	23	平坦	外傾	自然	縄文土器	
413	D 7 b8	-	円形	0.49	21	平坦	外傾	自然	-	
414	D 7 b8	-	円形	0.42	17	平坦	外傾	自然	-	
415	D 7 b8	N-73°・E	楕円形	1.14 × 1.05	22	平坦	直立	人為	-	
416	D 7 b8	N-88°・E	楕円形	0.56 × 0.45	27	平坦	直立	人為	-	
417	D 7 b8	-	円形	0.50	12	直状	外傾	人為	-	
418	D 7 b8	-	円形	0.60	38	平坦	直立	人為	-	
419	D 7 b9	-	円形	1.25	21	平坦	外傾	人為	縄文土器、磨製石斧	
420	D 7 b8	N-5°・E	楕円形	0.83 × 0.75	30	平坦	直立	人為	-	
422	D 7 i4	N-53°・W	楕円形	0.82 × 0.69	24	平坦	外傾	人為	縄文土器	
423	D 7 h5	N-55°・W	楕円形	0.93 × 0.72	26	平坦	直立	人為	-	本跡→SK278
424	D 7 b6	N-56°・W	楕円形	0.62 × 0.50	19	直状	破斜	人為	-	
425	D 7 b8	N-25°・W	楕円形	0.68 × 0.60	31	直状	外傾	人為	-	
427	D 7 b9	N-28°・W	楕円形	1.00 × 0.83	10	平坦	緩斜	人為	-	
428	D 7 b9	-	円形	0.64	14	平坦	破斜	人為	-	
430	D 7 b9	N-58°・W	楕円形	1.08 × 0.89	12	平坦	破斜	人為	-	
431	D 7 b9	N-2°・W	楕円形	1.86 × 1.14	11	平坦	外傾	人為	縄文土器	
432	D 7 g9	-	円形	0.36	15	平坦	外傾	人為	-	
437	D 7 g9	N-5°・E	楕円形	0.74 × 0.64	20	平坦	外傾	人為	-	
438	D 7 g0	N-90°	楕円形	0.67 × 0.56	12	平坦	外傾	人為	縄文土器、土器	
442	D 7 h0	-	円形	0.27	18	平坦	緩斜	人為	-	
443	D 7 h0	N-42°・E	長方形	0.83 × 0.72	10	平坦	外傾	人為	-	
444	D 7 h0	-	円形	0.89	18	平坦	外傾	人為	-	
445	D 7 h0	-	円形	0.46	13	平坦	外傾	人為	-	
446	D 7 g0	N-48°・W	楕円形	0.52 × 0.43	14	平坦	外傾	人為	-	
447	D 7 g0	N-38°・W	楕円形	0.93 × 0.78	16	平坦	緩斜	人為	-	
448	D 7 g0	N-90°	楕円形	0.47 × 0.42	12	平坦	外傾	人為	-	
449	D 7 g0	N-90°	楕円形	0.74 × 0.66	8	平坦	外傾	人為	-	
450	D 8 g1	-	円形	0.64	18	平坦	破斜	人為	-	
451	D 8 g1	N-44°・W	方形	0.45 × 0.41	19	平坦	外傾	人為	-	
452	D 8 g1	N-50°・E	方形	0.60 × 0.56	14	平坦	外傾	人為	-	
453	D 8 g1	N-79°・W	楕円形	0.99 × 0.68	19	平坦	破斜	人為	-	
454	D 8 b1	-	円形	0.73	13	平坦	外傾	人為	-	
455	D 8 b1	-	円形	1.20	12	平坦	外傾	人為	-	
456	D 8 f1	-	円形	0.62	4	直状	破斜	人為	-	
457	D 8 f2	N-87°・E	楕円形	0.58 × 0.47	15	平坦	外傾	人為	-	
458	D 8 f2	N-43°・W	楕円形	0.93 × 0.67	20	平坦	直立	人為	-	
459	D 8 e1	N-25°・W	楕円形	0.82 × 0.68	21	平坦	破斜	人為	-	
460	D 7 e0	-	円形	0.36	17	直状	破斜	人為	-	
461	D 8 f2	-	円形	0.70	19	平坦	直立	人為	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
462	D 8 h1	-	円形	0.60	6	平坦	緩斜	人為	-	
463	D 8 g2	N-51°-E	楕円形	0.74 × 0.60	9	平坦	緩斜	人為	-	
464	D 8 g2	N-30°-E	楕円形	0.72 × 0.64	15	平坦	外傾	人為	繩文土器	
465	D 8 g3	[N-29°-W]	(楕円形)	0.58 × (0.48)	11	平坦	外傾	人為	-	本跡→SK470
466	D 8 e2	-	円形	1.01	12	平坦	外傾	人為	-	
467	D 8 e2	N-38°-W	楕円形	1.39 × 1.20	19	平坦	外傾	人為	-	
468	D 8 e2	-	円形	0.44	15	平坦	直立	人為	-	
469	D 8 d3	N-6°-E	楕円形	0.32 × 0.26	30	直状	直立	人為	-	
470	D 8 d3	N-73°-E	楕円形	1.50 × (1.20)	12	平坦	外傾	人為	-	SK465 → 本跡
471	D 8 d3	N-19°-W	楕円形	0.32 × 0.29	16	平坦	直立	人為	-	
472	D 8 e3	N-22°-W	楕円形	0.51 × 0.46	13	平坦	直立	人為	-	
473	D 8 d3	N-77°-E	楕円形	1.12 × 0.96	15	平坦	外傾	人為	-	
474	D 8 e5	N-61°-W	楕円形	0.52 × 0.32	13	平坦	外傾	人為	-	
475	D 8 e5	-	円形	0.54	13	平坦	外傾	人為	-	
476	D 8 e5	N-18°-W	楕円形	1.31 × 0.83	28	平坦	外傾	人為	-	
477	D 8 e6	N-48°-E	楕円形	1.14 × 0.61	13	平坦	外傾	人為	-	
478	D 8 e6	-	円形	0.25	21	平坦	緩斜	人為	-	
479	D 8 e6	N-45°-W	楕円形	1.16 × 0.73	19	平坦	外傾	人為	-	
480	D 8 c3	N-67°-W	楕円形	0.65 × 0.56	24	U字状	外傾	人為	繩文土器	SD11 → 本跡
485	D 8 f4	-	円形	0.33	13	平坦	外傾	人為	-	
486	D 8 e5	-	円形	0.33	14	平坦	外傾	人為	繩文土器	
487	D 8 e4	-	円形	0.28	19	平坦	外傾	人為	-	
488	D 8 e5	N-59°-W	楕円形	0.43 × 0.36	35	U字状	外傾	人為	-	SK489 → 本跡
489	D 8 e5	N-28°-E	(楕円形)	0.47 × (0.35)	27	平坦	外傾	人為	-	本跡→SK488
490	E 7 b6	N-50°-W	楕円形	0.98 × 0.89	26	平坦	外傾	人為	-	
491	E 7 b7	-	楕円形	0.97 × 0.81	18	平坦	外傾	人為	-	
492	E 7 a7	N-60°-E	楕円形	0.66 × 0.56	29	平坦	外傾	人為	-	
493	E 7 a7	N-40°-W	楕円形	1.04 × 0.90	22	平坦	外傾	人為	-	
494	E 7 a7	-	円形	0.52	16	平坦	外傾	人為	-	
495	D 7 j7	N-90°	楕円形	0.64 × 0.58	19	平坦	外傾	人為	-	
496	D 7 j8	N-68°-W	不定形	1.00 × 0.80	18	凸凹	緩斜	人為	-	
497	D 7 j8	-	円形	0.63	16	U字状	外傾	人為	-	
499	D 7 j9	N-53°-E	楕円形	0.93 × 0.80	11	平坦	緩斜	人為	-	
500	D 8 j2	N-32°-W	楕円形	0.73 × 0.50	19	平坦	外傾	人為	繩文土器	
501	D 7 io	-	円形	0.85	20	平坦	外傾	人為	-	
502	D 8 g3	-	円形	0.70	13	平坦	外傾	人為	-	
503	D 8 g3	N-4°-W	楕円形	0.75 × 0.65	8	平坦	外傾	人為	-	
504	D 8 g4	-	円形	0.80	16	平坦	外傾	人為	-	
506	D 8 f4	-	円形	0.73	10	平坦	外傾	人為	-	
507	D 8 f4	-	円形	0.97	7	平坦	外傾	人為	-	
510	D 8 e1	N-41°-E	楕円形	0.42 × 0.38	21	平坦	外傾	人為	-	
511	D 8 e1	N-34°-W	楕円形	0.67 × 0.47	21	平坦	外傾	人為	-	
512	D 8 d1	N-90°	楕円形	1.02 × 0.92	20	平坦	緩斜	人為	-	
513	D 8 d1	-	楕円形	0.73 × 0.57	24	平坦	外傾	人為	-	
514	D 7 d9	-	円形	0.65	17	平坦	外傾	人為	-	
515	D 7 d9	N-84°-W	楕円形	1.76 × 1.50	10	凸凹	緩斜	人為	-	

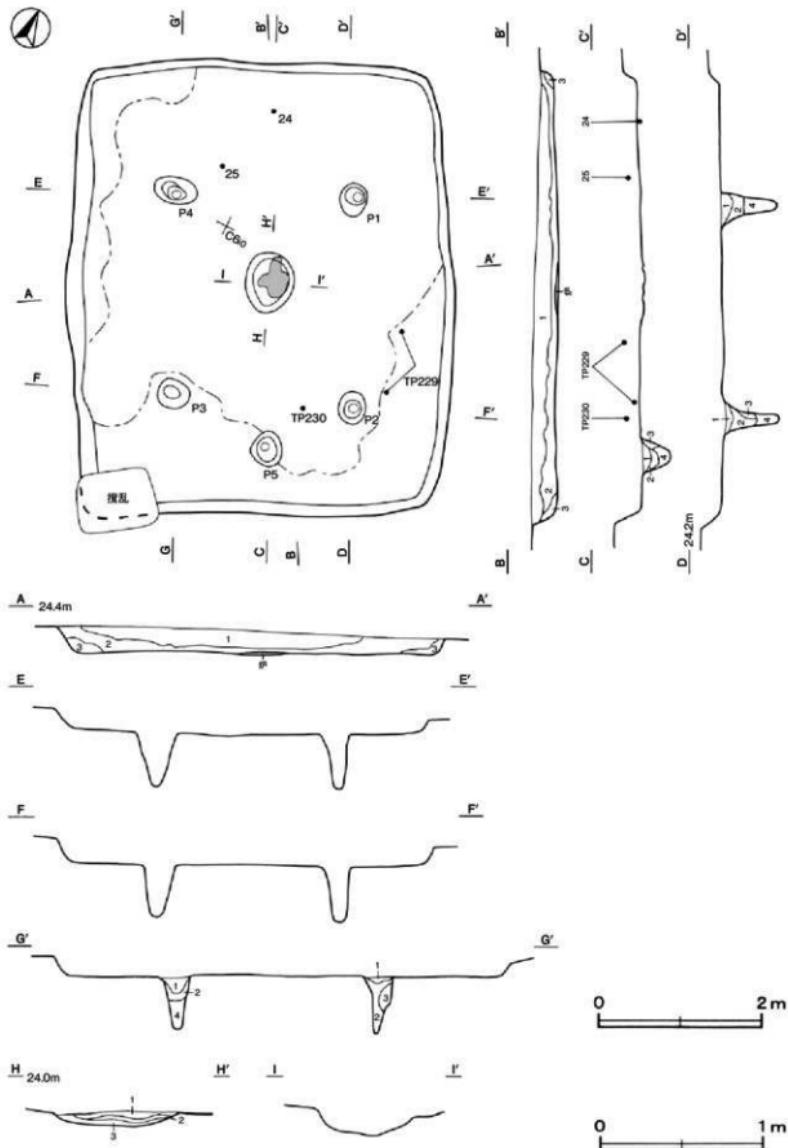
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
516	D 7 e9	N-43°・E	楕円形	1.07 × 0.86	15	平坦	外傾	人為	-	
517	D 7 d0	N-45°・W	楕円形	1.75 × 1.08	8	平坦	外傾	人為	-	
518	D 8 d1	N-30°・E	楕円形	0.51 × 0.44	27	平坦	外傾	人為	種	
519	D 8 d1	-	円形	1.49	22	平坦	緩斜	人為	-	
520	D 8 d1	N-90°	楕円形	0.67 × 0.60	17	平坦	外傾	人為	-	
521	D 8 d1	N-77°・E	楕円形	1.04 × 0.72	18	直状	外傾	人為	-	
522	D 8 d1	N-84°・E	楕円形	0.81 × 0.58	20	平坦	外傾	人為	-	
523	D 8 e1	N-22°・W	楕円形	0.93 × 0.80	18	凸凹	外傾	人為	-	
524	D 7 e9	N-58°・E	楕円形	0.68 × 0.59	15	平坦	外傾	人為	-	
525	D 8 e2	N-62°・W	楕円形	1.29 × 1.09	10	平坦	外傾	人為	-	
526	D 8 e2	-	円形	1.00	12	平坦	外傾	人為	-	
527	D 8 b1	-	円形	0.74	30	平坦	外傾	人為	-	
528	D 8 c2	-	円形	0.61	21	平坦	外傾	人為	-	
529	D 8 b3	-	円形	0.50	22	凸凹	緩斜	人為	-	
533	E 7 b8	N-56°・E	楕円形	0.70 × 0.55	5	平坦	緩斜	人為	-	
534	E 7 b8	N-38°・W	楕円形	0.83 × 0.70	5	平坦	緩斜	人為	-	
535	E 7 b8	-	円形	0.46	30	直状	外傾	人為	-	
536	E 7 b9	-	円形	0.45	30	直状	外傾	人為	縄文土器	
537	E 7 b9	-	円形	1.03	29	凸凹	緩斜	人為	縄文土器、土師器	SK548→本跡
538	E 7 a9	-	円形	1.07	16	平坦	外傾	人為	縄文土器	
539	E 7 a0	N-60°・E	楕円形	0.86 × 0.76	16	平坦	外傾	人為	-	
540	E 7 a0	-	円形	0.70	15	平坦	外傾	人為	-	
541	E 7 a9	N-56°・W	楕円形	1.27 × 1.13	17	平坦	緩斜	人為	種	
544	D 8 j1	N-70°・W	楕円形	0.60 × 0.50	10	凸凹	外傾	人為	-	
545	D 8 c3	-	円形	0.74	40	平坦	緩斜	人為	-	
546	D 8 d4	N-53°・E	楕円形	1.04 × 0.93	19	平坦	外傾	人為	-	
547	D 8 c3	N-12°・E	楕円形	0.82 × 0.70	24	平坦	外傾	人為	-	
548	E 7 b9	N-46°・W	不整圓形	1.09 × 0.82	47	直状	外傾	人為	縄文土器	本跡→SK537
549	D 8 b3	N-51°・W	楕円形	1.66 × 1.40	23	平坦	緩斜	人為	縄文土器	SK556→本跡
550	E 7 a0	N-0° (楕円形)	(楕円形)	1.20 × (0.76)	15	平坦	緩斜	人為	縄文土器、土師器	本跡→SI23
551	D 8 i2	N-40°・E	楕円形	0.88 × 0.75	29	平坦	外傾	人為	縄文土器	
552	D 8 g1	N-68°・E	楕円形	0.65 × 0.55	22	直状	外傾	人為	-	
553	D 8 i2	-	円形	0.98	28	平坦	緩斜	人為	-	
554	D 8 b4	N-75°・W	楕円形	0.96 × 0.67	29	平坦	直立	人為	-	
556	D 8 b3	N-0° (楕円形)	(楕円形)	0.52 × (0.40)	12	平坦	外傾	人為	-	本跡→SK549
557	D 8 b3	-	円形	0.38	12	平坦	緩斜	人為	-	
558	D 8 h1	-	円形	1.23	29	平坦	緩斜	人為	-	SI25→本跡
562	D 7 e5	-	円形	1.00	12	直状	緩斜	人為	-	本跡→SI17→SB8

2 強生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡7軒、土坑3基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 堅穴住居跡

第5号住居跡 (第113・114図)



第113図 第5号住居跡実測図

位置 調査区北部のC 610区で、標高24mほどの台地の平坦部に位置している。

規模と形状 長軸556m、短軸463mの長方形で、主軸方向はN-26°-Wである。壁高は10~25cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉を中心とした穴とP 5の手前と、北側の壁にかけて踏み固められている。

炉 中央部に付設された地床炉である。規模は長径71cm、短径59cmである。炉床部は床面を11cm掘りくぼめしており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

- | | | | | | |
|---|------|-------------------------|---|----|--------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量 | 3 | 褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック中量 |
| 2 | 暗赤褐色 | 焼土ブロック中量、炭化物少量 | 4 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |

ピット 5か所。P 1~P 4は深さ66~69cmで、配置から主柱穴である。P 5は深さ38cmで、位置や硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説(各ピット共通)

- | | | | | | |
|---|-----|---------------|---|----|------------------|
| 1 | 黒褐色 | 炭化物少量、ローム粒子微量 | 3 | 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック少量 | 4 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |

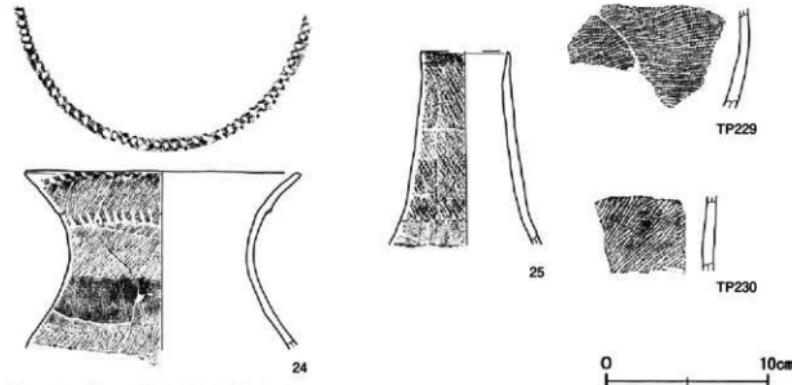
覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | | | | | |
|---|-----|-----------------------|---|-----|-----------------------|
| 1 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 | 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 | 褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 |

遺物出土状況 弥生土器片35点(広口壺34、壺1)が出土している。また、流れ込んだ縄文土器片67点(深鉢)、土師器片35点(壺)、罐3点も出土している。24・25は北寄りに、TP229は南東寄りに、TP230は南寄りの床面からそれぞれ出土している。その他の弥生時代の出土器は、細片のため図示できないが、図示した土器と同様に附加条一種縄文の施文がみられる。

所見 時期は、出土土器から後期中葉に比定できる。



第114図 第5号住居跡出土遺物実測図

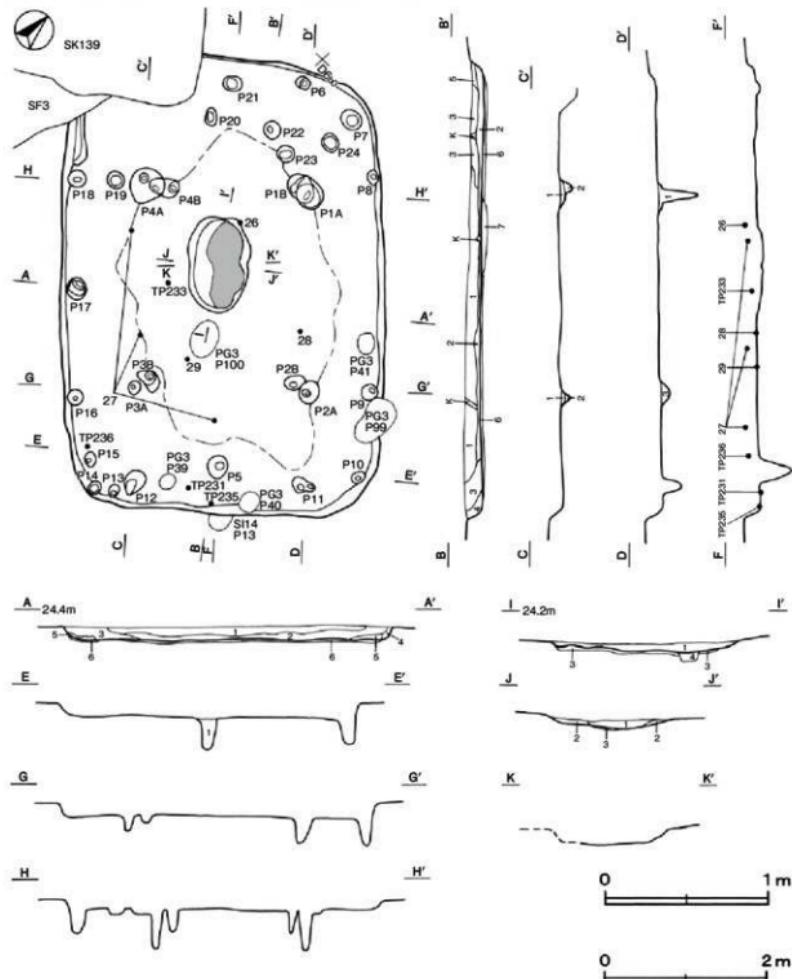
第5号住居跡出土遺物観察表(第114図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
24	弥生土器	広口壺	169	(110)	-	長石・石英	灰褐色	普通	口唇部山形の削み 縄文・頭部附加条一種(附加2条) 附加条一種(附加2条) 縄文	床面	30% PL29
25	弥生土器	壺	[54]	(120)	-	長石・石英・ 雲母	にひ・黄褐色	普通	口縁部・肩部無文部 頭部外縫附加条一種(附加2条) 縄文	床面	10% PL40

番号	種別	器種	施土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP229	生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい青	割部外面附加条一種（附加2委）縦文施文	床面	
TP230	生土器	広口壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい青	割部外面無筋縦文施文	床面	

第9号住居跡（第115・116図）

位置 調査区中央部のD 6 b0 区で、標高 24.2 m ほどの台地の平坦部に位置している。



第115図 第9号住居跡実測図

重複関係 第14号住居跡、第2号陥穴を掘り込み、第3号道路、第139号土坑、第3号ピット群（P 39～P 41・P 99・P100）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸5.62m、短軸3.97mの隅丸長方形で、主軸方向はN-43°-Wである。壁高は10～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉を中心に主柱穴間と南側のP 5の手前と、北側のP 20～P 23の手前にかけて踏み固められている。壁溝が西コーナー部に残存している。

炉 中央部に付設された地床炉である。規模は長径115cm、短径83cmである。炉床部は床面を10～24cm掘りくぼめて、炉床面は火を受けて赤変硬化している。第3・4層は掘方の覆土である。

炉土層解説

1	暗赤褐色	燒土ブロック多量、炭化粒子・ロームブロック少量	3	にい赤褐色	ロームブロック多量、燒土ブロック中量
2	黒褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	4	暗褐色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量

ピット 28か所。P 1 A～P 4 Aは深さ30～46cm、P 1 B～P 4 Bは深さ30～60cmで、配置から主柱穴である。また、P 1 B～P 4 BはP 1 A～P 4 Aに掘り込まれていることから建て替え前の主柱穴である。P 5は深さ44cmで、位置や硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6～P 18は深さ8～34cmで、壁際に位置していることから壁柱穴と考えられる。その他のP 19～P 24は深さ8～11cmで、いずれも性格は不明である。

ピット土層解説（P 1 A・P 2 A・P 3 A・P 4 A・P 5共通）

1	黒色	ロームブロック微量	3	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック微量			

覆土 5層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示す自然堆積である。第6・7層は貼床の構築土である。

土層解説

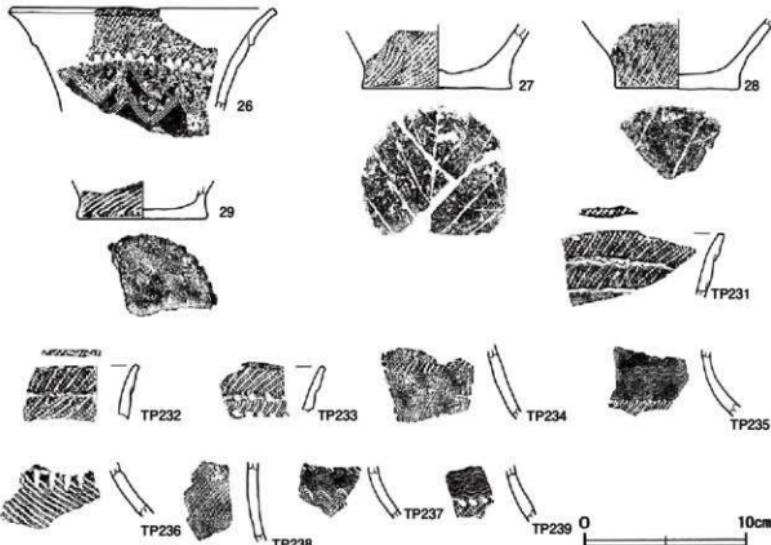
1	黒色	ロームブロック微量	5	暗褐色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子微量、燒土粒子・炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
3	暗褐色	ロームブロック少量、燒土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 弥生土器片229点（広口壺）、石英片19点、礫6点、粘土塊12点のほか、流れ込んだ縄文土器片33点（深鉢）、土師器片18点（壺）、須恵器片3点（壺2、甕1）も出土している。26は炉北側付近、27は南西部と南部から破片の状態で、28は東寄り、29は炉の南側に、TP231・235は南壁寄り、TP233は炉の西側付近、TP236は南西壁寄りの、それぞれ床面から出土している。TP232・234・237は北東壁際、TP238・239は北西壁際の覆土下層からそれぞれ出土している。また、石英片は炉の北側と南東壁寄りの床面及び、P 2・P 5内から散在して出土している。石英片の総重量は729gである。その他の弥生時代の出土土器は、細片のため図示できないが、図示した土器と同様に櫛歯状工具による施文がみられる。

所見 時期は、出土土器から後期中葉に比定できる。

第9号住居跡出土遺物観察表（第116回）

番号	種別	器種	L1径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土地	備考
26	弥生土器	広口壺	(16.1)	(6.4)	-	長石・石英・雲母・繊維	灰黄褐	普通	口唇部繩文原体押圧、口縁部附加条一種（附加2条）繩文 下端に山形の刺突文 腹部外側4条の山形沈線	床面	5%
27	弥生土器	広口壺	-	(4.0)	9.2	長石・石英	にい赤	普通	腹部外側附加条一種（附加2条）繩文 底部木葉痕	床面	5% PL29
28	弥生土器	広口壺	-	(4.4)	(7.5)	長石・石英・雲母	にい赤	普通	腹部外側附加条一種（附加2条）繩文 底部木葉痕	床面	5%
29	弥生土器	広口壺	-	(2.3)	(8.0)	長石・石英・少虫砂粒子	にい青白	普通	腹部外側附加条一種（附加2条）繩文	床面	5%



第116図 第9号住居跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	胎土	色調	手 法 の 特徴 は か	出土位置	備考
TP231	陶生土器	広口壺	長石・雲母	にぶい・褐	口唇部織文原体押圧、二段複合口縁外面附加条一種 種(追加2条)織文施文	床面	
TP232	陶生土器	広口壺	石英・雲母	にぶい・褐	口唇部織文原体押圧、二段複合口縁外面附加条一種 種(追加2条)織文施文	覆土下層	
TP233	陶生土器	広口壺	長石・雲母	にぶい・褐	口唇部織文原体押圧、二段複合口縁外面附加条一種 種(追加2条)織文施文	床面	
TP234	陶生土器	広口壺	長石・赤色粒子	にぶい・黄橙	頭部外周側面彫状工具による沈痕文、胸部外面附加条一種(追加2条)織文施文	覆土下層	
TP235	陶生土器	広口壺	長石・石英	にぶい・褐	頭部外周側面彫状工具による沈痕文、胸部外面附加条一種(追加2条)織文施文	床面	
TP236	陶生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい・褐	頭部外周側面彫状工具による沈痕文、胸部外面附加条一種(追加2条)織文施文	床面	
TP237	陶生土器	広口壺	長石・石英・赤色粒子	黒褐	頭部外周側面彫状工具による沈痕文、胸部外面附加条一種(追加2条)織文施文	覆土下層	
TP238	陶生土器	広口壺	長石・石英	にぶい・褐	頭部外周側面彫状工具による格子目の沈痕文施文	覆土下層	
TP239	陶生土器	広口壺	長石・石英・赤色粒子	にぶい・褐	頭部外周側面彫状工具による波状沈痕文、下笠 L R 織文施文、始文側底凹上による割裂文施文	覆土下層	

第 11 号住居跡 (第 117 ~ 119 図)

位置 調査区西部のD 6 h0 区で、標高 24 m ほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第3号ビット群 (P137) に掘り込まれている。

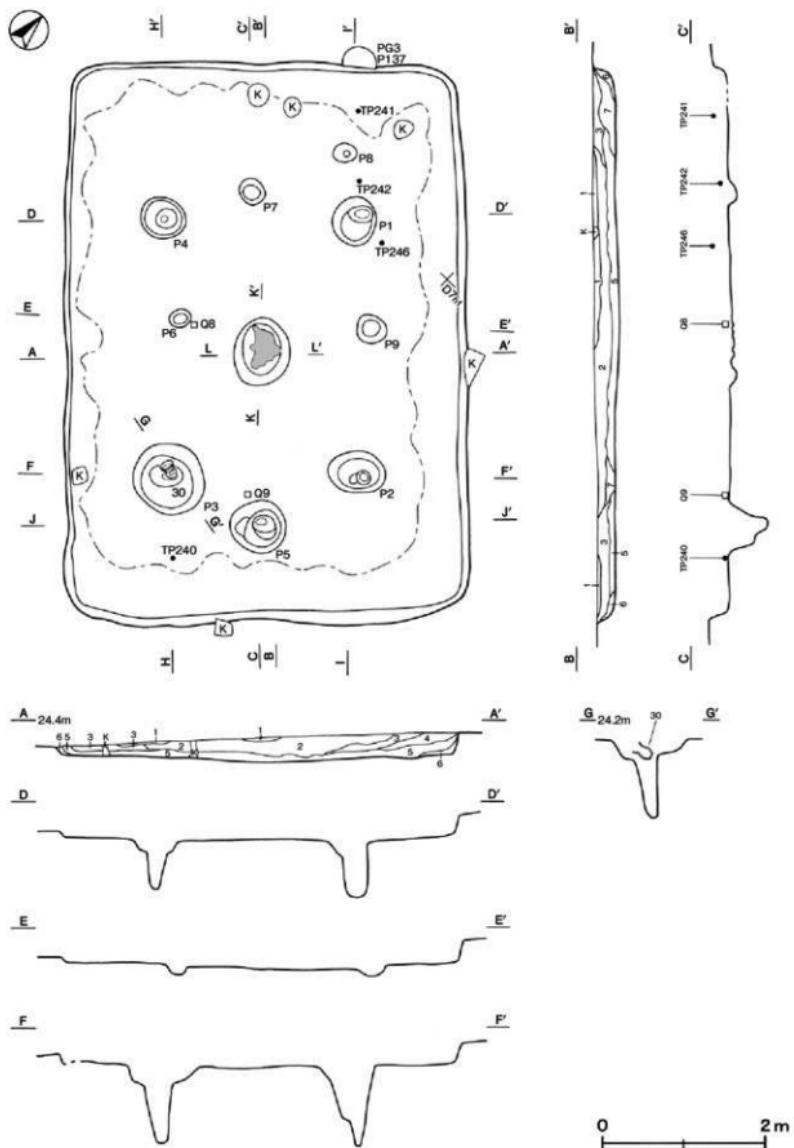
規模と形状 長軸 6.95 m、短軸 4.94 m の長方形で、主軸方向は N - 48° - W である。壁高は 8 ~ 30 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉を中心柱穴を廻るよう踏み固められている。

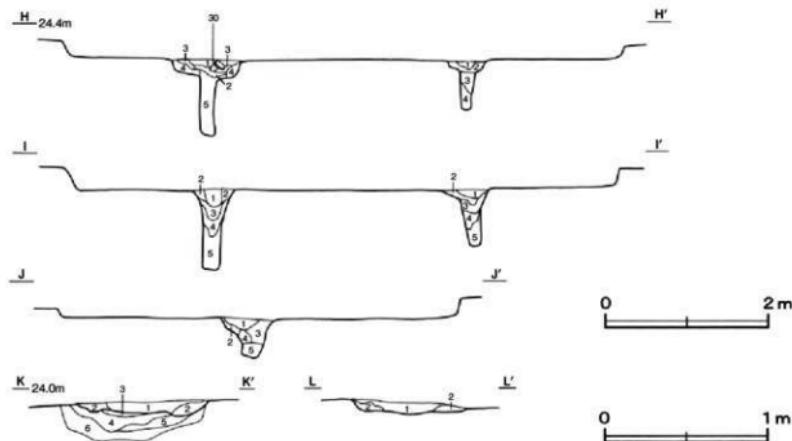
炉 中央部に付設された地床炉である。規模は長径 80 cm、短径 69 cm である。炉床部は床面を 6 ~ 10 cm 挖りくぼめており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。第 3 ~ 6 層は掘方の覆土である。

炉土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 細赤褐色 燐土ブロック多量 |
| 2 細褐色 ロームブロック中量 | 5 細褐色 ロームブロック・燐土ブロック多量 |
| 3 細赤褐色 燐土ブロック多量、ロームブロック中量 | 6 細褐色 ロームブロック多量、燐土粒子微量 |



第117図 第11号住居跡実測図（1）



第118図 第11号住居跡実測図 (2)

ピット 9か所。P 1～P 4は深さ 58～98cmで、配置から主柱穴である。P 5は深さ 55cmで、位置や硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6・P 7・P 9は深さ 8～21cmで、主柱穴の間に位置していることから支柱穴と考えられる。P 8は深さ 18cmで、性格は不明である。

ピット土層解説 (P 1・P 2・P 4・P 5共通)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 増褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック多量 | 5 暗褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック中量 | |

ピット土層解説 (P 3)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 4 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 黄褐色 ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック多量 | |

- | |
|-----------------|
| 4 増褐色 ロームブロック中量 |
| 5 暗褐色 ロームブロック多量 |

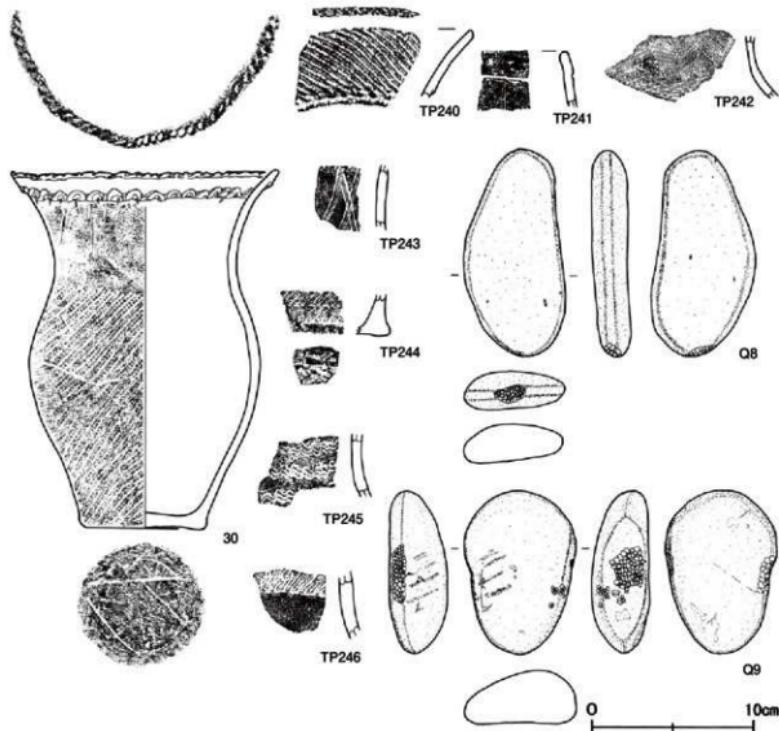
覆土 7層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示す自然堆積である。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 灰赤褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子少量 |
| 2 黑褐色 ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量・炭化物少量 |
| 3 暗褐色 焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子少量・焼土粒子微量 |
| 4 増褐色 ロームブロック中量・焼土粒子・炭化粒子微量 | |

遺物出土状況 弥生土器片 27点（広口壺 26, 壺 1）、石器3点（敲石2, 磨石1）のほか、混入した繩文土器片 153点（深鉢）、近世磁器片 1点（皿）も出土している。30はP 3内から出土しており、土層の観察から柱抜き取り後に意図的に埋められたと考えられる。TP240は南東寄り、Q 9はP 5付近、Q 8はP 6付近の床面から、TP241はP 8付近、TP242～246はP 1付近の覆土上層からそれぞれ出土している。その他の弥生時代の出土土器は、細片のため図示できないが、図示した土器と同様に、胴部に単節繩文を施す様相を示している。

所見 時期は、出土土器から後期中葉に比定できる。



第119図 第11号住居跡出土遺物実測図

第11号住居跡出土遺物観察表（第119図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
30	弥生土器	広口壺	162	221	73	長石・石英・雲母	灰黄褐色	普通	口縁部竹管による押圧 口縁部下端指痕による押圧 底部外面無文、胴部單筋LR繩文、底部木割痕	P 3 内	95% PL39
TP240	弥生土器	広口壺				長石・石英・雲母	暗褐色		口縁部縦谷体原形押圧 縫合口縁部外縫附加条一種(附加2条) 繩文施文 下端山形の刺突文を施文	床面	
TP241	弥生土器	壺				長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄褐色		口縁部外縫附加条縫合を含らず、面部縫合と横位の沈線文を施文	覆土上層	
TP242	弥生土器	広口壺				石英・雲母	にぶい黄褐色		頭部外縫附加条工具による8本単位の格子目と横位の沈線	覆土上層	
TP243	弥生土器	広口壺				長石・石英・雲母	灰黄褐色		頭部外縫附加条工具による4本単位の格子目の沈線	覆土上層	
TP244	弥生土器	広口壺				長石・石英・雲母	明赤褐色		頭部下端外縫附加条一種(附加2条) 繩文 底部木割痕	覆土上層	
TP245	弥生土器	広口壺				長石・石英	にぶい黄褐色		頭部外縫附加条工具による4本単位の波状沈線を施文	覆土上層	
TP246	弥生土器	広口壺				長石・石英・小纏	にぶい褐色		頭部外縫附加条一種(附加2条) 繩文施文、頭部無文帶	覆土上層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 8	敲石	128	63	23	265.3	砂岩	1面使用			床面	PL40
Q 9	敲石	100	68	35	325.7	砂岩	2面使用			床面	

第16号住居跡（第120図）

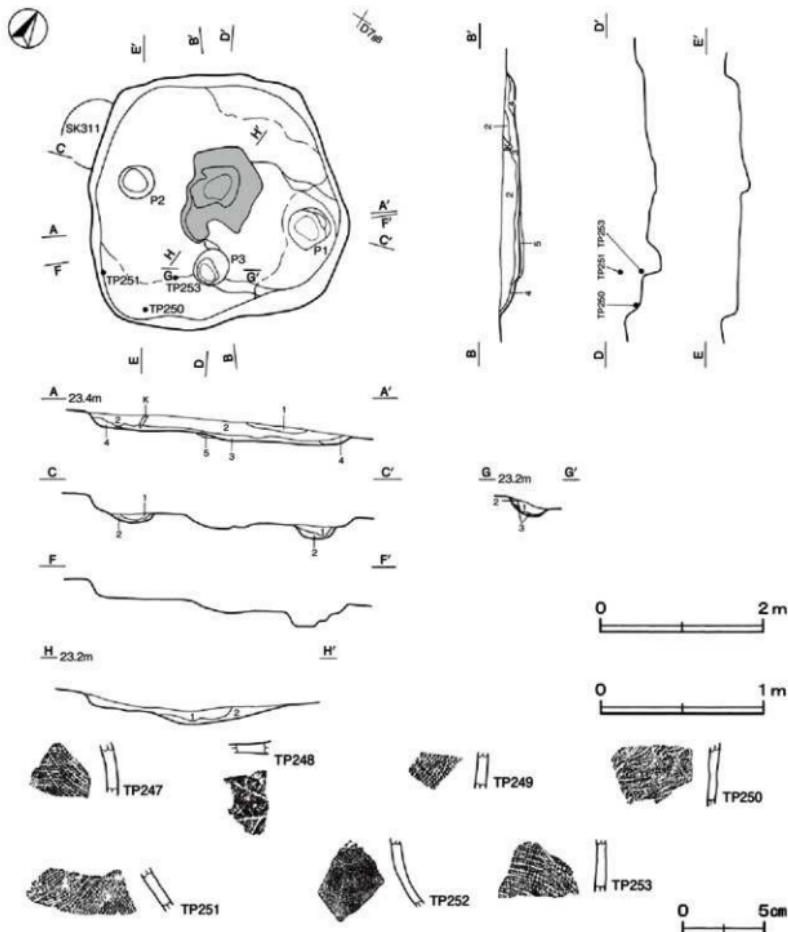
位置 調査区中央部のD 7 b7 区で、標高 23 m ほどの台地の緩斜面部に位置している。

重複関係 第309・311号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.20 m、短軸 3.12 m の開丸方形で、主軸方向は N - 56° - E である。壁高は 11 ~ 19 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、炉を中心に入れむように踏み固められている。

炉 中央部に付設された地床炉である。規模は長径 84 cm、短径 78 cm である。炉床部は床面を 6 ~ 10 cm 挖り下



第120図 第16号住居跡・出土遺物実測図

はめており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 黒褐色 燃土ブロック少量、炭化物・ローム粒子微量 2 黑褐色 ロームブロック少量、燃土粒子・炭化物微量

ピット 3か所。P 1～P 3は深さ 12～18cmで、配置から主柱穴であると考えられる。

ピット土層解説（各ピット共通）

1 黑褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ロームブロック微量 3 暗褐色 炭化粒子・ロームブロック少量

覆土 4層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示す自然堆積である。第5層は貼床の構築土である。

土層解説

1 暗灰色 ローム粒子微量 4 暗褐色 ロームブロック・燃土ブロック・炭化粒子少量
2 黑褐色 ローム粒子・燃土粒子微量 5 黑色 ローム粒子・燃土粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色 ロームブロック・燃土粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片 8点（広口壺）のほか、流れ込んだ繩文土器片 19点（深鉢）、環1点も出土している。TP250は南壁際、TP248はP 2付近、TP253はP 3付近の床面から出土している。TP247・252は南壁寄り、TP249は北壁寄りの覆土下層から、TP251は南壁際の覆土上層からそれぞれ出土している。また、その他の弥生時代の出土土器は、図示できた土器と同様に、胴部に附加条縄文を施す様相を示している。

所見 時期は、出土土器から後期と思われる。

第16号住居跡出土遺物観察表（第120図）

番号	種別	部種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP247	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	褐色	胴部外面附加条一種（附加2条）繩文施文	覆土下層	
TP248	弥生土器	広口壺	長石・石英	明褐色	底部本彫痕	床面	
TP249	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	明褐色	胴部外面附加条一種（附加2条）繩文施文	覆土下層	
TP250	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐色	胴部外面附加条一種（附加2条）繩文施文	床面	
TP251	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	胴部外面附加条一種（附加2条）繩文施文	覆土上層	
TP252	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい褐色	頭部附加条一種（附加2条）繩文施文し剥突文を残す	覆土下層	
TP253	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	胴部外面附加条一種（附加2条）繩文施文	床面	

第21号住居跡（第121図）

位置 調査区南部のD 716区で、標高 24 m ほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第411号土坑を掘り込み、第4号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 4.33 m、短軸 3.58 m の隅丸長方形で、主軸方向は N - 58° - W である。壁高は 12～18cm で、外傾して立ち上がっている。

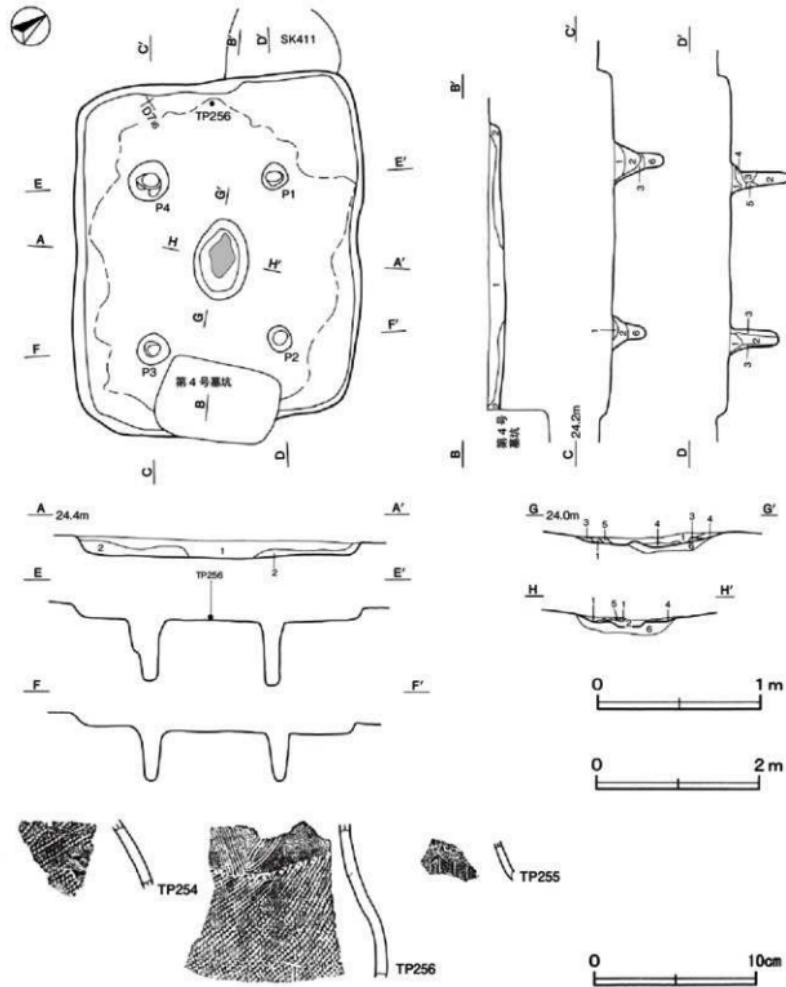
床 ほぼ平坦で、炉と主柱穴を囲むように踏み固められている。

炉 中央部に付設された地床炉である。規模は長径 96cm、短径 66cm である。炉床部は床面を 9～11cm 掘りくぼめており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 4 に高い赤褐色 燃土ブロック中量、ローム粒子微量
2 箱赤褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 5 褐色 ロームブロック多量
3 箱赤褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 6 箱赤褐色 燃土ブロック多量、炭化粒子微量

ピット 4か所。P 1～P 4は深さ 64～78cm で、配置から主柱穴である。



第121図 第21号住居跡・出土遺物実測図

ピット土層解説 (各ピット共通)

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 4 黒褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 褐色 炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子微量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量 |

覆土 2層に分層できる。周囲から流入した堆積状況から自然堆積とみられる。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒色 焼土ブロック中量、ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|--------------------------------|-----------------------------|

遺物出土状況 弥生土器片 2 点（広口壺）のほか、流れ込んだ繩文土器片 78 点（深鉢）、土師器片 1 点（壺）、礫 5 点も出土している。TP254 は西壁寄りの床面から、TP256 は北西側の覆土下層から、TP255 は北西側の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期中葉であると思われる。

第 21 号住居跡遺物観察表（第 121 図）

番号	種 別	部種	胎 土	色 調	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP254	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	腹部外縁附加条一種（附加 2 条）繩文施文	床面	
TP255	弥生土器	広口壺	長石・石英	にぶい橙	腹部外縁波状縞文を施文	覆土中層	
TP256	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい黄褐	腹部外縁格子目の沈縞文を施文 基部に刺突文を施す。腹部外縁附加条一種の繩文	覆土下層	PL40

第 22 号住居跡（第 122 図）

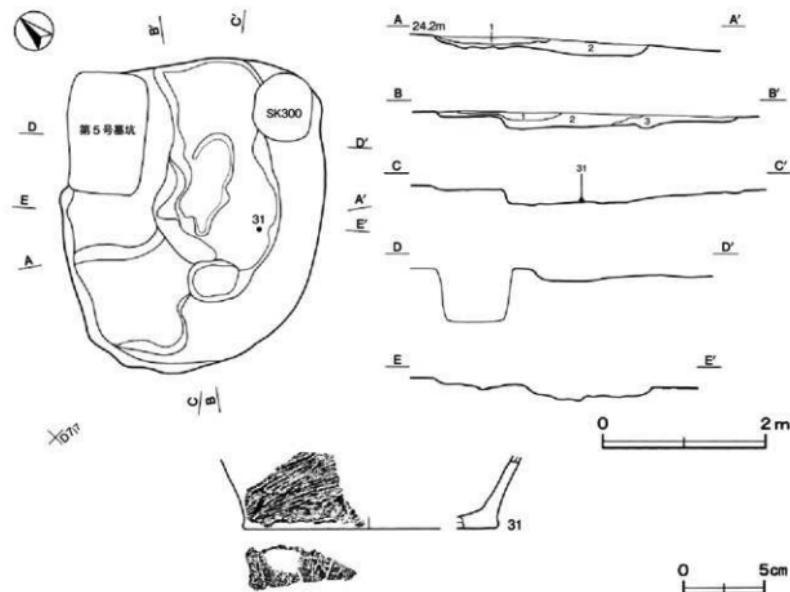
位置 調査区南部の D 717 区で、標高 24 m ほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号墓坑、第 300 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 3.80 m、短径 3.22 m の橢円形で、長軸方向は N - 37° - E である。壁高は 2 ~ 10 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 凹凸があり、硬化面は確認できなかった。

覆土 3 層に分層できる。レンズ状に堆積しているが、ロームブロックが多く混入していることから埋め戻さ



第 122 図 第 22 号住居跡・出土遺物実測図

れでいると考えられる。

土層解説

1	黒	色	ロームブロック中量
2	黒	色	ロームブロック多量

3 塗 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 弥生土器片1点(広口壺)のほか、混入した縄文土器片7点(深鉢)も出土している。31は南寄りの床面から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期の所産であると思われる。また、本跡は床面が凸凹で、炉や柱穴も確認できないことから、何らかの理由で構築途中に、中断した可能性がある。

第22号住居跡出土遺物観察表(第122図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
31	弥生土器	広口壺	-	(43)	(157)	長石・石英・赤色粒子	にぬき陶	普通	側部外表面に施文	底部木葉痕	床面 5% PL40

第23号住居跡(第123・124図)

位置 調査区南部のD7J9区で、標高24mほどの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第550号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸620m、短軸462mの隅丸長方形で、主軸方向はN-54°-Wである。壁高は15~28cmで、外傾して立ち上っている。

床 ほぼ平坦で、四隅を除く壁際まで踏み固められている。北西壁に焼土塊が確認できた。

炉 中央部に付設された地床炉である。規模は長径78cm、短径74cmである。炉床部は床面を9~11cm掘りくぼめており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。第2・3層は掘方の覆土である。

炉土層解説

1	暗	赤褐色	燒土ブロック・炭化物中量、ロームブロック少量	3	暗	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
2	暗	赤褐色	ロームブロック・燒土ブロック多量、炭化物中量					

ピット 26か所。P1~P4は深さ32~40cmで、配置から主柱穴である。P5は深さ56cmで、位置や硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P6・P7・P11~P16・P18~P20・P22~P26は深さ16~53cmで、壁際に位置していることから壁柱穴と考えられる。その他のP8~P10・P17・P21は深さ15~44cmで、いずれも性格は不明である。

ピット土層解説(P1・P2・P5共通)

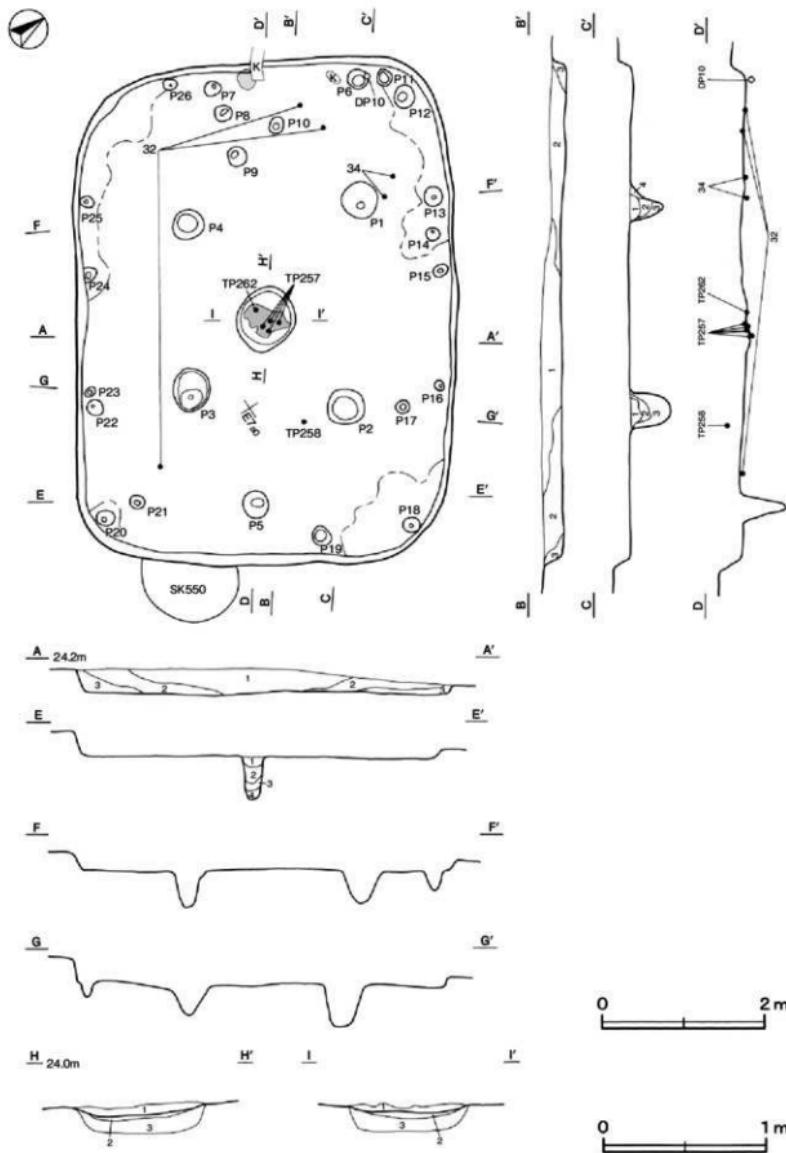
1	黒	褐	色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	3	黒	褐	色	ロームブロック中量
2	黒	褐	色	ロームブロック多量	4	明	褐	色	ロームブロック多量

覆土 3層に分層できる。周囲から流入した堆積状況から自然堆積とみられる。

土層解説

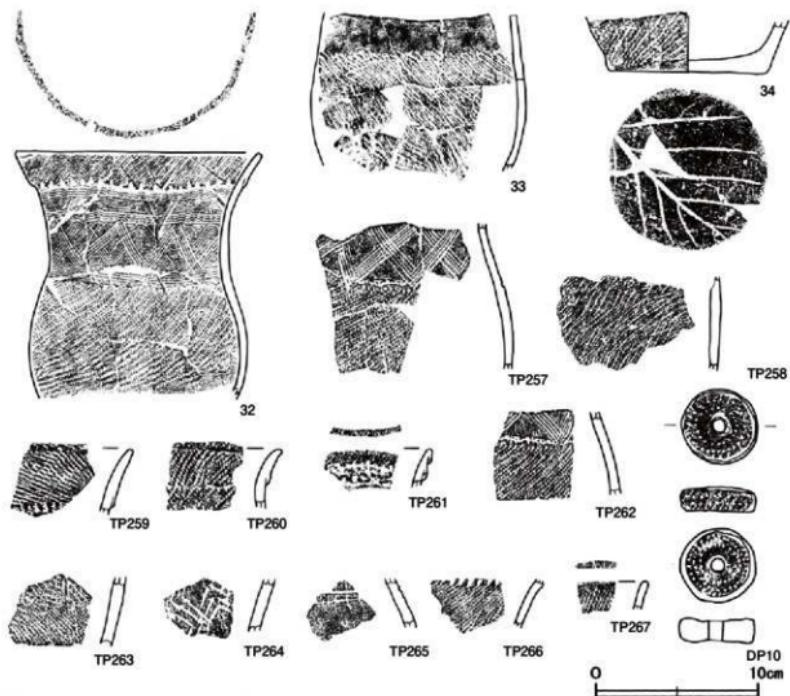
1	黒	褐	色	ロームブロック中量、燒土粒子少量、炭化粒子微量	3	黒	褐	色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量
2	黒	褐	色	ロームブロック中量、燒土粒子・炭化粒子微量					

遺物出土状況 弥生土器片80点(広口壺)、土製品1点(紡錘車)、石英片6点、粘土塊1点、被熱疊3点のほか、流れ込んだ縄文土器片58点(深鉢)、土師器片51点(甕)、石器3点(剥片)が出土している。32は北西部と南部の床面に散在して、34は北部の床面から、DP10はP6内からそれぞれ出土している。また、33は北壁際の覆土下層、TP258は北東側の覆土上層、TP262・257は炉内からそれぞれ出土している。TP259・260・266・267は北西側、TP261は北東側、TP263は南西側、TP264・265は南東側の覆土上層からそれぞれ出土している。石英片6点は西壁寄りの床面とP8から出土しており、総重量は30.94gである。その他の弥生時代の



第123図 第23号住居跡実測図

出土土器は、細片のため図示できないが、図示した土器と同様に櫛歯状の沈線文を施文する様相を示している。
所見 時期は、出土土器から後期中葉に比定できる。



第124図 第23号住居跡出土遺物実測図

第23号住居跡出土遺物観察表（第124図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
32	弥生土器	広口壺	14.8	(15.1)	—	長石・石英・雲母	褐	普通	L1脇部織文原体押圧 口縁・脇部附加条一種織文 下端壓立の押圧 脇部外面4条の山形と波形沈線	床面	50% PL39
33	弥生土器	広口壺	—	(9.6)	—	長石・石英	褐	普通	脇部無文 脇部附加条一種（附加2条）織文	覆土下層	10% PL40
34	弥生土器	広口壺	—	(3.3)	9.6	長石・石英	褐	普通	脇部附加条一種（附加2条）織文 底部木葉痕	床面	20% PL40

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP257	弥生土器	広口壺	長石・雲母	黒褐	脇部外周櫛歯状工具による4本單位の格子目の沈線 施文 脇部外周附加条二種（附加2条）織文施文	室内	TP262と同一個体
TP258	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母・小理	にぶい赤褐	脇部外周附加条一種（附加2条）織文施文	覆土上層	
TP259	弥生土器	広口壺	長石・石英	暗褐	L1脇部織文原体押圧 緊合口縁部外周附加条一種 織文施文 下端棒状工具押圧	覆土上層	
TP260	弥生土器	広口壺	長石・石英	暗褐	L1脇部織文原体押圧 緊合口縁部外周附加条一種 織文施文	覆土上層	
TP261	弥生土器	広口壺	長石・石英	にぶい赤褐	2段の複合1層 L1脇部織文原体押圧 口縁部外 周附加条一種織文施文 下端棒状工具押圧	覆土上層	
TP262	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい褐	脇部外周櫛歯状工具による4本單位の格子目の沈 線を施文 脇部外周附加条一種（附加2条）織文 施文	室内	TP257と同一個体

番号	種別	部種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP263	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	にぶい赤褐色	側部外縁附加条一種(附加2条)縄文施文	覆土上層	
TP264	弥生土器	広口壺	長石・石英・赤色粒子	橙	側部外縁斜面状工具による3本単位の波状文を施文	覆土上層	
TP265	弥生土器	広口壺	長石・石英	にぶい黄橙	側部外縁斜格子目文を施文	覆土上層	
TP266	弥生土器	広口壺	長石・石英	黒褐	口縁部棒状工具による押圧を施す 口縁部外縁附加条一種縄文施文	覆土上層	
TP267	弥生土器	広口壺	長石・石英	黒褐	口縁部棒状工具による押圧を施す 口縁部外縁附加条一種の縄文施文	覆土上層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
DP10	跡跡車	4.6	1.5	0.9	34.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	上面・側面に2列の刺突文 底面に3列の刺突文を巡らす	P 6 内	PL40

表5 弥生時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形 長軸×短軸(cm) (径)(幅)	壁高 (cm)	床面	腰溝	内部施設			出土	時期	備考 重複関係(古→新)	
							柱穴	出入口	ビット				
5	C 610	N-26°-W	長方形	5.56 × 4.63	10 ~ 25	平坦	-	4	1	-	かく	-	自然 弥生土器 石英 後期中葉
9	C 610	N-43°-W	圓丸長方形	5.62 × 3.97	10 ~ 20	平坦	-	8(4)	1	19	かく	-	自然 弥生土器 石英 後期中葉 SK139, PG3
11	D 610	N-48°-W	長方形	6.95 × 4.94	8 ~ 30	平坦	-	4	1	4	かく	-	自然 弥生土器 砂石 後期中葉 本跡 → PG3
16	D 717	N-56°-E	圓丸方形	3.20 × 3.12	11 ~ 19	平坦	-	3	-	-	かく	-	自然 弥生土器 後期 SK309-3II → 本跡
21	D 716	N-58°-W	圓丸長方形	4.33 × 3.58	12 ~ 18	平坦	-	4	-	-	かく	-	自然 縄文土器 弥生土器 土蔵器 後期中葉 第4号墓坑 本跡 → 第5号墓坑 SK411 → 本跡 → SK300
22	D 717	N-37°-E	橢円形	3.80 × 3.22	2 ~ 10	凸凹	-	-	-	-	-	-	人為 弥生土器 蒼鍬車 後期
23	D 719	N-54°-W	圓丸長方形	6.20 × 4.62	15 ~ 28	平坦	-	4	1	21	かく	-	自然 弥生土器 蒼鍬車 後期中葉 SK360 → 本跡

(2) 土坑

第247号土坑(第125図)

位置 調査区中央部南寄りのD 7 g1区、標高24.2mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.50mの円形で、深さは20cmである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

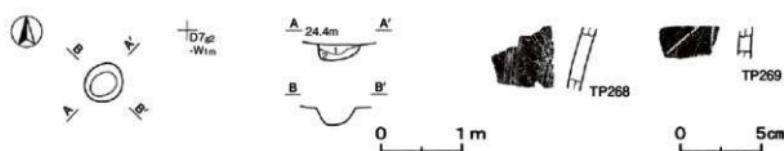
土層解説

1 埋 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 植 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 弥生土器片1点(広口壺)が出土している。混入した縄文土器片3点(深鉢)も出土している。

TP268・269は、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と思われる。土器片が覆土中から出土していることから、混入の可能性があるが、遺構の形状や覆土が埋め戻されていることから墓坑の可能性も考えられる。



第125図 第247号土坑・出土遺物実測図

第247号土坑出土遺物観察表（第125図）

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP268	弥生土器	広口壺	長石・石英	にぶい褐色	頭部4本単位の鋸歯状工具による格子目の沈線	覆土中	
TP269	弥生土器	広口壺	長石・石英	にぶい褐色	頭部鋸歯状工具による沈線	覆土中	

第250号土坑（第126図）

位置 調査区中央部南寄りのD 7g1区、標高24.2mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径120m、短径0.83mの楕円形で、長径方向はN-50°-Eである。深さは18cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

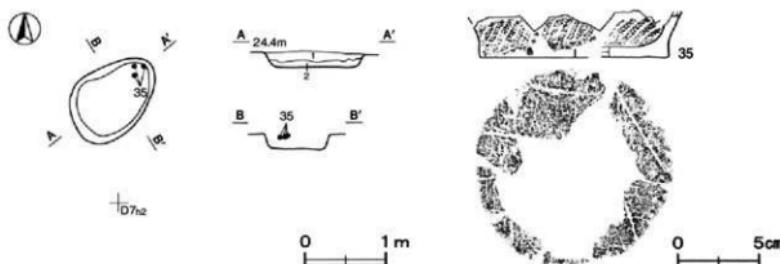
1 埋 地 色 ロームブロック中量

2 埋 地 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 弥生土器片2点（広口壺）が出土している。混入した縄文土器片5点（深鉢）も出土している。

35は、覆土上層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と思われる。土器片が覆土中から出土していることから、混入の可能性があるが、遺構の形状や覆土が埋め戻されていることから墓坑の可能性も考えられる。



第126図 第250号土坑・出土遺物実測図

第250号土坑出土遺物観察表（第126図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
35	弥生土器	広口壺	-	(28)	116	長石・石英・雲母	褐色	普通	頭部外周附加条一種（附加2条）縄文施文	底部	覆土上層

第421号土坑（第127図）

位置 調査区中央部南寄りのD 7g8区、標高23.8mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径213m、短径122mの楕円形で、長径方向はN-50°-Wである。深さは19cmで、底面は平坦であり、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

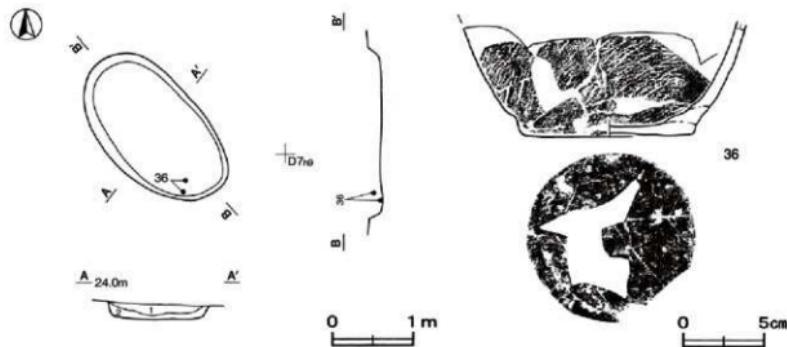
1 黒 地 色 ロームブロック中量

2 埋 地 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 弥生土器片10点（広口壺）が出土している。混入した縄文土器片4点（深鉢）も出土している。

36は、南壁際の底面から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から後期前葉と思われる。



第127図 第421号土坑・出土遺物実測図

第421号土坑出土遺物観察表（第127図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
36	弥生土器	広口壺	-	(7.0)	10.3	長石・石英・ 雲母	橙	普通	側部外面撲糸文施文 底部木葉痕	底面	PL40

表6 弥生時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
247	D 7 g1	-	円形	0.50	20	平坦	外傾	人為	縄文土器、弥生土器	重複関係(古→新)
250	D 7 g1	N 50° - E	椭円形	1.20 × 0.83	18	平坦	外傾	人為	縄文土器、弥生土器	
421	D 7 g8	N 50° .W	椭円形	2.13 × 1.22	19	平坦	外傾	人為	縄文土器、弥生土器	

3 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴住居跡4軒を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

竪穴住居跡

第19号住居跡（第128・129図）

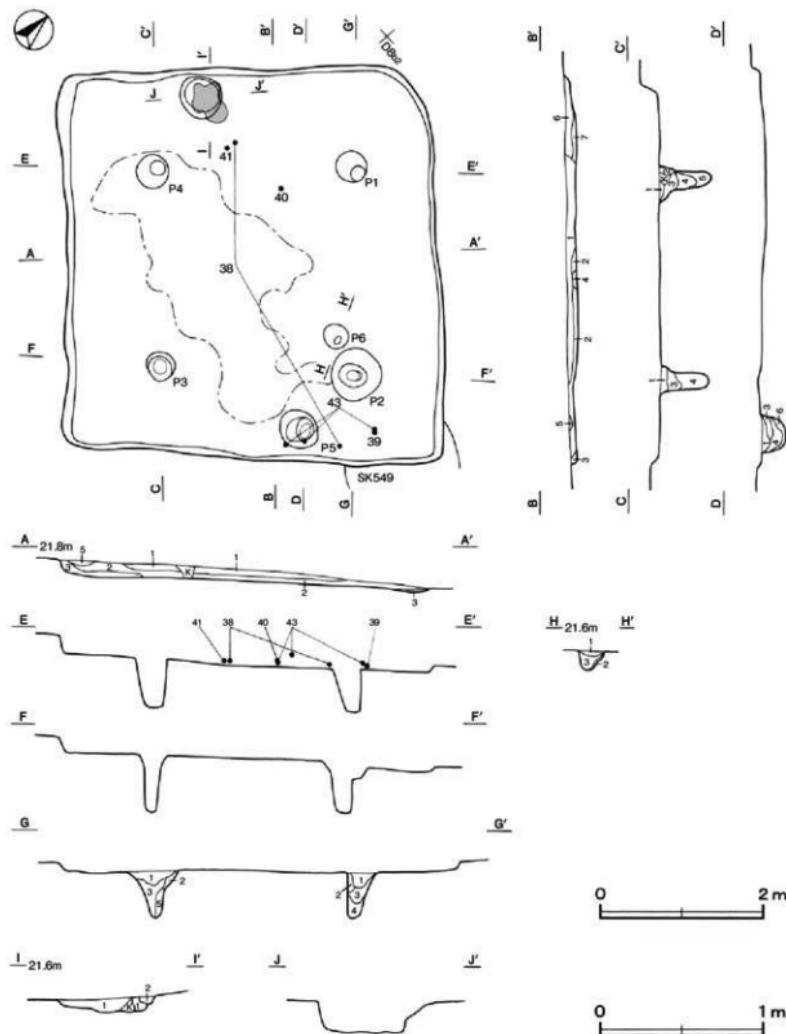
位置 調査区東部のD 8 b2区、標高21.4mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第3号陥し穴、第549号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.82m、短軸4.60mの方形で、主軸方向はN-66°-Wである。壁高は5~22cmで、ほぼ直立している。

床 ほぼ平坦で、炉の手前からP 5にかけての西側が踏み固められている。

炉 西壁寄りに付設された地床炉である。規模は長径61cm、短径52cmである。炉床部は床面を8cm掘りくぼめており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。



第128図 第19号住居跡実測図

炉土層解説

1 暗赤褐色 煙土ブロック多量 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗赤褐色 煙土ブロック中量 炭化粒子微量

ピット 6か所。P 1～P 4は深さ 56～61cmで、配置から主柱穴である。P 5は深さ 31cmで、位置や硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ 23cmで、配置から、補助柱穴の可能性がある。

ピット土層解説 (各ピット共通)

1 黒 極 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	4 暗 極 色 ロームブロック少量
2 暗 極 色 ロームブロック中量	5 暗 極 色 ロームブロック多量、炭化物微量
3 暗 極 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量	6 極 色 ロームブロック多量、炭化物微量

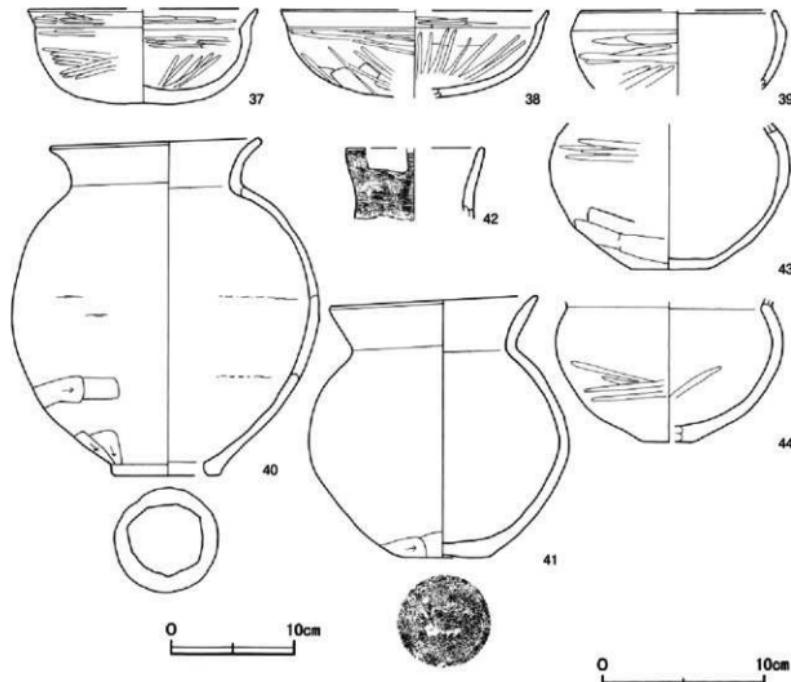
覆土 7層に分層できる。第1・2層は自然堆積である。第3層以下はロームブロックが多量に含まれることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 色 ロームブロック少量、焼土粒子微量	5 暗 極 色 焼土ブロック少量、炭化粒子微量
2 黒 極 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒 極 色 焼土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
3 暗 極 色 ロームブロック・焼土ブロック少量、炭化粒子微量	7 暗 極 色 ロームブロック・焼土ブロック少量
4 暗 極 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 土師器片74点(环63、甕2、壺9)、須恵器片1点(甕)が出土している。また、流れ込んだ繩文土器片16点(深鉢)、粘土塊1点、礫1点も出土している。39は東部、41は炉の東側付近、40は中央部からやや北壁寄りの覆土下層から、37は北西部の覆土中からそれぞれ出土している。43はP5内と東壁際から、38は炉の東側付近と南東壁際から出土した破片が接合したものである。その他の土器片は、細片のため図示できなかったが、成形技法は同時期の様相を示している。

所見 時期は、出土土器から5世紀後葉に比定できる。



第129図 第19号住居跡出土遺物実測図

第19号住居跡出土遺物観察表（第129図）

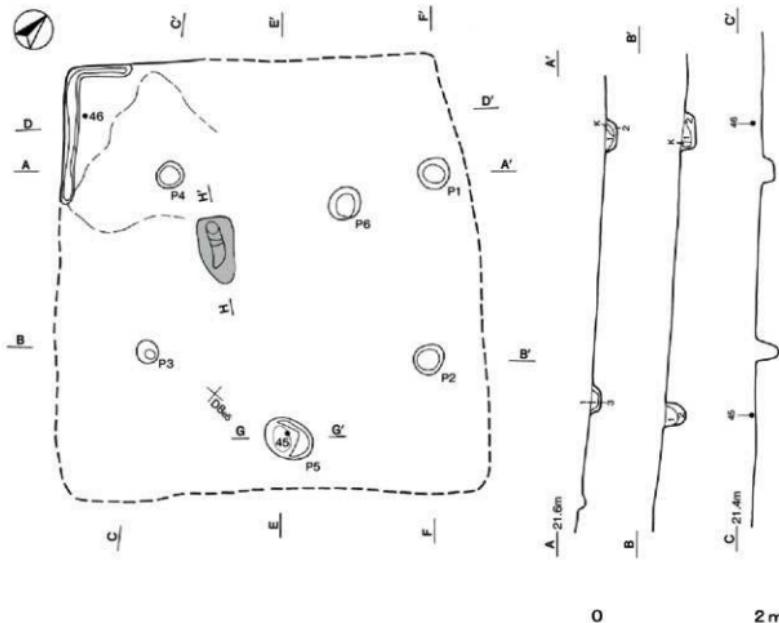
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
37	土師器	环	[14.2]	5.7	-	長石・石英、 碧母	明赤褐色	普通	体部外面横方向の磨き接続位の磨き 底部内面微 削伏状の磨き	覆土中	50% PL41
38	土師器	环	[16.4]	(5.5)	-	長石・石英、 碧母	[にぶい] 褐	普通	体部外面横方向の磨き 底部内面放射状の磨き 外側へ削り後剥離	覆土下層	30% PL41
39	土師器	环	[11.8]	(4.9)	-	長石・石英	褐灰	普通	LH縫隙部外・内面横ナデ 体部内面ナデ 外面横方向 の磨き	覆土下層	5%
40	土師器	甕	16.8	27.4	8.6	長石・石英、 赤色粒子	[にぶい] 淡	普通	LH縫隙部外・内面横ナデ 体部外面ナデ 下端ヘラ削 り 内面ナデ 底部穿孔	覆土下層	90%
41	土師器	小形甕	12.5	16.2	5.6	長石・石英、 赤色粒子	赤褐色	普通	LH縫隙部外・内面横ナデ 体部外面横方向のヘラ削り り 内面ナデ 底部穿孔	覆土下層	80% PL44
42	土師器	甕	[8.4]	(4.4)	-	長石・石英、 赤色粒子	[にぶい] 褐	普通	LH縫隙部に機械施工工具（4本）による横方向の沈締 を施す	覆土中	5%
43	土師器	甕	-	(9.0)	4.8	長石・石英、 碧母	[にぶい] 淡	普通	体部外面横方向の磨き 下端ヘラ削り 内面ナデ	覆土上層 —下層	30% PL44
44	土師器	小形甕	-	(8.7)	[3.1]	長石・石英、 碧母	[にぶい] 淡	普通	体部外面横方向の磨き 内面磨き	覆土中	25%

第20号住居跡（第130・131図）

位置 調査区東部のD 8d4区。標高21.2mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 削平によって、壁は一部しか確認できなかったが、壁溝や炉、柱穴の配置から一辺5.2mの方形で、主軸方向はN-43°-Wであることが推測できる。

床 東側にかけて削平され不明であるが、P 4の周辺が踏み固められている。西壁コーナー部に幅14~18cm、深さ8cmで、U字状の断面を呈する壁溝が確認できた。



第130図 第20号住居跡実測図

炉 中央部からやや西寄りに付設された地床炉である。規模は長径 82cm、短径 43cm である。炉床部は床面を 9cm 挖りくぼめており、炉床面は火を受けて赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 焼土ブロック多量 ロームブロック・炭化粒子微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック中量 炭化粒子微量

ピット 6か所。P 1～P 4 は深さ 18～27cm で、配置から主柱穴である。P 5 は深さ 20cm で、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6 は深さ 11cm で、性格は不明である。

ピット土層解説 (P 1～P 4 共通)

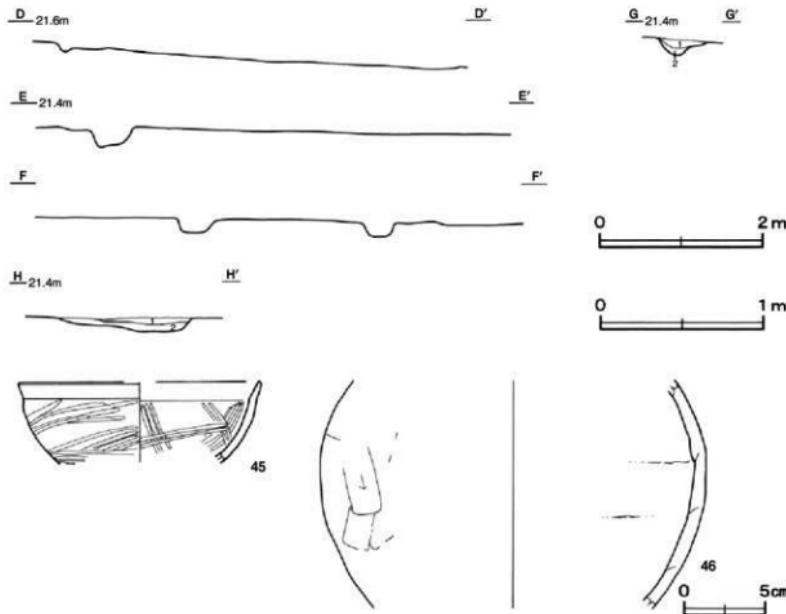
1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量
2 暗褐色 ロームブロック少量、炭化物微量

ピット土層解説 (P 5)

1 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

遺物出土状況 土師器片 6 点 (坏 4、壺 2) が出土している。45 は P 5 内から、46 は西壁際の床面からそれぞれ出土している。その他の土師器片は、細片のため図示できなかったが、成形技法は同時期の様相を示している。

所見 時期は、出土土器から 5 世紀後葉に比定できる。



第131図 第20号住居跡・出土遺物実測図

第20号住居跡出土遺物観察表 (第131図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
45	土師器	环	(148)	(5.0)	-	長石・石英・雲母	明赤褐色	普通	口縁部外・内面横ナデ 体部外面斜傾の磨き後横方向の磨き 内面磨き	P 5 内	10%
46	土師器	壺	-	(141)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘタ削り後ナデ 内面ナデ	床面	5%

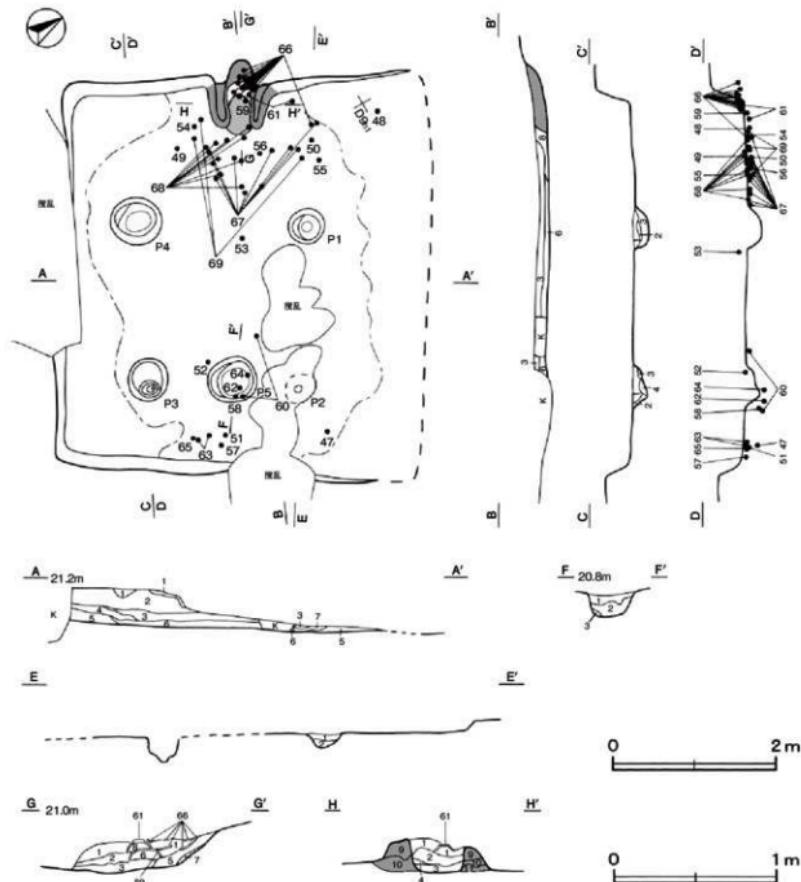
第26号住居跡（第132～135図）

位置 調査区東端部のD 9 h1 区、標高 21.0 m の緩斜面に位置している。

規模と形状 北東側は削平されており、東壁は確認できなかったが、竈、柱穴の配置から東西軸は 490 m、南北軸は 450 m の方形と推定でき、主軸方向は N - 57° - W である。壁高は 13 ~ 43 cm で、外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、竈の手前から 5 か所の柱穴を開むように踏み固められている。

竈 西壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで 90 cm、燃焼部幅 30 cm である。袖部は砂質粘土と黒褐色土の混合土である第 9 ~ 11 層を床面に積み上げて構築されている。火床部は床面を 9 cm 挖りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。



第132図 第26号住居跡実測図

電土層解説

1 細赤褐色	燒土ブロック多量、ロームブロック・砂質粘土粒子少量、炭化粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック少量
2 細赤褐色	焼土ブロック少量、ローム粒子微量	8 暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量、ローム粒子微量
3 細赤褐色	炭化物微量	9 浅黃褐色	砂質粘土ブロック多量、焼土ブロック中量、炭化粒子少量、ローム粒子微量
4 細赤褐色	焼土ブロック中量、炭化粒子微量	10 黒褐色	ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量
5 細赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量	11 黒褐色	ロームブロック・砂質粘土ブロック・焼土粒子少量
6 細赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量		

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ14～36cmで、配置から主柱穴である。P 5は深さ31cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説 (P 1・P 3・P 4・P 5共通)

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物微量	3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2 細褐色	炭化物少量、ロームブロック微量	4 褐色	ロームブロック多量

覆土 8層に分層できる。周間から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

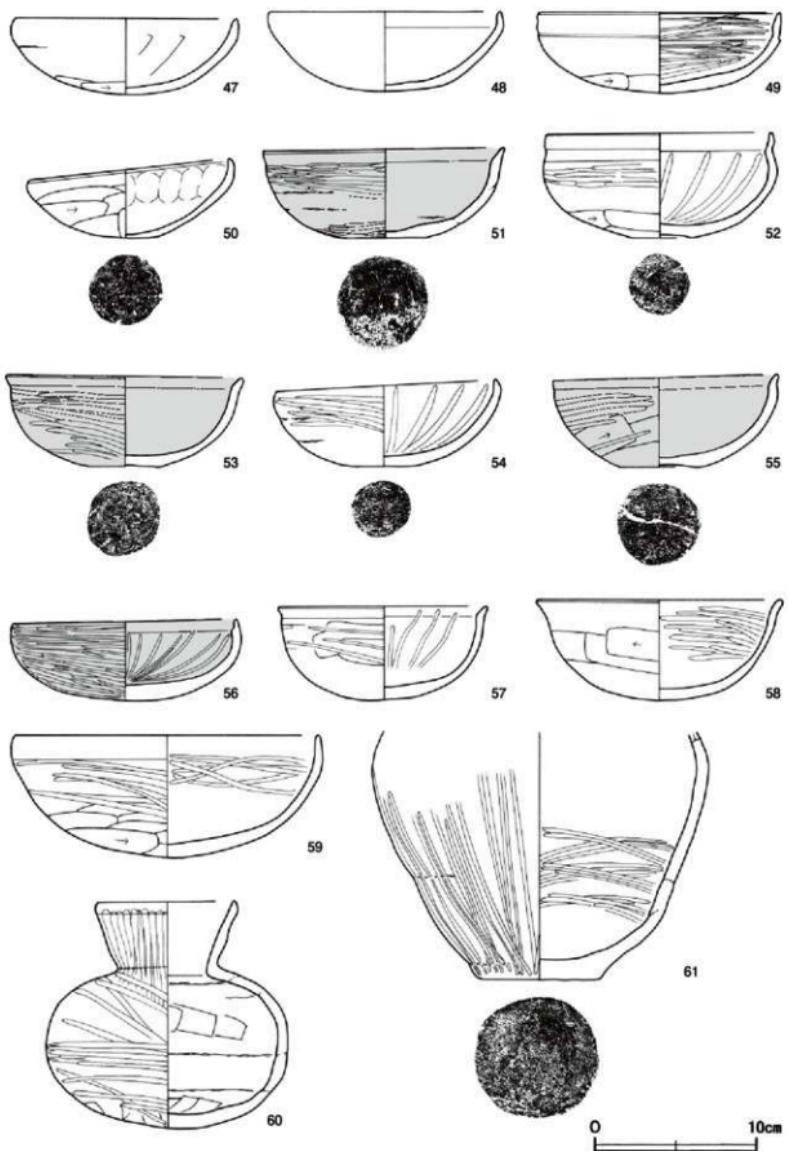
1 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量	6 暗褐色	ロームブロック多量
3 黒褐色	ロームブロック・焼土粒子微量	7 暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
4 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック少量

遺物出土状況 土師器片225点(壺55、瓶1、甕168、罐1)、粘土塊1点が出土している。また、流れ込んだ繩文土器片12点(深鉢)、混入した近世磁器片2点(碗)も出土している。土器は竈付近と東側の出入り口部分に集中して、特に壺は意図的に床面に置かれたような状態で出土している。59は竈内から逆位の状態で、49・55・56は竈付近から正位の状態で、50は逆位の状態で、48は北隅の壁際から逆位で、67・68・69は散在した破片の状態でそれぞれ竈付近から、47は正位の状態で東壁付近から、51は南東壁際付近から正位の状態で、52はP 5付近から正位の状態で、64はP 5内から、57・63・65は南東壁際の中央部付近の、いずれも床面から出土している。また、60はP 5付近の床面から出土した破片と、P 5内から出土した破片が接合している。62はP 5の覆土中から出土した破片が接合している。さらに、竈内から逆位で59の上に61が重ねられていた状態で出土している。

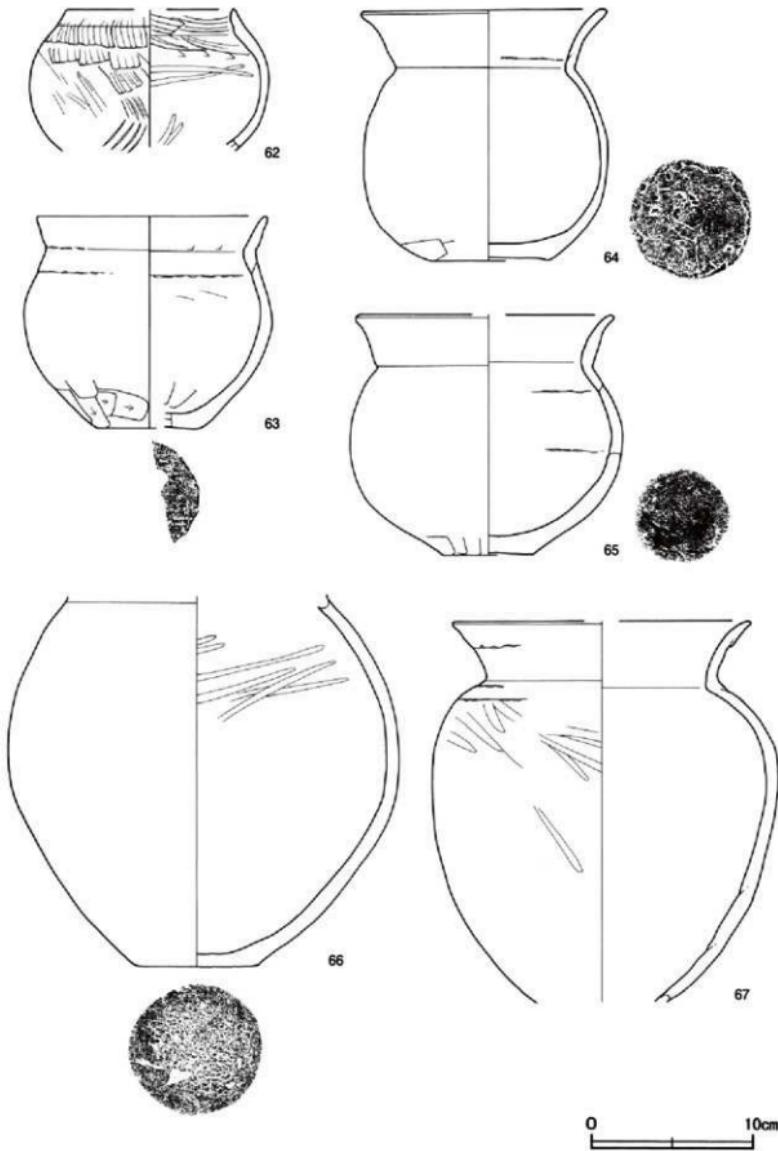
所見 時期は、出土土器から5世紀末に比定できる。

第26号住居跡出土遺物観察表(第133～135図)

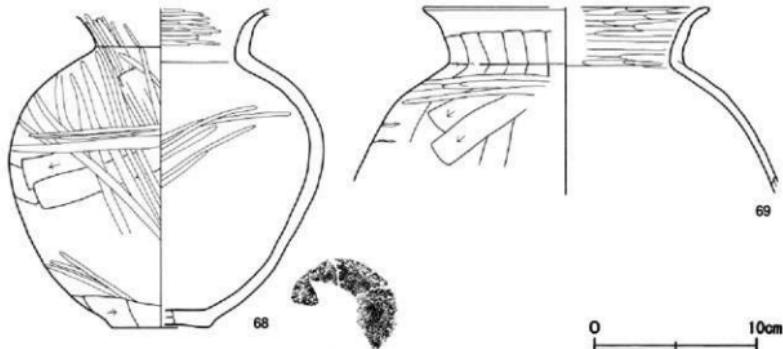
番号	種別	器種	13径	器高	底径	胎土	色調	地成	手 法 の 特徴	は か	出土位置	備考
47	土師器	壺	13.6	4.7	-	長石・石英・ 赤色粒子	にぶい 青	普通	体部外・内面へラナデ 底部外面へラ削り 内面 ヘルナ	底部外面へラ削り 内面 ヘルナ	床面	90% PL41
48	土師器	壺	14.2	5.0	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	体部外面へラ削り後ナデ 内面ナデ 底部外面へラ削り後ナデ	内面ナデ 底部外・内 面ナデ	床面	90% PL41
49	土師器	壺	14.8	5.0	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	体部外面ナデ 内面磨き 底部外面ナデ 内面磨き	底部外面へラ削り 内面ナデ 底部外面へラ削り 内面ナデ	床面	100% PL42
50	土師器	壺	12.2	4.9	4.1	長石・石英・ 赤色粒子・ 雲母	橙	普通	体部外面へラ削り 内面上位指痕底 下位ヘルナ 底部外面へラ削り 内面ナデ	下位ヘルナ 底部外面へラ削り 内面ナデ	床面	100%
51	土師器	壺	14.8	5.6	5.4	長石・石英・ 雲母	橙/明赤褐色	普通	体部外面磨き 内面ナデ 底部外・内面ナデ	底部外面磨き 内面ナデ 底部外・内面ナデ	床面	95% PL42
52	土師器	壺	13.8	5.5	3.6	長石・石英・ 雲母	橙	普通	上縁外・内面横ナデ 体部外面放射状の磨き 外縁 上位前方の磨き 下端へラ削り 底部外面へラ削り	上縁外・内面横ナデ 体部外面放射状の磨き 外縁 上位前方の磨き 下端へラ削り 底部外面へラ削り	床面	90% PL41
53	土師器	壺	14.5	5.4	4.5	長石・石英・ 雲母	橙/明赤褐色	普通	体部外面へラ削り後横 方向の磨き 内面ナデ	内面ナデ	床面	95% PL41
54	土師器	壺	13.3	5.5	3.5	長石・石英	明赤褐色	普通	体部外面へラ削り後横 方向の磨き 内面ナデ	内面ナデ	床面	100% PL41
55	土師器	壺	13.7	5.8	4.9	長石・石英	橙/赤褐色	普通	体部外面へラ削り 内面 放射状の磨き	内面ナデ	床面	90% PL42
56	土師器	壺	13.6	5.0	-	長石・石英	橙/赤褐色	普通	体部外面へラ削り後横 方向の磨き 内面ナデ	内面ナデ	床面	98% PL42
57	土師器	壺	12.7	5.7	-	長石・石英・ 雲母	明赤褐色	普通	体部外面へラ削り後磨き 底部外面へラ削り後磨き 内面ナデ	内面磨き	床面	95% PL42
58	土師器	壺	14.9	6.3	-	長石・石英・ 赤色粒子	橙	普通	体部外面へラ削り後磨き 底部外面へラ削り後磨き 内面ナデ	内面磨き	P 5 内	100% PL42
59	土師器	壺	18.6	7.5	-	長石・石英・ 雲母	橙	普通	L3縁部外・内面横ナデ 体部外面上位ヘルナ削り後磨き 下位ヘルナ削り 底部外面へラ削り 内面ナデ	内面磨き	竈内	100% PL42
60	土師器	壺	8.4	14.0	-	長石・石英・ 雲母	明黄褐色	普通	L3縁部外・内面横ナデ 外縁横ナデ 底部外面へラ削り後磨き 内面ヘルナ削り後ナデ	内面ヘルナ削り後ナデ	P 5 内	75% PL43



第133図 第26号住居跡出土遺物実測図（1）



第134図 第26号住居跡出土遺物実測図（2）



第135図 第26号住居跡出土遺物実測図(3)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴は	出土位置	備考
61	土師器	壺	-	(15.3)	7.6	長石・石英・ 磁鐵	明赤褐	普通	体部外表面方向の焼き、内面横方向の焼き、底部 口縁部外・内面横ナデ	壇内	30% PL44
62	土師器	甕	[10.4]	(8.8)	-	長石・石英	にご赤褐	普通	口縁部外・内面横木口瓦工用による焼きナデ、体部外表面口 瓦工用によるナデ削り、底部窓	P 5 内	30%
63	土師器	小形壺	14.0	13.0	[6.4]	長石・石英	にごい棕	普通	口縁部外・内面横ナデ、体部外面へラ削り後ナデ 内面へナデ、下端へナ削り、底部外面へナ削り	床面	70% PL44
64	土師器	小形甕	14.8	15.5	7.3	長石・石英・ 雲母・赤色粘子	にごい棕	普通	口縁部外・内面横ナデ、体部外面へラ削り後ナデ 内面へナデ	P 5 内	80% PL44
65	土師器	小形甕	[15.7]	14.8	5.6	長石・石英・ 雲母	にごい棕	普通	口縁部外・内面横ナデ、体部外面へラ削り後ナデ 内面へナデ、底部外面へナ削り後ナデ、内面ナデ	床面	80% PL44
66	土師器	甕	-	(22.7)	7.6	長石・石英・ 磁鐵	にごい棕	普通	体部外面へラ削り後ナデ、内面上方向の焼き	壇内	40% PL44
67	土師器	甕	(18.2)	(23.4)	-	長石・石英・ 小石	黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ、体部外面へナ削り後焼き 内面ナデ	床面	60% PL44
68	土師器	甕	-	(19.6)	6.0	長石・石英	にごい赤褐	普通	口縁部外表面方向の焼き、内面横方向の焼き、体部外側へ 2段式窓、上窓へナ削り、内面窓、底部・内面ナデ	床面	90% PL44
69	土師器	甕	(17.8)	(11.5)	-	長石・石英・雲母・ 小石・黑色粘子	棕	普通	口縁部外表面ナデ、内面横方向の焼き、体部外面へラ削り後焼き 内面ナデ	床面	20% PL44

第27号住居跡 (第136~139図)

位置 調査区北東端部のE 9a1区、標高22mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸5.84m、短軸5.68mの方形で、主軸方向はN-45°Wである。壁高は3~31cmで、ほぼ直立している。

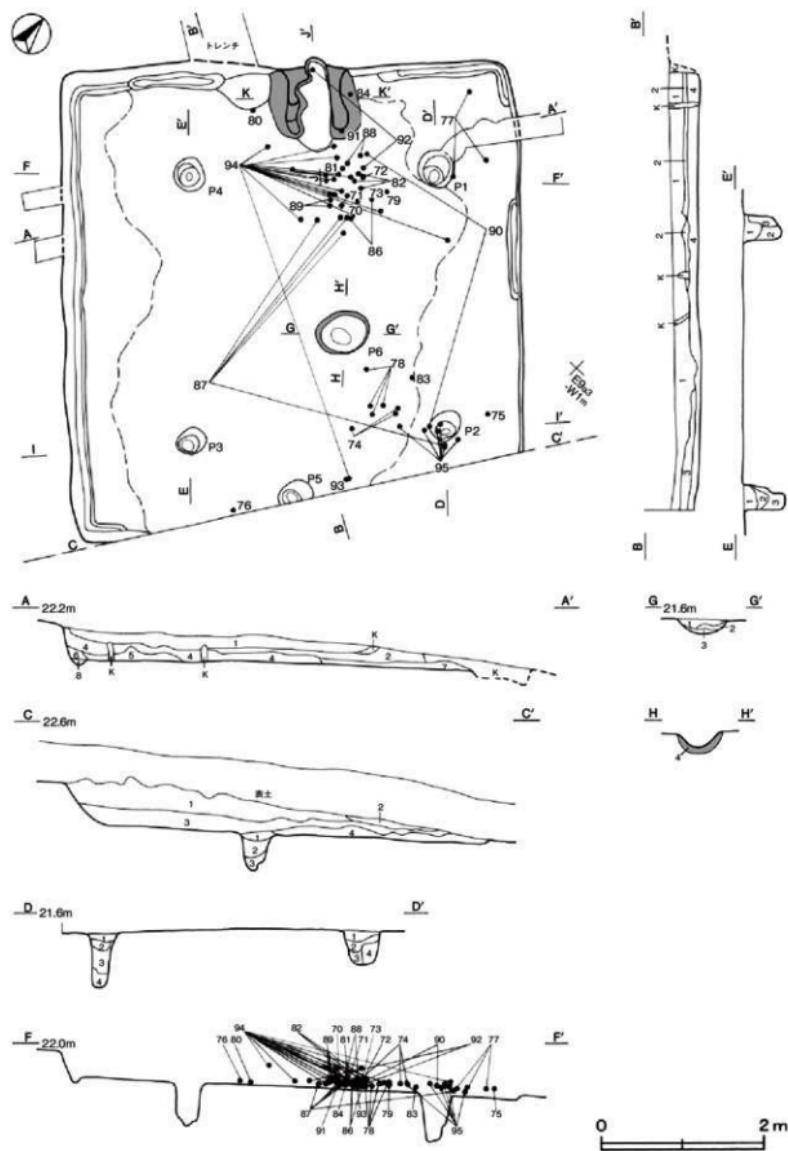
床 ほぼ平坦で、竈の手前とP 1・P 2の南側からP 3~P 5の柱穴を囲むように踏み固められている。壁溝が東壁と南壁の一部を除いて確認できた。

竈 北壁の中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで98cm、燃焼部幅42cmである。袖部は砂質粘土と黒褐色土の混合土である第6~10層を床面に積み上げて構築されている。火床部は床面を8cm掘りくぼめており、火床面は火を受けて赤変硬化している。

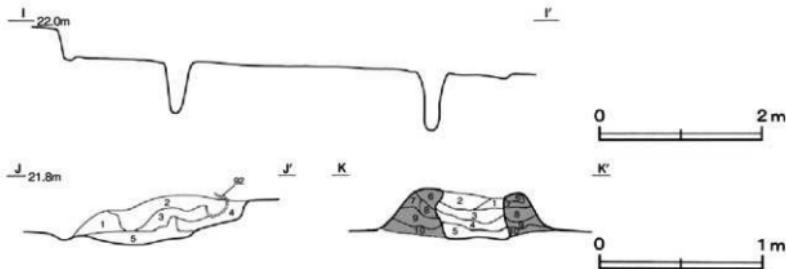
竈土層解説

- | | | | | | |
|---|------|------------------------|----|-----|---------------------|
| 1 | 暗赤褐色 | 燒土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量 | 6 | 黄褐色 | 砂質粘土・燒土粒子少量、ローム粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | 砂質粒子少量、燒土ブロック・炭化物微量 | 7 | 黒褐色 | ローム粒子・燒土粒子少量 |
| 3 | 暗褐色 | 燒土粒子少量、ロームブロック微量 | 8 | 黄褐色 | 燒土ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 4 | 黒褐色 | ローム粒子・燒土ブロック中量、炭化粒子微量 | 9 | 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 5 | 暗褐色 | ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量 | 10 | 黒褐色 | ロームブロック多量 |

ピット 6か所。P 1~P 4は深さ45~71cmで、配置から柱穴である。また、P 1・P 3からは柱痕跡が確認できた。P 5は深さ44cmで、位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は長径66cm、短径53cmの楕円形で、深さ17cmである。掘方の周囲には厚さ8cmに明黄褐色粘土が貼られており、貯蔵穴の可能性がある。



第136図 第27号住居跡実測図（1）



第137図 第27号住居跡実測図(2)

ピット土層解説 (P 1 ~ P 5共通)

- | | |
|------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック少量 |

ピット土層解説 (P 6)

- | | |
|--------------------------|-----------------|
| 1 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック微量 | 3 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子少量 | |

覆土 8層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

土層解説

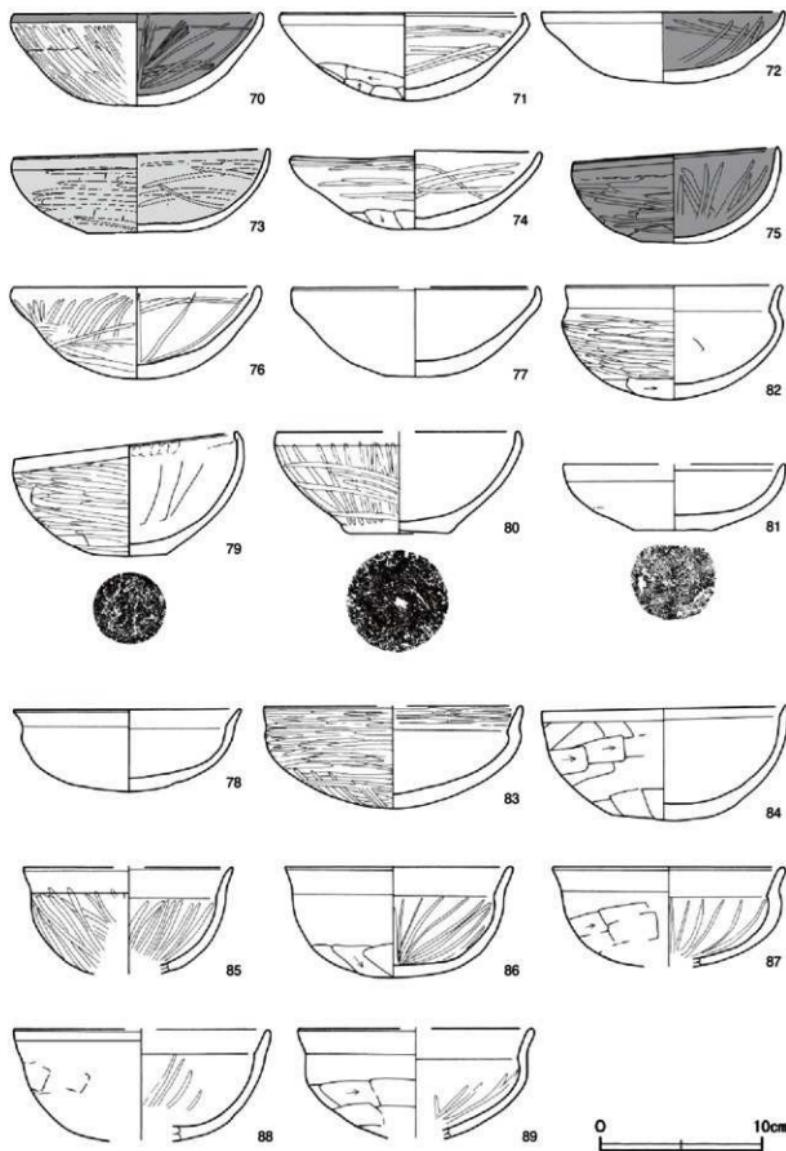
- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 桐褐色 ロームブロック中量、砂質粘土ブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量 | 6 暗褐色 ロームブロック・炭化物中量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師器片 206点 (壺 131、碗 2、甕 68、埴 3、短頸壺 2) のほか、罐 9点、粘土塊 1点、炭化材が出土している。また、流れ込んだ繩文土器片 42点 (深鉢)、混入した土師質土器片 1点 (小皿)、瓦質土器片 1点 (甕)、近世陶器片 7点 (碗)、近世瓦片 1点も出土している。84・91は逆位の状態で窓内から、70・72は逆位の状態で、71・73は正位の状態で、80・87は逆位でやや傾いた状態で、いずれも窓付近から、74はP2付近のそれぞれ床面から出土している。また、86・88・89は窓付近、94は窓付近とP5付近、87は窓付近とP2付近の床面からそれぞれ散在して出土した破片が接合したものである。また、75はP2付近、76はP5付近、77は北部、79は窓付近から正位の状態で、いずれも覆土下層から、それぞれ出土している。

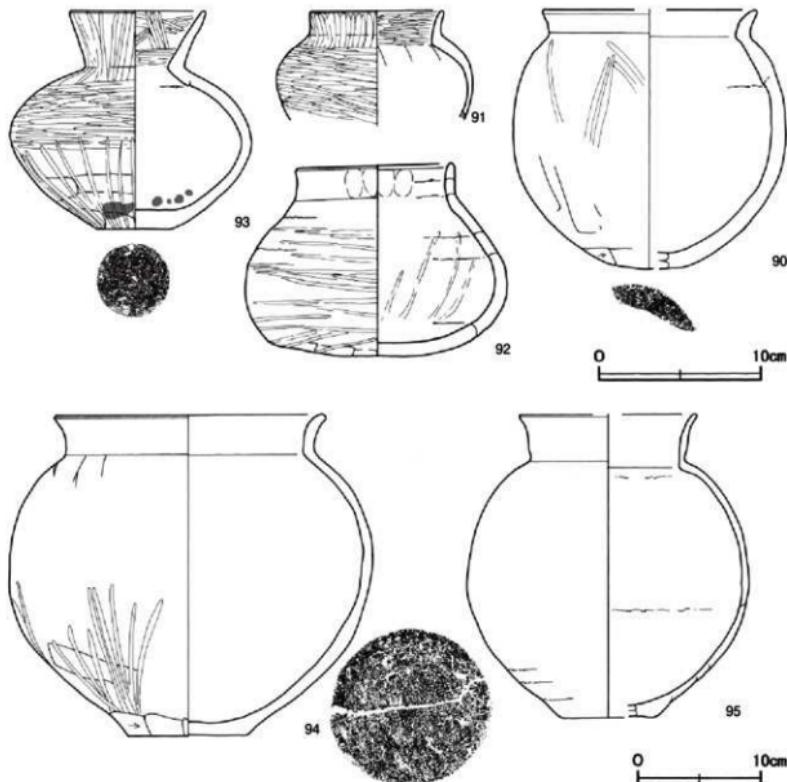
所見 時期は、出土土器から5世紀末に比定できる。遺物は窓付近と南側のP2・5付近に集中して出土している。甕と壺の破片が床面に廃棄された後に、完形及び一部欠損した壺が意図的に置かれたような状態で出土している。これは第26号住居跡と同様の出土状況である。

第27号住居跡出土遺物観察表 (第138・139図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	はか	出土位置	備考
70	土師器	环	153	5.7	36	長石・石英・雲母・繊維	褐色	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後磨き 内面擦方向の磨き後放射状の磨き 底部外面へラ削り後ナデ	床面	90% PL42	
71	土師器	环	149	5.3	-	長石・石英・雲母	にごい青褐	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 下端へラ削り 内面へナナガ削り 窓部磨削	床面	100% PL42	
72	土師器	环	148	4.4	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にごい青褐	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ 内面へラ削き	床面	100% PL42	
73	土師器	环	156	5.1	62	長石・石英・雲母	褐色	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後磨き 内面へラ削き 底部へラ削り後磨き	床面	90% PL42	
74	土師器	环	153	4.9	27	長石・石英・雲母・赤色粒子	にごい青	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後ナデ ナラ削り後磨き 底部外面へラ削り	床面	90% PL43	
75	土師器	环	126	5.9	39	長石・石英・雲母・黑色粒子	褐色	良好	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面へラ削り後磨き 内面へラ削き	覆土下層	95% PL43	



第138図 第27号住居跡出土遺物実測図（1）



第139図 第27号住居跡出土遺物実測図 (2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴は	出土位置	備考
76	土師器	环	15.0	5.7	-	長石・石英	褐	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面削き 内面横方 向の削り後放射状の磨き	覆土下層	90%
77	土師器	环	(15.0)	5.6	37	長石・石英・ 雲母	青白	普通	体部外・内面ナデ	覆土下層	50% PL42
78	土師器	环	13.9	5.1	-	長石・石英	にい・褐	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ	覆土下層	70%
79	土師器	环	13.7	7.7	4.5	長石・石英・ 雲母	にい・褐	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後 削り後磨き 内面ヘラナデ 底部外面ヘラ削り	床面	85% PL42
80	土師器	环	[14.7]	6.3	6.2	長石・石英・ 雲母	にい・褐	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後 磨き 方向の削り後放射状の磨き 底部外面ヘラ削り後磨き	床面	70% PL43
81	土師器	环	[13.6]	4.1	5.0	長石・石英	褐	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ 底部外面ヘラ削り	床面	50%
82	土師器	环	13.2	7.0	-	長石・石英・ 雲母・赤鉄粒子	褐	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後磨き 内面ヘラナデ 底部外面ヘラ削り	床面	90% PL43
83	土師器	环	(15.8)	6.3	-	長石・石英	明赤褐色	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り	床面	60% PL43
84	土師器	环	15.1	7.0	4.3	長石・石英・ 雲母・細繩	灰褐色	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラナデ 外面 ヘラ削り 楊子ナデ	竈内	100% PL42
85	土師器	环	[12.8]	(6.6)	-	長石・石英・ 雲母	明赤褐色	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラ磨き 外面 ヘラ削り 楊子ナデ	覆土下層	40%
86	土師器	环	14.0	6.8	-	長石・石英・ 雲母	褐	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラ削き 外面 ヘラ削り 後ナデ 底部ヘラ削り	床面	85% PL43
87	土師器	环	14.2	(6.2)	-	長石・石英・ 雲母	明赤褐色	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部内面放射状のヘラ磨 き 外面ヘラ削り後ナデ	床面	80% PL41
88	土師器	环	(15.5)	(6.9)	-	長石・石英・ 雲母	にい・褐	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部内面ヘラナデ後放射 状の磨き 外面ヘラ削り後ナデ	床面	45% PL43
89	土師器	环	[14.4]	(6.8)	-	長石・石英・ 雲母	にい・赤褐色	普通	L1縁部外・内面横ナデ 体部内面放射状のヘラ磨 き 外面ヘラ削り後ナデ 下位ヘラ削り	床面	25% PL43

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
90	土師器	小形甕	[13.2]	16.1	[4.6]	長石・石英・霞母	橙	普通	口縁部外・内面糊ナメ 体部均等ヘラナメ 外面ヘラ削り後壁方縁部内・下部ヘラ削り 実心部ヘラナメ 外面ヘラ削り	P 2 内	45% PL44
91	土師器	規則甕	8.0	(6.7)	-	長石・石英	明赤褐色	普通	口縁部均等横方向の削き 外面腹側方向の削き 体部内面ヘラナメ	窓内	50% PL43
92	土師器	規則甕	9.4	12.0	5.2	長石・石英	にじみ赤褐色	普通	口縁部外・内面糊ナメ 体部外側ヘラ削り後壁部内面糊ナメ	窓内	95% PL43
93	土師器	壺	8.1	13.5	4.5	長石・石英・霞母	明赤褐色	普通	口縁部外・内面糊ナメ 外面ナメ後ヘラナメ 体部外側ヘラ削り後壁部内面糊ナメ	床面	100% PL43
94	土師器	甕	21.6	26.2	9.5	長石・石英	灰黄褐色	普通	口縁部外・内面糊ナメ 体部外側均等横方向の削き 下底ヘラ削り後壁部内面糊ナメ 底部ヘラ削り	床面	85% PL44
95	土師器	甕	[14.4]	24.8	[7.4]	長石・石英・霞母・赤色粘土	普通	ナメ	口縁部外・内面糊ナメ 体部外・内面ヘラ削り後壁部内面糊ナメ	P 2 内	60%

表7 古墳時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形 長軸×短軸(m)	壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考 重複関係(古→新)
							柱穴出入口	ビット印	竪穴				
19	D 852	N-66°-W	方形	4.82 × 4.60	5～22	平坦	-	4	1	1	人為	土師器、須恵器、繩文土器	5C後葉 SK549→未降
20	D 8d4	[N-47°-W]	[方形]	[5.20 × 5.20]	-	平坦	一部	4	1	1	人為	土師器	5C後葉
26	D 9h1	N-57°-W	[方形]	4.90 × 4.50	13～43	平坦	-	4	1	-	自然	土師器、磁器、繩文土器	5C未
27	E 9a1	N-45°-W	方形	5.84 × 5.68	3～31	平坦	-	4	1	1	自然	土師器、繩文土器、土師質土器	5C未

4 奈良時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡2軒を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

堅穴住居跡

第7号住居跡（第140・141図）

位置 調査区北部のC 7g1区、標高23.6mの緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸4.15m、短軸3.91mの方形で、主軸方向はN-30°-Wである。壁高は8～24cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、竪の手前からP 1～P 6を囲む範囲が踏み固められている。竪部分を除いた壁下に壁溝が巡っている。

竪 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで90cmで、燃焼部幅は46cmである。袖部は砂質粘土を主体とした第10～12層を床面に積み上げて構築されている。火床部は床面から6cmくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に12cm掘り込まれ、外傾して立ち上がっている。

竪土層解説

1	灰 黄褐色	燒土ブロック・炭化物・砂質粒子少量	9	オリーブ褐色	砂質粒子中量、燒土ブロック・炭化物少量
2	暗 赤褐色	燒土ブロック中量、炭化粒子・砂質粒子微量	10	浅 黄褐色	砂質粘土多量、燒土ブロック・炭化粒子少量、ロームブロック微量
3	黒 桃色	ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量			
4	暗 赤褐色	燒土ブロック・炭化物・砂質粒子ブロック少量	11	浅 黄褐色	砂質粘土多量、ロームブロック・燒土ブロック・炭化粒子微量
5	オリーブ褐色	燒土ブロック・砂質粘土ブロック・炭化物少量			
6	暗 赤褐色	燒土ブロック・燒土ブロック・炭化物少量	12	黒 桃色	砂質粘土多量、ロームブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
7	暗 赤褐色	燒土ブロック・炭化物微量			
8	暗 赤褐色	燒土ブロック中量、炭化粒子微量			

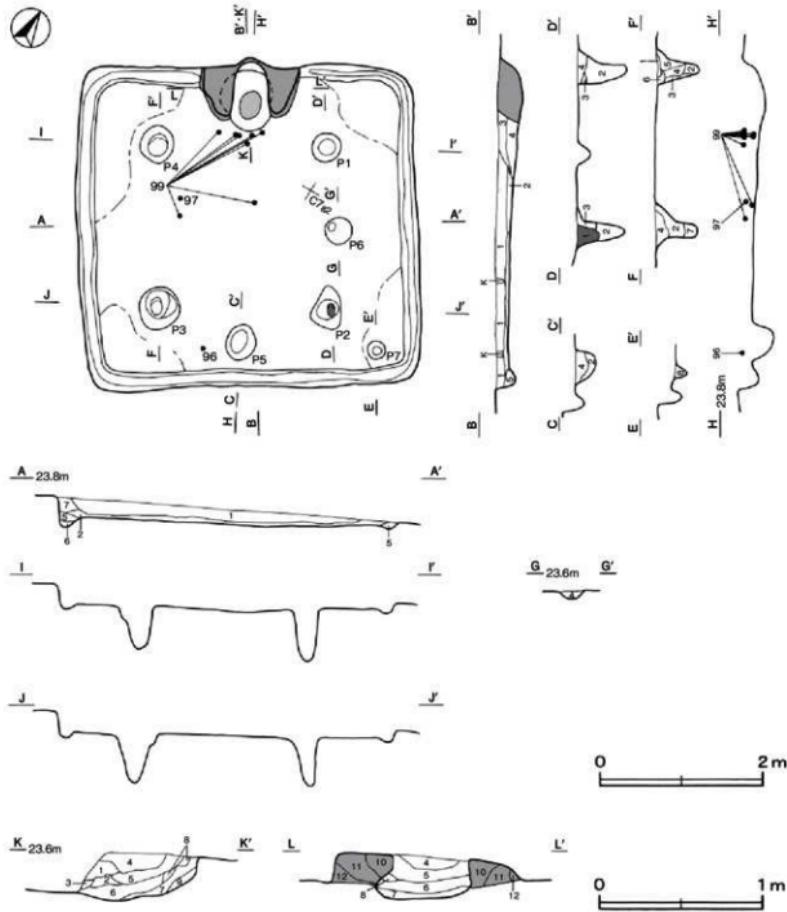
ピット 7か所。P 1～P 4は深さ53～65cmで、配置から主柱穴である。P 2からは柱痕跡が確認できた。

P 5は深さ27cmで、位置や硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。P 6は深さ35cm、P 7は深さ19cmで、性格は不明である。

ピット土層解説（各ピット共通）

1	黒 桃色	炭化物少量、ローム粒子微量	5	暗 桃色	ロームブロック少量、燒土粒子・炭化物微量
2	暗 桃色	ローム粒子少量、燒土ブロック・炭化粒子微量	6	暗 桃色	ロームブロック少量、燒土ブロック・炭化粒子微量
3	褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	7	褐 色	ロームブロック中量、燒土ブロック・炭化物微量
4	暗 桃色	ロームブロック・砂質粒子少量、燒土ブロック・炭化物微量	8	黒 桃色	炭化粒子少量、ロームブロック微量

炭化物微量



第140図 第7号住居跡実測図

覆土 7層に分層できる。周囲から流入した堆積状況を示していることから自然堆積である。

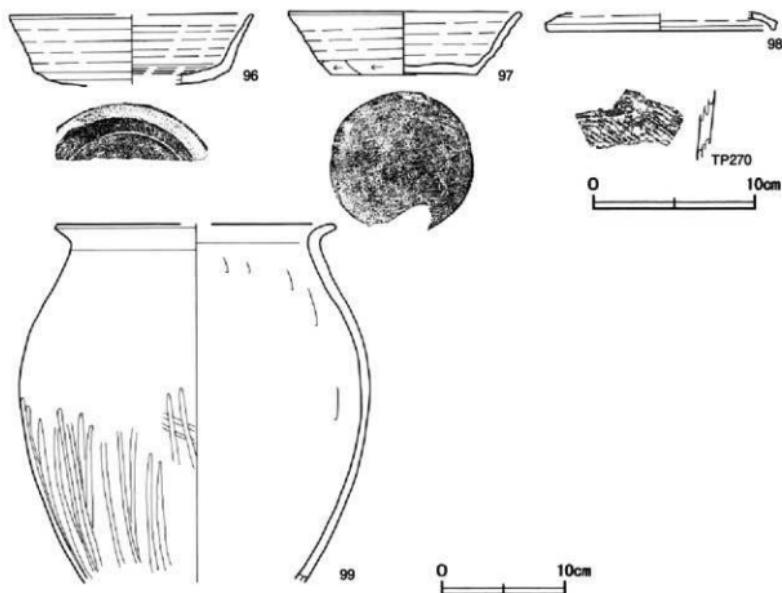
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量	5 褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ローム粒子少量。燒土ブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色 ロームブロック中量。炭化粒子微量
3 黑褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子少量。炭化物微量	7 暗褐色 ロームブロック中量。炭化物微量
4 黑褐色 燃土ブロック・砂質粘土粒子・炭化物少量。ロームブロック微量	

遺物出土状況 土器片61点(环1, 盆1, 壺59), 須恵器片29点(环14, 盆1, 盖3, 壺11)が出土している。また、流れ込んだ繩文土器片12点(深鉢)、弥生土器片1点(広口壺)も出土している。97はP4付近の覆

土下層から逆位の状態で、96はP 5付近の床面から逆位の状態で、98はP 3内、TP270は南東側の覆土下層からそれぞれ出土している。また、99は竈付近と覆土下層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉に比定できる。



第141図 第7号住居跡出土遺物実測図

第7号住居跡出土遺物観察表（第141図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
96	頸壺器	环	[14.8]	[4.3]	[10.4]	長石・石英	灰	普通	体部ロクロナデ 下端ヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	20%
97	頸壺器	环	14.1	3.9	8.9	長石・石英	黄灰	普通	体部ロクロナデ 底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土下層	60%
98	頸壺器	壺	[14.0]	[1.1]	—	長石	灰	普通	体部ロクロナデ	P 3内	10%
99	土師器	壺	[22.4]	[29.4]	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰黄褐	普通	L1線部横ナデ 体部内面ヘラナデ 外面ヘラ削り 後ヘラ削き	覆土下層	40%

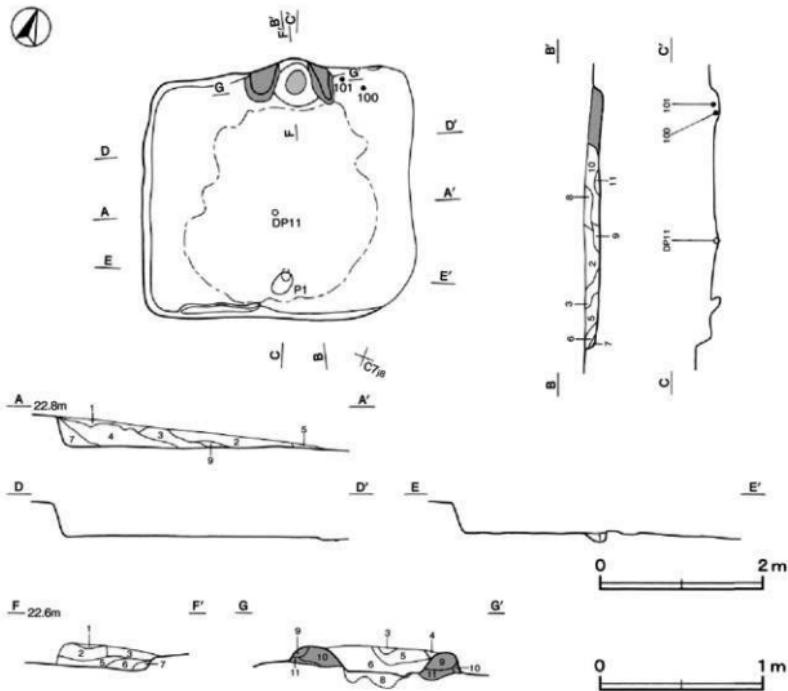
番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴はか	出土位置	備考
TP270	頸壺器	壺	長石・雲母・赤色粒子	黄灰	体部外斜位の平行叩き 内面ヘラナデ	覆土下層	

第18号住居跡（第142・143図）

位置 調査区東部のC 717区、標高226mの緩斜面上に位置している。

規模と形状 東壁は削平され不明であるが、東西は33m、南北は31mの方形を呈するものと思われる。主軸方向はN - 17° - Wである。壁高は36cmで、やや外傾して立ち上がっていっている。

床 ほぼ平坦で、竈手前から中央部とP 1の周辺にかけて踏み固められている。南側の壁下には、幅14~20cm、



第142図 第18号住居跡実測図

深さ6~8cm、壁溝が確認できた。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで60cmで、燃焼部幅は51cmである。袖部は砂質粘土と山砂を主体とした第9~11層を床面に積み上げて構築されている。火床部は床面から18cmくぼんでおり、火床面は火を受けて赤変硬化している。煙道部は壁外に14cm掘り込まれ、火床部から外傾して立ち上がりっている。

竈土層解説

1 黒褐色	砂質粘土少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	6 静褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
2 静褐色	砂質粘土ブロック中量、ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量	7 桂褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量
3 黑褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量	8 褐色	砂質粘土ブロック少量
4 極暗褐色	砂質粘土ブロック中量、ローム粒子少量	9 オリーブ褐色	砂質粘土ブロック多量
5 静褐色	焼土粒子・炭化物・砂質粘土粒子微量	10 にじ・黄褐色	ロームブロック・炭化物微量
		11 静褐色	砂質粘土少量、炭化物微量

ピット 1か所。P1は深さ8~10cmで、位置や硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説

- 1 静褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

覆土 11層に分層できる。周囲から流入した状況を示す自然堆積である。

土層解説

1	灰	褐色	ロームブロック多量	7	暗	褐色	ローム粒子中量
2	黒	褐色	ロームブロック中量	8	暗	褐色	ロームブロック微量
3	無	暗褐色	砂質粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量	9	暗	褐色	ロームブロック少量
4	黒	褐色	焼土ブロック・炭化物・砂質粒子少量	10	褐	褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土微量
5	無	暗褐色	砂質粒子少量、ロームブロック・炭化粒子微量	11	暗	褐色	ロームブロック中量
6	黒	褐色	ロームブロック微量				

遺物出土状況 土師器片2点(坏)、須恵器片2点(坏、蓋)、土製品1点(土玉)が出土している。また、流れ込んだ繩文土器片16点(深鉢)、弥生土器片2点(広口壺)も出土している。100は北壁際から逆位の状態で、101は竈付近、DP11は中央部の床面からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第143図 第18号住居跡出土物実測図

第18号住居跡出土遺物観察表（第143図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手法の特徴はか	出土位置	備考
100	須恵器	环	13.5	4.4	9.0	長石・石英・雲母	灰白	普通	体部クロナデ 下端へラ削り 底部回転ハラ切り後へラナデ	床面	80% PL45
101	須恵器	蓋	[16.6]	(0.9)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	普通	体部クロナデ	床面	5%

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP11	土玉	3.0	2.5	0.8	21.9	土(長石・雲母)	片面突孔	床面	PL46

表8 奈良時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規 模		内 部 施 設	覆土	主な出土遺物	時 期	備 考	
				長軸	短軸	(m)	(cm)	床面	壁溝		
7	C 7g1	N-30°-W	方形	4.15	3.91	8~24	平坦	ほぼ全周	柱穴出入口ピット串・壁防戻穴	自然	土師器、須恵器 8C後葉
18	C 7f7	N-47°-W	【方形】(3.30) × 3.10	36	36	一部	-	1	2 電	-	自然 土師器、須恵器 8C中葉

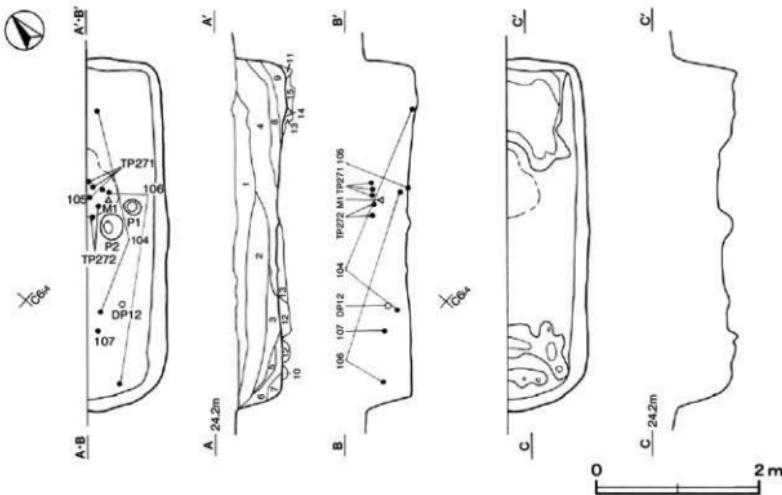
5 平安時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、堅穴住居跡2軒を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

堅穴住居跡

第1号住居跡（第144～146図）

位置 調査区西部のC 6i4 区、標高 24 m の台地の平坦部に位置している。



第144図 第1号住居跡実測図

規模と形状 西側は調査区域外へ延びているため、南北4.33m、東西0.98mしか確認できなかった。壁高は72~88cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、北部が踏み固められている。貼床はロームブロックを含む黒褐色土を主体とした第10~15層で、構築されている。

ピット 2か所。P1・P2は深さ7~18cmで、調査範囲が狭少なため、性格は不明である。

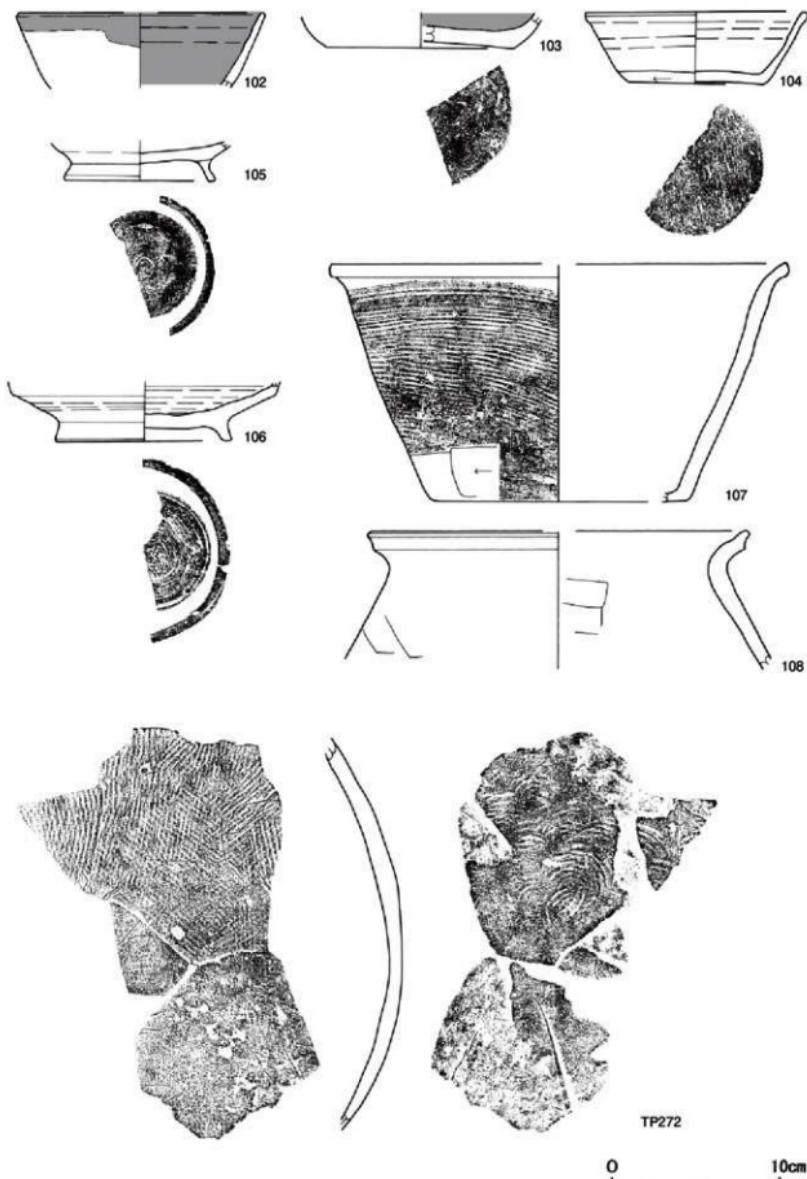
覆土 9層に分層できる。周囲から流れ込んだ堆積状況を示す自然堆積である。第10~15層は貼床の構築土である。

土層解説

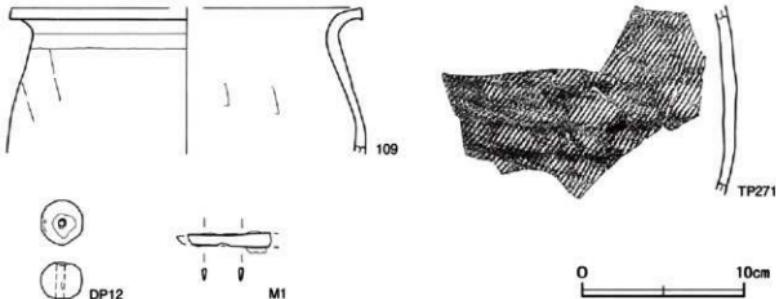
1 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	9 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	10 暗褐色	ロームブロック中量、炭化物微量
3 黑褐色	ロームブロック・炭化物、焼土粒子微量	11 黑褐色	ロームブロック・炭化物微量
4 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	12 暗褐色	ロームブロック中量
5 黑褐色	ローム粒子中量、焼土粒子微量	13 暗褐色	ロームブロック多量、炭化物微量
6 黑褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量	14 黑褐色	ロームブロック微量
7 黑褐色	ロームブロック中量	15 黑褐色	ロームブロック・炭化物少量
8 暗褐色	ロームブロック少量、粘土ブロック・焼土粒子微量		

遺物出土状況 土師器片123点(壺4、甕類119)、須恵器片166点(环21、盤1、高台付环1、蓋7、甕131、鉢2、壺3)、土製品2点(土玉、支脚)、鉄製品1点(刀子)が出土している。また、流れ込んだ繩文土器片16点(深鉢)も出土している。104は北壁と南壁寄り、105・106は中央部から逆位の状態で、いずれも床面から出土している。109は北壁寄りの覆土下層から出土している。102・103・107・108、DP12は南壁寄り、M1は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。また、TP271・272は中央部の覆土上層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。



第145図 第1号住居跡出土遺物実測図(1)



第146図 第1号住居跡出土遺物実測図（2）

第1号住居跡出土遺物観察表（第145・146図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
102	土師器	环	(14.4)	(4.5)	-	長石・石英 赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	覆土中層	5% PL46
103	土師器	环	-	(2.1)	(11.0)	長石・石英 赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	覆土中層	20%
104	埴輪器	环	13.0	4.4	8.0	長石・石英 雲母	灰白	普通	体部下端手持ちヘラ削り 底部回転ヘラ削り	床面	50%
105	埴輪器	高台付环	-	(2.4)	9.0	長石・石英	暗灰黄	普通	ロクロナデ 高台貼り付け	床面	15%
106	埴輪器	盤	-	(3.6)	(10.4)	長石・石英 雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ切り後ヘラ削り	床面	30%
107	埴輪器	鉢	(27.0)	(14.2)	(15.3)	長石・石英 雲母	黄灰	普通	体部外縁横模の平行叩き 下端手持ちヘラ削り	覆土中層	20% PL46
108	土師器	甕	(22.4)	(8.2)	-	長石・石英	にぶい青黄	普通	口辺部外・内面横ナデ 体部外・内面ヘラ削り後ナデ	覆土中層	5% PL46
109	土師器	甕	(21.5)	(5.4)	-	長石・石英 雲母	にぶい青	普通	口辺部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り後ナデ 内面ヘラナデ	覆土下層	5% PL46

番号	種別	器種	胎土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP271	須恵器	甕	長石・石英・雲母	黄灰	体部外縁斜位の平行叩き	覆土上層	
TP272	須恵器	甕	長石・石英・雲母	黄灰	体部外縁平行叩き（横単位→縦単位）内面同心円状の当乳痕	覆土上層	

番号	器種	径	厚さ	孔跡	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP12	土玉	26	22	0.5	16.9	土（雲母）	片面穿孔。ナデ	覆土中層	PL46

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M1	刀子	(5.2)	0.9	0.3	(3.5)	鐵	刃部両端欠損 斜面逆三角形	覆土中層	PL46

第4号住居跡（第147～151図）

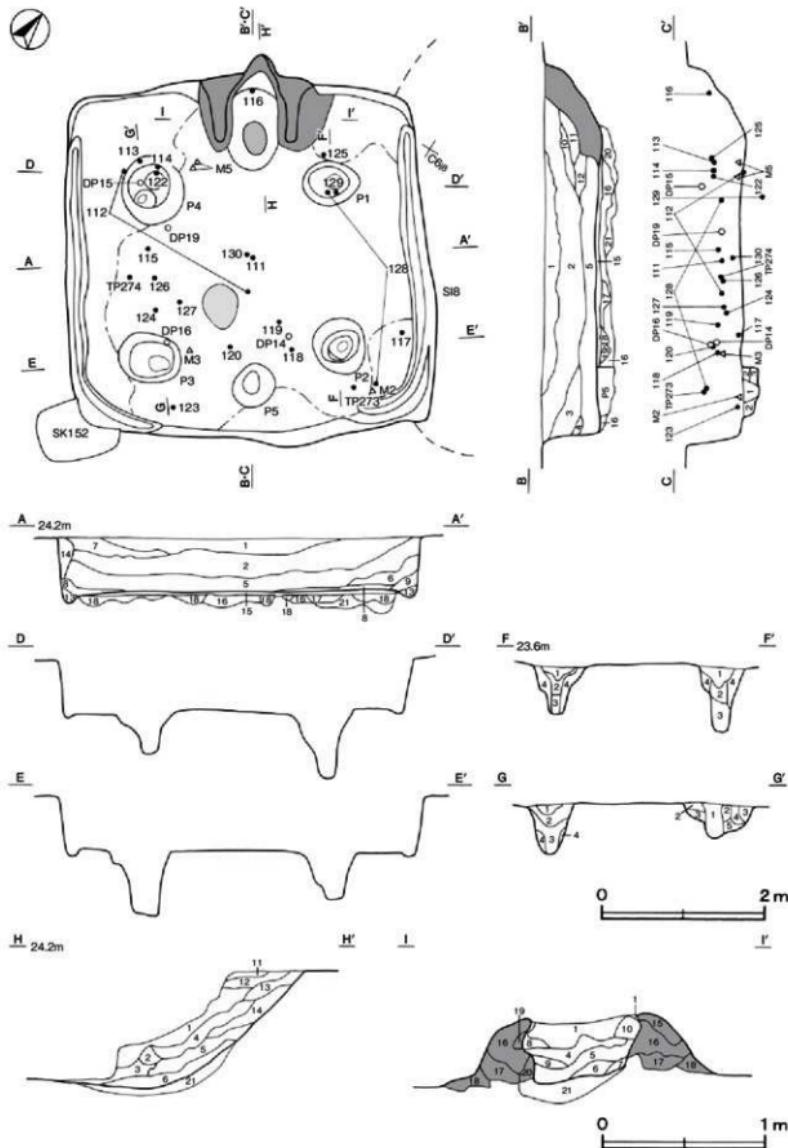
位置 調査区西部のC 6j7区、標高24 mの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第8号住居跡を掘り込み、第152号土坑に掘り込まれている。

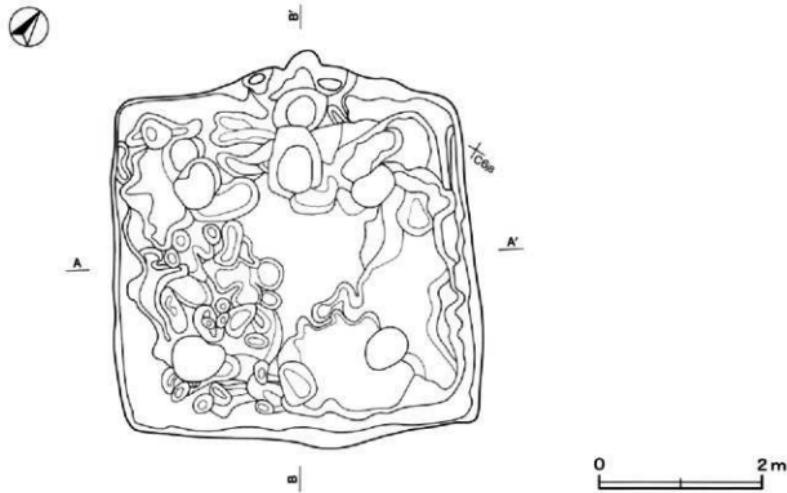
規模と形状 長軸4.51 m、短軸4.37 mの方形で、主軸方向はN-31°-Wである。壁高は62～70cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、主柱穴間の内部と南壁寄りが踏み固められている。貼床はロームブロックを含む暗褐色土を主体とした第15～21層で構築されている。東壁下と西壁下のそれぞれ南隅まで、壁溝を確認した。

竈 北壁中央部に付設されている。規模は焚口部から煙道部まで1.42 mで、燃焼部幅は58cmである。袖部はロームを掘り残して基部とし、砂質粘土を主体とした第15～20層を積み上げて構築されている。火床部の覆



第147図 第4号住居跡実測図(1)



第148図 第4号住居跡実測図(2)

土は第21層で、掘方は床面から14cm掘りくはめており、火床面は赤変硬化している。煙道部は壁外に22cm掘り込まれ、火床面から外傾して立ち上がっている。

竪土層解説

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 細 薄 色 炭化物・焼土粒子少量。ローム粒子微量 | 11 黒 褐 色 砂質粘土粒子中量。燒土ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 細 赤褐色 燃土ブロック・炭化物微量 | 12 にい・黄褐色 砂質粘土ブロック・燒土ブロック少量・炭化物微量 |
| 3 細 褐褐色 燃土粒子少量。ロームブロック・炭化物微量 | 13 オリーブ褐色 砂質粘土粒子中量。燒土ブロック少量・炭化物粒子微量 |
| 4 にい・黄褐色 砂質粘土ブロック多量・炭化物・ローム粒子・燒土粒子微量 | 14 暗 赤褐色 燃土ブロック・炭化粒子少量。砂質粒子微量 |
| 5 細 赤褐色 燃土ブロック・砂質粘土粒子中量・炭化物微量 | 15 にい・黄褐色 砂質粘土粒子多量。燒土粒子微量 |
| 6 細 赤褐色 ローム粒子少量。燒土粒子微量 | 16 黄 褐 色 砂質粘土粒子多量。炭化物・燒土粒子微量 |
| 7 細 褐色 砂質粘土粒子中量。ロームブロック少量・炭化粒子微量 | 17 にい・黄褐色 砂質粘土粒子多量。燒土粒子少量。ローム粒子微量 |
| 8 にい・赤褐色 砂質粘土粒子中量。ローム粒子少量 | 18 暗 褐 色 砂質粘土粒子中量。ロームブロック少量・炭化物微量 |
| 9 細 赤褐色 燃土ブロック・砂質粘土粒子中量・炭化物少量 | 19 暗 褐褐色 砂質粘土粒子多量 |
| 10 にい・黄褐色 砂質粘土粒子中量。燒土ブロック少量・炭化粒子微量 | 20 黄 褐 色 砂質粘土粒子多量・炭化物少量。燒土ブロック微量 |
| | 21 暗 赤褐色 炭化粒子少量。ロームブロック・燒土ブロック微量 |

ピット 5か所。P 1～P 4は深さ42～78cmで、配置から主柱穴である。P 5は深さ21cmで、位置や硬化面の広がりから出入り口施設に伴うピットと考えられる。

ピット土層解説(各ピット共通)

- | | |
|------------------------------|-------------------|
| 1 黒 褐 色 ロームブロック中量・炭化物・焼土粒子微量 | 4 褐 色 ロームブロック中量 |
| 2 黄 褐 色 ロームブロック中量 | 5 暗 褐 色 ロームブロック多量 |
| 3 細 褐 色 ロームブロック微量 | |

覆土 14層に分層できる。ロームブロックやローム粒子を多く含んでいることから埋め戻されている。第5層の上面にはまとまって遺物が発見されていることから、第5層の高さまで埋めて遺物を廃棄し、その後再び埋め戻していることが観察できる。第15～21層は、ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子を混入させた暗褐色土を主体とする貼地の構築土である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------------|----------------------------|
| 1 黑 薄 褐色 ローム粒子・焼土粒子少量 | 5 暗 褐 色 ロームブロック中量・焼土ブロック少量 |
| 2 黑 薄 褐色 ローム粒子中量・焼土粒子少量 | 6 暗 褐 色 ロームブロック中量 |
| 3 暗 褐 色 ロームブロック多量・焼土粒子少量・炭化物微量 | 7 極 暗 褐色 ロームブロック・燒土ブロック少量 |
| 4 暗 褐 色 砂質粘土ブロック多量。ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 暗 褐 色 ロームブロック中量 |
| | 9 にい・褐褐色 ロームブロック中量 |

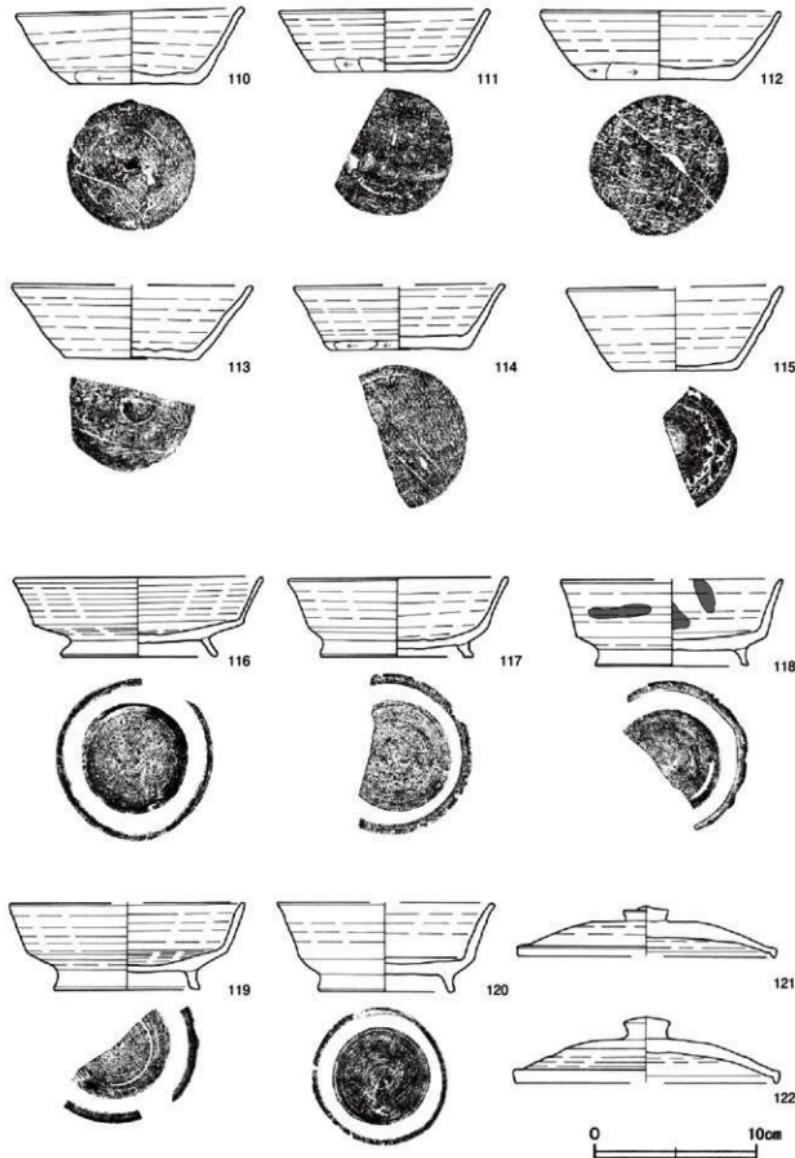
10	極 暗 褐 色	砂質粘土ブロック・焼土粒子少量・炭化粒子微量	15	暗 褐 色	ロームブロック中量・炭化物少量・焼土ブロック微量
11	黒 黄 色	砂質粘土ブロック中量・焼土ブロック少量・ロームブロック・炭化粒子微量	16	黒 褐 色	炭化物・焼土粒子・砂質粘土粒子少量
12	褐 灰 色	砂質粘土ブロック中量・焼土ブロック少量・ロームブロック・炭化粒子微量	17	暗 褐 色	ロームブロック中量・炭化物・焼土粒子微量
13	灰 黄 色	ロームブロック少量	18	黒 褐 色	ロームブロック・砂質粘土粒子少量・炭化粒子微量
14	褐 色	ロームブロック多量(壁崩落土)	19	褐 色	ロームブロック・炭化粒子多量
			20	暗 褐 色	ロームブロック中量・砂質粘土粒子・炭化粒子少量
			21	褐 色	ロームブロック中量・炭化物少量・焼土ブロック微量

遺物出土状況 土器器片 924 点(坏 11, 增 1, 壺 908, 瓶 4), 須恵器片 319 点(坏 200, 高台付坏 18, 高盤 4, 高坏 1, 盖 43, 瓶 3, 鉢 1, フラスコ瓶 1, 壺 42, 瓶 5, 転用硯 1), 土製品 7 点(土玉 4, 管状土錐 2, 支脚 1), 鉄製品 4 点(鎌 1, 刀子 3), 粘土塊 2 点が出土している。その他、混入した繩文土器片 83 点(深鉢), 弥生土器片 2 点(壺), 磬 3 点も出土している。これらは覆土上層, 中層, 下層、床面から出土している。特に覆土中層から多く出土している。129は北東部 P1 内から, DP16は P3 内から, 113・114・122・DP5は P4 内から, 117・M2は東壁際, 123は南壁際, M5は竪付近の床面からそれぞれ出土している。116は窓内から正位の状態で、130は中央部の覆土下層から出土している。130は、須恵器坏の底部を転用した硯で、破片の断面は磨いて成形している。さらに 111 は中央部, 119 は中央部よりやや南寄り, 120 は南壁寄りから, 113 ~ 115・DP19 は北西部, DP14 は東部, 124・126・127・TP274, M3 は南部, 125 は北東部の覆土中層(第5層上面)からそれぞれ出土している。120の底部には、窓印と考えられる「卅」の鏽書きと中央部に墨書が施されている。墨書は墨が薄く判読不明である。また、112は中央部と北西部, 128はP1内と南東部のそれぞれ覆土中層(第5層上面)から出土した破片が接合したものである。TP273は東壁際の覆土上層から出土している。

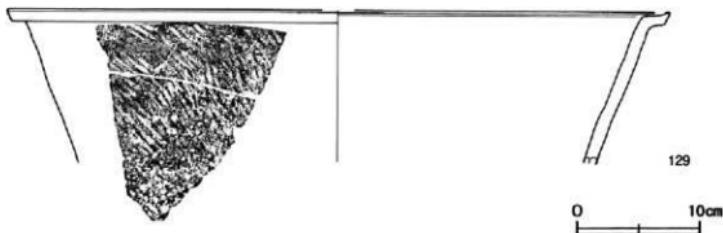
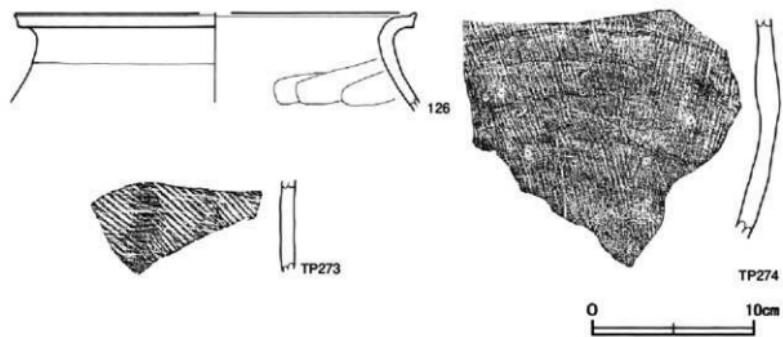
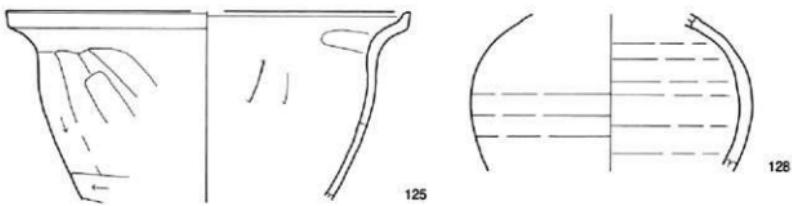
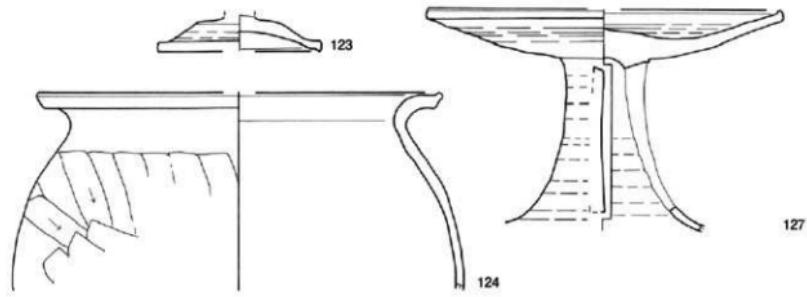
所見 時期は、出土土器から9世紀前葉に比定できる。遺物は床面と覆土上・下層からの出土が少なく、覆土中層(第5層上面)からの出土量が全体の約80%を占めている。このことは住居廃絶後、中位まで埋め戻した後に、遺物を投げ込んだものと考えられる。

第4号住居跡出土遺物観察表(第149~151図)

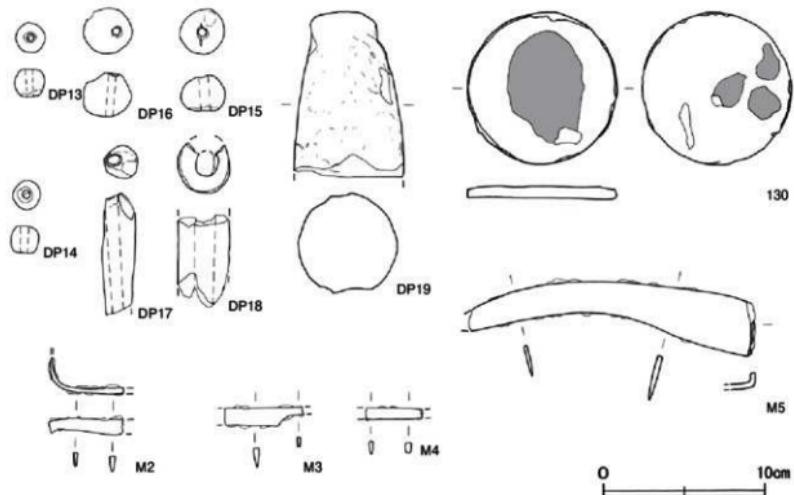
番号	種別	器種	L1径	器高	径底	胎土	色調	焼成	手 法 の 特 徴 ほ か	出土位置	備考
110	須恵器	坏	13.8	4.7	7.8	長石・石英・ 細繩	黄灰	普通	体部クロナデ 下端へラ削り 底部回転へラ切り	覆土中	80% PL45
111	須恵器	坏	12.8	3.8	8.2	長石・石英・ 細繩	褐灰	普通	体部クロナデ 底部回転へラ削り	覆土中層	70%
112	須恵器	坏	[14.5]	4.3	8.4	長石・石英・ 芦母・繩繩	青灰	普通	体部クロナデ 下端へラ削り 底部手持ちへラ削り	覆土中層	60%
113	須恵器	坏	[14.6]	4.6	8.0	長石・石英・ 繩繩	青灰褐	普通	体部クロナデ 下端へラ削り 底部回転へラ切り	P4内	40%
114	須恵器	坏	[12.8]	4.0	8.4	長石・石英・ 芦母・繩繩	褐灰	普通	体部クロナデ 下端へラ削り 底部へラ切り後 手持ちへラ削り	P4内	50%
115	須恵器	坏	[13.2]	5.2	[7.6]	長石・石英・ 白灰粒子	灰白	普通	体部クロナデ 下端へラ削り 底部回転へラ切り	覆土中層	40% PL45
116	須恵器	高台付	15.1	4.9	9.2	長石・石英・ 繩繩	褐灰	普通	体部クロナデ 底部回転へラ切り後高台貼付け	窓内	85% PL45
117	須恵器	高台付	13.4	4.9	9.4	長石・石英・ 芦母	黄灰	普通	体部クロナデ 底部回転へラ切り後高台貼付け	床面	60%
118	須恵器	高台付	[13.5]	5.3	9.3	長石・石英・ 灰	普通	体部クロナデ 底部回転へラ切り後高台貼付け	覆土中層	40%	
119	須恵器	高台付	[14.4]	5.5	[9.0]	長石・石英・ 繩繩	普通	体部クロナデ 底部回転へラ切り後高台貼付け	覆土中層	40% PL45	
120	須恵器	高台付	[13.2]	5.5	7.8	長石・石英・ 灰	普通	体部クロナデ 底部回転へラ切り後高台貼付け 底部回転へラ削り後高台貼付け	覆土中層	40%	
121	須恵器	蓋	[16.0]	3.1	-	長石・石英・ 芦母	灰	普通	体部クロナデ 天井部へ削り後つまみ貼付け	覆土中	30%
122	須恵器	蓋	[16.2]	4.0	-	長石・石英・ 灰	普通	体部クロナデ 天井部へ削り後つまみ貼付け	P4内	25% PL45	
123	須恵器	蓋	[10.0]	(2.2)	-	長石・石英・ 灰	普通	体部クロナデ 天井部へラ削り後つまみ貼付け	床面	25%	
124	土師器	甕	(24.6)	(12.2)	-	黄土・石英・ 芦母・赤色粒子	普通	口部削りつまみ上げ 口部外面横ナデ 体部外面 ハラ削り 内面ヘラナデ	覆土中層	5% PL45	
125	土師器	甕	(24.8)	(11.7)	-	長石・石英・ 芦母・ にぬ・赤色粒子	普通	口部削りつまみ上げ 口部外面横ナデ 体部外面 ハラ削り 内面ヘラナデ	覆土中層	5%	
126	土師器	甕	(24.6)	(6.0)	-	長石・石英・ 芦母・ にぬ・赤色粒子	普通	口部削りつまみ上げ 口部外面横ナデ 体部内面 ハラ削り	覆土中層	5%	
127	須恵器	高盤	[21.8]	[13.6]	-	長石・ 暗灰黄	普通	体部クロナデ 脚部貼付け 脚部透かし窓 4ヶ 所	覆土中層・脚部内面自然地	30% PL45	
128	須恵器	フクス瓦	-	(9.7)	-	長石・黒色 粒子	黄灰	良好	体部クロナデ 狙抜通産	P1内	10% PL46



第149図 第4号住居跡出土遺物実測図(1)



第150図 第4号住居跡出土遺物実測図(2)



第151図 第4号住居跡出土遺物実測図(3)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	施成	手 法 の 特徴 は か	出土位置	備 考
129	須恵器	鉢	[53.8]	(12.3)	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰白	普通	体部外縁斜位の平行叩き	P 1 内	5% PL46
130	須恵器	軸用規	—	(0.9)	9.4	長石・石英・雲母	灰	普通	須恵器環底部軸用 内面擦痕 周縁部研磨	覆土下層	40% PL45

番号	種別	器種	胎土	色調	手 法 の 特徴 は か	出土位置	備 考
TP273	須恵器	瓶	長石・石英・雲母	灰	体部外縁平行叩き	覆土上層	
TP274	須恵器	甕	長石・石英	黄灰	体部外縁平行叩き	覆土中層	

番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
DP13	土玉	18	17	0.5	5.9	土(雲母)	片面穿孔。ナデ	覆土中	PL46
DP14	土玉	18	16	0.5	5.5	土(石英・雲母)	片面穿孔。ナデ	覆土中層	PL46
DP15	土玉	28	22	0.7	16.9	土(長石・雲母・黒色粒子)	片面穿孔。ナデ 指痕圧痕	P 4 内	PL46
DP16	土玉	30	27	0.6	21.9	土(石英・雲母)	片面穿孔。ナデ	P 3 内	PL46

番号	器種	長さ	幅	孔径	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
DP17	管状土器	7.7	20	0.7	(34.4)	土(長石・石英・雲母)	片面穿孔孔 外面ハナデ	覆土中	PL46
DP18	管状土器	(5.7)	32	12	(35.7)	土(長石・石英)	片面穿孔孔 外面ハナデ 外面黒膜	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
DP19	支脚	(10.2)	6.6	6.1	(44.0)	土(長石・石英・雲母)	外面ハナデ 破壊により劣化	覆土中層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特 徴	出土位置	備 考
M 2	刀子	(4.6)	1.0	0.3	(3.9)	鐵	刃部両端欠損 断面連三角形 刃部渋曲	床面	PL46
M 3	刀子	(4.9)	1.2	0.3	(5.9)	鐵	刃部・基部両端欠損 断面連三角形	覆土中層	PL46
M 4	刀子	(3.5)	0.7	0.4	(3.1)	鐵	刃部両端欠損 断面連三角形	覆土中	PL46
M 5	鎌	(17.6)	3.3	0.2	(60.7)	鐵	刃部先端欠損 断面連三角形	床面	PL46

表9 平安時代堅穴住居跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規 模		壁高 (cm)	床面	壁構 造	内 部 施 設			覆土	主な出土遺物	時 期	備 考 重複関係(古→新)	
				長軸×短軸(m)	ピッカ・防護 穴・口・上・壁・空				柱(出入)	壁・防護 穴・口・上・壁・空						
1	C 644	-	-	(4.33 × 0.98)	72 ~ 88	平坦	-	-	-	2	-	-	自然	土師器、埴輪器、土玉、刀子	9C前業	
4	C 647 N 31°W	方形	4.51 × 4.37	62 ~ 70	平坦	一部	4	1	-	壁	-	人為	土師器、埴輪器、土玉、鍾、刀子	9C前業 SB8 → 本跡 → SK152		

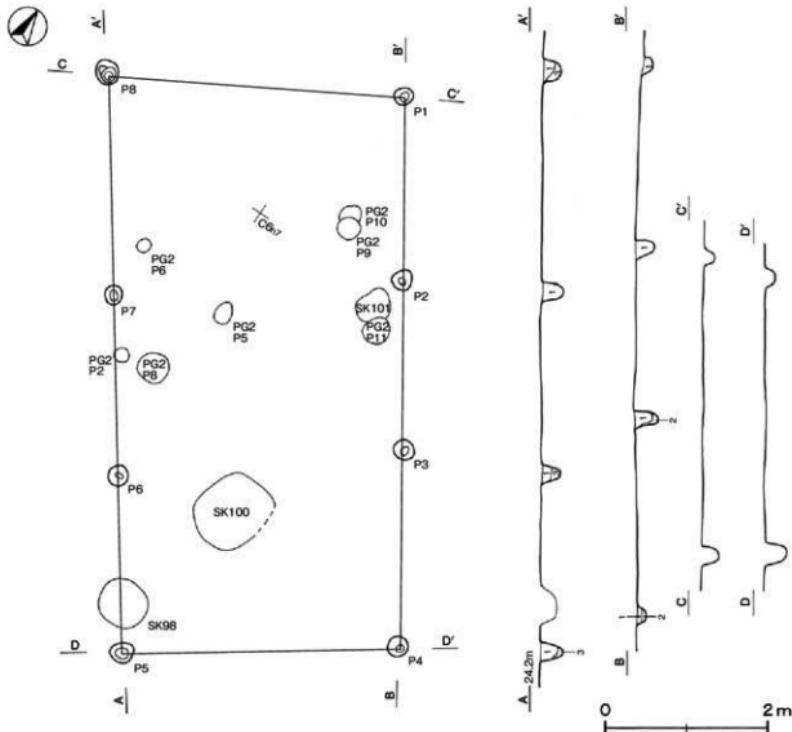
6 中世・近世の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡8棟、方形堅穴道構5基、井戸跡1基、道路跡8条、火葬土坑2基、溝跡2条(第1号道路跡の側溝の可能性ある溝も含む)、墓坑13基、土坑86基、不明遺構1基を確認した。以下、遺構と遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡(第152図)

位置 調査区北部のC 6 h7区、標高24mの台地平坦部に位置している。



第152図 第1号掘立柱建物跡実測図

重複関係 第98・100・101号土坑を掘り込んでいる。また第2号ピット群（P2・P5・P6・P8～P11）とも重複しているが、柱穴間と遺構との重複がないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-32°-Wの南北棟である。規模は桁行7.10m、梁行3.70mで、面積は26.27m²である。柱間寸法は、桁行が北妻から2.2m(7尺)・2.1m(7尺)・2.4m(8尺)・2.2m(7尺)・2.2m(7尺)・2.7m(9尺)で、梁行は3.7m(12尺)・3.4m(11尺)に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形で、長径22～29cm、短径18～19cmである。深さは13～29cmで、掘方の断面形はU字形である。第1層は抜き取り後の覆土、第2・3層は埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	3 黑褐色 ロームブロック微量
2 墓褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 混入して、繩文土器片1点(深鉢)、土師器片4点(甕)が出土している。

所見 規模や構造から倉庫としての機能が想定される。時期が確定できる遺物の出土はないが、確定できる第8号掘立柱建物跡と規模や構造や柱穴の形状、覆土の色調が似ていることから中世以降と思われる。

第2号掘立柱建物跡 (第153図)

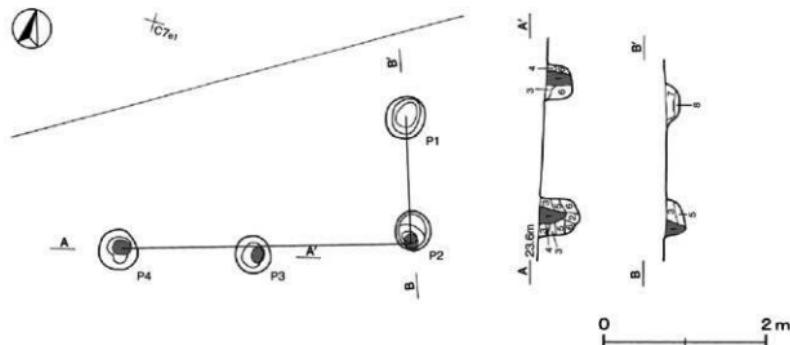
位置 調査区北部のC7e1区、標高23.4mの台地の緩斜面部に位置している。

規模と構造 桁行1間以上、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向N-17°-Wの南北棟であると推測される。規模は桁行1.50m以上、梁行3.60mで、面積は5.40m²以上である。北妻は調査区域外へ伸びているため桁行の規模は不明である。柱間寸法は、桁行が北妻から1.5m(5尺)・1.0m(3尺)以上で、梁行は1.9m(6尺)・1.7m(6尺)に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 4か所。平面形は円形で、長径46～50cm、短径44～48cmである。深さは18～50cmで、掘方の断面形はU字形である。第1層は柱痕跡で、第2～8層は埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黑褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	5 墓褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ローム粒子微量	6 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 墓褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	7 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
4 黒褐色 ロームブロック微量	8 墓褐色 ロームブロック・炭化粒子微量



第153図 第2号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況 混入して、縄文土器片1点（深鉢）が出土している。

所見 規模や構造から倉庫としての機能が想定される。時期が確定できる遺物の出土はないが、確定できる第8号掘立柱建物跡と柱穴の形状や甃土の色調が似ていることから中世以降と思われる。

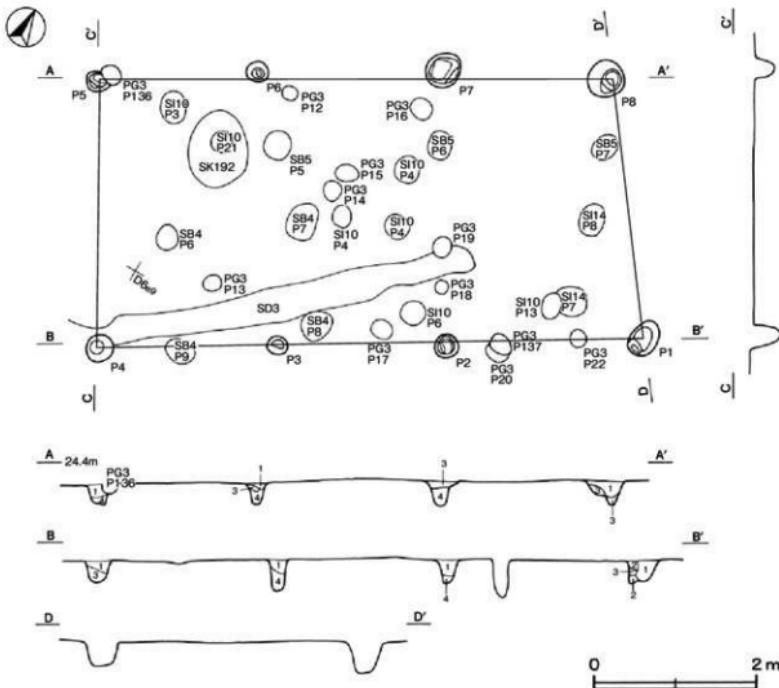
第3号掘立柱建物跡（第154図）

位置 調査区中央部のD 6 d9 区、標高 242 mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号溝、第3号ピット群（P 12～P 20・P 22・P 136・P 137）に掘り込まれ、第10・14号住居跡を掘り込んでいる。また、第4・5号掘立柱建物跡と第192号土坑とも重複しているが、柱穴間と遺構間との重複がないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-59°-Eの東西棟である。規模は桁行6.75m、梁行3.28mで、面積は22.14m²である。柱間寸法は、桁行が北妻から2.4m(8尺)・2.1m(7尺)・2.2m(7尺)・2.0m(7尺)・2.2m(7尺)・2.1m(7尺)で、梁行は3.2m(11尺)・3.3m(11尺)の等間隔に配置されている。柱筋はほぼ描っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径46～50cm、短径44～48cmである。深さは26～47cmで、掘方の断面形はU字形または逆台形である。第1～3層は柱抜き取り後の覆土で、第4層は埋土である。



第154図 第3号掘立柱建物跡実測図

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	3 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック中量。炭化粒子微量	4 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 混入して、土師器片1点(甕)が出土している。

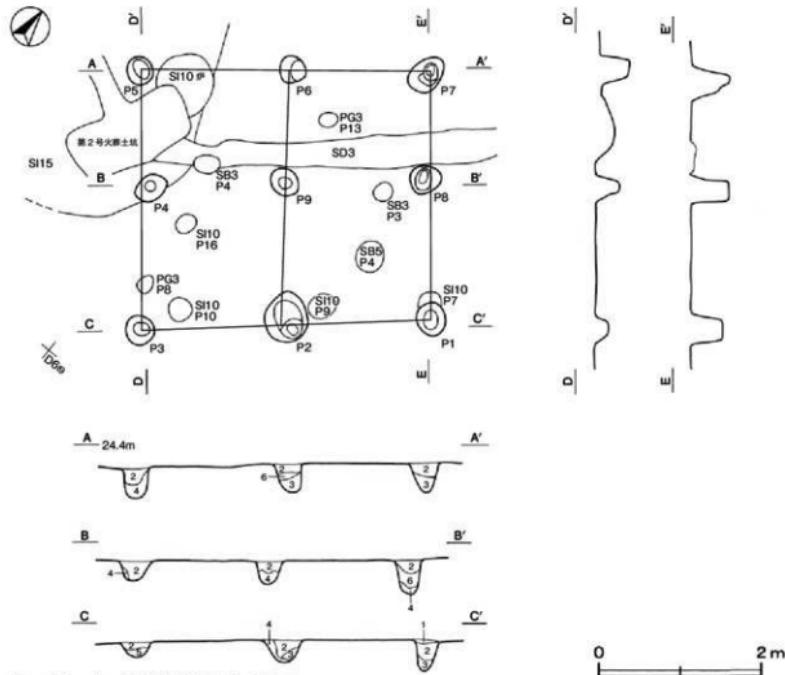
所見 規模や構造から倉庫としての機能が想定される。時期が確定できる遺物の出土はないが、確定できる第8号掘立柱建物跡と柱穴の形状や覆土の色調が似ていることから中世以降と思われる。また調査の段階では第3号ピット群(P 8・P 13)を本跡の柱穴としていたが、深さや配置が合わないため、別遺構とした。

第4号掘立柱建物跡 (第155図)

位置 調査区中央部のD 6 e9区、標高24.2mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10・15号住居跡を掘り込んでいる。第3・5号掘立柱建物跡と第2号火葬土坑、第3号溝跡、第3号ピット群(P 8・P 13)とも重複しているが、柱穴間と遺構間との重複がないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡で、桁行方向N-51°-Eの東西棟である。規模は桁行3.58m、梁行3.20mで、面積は11.46m²である。柱間寸法は、桁行が北妻から1.7m(6尺)・1.8m(6尺)・1.8m(6尺)・1.7m(6尺)で、梁行は1.2m(4尺)・1.8m(6尺)・1.8m(6尺)・1.5m(5尺)に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。



第155図 第4号掘立柱建物跡実測図

柱穴 9か所。平面形は円形または梢円形で、長径 34～60cm、短径 25～54cm である。深さは 19～47cm で、掘方の断面形は U 字形または逆台形である。第 1～6 層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黑褐色 ローム粒子微量	4 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量	5 黑褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

遺物出土状況 混入して、繩文土器片 1 点 (深鉢)、土師器片 1 点 (甌) が出土している。

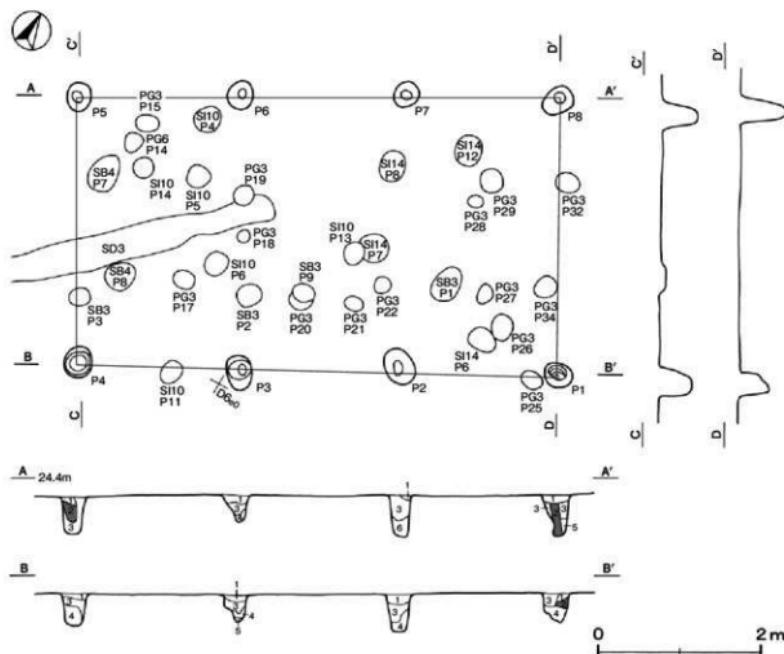
所見 規模や構造から倉庫としての機能が想定される。時期が確定できる遺物の出土はないが、確定できる第 8 号掘立柱建物跡と柱穴の形状や覆土の色調が似ていることから中世以降と思われる。

第 5 号掘立柱建物跡 (第 156 図)

位置 調査区中央部の D 6 d9 区、標高 24.2m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 10・14 号住居跡を掘り込んでいる。第 3・4 号掘立柱建物跡と第 3 号溝跡、第 3 号ピット群とも重複しているが、柱穴間と遺構間との重複がないため、新旧関係は不明である。

規模と構造 衍行 3 間、梁行 1 間の側柱建物跡で、衍行方向 N - 65° - E の東西棟である。規模は衍行 6.00m、梁行 3.42m で、面積は 20.52m² である。柱間寸法は、衍行が北妻から 1.9m (6 尺)・1.9m (6 尺)・2.0m (6



第 156 図 第 5 号掘立柱建物跡実測図

尺)・2.0 m (6尺)・2.0 m (6尺)・1.9 m (6尺)で、梁行は3.4 m (11尺)・3.2 m (10尺)のほぼ等間隔に配置されている。柱筋はほぼ描っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径34～46cm、短径25～54cmである。深さは34～56cmで、掘方の断面形はU字形または逆台形である。第1層は柱抜き取り後の覆土で、第2層は柱痕跡、第3～6層は埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量	4 黒 色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 黒 褐 色 ローム粒子微量	5 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 塗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 塗 褐 色 ロームブロック微量

遺物出土状況 混入して土師器片5点(坏1、甕4)、須恵器2点(坏)が出土している。

所見 規模や構造から倉庫としての機能が想定される。時期の確定できる遺物の出土はないが、確定できる第8号掘立柱建物跡と柱穴の形状と覆土の色調が似ていることから中世以降と思われる。

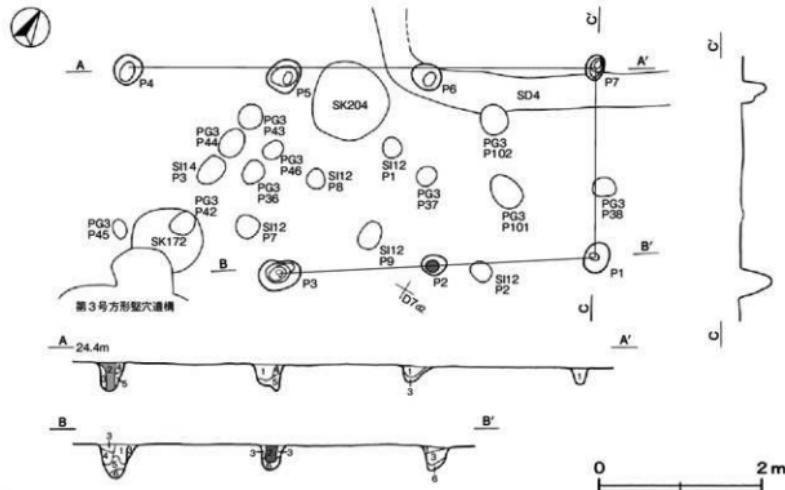
第6号掘立柱建物跡 (第157図)

位置 調査区中央部のD7c1区。標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第12・14号住居跡、第4号溝跡、第172・204号土坑を掘り込み、第3号方形窓穴造構、第3号ピット群(P36～P38、P42～P46、P101・P102)に掘り込まれている。

規模と構造 桁行3間、梁行1間の側柱建物跡で、桁行方向N-59°-Eの東西棟である。規模は桁行586m、梁行2.32mで、面積は13.60m²である。柱間寸法は、桁行が北妻から2.0m(6尺)・2.0m(6尺)・推定1.9m(6尺)・2.0m(6尺)・1.8m(6尺)で、梁行は2.4m(8尺)のほぼ等間隔に配置されている。柱筋はほぼ描っている。

柱穴 7か所。柱の配置から第3号方形窓穴造構に掘り込まれている位置に柱穴が存在する可能性を考えられ



第157図 第6号掘立柱建物跡実測図

るため、実際は8か所と推測できる。平面形は円形または梢円形で、長径32~38cm、短径25~54cmである。深さは20~42cmで、掘方の断面形はU字形または逆台形である。第1層は柱抜き取り後の覆土で、第2層は柱痕跡、第3~6層は埋土である。

土層解説（各柱穴共通）

1 黒褐色 ロームブロック微量	4 灰褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色 ローム粒子・炭化粒子微量	5 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	6 灰褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 混入して、繩文土器片2点（深鉢）が出土している。

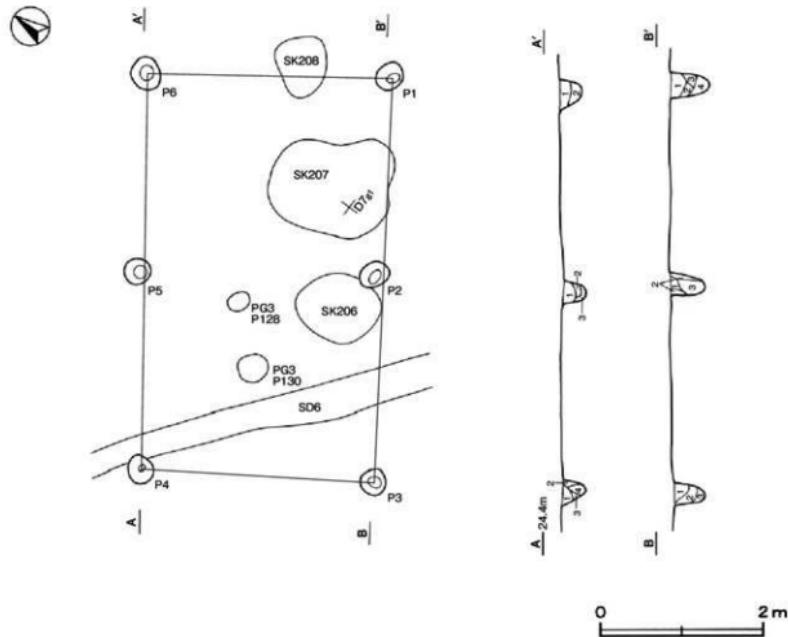
所見 規模や構造から倉庫としての機能が想定される。時期の確定できる遺物の出土はないが、確定できる第8号掘立柱建物跡と柱穴の形状や覆土の色調が似ていることから中世以降と思われる。

第7号掘立柱建物跡（第158図）

位置 調査区中央部のD6 g0区、標高242mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第206~208号土坑、第6号溝跡を掘り込んでいる。第3号ピット群（P 128・P 130）との新旧関係は出土遺物や遺構間との重複がないため、不明である。

規模と構造 桁行2間、梁行1間の楕円柱建物跡で、桁行方向N-53°-Eの東西棟である。規模は桁行5.03m、梁行3.06mで、面積は15.39m²である。柱間寸法は、桁行が北寄から2.4m(8尺)・2.5m(8尺)・2.4m(8尺)・2.5m(8尺)で、梁行は3.0m(10尺)・2.9m(10尺)のほぼ等間隔に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。



第158図 第7号掘立柱建物跡実測図

柱穴 6か所。平面形は円形または梢円形で、長径30~40cm、短径30~35cmである。深さは28~52cmで、掘方の断面形はU字形である。第1~4層は埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック少量 | 3 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック中量 | 4 喧褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 混入して縄文土器片3点(深鉢)、土師器片4点(甕)、須恵器片2点(壺、甕)が出土している。

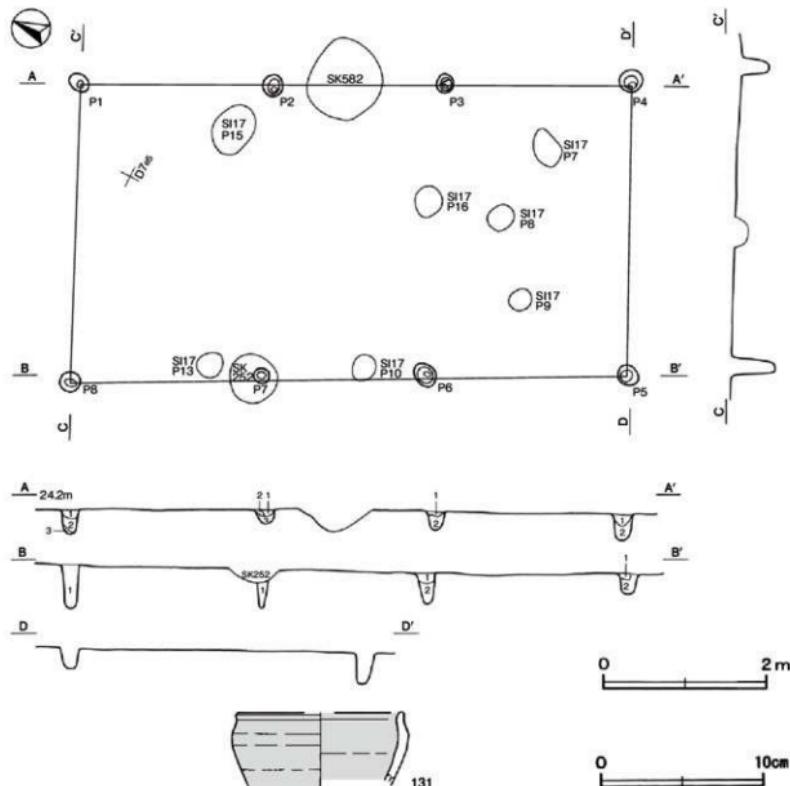
所見 規模や構造から倉庫としての機能が想定される。時期が確定できる遺物の出土はないが、確定できる第8号掘立柱建物跡と柱穴の形状や覆土の色調が似ていることから中世以降と思われる。

第8号掘立柱建物跡 (第159図)

位置 調査区中央部のD7e5区、標高24mの台地の平坦部に位置している。

重複関係 第17号住居跡、第252・582号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造 衍行3間、梁行1間の側柱建物跡で、衍行方向N-26°-Wの東西棟である。規模は衍行6.88m、



第159図 第8号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

梁行 3.60 m で、面積は 24.77 m² である。柱間寸法は、桁行が北妻から 2.4 m (8 尺)・2.1 m (7 尺)・2.2 m (7 尺)・2.4 m (8 尺)・2.1 m (7 尺)・2.4 m (8 尺) で、梁行は 3.7 m (12 尺)・3.6 m (12 尺) のほぼ等間隔に配置されている。柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形または楕円形で、長径 20 ~ 32 cm、短径 18 ~ 22 cm である。深さは 18 ~ 56 cm で、掘方の断面形は U 字形である。第 1 ~ 3 層は埋土である。

土層解説 (各柱穴共通)

1 黒 色 ロームブロック中量	3 黒 褐 色 ロームブロック多量
2 黑 褐 色 ロームブロック少量	

遺物出土状況 中世陶器片 1 点 (天目茶碗) が出土している。131 は P 2 内の覆土中から出土している。

所見 規模や構造から倉庫としての機能が想定される。時期は、出土土器から中世後期 (15 世紀後半から 16 世紀初頭) と思われる。

第 8 号掘立柱建物跡出土遺物観察表 (第 159 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	地 成	手 法 の 特 徴	出 土 位 置	備 考
131	陶器	天目茶碗	(10.2)	(4.5)	-	砂粒	浅黄褐	良好	ロクロ成形 黒鉄雜	P 2 内	5% 覆土 美濃 PL-AB

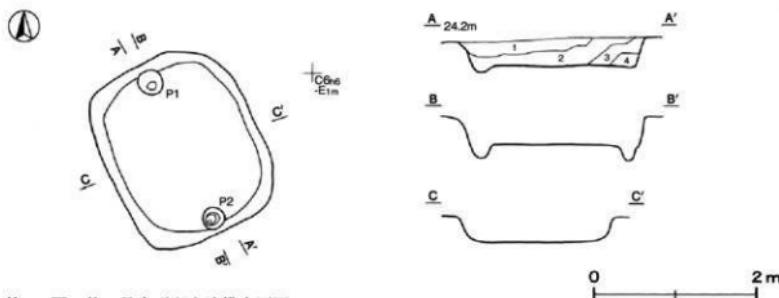
表 10 中世・近世掘立柱建物跡一覧表

番号	位 置	桁行方向	柱間数	棟 横	面 積	柱間寸法	柱 穴			主な出土遺物	時 期	備 考 重複関係(古→新)	
							桁行	棟行	構造	柱穴数	平面形	深さ (cm)	
1	C 6h7	N-32°-W	3 × 1	7.10 × 3.70	26.27	2.7	3.7	幅柱	8	円形	13 ~ 29	織文土器・土師器	中世 SK98・100・ 101 → 本跡
2	C 7e1	N-17°-W	(1) × 2	(1.50) × 3.60	(5.40)	1.5	1.9	幅柱	(4)	円形	18 ~ 50	織文土器	中世
3	D 6d9	N-59°-E	3 × 1	6.75 × 3.28	22.14	2.4	3.3	幅柱	8	円・椭円形	26 ~ 47	土師器	中世 SI10・14 → 本跡 → PG3・SD3
4	D 6e9	N-51°-E	2 × 2	3.58 × 3.20	11.46	1.8	1.8	幅柱	9	円・椭円形	19 ~ 47	織文土器・土師器	中世 SI10・15 → 本跡
5	D 6d9	N-65°-E	3 × 1	6.00 × 3.42	20.52	2.0	3.4	幅柱	8	円・椭円形	34 ~ 56	土器器・須恵器	中世 SI10・14 → 本跡
6	D 7e1	N-59°-E	3 × 1	5.86 × 2.32	13.60	2.0	2.4	幅柱	(7)	円・椭円形	20 ~ 42	織文土器	中世 SI12・14・SD4 → E B → 3号方形堅穴
7	D 6g0	N-53°-E	2 × 1	5.03 × 3.06	15.39	2.5	3.0	幅柱	6	円・椭円形	28 ~ 52	織文土器・土師器	中世 SK96・207・ 208・SD 6 → 本跡
8	D 7e5	N-26°-W	3 × 1	6.88 × 3.60	24.77	2.4	3.7	幅柱	8	円・椭円形	18 ~ 56	陶器	中世後期 SI17・SK252・ 582 → 本跡

(2) 方形堅穴遺構

第 1 号方形堅穴遺構 (SK94) (第 160 図)

位置 調査区北部の C 6h5 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。



第 160 図 第 1 号方形堅穴遺構実測図

規模と形状 長軸 2.30 m、短軸 1.91 m の長方形で、長軸方向は N - 23° - W である。壁高は 30 cm で、床面は平坦であり、壁はやや外傾して立ち上っている。北西側と南東側の壁際中央部にピットが 1 か所ずつ設けられている。

ピット 2 か所。P1 は深さ 13 cm、P2 は深さ 20 cm である。上屋を支える柱穴と思われる。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	3 黑褐色 ロームブロック少量
2 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量	4 喧褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 陶器片 1 点（碗）が覆土中から出土している。その他混入して、縄文土器片 61 点（深鉢）、土師器片 10 点（壺 1、甕 9）、須恵器片 7 点（壺 3、蓋 3、甕 1）。陶器片 1 点（碗）、磁器片 1 点（碗）が出土している。

所見 時期は出土遺物が細片のため明確ではないが、形状と覆土の状況から、中世にみられる方形堅穴造構であると推測できる。

第2号方形堅穴造構（SK95）（第 161 図）

位置 調査区北部の C 6 h8 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 102 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 2.42 m、短軸 2.05 m の長方形で、長軸方向は N - 63° - E である。壁高は 50 cm で、床面は平坦であり、壁はやや外傾して立ち上っている。南西部と北東部の壁際中央部にピットが 1 か所ずつ設けられている。

ピット 2 か所。P1 は深さ 10 cm、P2 は深さ 20 cm である。上屋を支える柱穴と思われる。

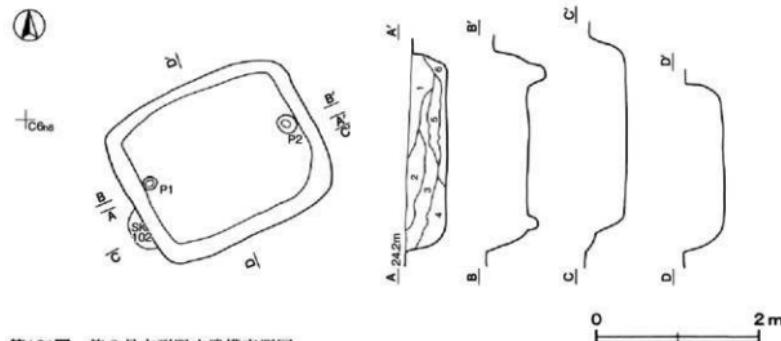
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 喧褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量	4 黒褐色 ロームブロック微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 喧褐色 ロームブロック中量
3 黒褐色 ロームブロック中量	6 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量

遺物出土状況 覆土中から炭化材が出土している。その他混入して、縄文土器片 49 点（深鉢）、弥生土器片 2 点（広口壺）、土師器片 5 点（壺 1、甕 4）、須恵器片 3 点（壺 2、甕 1）が出土している。

所見 本跡に伴う出土遺物がないため明確ではないが、形状と覆土の状況から、中世にみられる方形堅穴造構であると推測できる。



第161図 第2号方形堅穴造構実測図

第3号方形堅穴遺構 (SK155) (第162図)

位置 調査区中央部のD 7 d1 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第158号土坑、第3号ピット群 (P117) を掘り込み、第172号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 一辺 2.19 m の方形で、壁高は 42 cm である。北壁中央部に出入り口施設が設けられているが、第172号土坑に掘り込まれているため、長軸 0.71 m、短軸 0.50 m しか確認できなかった。主軸方向は N - 155° - E である。床面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上っている。東・西壁際の中央部と南壁際のやや西寄りにピットが 1 か所ずつ設けられている。

ピット 3 か所。P 1 は深さ 28 cm、P 2 は深さ 20 cm、P 3 は深さ 24 cm である。上屋を支える柱穴と思われる。

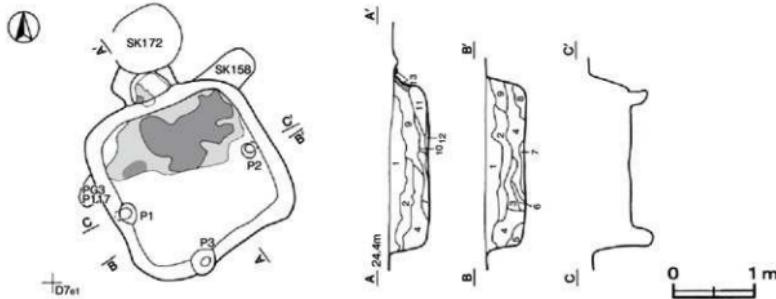
覆土 13 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 色	ロームブロック少量、炭化粒子・粘土粒子微量	8 白 色	ロームブロック多量
2 黒 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	9 黒 白	ロームブロック・粘土粒子少量、炭化粒子微量
3 暗 褐 色	ロームブロック多量、粘土粒子微量	10 黒	ローム粒子・粘土粒子少量、炭化粒子微量
4 薄 褐 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	11 黑	ロームブロック・炭化物少量、焼土粒子微量
5 黒 褐 色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	12 黑	炭化物多量、燒土ブロック少量
6 黒 褐 色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	13 灰 白	粘土塊
7 白 色	ロームブロック中量、炭化粒子微量		

遺物出土状況 北西壁際と床面から炭化材と粘土塊が集中して出土している。混入した、繩文土器片 36 点 (深鉢)、弥生土器片 4 点 (広口壺)、土師器片 3 点 (坏 2、壺 1)、須恵器片 5 点 (坏) も出土している。

所見 本跡に伴う出土遺物がないため明確ではないが、形状と覆土の状況から、中世にみられる方形堅穴遺構であると推測できる。



第162図 第3号方形堅穴遺構実測図

第4号方形堅穴遺構 (SK156) (第163図)

位置 調査区中央部のD 7 e1 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 2.43 m、短軸 2.00 m の長方形で、長軸方向は N - 30° - W である。壁高は 41 cm、床面は平坦で壁は外傾して立ち上っている。北西・南東壁際中央部にピットが 1 か所ずつ設けられている。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 29 cm、P 2 は深さ 23 cm である。上屋を支える柱穴と思われる。

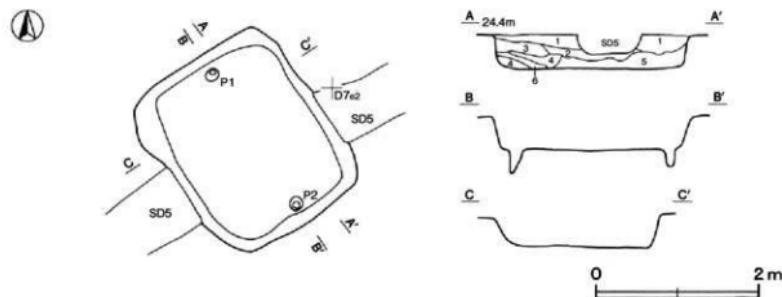
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	4	黒褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ロームブロック中量	6	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量

遺物出土状況 混入して、縄文土器片 52 点（深鉢）、弥生土器片 12 点（広口壺）、土師器片 24 点（壺 4、甕 20)、須恵器片 6 点（壺 1、高盤 1、甕 4)、磁器片 1 点（碗）が覆土中から出土している。

所見 本跡に伴う出土遺物がないため明確ではないが、形状と覆土の状況から、中世にみられる方形堅穴遺構であると推測できる。



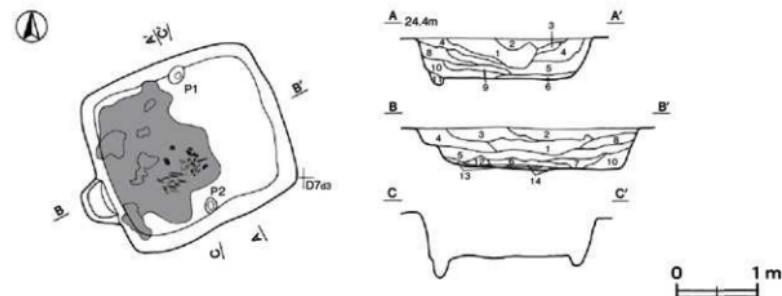
第163図 第4号方形堅穴遺構実測図

第5号方形堅穴遺構 (SK157) (第164図)

位置 調査区中央部の D 7 c2 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 一辺 2.40 m の方形で、主軸方向は、N - 67° - E で、壁高は 52 cm である。西壁やや南寄りに長軸 0.60 m、短軸 0.35 m の出入り口施設が認められる。床面は平坦であり、壁は外傾して立ち上っている。北西・南東壁際の中央部にピットが 1 か所ずつ設けられている。

ピット 2 か所。P 1 は深さ 10 cm、P 2 は深さ 20 cm である。上屋を支える柱穴と思われる。



第164図 第5号方形堅穴遺構実測図

覆土 14層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	8	黒褐色	ロームブロック微量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子中量
3	黒褐色	ロームブロック中量	10	黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4	黒褐色	ローム粒子微量	11	暗褐色	ローム粒子中量、炭化粒子微量
5	暗褐色	ロームブロック中量	12	灰オリーブ色	ロームブロック中量、炭化粒子微量
6	黒褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量	13	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子中量
7	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	14	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 底面から炭化材が出土している。その他混入して、繩文土器片44点(深鉢)、弥生土器片1点(広口壺)、土師器片1点(壺)、須恵器片4点(壺、高盤、蓋、壺)、磁器片1点(碗)が覆土中から出土している。

所見 本跡に伴う出土遺物がないため明確ではないが、形状と覆土の状況から、中世にみられる方形堅穴造構であると推測できる。

表11 方形堅穴造構一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形 長軸×短軸(m)	規模			壁高 (cm)	床面	壁面	内部施設			主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				柱穴	ピット	出入口				柱穴	ピット	出入口		
1	C 6h5	N23°W	長方形	230 × 191	30	平坦	外輪	2	—	—	人為	陶器、繩文土器、須恵器、土師器、炭化材、繩文土器、土師器		
2	C 6h8	N42°E	長方形	242 × 205	50	平坦	外輪	2	—	—	人為	炭化材、繩文土器、土師器、須恵器	SK102 → 本跡	
3	D 7d1	N15°E	方形	219	42	平坦	外輪	3	—	1	人為	炭化材、繩文土器、弥生土器、土師器	SK158、PG3 → 本跡 → SK172	
4	D 7e1	N30°W	長方形	243 × 200	41	平坦	外輪	2	—	—	人為	土師器、須恵器、磁器他	本跡 → SD5	
5	D 7c2	N47°E	方形	240	52	平坦	外輪	2	—	1	人為	炭化材、土師器、須恵器、磁器他、繩文土器、弥生土器		

(3) 井戸跡

第1号井戸跡 (第165図)

位置 調査区北部のC 5g9区、標高23.8mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径368m、短径344mの円形で、確認面から1.80mまでを漏斗状に掘り込んだ後、円筒状に掘り下げている。深さ2.00mまで掘削したが、それ以上は崩落のおそれがあることから、安全のため下部の調査を断念した。

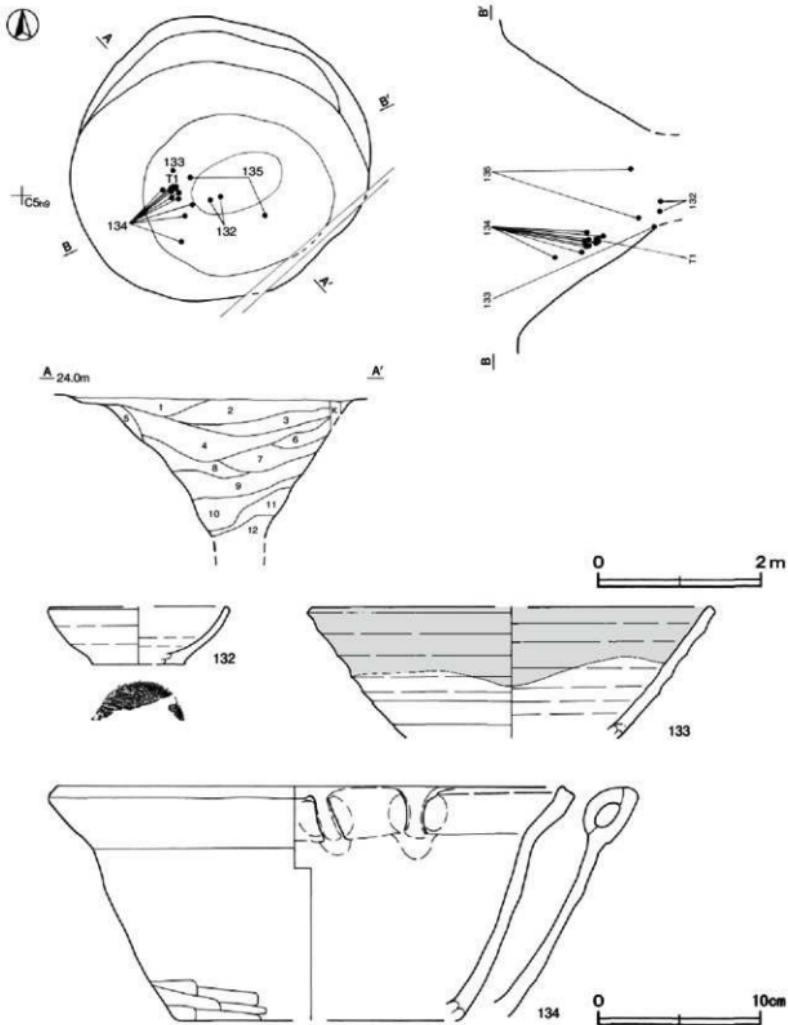
覆土 12層に分層できる。第1~12層はロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック少量、焼土ブロック・炭化粒子微量	7	黒褐色	ローム粒子少量
2	黒褐色	ロームブロック少量、炭化物微量	8	暗褐色	ロームブロック中量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	9	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
4	黒褐色	ロームブロック少量	10	黒褐色	ロームブロック中量
5	暗褐色	ローム粒子中量	11	暗褐色	ロームブロック多量
6	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子微量	12	褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片18点(かわらけ1、内耳鍋17)、陶器片5点(碗1、壺1、壺2、鉢1)、石器、石製品2点(石臼、砥石)、礫4点、軒平瓦片1点が出土している。その他、混入した繩文土器片131点(深鉢)、土師器片4点(壺1、壺3)、須恵器片4点(高盤1、壺1、鉢2)、灰釉陶器片1点(瓶)、鉄滓1点、貝殻69gも出土している。132・133・Q 10は覆土下層から、T 1は覆土中層から、それぞれ出土している。また、135は第10・12層から、134は第4・7~9層から出土したものが接合している。

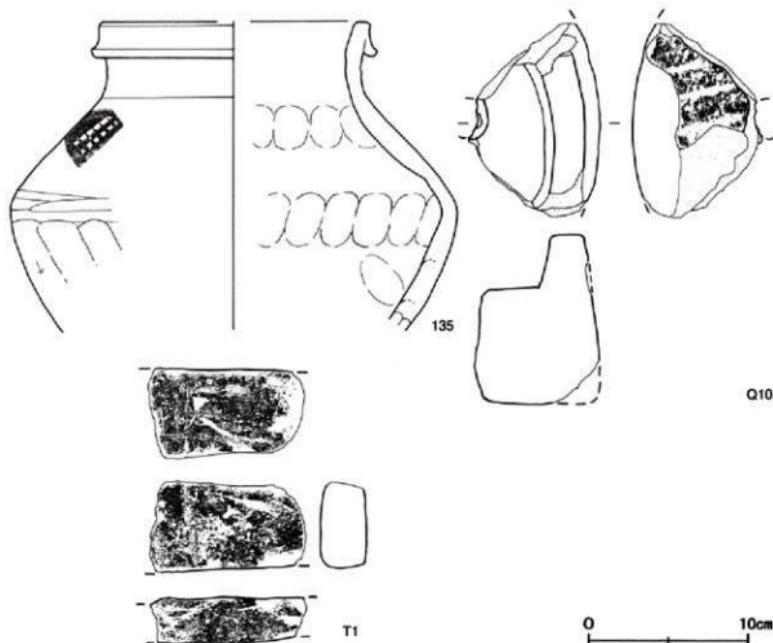
所見 時期は、出土土器から中世後期(15世紀後葉)に比定できる。



第165図 第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表 (第165・166図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
132	土器質土器	かわらけ	(10.9)	3.5	(5.6)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・滑	普通	ロクロ成形 底部削軸系切り	覆土下層	40%
133	陶器	鉢	(24.6)	(8.1)	-	砂粒	灰白	普通	灰釉 茎葉つけ掛け 緩調オーリーブ黄 断れ口付 付着(接着剤)	覆土下層	5% 濃 Pl.47



第166図 第1号井戸跡出土遺物実測図

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
134	土師質土器	内耳鍋	36.0	14.4	[17.0]	長石・雲母	にぶい黒	普通	3耳1付 口縁部・体部外・内面横ナデ 体部外面指痕削正 下端横方向のへラ削り	覆土中層	40% PL51
135	陶器	甕	[16.6]	[19.4]	-	長石・石英・砂粒	にふく黒	普通	LI縁部・体部外面上位横ナデ 体部最目の削印下位横方向のへラ削りナデ 内面指痕によるナデ	覆土下層	30% 常滑
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q 10	石臼	(12.2)	(8.2)	10.6	(868.0)	花崗岩	茶白(上臼)	供給口一部残存	主溝・副溝溝減・無面擦付着	覆土下層	
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴			出土位置	備考
T 1	軒平瓦	(5.7)	(9.8)	29	(200.7)	長石・石英	施巻き造り(模骨模)	四面糸きり後布目彫	凸面へラ状工具によるナデ 古代瓦	覆土中層	PL52

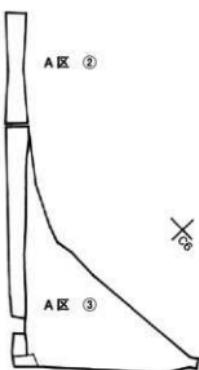
(4) 道路跡

第1号道路跡 (第167～205図)

本跡は、調査区の南西部で確認したが、調査区域外の北西側と南東側に延び、道幅は調査区域外の南西側に拡がっているため全容は不明である。ここでは、調査で最初に確認できた面を第1期面とし、以下確認順に第2・3期面と新しい時代順に呼称する。また、発掘調査では5時期に変遷するという見解であったが、整理作業によって、第2～4期としてとらえた道路構築土中からそれぞれ出土した陶器皿片(143)が、1個体に接合した。このことから、第2～4期の構築面は短期間の3回にわたる道路補修と判断し、上から第2～4期を第2期面a・b・cとして取り扱うこととした。よって、第1～3期に大別することになった。



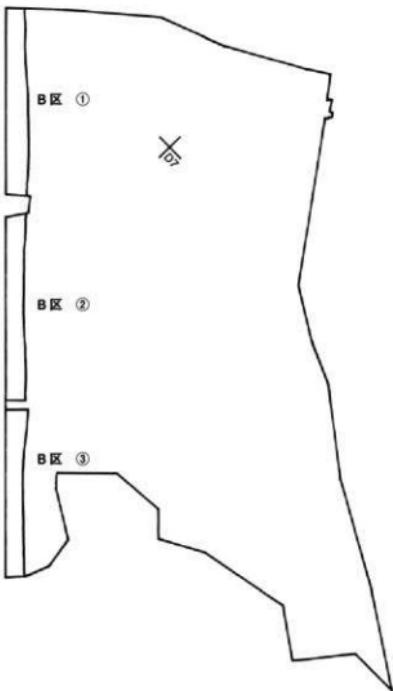
□ A区 ①



B区 ①

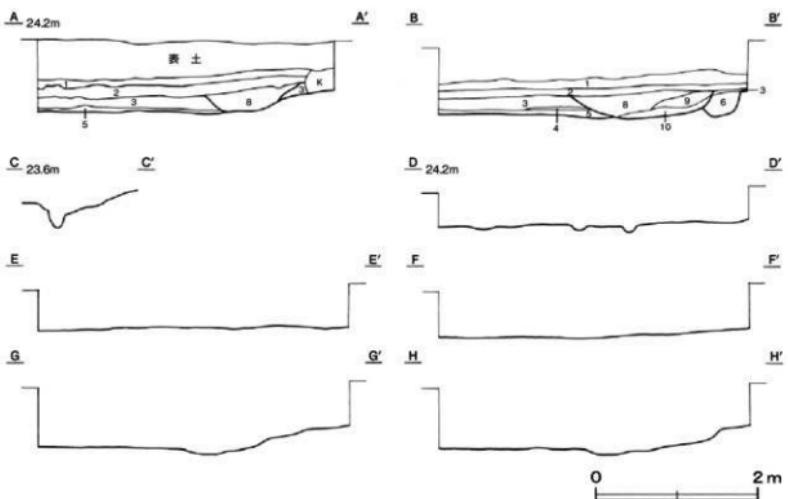
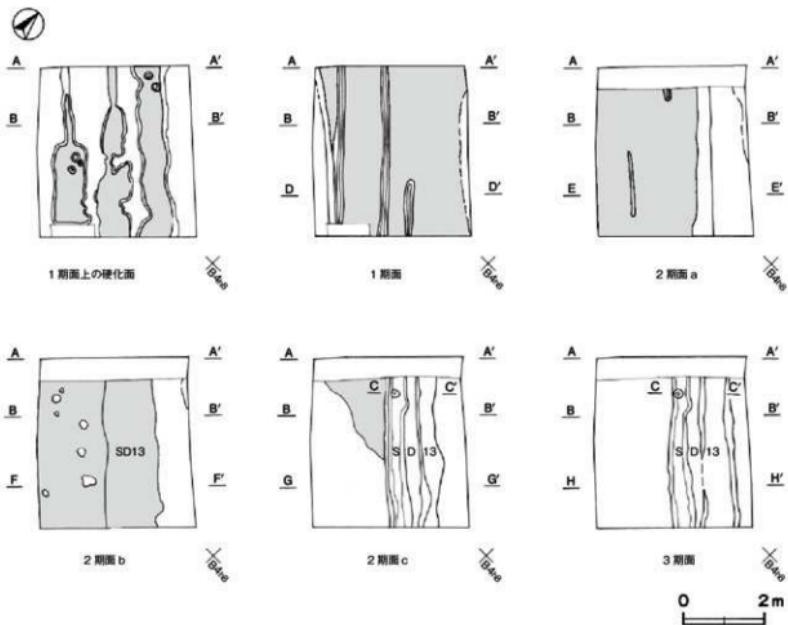
B区 ②

B区 ③

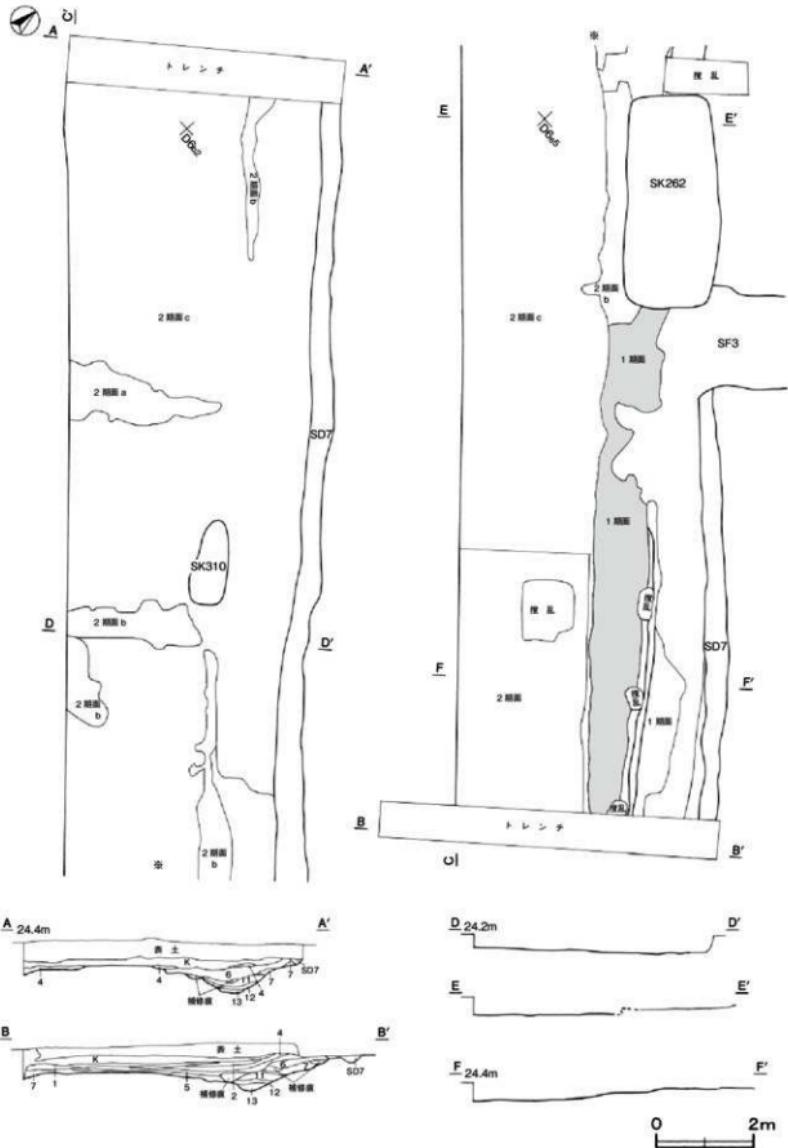


0 20m

第167図 第1号道路跡区割図



第168図 第1号道路跡A区① 1～3期面実測図



第169図 第1号道路跡B区①1期面実測図

調査区は、現道や電柱部分及びサブトレーニングで分断されていたことから6つの区に分割して調査した（第167図参照）。調査区を北東から南西に通る農道を境に北西側をA区、南東側をB区と呼称し、さらにサブトレーニングを境に南西側から区を3分割し、それぞれ区の後に①・②・③の番号を付して地割りした。

位置 調査区南西部のB4g6～E7j8区にかけて確認した。標高23.4～24mの台地傾斜面部に位置している。

重複関係 第5号道路跡、第2・8・9号墓坑、第66・68・78～81・83・85・87・89・140～149・180～190・310・350・351・435・436・439～441・562・563・581号土坑、第1・4・6号ピット群、第10号溝跡を掘り込み、本跡の第1・2期面は第3号道路と共存し、第7号溝、第262号土坑に掘り込まれている。第2・3・8号道路と繋がる。

規模と形状 N-45°-W方向に直線的に延びているが、西側と東側が調査区域外になるため、長さは187mしか確認できなかった。また、調査区域外の南西側へ拡がっているため道路幅は、最大で6.4mしか確認できなかった。掘方の断面形は、逆台形である。

覆土 7層に分層できる。第1～7層は低地部にみられる暗褐色砂質粘土を基調とした道路の構築土である。第1層上面が第1期面、第2層上面が第2期面a、第3層上面が第2期面b、第4層上面が第2期面c、第5層がその構築土下層、第6・7層が第3期面の構築土である。第6層は部分的に硬化面が認められたが、第2期面の改修工事等による影響により、路面の遺存状態が悪い。また、A区の第6層はB区の第7層に相当する。第2期面の改修工事によって、A区の第5層相当層は消滅している。A区とB区では土層の色調に違いが見られる層がある。これは、天候や乾燥具合の違いによるもので、各層の含有物等の観察から基本的には同一土層であると考えられる。それぞれの路面は硬化し、強く締まっている。

A区土層解説

1	暗褐色	砂粒多量、ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
2b	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量(2期面a無機の覆土)	6	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量
3	暗褐色	ロームブロック・炭化物微量			

B区土層解説

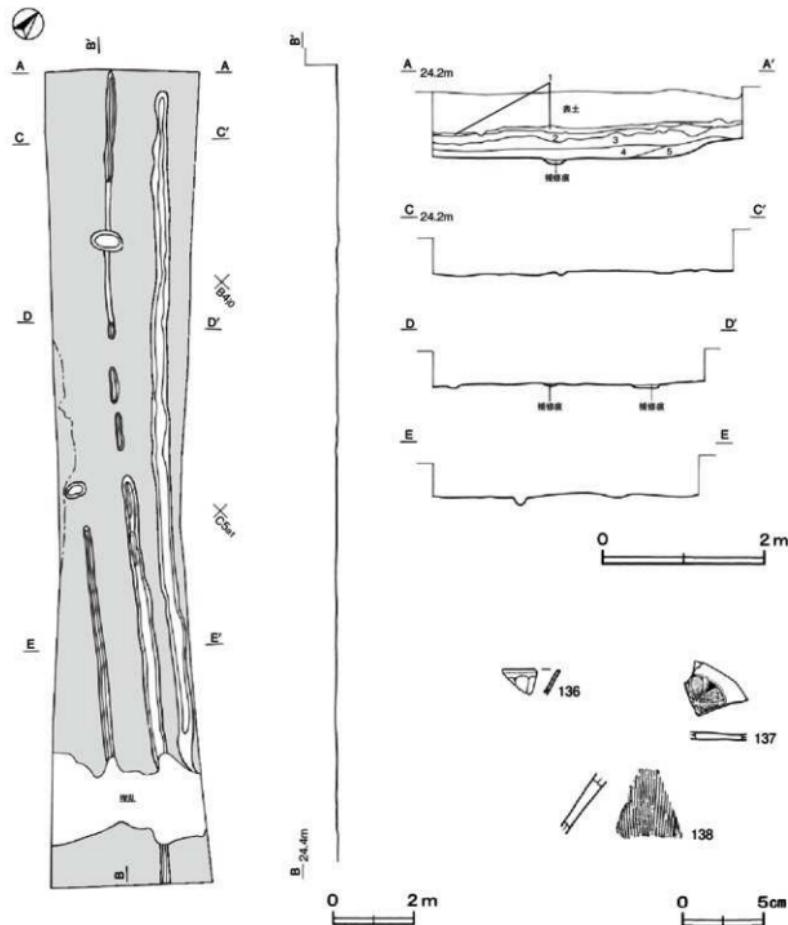
1	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	5	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量
3	黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量
4	黒褐色	ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量			

ア 第1期面（第168～174図）

第1期面で確認できた道路幅は3.5～6.4mで、北西側から南東側にかけてオーブンカット工法により、ハードローム層を掘り抜き、切り通し状になっている。路面には陶磁器片と細縫を混入した暗褐色砂質土で整地しており、雨が降っても水はけが良く渴きも早い。硬化面は、全域に確認できた。轍痕は2組以上確認できるが、明確に残っていた轍痕の幅は1.1mである。それぞれの轍痕や楕円状の細長い窪みには、沼沢や湿地などでみられる止水性堆積土である淡青灰色粘土を使用して埋め戻し補修を行っている。

遺物出土状況 第1期面構築土中から、陶器片8点（擂鉢3、天目茶碗2、碗2、壺1）、磁器片21点（碗20、皿1）、金属製品3点（釘）、碟3点、馬鹿1点・骨片1点（付章参照）が出土している。その他混入して、繩文土器片3点（深鉢）、土師器片1点（壺）、須恵器片1点（壺）、灰釉陶器片1点（碗）も出土している。ほとんどが細片であり、136～139しか図示できなかった。136～138はA区②地点、139がA区③地点からそれぞれ出土している。

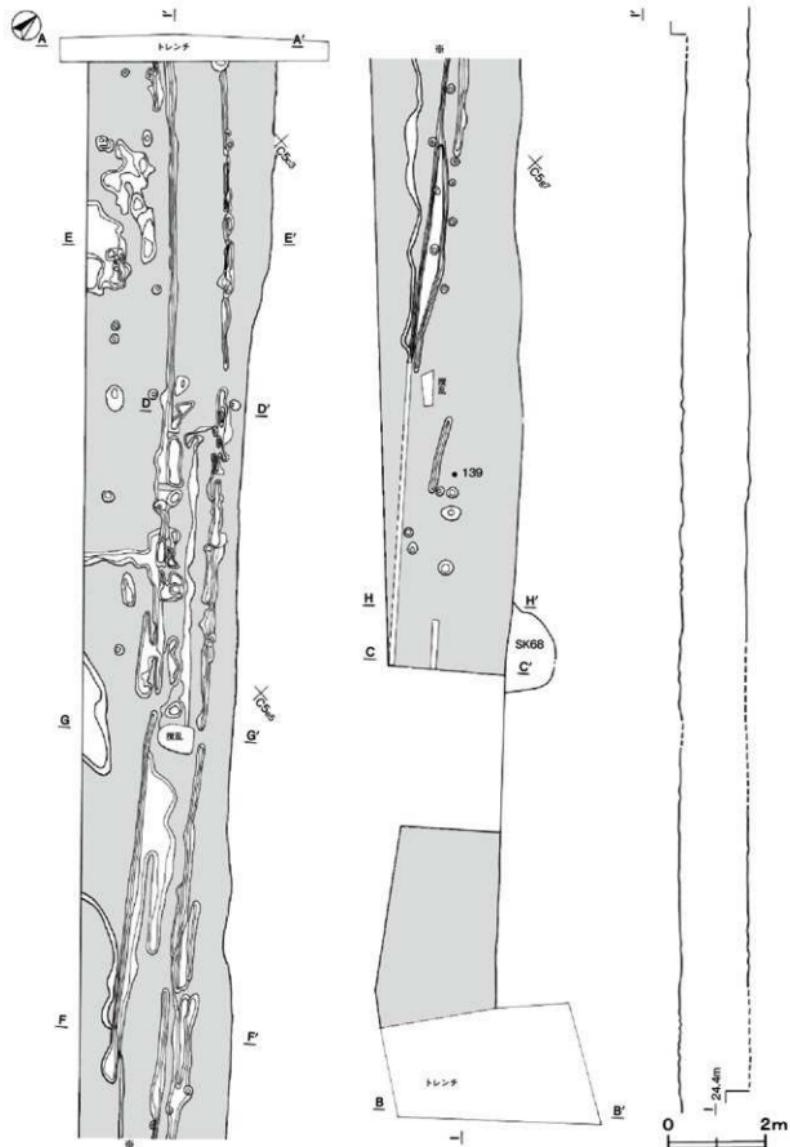
所見 時期は、出土土器から19世紀前半～後葉に比定できる。



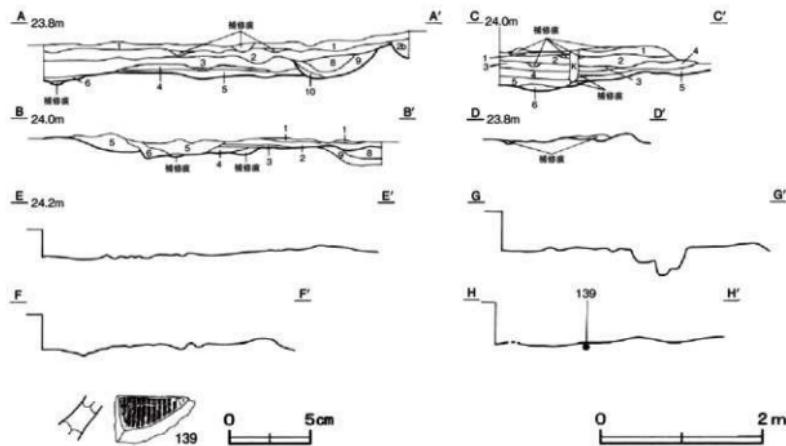
第170図 第1号道路跡A区(②)1期面・出土遺物実測図

第1号道路跡A区(②)1期面出土遺物観察表 (第170図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
136	器物	碗	-	(1.5)	-	緻密	明青灰	良好	透明釉 染付 口縁部外周輪線文 体部外面荀文	1期面 標第上 PL48	5% 肥前
137	器物	皿	-	(0.4)	-	緻密	白	良好	透明釉 見込み丸文 人工的な些(ペロ)痕 織錦	1期面 標第上 PL48	5% 肥前
138	陶器	擂鉢	-	(3.7)	-	砂粒	暗赤褐	良好	外面鉄軋	1期面 標第上 PL48	5% 肥前



第171図 第1号道路跡A区③1期面実測図



第172図 第1号道路跡A区③1期面・出土遺物実測図

第1号道路跡A区③1期面出土遺物観察表（第172図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
139	陶器	罐	-	(28)	-	砂粒	赤褐色	良好	外・内面鉄輪	1期面 橋梁土	常滑

イ 第2期面 a・b・c (第168・175～193図)

第2期面で確認できた道路幅は最大5.3mで、北西側から南東側にかけてオープンカット工法によりハードロード層を掘り抜き、切り通し状になっている。路面には陶磁器片と細礫を混入した暗褐色砂質土を使用し整地しており、雨が降っても水はけが良く渴きも早い。硬化面は、南側全域に確認できた。さらに硬化面は細かく3面に分けることができた。a面では轍痕が1組確認でき、深さは3～22cm、泥澤でゆるい部分が深くなっていることがうかがえる。轍間の幅は1.2mである。b面では轍痕が2組以上確認できたが、明確なセットとしてとらえられる2組は幅1.1mである。c面でも轍痕が2組以上確認できたが、明確にとらえられるものの幅は1.1mである。それぞれの轍痕の内には淡青灰色粘質土を埋め戻し、補修を行っている。

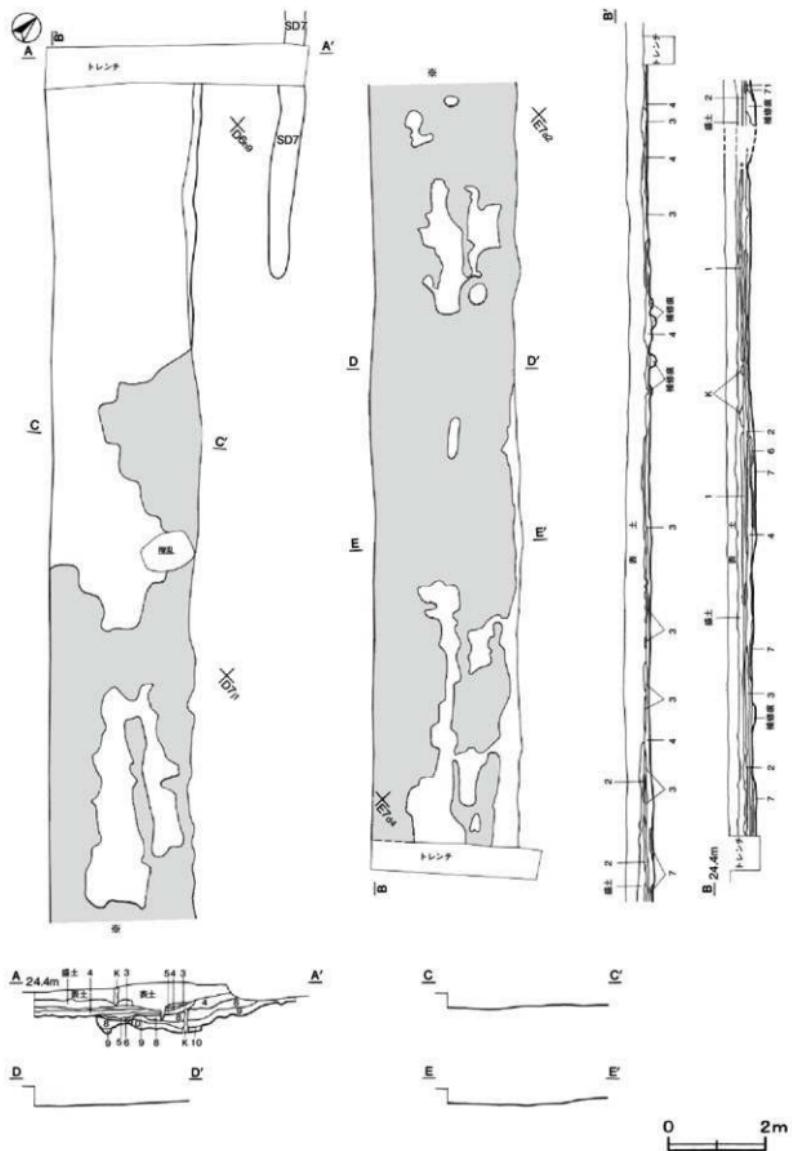
A区①～③地点、B区①～③地点の各地点から南東端部に断続的に第13号溝跡が確認された。溝は上幅0.70～0.75m、底面幅0.15～0.40mで、断面形は、逆台形である。本期面と同時期のものであるが、調査区域外に伸びているため、区域内では対になる溝は確認できなかったが、形状などから道路の側溝であると推測できる。また、B区③地点では溝の底面から足跡が7足確認できた(第191図)。足跡はかかとを道路側に向か、北西側から左足、右足、左足、右足、左足、右足、左足の順で南東側方向(高浜方向)へ千鳥足で歩行している。歩幅は47～55cm、足の大きさは24～25cmである。また、足跡は土踏まずの形状がみられる事から裸足であったと推測できる。

補修痕土層解説

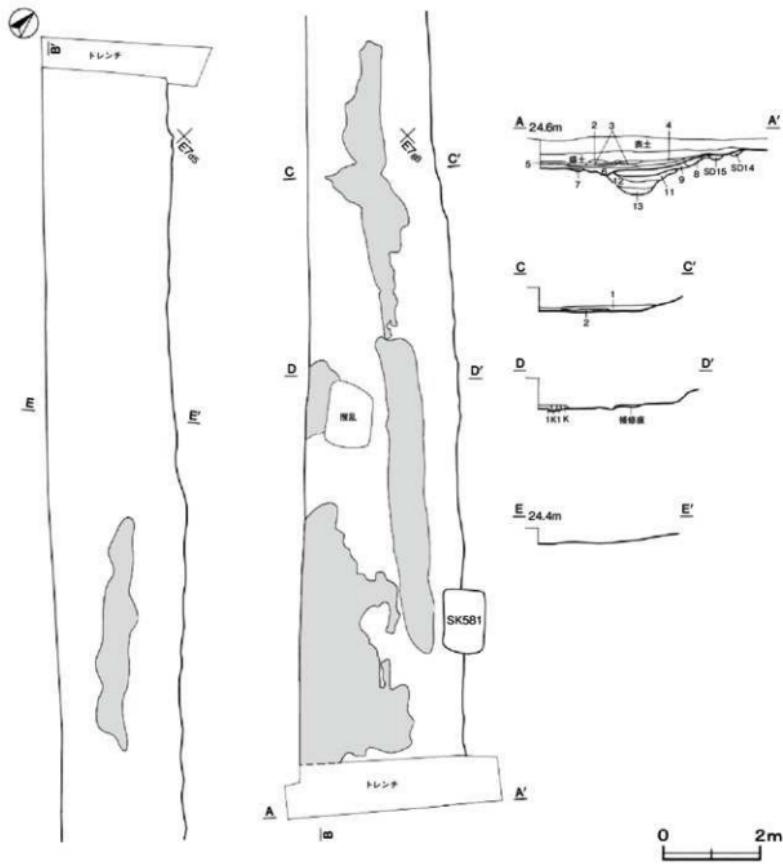
- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| 1 淡青灰色
砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子微量 | 3 灰色
灰分・砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子微量 |
| 2 淡青灰色
砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子少量 | 4 灰色
砂粒多量、ロームブロック微量 |

13号溝跡土層解説(土層番号は第1号道路跡横梁土からの通し番号)

- | | |
|-------------------------|-------------------------------|
| 8 黒褐色
ロームブロック・炭化粒子微量 | 10 黒褐色
ロームブロック・砂粒少量、炭化粒子微量 |
| 9 黑褐色
ロームブロック・炭化粒子少量 | |



第173図 第1号道路跡B区②1期面実測図



第174図 第1号道路跡B区③1期面実測図

遺物出土状況 第2期面構築土中から、土師質土器片25点(小皿8, 火鉢4, 鍋2, 焙烙3, 香炉1, 摺鉢2, 不明5), 瓦質土器片10点(火鉢8, 薩2), 陶器片214点(碗91, 鉢4, 薩25, 摺鉢51, 盆18, 卸皿1, 瓶7, 天目茶碗4, 薩12, 火鉢1), 磁器片253点(碗240, 小鉢4, 甕2, 鉢3, 盆4), 青磁片1点(碗), 金属製品27点(銭貨3, 槌1, 鉄滓3, 銅7, 煙管3, 火打金1, 不明9), 瓦片11点, 馬齒2点(付章参照)が出土している。また、混入した縄文土器片318点(深鉢), 弥生土器片3点(広口薩), 土師器片99点(壺21, 高壺2, 萨75, 甕1), 須恵器片70点(壺13, 高台付壺4, 高盤1, 蓋2, 長頸壺1, 萨49), 灰釉陶器片8点(碗4, 瓶4), 土製品6点(土器片錐4, 土玉2), 石器22点(打製石斧1, 磨製石斧2, 磨石6, 刃片7, 砥石6)も出土している。140・141はA区①地点, 142・143・M6・7はA区③地点, 144～146, T2はA区②地点から出土し, 出土層位は140～143・M6・7が第2期面aの構築土中, 144～146・T2は第2期面bの構築土中, 141の龍

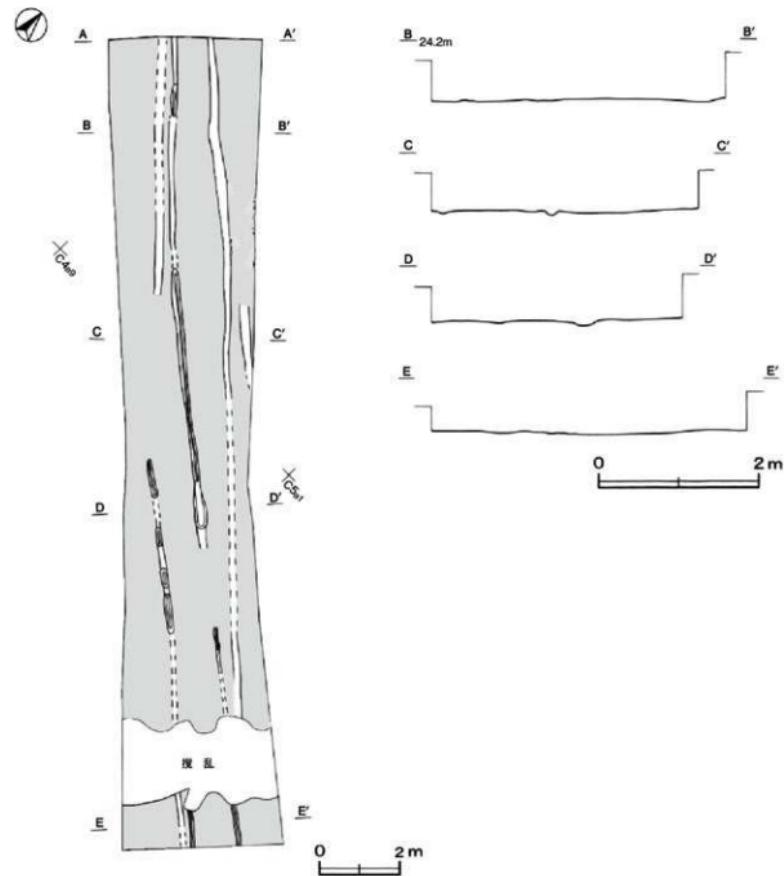
泉窯場速弁文の青磁碗片は、中世（13世紀代）の所産であるが、それと混在して近世磁器の細片も出土している。

また、143は、本時期a～c面構築土中から出土した破片が接合したものである。

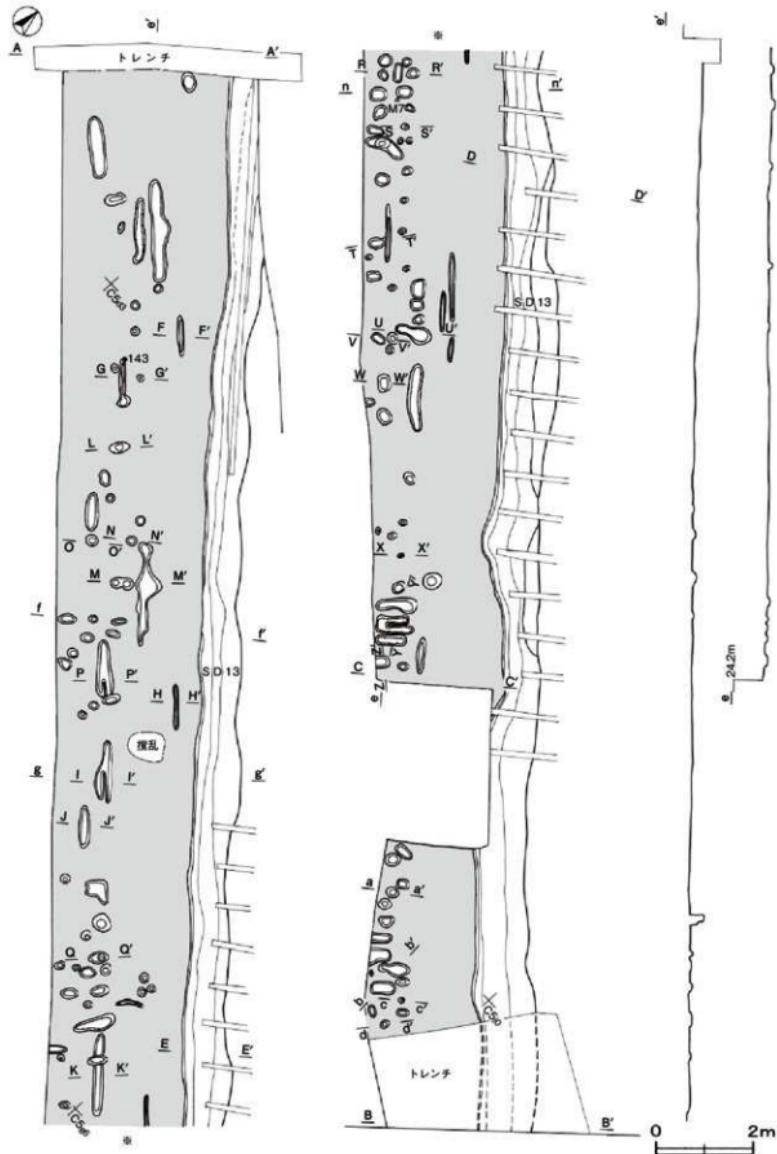
所見 時期は、出土遺物から18世紀中葉～後葉に比定できる。



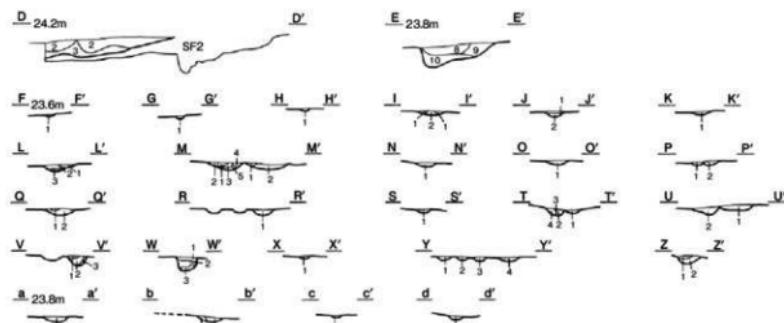
第175図 第1号道路跡A区①2期面a出土遺物実測図



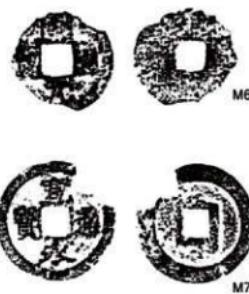
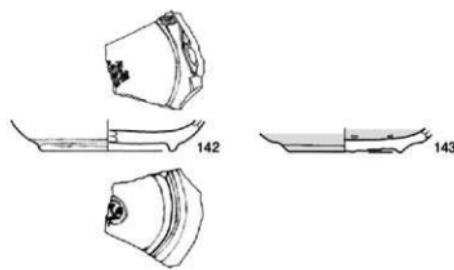
第176図 第1号道路跡A区②2期面a実測図



第177図 第1号道路跡A区③2期面a実測図



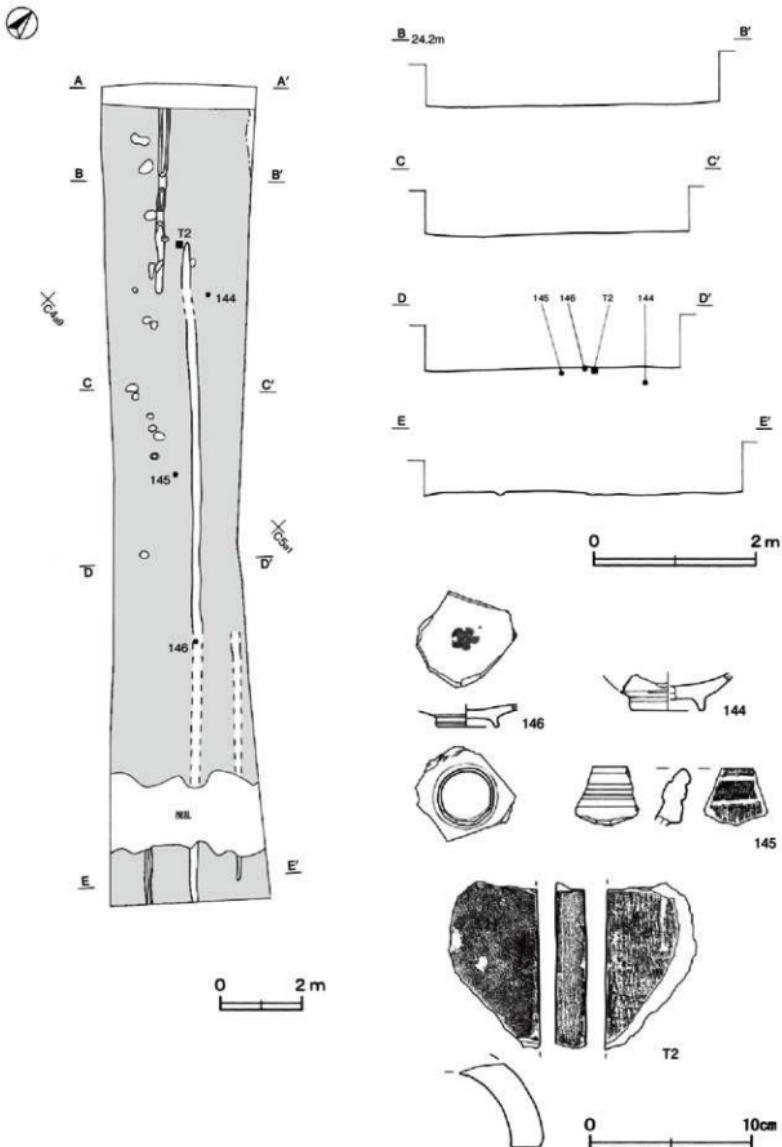
0 2m



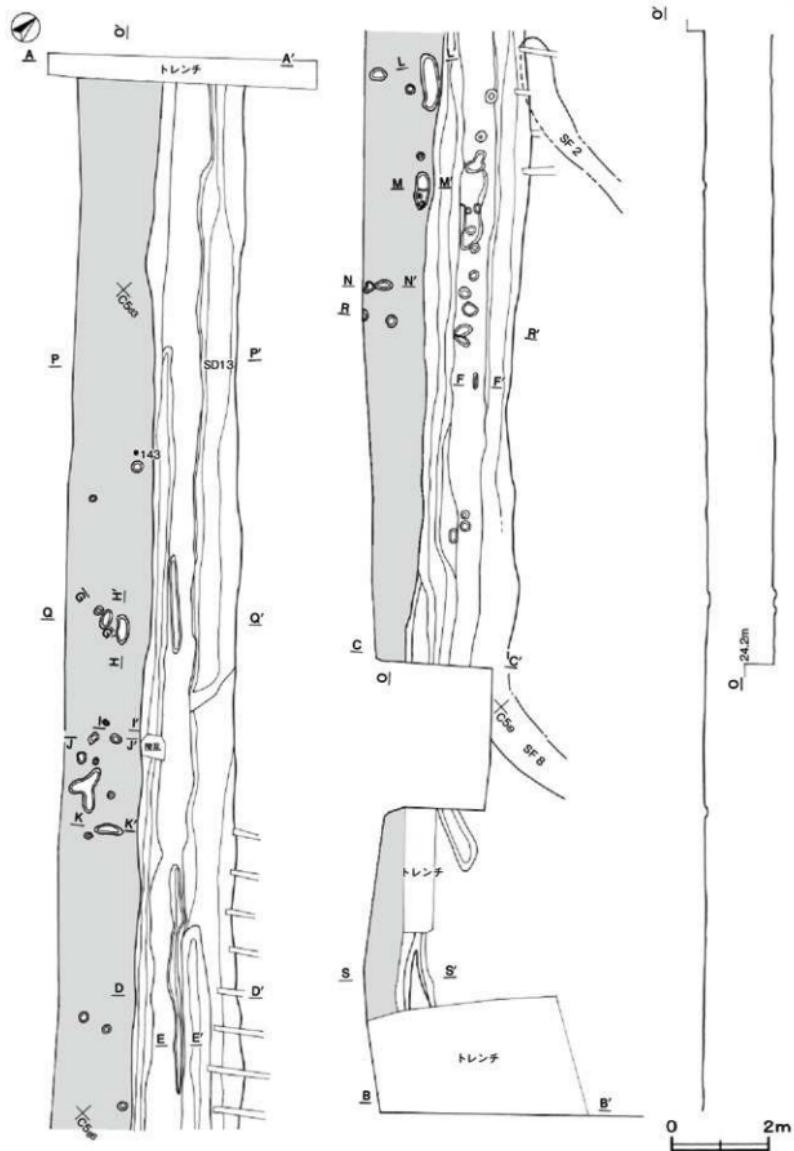
0 10cm

0 2cm

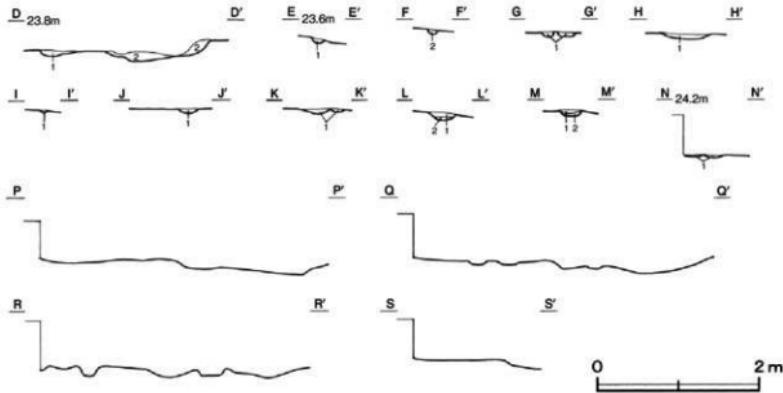
第178図 第1号道路跡A区③2期面a・出土遺物実測図



第179図 第1号道路跡A区②2期面b・出土遺物実測図



第180図 第1号道路跡A区③2期面 b 実測図 (1)



第181図 第1号道路跡A区③2期面b実測図(2)

第1号道路跡A区①2期面a出土遺物観察表(第175図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
140	陶器	壺鉢	-	(3.6)	(136)	長石	浅黄	良好	外・内面鉄輪 体部から底部内面10~12本の様目	2期面 構築土 PL50	20%発見 美濃 PL50
141	磁器	青磁瓶	-	(3.1)	-	緻密	灰白	良好	編織弁文 輪調明オリーブ	2期面 構築土 PL48	5% 美濃 PL48

第1号道路跡A区③2期面a出土遺物観察表(第178図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
142	磁器	染付壺	-	(1.9)	(8.0)	緻密	灰白	良好	透明釉 染付 見込み五弁花文 体部外面1条の 隔線 内面二方花文々 底部崩し縫々	2期面 構築土 PL47	5% 肥前 PL47
143	陶器	壺	-	(2.0)	(7.0)	砂粒	にごり黄褐色	良好	灰釉 底部内面チタン斑	2期面 構築土 PL47	5% 肥前 PL47

番号	銘名	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 6	国元通寶	(230)	0.63	0.12	(1.5)	銅	初期年845 治代横隸 面背文無	2期面構築土 PL52	
M 7	寛永通寶	245	0.60	0.12	(2.1)	銅	1期古寛永(1636~1659年) 面背文無	2期面構築土 PL52	

第1号道路跡A区②2期面b出土遺物観察表(第179図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
144	磁器	碗	-	(2.4)	(4.4)	緻密	灰白	良好	透明釉 体部外面刷目文 高台部二重圓文	2期面 構築土	5% 肥前
145	陶器	壺鉢	-	(3.5)	-	長石・雲母	赤	良好	口縁部外面2条の沈線 体部内面7~8条横目	2期面 構築土	5% 肥前 PL48
146	磁器	碗	-	(3.5)	3.5	緻密	灰白	良好	透明釉 見込み梅花文 体部外面筆文 高台部二 重圓文	2期面 構築土	5% 肥前

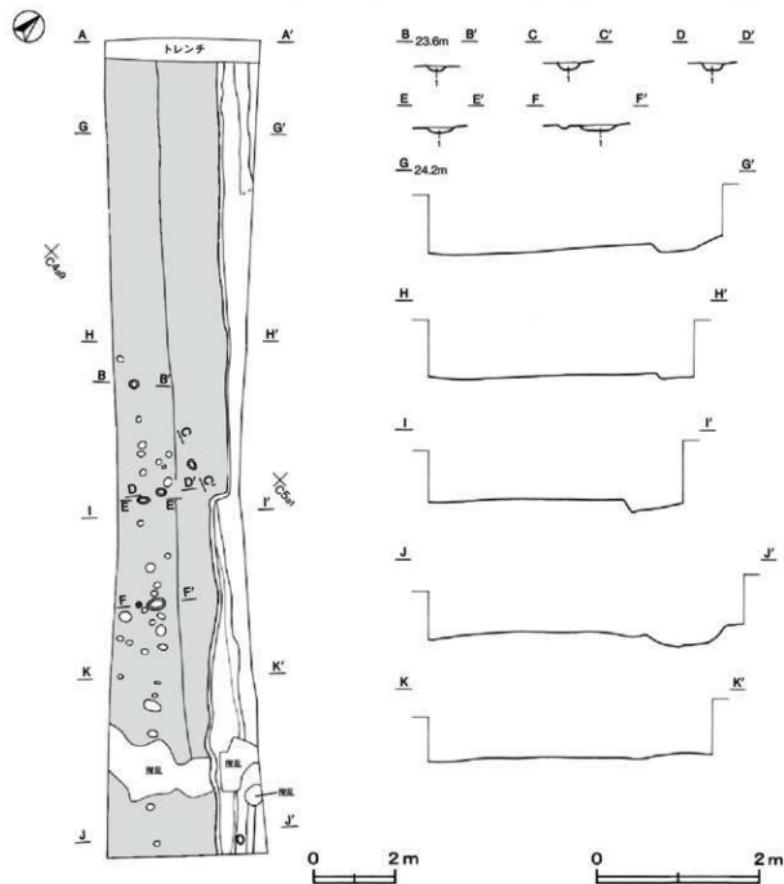
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T 2	瓦丸	(10.1)	(5.0)	1.8	(126.5)	長石・雲母	凹面布目痕 近世瓦	2期面構築土	PL52

ウ 第3期面(第168・194~205図)

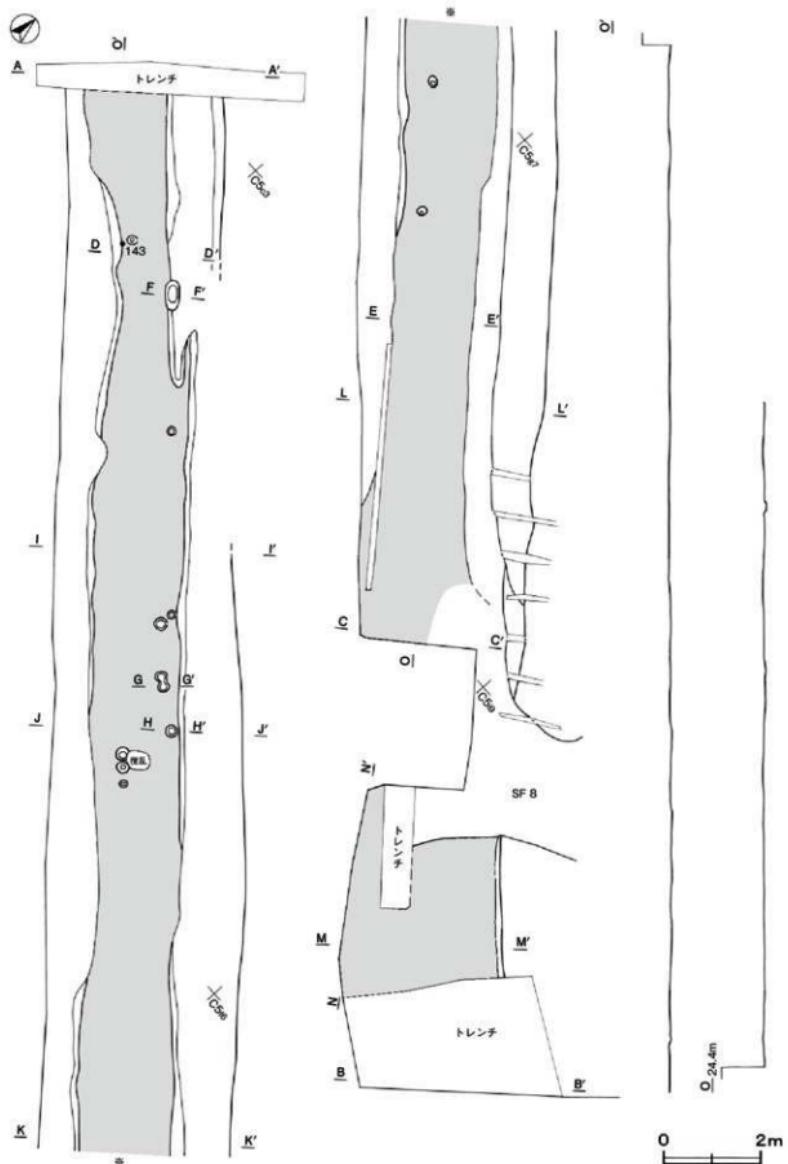
第3期面で確認できた道路幅は最大3.9mで、北西側から南東側にかけてオープンカット工法により、地山

であるハドローム層を掘り抜き、切り通し状になっている。断面形は、逆台形である。これは本跡の基本的掘方で、その上に第6・7層を覆って路面の構築土としている。一部、ロームが露呈している箇所もみられ、硬化面はわずかな部分にしか確認できなかった。この状況は、第2期面の構築の際に第3期面の路面を一部削りとったものと推測できる。本期面では、轍の痕跡と思われる長さ0.48～1.20m、幅0.18～0.32m、深さ2～4cmの梢円状の窪みも確認した。

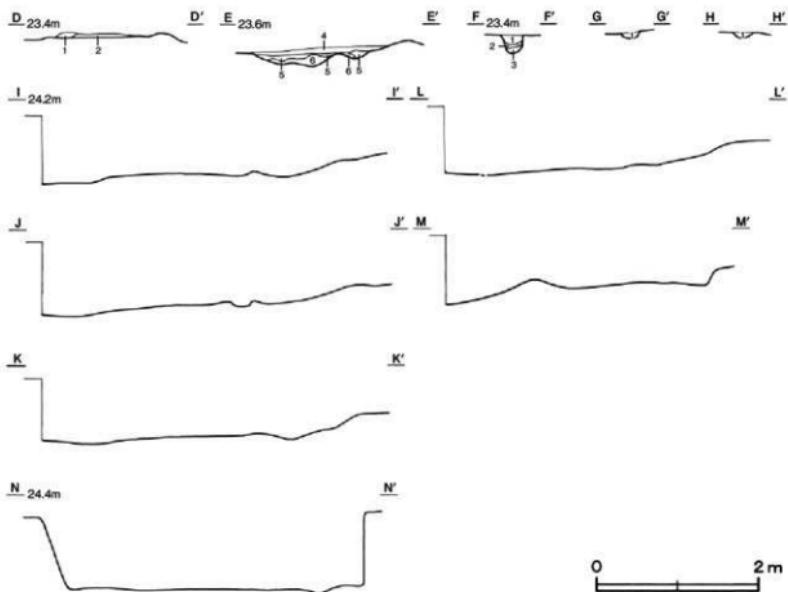
遺物出土状況 第3期面構築土中側溝内、窪み、波板状凹凸面から、土師質土器片4点(焼炉1、火鉢2、擂鉢1)、陶器片52点(碗12、皿11、擂鉢5、花瓶1、天目茶碗3、瓶2、鉢4、甕14)、磁器片87点(碗81、皿6)、金属製品12点(釘3、煙管2、鉄滓2、錢貨2、銅1、不明2)、瓦片2点、ガラス片3点、馬齒2点(付章参照)がそれぞれ出土している。その他、混入して、繩文土器片354点(深鉢)、弥生土器片12点(壺)、土



第182図 第1号道路跡A区②2期面c実測図



第183図 第1号道路跡A区③2期面c実測図(1)



第184図 第1号道路跡A区③2期面c実測図(2)

器片28点(甕12、壺10、椀2、皿4)、須恵器片33点(壺12、甕15、高盤1、蓋4、瓶1)、石器7点(打製石斧1、敲石1、剥片5)、土製品3点(土器片円盤)が磁器片と共に側溝から出土している。147・M8・9はB区①地点、M10はB区②地点、149・150はB区③地点の構築土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土遺物から17世紀後半～18世紀前半と考えられる。

工 波板状凹凸面・補修痕(第196図)

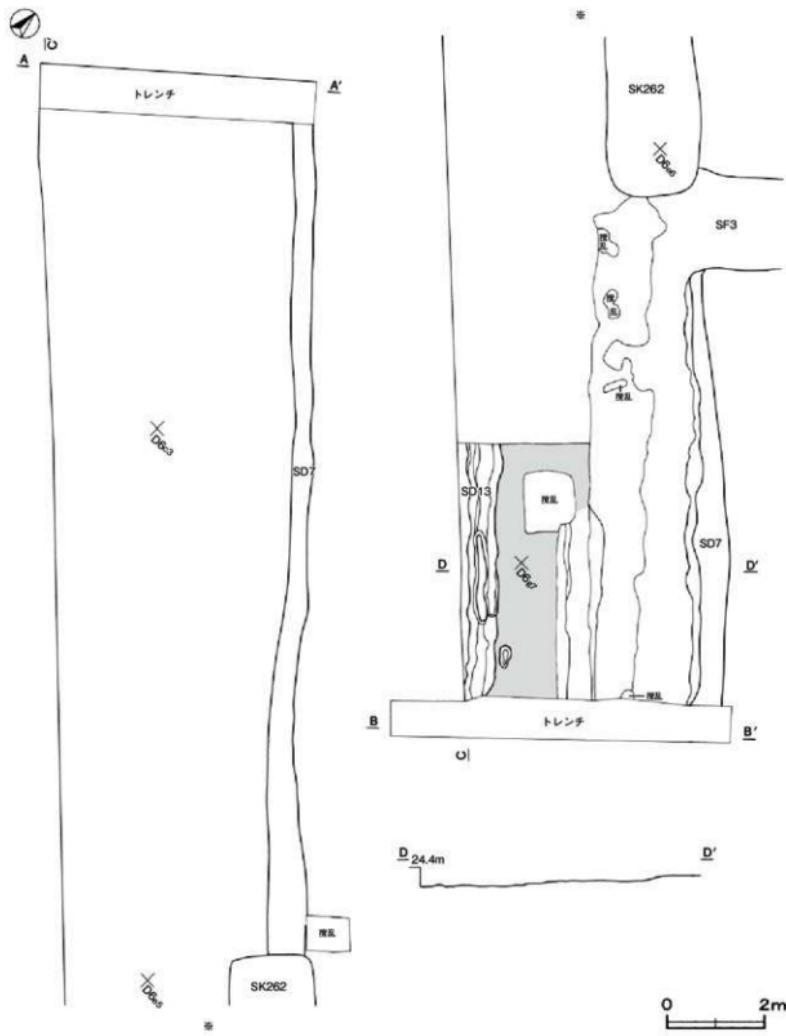
第3期面構築土の掘方には円形や楕円形の窪み、更にA区②地点の南部からB区②地点の北部にかけて波板状凹凸面が確認できた。それらの窪みは長さ1.0～1.2m、幅0.34～0.35mの楕円形を呈しており、幅0.4m間隔で確認された。淡青灰色粘質土を使用して埋め戻し、補修を行っている。また、窪みの中には第5号道路跡の構築土中に確認できるものもあり、これらも同様に補修を行っている。構築土の上面は硬化し、下層も硬く締っていた。構築土中には陶磁器片や細繩が混入している。また、下層には鉄分の沈着がみられた。

波板状凹凸面・補修痕土層解説

1 淡青灰褐色 砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子微量	3 暗灰褐色 鉄分・砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子微量
2 淡青灰色 砂粒多量、ロームブロック・焼土粒子少量	4 暗褐色 砂粒多量、ロームブロック微量

才 溝跡(第194～205図)

第3期面の掘方からは、さらに南西側から順に第14～16号溝跡を確認したが、それぞれ対になる溝を調査区域内で確認することはできなかった。しかし、位置や形状から道路の側溝と考えられる。さらに第16号溝跡の下から確認できた第8号溝跡も道路に伴う側溝の可能性があるため、本項で報告する。

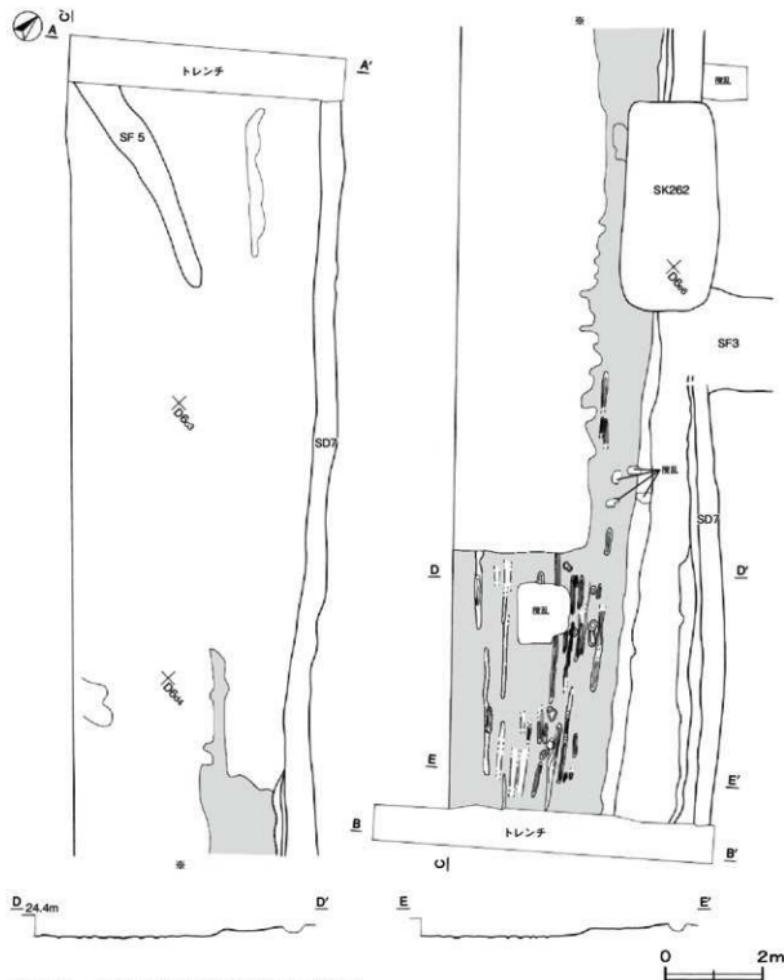


第185図 第1号道路跡B区①2期面a実測図

(ア) 第8号溝跡 (第194~205図)

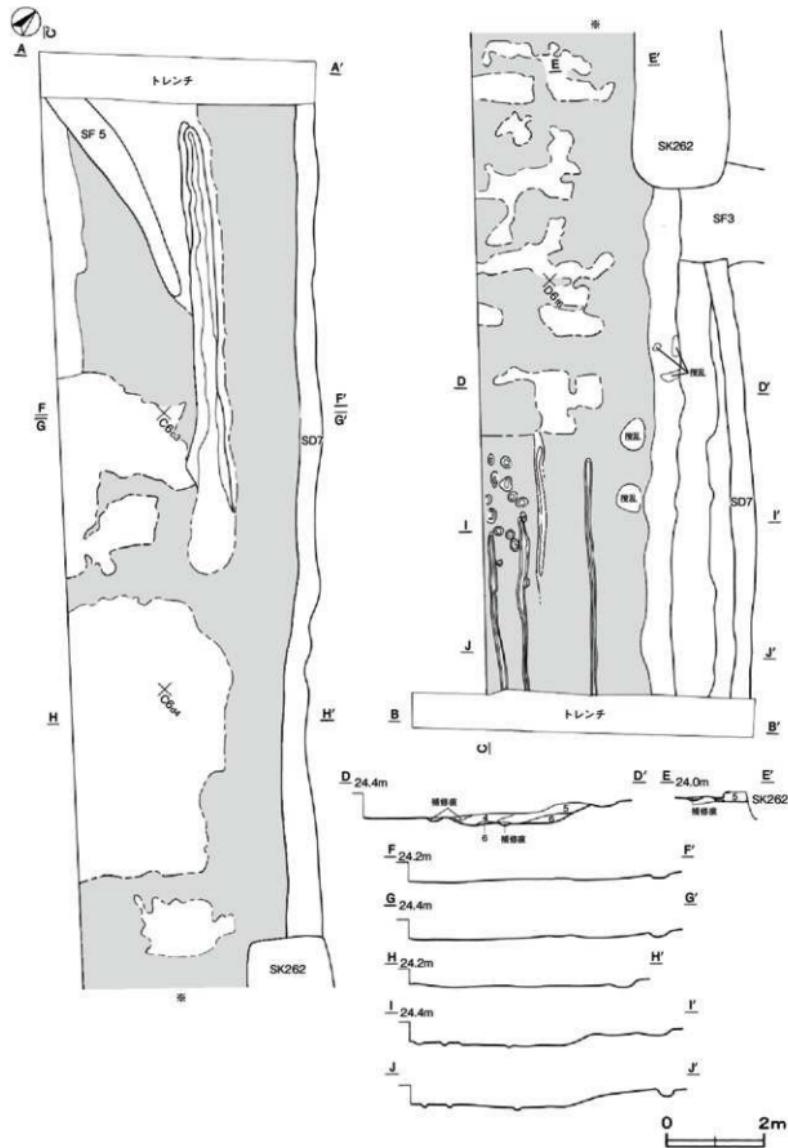
位置 調査区西部のD 6a2～E 7i0区にかけて、標高23～24mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第5号道路を掘り込み、第1号道路の2・3期面構築土壁に被覆され、第13～16号溝、第262・436・440・441・439・562・563・581号土坑に掘り込まれている。



第186図 第1号道路跡B区①2期面b実測図

規模と形状 第1号道路跡に並行し、N - 45° - Wの方向には直線的に伸びているが、北西側と南東側が調査区域外になるため長さは101mしか確認できなかった。上幅1.5~1.6m、底面の幅0.3~0.7m、深さ75~80cmである。また、現道を挟んだA区では北側の続きは確認できなかった。断面形は逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。底面には、長さ1.2~1.3m、深さ3~13cmの長方形の掘り込みが12m(4尺)間隔に確認できた。これは、道路側の溝の掘削技法に類似している。



第187図 第1号道路跡B区①2期面c実測図

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。(第169・174図参照)

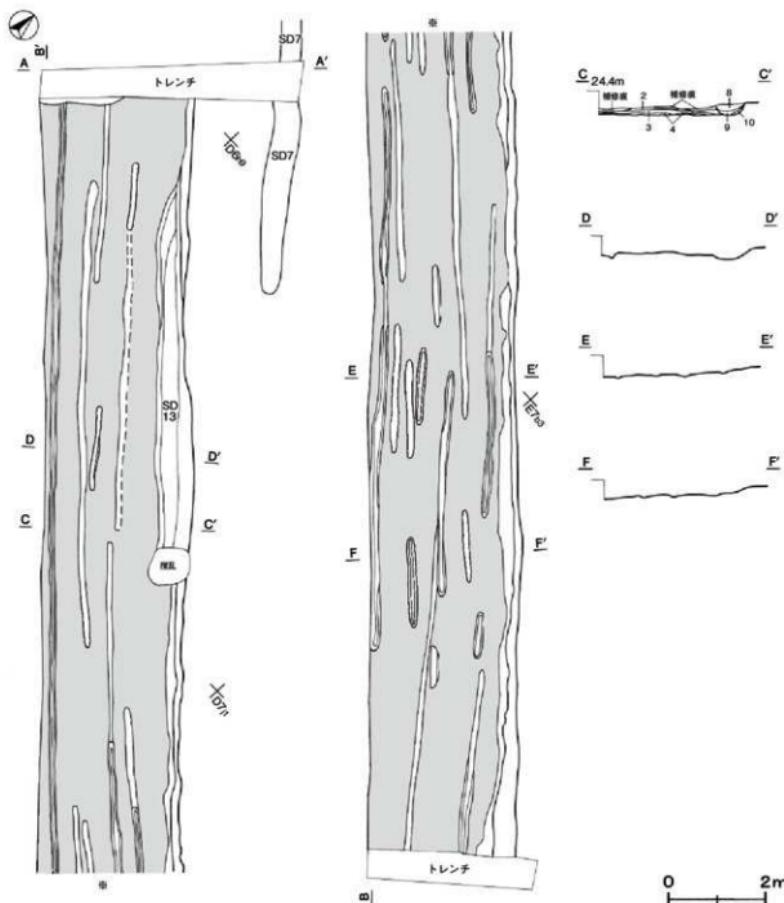
土層解説(土層番号は第1号道路跡構築土からの通し番号)

- 11 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 12 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

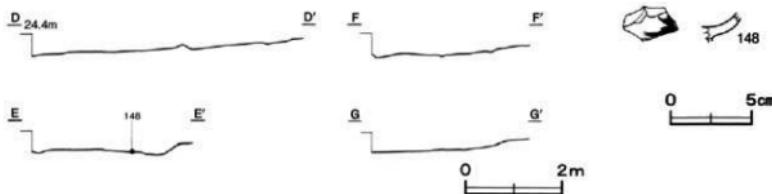
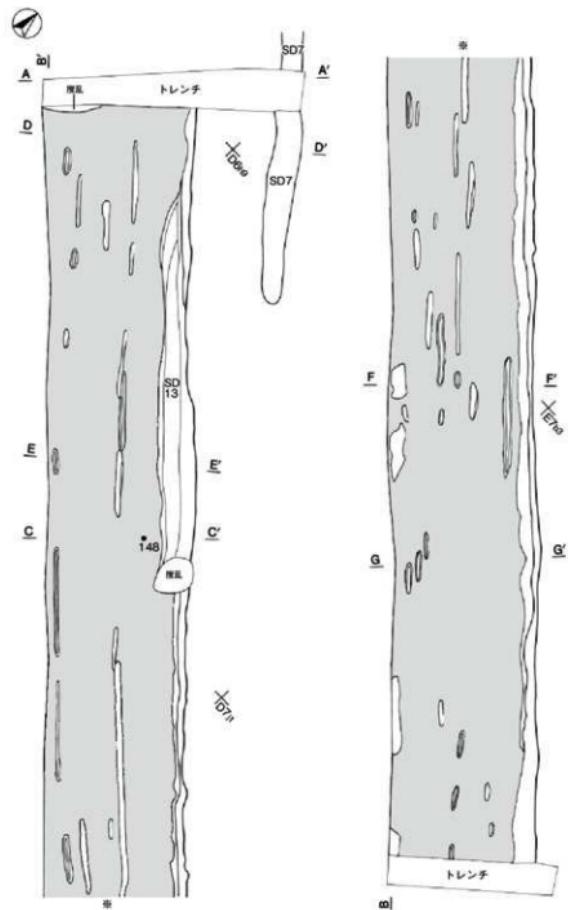
- 13 黒褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 混入した縄文土器片63点(深鉢)、弥生土器片2点(壺)、土師器片46点(壺2、甕44)、須恵器片7点、磁器片1点(碗)、土製品1点(土玉)が覆土中からそれぞれ出土している。いずれも細片のため、図示できなかった。

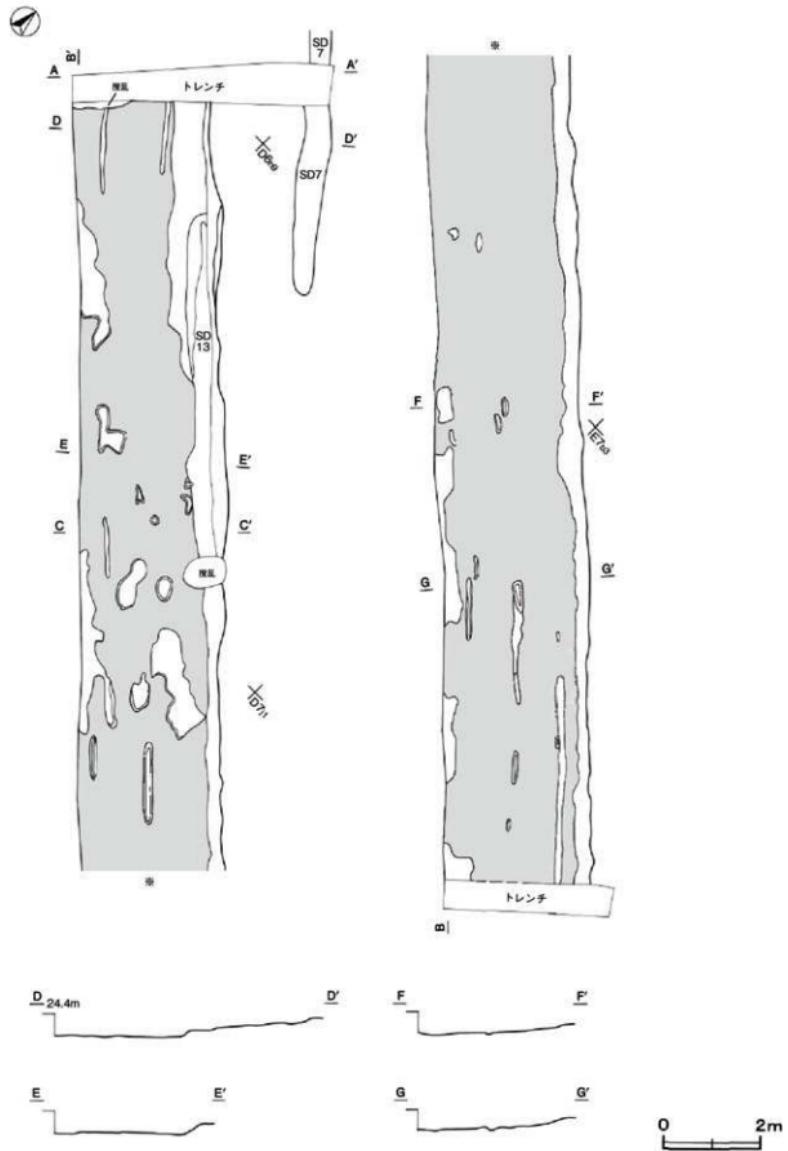
所見 遺物は埋め戻し土中からの出土のため、時期は不明であるが、遺構の新旧関係から古い順に本跡→第439号土坑→第16号溝→第13号溝→第1号道路跡3期面構築土の変遷が考えられる。



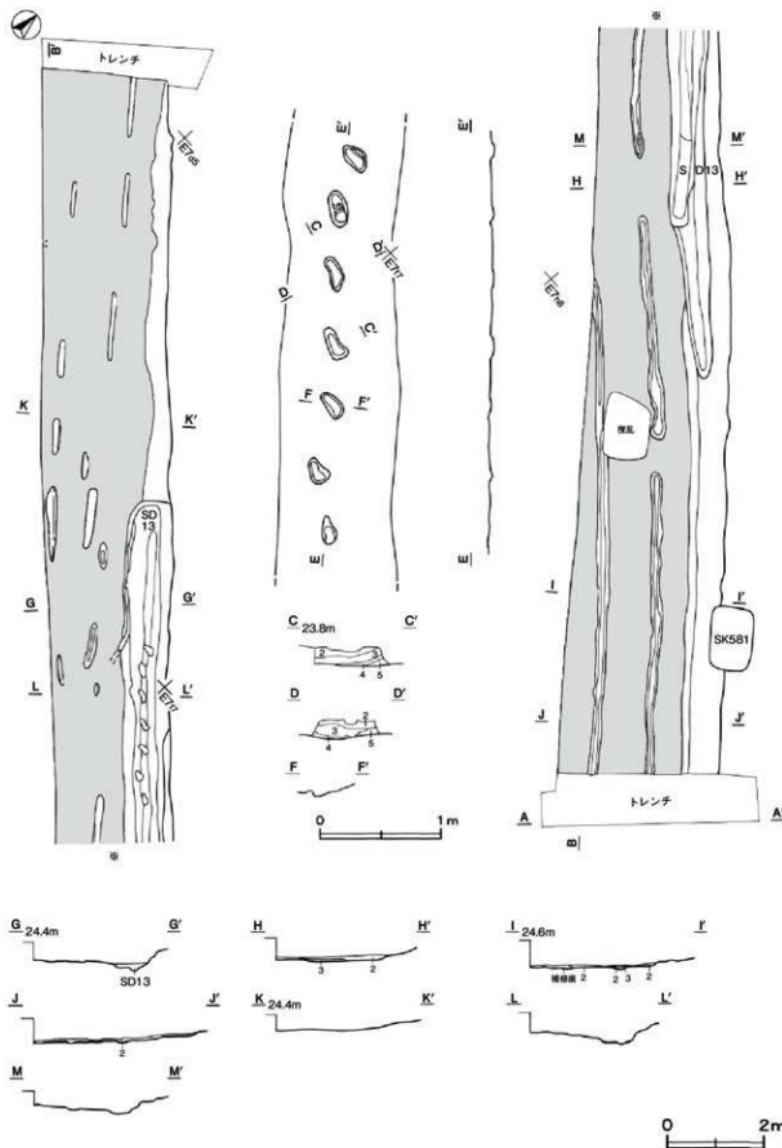
第188図 第1号道路跡B区②2期面a実測図



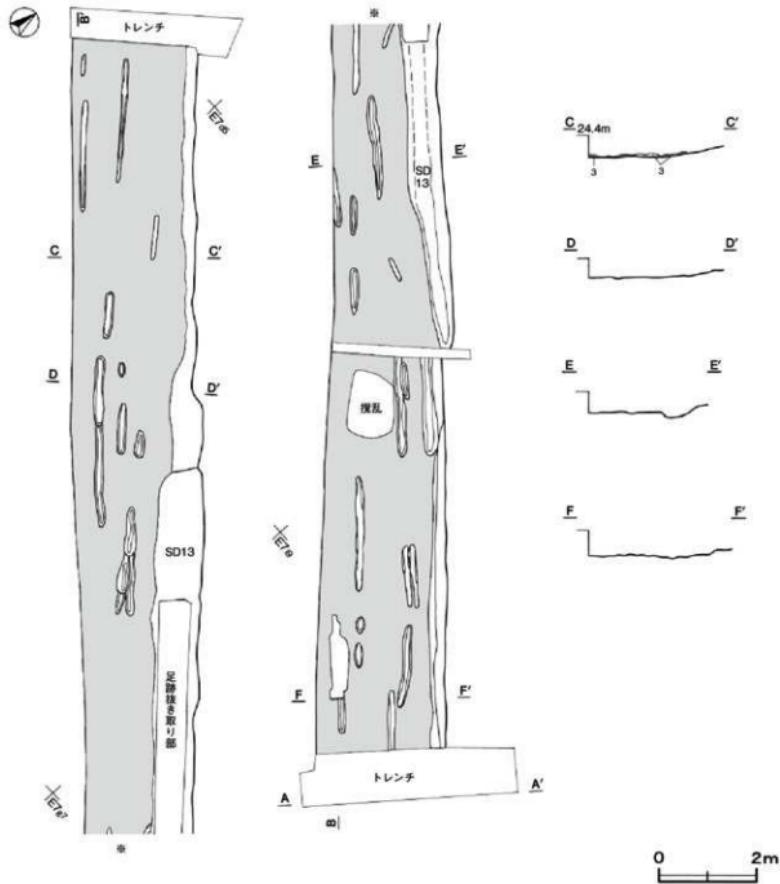
第189図 第1号道路跡B区②2期面b・出土遺物実測図



第190図 第1号道路跡B区②2期面c実測図



第191図 第1号道路跡B区③2期面a実測図



第192図 第1号道路跡B区③2期面b実測図

第1号道路跡B区②2期面b出土遺物観察表（第189図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴はか	出土位置	備考
148	陶器	碗	-	(18)	-	緻密	灰白	良好	透明釉 体部外面施文	2期面b 標高15% 肥前 積墨土	PL48

(イ) 第14号溝跡 (第204図)

位置 調査区E 7d4 ~ E 7h9区にかけて標高 23 ~ 24 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第8号溝跡を掘り込み、第1号道路3期面構築土に被覆され、第15号溝に掘り込まれている。

規模と形状 N - 45° - W の方向にはほぼ直線状に延びているが北西側と南東側が調査区域外になるため、長さは 28.1 m しか確認できなかった。幅 0.36 ~ 0.42 m、深さ 9 ~ 10 cm である。断面形は、U 字形である。

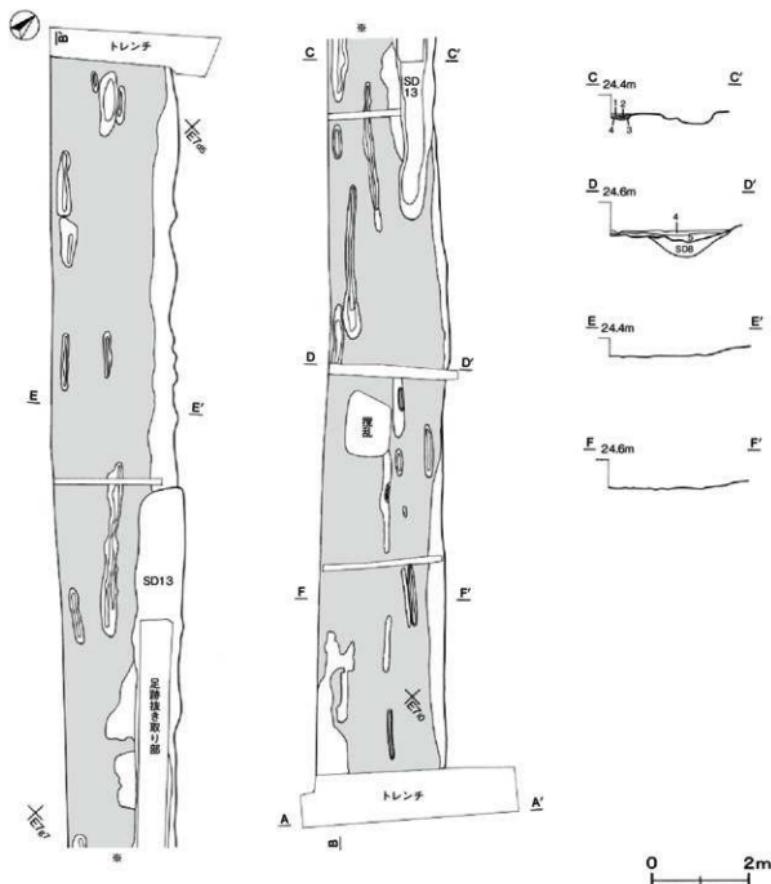
覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黄褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

- 3 黒褐色 ロームブロック中量

所見 時期は、出土遺物から 17 世紀後半 ~ 18 世紀前半と考えられる。



第193図 第1号道路跡B区③2期面c実測図

(ウ) 第15号溝跡 (第204図)

位置 調査区南西部のE 7 h9～E 7 i0区、標高24mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第8・14号溝跡を掘り込み、第1号道路跡3期面構築土に被覆されている。

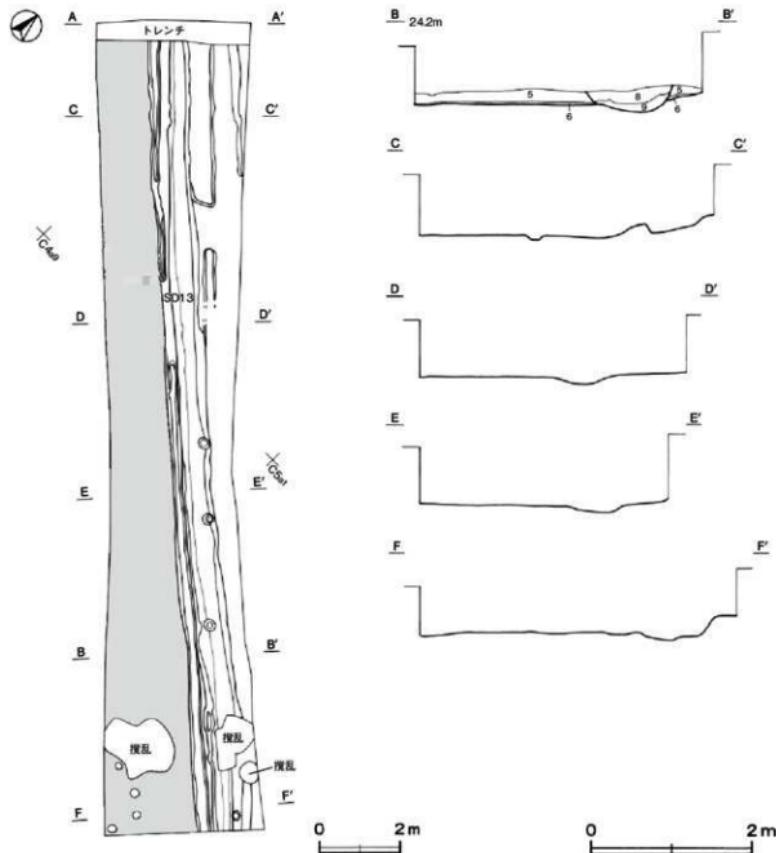
規模と形状 N-43°-Wの方向に直線状に延びているが、南東側が調査区域外になるため長さは4.5mしか確認できなかった。幅0.24～0.28m、深さ7～8cmである。断面形は、U字形である。

覆土 単一層である。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

所見 時期は、出土遺物がないため詳細な時期は不明であるが、第14号溝跡を掘り込み、第1号道路跡3期面構築土に被覆されていることから、18世紀中葉以前と推測できる。



第194図 第1号道路跡A区(②3期面実測図(1)

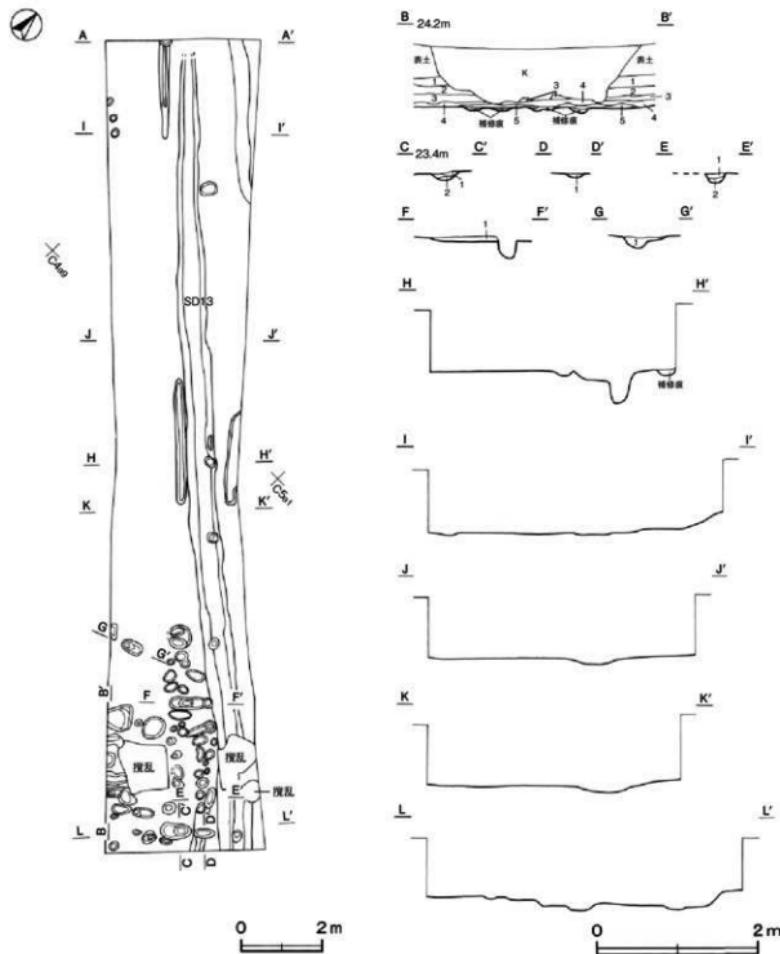
(工) 第16号溝跡 (第204図)

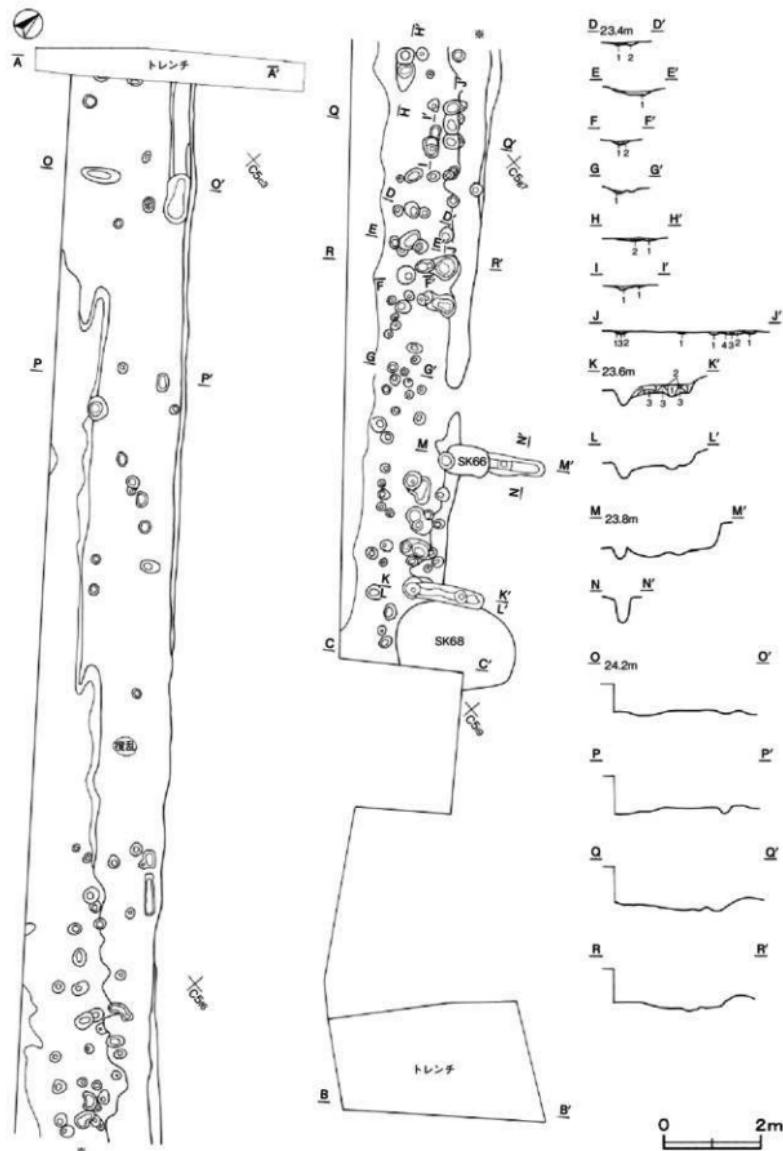
位置 調査区南西部のE 7 h9 ~ E 7 i0 区にかけて標高 23 ~ 24 mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第8号溝跡を掘り込み、第1号道路跡3期面構造土に被覆されている。

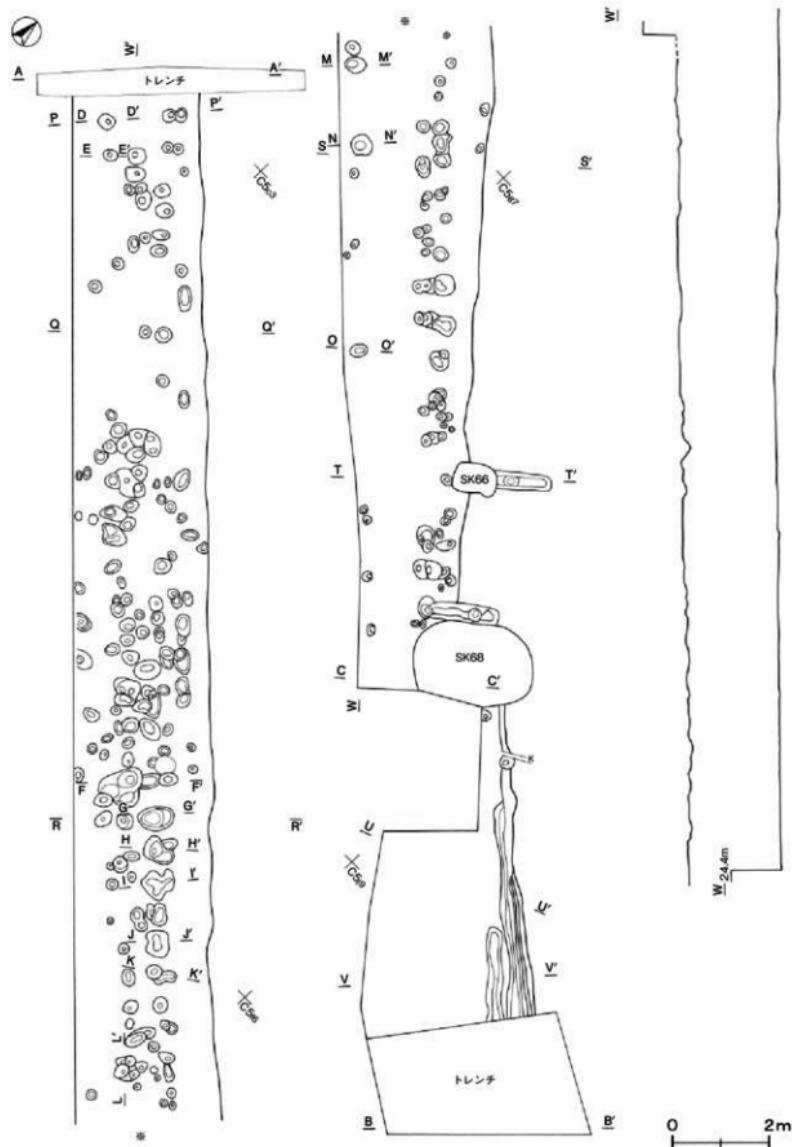
規模と形状 N - 44° - W の方向に直線状に延びているが、南東側が調査区域外になるため、長さは 5.7 mしかし確認できなかった。幅 0.16 ~ 0.28 m、深さ 13 ~ 21 cmである。断面形は、箱形である。

所見 時期は、判定できる出土遺物がないため詳細な時期は不明である。

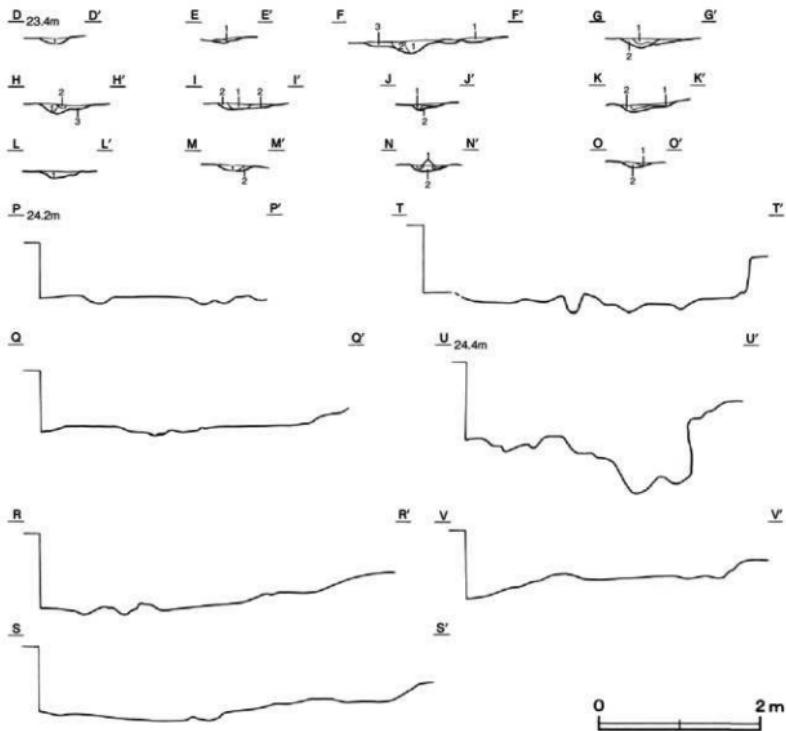




第196図 第1号道路跡A区③3期面実測図(1)



第197図 第1号道路跡A区③3期面実測図(2)



第198図 第1号道路跡A区③3期面実測図(3)

第1号道路跡B区①3期面出土遺物観察表(第201図)

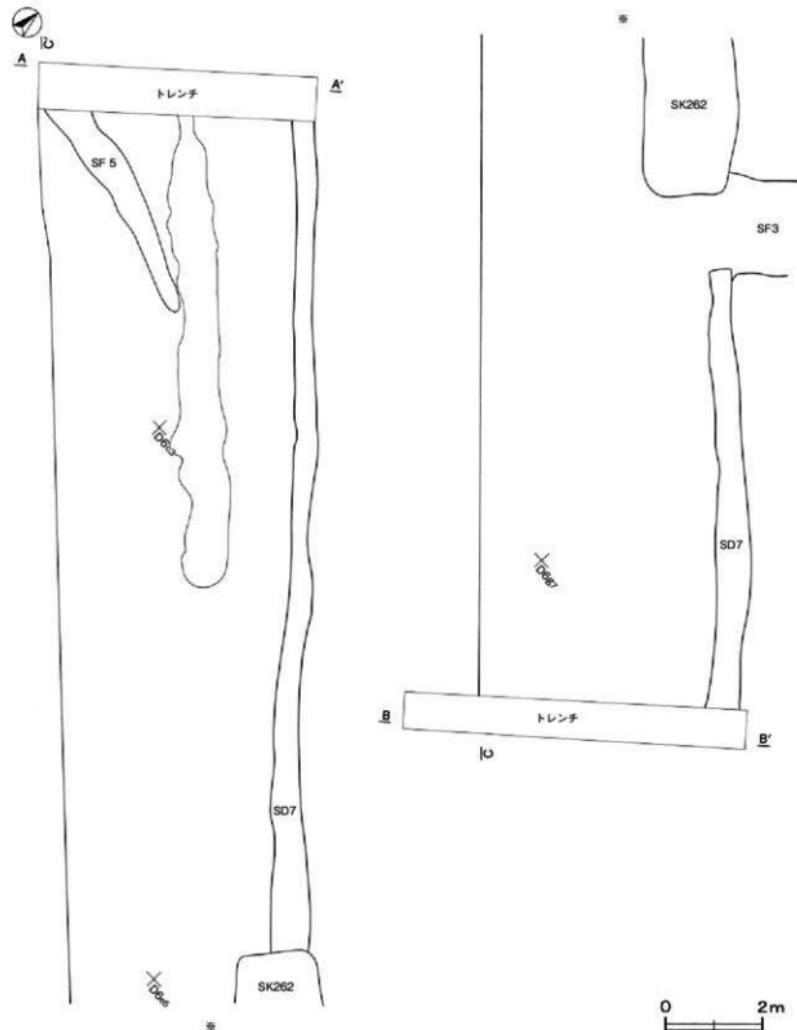
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
147	陶器	皿	-	(24)	-	長石・黒色 斑点	灰白	良好	白泥透明釉 絵付鉄袖 内面刷輪文(馬目文)	3期面 構築土 PL48	5% 肥前 普通

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	細管	(34)	10	10	(6.0)	銅	無肩 火組部欠損 側板無付け 古奈良年二期(17C後)	3期面構築土 PL52	

番号	銘名	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M9	寛永通貫	(241)	0.61	0.14	(2.0)	銅	3期新寛永(1697~1747年、1767~1781年)背文無	3期面構築土	

第1号道路跡B区③3期面出土遺物観察表(第205図)

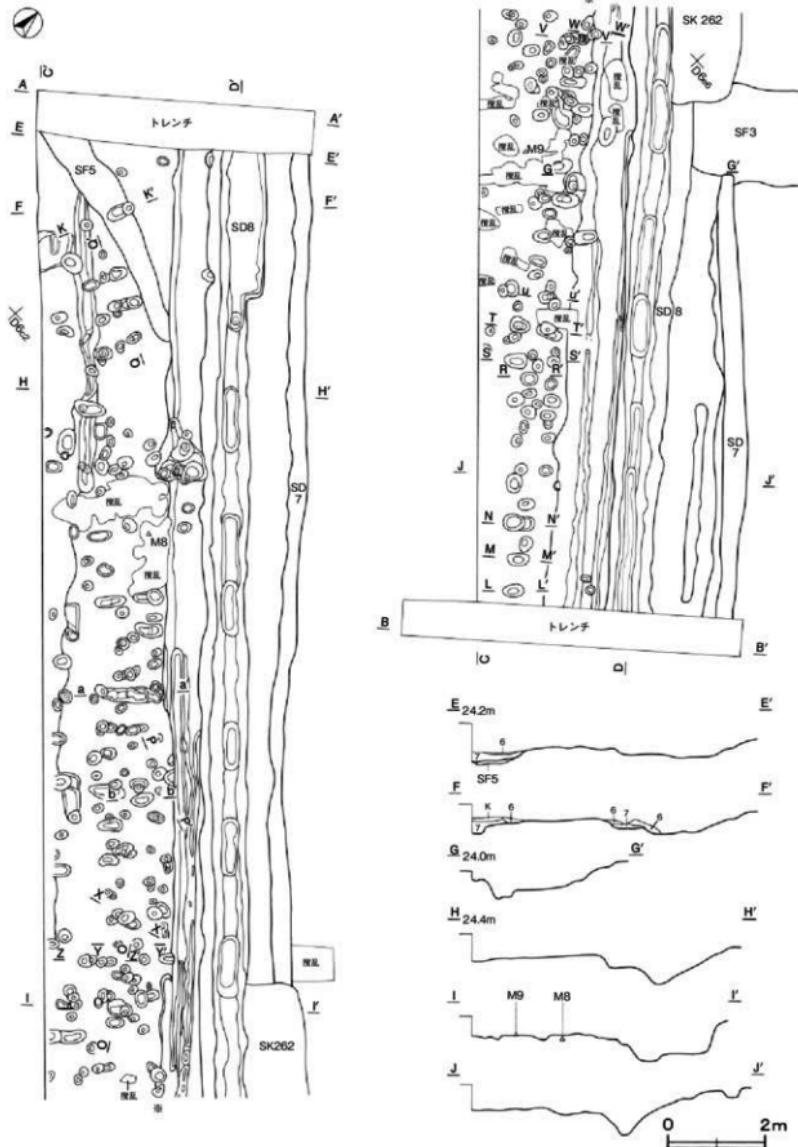
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
149	陶器	皿	-	(18)	(4.0)	砂粒	淡黄	良好	底部内面青緑釉 蛇の目釉剥ぎ 外縁部に 火組付着	3期面 構築土 PL47	30% 肥前
150	陶器	花瓶	37	(8.2)	-	砂粒	灰白	良好	L1縁部外、内面から頭部外縁部 青緑釉 体部外縁部 青緑釉	3期面 構築土 PL49	30% 肥前



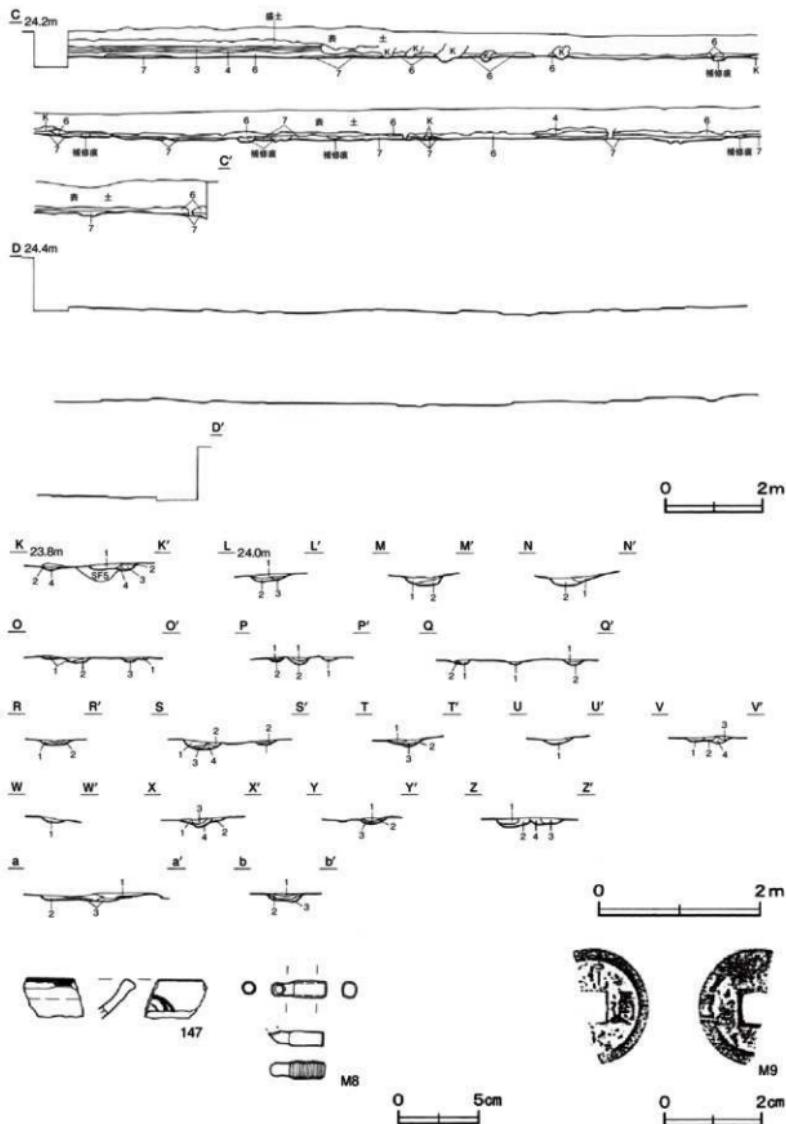
第199図 第1号道路跡B区①3期面実測図(1)

第1号道路跡B区②第3期面出土遺物観察表(第202図)

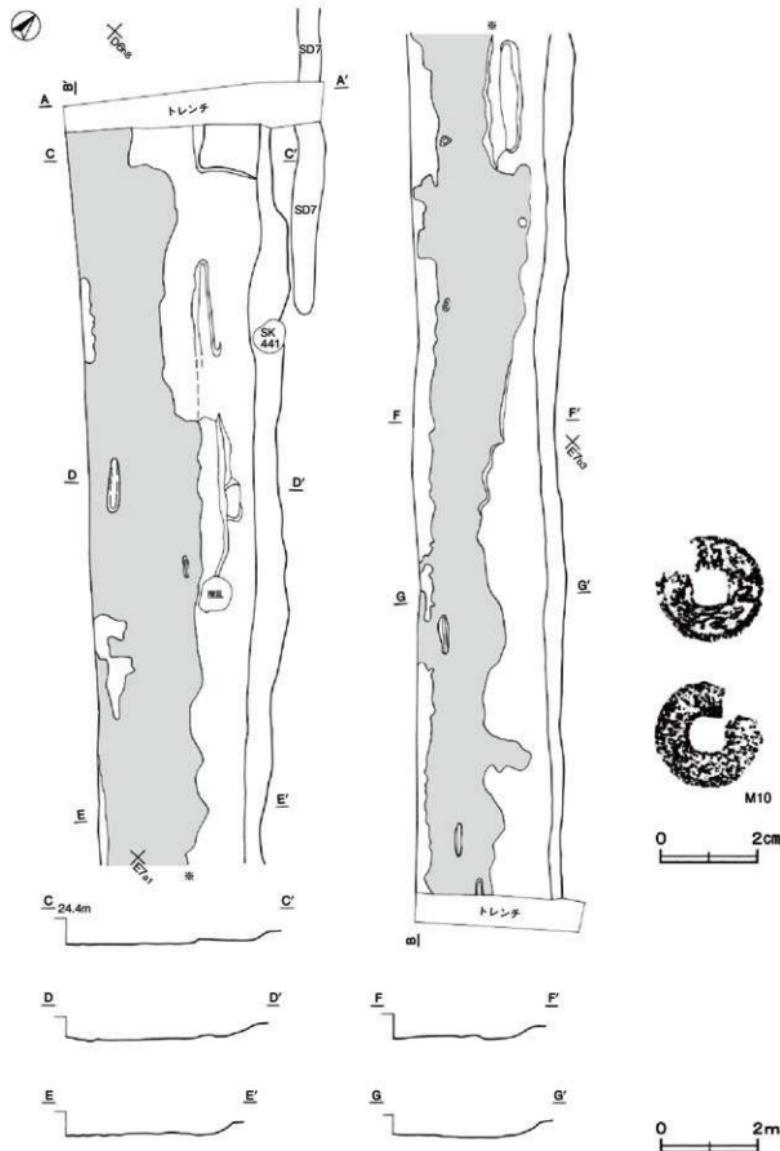
番号	銘名	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 10	稻荷元賞	223	0.70	0.10	(1.5)	銅	(南宋. 1131年) 横鉄鍔	3期面構築土	PL52



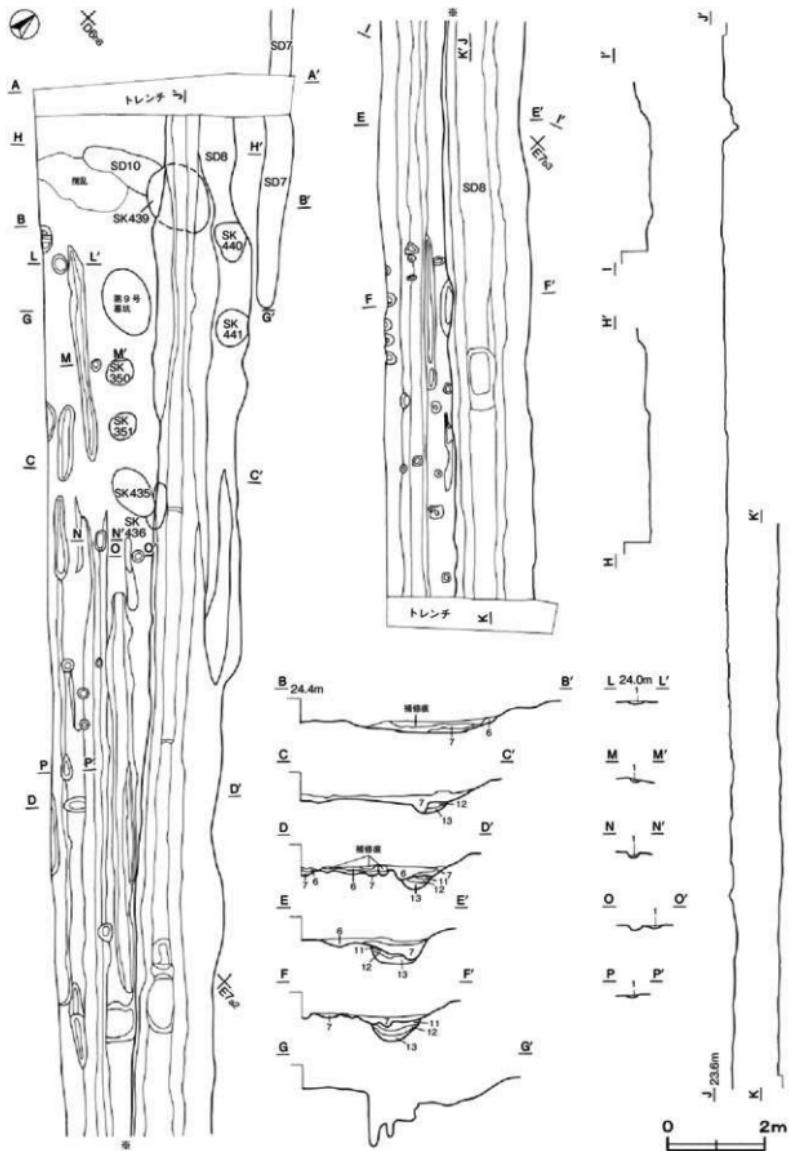
第200図 第1号道路跡B区①3期面実測図 (2)



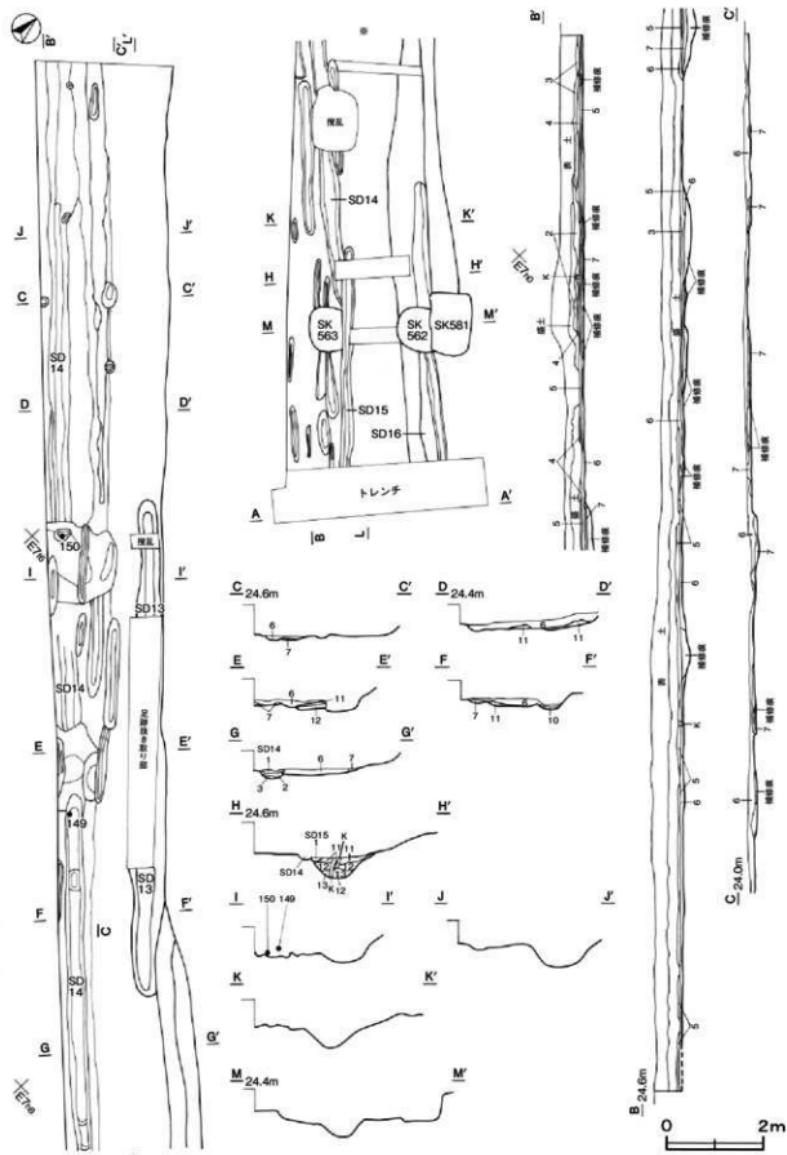
第201図 第1号道路跡B区①3期面・出土遺物実測図



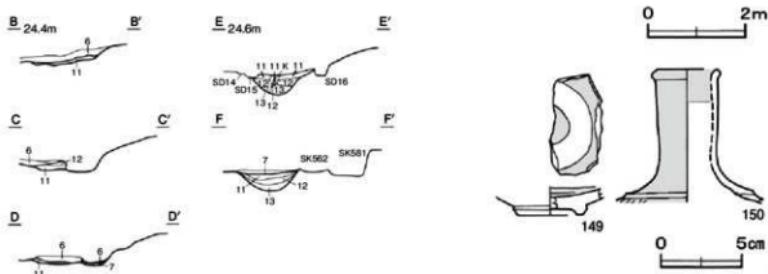
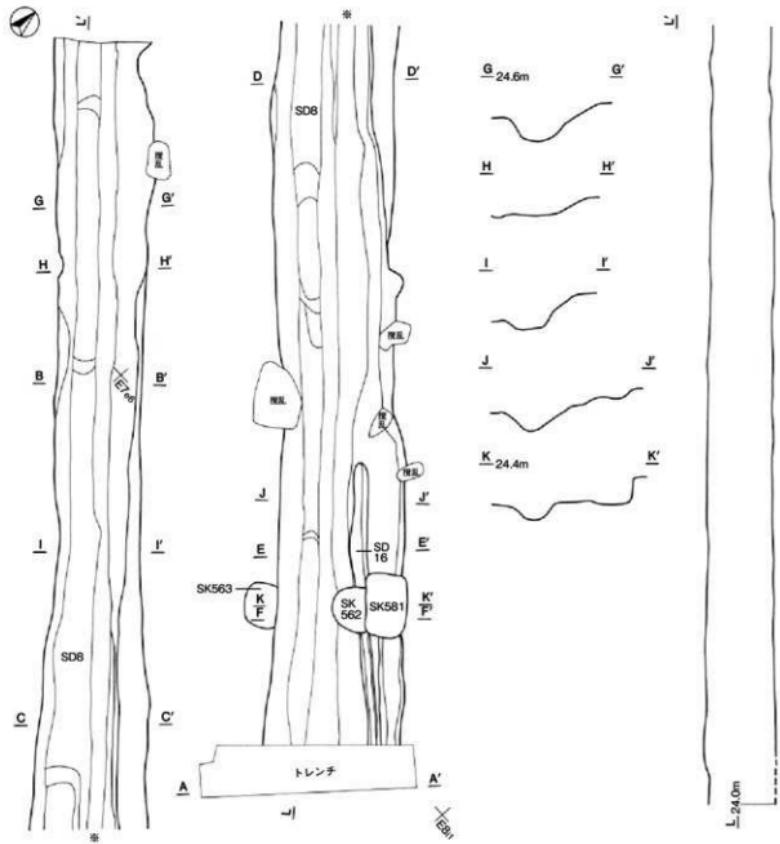
第202図 第1号道路跡B区②3期面・出土遺物実測図



第203図 第1号道路跡B区②3期面掘方、第8号溝跡実測図



第204図 第1号道路跡B区③3期面掘方、第13~16号溝跡実測図

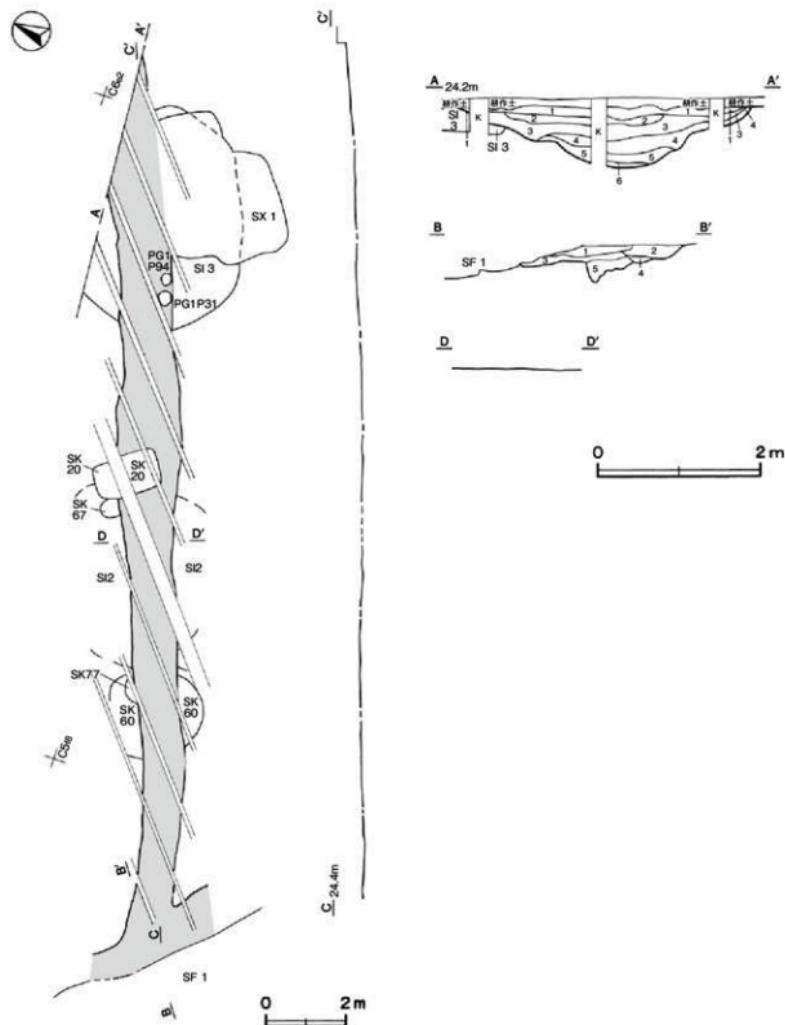


第205図 第1号道路跡B区③3期面出土遺物実測図、第8・16号溝跡実測図

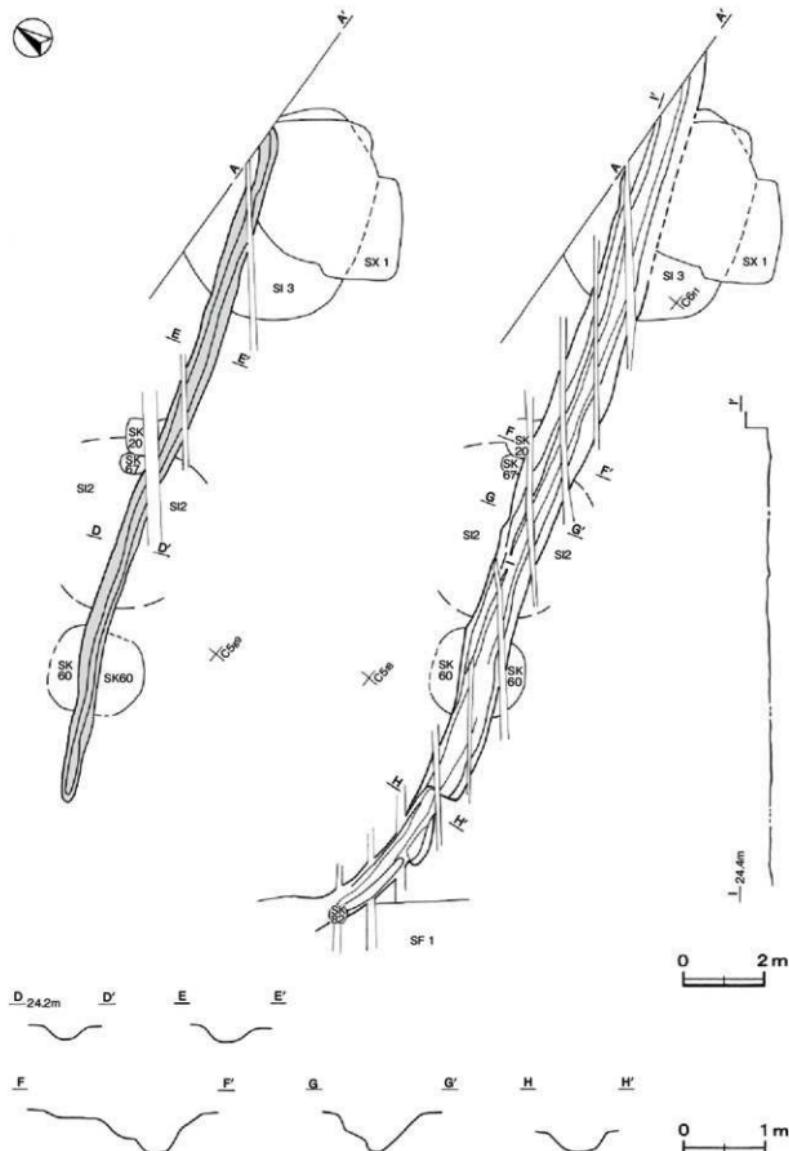
第2号道路跡（第206・207図）

位置 調査区北部のC 5f7～C 6e2区にかけて、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2・3号住居跡、第60・67・77号土坑、第1号不明遺構を掘り込み、第20号土坑、第1号道路、第1号ピット群（P 31・94）に掘り込まれている。



第206図 第2号道路跡1期面実測図



第207図 第2号道路跡 2期面実測図

規模と形状 第1号道路跡2期面bにつながっている。本跡では2時期の路面が確認できた。直線的に延び、北東側が調査区域外になるため、長さは23mしか確認できなかった。上幅0.18~0.55m、下幅0.38m、掘方は深さ54~86cmである。断面形は逆台形である。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを混入した構築土で、第1層上面と第6層上面は硬化している。

土層解説

1 黑 褐 色 ロームブロック少量、炭化物微量	4 黑 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量	5 暗 褐 色 ロームブロック中量
3 黒 褐 色 ロームブロック・炭化物微量	6 黒 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 第1期面構築土から陶器片2点(甕)、土師器片18点(环9、甕9)、須恵器片8点(环5、甕3)、第2期面構築土から陶器片6点(甕)、磁器片2点(碗)、土師質土器片1点(甕)、土師器片5点(环1、甕3、鉢1)、須恵器片9点(环1、高台付环2、蓋3、甕3)、繩文土器片138点(深鉢)がそれぞれ出土している。出土した遺物はいずれも細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土した遺物から近世以降と思われる。

第3号道路跡 (第208図)

位置 調査区中央部D 6b9~D 6e6区にかけて、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号住居跡、第4号道路跡と第139号土坑を掘り込み、第114・115・134・262号土坑、第2・7号溝に掘り込まれている。

規模と形状 N-45°-E方向に弯曲して延びているが、撓乱坑等により、長さは19.3mしか確認できなかった。幅1.42~1.92m、掘方の深さは8~31cmである。路面は2時期確認できた。第1期面は第1号道路跡1期面に、2期面は第1号道路跡2期面にそれぞれ繋がっている。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを混入した構築土で、第2層上面、第5層上面は硬化している。

土層解説

1 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量	4 褐 色 ロームブロック少量
2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量	5 黒 褐 色 ロームブロック中量
3 暗 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量	6 暗 褐 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 構築土からは、瓦質土器片4点(不明)、陶器片15点(碗11、鉢3、擂鉢1)、磁器片9点(碗)が出土している。その他、混入した繩文土器片67点(深鉢)、土製品1点(土器片錐)、弥生土器片4点(甕)、土師器片24点(高台付环1、甕23)、須恵器片7点(环6、蓋1)、鉄津1点、礎3点が出土している。出土遺物はいずれも細片なため、図示できなかった。

所見 時期は出土した遺物から近世以降と思われる。

第4号道路跡 (第208図)

位置 調査区北部のD 6b8区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号道路に掘り込まれている。

規模と形状 N-5°-Eの方向に直線的に延びているが、第3号道路に切られているため、長さは3.6m、上幅0.44~0.80m、下幅0.42mしか確認できなかった。掘方の深さは8~16cm、断面形は皿状である。

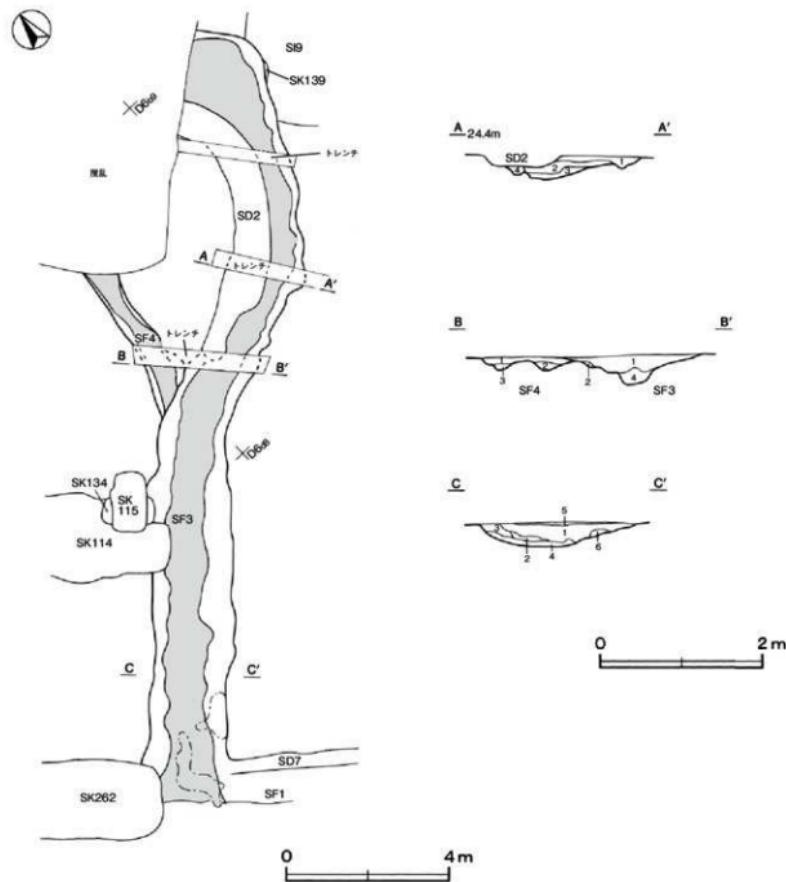
覆土 3層に分層できる。ロームブロックを混入した構築土である。上面は硬化している。

土層解説

1 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	3 暗 褐 色 ロームブロック微量
2 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化物微量	

遺物出土状況 構築土中から陶器片1点(天目茶碗), 磁器片1点(碗)が出土している。いずれも細片なため、図示できなかった。

所見 時期は出土した遺物から近世以降と思われる。



第208図 第3・4号道路跡実測図

第5号道路跡 (第209図)

位置 調査区の北部のD 6 b1 ~ D 6 b2区。標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路、第8号溝に掘り込まれている。

規模と形状 N - 110° - E 方向へ直線的に延びているが、北西側が調査区域外になるため長さは4.50mしか

確認できなかった。幅は0.44～0.80mである。掘方の深さは8～20cmで、断面形は皿状である。

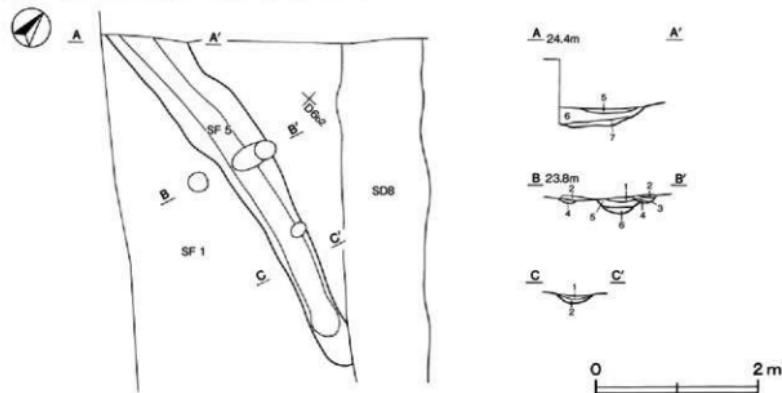
覆土 3層に分層できる。第1～4層は第1号道路跡3期面補修痕の覆土である。第5～7層が本跡の構築土で、ロームブロックを混入した構築土である。

土層解説

- | | |
|------------------------------|--------------------------|
| 1 淡青灰色 砂粒多量。ロームブロック・焼土粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子少量 |
| 2 淡青灰色 砂粒多量。ロームブロック・焼土粒子少量 | 6 黒褐色 ロームブロック・砂質粘土粒子微量 |
| 3 暗褐色 鉄分・砂粒多量。ロームブロック・焼土粒子微量 | 7 黑褐色 ロームブロック少量、砂質粘土粒子微量 |
| 4 暗褐色 砂粒多量。ロームブロック微量 | |

遺物出土状況 構築土中から陶器片1点(皿)が出土している。その他混入して須恵器片1点(壺)も出土している。いずれも細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から近世以降と思われる。



第209図 第5号道路跡実測図

第6号道路跡 (第210図)

位置 調査区東部のD 8b8～E 8b5区、標高22mの台地緩斜面に位置している。

重複関係 第10・11号墓坑、第426・433・434・530号土坑に掘り込まれている。

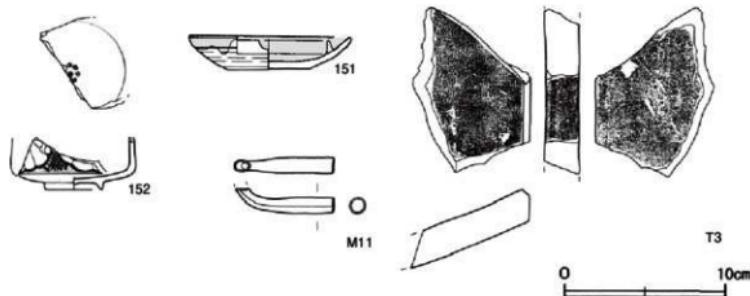
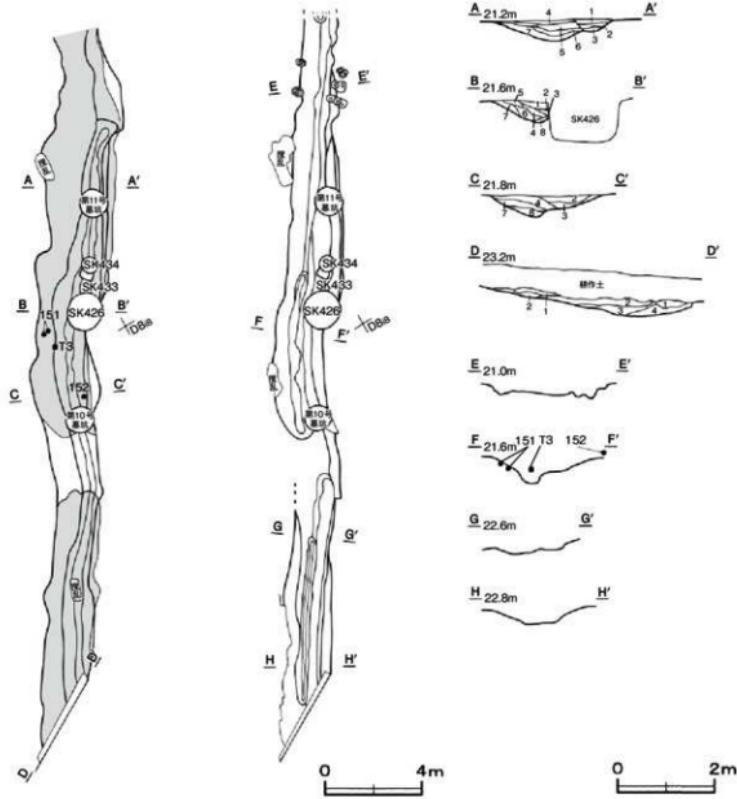
規模と形状 N-35°-Eの方向に直線的に伸びているが、南西側と北東側が調査区域外になるため、長さは27.3mしか確認できなかった。上幅は2.0～3.1m、掘方の深さは38cmで、下幅0.2～0.5mである。断面形は逆台形である。

覆土 8層に分層できる。ロームブロックを混入した構築土である。第1層上面は硬化している。

土層解説

- | | |
|---------------------------|------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子中量。焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 ロームブロック少量。焼土粒子微量 |
| 4 黒褐色 ロームブロック少量。炭化粒子微量 | 8 黒褐色 ロームブロック中量。炭化粒子微量 |

遺物出土状況 構築土中から陶器片39点(碗22、鉢7、擂鉢7、蓋2、灯明皿1)、磁器片29点(碗)、土質土器片1点(内耳鍋)、瓦片15点、石器1点(砥石)、鉄製品3点(釘2、不明1)、銅製品1点(煙管)が出土している。その他、混入した繩文土器片72点(深鉢)、土師器片42点(甕)、須恵器片12点(壺5、高台付壺1、甕6)、不明鉄片1点も出土している。151・T 3はD 8b7区の西端寄り、152はD 8b7区の東端



第210図 第6号道路跡・出土遺物実測図

寄りの構築土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から近世後期～明治初頭（19世紀中葉～後半）に比定できる。

第6号道路跡出土遺物観察表（第210図）

番号	種別	器種	口径	高さ	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
151	陶器	灯明皿	9.9	2.2	5.1	砂粒	淡黄	良好	ロクロ成形 底部回転ヘラ切り 口縁部外面から 底部内面鉄棒筆塗	構築土中 系PL49	8.0% 信義
152	磁器	碗	-	(3.3)	3.5	緻密	灰黄	良好	円筒形 染付 透明釉 体部外面菊花文 見込み 九瓣文	構築土中 PL48	25% 肥前

番号	器種	長さ	幅	高さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 11	細管	(6.1)	1.0	(1.6)	(9.4)	鋼	垂直 火皿部欠損 關板無付け 古泉巖年V期(19C)	構築土中	PL52

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	特徴	出土位置	備考
T 3	核瓦	(10.3)	(7.3)	(2.2)	(119.1)	長石・雲母	表面・側面ヘラ状工具によるナデ 側面取り	構築土中	PL52

第7号道路跡（第211図）

位置 調査区東部のD 9j4 区、標高 20.5 m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 N - 35° - E の方向に直線的に延びているが、南西側と北東側が調査区域外のため、長さは 3.7 m しか確認できなかった。幅は 1.20 ~ 1.26 m、掘方の深さは 33 cm で、断面形は逆台形である。底面にも硬化面が確認できた。

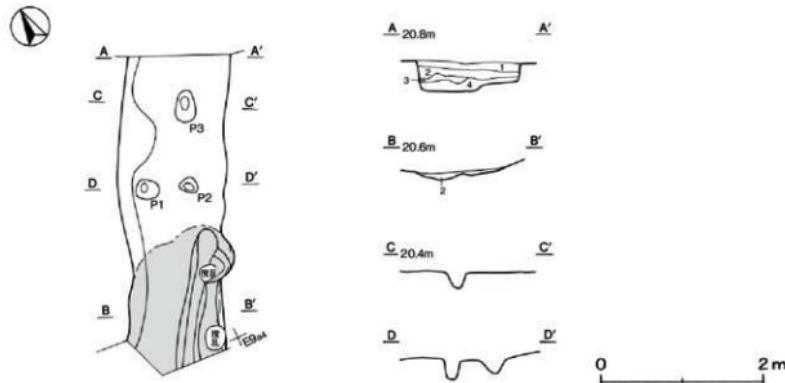
ピット 掘方の底面から、ピット 3か所が確認できた。P 1 は長径 0.28 m、短径 0.24 m、深さ 73 cm、P 2 は長径 0.20 m、短径 0.18 m、深さ 26 cm、P 3 は長径 0.38 m、短径 0.26 m、深さ 10 cm で、性格は不明である。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを混入した構築土である。第2層上面は硬化している。

土層解説

- 1 短 黒 色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 短 黑 色 ロームブロック微量

- 3 短 黒 色 ローム粒子微量
4 黒 黑 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量



第211図 第7号道路跡実測図

遺物出土状況 構築土中から陶器片1点(碗)が出土している。その他、混入した縄文土器片2点(深鉢)、土師器片1点(壺)、須恵器片1点(甕)も出土している。いずれも細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から近世以降と思われる。またP1～P3は覆土の上面が固く締まっているため、本跡構築以前のピットの可能性がある。

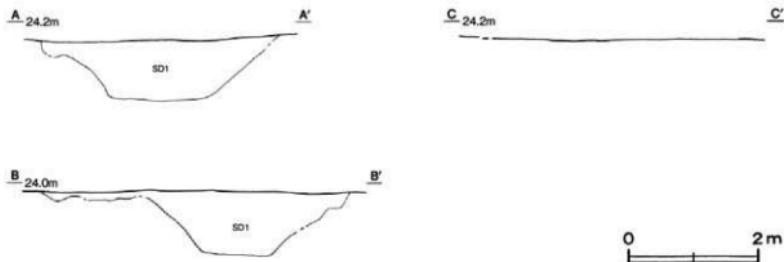
第8号道路跡（第212・213図）

位置 調査区北部のC5h9～C7c1区にかけて、標高23～24mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号溝跡の覆土の上面を通り、第70・91号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 西側は第1号道路跡2期面b・cに繋がる。N-35°-E方向に直線的に延びているが北東側が調査区域外のため、長さは54.3mしか確認できなかった。硬化面は耕作土直下から確認された。硬化面の幅は0.48～0.78mである。

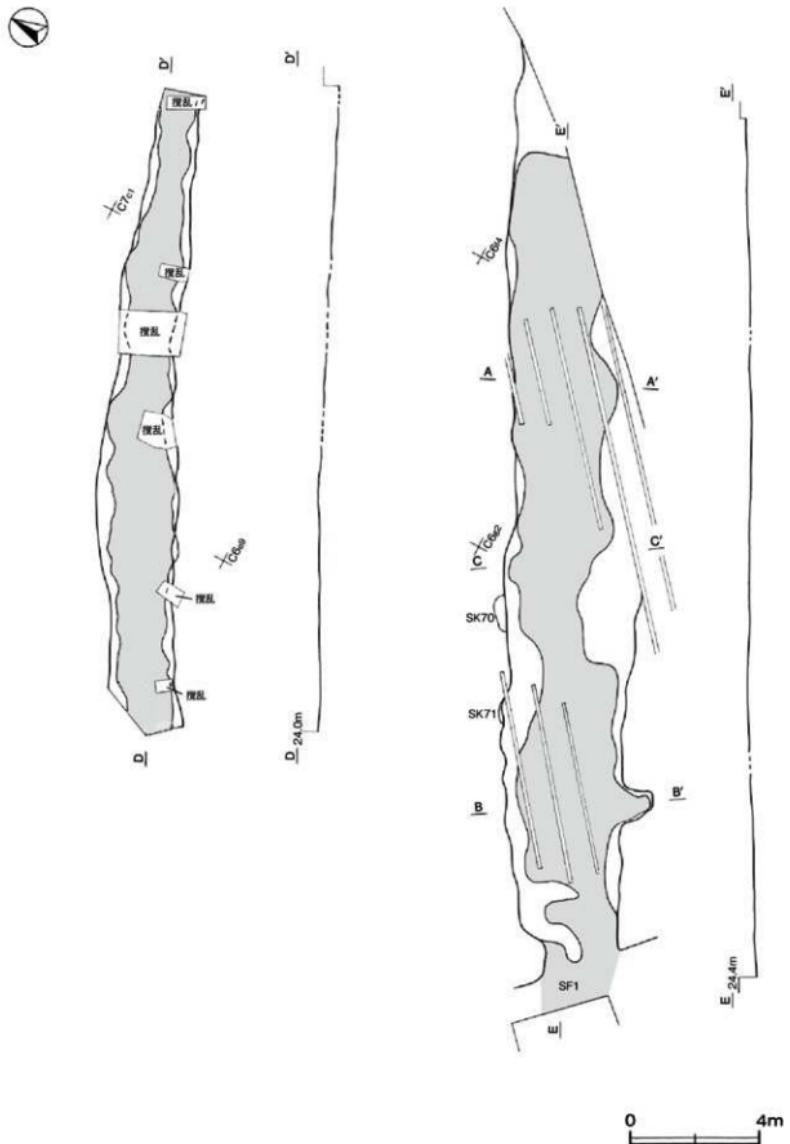
所見 時期は、出土遺物がみられないため詳細は不明だが、第1号道路跡2期面b・cに繋がっているため、19世紀以降と思われる。



第212図 第8号道路跡実測図(1)

表12 近世道路跡一覧表

番号	位置	方向	形状	規 模			断面	壁面	覆土	主な出土遺物	南 考	重複関係(古→新)	
				長さ(m)	幅(m)	深さ(cm)							
1	B 4g6～E 7g8	N-45°-W	直線状	(187)	(6.4)	-	逆台形	外傾	人為	縄文土器、陶器 →SK5施・本跡 →SK262他	SK5施・本跡 →SK262他		
2	C 5g7～C 6e1	N-60°-E	直線状	(23.0)	0.18～ 0.55	0.18～ 0.22	54～86	逆台形	外傾	人為	土師器、須恵器 →SK2-3→SK1-本跡 →SK20、SF1、PG1	SK2-3→SK1-本跡 →SK20、SF1、PG1	
3	D 6g9～C 6e6	N-45°-E	凸曲	(19.3)	0.40	0.28～ 0.38	31	U字形	緩斜	人為	瓦質土器、陶器 →SD1	SD1、SFA1、SK120→本 跡→SD2・7、SK114他	
4	D 6b0	N-5°-E	直線状	(3.6)	1.42～ 1.92	0.32～ 0.54	8	皿状	外傾	人為	陶器、磁器 →SF3	本跡→SF3	
5	D 6b1～D 6b2	N-110°-E	直線状	(4.50)	0.09	0.44～ 0.68	8	皿状	外傾	人為	須恵器、陶器 →SF1、SD8	本跡→SF1、SD8	
6	D 8g8～E 8g5	N-35°-E	直線状	(27.3)	0.34～ 0.44	0.18～ 0.28	13～38	逆台形	外傾	人為	陶器、磁器、土 →第10・11号墓場 SK126・433・4H・530	第10・11号墓場 SK126・433・4H・530	
7	D 9j4	N-35°-W	直線状	(3.7)	1.20～ 1.26	0.10～ 0.12	12～18	逆台形	外傾	人為	縄文土器、須恵 器、陶器 →SK70-91→SD1→本跡	SK70-91→SD1→本跡	
8	C 5h9～C 7c1	N-35°-E	直線状	(54.3)	0.48～ 0.78	0.09～ 0.11	-	-	-	-			



第213図 第8号道路跡実測図(2)

(5) 火葬土坑

第1号火葬土坑 (SK131) (第214図)

位置 調査区北西部のD 6 e8区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第10号住居跡を掘り込み、第3号ピット群(P1)に掘り込まれている。

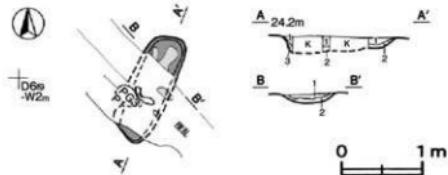
規模と形状 燃焼部は長軸1.36mで、短軸は搅乱坑に掘り込まれているため、0.50mしか確認できなかった。平面形は隅丸長方形と思われる。深さは北東側の残存部分で22cmである。底面は、赤変硬化している。壁は、外傾して立ち上がっている。開口部は搅乱坑に掘り込まれ、確認できなかった。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---|-----|-----------|-------------|
| 1 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 燒土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 | 暗褐色 | ロームブロック中量 | 炭化粒子微量 |

- | | | |
|---|-----|-----------|
| 3 | 暗褐色 | ロームブロック中量 |
|---|-----|-----------|



第214図 第1号火葬土坑実測図

遺物出土状況 覆土中からは、粉末化した骨とわずかな骨片が出土している。その他混入して、縄文土器片4点(深鉢)、須恵器片1点(不明)が出土している。

所見 燃土と炭化物に混入して少量の骨片が出土しており、火葬施設と推測できる。時期を判断できる出土遺物はないが、形態等から中世と推測できる。

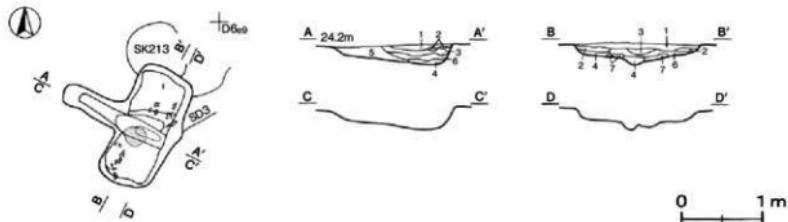
第2号火葬土坑 (SK132) (第215図)

位置 調査区北西部のD 6 e8区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第15号住居跡、第213号土坑、第3号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 T字状である。燃焼部は長軸1.54m、短軸0.74mの隅丸長方形で、深さ14cmである。長軸方向はN-25°-Eである。開口部は長径0.70m、短径0.31mの楕円形で、深さ11cmである。燃焼部に向かって緩やかに傾斜している。燃焼部の底面は中央部が一段下がり、赤変硬化している。壁は、外傾して立ち上がっている。

覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。



第215図 第2号火葬土坑実測図

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	5	黒褐色	ロームブロック少量・炭化粒子微量
2	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量・ロームブロック微量	6	黒色	炭化物中量・焼土ブロック少量
3	黒褐色	炭化材中量・焼土粒子少量・ロームブロック微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化物少量・焼土ブロック微量
4	黒色	炭化材中量			

遺物出土状況 覆土中からは粉末化した骨と共にわずかな骨片が、底面には炭化材がそれぞれ出土している。

その他混入して、縄文土器片2点（深鉢）が出土している。

所見 焼土と炭化物に混入して少量の骨片が出土しており、火葬施設と推測できる。時期を判断できる出土遺物はないが、形状等から中世と推測できる。

表13 火葬土坑一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	横概					覆土	主な出土遺物及び 人骨の有無	時期	備考 重複関係（古→新）		
				燃焼部		開口部								
				長軸×短軸 (cm)	深さ (cm)	平面形	底面	長軸×短軸 (cm)	深さ (cm)	底面				
1	D 6b8	-	T字状	1.36×0.50	22	漢丸長方形	平坦	-	-	-	人骨	人骨有、縄文土器、須恵器	中世 SH10 → 本跡 → PG3	
2	D 6e8	N-25°-E	T字状	1.54×0.74	14	漢丸長方形	凹凸	0.70×0.31	11	平坦	人骨	人骨有、炭化材、縄文土器	中世 SH15、SK213 SD3 → 本跡	

(6) 墓坑

第1号墓坑（SK199）（第216図）

位置 調査区中央部のD 7 b3区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第13号住居跡、第200号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.08m、短軸0.92mの長方形で、長軸方向は、N-44°-Wである。深さ40cm、底面は平坦で、壁はやや外傾して立ち上がっている。

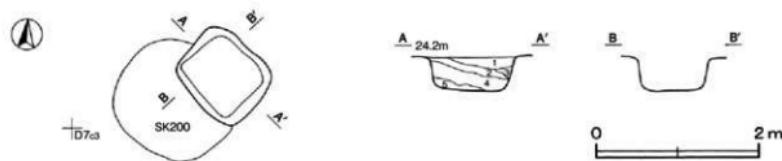
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	黒褐色	炭化粒子少量、ロームブロック・焼土粒子微量	4	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック・骨粉少量
3	暗褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況 混入して、縄文土器片8点（深鉢）、須恵器片1点（环）が覆土中から出土している。

所見 覆土下層から骨粉が出土しており、墓坑と思われる。時期を判定できる出土遺物がないため明確ではないが、形状と覆土の状況が第4号墓坑と類似していることから、近世以降と推測できる。



第216図 第1号墓坑実測図

第2号墓坑（SK205）（第217図）

位置 調査区西部のD 6h8区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路、第10号溝、第439号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第1号道路に掘り込まれているため、南北軸2.10m、東西軸1.29mしか確認できなかった。平面形は、隅丸長方形であると推測できる。深さ38cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

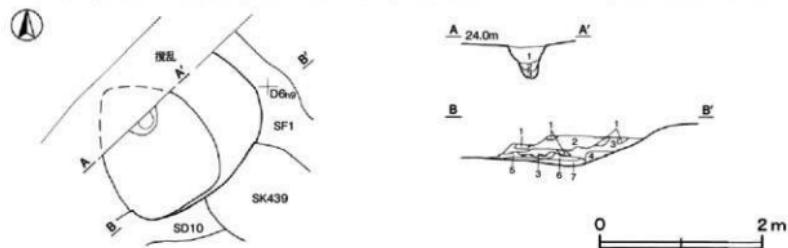
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | | | | |
|---|---|-----|--------------|---|---|---|------------------|
| 1 | 褐 | 色 | ロームブロック中量 | 5 | 黒 | 色 | ロームブロック微量 |
| 2 | 黒 | 褐 | ロームブロック中量 | 6 | 黒 | 褐 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 | 褐 | 暗褐色 | ロームブロック・骨粉少量 | 7 | 暗 | 褐 | ロームブロック・骨粉少量 |
| 4 | 黒 | 褐 | ロームブロック少量 | | | | |

遺物出土状況 南東壁寄りの覆土下層から骨片が出土している。

所見 覆土下層から骨片が出土しており、墓坑と思われる。時期を判定できる出土遺物がないため明確ではないが、第1号道路との重複関係や、覆土の状況が第9号墓坑と類似していることから、中世と推測できる。



第217図 第2号墓坑実測図

第3号墓坑 (SK257) (第218図)

位置 調査区北西部のC6h5区。標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第258・259号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.12m、短軸0.86mの長方形で、長軸方向はN-45°-Eである。深さ52cm、底面は残存部分から凹凸であると推測できる。壁は外傾して立ち上がっている。

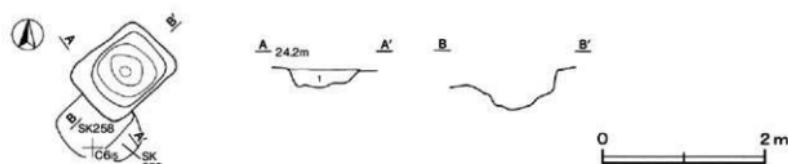
覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | | | |
|---|---|---|---|------------------|
| 1 | 暗 | 褐 | 色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
|---|---|---|---|------------------|

遺物出土状況 磁器片1点(碗ヶ)、骨片が南東壁寄りにそれぞれ覆土中から出土している。その他混入して、繩文土器片1点(深鉢)が出土している。

所見 覆土中から骨片が出土しており、墓坑と思われる。明確な時期は決定できないが、近世の染付磁器細片



第218図 第3号墓坑実測図

が出土していることから、近世と推測できる。

第4号墓坑 (SK273) (第219図)

位置 調査区南部のD 716区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第21号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.48m、短軸0.97mの長方形で、長軸方向はN-46°-Eである。深さ71cm、底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

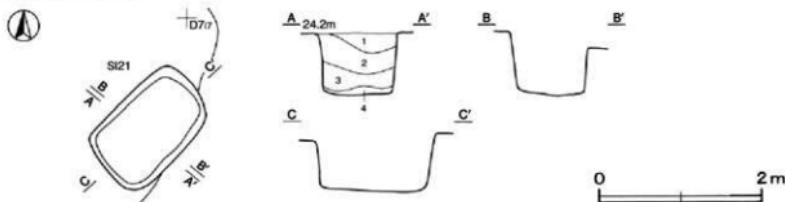
土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、炭化物少量
2 灰褐色 ロームブロック多量

- 3 黒褐色 ロームブロック中量
4 灰褐色 ロームブロック中量、骨粉少量

遺物出土状況 陶器片1点(碗)が覆土中から出土している。その他混入して、縄文土器片11点(深鉢)、弥生土器片1点(広口壺)、土製品1点(土器片鍤)が出土している。本跡に伴うと思われる陶器片は細片のため図示できなかった。

所見 図示はできなかったが、覆土下層から骨粉が出土しており、墓坑と思われる。時期は、出土遺物から近世後期以降である。



第219図 第4号墓坑実測図

第5号墓坑 (SK274) (第220図)

位置 調査区南部のD 717区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第22号住居跡を掘り込んでいる。

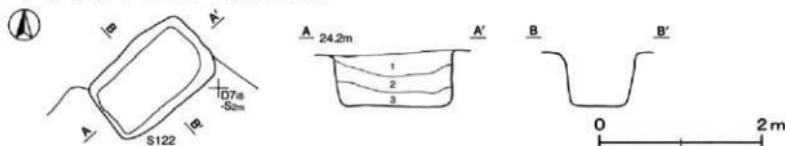
規模と形状 長軸1.50m、短軸0.96mの長方形で、長軸方向はN-47°-Eである。深さ65cm、底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- 1 灰褐色 ロームブロック多量、黒色土ブロック少量
2 灰褐色 ロームブロック・黒色土ブロック少量

- 3 灰褐色 ロームブロック中量、黒色土ブロック・骨粉少量



第220図 第5号墓坑実測図

遺物出土状況 土師質土器片2点（鍋ヶ）、瓦片1点、石製品1点（不明）が出土している。その他混入して、繩文土器片7点（深鉢）、弥生土器片3点（広口壺）、土師器片3点（皿1、甕2）、須恵器片2点（壺、甕）が覆土中から出土している。本跡に伴うと思われる土師質土器片は、細片のため図示できなかった。

所見 覆土中から骨粉が出土していることから墓坑で、時期は出土遺物から近世以降であると思われる。

第6号墓坑（SK275）（第221図）

位置 調査区南部のD 7h7区、標高24mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸151m、短軸105mの長方形で、長軸方向はN-40°-Wである。深さ67cm、底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子多量	4 暗褐色 ロームブロック中量
2 暗褐色 ロームブロック多量、骨粉少量	5 黒褐色 ロームブロック多量
3 黒褐色 ロームブロック中量	

遺物出土状況 染付磁器片1点（碗ヶ）が覆土中から出土している。その他混入して、繩文土器片9点（深鉢）が覆土中から出土している。本跡に伴うと思われる磁器片は、細片のため図示できなかった。

所見 覆土中から骨粉が出土していることから墓坑で、時期は出土遺物から近世以降であると思われる。

第7号墓坑（SK276）（第221図）

位置 調査区南部のD 7h7区、標高24mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸164m、短軸114mの長方形で、長軸方向はN-41°-Wである。深さ45cm、底面は平坦で、壁は直立している。

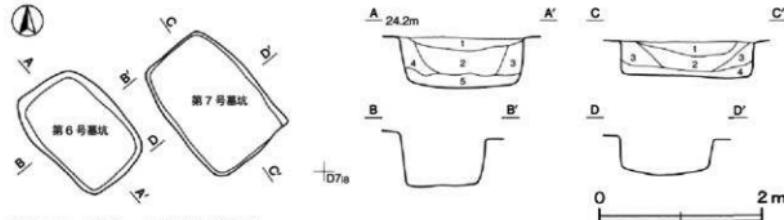
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 灰褐色 ロームブロック多量	3 暗褐色 ロームブロック多量
2 暗褐色 ロームブロック中量、骨粉少量	4 灰褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 染付磁器片1点（皿）が覆土中から出土している。細片のため図示できなかった。

所見 覆土中から骨片が出土していることから墓坑で、時期は出土遺物から近世以降であると思われる。



第221図 第6・7号墓坑実測図

第8号墓坑（SK310）（第222図）

位置 調査区西部のD 6c3区、標高23.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第1号道路に掘り込まれているため、南北径1.77m、東西径0.74mしか確認できなかった。平面形は梢円形であると推測できる。長径方向はN-40°-Wである。深さ56cm、底面は皿状で、壁はやや外傾して立ち上がっている。

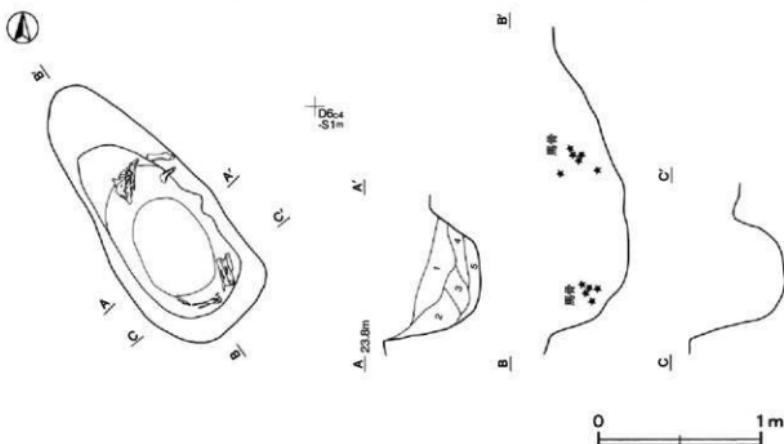
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック少量 | 5 暗褐色 ロームブロック多量、骨粉少量 |
| 3 暗褐色 ロームブロック少量 | |

遺物出土状況 北部と南東壁寄りの覆土下層から散在して骨片が出土している（詳細は付章参照）。

所見 覆土下層から骨片が出土しており、墓坑と思われる。時期を判定できる出土遺物がないため明確ではないが、第1号道路との重複関係や、形状と覆土の状況が第9号墓坑と類似していることから、中世と推測できる。



第222図 第8号墓坑実測図

第9号墓坑 (SK349) (第223図)

位置 調査区南西部のD 6 b9区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 第1号道路に掘り込まれているため、南北径1.43m、東西径0.94mしか確認できなかった。長径方向はN-59°-W、深さ66cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

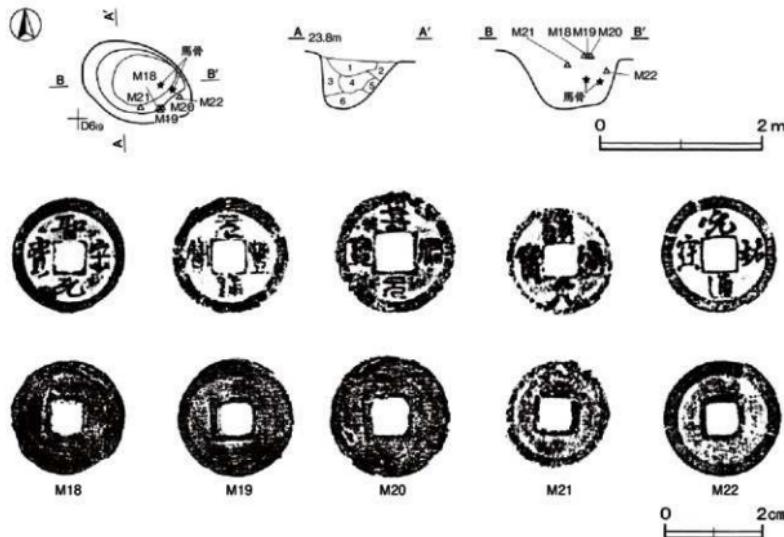
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 黒褐色 ロームブロック中量 | 4 暗褐色 ロームブロック中量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック多量 | 5 黒褐色 ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 ロームブロック少量 | 6 暗褐色 ロームブロック中量、骨粉少量 |

遺物出土状況 銅製品5点（錢貨）、骨片2点が出土している（骨片の詳細は付章参照）。骨片は、南東側の壁際から、M 21は南西壁際から、M 18～20は南壁際から3枚重なった状態で覆土上層から出土している。

所見 骨片・銭貨の出土から墓坑と思われる。時期は、出土遺物から中世と推測できる。



第223図 第9号墓坑・出土遺物実測図

第9号墓坑（SK349）出土遺物観察表（第223図）

番号	銘名	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 18	聖宋元寶	236	0.61	0.10	3.0	銅	(北宋、1101年) 行書 横説錢	覆土上層	PL52
M 19	元豐通寶	241	0.65	0.11	2.8	銅	(北宋、1078年) 葉書 横説錢	覆土上層	PL52
M 20	嘉祐元寶	249	0.75	0.10	3.0	銅	(北宋、1056年) 葉書 横説錢	覆土上層	PL52
M 21	開元通寶	222	0.67	0.14	2.4	銅	(唐、621年) 背文無 横説錢	覆土上層	PL52
M 22	元祐通寶	238	0.68	0.11	1.5	銅	(北宋、1086年) 行書 横説錢	覆土中層	PL52

第10号墓坑（SK481）（第224図）

位置 調査区南東部のD 8 i 7区、標高22mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第6号道路跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.10mの円形で、深さは47cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量

4 緩褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

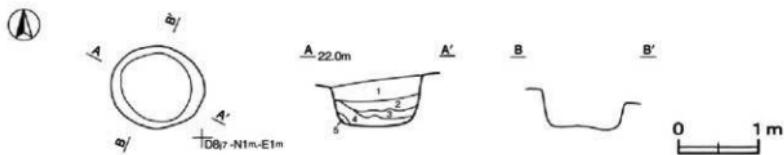
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

5 緩褐色 ロームブロック中量、骨粉少量

3 緩褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 磁器片2点（碗）、瓦片1点が覆土中から出土している。その他混入して、繩文土器片1点（深鉢）、礫1点が覆土中から出土している。本跡に伴うと思われる磁器片は、細片のため図示できなかった。

所見 覆土下層から骨粉が出土しており、墓坑と思われる。時期は、出土遺物が細片のため明確でないが、第6号道路跡を掘り込んでいることから、近世後期以降と推測できる。



第224図 第10号墓坑実測図

第11号墓坑 (SK484) (第225図)

位置 調査区東部のD 8g8区、標高22mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第6号道路跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径1.15mの円形で、深さは82cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

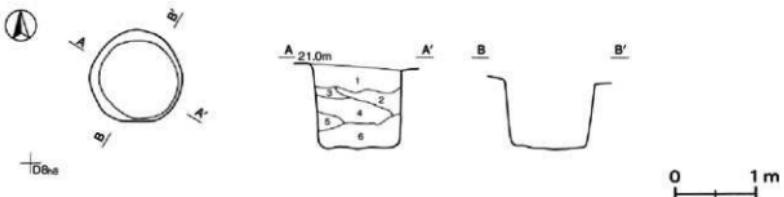
覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量	4 墓場色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 黒褐色 ロームブロック中量
3 墓場色 ロームブロック少量	6 墓場色 ロームブロック中量、骨粉少量

遺物出土状況 陶器片1点(碗)、磁器片1点(碗)が出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 覆土中から骨粉が出土しており、墓坑と思われる。時期は、出土遺物が細片のため明確でないが、第6号道路跡を掘り込んでいることから、近世後期以降と推測できる。



第225図 第11号墓坑実測図

第12号墓坑 (SK505) (第226図)

位置 調査区東南部のD 8i7区、標高22mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 径1.13mの円形で、深さは55cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

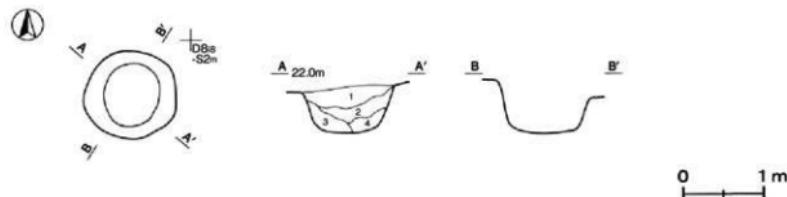
土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量	3 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 墓場色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 墓場色 ロームブロック微量、骨粉少量

遺物出土状況 陶器片1点(甕), 磁器片1点(碗)が出土している。その他混入して、須恵器片1点(甕)

が出土している。本跡に伴うと思われる陶器片、磁器片は細片のため、図示できなかった。

所見 覆土下層から骨粉が出土しており、墓坑と思われる。時期は出土遺物が細片のため明確ではないが、形状や覆土の状況が第10号墓坑と類似していることから、近世後期以降と推測できる。



第226図 第12号墓坑実測図

第13号墓坑 (SK509) (第227図)

位置 調査区南部のE 8 b4 区、標高 22 m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため、東西径 0.80 m、南北径 0.60 m しか確認できなかった。

平面形は、円形と思われる。深さ 32cm、底面はほぼ平坦で、壁はやや外傾して立ち上がっている。

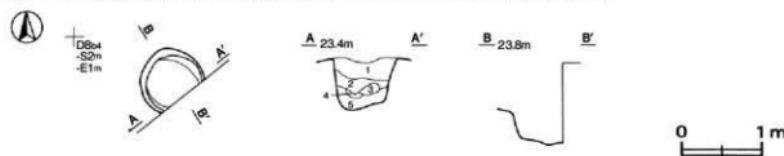
覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黑褐色 ロームブロック微量	4 黒褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 紫褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量	5 紫褐色 ロームブロック微量、骨粉少量
3 緑褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	

遺物出土状況 瓦質土器片 1点（鍋カ）が覆土中から出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 覆土下層から骨粉が出土しており、墓坑と思われる。時期は出土遺物が細片のため明確ではないが、形状や覆土の状況が第10号墓坑と類似していることから、近世後期以降と推測できる。



第227図 第13号墓坑実測図

表14 中世・近世墓坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	骨 有・無	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
1	D 7b3	N 44°・W	長方形	1.08 × 0.92	40	平坦	外傾	人為	骨粉	繩文土器、須恵器	SI13、SK200 → 本跡
2	D 6b8	-	[隠丸長方形]	(2.10 × 1.20)	38	平坦	外傾	人為	骨片	-	本跡 → SF1SK439SD10
3	C 6b5	N 45°・E	長方形	1.12 × 0.86	52	凹凸	外傾	人為	骨片	繩文土器、磁器	SK258・259 → 本跡
4	D 7b6	N 46°・E	長方形	1.48 × 0.97	71	平坦	直立	人為	骨粉	繩文土器、陶器	SE21 → 本跡
5	D 7b7	N 47°・E	長方形	1.50 × 0.96	65	平坦	直立	人為	骨粉	土師質土器、瓦	SE22 → 本跡
6	D 7b7	N 40°・W	長方形	1.51 × 1.05	67	平坦	外傾	人為	骨粉	繩文土器、磁器	
7	D 7b7	N 41°・W	長方形	1.64 × 1.14	45	平坦	直立	人為	骨粉	磁器	
8	D 6c3	[N 40°・W]	[椭円形]	(1.77 × 0.74)	56	皿状	外傾	人為	骨片	-	本跡 → SF1

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	骨 有・無	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
9	D 619	[N 59° .W]	[楕円形]	(1.43 × 0.96)	66	平坦	外傾	人為	骨片	銭貨	本跡→SF1
10	D 817	-	円形	1.10	47	平坦	外傾	人為	骨粉	縄文土器、磁器、瓦	SF6→本跡
11	D 848	-	円形	1.15	82	平坦	直立	人為	骨粉	陶器、磁器	SF6→本跡
12	D 817	-	円形	1.13	55	平坦	外傾	人為	骨粉	須恵器、陶器、磁器	
13	E 844	-	[円形]	(0.80 × 0.60)	32	平坦	外傾	人為	骨粉	瓦質土器	

(7) 土坑

第11号土坑(第228図)

位置 調査区北西部C 6e3区、標高24mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.83m、短径0.72mの楕円形で、深さは48cmである。長径方向はN-43°-Eである。底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上っている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

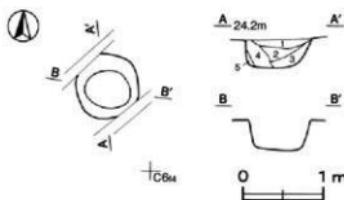
- 1 線 極 色 ロームブロック微量
- 2 黄 極 色 ロームブロック中量
- 3 黄 極 色 ロームブロック少量
- 4 黄 極 色 ロームブロック少量
- 5 黄 極 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 磁器片2点(碗)、金属製品1点(煙管カ)

が覆土中から出土している。細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土磁器が細片のため詳細な時期は明確で

はないが、覆土や形状から、近世と推測できる。



第228図 第11号土坑実測図

第28号土坑(第229図)

位置 調査区北西部C 5i0区、標高24mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.21m、短径1.70mの楕円形で、深さは43cmである。長径方向はN-73°-Wである。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上っている。

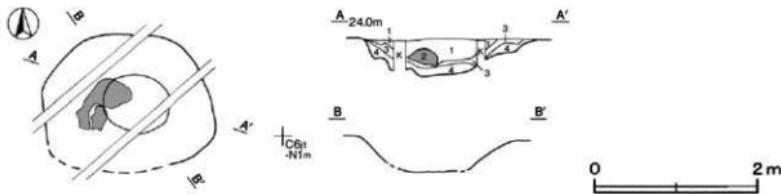
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。第2層は混土貝層である。

土層解説

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1 黒 極 色 ロームブロック少量、炭化物微量 | 3 極 極 色 ロームブロック多量 |
| 2 黒 極 色 ロームブロック微量、混土貝層 | 4 細 極 色 ロームブロック中量 |

遺物出土状況 ヤマトシジミを主体とした貝殻が第2層からまとまって、廃棄された状態で出土している。貝殻の総重量は2,230.5gで、それぞれの貝殻の重量は、ヤマトシジミ 1,864.6g、オオタニシ 253.7g、ヤマタニシ 109.5g、ウミニナ 1.1g、不明細片 16gである。貝殻に混入して骨の細片が2.8g出土している。その他混入して、縄文土器片20点(深鉢)、須恵器片1点(甕)が覆土中から出土している。細片のため図示できなかった。

所見 時期は、判定できる出土遺物がないため明確ではないが、同様に貝殻の出土している第68号土坑と覆土の状況が類似しているため、近世以前と推測できる。



第229図 第28号土坑実測図

第58号土坑（第230図）

位置 調査区北西部C 5g8区、標高 23.8 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第62号土坑を掘り込み、第1号ピット群（P63）に掘り込まれている。

規模と形状 長軸 1.34 m、短軸 1.10 m の長方形で、長軸方向は N - 33° - W である。深さ 27cm、底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

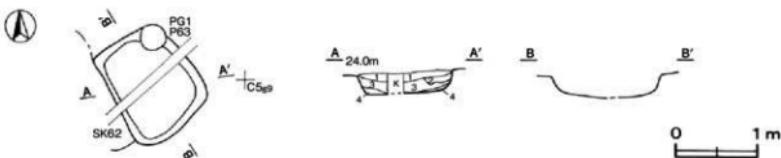
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量	3 黒褐色 ロームブロック多量
2 紫褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量	4 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 混入して縄文土器片 25 点（深鉢）、土製品 2 点（土器片円盤）が覆土中から出土している。

所見 時期は、判定ができる出土遺物がないため明確ではないが、形状や覆土の状況が他の近世の土坑と似ているため、近世と推測できる。



第230図 第58号土坑実測図

第59号土坑（第231図）

位置 調査区北西部C 5f9区、標高 23.8 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号ピット群（P92）を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 1.68 m、短軸 1.31 m の長方形で、長軸方向は N - 11° - W である。深さ 69cm、底面はほぼ平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

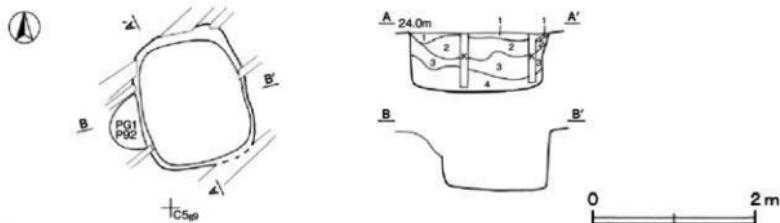
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量	3 黒褐色 ロームブロック多量
2 紫褐色 ロームブロック中量	4 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 混入して縄文土器片 18 点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、判定できる出土遺物がないため明確ではないが、中世の天目茶碗片が出土した第1号ピット群を掘り込んでいるため、中世以降と推測できる。



第231図 第59号土坑実測図

第68号土坑（第232図）

位置 調査区北西部C 5h8区、標高23.6mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号道路に掘り込まれている。

規模と形状 長軸2.47m、短軸1.84mの隅丸長方形で、長軸方向はN-58°-Eである。深さ119cm、底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第1・4層は混土貝層である。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック微量、混土貝層

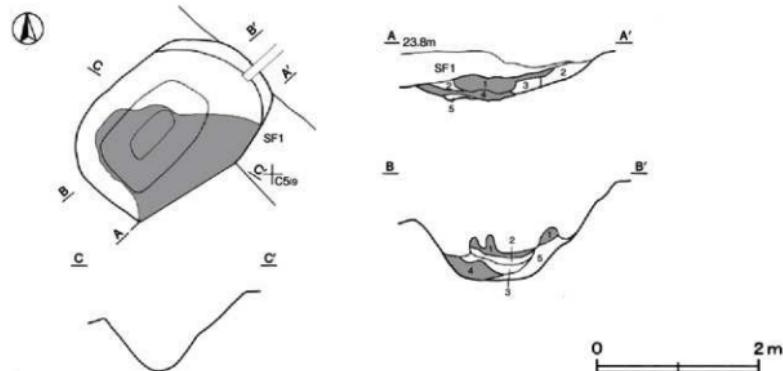
2 黒褐色 ロームブロック中量

3 黒褐色 ロームブロック少量

4 黒褐色 ローム粒子微量、混土貝層

5 黒褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 ヤマトシジミを中心とした貝殻が第1・4層からまとまって、廃棄された状態で出土している。第1層の貝殻の総重量は、15,304.9gである。それぞれの重量は、ヤマトシジミ 15,244.0g、オオタニシ 58.8g、ウミニナ 21gである。第4層の貝殻の総重量は48,512.3gである。それぞれの重量は、ヤマトシジミ 48,175.0g、オオタニシ 321.9g、ウミニナ 8.0g、カワアイ 7.1g、不明細片 0.3gである。その他、貝層に混入して骨の細片が、0.4g出土している。その他混入して、縄文土器片8点（深鉢）、須恵器片1点（甕）が覆土中から出土している。細片のため、図示できなかった。



第232図 第68号土坑実測図

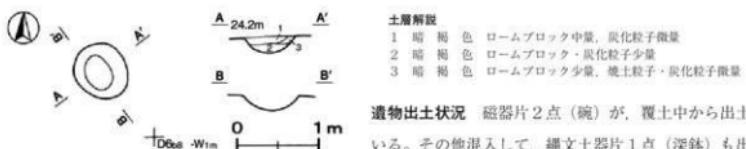
所見 時期は、判定できる出土遺物がないため明確ではないが、第1号道路に掘り込まれているため、近世以前と推測できる。

第99号土坑（第233図）

位置 調査区西北部D 6a7区、標高24mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径0.72m、短径0.63mの楕円形で、長径方向はN-48°Wである。深さ20cm、底面は皿状で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。



第233図 第99号土坑実測図

遺物出土状況 磁器片2点（碗）が、覆土中から出土している。その他混入して、繩文土器片1点（深鉢）も出土している。

所見 時期は、出土磁器が細片のため明確ではないが、形状と覆土の状況から近世と思われる。

第112号土坑（第234図）

位置 調査区北部C 7h4区、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 径1.05mの円形で、深さは84cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	4	黒褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	5	暗褐色	ロームブロック多量
3	黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	6	暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 混入して繩文土器片2点（深鉢）が覆土中から出土している。

所見 時期は、判定できる出土遺物がないため明確ではないが、形状と覆土の状況から、近世の墓坑の可能性がある。

第113号土坑（第234図）

位置 調査区北部C 7h4区、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 径1.00mの円形で、深さは90cmである。底面は平坦で、壁は直立している。

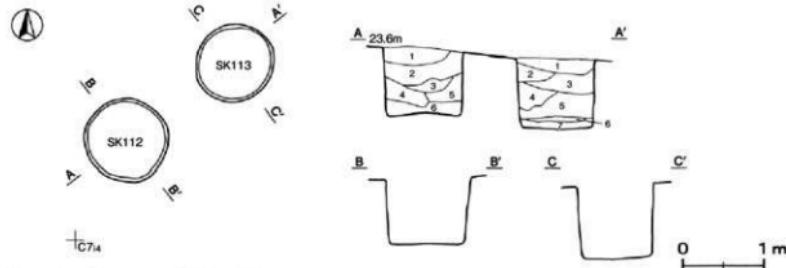
覆土 7層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子中量	5	黒褐色	ロームブロック少量
2	暗褐色	ロームブロック少量	6	暗褐色	ロームブロック多量
3	黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	7	暗褐色	ロームブロック・炭化粒子少量
4	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量			

遺物出土状況 陶器片1点（花瓶カ）が覆土中から出土している。その他混入して、繩文土器片1点（深鉢）が出土している。本跡に伴うと思われる陶器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土陶器が細片のため明確ではないが、形状と覆土の状況から第112号土坑同様、近世の墓坑の可能性がある。



第234図 第112・113号土坑実測図

第114号土坑（第235図）

位置 調査区北西部D 6c6区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号道路跡を掘り込み、第115・134号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸407m、短軸222mの長方形で、南東部には階段状のテラスが確認できた。長軸方向はN-42°-Wである。深さ43cm、底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック中量、焼土粒子、炭化粒子微量
2 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量
3 黒褐色	ロームブロック中量、焼土ブロック・炭化粒子少量		炭化物少量

遺物出土状況 磁器片5点（小壺1、徳利3、壺1）、陶器片22点（小皿4、灯明皿1、徳利6、火鉢3、鉢類2、擂鉢2、焜炉1、壺3）、土師質土器片1点（目皿）、瓦質土器片3点（火鉢）、瓦片2点、金属製品4点（釘2、刀子1、煙管1）、炭化材が覆土中から出土している。その他混入して、縄文土器片50点（深鉢）、土師器片8点（壺）、須恵器片10点（壺6、壺2、壺2）、剥片1点（チャート）も出土している。157は中央部からやや西側寄り、158は中央部からやや東寄りの覆土中から、160は南東部のテラス上からの破片と北西部からの破片で床面から、161・162は南東壁際の覆土上層から廃棄された状態でそれぞれ出土している。159は北壁側、北東壁際、中央部からやや南寄りの覆土中層から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は、出土陶磁器から江戸末期（19世紀中葉）に比定できる。形状や遺物の出土状況から倉庫的な施設と思われる。

第115号土坑（第235図）

位置 調査区北西部のD 6c7区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第114・134号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸134m、短軸0.87mの長方形で、長軸方向はN-35°-Eである。深さは62cmで、底面は平坦で、壁はほぼ直立している。

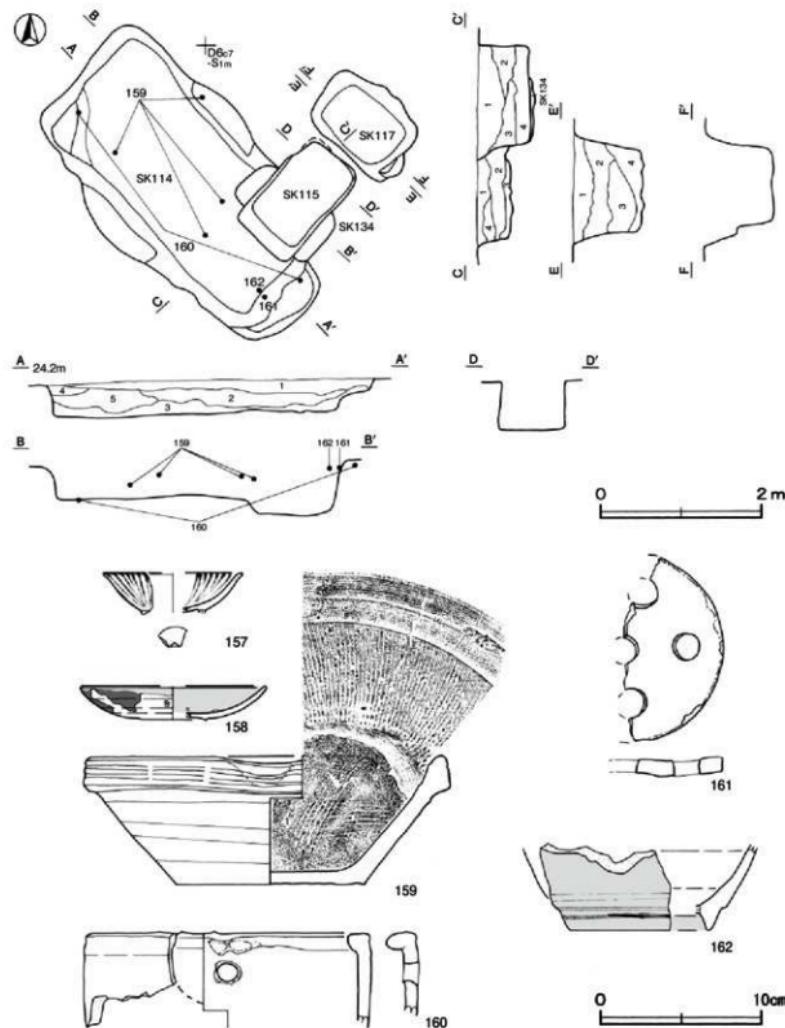
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量、炭化粒子少量	3 黒褐色	ロームブロック少量
2 黒褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量	4 黒褐色	ロームブロック中量

遺物出土状況 陶器片2点（碗）が覆土中から出土している。細片のため図示できなかった。

所見 出土陶器が細片のため明確な時期は不明であるが、第114号土坑を掘り込んでいることから、19世紀中葉以降と推測できる。



第235図 第114・115・117号土坑、第114号土坑出土遺物実測図

第114号土坑出土遺物観察表（第235図）

番号	種別	器種	口径 / 上径	器高	底径 / 下径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
157	磁器	小杯	(8.3)	(2.5)	-	緻密	灰白	良好	染付 透明釉 体部外・内面縦横文 底部外面角文	覆土中	5% 蓋戸・美濃
158	陶器	灯明皿	(11.4)	2.1	(4.0)	砂粒	灰黄	普通	灰釉 体部内面から口縁部にかけて方が剥け 内面トナメ痕2か所	覆土中	30%
159	陶器	擂鉢	21.5	7.9	11.7	長石・石英・砂粒	棕	良好	口縁剥り落し 断面三角形 壁面底部8~9条見込み8条クロス目2部位 亂割れ底水切り後手打ちヘラナデ	覆土中層	80% 墓 PL51
160	陶器	提鉢	17.7	(5.9)	-	長石・石英・黒色粒子	灰	良好	筒形 上方部半月状の窪 乳頭状突起 線釉・灰釉掛け分け	床面	15% PL50
161	土師質土器	日皿	(11.2)	1.2	(11.2)	堆点	にぬ・須根	普通	ナデ調整 章孔5か所+ 七つ桶付属品	覆土上層	40% PL51
162	磁器	壺	-	5.3	(8.6)	緻密	灰白	良好	透明釉 染付 体部下端と高台部外面縦線文	覆土上層	15% 肥前

第117号土坑（第235図）

位置 調査区北西部のD 6 c7 区、標高 23.8 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸 1.36 m、短軸 0.95 m の長方形で、長軸方向は N - 44° - W である。深さは 84cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上っている。

覆土 4 層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 細褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 細褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

3 細褐色 ロームブロック中量
4 細褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 陶器片 2 点(碗)、磁器片 2 点(碗)が覆土中から出土している。その他混入して、土師器片 8 点(环2、壺6)も出土している。細片のため、図示できなかった。

所見 出土陶器、磁器が細片のため明確な時期は不明であるが、第134号土坑と主軸がほぼ同一で、規模や形状が似ているため、同時期に存在した可能性がある。

第123号土坑（第236図）

位置 調査区北西部のC 6 j4 区、標高 23.8 m の台地平坦部に位置している。

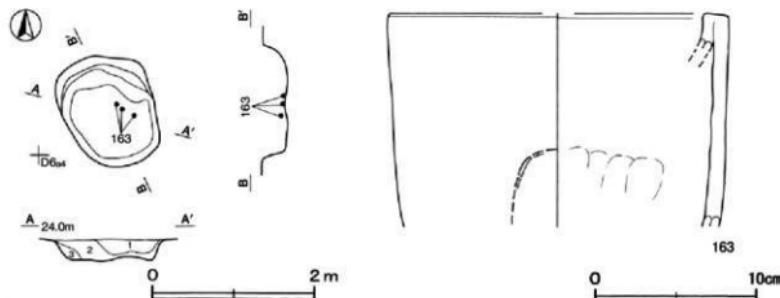
規模と形状 長径 1.44 m、短径 1.12 m の楕円形で、長軸方向は N - 25° - W である。深さは 31cm、底面は平坦で、壁は外傾して立ち上っている。

覆土 3 層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量
2 細褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

3 黒褐色 ロームブロック中量



第236図 第123号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 瓦質土器片2点（焜炉、七厘）、鉄製品2点（釘）が出土している。その他混入して、縄文土器片4点（深鉢）も出土している。163は、覆土下層から発見された状態で出土している。

所見 時期は、出土遺物から19世紀前葉～中葉に比定できる。

第123号土坑出土遺物観察表（第236図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
163	瓦質土器	七厘	[21.0]	[18.2]	—	雲母・砂粒	灰白	普通	筒形 大力調整窓 体部外・内面ハラナデ 内面下位指標によるナダ	床面	30% PL51

第258号土坑（第237図）

位置 調査区北西部のC6h4区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第259号土坑に掘り込み、第3号墓坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西・北東軸0.74m、南東・北西軸0.65mが確認され、長方形と推測される。深さは23cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

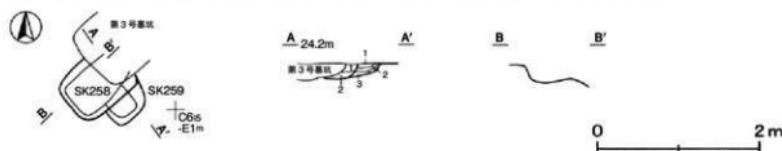
覆土 2層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

2 黒褐色 ロームブロック中量

所見 時期は、出土遺物がないため明確ではないが、覆土の状況や形状から近世と思われる。



第237図 第258・259号土坑実測図

第259号土坑（第237図）

位置 調査区北西部のC6h4区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号墓坑、第258号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第3号墓坑、第258号土坑に掘り込まれているため、北西・南東軸0.49m、北東・南西軸0.39mしか確認できなかった。深さは13cmである。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

3 黒褐色 ロームブロック中量

2 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

所見 時期は、出土遺物がないため明確ではないが、覆土の状況や形状から近世と思われる。

第262号土坑（第238～240図）

位置 調査区西部のD6d5区、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1・3号道路跡、第7・8号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸4.35m、短軸1.97mの長方形で、長軸方向はN-47°-Wである。南東部には階段状の堀

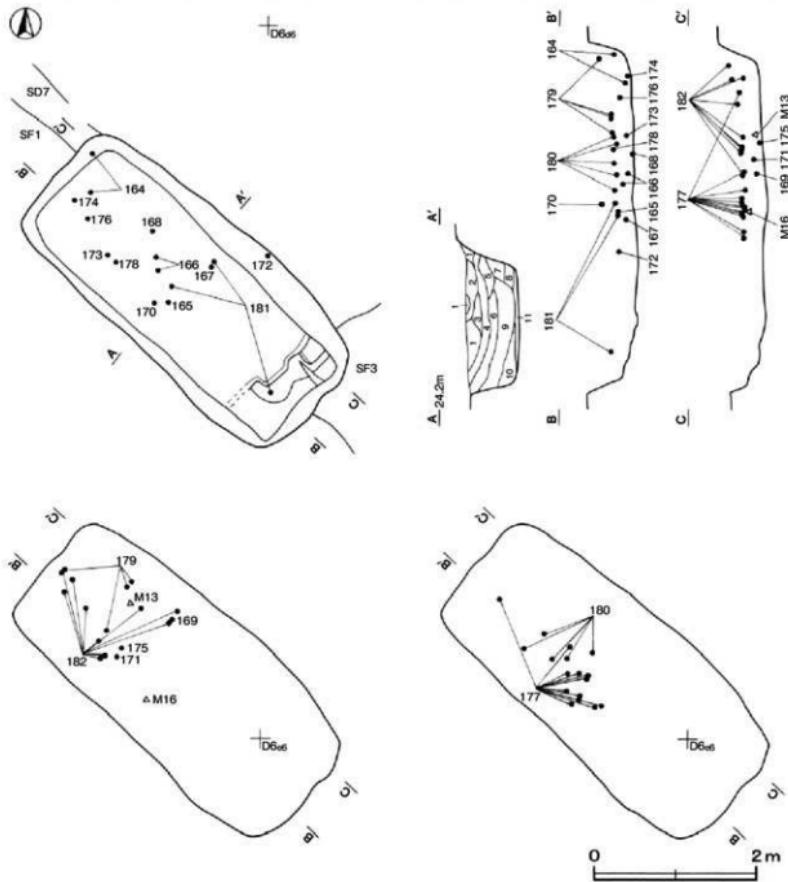
込みがあり、深さは60cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 11層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。

十一

- | | | | | | | | |
|---|--------|---|-----------------------|----|--------|---|------------------------|
| 1 | 暗
褐 | 色 | ロームブロック中量 | 7 | 黒
褐 | 色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 | 黒
褐 | 色 | ロームブロック少量 | 8 | 黒
褐 | 色 | ロームブロック、炭化粒子少量 |
| 3 | 暗
褐 | 色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 9 | 黒
褐 | 色 | 焼土ブロック、炭化物微量、ロームブロック微量 |
| 4 | 暗
褐 | 色 | ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 | 10 | 暗
褐 | 色 | ロームブロック・炭化粒子少量 |
| 5 | 暗
褐 | 色 | ロームブロック・焼土ブロック・炭化物少量 | 11 | 褐 | 色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 6 | 暗
褐 | 色 | ロームブロック中量、炭化粒子少量 | | | | |

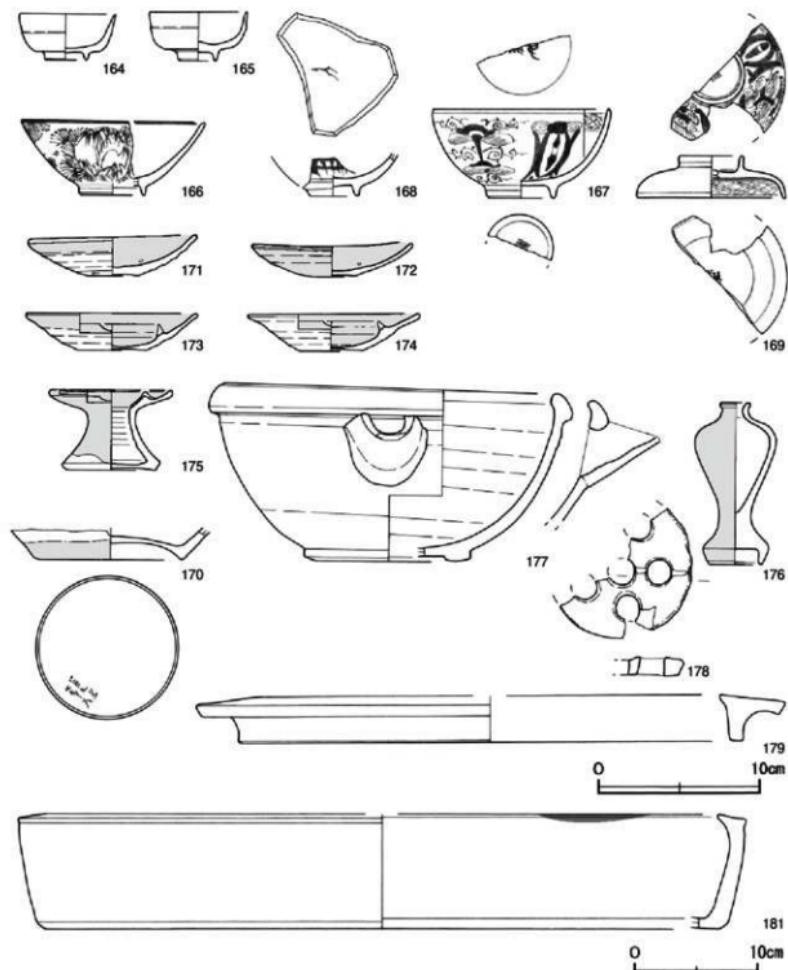
遗物出土状况 陶器片24点(碗14, 土瓶1, 灯明皿2, 灯明受皿2, 容器付灯明受皿1, 锅1, 钵1, 片口鉢1, 插鉢1), 磁器片24点(小碗5, 盘1, 碗14, 盖1, 急須口1, 神酒利1, 榆炉1), 土師質土器片4点(龜鈎2, 火鉢1, 七厘目皿1), 瓦質土器片14点(鉢1, 火鉢2, 锅5, 器台類6), 鉄製品11点(轡



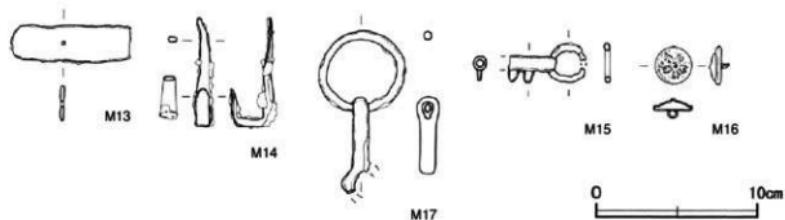
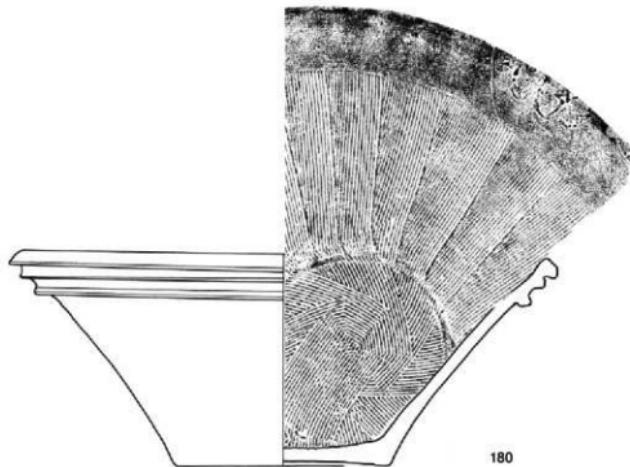
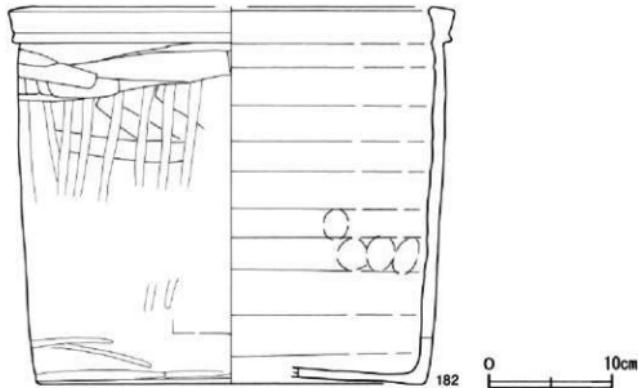
第238図 第262号土坑実測図

1. 吊手金具1、鍵1、釘7、板状製品1、棒状製品1）、銅製品1点（鉢）、平瓦3点、ガラス片2点（瓶）、貝殻（シジミ）1690gが出土している。その他混入して、繩文土器片20点（深鉢）、土師器片10点（甕）、須恵器片4点（甕カ）、石器3点（打製石斧1、砥石2）も出土している。164～182、M 13～17は、一括廃棄された状態で出土している。

所見 第114号土坑と規模、形状、主軸方向が一致しており、倉庫的な施設と思われる。時期は、出土遺物から江戸時代末期～明治時代（19世紀後葉）に比定できる。



第239図 第262号土坑出土遺物実測図（1）



第240図 第262号土坑出土遺物実測図 (2)

第262号土坑出土遺物観察表（第239・240図）

番号	種別	器種	口径 上径	底 厚さ	蓋 下径	胎 土	色 調	焼成	手 法	特 徴	は か	出土位置	備 考		
164	磁器	小瓶	6.0	2.9	2.7	緻密	白	良好	ロクロ成形	透明釉生焼け	体部にわずかな棗をもつ	覆土下層	90% PL49		
165	磁器	小瓶	6.1	3.1	2.1	緻密	白	良好	ロクロ成形	透明釉生焼け	体部にわずかな棗をもつ	覆土中層	70%		
166	磁器	瓶	[112]	4.6	(4.0)	緻密	灰白	良好	透明釉 薺、紫、梅花文	口縁部外面施薺文	体部外面施紫文	覆土下層	40% 肥前 PL48		
167	磁器	瓶	[108]	5.5	(4.0)	緻密	灰白	良好	透明釉 口縁部外面施紫文	体部外面施紫文	底部施紫文	覆土下層	40% 肥前 PL47		
168	磁器	瓶	-	(2.7)	2.9	緻密	灰白	良好	透明釉 紫、青花文	口縁部外面施紫文	体部外面施紫文	覆土下層	30% 濱田 美濃		
169	磁器	蓋	[92]	2.6	-	緻密	灰白	良好	透明釉 口縁部外面施紫文	内面施紫文	内面施紫文	覆土下層	30% 肥前 PL47		
170	陶器	土瓶	-	(2.0)	9.1	緻密	にぶい橙	良好	ロクロ成形	灰白	底部施紫文	口縁部外面施紫文	覆土中層	5% PL50	
171	陶器	灯明皿	10.2	2.6	3.1	淡石・黒色 桔子・細脚	明黄褐	良好	ロクロ成形	体部内面から口縁部外面施紫	底部施紫文	覆土下層	100% PL49		
172	陶器	灯明皿	9.8	2.2	2.9	淡石・黒色 桔子・細脚	にふい赤褐	良好	ロクロ成形	灰白	内面施紫文	内面施紫文	覆土中層	100% PL49	
173	陶器	灯明受皿	10.5	2.3	4.2	淡石・細脚	灰黃	良好	ロクロ成形	灰褐色	体部内面から口縁部外面施紫	底部施紫文	覆土下層	99% PL49	
174	陶器	灯明受皿	10.5	2.4	2.9	淡石・細脚	灰石・石英・ 砂粒	灰白	良好	ロクロ成形	灰褐色	体部内面から口縁部外面施紫	底部施紫文	覆土下層	100% PL49
175	陶器	灯明受皿	7.4	4.9	5.5	砂粒	灰白	良好	ロクロ成形	透明釉	底部回転系切り口ヘラナデ	床面	70% PL49		
176	磁器	神酒利器	1.8	10.0	3.3	黑色斑点・ 細脚	白	良好	神酒具	ロクロ成形	外側環状施釉	底部透明釉	覆土下層	90% PL49	
177	陶器	片口鉢	20.8	10.9	[10.2]	黑色斑点・ 細脚	灰黃	良好	ロクロ成形	口縁部引手柄の洋口付付け	外・内 面灰褐色	45% 滝川 美濃 PL50			
178	土師質土器	目皿	[9.4]	1.2	(8.4)	長石・雲母 にふい橙	普通	良好	七厘付翼皿	穿孔6.5mm	底部引手柄	外・内 面逆台形	覆土中層	45% PL51	
179	土師質土器	皿	[28.4]	2.8	-	長石・雲母 にふい橙	普通	良好	七厘付翼皿	穿孔6.5mm	底部引手柄	外・内 面逆台形	覆土中層	25%	
180	陶器	壺	32.2	13.3	13.1	長石・黒色 桔子・細脚	灰黃	良好	鉄軸	体部から底部24本の櫛状工具による捺目	外	100% 笠岡 PL51			
181	瓦質土器	火鉢	[54.8]	9.3	(55.0)	長石・雲母 にふい青橙	普通	良好	ロクロ成形	体部外側口沿へフリギ	底部外側へ フリギ	内面青橙	底部保付着	40% PL50	
182	土師質土器	火鉢	[32.6]	30.8	(31.0)	長石・雲母・ 赤色斑点	浅黃	良好	ロクロ成形	内面青橙	内面青橙	内面	ロクロ成形	10% PL51	

中世・近世のその他の土坑（第241～245図）

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・燒土粒子・炭化粒子微量
2 緩灰褐色 ロームブロック中量

第10号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 緩褐色 ロームブロック少量
3 緩褐色 ロームブロック中量
4 黑褐色 ロームブロック多量
5 黑褐色 ロームブロック多量
6 褐色 ロームブロック多量

第12号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック少量
2 黑褐色 ロームブロック多量
3 緩褐色 ロームブロック中量
4 黑褐色 ロームブロック中量
5 黑褐色 ローム粒子微量

第20号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック・粘土ブロック・燒土粒子・炭化
粒子微量
2 黑褐色 ロームブロック・粘土ブロック微量
3 黑褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック少量

第24号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子・炭化粒子微量

第25号土坑土層解説

- 1 黒褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック・炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、粘土ブロック・炭化物微量
3 黑褐色 粘土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
4 黑褐色 粘土ブロック多量
5 黑褐色 粘土ブロック少量
6 黑褐色 粘土ブロック少量、燒土粒子微量
7 黑褐色 粘土ブロック多量、ロームブロック微量
8 黑褐色 ロームブロック少量、燒土粒子微量
9 黑褐色 燃土粒子少量、ロームブロック少量、燒土粒子微量
10 黑褐色 粘土ブロック少量、ロームブロック少量
11 黑褐色 粘土ブロック少量、燒土粒子微量
12 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第91号土坑土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量
2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 黑褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 褐色 ロームブロック少量

第93号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子微量
2 褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
3 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第96号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 226 号土坑土層解説

- 1 黒 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 黒 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第 278 号土坑土層解説

- 1 黒 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 黑 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黑 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第 350 号土坑土層解説

- 1 黒 暗褐色 ローム粒子中量
2 黑 暗褐色 ローム粒子少量
3 黑 暗褐色 ロームブロック中量
4 黑 暗褐色 ロームブロック多量

第 351 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック中量
2 黑 暗褐色 ロームブロック少量
3 黑 暗褐色 ロームブロック微量
4 黑 暗褐色 ロームブロック多量

第 426 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック少量
2 黑 暗褐色 ロームブロック多量
3 黑 暗褐色 ロームブロック中量
4 黑 暗褐色 ロームブロック中量
5 黑 暗褐色 ロームブロック微量
6 黑 暗褐色 ロームブロック微量
7 黑 暗褐色 ロームブロック少量

第 433 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック微量

第 434 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック中量
2 黑 暗褐色 ロームブロック少量
3 黑 暗褐色 ロームブロック微量
4 黑 暗褐色 ロームブロック少量

第 435 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黑 暗褐色 ロームブロック中量
3 黑 暗褐色 ロームブロック多量

第 436 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック中量
2 黑 暗褐色 ロームブロック微量
3 黑 暗褐色 ロームブロック少量

第 440 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黑 暗褐色 ロームブロック多量

第 441 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 黑 暗褐色 ロームブロック多量

第 498 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック中量、骨粉少量
2 黑 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
3 黑 暗褐色 ロームブロック少量

第 508 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック少量

第 530 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック少量
2 黑 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黑 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 黑 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

第 531 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック少量
2 黑 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
3 黑 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

第 532 号土坑土層解説

- 1 黑 暗褐色 ロームブロック微量

第 562 号土坑土層解説

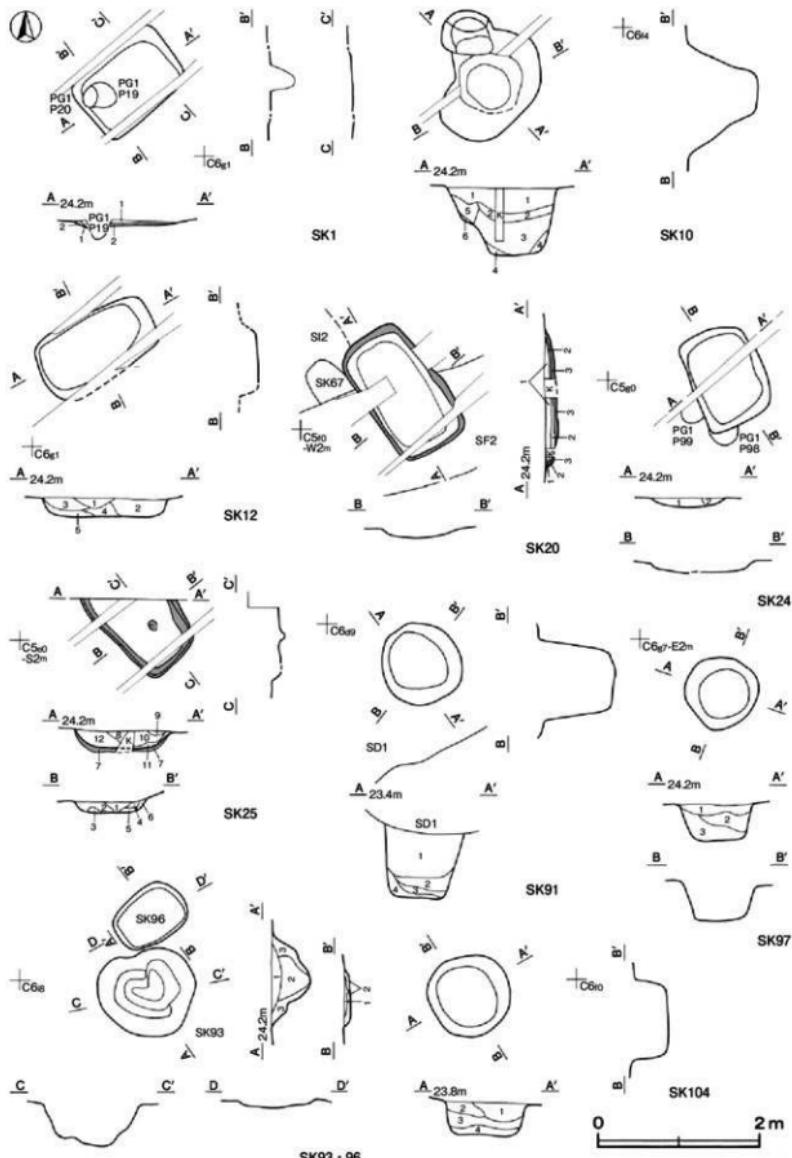
- 1 黑 暗褐色 ロームブロック微量
2 黑 暗褐色 ロームブロック少量

第 563 号土坑土層解説

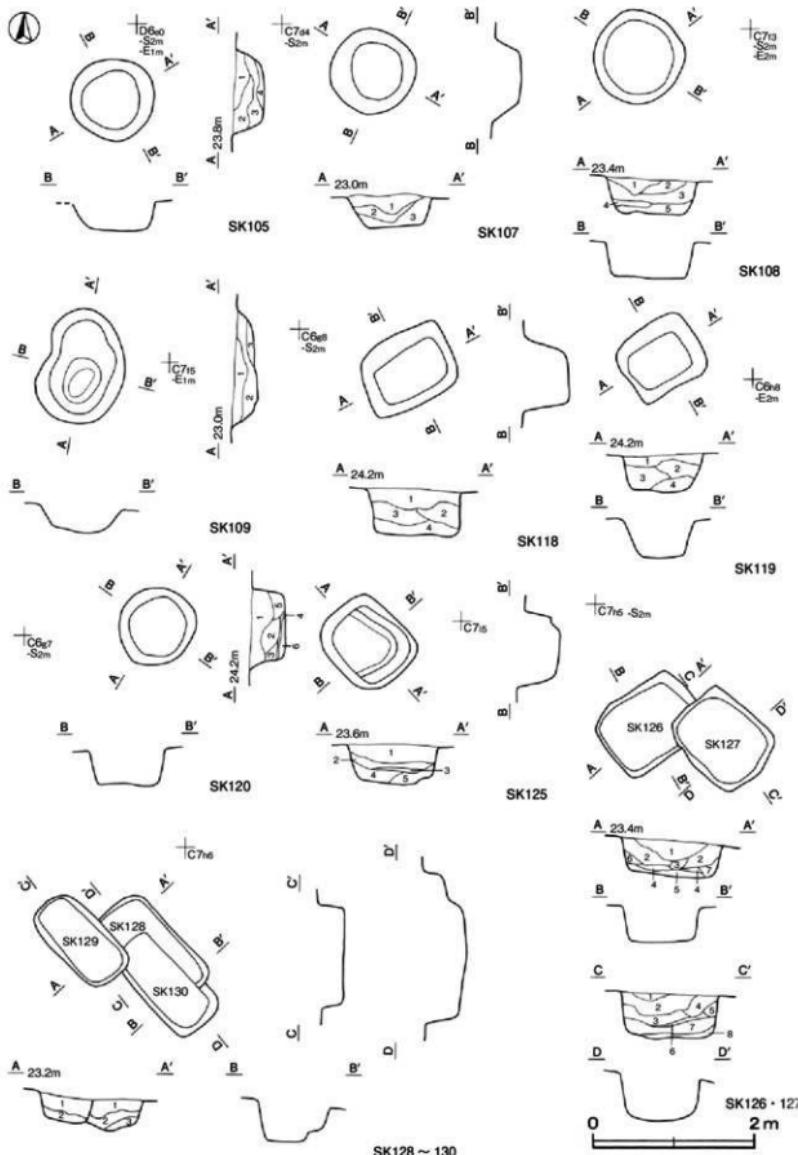
- 1 黑 暗褐色 ロームブロック微量

表15 中世・近世土坑一覧表

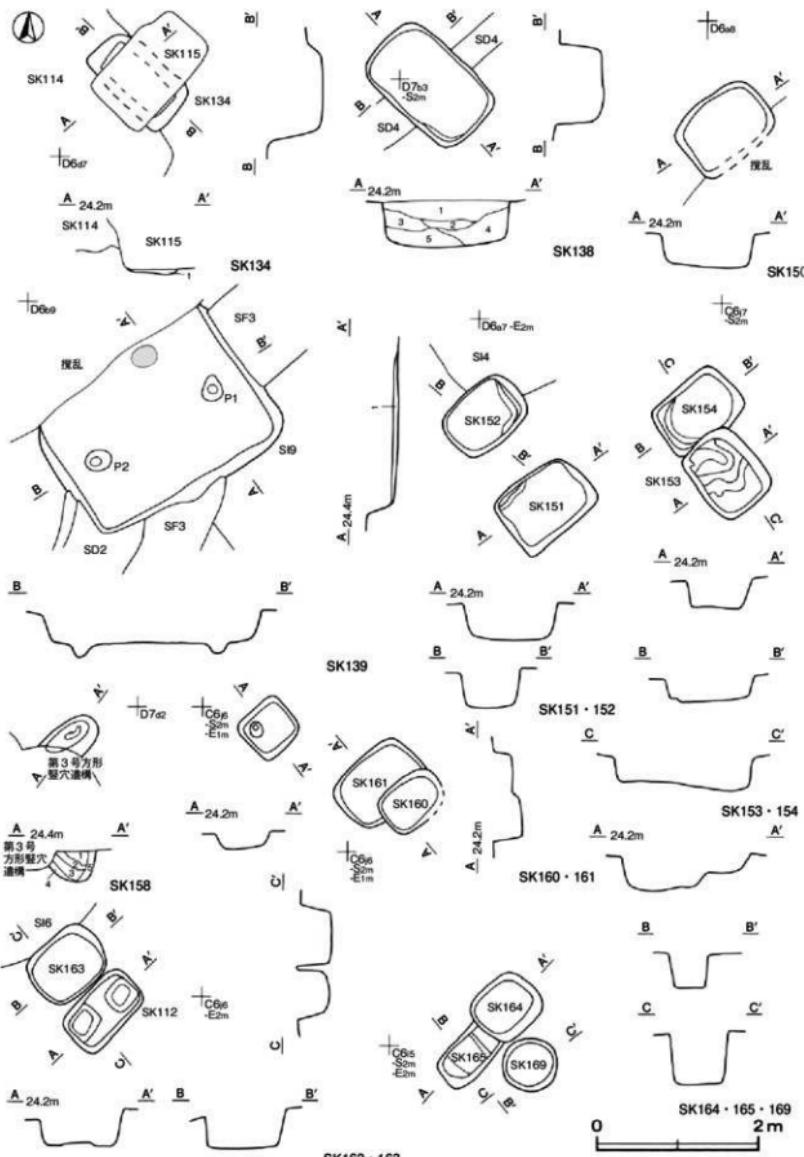
番号	位 置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	C 510	N-55°-E	[長方形]	1.30 × (0.89)	8	平坦	緩斜	自然	縄文土器	本跡→ PG1
10	C 613	N-42°-E	不整円形	1.49 × 1.44	85	平坦	外傾	人骨	縄文土器、網状器、磁器	
11	C 6e3	N-43°-E	稍円形	0.83 × 0.72	48	平坦	外傾	人骨	縄文土器、金属製品	
12	C 6f1	N-57°-E	長方形	1.56 × 0.76	20	平坦	緩斜	人骨	縄文土器、須恵器	
20	C 5e9	N-30°-W	長方形	1.62 × 0.98	17	直状	緩斜	人骨	縄文土器、弥生土器	SI2 → SK67 → 本跡 → SF2
24	C 5g6	N-25°-W	長方形	1.22 × 0.93	14	平坦	外傾	人骨	縄文土器	PG1 → 本跡
25	C 5e0	N-45°-W	[長船型]	(1.15) × 0.89	13	平坦	緩斜	人骨	縄文土器	
28	C 510	N-73°-W	稍円形	2.21 × 1.70	43	平坦	緩斜	人骨	縄文土器、須恵器、貝殻	
58	C 5g8	N-33°-W	長方形	1.34 × 1.10	27	平坦	緩斜	人骨	縄文土器、土器片凹凸	SK62 → 本跡 → PG1
59	C 519	N-11°-W	長方形	1.68 × 1.31	69	平坦	外傾	人骨	縄文土器	PG1 → 本跡
68	C 5h8	N-58°-E	稍円形	2.47 × 1.84	119	平坦	緩斜	人骨	縄文土器、網状器、貝殻	本跡 → SF1
91	C 6d9	-	円形	1.08	94	平坦	直立	人骨	-	本跡 → SD1
93	C 618	N-40°-W	不整円形	1.20 × 1.18	48	平坦	外傾	人骨	磨石	
96	C 6h8	N-53°-E	長方形	0.92 × 0.67	9	直状	緩斜	人骨	縄文土器	
97	C 6g7	-	円形	0.90	46	平坦	外傾	人骨	縄文土器、須恵器	
99	C 6e4	N-48°-W	稍円形	0.72 × 0.63	20	直状	緩斜	人骨	縄文土器、磁器	
104	C 619	-	円形	1.04	43	平坦	外傾	人骨	須恵器	
105	C 6e0	-	円形	1.03	35	平坦	外傾	人骨	土師器	
107	C 7d4	-	円形	1.05	84	平坦	直立	人骨	-	



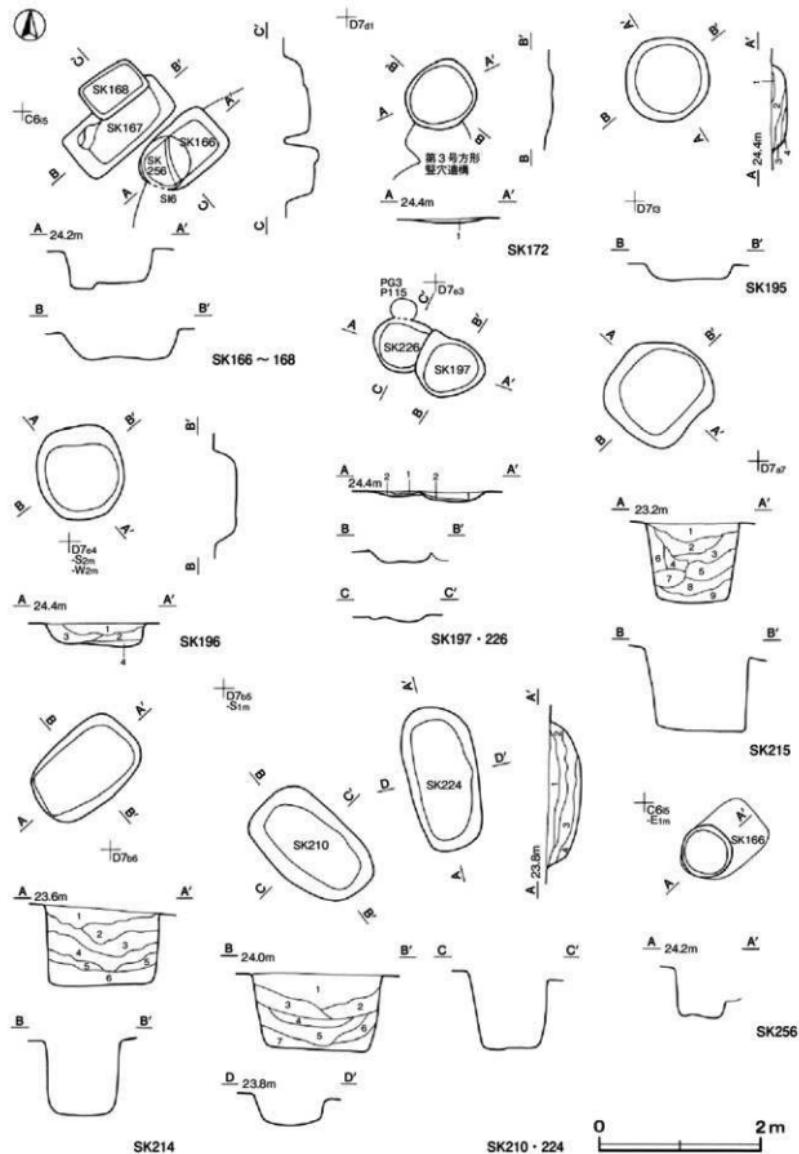
第241図 その他の土坑実測図(1)



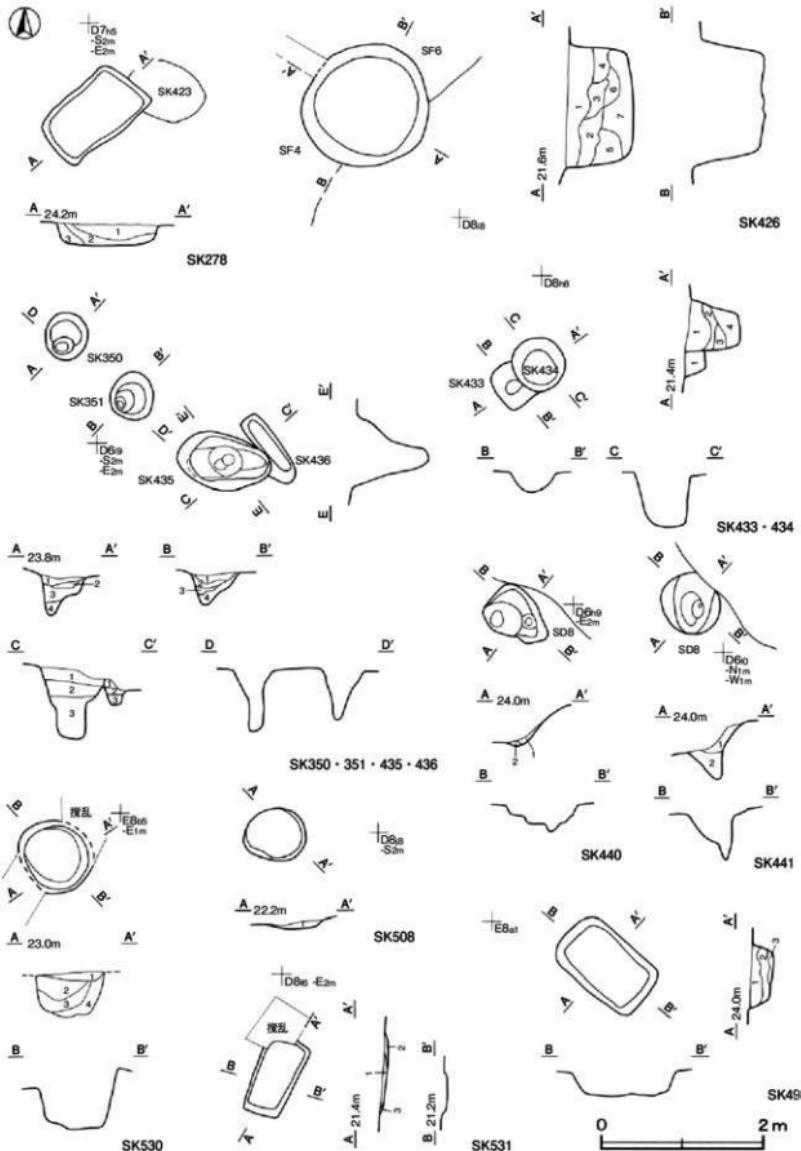
第242図 その他の土坑実測図 (2)

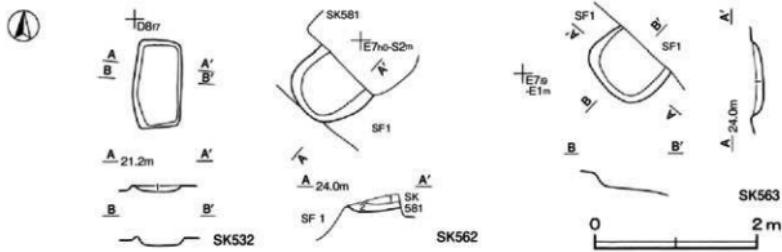


第243図 その他の土坑実測図 (3)



第244図 その他の土坑実測図 (4)





第246図 その他の土坑実測図(6)

番号	位置	長径方向	平面形	規 模			主な出土物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)	底面		
108	C 7f3	-	円形	1.18	51	平坦	外縁 人為	土師器
109	C 7f5	N-10°-E	不整地円形	1.43 × 1.00	34	平坦	緩斜 人為	-
112	C 7h4	-	円形	1.05	84	平坦	直立 人為	繩文土器
113	C 7h4	-	円形	1.00	90	平坦	直立 人為	繩文土器、陶器
114	D 6c6	N-42°-W	長方形	4.07 × 2.22	43	平坦	直立 人為	土師器、陶器、磁器 SF 3 → 本跡 → SK115・134
115	D 6c7	N-35°-E	長方形	1.34 × 0.87	62	平坦	直立 人為	陶器
117	D 6c7	N-44°-W	不整地方形	1.36 × 0.95	84	平坦	外縁 人為	土師器、陶器、繩器
118	C 6g8	N-63°-E	長方形	1.15 × 0.90	54	平坦	外縁 人為	須恵器、灰輪陶器
119	C 6h8	N-57°-E	長方形	1.00 × 0.83	47	平坦	外縁 人為	-
120	C 6g7	-	円形	1.00	43	平坦	直立 人為	-
123	C 6j4	N-25°-W	稍円形	1.44 × 1.12	31	平坦	外縁 人為	繩文土器、瓦質土器
125	C 7h4	N-42°-W	長方形	1.11 × 0.93	48	平坦	外縁 人為	土師器
126	C 7h5	N-55°-E	長方形	1.23 × 0.92	42	平坦	直立 人為	-
127	C 7h5	N-47°-W	長方形	1.14 × 0.96	56	平坦	外縁 人為	骨粉
128	C 7h5	N-43°-W	[長方形]	(1.47) × 0.68	39	平坦	外縁 人為	-
129	C 7h5	N-43°-W	長方形	1.27 × 0.65	30	平坦	直立 人為	土師器、須恵器、土玉
130	C 7h5	N-43°-W	[長方形]	(1.52) × 0.70	52	平坦	外縁 人為	繩文土器
134	D 6c7	N-46°-W	[長方形]	1.25 × (0.72)	19	平坦	外縁 人為	-
138	D 7b3	N-47°-W	長方形	1.56 × 0.97	55	平坦	直立 人為	繩文土器、土師器、須恵器
139	D 6b9	N-55°-E	[長方形]	(2.66) × 1.78	40	平坦	外縁 人為	土師器、須恵器
150	D 6a8	N-50°-E	長方形	1.17 × 0.80	42	平坦	直立 人為	-
151	D 6a7	N-51°-E	長方形	1.15 × 0.80	44	平坦	外縁 人為	-
152	D 6a7	N-49°-E	長方形	1.05 × 0.75	47	平坦	直立 人為	-
153	D 6a7	N-39°-W	長方形	1.05 × 0.82	41	平坦	緩斜 人為	-
154	C 6j6	N-50°-E	長方形	1.05 × 0.77	32	平坦	緩斜 人為	-
158	D 7d1	N-50°-E	[椭円形]	(0.70) × 0.44	40	圓状	外縁 人為	繩文土器、土師器
159	C 6j6	N-47°-E	方形	0.64 × 0.60	19	平坦	外縁 人為	-
160	C 6j6	N-47°-E	稍円形	0.82 × 0.60	38	平坦	直立 人為	-
161	C 6j6	N-48°-E	[長方形]	1.12 × (0.61)	24	平坦	直立 人為	-
162	C 6j6	N-44°-E	長方形	1.02 × 0.61	37	平坦	直立 人為	-
163	C 6j6	N-44°-E	長方形	0.96 × 0.75	44	平坦	直立 人為	-
164	C 6j5	N-41°-E	長方形	0.82 × 0.74	21	平坦	外縁 人為	-
165	C 6j5	N-41°-E	[長方形]	(1.05) × 0.50	42	平坦	外縁 人為	-
166	C 6j5	N-48°-E	長方形	1.14 × 0.74	45	有段	直立 人為	-
167	C 6j5	N-49°-E	長方形	1.40 × 0.70	37	平坦	外縁 人為	-

番号	位置	長径方向	平面形	規 模			底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備 考 重複関係(古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)						
168	C 6 h5	N-55°-E	長方形	0.76 × 0.53	22	平坦	外傾	人為	—	SK167 → 本跡	
169	C 6 i5	—	円形	0.70	63	平坦	直立	人為	—	SI 6 → 本跡	
172	D 7 d1	N-43°-E	楕円形	0.90 × 0.80	7	平坦	緩斜	人為	—	第3号方形堅穴遺構→本跡	
195	D 7 e3	—	円形	1.55	20	平坦	緩斜	人為	縄文土器		
196	D 7 e3	—	円形	1.19	27	平坦	外傾	人為	縄文土器、土師器		
197	D 7 e3	N-79°-W	不整格円形	0.85 × 0.74	12	平坦	外傾	人為	弥生土器	SK226 → 本跡	
210	D 7 b5	N-44°-W	長方形	1.60 × 1.00	94	平坦	直立	人為	瓦器、罐器、陶器		
214	D 7 a5	N-45°-E	長方形	1.40 × 0.93	96	平坦	直立	人為	土師器、陶器、縄文土器、瓦		
215	C 7 j6	N-45°-E	方形	1.27 × 1.15	94	平坦	直立	人為	縄文土器、土師器		
224	D 7 b5	N-14°-W	楕円形	1.80 × 0.87	37	重状	外傾	自然	—		
226	D 7 e2	N-70°-W	(楕円形)	0.62 × (0.60)	6	重状	緩斜	人為	—	本跡→SK197、PG 3	
256	C 6 i5	—	円形	0.65	62	平坦	直立	人為	縄文土器	SK166 → 本跡	
258	C 6 h4	N-45°-E	(長方形)	(0.74) × 0.65	23	平坦	外傾	人為	—	SK229 → 本跡→第3号墓坑	
259	C 6 h4	N-40°-W	(長方形)	0.49 × (0.29)	13	平坦	緩斜	人為	—	本跡→SK258、第3号墓坑	
262	D 6 d5	N-47°-W	長方形	4.35 × 1.97	60	平坦	外傾	人為	土師器、罐器、陶器	SD8 → SF1 → 本跡	
278	D 7 b5	N-47°-E	長方形	1.25 × 0.75	25	平坦	直立	人為	—	SK423 → 本跡	
350	D 6 i9	—	円形	0.59	75	U字形	直立	人為	弥生土器、罐	本跡→SF 1	
351	D 6 i9	N-48°-E	楕円形	0.60 × 0.53	61	平坦	外傾	人為	—	本跡→SF 1	
426	D 8 h7	—	円形	1.64	80	凹凸	外傾	人為	縄文土器、陶器、管状土錐	SF6 → 本跡	
433	D 8 h7	N-40°-W	(長方形)	0.55 × (0.32)	25	重状	緩斜	人為	—	SF6 → 本跡→SK434	
434	D 8 h7	—	円形	0.66	63	平坦	外傾	人為	陶器	SF6 → SK433 → 本跡	
435	D 6 i9	N-82°-W	楕円形	1.16 × 0.78	92	U字形	外傾	人為	弥生土器、罐	SK436 → 本跡→SF1	
436	D 6 i9	N-36°-W	楕円形	0.97 × 0.27	19	平坦	外傾	人為	—	本跡→SK435 → SF1	
440	D 6 i9	N-48°-W	楕円形	0.84 × 0.59	50	凹凸	直立	人為	—	SF1、SD8 → 本跡	
441	D 6 i9	—	円形	0.78	65	凹凸	外傾	人為	—	SF1、SD8 → 本跡	
498	E 8 a1	N-50°-W	長方形	0.93 × 0.80	11	平坦	緩斜	人為	—		
508	D 8 j7	—	円形	0.73	6	平坦	外傾	人為	—		
530	E 8 b5	—	[円形]	0.95	65	平坦	外傾	人為	罐器		
531	D 8 f6	N-22°-E	長方形	0.98 × 0.51	8	平坦	外傾	人為	—		
532	D 8 f7	N-2°-E	長方形	1.06 × 0.58	10	平坦	外傾	人為	—		
562	E 7 h9	N-53°-E	(楕円形)	(0.72) × 0.90	16	平坦	緩斜	人為	—	本跡→SF1、SK581	
563	E 7 h9	N-58°-W	(楕円形)	0.94 × (0.68)	22	平坦	緩斜	人為	—	本跡→SF1	

(8) 溝跡

第1号溝跡 (第247図・付図)

位置 調査区北部のC 5 h9～C 7 c1区にかけて、標高24 mの緩斜面部に位置している。

重複関係 第69～71・73・91号土坑を掘り込み、第8号道路が覆土上面に構築されている。

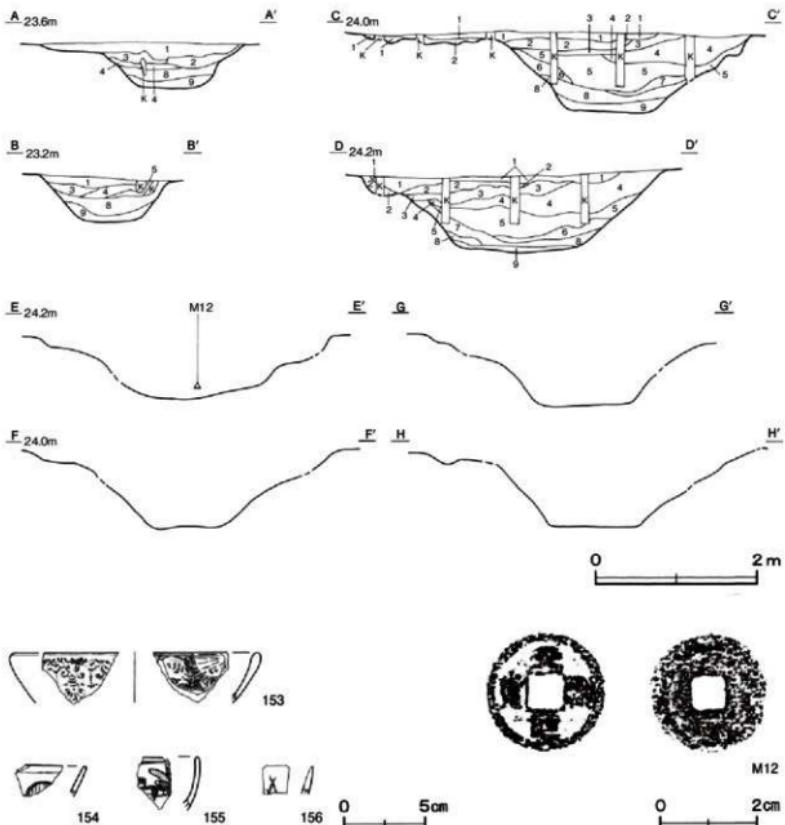
規模と形状 西部はC 5 i9区内で掘り込みが立ち上がる。中央部と東部が調査区域外のため、長さはA区27.20m、C区19.85mしか確認できなかった。N-35°-E方向に直線的に延びている。上幅1.68～3.58 m、下幅0.78～1.68 m、深さは0.53～1.29cmである。C 6 f3区内で北側が一段(約14cm)深く掘り込まれている。断面形は逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックを多く含んでいることから埋め戻されている。第1層上面は硬化していて、後世に道路として使用されている。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子少量	6	褐色	ロームブロック中量、黒色ブロック少量
2	褐色	ロームブロック少量	7	暗褐色	ロームブロック少量
3	褐色	ロームブロック中量、炭化物微量	8	褐色	ロームブロック多量
4	褐色	ローム粒子多量	9	褐色	ロームブロック中量
5	暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量			

遺物出土状況 瓦質土器片 1 点（火鉢）、陶器片 5 点（壺）、磁器片 9 点（碗）、石器 2 点（砥石、不明）が出土している。覆土中層からは馬骨、覆土下層からは陶器片 2 点（壺）が出土している。その他混入した縄文土器片 309 点（深鉢）、土製品 8 点（土器片錐 5、土器片円盤 3）、弥生土器片 2 点（広口壺）、土師器片 62 点（壺 8、壺 54）、須恵器片 12 点（壺 6、高台付壺 1、壺 5）、疊 1 点（瑪瑙）が覆土上層から下層にかけて混在して出土している。153～156 は覆土中、M12 は覆土下層からそれぞれ出土している。



第247図 第1号溝跡・出土遺物実測図

所見 図示できた遺物は、後世に一時的に埋め戻された段階で混入したと考えられ、本跡に伴う遺物は、出土しなかった。その他の細片は周辺の遺構からの流れ込みと考えられる。調査区域内が狭小なため、明確ではないが、遺構の形状や、周辺の井戸跡、土坑の配置から墓域を区画する溝の可能性がある。時期は、下層から出土した遺物と遺構の形状から中世以降と思われる。また、埋め戻された時期は出土磁器から近世後期（19世紀前葉）と思われる。

第1号溝跡出土遺物観察表（第247図）

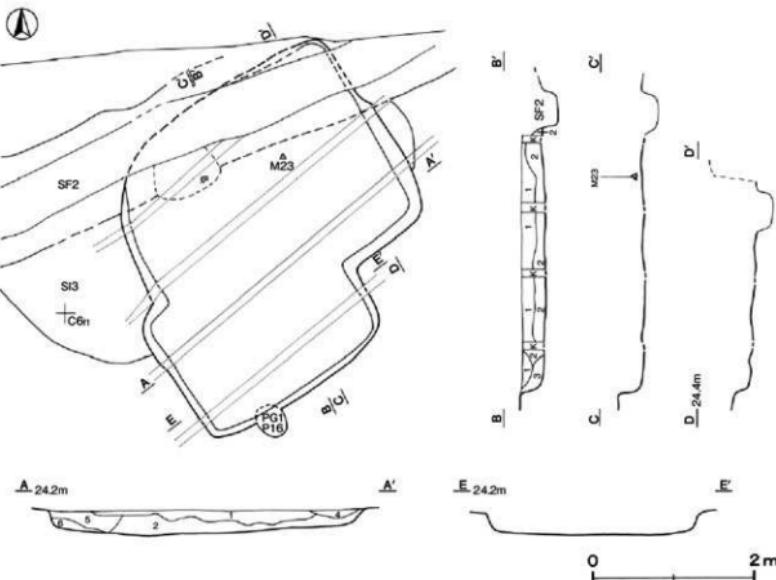
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
153	磁器	鉢	[14.9]	(3.1)	—	緻密	灰白	良好	透明釉 球塔文 印判施付	覆土中	5% PL48
154	磁器	碗	—	(1.9)	—	緻密	白	良好	透明釉 染付 口縁部外面團線文 体部外面丸文	覆土中	5% 覆土PL48
155	磁器	碗	—	(3.2)	—	緻密	灰白	良好	透明釉 色釉 口縁部赤色團線文 体部外面3色（赤青緑）の草花文	覆土中	5% 覆土PL48
156	磁器	碗	—	(1.7)	—	緻密	白	良好	透明釉 施付 草文	覆土中	5% 覆土PL48

番号	銘名	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 12	元祐通寶	244	070	010	2.7	銅	摩滅し判読困難（北宋 1093年）模造銭	覆土下層	PL52

(9) 不明遺構

第1号不明遺構（第248・249図）

位置 調査区北西部のC 6 el 区で、標高 24 m の台地平坦部に位置している。



第248図 第1号不明遺構実測図

重複関係 第3号住居跡を掘り込み、第2号道路、第1号ピット群(P16)に掘り込まれている。

規模と形状 第2号道路に掘り込まれているため、北西・南東軸は3.6mしか確認できなかった。北東・南西軸は3.55mの不定形で、深さは27cmで、壁はやや外傾して立ち上がっている。

床 ほぼ平坦で、硬化面は確認されなかった。

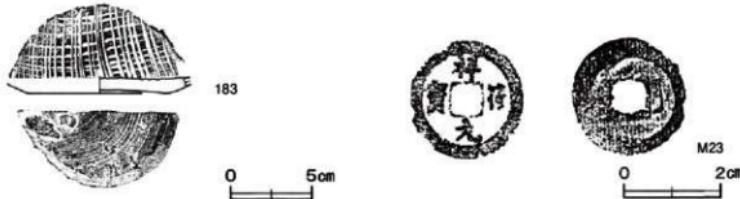
覆土 6層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック・炭化物少量	燒土粒子微量	4 極暗褐色	ロームブロック少量	炭化物微量
2 黒褐色	ロームブロック・粘土ブロック・燒土粒子・炭化物微量	燒土粒子微量	5 黒褐色	ロームブロック少量	炭化物・燒土粒子微量
3 暗褐色	ロームブロック少量、炭化物微量		6 暗褐色	ロームブロック多量	炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、陶器片1点(鉢底)、銅製品1点(錢貨)が出土している。混入した土師器片15点(环3、甕12)、須恵器片2点(环)、剝片1点も出土している。183は覆土中、M23は覆土下層からそれぞれ出土している。その他の土師質土器は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土陶器から中世後期(15世紀後半)に比定できる。



第249図 第1号不明遺構出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表(第249図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
183	陶器	鉢底	-	(10)	8.4	砂質	にじ黄褐色	良好	灰釉 瓢型削鉛糸切り	覆土中	40% 古漁港 PL50

番号	銘名	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M23	祥符元寶	24.4	0.63	0.12	27	銅	(北宋 1009年) 真書 模鍛銭式	覆土下層	

7 その他の遺構と遺物

今回の調査で、遺構に伴う遺物が出土していないことから、時期が明確でない土坑48基、溝跡10条、ピット群6か所、不明遺構1基を確認した。以下遺構と遺構外出土遺物について記述する。

(1) 土坑(第250～253図)

第2号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量

第5号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ローム粒子中量
3 暗褐色 ローム粒子少量
4 黄褐色 ロームブロック中量
5 褐色 ローム粒子多量

第7号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
2 褐色 ロームブロック中量
3 褐色 ローム粒子多量

第13号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、燒土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
2 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物・燒土粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック少量、燒土ブロック・粘土ブロック・炭化物微量
4 黒褐色 ローム粒子少量、粘土ブロック・炭化物・燒土粒子微量
5 黒褐色 ロームブロック中量、粘土ブロック少量、炭化物微量
6 にじ黄褐色 粘土ブロック多量

第 32 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック中量
- 2 黒 色 ロームブロック少量、炭化物・焼土粒子微量
- 3 黒 色 ローム粒子中量
- 4 褐 色 ロームブロック多量

第 55 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック中量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

第 56 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 粘土ブロック・炭化物・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 3 褐 色 ロームブロック多量、炭化物少量、粘土ブロック・焼土粒子微量
- 4 黑 色 炭化物多量、焼土ブロック少量、粘土ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗 赤 褐色 烧土ブロック多量、粘土ブロック・骨片微量

第 63 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黒 褐 色 ローム粒子中量

第 73 号土坑土層解説

- 1 黒 色 ロームブロック少量

第 78 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

第 79 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック・炭化物微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 5 黑 褐 色 ローム粒子少量
- 6 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 7 褐 色 ロームブロック少量
- 8 黑 褐 色 ロームブロック微量
- 9 褐 色 ローム粒子中量

第 86 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量

第 121 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量
- 2 褐 色 ローム粒子多量

第 122 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量
- 2 褐 色 ロームブロック中量、黒褐色土ブロック少量
- 3 褐 色 ロームブロック多量、黒褐色土ブロック微量

第 124 号土坑土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック多量

第 198 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 4 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子少量

第 397 号土坑土層解説

- 1 黒 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 2 黒 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子少量
- 7 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 8 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 9 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子少量

第 439 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック少量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 482 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 2 褐 色 ロームブロック中量
- 3 黑 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子多量
- 5 暗 褐 色 ロームブロック多量
- 6 暗 褐 色 ローム粒子少量

第 542・543 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子少量（第 542 号土坑覆土）
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
- 4 暗 褐 色 ロームブロック中量
- 5 褐 色 ロームブロック中量

第 559 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック・炭化粒子微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック中量

第 560 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム粒子中量

第 561 号土坑土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子微量
- 2 暗 褐 色 ロームブロック微量
- 3 暗 褐 色 ロームブロック少量

第 564 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 砂粒多量、ロームブロック少量
- 2 明 褐 色 ロームブロック多量

第 565 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子多量
- 2 明 褐 色 ロームブロック多量

第 566 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子少量
- 2 明 褐 色 ロームブロック多量

第 567 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子多量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック多量
- 3 明 褐 色 ロームブロック多量

第 568 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック多量

第 569 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ロームブロック中量
- 2 黑 褐 色 ローム粒子多量

第 570 号土坑土層解説

- 1 黑 褐 色 ローム粒子多量
- 2 黑 褐 色 ロームブロック多量

第 571 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
2 黒褐色 ロームブロック少量

第 572 号土坑土層解説

- 1 明褐色 ロームブロック多量
2 黒褐色 ローム粒子少量

第 573 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子多量
2 黒褐色 ローム粒子少量

第 574 号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量

第 575 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子中量
2 明褐色 ロームブロック多量
3 黑褐色 ロームブロック微量

第 576 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量
2 黑褐色 ロームブロック中量
3 明褐色 ロームブロック多量

第 577 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ローム粒子少量
2 明褐色 ロームブロック多量

第 578 号土坑土層解説

- 1 黑褐色 ロームブロック多量
2 明褐色 ロームブロック中量

第 579 号土坑土層解説

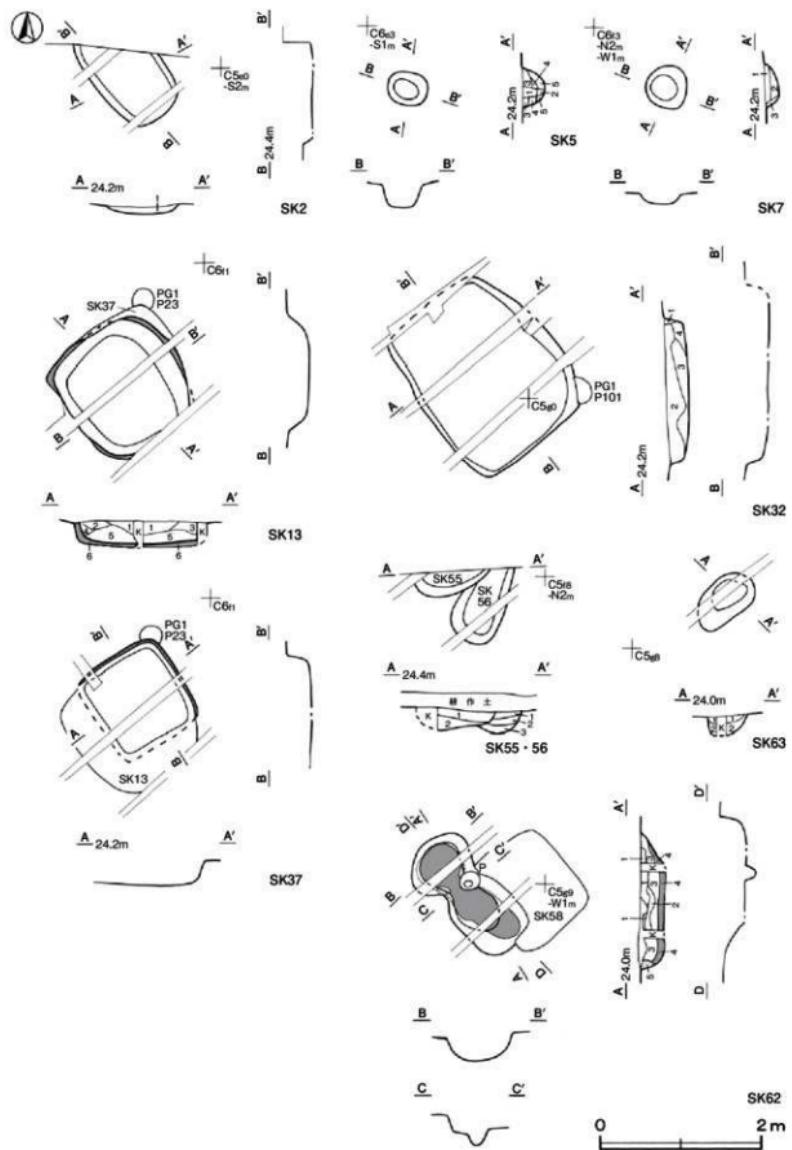
- 1 黑褐色 ローム粒子多量
2 明褐色 ロームブロック多量

第 580 号土坑土層解説

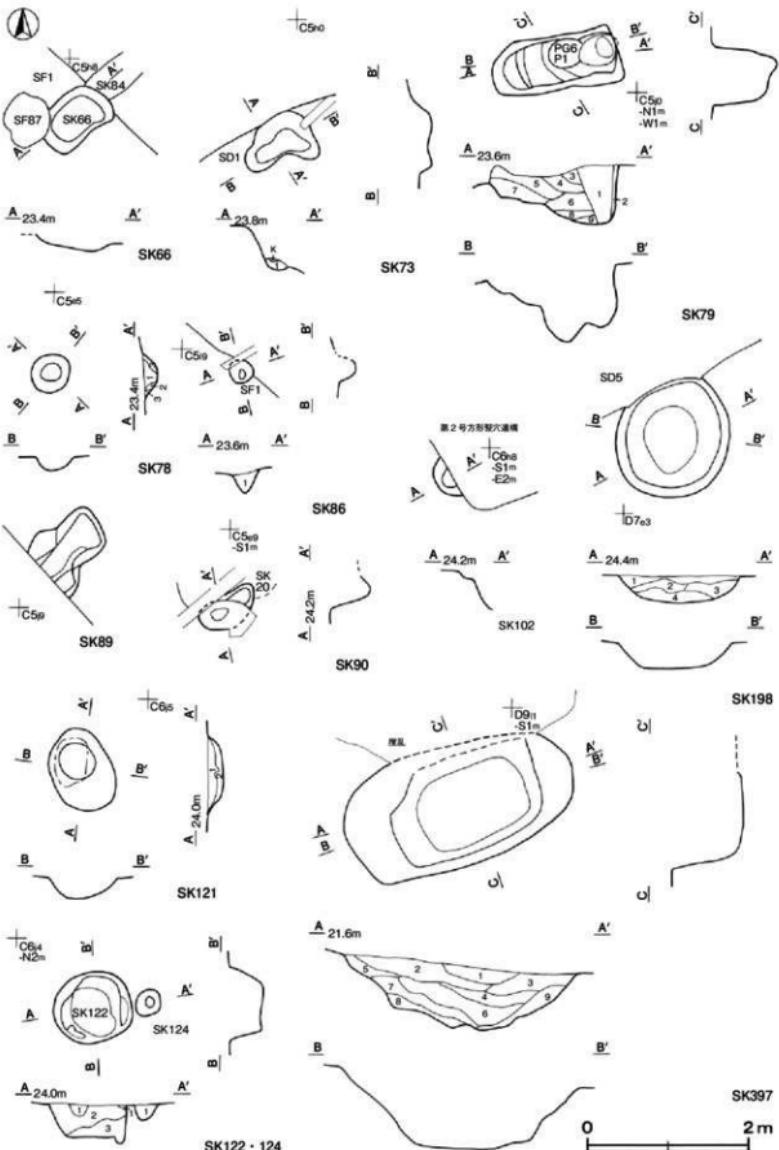
- 1 黑褐色 ローム粒子多量
2 明褐色 ロームブロック多量
3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック中量
5 暗褐色 ロームブロック少量

表 16 時期不明土坑一覧表

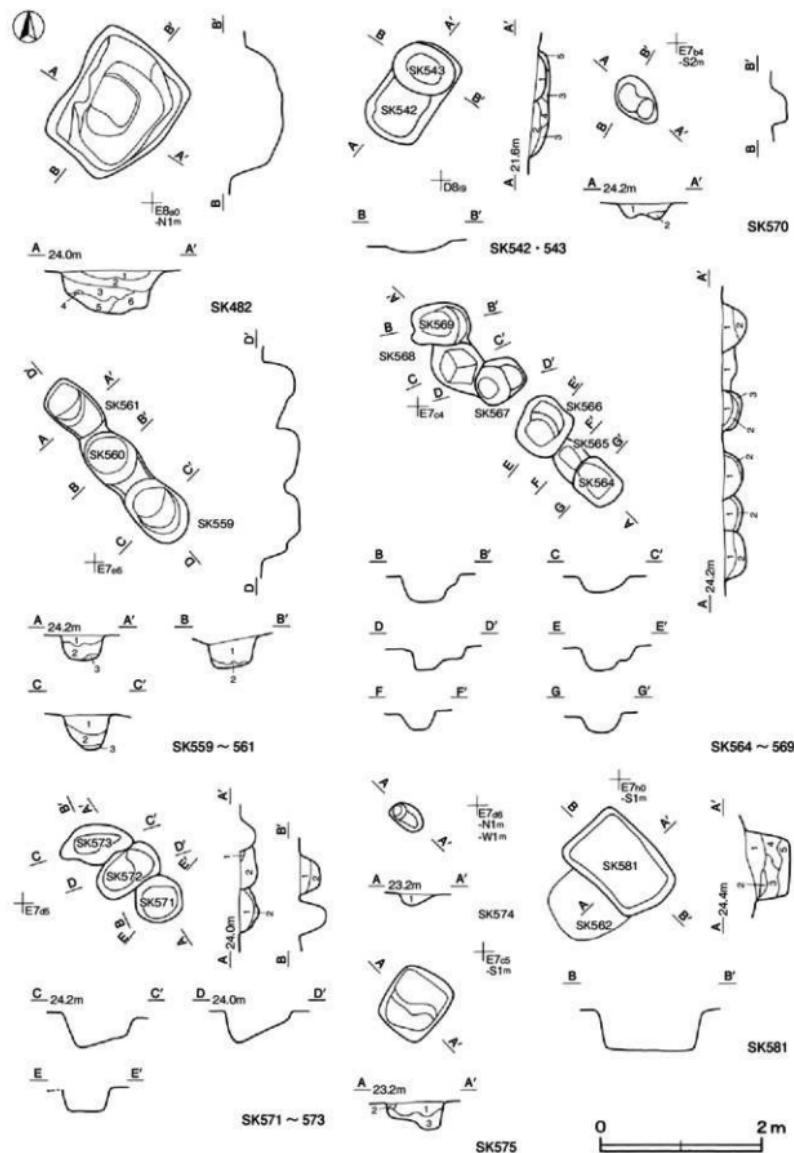
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 (新旧関係 古→新)
				長径 × 短径 (m)	深さ (cm)					
2	C5e9	[N-42°-W]	[楕円形]	(1.01) × 0.79	10	被斜	平坦	自然	縄文土器	
5	C6e2	N-72°-W	楕円形	0.50 × 0.43	30	外傾	平坦	人為	縄文土器	
7	C6e2	-	円形	0.52	16	被斜	圓狀	人為	-	
13	C5f0	N-38°-W	[方形]	(1.47) × 1.44	28	被斜	平坦	人為	縄文土器	SK37 → 本跡
32	C5g9	N-38°-W	長方形	(2.03) × 1.30	28	直立	平坦	人為	縄文土器	本跡 → PG1
37	C5f0	N-33°-W	方形	1.20 × 1.14	33	外傾	平坦	-	縄文土器、須恵器	PG1 → 本跡 → SK13
55	C5e7	-	[楕円形]	(0.96) × (0.30)	25	被斜	平坦	人為	-	SK56 → 本跡
56	C5e7	[N-17°-E]	[長方形]	(0.95) × 0.61	25	被斜	平坦	人為	-	本跡 → SK55
62	C5g8	N-45°-W	不整地円形	1.66 × 0.86	28	外傾	平坦	人為	縄文土器、骨粉	本跡 → SK58
63	C5g8	N-49°-E	楕円形	0.83 × 0.49	25	外傾	圓狀	人為	縄文土器	
66	C5h8	N-49°-E	長方形	0.89 × 0.58	12	外傾	平坦	-	-	SK84 → 本跡 → SK87, SF1
73	C5h9	N-57°-E	不整地円形	0.91 × 0.40	25	被斜	平坦	人為	縄文土器	SD1 → 本跡
78	C5e4	-	円形	0.46	18	被斜	圓狀	人為	-	
79	C5g9	N-76°-E	長方形	1.56 × 0.65	49	内傾	凸凹	人為	縄文土器、須恵器、土器片鱗	PG6 → 本跡
86	C5g9	-	[円形]	0.30 × (0.27)	26	外傾	圓狀	人為	-	本跡 → SF1
89	C5g9	N-45°-E	不定形	(0.92) × 0.58	-	-	-	-	-	
90	C5e9	N-58°-W	楕円形	0.76 × 0.40	35	外傾	圓狀	-	-	SK21 → 本跡
102	C6b8	N-27°-W	[円・楕円形]	(0.56) × (0.22)	10	被斜	平坦	-	-	本跡 → 第 2 号方形堅穴道構
121	C6d4	N-21°-W	楕円形	1.02 × 0.74	26	被斜	平坦	人為	-	
122	C6d4	N-70°-E	楕円形	0.98 × 0.87	41	外傾	平坦	人為	針	
124	C6d4	-	円形	0.32	18	被斜	U字	人為	-	
198	D7d3	-	円形	1.55	31	被斜	平坦	人為	縄文土器	本跡 → SD6
297	D8b0	N-68°-E	楕円形	2.95 × (1.56)	95	直立	平坦	人為	-	SI26 → 本跡
439	D6b9	N-89°-W	楕円形	1.50 × 1.30	32	外傾	平坦	人為	罐、骨粉	第 2 号墓坑 → SD10 → 本跡、SF1
482	D8b9	N-40°-E	不整長方形	1.65 × 1.32	56	被斜	圓狀	人為	縄文土器	
542	D8b8	N-63°-W	長方形	1.31 × 0.73	20	被斜	圓狀	人為	-	本跡 → SK543
543	D8b8	N-63°-W	楕円形	0.77 × 0.62	10	被斜	圓狀	自然	-	SK542 → 本跡
559	E7d6	N-39°-W	楕円形	0.85 × 0.61	43	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK560
560	E7d6	N-39°-W	楕円形	0.67 × 0.59	33	外傾	平坦	人為	-	SK559 → 本跡 → SK561
561	E7d5	N-39°-W	楕円形	0.75 × 0.51	32	外傾	平坦	人為	-	SK560 → 本跡
564	E7c4	N-45°-W	楕円形	0.59 × 0.48	22	被斜	平坦	人為	-	SK565 → 本跡
565	E7c4	N-45°-W	[楕円形]	(0.34) × 0.42	21	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK564 → 566



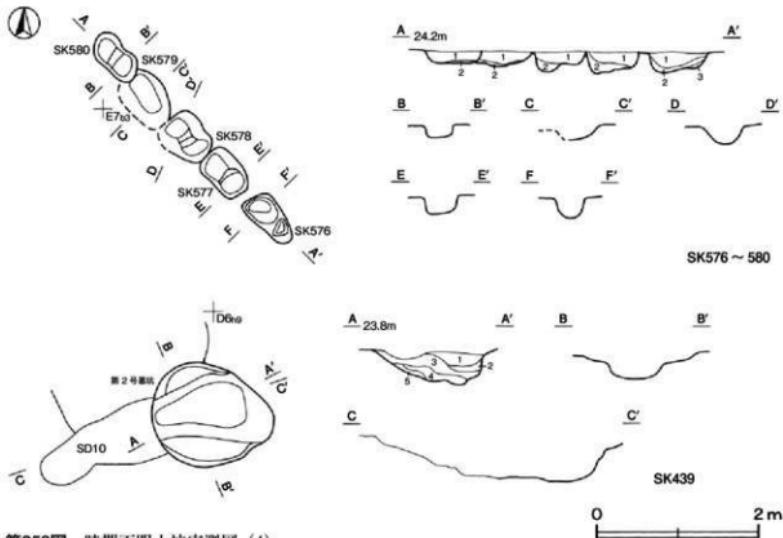
第250図 時期不明土坑実測図（1）



第251図 時期不明土坑実測図(2)



第252図 時期不明土坑実測図（3）



第253図 時期不明土坑実測図(4)

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備 (新旧関係 古→新)
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
566	E7e4	-	円形	0.68	29	外傾	平坦	人為	-	SK566 → 本跡
567	E7b4	N-50°-E	不整規円形	0.63 × 0.55	23	直立	階段	人為	-	SK568 → 本跡
568	E7b4	[N 32°-W]	(椭円形)	(0.74) × 0.60	19	外傾	平坦	人為	-	SK569 → 本跡 → SK567・569
569	E7b4	N-85°-E	不整規円形	0.70 × 0.51	32	外傾	平坦	人為	-	SK568 → 本跡
570	E7b3	N-47°-E	椭円形	0.67 × 0.44	15	外傾	凸凹	人為	-	
571	E7e4	-	円形	0.60	27	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK572
572	E7e4	N-49°-E	(椭円形)	0.86 × (0.48)	37	外傾	平坦	人為	-	SK571 → 本跡 → SK573
573	E7e4	N-25°-E	椭円形	0.85 × 0.51	40	外傾	平坦	自然	-	本跡 → SK572
574	E7e5	N-36°-W	椭円形	0.42 × 0.27	13	級斜	直狀	自然	-	
575	E7b5	N-36°-E	長方形	0.86 × 0.73	32	外傾	階段	人為	-	
576	E7b3	N-45°-W	椭円形	0.72 × 0.35	25	直立	凸凹	人為	-	
577	E7b3	N-43°-W	椭円形	0.64 × 0.42	27	外傾	階段	人為	-	
578	E7b3	N-43°-W	椭円形	0.65 × 0.53	24	外傾	凸凹	人為	-	
579	E7b3	[N 36°-W]	(椭円形)	(0.70) × (0.52)	20	級斜	平坦	人為	-	本跡 → SK580
580	E7a2	N-39°-W	不整規円形	0.69 × 0.35	16	直立	階段	人為	-	SK579 → 本跡
581	E7h0	N-43°-W	長方形	1.31 × 0.85	49	外傾	平坦	人為	-	SF1, SK562 → 本跡

(2) 溝跡

時期及び性格不明な溝跡 10 条について記述し、土層断面を掲載する。なお、平面図は遺構全体図に示すことをとする。

第2号溝跡 (第254図・付図)

位置 調査区西部の D 6 b8 ~ D 6 c8 区にかけての、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号道路跡と第139号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北側は現代の搅乱坑に掘り込まれているため、長さ 6.00 m しか確認できなかった。南西部は

D 6c7 区で止まっている。上幅 0.45 ~ 0.90 m、下幅 0.17 ~ 0.54 m、南西方向 (N - 115° - W) に曲線状に延び、深さは 18 ~ 30 cm である。断面形は逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。

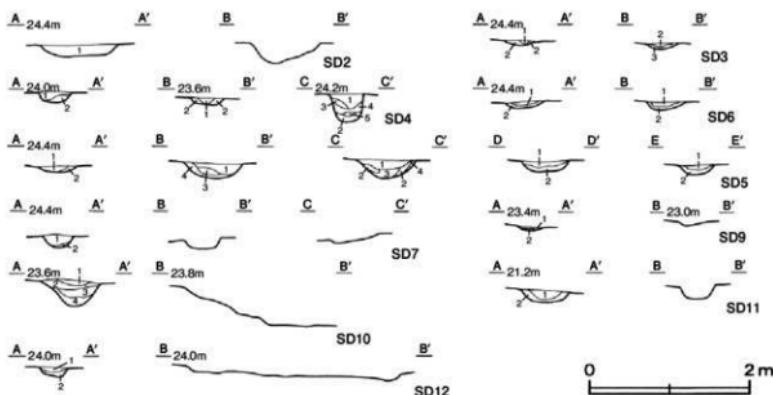
覆土 単一層である。締まりが弱く、周囲からの土の流入を示しており、自然堆積である。

土層解説

1 細褐色 ローム粒子少量

遺物出土状況 覆土中から土師質土器片 1 点 (鉢)、陶器片 3 点 (碗、擂鉢、徳利) が出土している。流れ込んだ縄文土器片 9 点 (深鉢)、土師器片 14 点 (杯 11、甕 3)、須恵器片 9 点 (杯 5、蓋 1、甕 3) が出土している。本跡に伴うと思われる土師質土器と陶器は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は出土遺物が細片のため明確でないが、第 3 号道路跡、第 139 号土坑を掘り込んでいることから、近世後期以降と思われる。



第254図 第 2 ~ 7・9~12号溝跡実測図

第3号溝跡 (第 254 図・付図)

位置 調査区西部の D 6d9 区で、標高 24 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 10 号住居跡を掘り込み、第 3 ~ 5 号掘立柱建物、第 2 号火葬土坑と第 2 号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 南西部を第 2 号火葬土坑、北東部を第 2 号ピット群に掘り込まれているため、長さ 5.20 m、上幅 0.25 ~ 0.44 m、下幅 0.15 ~ 0.31 m しか確認できなかった。北東方向 (N - 28° - E) へ直線状に延び、深さは 8 cm である。断面形は浅い U 字形で、壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 3 層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 細褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 細褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

3 細褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 混入した縄文土器片 1 点 (深鉢)、土師器片 1 点 (甕) が覆土中から出土している。

所見 時期は本跡に伴う遺物がないため不明であるが、縄文時代の第 10 号住居跡を掘り込み、中世・近世の第 2 号火葬土坑と第 2 号ピット群 (P19) に掘り込まれていることから、その間に存在した遺構であると思われる。

第4号溝跡（第254図・付図）

位置 調査区中央部のC 7 16～D 7 c1区にかけての、標高22.1～24.0mの台地平坦部から緩斜面部にかけて位置している。

重複関係 第6号掘立柱建物、第138号土坑、第5号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長さ28.70m、上幅0.32～0.46m、下幅0.16～0.38mである。北東部はC 7 16区で掘り込みが止まり、南西部は鉤の手状に延び、D 7 c1区で止まっている。北東方向（N-50°-E）へ直線状に延び、深さは18～36cmである。断面形はU字形で、壁は直立している。

覆土 5層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 細 色 ローム粒子・炭化粒子少量	4 層 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 黒 細 色 ロームブロック中量、炭化物微量	5 層 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 暗 細 色 ロームブロック中量、炭化物微量	

遺物出土状況 混入した縄文土器片6点（深鉢）、土師器片4点（环1、甕3）、須恵器片1点（环）が覆土中から出土している。

所見 時期は本跡に伴う遺物がないため明確でないが、第138号土坑に掘り込まれていることから中・近世以前と思われる。性格は第5号溝跡と並行していることから、道路の側溝か区画溝と思われる。

第5号溝跡（第254図・付図）

位置 調査区中央部のD 6 19～D 7 c3区にかけての、標高23.1～24.0mの台地平坦部から緩斜面部にかけて位置している。

重複関係 第13号住居跡、第4号方形堅穴遺構、第175・198・202号土坑を掘り込み、第6号溝、第3号ピット群に掘り込まれている。

規模と形状 長さ24.20m、上幅0.40～0.84m、下幅0.14～0.50mで、北東部はD 7 c3区で掘り込みが止まり、南西部はD 6 19区で止まっている。北東方向（N-58°-E）に直線状に延び、深さは10～22cmである。断面形は浅いU字形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 細 色 ローム粒子少量	3 层 色 ロームブロック中量、黒色ブロック少量
2 暗 細 色 ロームブロック少量	4 層 細 色 ロームブロック少量

遺物出土状況 覆土中から混入した縄文土器片36点（深鉢）、土師器片14点（环4、小皿1、甕9）が出土している。

所見 時期は本跡に伴う遺物がないため明確でないが、第4号方形堅穴遺構を掘り込んでいることから近世以降と思われる。性格は第4号溝跡と並行していることから、道路の側溝か区画溝と思われる。

第6号溝跡（第254図・付図）

位置 調査区南西部のD 6 19～D 7 i2区にかけての、標高24mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第5号溝跡を掘り込み、第7号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状 長さ15.70m、上幅0.30～0.45m、下幅0.14～0.30mで、北西部はD 6 19区で掘り込みが止まり、南東部はD 7 i1区で止まっている。北西方向（N-48°-W）に直線状に延び、深さは6～14cmである。断面形は浅いU字形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1 黒 色 ロームブロック多量

2 黒 褐 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 覆土中から、混入した縄文土器片 11 点（深鉢）が出土している。**所見** 時期は本跡に伴う遺物がないため明確でないが、第 5 号溝跡を掘り込んでいることから、近世以降と思われる。**第 7 号溝跡**（第 254 図・付図）**位置** 調査区南西部の D 6 a2 ~ D 6 h9 区にかけての、標高 24 m の台地平坦部に位置している。**重複関係** 第 1 号道路跡を掘り込み、第 262 号土坑、第 3 号道路に掘り込まれている。**規模と形状** 長さ 44.4 m、上幅 0.34 ~ 0.65 m、下幅 0.06 ~ 0.32 m で、南東部は D 6 h9 区で掘り込みが止まっている。北西方向（N - 48° - W）に直線状に延び、深さは 12 ~ 16 cm である。断面形は浅い U 字形で、壁は外傾して立ち上がっている。**覆土** 2 層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。**土層解説**

1 黒 褐 色 ロームブロック少量、炭化物微量

2 褐 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 覆土中から磁器 2 点（徳利カ）が出土している。混入して、縄文土器片 7 点（深鉢）、土師器片 4 点（壺）、須恵器片 2 点（壺）も出土している。**所見** 時期は出土磁器が細片のため明確でないが、第 1 号道路跡を掘り込んでいることから、近世後期以降と思われる。**第 9 号溝跡**（第 254 図・付図）**位置** 調査区の南東部 D 8 h2 ~ D 8 i1 区にかけて、標高 23 m の台地緩斜面部に位置している。**重複関係** 第 24・25 号住居跡を掘り込んでいる。**規模と形状** 北東部が後世の削平により、長さ 7.50 m しか確認できなかった。上幅 0.24 ~ 0.35 m、下幅 0.15 ~ 0.21 m、北東方向（N - 25° - E）に直線状に延び、深さは 4 ~ 6 cm である。断面形は浅い U 字形で、壁は外傾して立ち上がっている。**覆土** 2 層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。**土層解説**

1 黒 褐 色 ロームブロック少量

2 褐 褐 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 混入した土師器片 1 点（甕）が覆土中から出土している。**所見** 時期は本跡に伴う遺物がないため明確でないが、形状や覆土の状況が他の溝跡と似ていることから、近世以降と思われる。**第 10 号溝跡**（第 254 図・付図）**位置** 調査区南西部の D 6 h8 区で、標高 24 m の台地平坦部に位置している。**重複関係** 第 2 号墓坑を掘り込み、第 1 号道路、第 439 号土坑に掘り込まれている。**規模と形状** 長さは 1.50 m しか確認できなかった。上幅 0.45 ~ 0.74 m、下幅 0.07 ~ 0.11 m、南西方向（N - 117° - W）に直線状に延び、深さは 9 ~ 32 cm である。断面形は浅い U 字形で、壁は外傾して立ち上がる。

覆土 4層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。第1・2層は、硬くしまっている。

土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック少量
2	暗	褐	色	ロームブロック中量

3	褐	色	ロームブロック多量
4	褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況 混入した縄文土器片1点(深鉢), 土師器片2点(甕)が出土しているが、細片のため、図示できなかった。

所見 時期は本跡に伴う遺物がないため明確でないが、第1号道路に掘り込まれていることから、近世(17世紀後半)以前と思われる。

第11号溝跡(第254図・付図)

位置 調査区北東部のD 8c4区で、標高22mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第480号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びるため、長さ2.95mしか確認できなかった。上幅0.25~1.00m、下幅0.20~0.87m、北東方向(N-10°-E)に直線状に延び、深さは14~18cmである。断面形は浅いU字形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量
---	---	---	---	---------

2	褐	色	ロームブロック中量、黒色ブロック少量
---	---	---	--------------------

遺物出土状況 磁器片1点(碗カ), 瓦片1点(平瓦カ)が覆土中から出土している。その他混入した縄文土器片3点(深鉢), 土師器片3点(甕1, 甕2)も出土している。

所見 出土遺物が細片のため明確でないが、他の溝跡の覆土状況と似ていることから、近世以降と思われる。

第12号溝跡(第254図・付図)

位置 調査区南東部のD 719区で、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長さ2.50m、上幅0.30m、下幅0.20mで、南西方向(N-155°-W)に直線状に延び、深さは18~30cmである。断面形は逆台形で、壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量
---	---	---	---	---------

2	褐	色	ロームブロック少量
---	---	---	-----------

所見 時期は出土遺物がないため明確でないが、他の溝跡の覆土状況と似ているところから、近世以降と思われる。

表17 その他の時代溝跡一覧表

番号	位 置	方 向	形 状	規 模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複関係(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
2	D 6b8~D 6e8	N-115°-W	弧状	(6.00)	0.45~0.90	0.17~0.54	18~30	逆台形	外傾	自然	土師質土器、陶器	SF10、SK139→本跡
3	D 6d9	N-28°-E	直線状	(5.20)	0.25~0.44	0.15~0.31	8	浅いU字形	外傾	人為	縄文土器、土師器	SK10→本跡→第5、PC2 砂十坑、SK3~5、PC2
4	C 716~D 7c1	N-50°-E	直線状	28.70	0.32~0.46	0.16~0.38	18~36	U字形	直立	人為	縄文土器、土師器、黑漆器	SK139→PG5 SK139→PG5
5	D 6b9~D 7c3	N-58°-E	直線状	24.20	0.40~0.84	0.14~0.50	10~22	浅いU字形	外傾	人為	縄文土器、土師器	SK139→PG5 SK139→PG5→SK139 SK139→PG5→SK139 SK139→PG5→SK139

番号	位置	方向	形状	規 模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考 重複開発(古→新)
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
6	D 69～D 72	N-48°-W	直線状	15.7	0.30～ 0.45	0.14～ 0.20	6～14	浅い U字形	外傾	人為	縄文土器	SD5→本跡→SB7
7	D 6a2～D 6a9	N-48°-W	直線状	(44.4)	0.34～ 0.65	0.06～ 0.32	12～16	浅い U字形	外傾	人為	縄文土器, 土師器 磁器, 陶器	SF1→本跡→SK262, SF3
9	D 8b2～D 8d1	N-25°-E	直線状	(7.50)	0.24～ 0.35	0.15～ 0.21	4～6	浅い U字形	外傾	人為	土師器	SI24～25→本跡
10	D 6a8	N-117°-W	直線状	(15.0)	0.45～ 0.74	0.07～ 0.11	9～32	浅い U字形	外傾	人為	縄文土器, 土師器 瓦	第2号墓坑→本跡 →SF1, SK439
11	D 8c4	N-10°-E	直線状	(29.5)	0.25～ 1.00	0.20～ 0.87	14～18	浅い U字形	外傾	人為	縄文土器, 瓦器 瓦, 土師器	本跡→SK480
12	D 79	N-155°-W	直線状	2.50	0.30	0.20	18～30	逆台形	外傾	人為		

(3) ピット群

第1号ピット群(付図)

調査区北西部B 4g6～C 6e3区にかけての標高24mの台地平坦部に位置している。東西31m、南北20mの範囲から柱穴状のピット113か所を確認した。平面形は長径20～63cmの円形または楕円形で、深さは4～72cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。縄文土器片や、磁器片、土製品(土器片錐)が出土しているピットもあるが、時期・性格ともに不明である。

表18 第1号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	平面形	規 模(cm)			ピット番号	位置	平面形	規 模(cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	長軸(径) × 短軸(径)	深さ			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	
1	C 6e4	円形	44×40	30	28	C 5d0	楕円形	36×31	36		
2	C 6e4	楕円形	48×34	44	29	C 5d0	円形	30×28	26		
3	C 6e4	楕円形	42×34	20	30	C 5e0	円形	22×20	15		
4	C 6e5	[円形]	[30]	40	31	C 6e0	楕円形	32×32	46		
5	C 6e4	円形	34×32	12	32	C 5g0	楕円形	32×24	35		
6	C 6e4	楕円形	40×28	35	33	C 5g0	楕円形	30×26	7		
7	C 6e4	長方形	38×32	50	34	C 5g0	楕円形	36×28	27		
8	C 6e3	楕円形	63×30	27	35	C 5g0	円形	32×31	5		
9	C 6e3	円形	20×18	10	36	C 5g9	楕円形	46×38	10		
10	C 6e3	楕円形	38×35	10	37	C 5g9	[楕円形]	36×[36]	9		
11	C 6e3	楕円形	48×40	10	38	C 5g9	楕円形	40×36	10		
12	C 6e3	楕円形	44×38	13	39	C 5g9	楕円形	46×31	50		
13	C 6f2	不定形	42×24	40	40	C 5g9	楕円形	32×[26]	23		
14	C 6f1	円形	30×28	4	41	C 5g9	楕円形	29×23	25		
15	C 6f1	円形	30	8	42	C 5g9	[円形]	33×[16]	30		
16	C 6f1	[楕円形]	34×(32)	19	43	C 5g9	楕円形	44×34	47		
17	C 6f1	楕円形	39×30	35	44	C 5g9	楕円形	30×24	22		
18	C 6f1	円形	30×27	18	45	C 5g0	楕円形	32×28	53		
19	C 5f0	楕円形	30×27	25	46	C 5g0	円形	36	13		
20	C 5f0	楕円形	29×8	31	47	C 5g9	楕円形	40×32	17		
21	C 5f0	円形	32×28	14	48	C 5g9	円形	28×25	40		
22	C 5f0	[楕円形]	40×(33)	72	49	C 5g9	円形	40	9		
23	C 5f0	円形	30	12	50	C 5g9	楕円形	33×24	35		
24	C 6f1	円形	34×30	19	51	C 5g9	楕円形	38×30	31		
25	C 6f1	楕円形	30×22	10	52	C 5g9	[方形]	24×24	28		
26	C 6f1	楕円形	28×22	7	53	C 5g9	楕円形	48×38	50		
27	C 6f1	楕円形	34×30	6	54	C 5g9	楕円形	24×20	23		

ビット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	
55	C 5g9	楕円形	32 × 28	42	
56	C 5g9	楕円形	50 × 33	9	
57	C 5g9	楕円形	52 × 36	55	
58	C 5g9	楕円形	40 × 28	20	
59	C 5g8	楕円形	29 × 22	25	
60	C 5g8	楕円形	30 × 24	13	
61	C 5g8	円形	33 × 32	28	
62	C 5g8	楕円形	35 × 26	15	
63	C 5g8	円形	32 × 30	40	
64	C 5g9	円形	20	25	
65	C 5g8	円形	30 × 25	13	
66	C 5g8	楕円形	34 × 27	19	
67	C 5g8	円形	26 × 24	16	
68	C 5g7	楕円形	30 × 26	18	
69	C 5g7	楕円形	30 × 20	21	
70	C 5g8	長方形	24 × 20	25	
71	C 5g8	(楕円形)	(22) × 20	14	
72	C 5e8	楕円形	46 × 30	47	
73	C 5g9	楕円形	40 × 26	15	
74	C 5g9	(円形)	28 × (18)	26	
75	C 5g8	円形	24 × 22	10	
76	C 5g8	円形	40 × 36	46	
77	C 5g7	楕円形	26 × 20	17	
78	C 5g9	楕円形	30 × 22	6	
79	C 5g7	楕円形	38 × 26	22	
80	C 5e8	楕円形	38 × 26	43	
81	C 5e9	楕円形	44 × 30	18	
82	C 5e9	円形	30 × 28	15	
83	C 5e9	円形	26 × 24	35	
84	C 6g2	楕円形	25 × 19	26	
85	C 6g2	円形	20 × 18	17	
86	C 5e8	円形	40	34	
87	C 5e9	楕円形	26 × 22	29	
88	C 5e8	楕円形	26 × 22	20	
89	C 5g0	(楕円形)	34 × (20)	18	
90	C 5g0	(円形)	34 × (28)	37	
91	C 5g0	楕円形	30 × 24	6	
92	C 5g8	(楕円形)	(43) × 40	26	
93	C 5e0	(楕円形)	(28) × 22	39	
94	C 6e1	円形	24	35	
95	C 6g3	楕円形	26 × (20)	17	
96	C 5g9	楕円形	49 × 32	38	
97	C 5g0	不整楕円形	50 × 30	46	
98	C 5g0	楕円形	42 × 36	38	
99	C 5g0	円形	31	20	
100	C 5g0	楕円形	30 × 20	15	
101	C 5g9	楕円形	29 × 24	29	
102	C 5g9	楕円形	44 × 28	25	
103	C 5e9	楕円形	30 × 26	39	
104	C 6g2	(楕円形)	(36) × 32	34	
105	B 4g6	円形	33 × 31	19	
106	B 4g6	(方形)	24 × (13)	4	
107	B 4g7	楕円形	22 × 19	13	
108	B 4g7	楕円形	27 × 21	4	
109	B 4g7	楕円形	30 × 27	7	
110	B 4g7	楕円形	(55) × 45	28	
111	B 4g6	(楕円形)	29 × (13)	6	
112	B 4g7	円形	53	4	
113	B 4g7	(楕円形)	26 × (10)	4	

第2号ビット群(付図)

調査区北西部C 6g7 ~ C 6j9区にかけての標高24mの台地平坦部に位置している。東西14m、南北8mの範囲から柱穴状のビット17か所を確認した。平面形は長径19~41cmの円形または楕円形で、深さは11~47cmである。ビットの分布状況から建物跡は想定できない。縄文土器片、土師器片、須恵器片が出土しているビットもあるが、時期・性格ともに不明である。

表19 第2号ビット群ビット一覧表

ビット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	
1	C 6g7	円形	37 × 19	22	
2	C 6g7	(不整楕円形)	32 × (29)	13	
3	C 6g7	楕円形	29 × 26	41	
4	C 6g7	円形	20	24	
5	C 6h7	楕円形	29 × 21	22	
6	C 6h7	楕円形	19 × 17	11	
7	C 6h7	円形	19	12	
8	C 6h7	楕円形	41 × 37	30	

ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	
9	C 6g7	円形	29 × 28	22	
10	C 6g7	[円形]	28 × (14)	14	
11	C 6h7	円形	34 × 32	47	
12	C 6j8	楕円形	38 × 24	14	
13	C 6j9	円形	25	31	

ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	
14	C 6j9	円形	27 × 26	31	
15	C 6j8	楕円形	29 × 25	18	
16	C 6j8	円形	24 × 23	16	
17	C 6j8	円形	27	24	

第3号ピット群 (付図)

調査区西部D 6f8～D 7j3区にかけての標高24mの台地平坦部に位置している。東西24m、南北16mの範囲から柱穴状のピット137か所を確認した。平面形は長径16～61cmの円形や楕円形、隅丸長方形などで、深さは6～59cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。縄文土器片、弥生土器片、土師器片や須恵器片が出土しているピットもあるが、時期・性格とともに不明である。

表20 第3号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ	
1	D 6e8	[円形]	(29)	29	
2	D 6e8	円形	26 × 25	28	
3	D 6e8	円形	20 × 19	6	
4	D 6e8	楕円形	25 × 20	23	
5	D 6e9	楕円形	29 × 25	34	
6	D 6e9	不定形	38 × 22	29	
7	D 6e9	円形	25 × 24	24	
8	D 6e9	楕円形	22 × 20	17	
9	D 6e8	[楕円形]	(46 × 31)	27	
10	D 6e9	円形	27 × 25	45	
11	D 6e9	楕円形	28 × 25	48	
12	D 6e9	円形	19 × 18	13	
13	D 6e9	円形	23 × 21	16	
14	D 6e9	隅丸長方形	22	10	
15	D 6e9	楕円形	28 × 23	30	
16	D 6e9	楕円形	27 × 23	21	
17	D 6e9	円形	25 × 24	22	
18	D 6e9	楕円形	16 × 14	13	
19	D 6d0	円形	25 × 24	23	
20	D 6d0	[円形]	29 × (29)	54	
21	D 6d0	楕円形	21 × 19	25	
22	D 6d0	円形	21 × 20	25	
23	D 6e0	楕円形	27 × 24	39	
24	D 6d0	隅丸長方形	30 × 26	38	
25	D 6d0	楕円形	26 × 22	15	
26	D 6d0	円形	29	51	
27	D 6d0	楕円形	24 × 21	10	
28	D 6d0	楕円形	19 × 16	10	
29	D 6d0	円形	30 × 28	40	
30	D 6e0	楕円形	28 × 24	21	
31	D 6e0	楕円形	28 × 25	26	
32	D 6e0	楕円形	36 × 34	15	
33	D 6d0	円形	26 × 25	39	
34	D 6d0	円形	26 × 25	16	
35	D 6d0	円形	26 × 25	36	
36	D 7e1	楕円形	31 × 26	43	
37	D 7e1	円形	26 × 25	33	
38	D 7e2	楕円形	28 × 24	40	
39	D 6e0	円形	21 × 18	19	
40	D 6e0	楕円形	25 × 23	31	
41	D 6b0	楕円形	25 × 21	28	
42	D 7d1	不整楕円形	31 × 27	25	
43	D 7e1	円形	31 × 29	30	
44	D 7e1	楕円形	36 × 30	30	
45	D 7d1	楕円形	23 × 17	30	
46	D 7c1	楕円形	25 × 21	30	
47	D 7d1	楕円形	31 × 27	38	
48	D 7d1	楕円形	28 × 23	24	
49	D 7d1	円形	29	不明	
50	D 7d1	楕円形	32 × 27	50	
51	D 7d1	円形	25 × 24	22	
52	D 7d2	円形	37 × 35	33	
53	D 7d2	円形	23	21	
54	D 7d2	円形	27 × 25	35	
55	D 7d2	円形	34 × 32	35	
56	D 7d3	[楕円形]	36 × (29)	37	

ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)	
			長軸(径) × 短軸(径)	深さ				長軸(径) × 短軸(径)	深さ
57	D 7e1	隅丸長方形	25 × 22	48	97	D 7a1	不整楕円形	49 × 40	17
58	D 7d2	円形	33 × 31	36	98	D 7a1	不整楕円形	50 × 48	10
59	D 7d2	〔楕円形〕	26 × [16]	29	99	D 6b0	楕円形	61 × 38	55
60	D 7d2	楕円形	34 × 22	17	100	D 6b0	隅丸長方形	44 × 33	38
61	D 7c2	楕円形	22 × 20	23	101	D 7c2	楕円形	45 × 32	16
62	D 6c0	隅丸方形	27 × 26	17	102	D 7e1	円形	38 × 36	21
63	D 6c0	隅丸長方形	27 × 22	29	103	D 7d2	円形	32 × 30	36
64	D 6c0	不整楕円形	33 × 24	16	104	D 7b3	楕円形	23 × 17	21
65	D 6c0	〔楕円形〕	26 × [20]	22	105	D 7a1	楕円形	25 × 22	34
66	D 6c0	不整円形	24 × 24	24	106	D 6j0	楕円形	22 × 18	7
67	D 6c0	隅丸方形	27 × 25	38	107	D 6d8	隅丸長方形	34 × 25	不明
68	D 7c1	円形	25	49	108	D 7c8	楕円形	21 × 16	26
69	C 7c1	楕円形	38 × 25	40	109	D 7c1	円形	16	28
70	C 7c1	〔楕円形〕	23 × (14)	11	110	D 7c1	〔楕円形〕	(32) × 31	28
71	D 7c1	隅丸長方形	27 × 23	41	111	D 7c1	楕円形	28 × 21	59
72	D 7c1	円形	23 × 22	32	112	D 7c1	円形	30 × 28	28
73	D 7c1	楕円形	29 × 26	22	113	D 7d2	〔楕円形〕	(23) × 22	8
74	D 7c2	円形	22	18	114	D 7d2	楕円形	26 × 20	19
75	D 7b2	〔楕円形〕	28 × 21	13	115	D 7e2	楕円形	29 × 26	11
76	D 7b1	円形	24 × 23	18	116	D 7e3	楕円形	46 × 40	9
77	D 7b1	円形	23 × 22	20	117	D 7d1	〔楕円形〕	(33) × 25	12
78	D 7b1	不定形	37 × (32)	39	118	D 6j0	円形	26 × 25	24
79	D 7b1	円形	31	48	119	D 6j0	楕円形	35 × 29	24
80	D 7b1	楕円形	46 × 26	46	120	D 6j0	楕円形	31 × 27	37
81	D 7b1	楕円形	28 × 23	12	121	D 6j0	楕円形	33 × 29	29
82	D 7b1	円形	16 × 15	13	122	D 6g9	円形	36 × 33	30
83	D 7b1	楕円形	26 × 20	33	123	D 6g9	円形	27 × 25	29
84	D 7b1	楕円形	38 × 29	20	124	D 6g9	円形	23 × 22	26
85	D 7b1	円形	34 × 33	42	125	D 6g9	円形	20	18
86	D 7b2	楕円形	29 × 24	30	126	D 6g9	楕円形	41 × 30	39
87	D 7b1	円形	20 × 19	12	127	D 6g9	円形	27 × 26	26
88	D 7b2	楕円形	30 × 25	35	128	D 6j0	楕円形	27 × 21	32
89	D 7a2	楕円形	30 × 24	28	129	D 7f1	円形	27 × 26	26
90	D 7a1	楕円形	18 × 16	22	130	D 6g0	円形	37 × 36	46
91	D 7a1	円形	16	19	131	D 6g0	楕円形	41 × 37	22
92	D 7a1	円形	25 × 23	17	132	D 6g0	円形	25	10
93	D 7a1	楕円形	25 × 22	27	133	D 7a1	不整楕円形	25 × 20	20
94	D 7j2	楕円形	15 × 13	11	134	D 7a1	楕円形	22 × 20	35
95	D 7j3	楕円形	19 × 16	9	135	D 7a1	楕円形	30 × 24	25
96	D 7j3	円形	25	33	136	D 6d8	楕円形	28 × 21	13
					137	D 6d0	楕円形	28 × 22	46

第4号ピット群(付図)

調査区北西部B 4 i8 ~ C 5 a1 区にかけての標高 24 m の台地平坦部に位置している。東西 16 m, 南北 8 m の範囲から柱穴状のピット 20 か所を確認した。平面形は長径 15 ~ 48 cm の円形または楕円形で、深さは 3 ~

89cmである。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。覆土中から縄文土器片が出土しているピットもあるが、時期・性格ともに不明である。

表21 第4号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	
1	B 4a8	楕円形	31 × 25	8	
2	B 4a9	隅丸方形	34 × 32	43	
3	B 4a10	楕円形	48 × 42	9	
4	C 4a0	円形	28 × 26	11	
5	C 4a0	円形	27 × 26	32	
6	C 4a0	楕円形	22 × 20	10	
7	C 4a0	楕円形	25 × 22	3	
8	C 4a0	円形	15	4	
9	C 4a0	楕円形	45 × 36	23	
10	C 4a0	楕円形	45 × 40	89	

ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	
11	C 5a1	【楕円形】	25 × (20)	6	
12	C 5a1	楕円形	41 × 35	58	
13	C 4a0	円形	45 × 43	9	
14	C 5a1	円形	36 × 33	16	
15	B 4a9	楕円形	28 × 24	8	
16	B 4a8	楕円形	32 × 28	21	
17	C 4a0	円形	36 × 35	50	
18	C 4a0	楕円形	40 × 31	14	
19	C 5a1	円形	18	23	
20	C 5a1	楕円形	37 × 31	52	

第5号ピット群（付図）

調査区中央部 D 7b1 ~ D 7b2 区にかけての標高 24 m の台地平坦部に位置している。東西 4 m, 南北 4 m の範囲から柱穴状のピット 14 か所を確認した。平面形は長径 23 ~ 55 cm の円形または楕円形で、深さは 13 ~ 33 cm である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。縄文土器片、土師器片が出土しているピットもあるが、時期・性格ともに不明である。

表22 第5号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	
1	D 7b1	楕円形	42 × 30	24	
2	D 7b2	楕円形	45 × 34	18	
3	D 7b1	楕円形	36 × 32	33	
4	D 7b1	〔楕円形〕	44 × (32)	20	
5	D 7b1	円形	41 × 40	18	
6	D 7c1	円形	36 × 33	18	
7	D 7b1	楕円形	40 × 34	15	

ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	
8	D 7b1	楕円形	27 × 24	18	
9	D 7b1	楕円形	55 × 48	20	
10	D 7b1	円形	43 × 42	23	
11	D 7b1	〔楕円形〕	23 × 16	不明	
12	D 7b1	〔楕円形〕	23 × [18]	18	
13	D 7b1	円形	38	16	
14	D 7b1	楕円形	37 × 30	13	

第6号ピット群（付図）

調査区西北部 C 5i9 区、標高 24 m の台地平坦部に位置している。東西 2 m, 南北 2 m の範囲から、柱穴状のピット 3 か所を確認した。平面形は長径 23 ~ 39 cm の楕円形で、深さは 15 ~ 47 cm である。ピットの分布状況から建物跡は想定できない。出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

表23 第6号ピット群ピット一覧表

ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	
1	C 5i9	〔楕円形〕	[39] × 36	47	
2	C 5i9	楕円形	32 × 25	36	

ピット番号	位置	平面形	規 模 (cm)		
			長軸 (径) × 短軸 (径)	深さ	
3	C 5i9	楕円形	23 × 20	15	

(4) 不明遺構

第2号不明遺構（第255図）

位置 調査区中央部のD7a6区、標高23mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸0.71m、短軸0.65mの開丸方形で、長軸方向はN-45°-Wである。深さは22cmで、外傾して立ち上がっている。

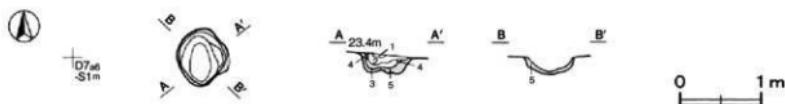
床 凹凸である。被熱で、赤変硬化している。

覆土 5層に分層される。ロームブロックを含んでいることから埋め戻されている。

土層解説

- | | | |
|----------|------------------|-------------------------|
| 1 にひく淡褐色 | 粘土ブロック多量、ローム粒子微量 | 4 極端な色 ロームブロック多量 |
| 2 暗褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子微量 | 5 暗赤褐色 ロームブロック多量、焼土粒子中量 |
| 3 にひく淡褐色 | 粘土ブロック中量、ローム粒子少量 | |

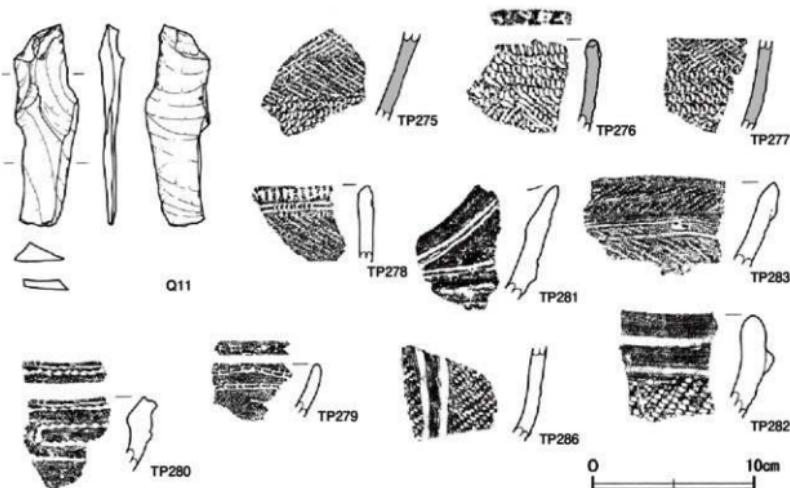
所見 時期は、出土遺物がないため不明である。形状や赤変硬化しているところから、中世・近世にみられる開炉裏の可能性もある。



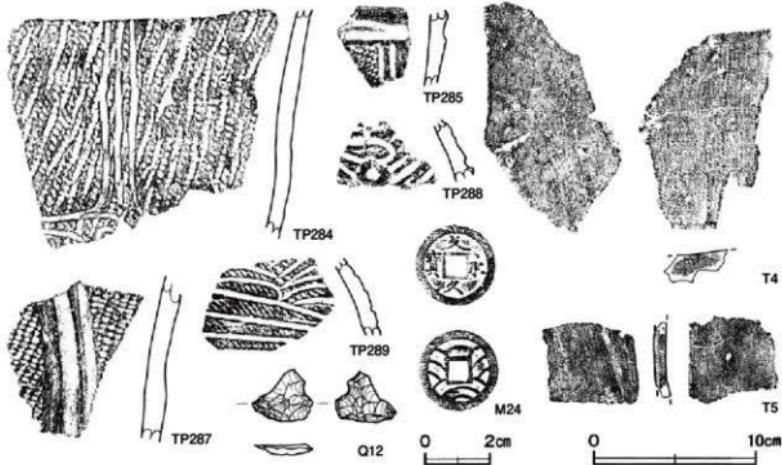
第255図 第2号不明遺構実測図

(5) 遺構外出土遺物（第256・257図）

今回の調査で出土した遺物のうち、遺構に伴わない特徴的なものを実測図と観察表で記載する。



第256図 遺構外出土遺物実測図(1)



第257図 遺構外出土遺物実測図(2)

遺構外出土遺物観察表(第256・257図)

番号	種別	部種	始土	色調	手法の特徴ほか	出土位置	備考
TP275	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母・織維	にぶい・黒	羽状織文とループ文を施文	SI27 覆土中	
TP276	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子・織維	にぶい・黄橙	羽状織文とループ文を施文	SI27 覆土中	
TP277	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・黒	羽状織文とループ文を施文	SI27 覆土中	
TP278	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・黄橙	II線部平行沈継文と半載竹管による連続竹形文、下部未溝部にき継文施文	B区確認面	
TP279	織文土器	深鉢	長石・石英・織維	にぶい・黄黒	I線部半載竹管による押压文、口縁部半載竹管による筋骨文施文	確認面	
TP280	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明褐色	口唇部角押文施文、I区部は捺凹状の隣帶に沿つて一列の押文を施文	確認面	
TP281	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	波状口文	SD1 覆土中	PL52
TP282	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい・黄橙	II線部外周隣帶文施文、胸部外周單筋L.R継文施文	SD1 覆土中	
TP283	織文土器	浅鉢	長石・石英・雲母	にぶい・黒	II線部外周Lの撲糸文を施文、胸部部の撲糸文を施文後横部の平行沈継文施文	確認面	
TP284	織文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	胸部外周單筋L.R継文施文後3本横2本の沈継文施文	SP1 - 3期面	
TP285	織文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・黄橙	II線部外周沈継文に沿う隣帶による区画文施文、胸部外周R上・R下に織文施文後織垂文施文	SK79 覆土中	
TP286	織文土器	深鉢	長石・石英	灰黄褐	胸部外周L・R継文施文胸部消壓垂文施文	確認面	
TP287	織文土器	深鉢	長石・石英	にぶい・黄黒	胸部外周に單筋L・R継文施文後3条一組の微隆起による区画文施文	SD1 覆土中	
TP288	織文土器	浅鉢	長石・石英	にぶい・黒	胸部外周消單節織文施文後沈継文とボタン状の貼付け文施文	確認面	
TP289	織文土器	浅鉢	長石・石英	棕	胸部外周消單節L・R継文施文後沈継文で区画	確認面	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 11	石刃	12.3	4.0	1.6	37.4	珪質頁岩	縱長剥片に刃部調整	D 7 a2	PL52
Q 12	石器	3.1	3.7	0.6	4.9	黑色頁岩	橢型 縱長剥片 打面除去とつまみ出し	確認面	

番号	器名	径	孔径	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 24	丸永玉	26.7	0.66	0.10	3.1	銅	切牌 1863年 花形文	D 6 a1	PL52

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	始土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
T 4	平瓦	(133)	(97)	3.1	(406.3)	長石・石英・雲母	にぶい・黄橙	普通	捲き造り(模倣板) 四面布目直 凸面ヘラ削り	SD1 覆土中	PL52
T 5	平瓦	(5.6)	(5.7)	1.3	(63.6)	長石・石英・雲母	灰灰	普通	四面布目直 凸面ヘラ削り	SD1 覆土中	

第4節 まとめ

1はじめに

中津川遺跡は、今回の調査で縄文時代から近世の複合遺跡であることが確認できた。ここでは、周辺遺跡との関連を踏まえて時代ごとの様相についてと、特に弥生時代の土器様相と近世の第1号道路跡を取り上げ、若干の考察を加えてまとめとする。

2各時代の様相について

今回の調査区域は、遺跡の北東部にあたり¹⁾、東西約200m、南北約160mの範囲を調査した。地形は、南東から北西にかけての標高24mの台地平坦部から標高21~23mの緩斜面地になっている。

(1) 縄文時代（第258図）

当時代の遺構は、堅穴住居跡1軒、炉跡1基、陥し穴3基、土坑403基を確認した。ここでは、出土遺物から前期、中期前半、中期後半、後期の四時期（第I~IV期）に区分して集落の様相を述べる。

第I期

当期は、住居跡1軒（第28号住居跡）、陥し穴1基（第3号陥し穴）、土坑2基（第77・315号土坑）が該当する。第3号陥し穴出土の片口付深鉢（第32図23）は、胴部に羽状繩文が施された前期前半の関山式期のものである。第28号住居跡と第77号土坑出土の深鉢は、前期前半の黒浜式期のものである。第28号住居跡出土の深鉢（第28図TP68・69）は、胎土に纖維を含み、胴部には単節繩文、正反の合が施文されている。第77号土坑出土の深鉢（第50図TP104）は波状口縁で2条の刺突文が施文され、以下の部位には羽状繩文が施文されている。第315号土坑出土の深鉢（第90図TP222）は、浮線文が施文され、前期後半の諸磯式期に比定できる。前半と後半に分けられるが、遺構数が少ないため、前期を一括して第I期とする。

第3号陥し穴は、調査区東部の標高22mの緩斜面部から1基のみの確認であるが、当時の緩斜面部は狩猟の場であったことが推測できる。第28号住居跡は調査区南西部の標高24mの台地平坦部に位置している。また、第77号土坑は調査区北西部の標高24mの台地平坦部、第315号土坑は調査区南西部の標高24m台地平坦部で第28号住居跡の北約30mに位置している。以上のように、当期は少数の遺構が散在して確認でき、小規模な集落が調査区域外の南西部に展開していたと考えられる。

第II期

当期は、住居跡2軒（第6・17号住居跡）、土坑6基（第92・101・110・193・237・248号土坑）が該当する。土器の特徴は楕円形の区画文に有節弦線文が施文されており、胎土には金雲母が多量に含まれていることから、中期前半の阿玉台Ⅱ式期に比定できる。住居跡は、調査区中央部の標高24mの台地平坦部に位置している。土坑は第101・110号土坑が第6号住居跡付近、第193・237・248号土坑が第17号住居跡の周辺に位置し、その性格は不明であるが、住居跡と何らかの関係があったものと思われる。また、確認状況から小規模な集落が、調査区域外の北西側に展開していたと考えられる。

第III期

当期は、住居跡7軒（第2・3・8・10・13・15・25号住居跡）、陥し穴2基（第1・2号陥し穴）、土坑41基（第8・14・15・27・29・34・35・40・46・48・50・52・53・60・67・71・80・83・106・133・

137・140・142・143・149・170・181～183・187・200・201・203・204・213・216・235・236・239・242・263号土坑)が該当する。

土器の特徴は地文が単節L R縄文が主流で、口縁部に渦巻き文とその間の区画文が合わさったもの。胴部にクランク文、磨削懸垂文を施文されたものが多く、中期後半の加曾利E II式期が主体をなし、E I式期も若干みられる。

住居跡は調査区北部から中央部にかけて多く確認でき、本期が集落の一一番栄えた時期である。また、土坑は住居跡群の外側を囲むように確認されており、環状に配置された可能性がある(第258図・付図)。集落は、調査区域外の南側に展開していたと考えられる。

第IV期

当期は、住居跡2軒(第24・25号住居跡)、炉跡1基(第1号炉跡)、土坑12基(第61・135・202・206・245・253・260・298・303・411・538・551号土坑)が該当する。

土器の特徴は、沈線文間に列点状の刺突文を施文する後期初頭の称名寺II式と、地文に縄文を用いた糞手文や懸垂文を等間隔に描き、ボタン状の貼付け文が施文された後期前半の堀之内I式に比定される。

柄鏡形を呈する第24号住居跡は調査区の南東部、標高23mの台地緩斜面部に位置している。県内における柄鏡形住居跡の類例は、龍ヶ崎市廻り地A遺跡第78・105・106・118号住居跡の4軒²¹と仲根台B遺跡の第2・7・16号住居跡の3軒²²で合計7軒と少ない。そのうち、称名寺式期が2軒、当跡と同時期の堀之内I式期が5軒で、他県に比べ、発見例が少ない。

第1号炉跡は、第24号住居跡の南側に近接している。炉跡の東側約2分の1は、後世の土取りにより破壊されている。土坑は、調査区の北西部から中央部にかけて散在している。当期の集落は中期に比べ小規模化していることが推測できる。

(2) 弥生時代(第258図)

当時代の遺構は、調査区の中央部から南部にかけての標高24mの台地平坦部で、堅穴住居跡5軒、土坑3基を確認した。出土土器から後期中葉の一時期(第V期)とし、集落の様相を述べる。

第V期

当期は、住居跡5軒(第5・9・11・21・23号住居跡)、土坑3基(第247・250・421号土坑)が該当する。出土土器の器種構成は、壺と広口壺の2種類で全体的に胴部の破片が多く、完形は少ない。特徴は縄文施文の複合口縁で、口縁部下端に指頭押圧や刺突文が施されており、頭部は無文のものと櫛歯状工具による3～4本単位の波状文、格子目文が施文されたものがほとんどで、若干多条のものもみられる。また、二段の複合口縁もみられ、頭部は櫛歯状工具による3～4本単位の波状文、格子目文が施文されている。櫛引きの中には、若干多条のものもみられる。胴部上位には、単節縄文と附加条一種の縄文が施文されている。底部には、木葉痕を残している。土器の詳細は、3で述べることとする。

住居跡は調査区中央部から南部にかけて確認され、土坑2基(第247・250号土坑)と第11号住居跡は隣接している。第250号土坑の覆土は人為堆積で、底部穿孔の広口壺(第126図35)が出土しており、墓坑の可能性が考えられる。集落は小規模であったと考えられる。

当期の堅穴住居跡と出土遺物について、特筆すべき点が2点挙げられる。

1点目は第9・23号住居跡の覆土中や炉跡付近の床面、柱穴内から石英片が出土していることである。これについては、「茨城県における弥生時代の石英片出土について」²³において、つくば市玉取向山遺跡で後

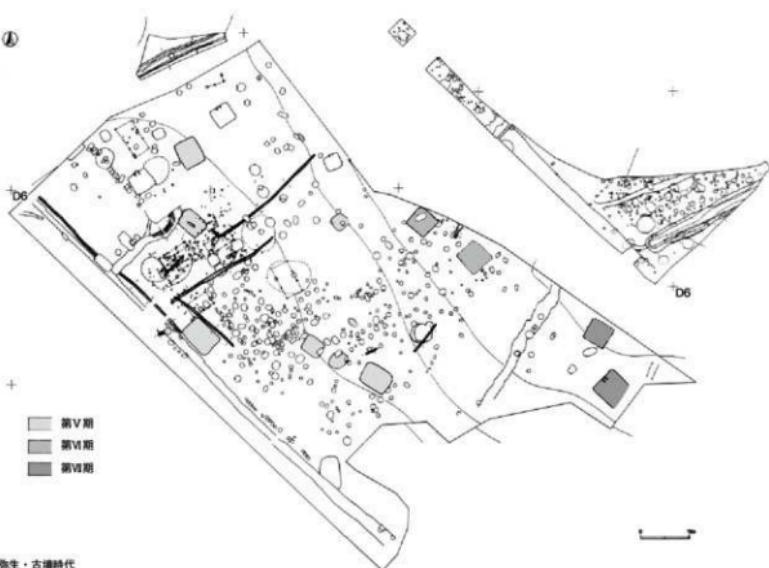
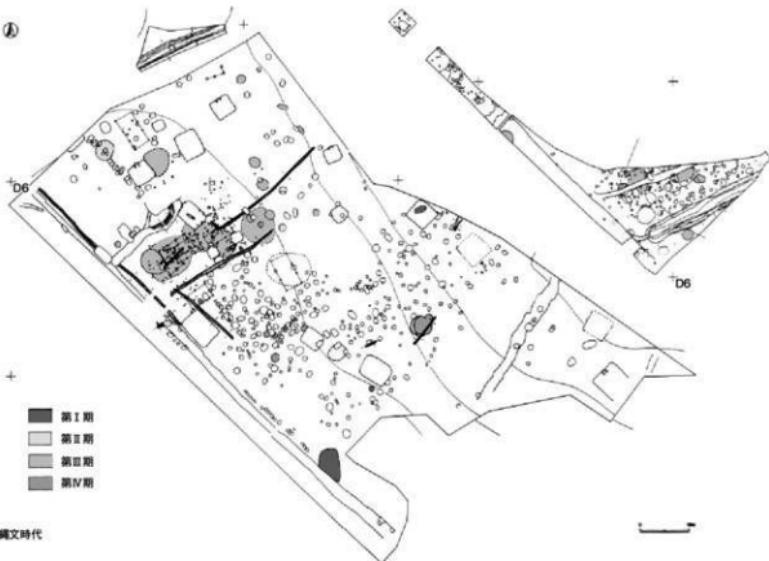
期前半の堅穴住居跡から出土した石英片をもとに、県南部における7遺跡の類例を挙げている。これらに共通する点は、「住居の炉内及びその周辺の床面からの出土が顕著であることと、出土する石英片は、ほとんど細片である。」ことを指摘している。総重量は、第9号住居跡が740g、第23号住居跡が30.94gと少ないものの全て共通している。

奥沢哲也氏は、性格として「礫器として生活のなかで利用していた可能性や取り出した小破片を何らかの生産に使用した可能性が想定できる。しかしながら製品は出土しておらず、また、床面直上からの出土は、住居廃絶時に石英片をばらまくなど、石英を用いた祭祀行為や威儀具として使用された可能性も考えられるのではないかだろうか。」と仮説を説いている。

他にも石英片の破碎方法や使用目的について、今日までにさまざまな仮説が提示されている。江幡良夫氏は原田北遺跡群西原遺跡において、確認された23軒の住居跡すべてから石英片が出土し、その出土状況に注目している⁵⁾。その後、土浦市周辺を中心とした県南地域の後期の住居跡内から特徴的に出土していることも指摘している。西原遺跡では「簡単な使い捨ての礫器として使用された可能性」を推測している。さらに、炉床上からの出土が多いことを挙げている。中村哲也氏は、野中遺跡において、「熱による破碎行為と結びつけるなら目的は、定型的な剥片ではなく碎片の獲得」⁶⁾としている。石英の部分のみを取り出そうとする時、熱を加えることにより、他の鉱物との耐熱温度の違いから破碎し、石英を取り出すことが可能になる。また、急激な加熱後、水で冷やすなどの急激な冷却で破碎することも可能である。炉の周辺からの出土は、それを裏付けているものと考えられる。また、その使用目的として、関口満氏は下郷遺跡において「丸みを帯びた自然面と敲打痕が観察されることから転石を利用し、敲くまたは敲かれる使用法を持つ石器」⁷⁾。黒澤春彦氏は「土浦周辺における弥生時代後期の様相」において「この地域の弥生時代の特徴的な生産にかかる道具」⁸⁾、大潤敦志氏は六十塚遺跡において「石器関係の生産関連遺跡の可能性」⁹⁾とさまざまな見解がある。

2点目は、第11号住居跡（第117図）の柱穴（P3）から広口壺（第119図30）の完形品が出土していることである。柱を抜いた後に土器が埋納されたような状況で出土しており、管見する類例は、群馬県長根安坪遺跡のY-1・14・28号住居跡¹⁰⁾や柱穴の中に壺の他、高坏、器台も埋納されていた京都府西京極遺跡¹¹⁾が挙げられる。このことについては、近藤広氏が「弥生時代における柱穴埋納遺物について」において15遺跡の事例を挙げて、埋納状態と埋納されている位置について分類している¹²⁾。これらの遺跡のほとんどは西日本の遺跡で、関東では中期後半の横浜市大塚遺跡が挙げられている。それによると柱穴埋納物には埋納状態もさまざまで一本の柱だけ埋める事例だけではなく、主柱穴やそれ以外の複数の柱穴に埋めるものもあり、土器以外の石器や玉、獸骨、桃殻、種初を埋納する事例も挙げている。さらにアジアの民俗事例を挙げ、柱穴埋納行為は「新築や生活している間も祭祀の対象となっていた重要な柱が、廃絶時において柱が抜かれた後に、土地の神を鎮める行為として祭祀を執行した結果」と推測している。また、「分類した事例について一定しないが、埋納される柱の位置に南側（特に南西）を意識したものが多い傾向にあった。」と考察している。当遺跡の例も同様のところが興味深い。さらに「集落内において多数建物が存在しても、埋納行為を示す事例は少数であることが多い、むしろ柱穴埋納行為をしない住居が一般的である。一部の集団が行っていた可能性か、遺物として残りにくいものを埋納していた可能性がある。」と指摘している。

以上、2つの課題については、今後の類例の増加を待って検討していきたい。



秀生・古墳時代

第258図 中津川遺跡時期別造構配置図（1）

(3) 古墳時代（第258図）

当時代の遺構は、調査区南東部の標高22mの緩斜面部で、堅穴住居跡4軒を確認した。出土遺物から5世紀後葉と5世紀末の二時期（第VI・VII期）に区分して、集落の様相を述べる。

第VI期

当期は、住居跡2軒（第19・20号住居跡）が該当する。当期の土器の器種構成は土師器壺、甕、壺、須恵器甕からなるが、小破片のものが多く、出土量も少ない。土師器壺は口縁部が直線的に外傾するものや内傾するものもみられ、底部は丸底である。体部の調整は、外・内面とも磨きが施されている。土師器甕の体部は、球形を呈する。陶邑編年のTK-208段階に併行しており、5世紀後葉に比定できる。

住居跡の形態は、第19号住居跡は平面形が方形で、炉は北壁中央部際に位置する。炉から竈へ移る直前の形態と思われる。第20号住居跡は削平され、平面形態は明確ではないが、掘り込みの残存部分や柱穴の位置などからはほぼ方形と推測される。炉は、中央部からやや北西部寄りに位置している。遺物はほぼ同時期で、主軸方向は同じであるが、第19号住居跡の炉の位置が壁際になっていることから、やや新しい時期の可能性がある。

住居跡は、弥生時代にはほとんどが標高24mの台地平坦部に集中していたが、古墳時代中期になると標高22mの緩斜面部に選地されており、平坦部は畑地として利用されたことなどが考えられる。当期は、小規模な集落が調査区域外の東側へ展開していたと推測できる。

第VII期

当期は、住居跡2軒（第26・27号住居跡）が該当する。出土土器の器種構成は、土師器壺、甕、壺、小形甕、甕、短頭甕、壺からなり、完形に近いものが多く、出土量が多い。特徴は、土師器甕は体部の最大径が上位に移り、土師器甕は第VI期と比べ底部の突出が弱くなっている。須恵器壺身を模倣した土師器壺（第133図49）がみられる。陶邑編年のTK-23・47段階に併行しており、5世紀末に比定できる。

住居跡は、第VI期と同様に調査区域の南東部緩斜面部、標高22m付近で確認できた。第26・27号住居跡は共に住居の廃棄にあたり、破碎した土器の周りに完形の土師器壺、甕、壺を正位と逆位の状態で床面に意図的に置いており（PL17・18）。祭祀行為と考えられる。

古墳時代の周辺の様相

本遺跡は、東西1.5km、南北1kmの範囲に41基の古墳が確認されている舟塚山古墳群（北根本古墳群）内に位置している¹³。ここには、墳丘長186mで、東日本第2位の大きさの舟塚山古墳と府中愛宕山古墳の前方後円墳が2基存在している。前者の築造年代は、周堤上にある陪塚と考えられている13～18号墳のうち、14・17号墳の過去の調査によって出土した遺物と舟塚山古墳から表採された土師器片、埴輪片から5世紀中葉頃と推定されている¹⁴。また、後者の築造年代は過去の調査の出土遺物から6世紀初頭から前半頃とされており¹⁵、ほぼ同時期の住居跡がこれらの古墳と近接している。管見にふれる集落遺跡や古墳群の立地関係では、同時期の集落と古墳群は離れた位置に存在している。古墳群の中に同時期の集落が営まれている例は愛宕山古墳群と隣接する原田北遺跡で墓域と居住域を溝で仕切っている例¹⁶があるが、当遺跡は現段階では不明である。将来の調査を待ち、今後の検討にしたい。

(4) 奈良時代（第259図）

当時代の遺構は、調査区中央部の標高22～23mの緩斜面部で、堅穴住居跡2軒を確認した。出土遺物から8世紀中葉と後葉の二時期（第VIII・IX期）に区分して、集落の様相を述べる。

第VII期

当期は、住居跡1軒（第18号住居跡）が該当する。出土土器の器種構成は、須恵器壺蓋と坏身（第143図100・101）である。須恵器坏の特徴は体部に丸みをもち、底部の調整が手持ちヘラ削りであることから、8世紀中葉に比定できる。住居跡は、調査区域東部の標高22mの緩斜面部に点在していると思われる。

第VI期

当期は、住居跡1軒（第7号住居跡）が該当する。出土土器の器種構成は土師器甕、須恵器壺蓋、坏身、甕である。土師器甕（第141図99）は底部にむかってすばみ、体部外面下半に磨きが施されている。須恵器坏身（96・97）は体部が直線的に外傾し、体部下端にヘラ削りが施され、底部の調整は回転ヘラ削りと、手持ちヘラ削りの2種類がある。須恵器甕（TP270）は、体部外面に斜位の平行叩きが施されていることから8世紀後葉に比定できる。

VII期までは、標高の低い22mの位置に住居が立地していたが、当期は調査区中央部の標高23mの緩斜面部に移動している。

当時の石岡は常陸国府がおかれた時代であり、中津川周辺は茨城郡茨城郷にある。郡名と郷名が同じことや、当遺跡の北西方向約1kmには8世紀前半から10世紀後半ごろに機能していたと思われる茨城廃寺跡¹¹⁾があることから、郡衙¹²⁾や寺院を支えた官衙関連の集落の可能性がある。

（5）平安時代（第259図）

当時代の遺構は、調査区域の北西部、標高24mの台地平坦部で竪穴住居跡2軒を確認した。出土遺物から9世紀前葉の一時期（第X期）として、集落の様相を述べる。

第X期

当期は、住居跡2軒（第1・4号住居跡）が該当する。出土土器の器種構成は、土師器坏、甕、瓶、須恵器壺蓋、坏身、高台付坏、高盤、甕であり、須恵器が主体となっている。特徴は、土師器坏に内面黒色処理が施され、甕は常盤型が主体で、体部の膨らみが弱くなる。須恵器坏身口径は13～15cm、器高4～5cm、底径7～9cmと定形化している。底部の切り離しは、ヘラ切りが主体である。これらのことから、本期は9世紀前葉に比定できる。調査区域外の北側に小規模な集落が点在していたと思われる。

当期の住居跡で特筆すべき点は、本文中の所見でも述べているように、第4号住居跡の遺物出土状況（第147図）である。覆土中層まで一度に埋め戻し、須恵器坏、高台付坏、蓋、高盤、甕、瓶、フラスコ瓶、土玉、刀子をまとめて投棄している。中層から出土した須恵器の中には、底部に「升」の範描きを施した高台付坏（第149図120）が1点出土している。九字切り呪法の省略形を考えたが、この範描きは焼成前に描かれていたためヘラ記号である可能性が強い。また、中央部に墨書きが書かれているが、墨が薄いため、赤外線モニターで判読を試みたが、判読できなかった。「大」、「木」のようにも見えるが不明である。しかし中層まで埋め戻して一括投棄している状況は、なんらかの祭祀の可能性が推測される。九字切り呪法とは4世紀、中国・東晋時代の葛洪（284～363）が著した道教の理論書『抱朴子』にみられる、呪術行為の際唱える九文字の呪文のことである一般的にドーマンと呼称される。縦4条、横5条に基盤目状に範描きした呪文の省略形について高島英之氏（2000）¹³⁾と大竹憲治氏（2008・2009）¹⁴⁾が論じている。九字切り印は、悪霊を払い、願意が確実に果たされる効力を有すると言われている。直接本跡に繋がる可能性は低いが、本跡の遺物出土状況は、祭祀行為か単なる廃棄行為か類例を待ち、検討していくたい。

(6) 中世（第259図）

当時代の遺構は、掘立柱建物跡8棟、方形堅穴遺構5基、井戸跡1基、火葬土坑2基、墓坑3基、溝跡1条、不明遺構1基を確認した。出土した陶磁器などから一時期（第XI期）として、遺跡の様相を述べる。

第X期

当期は第1～8号掘立柱建物跡、第1～5号方形堅穴遺構、第1号井戸跡、第1・2号火葬土坑、第2・8・9号墓坑、第1号溝が該当する。時期はおむね中世後期（15世紀後半から16世紀前半）に収まる。なお、遺構からの出土遺物が少ないと、遺構の変遷を追うことは出来ない。掘立柱建物跡は調査区域の北部から中央部にかけて確認しており、第8号掘立柱建物跡の柱穴内から天目茶碗の破片（第159図131）が出土している。遺物の特徴から藤澤編年²¹の大室二期（15世紀後半）に比定できる。他の掘立柱建物跡からは遺物の出土は見られなかったが、規模や柱穴の掘方方が似ているため、第8号掘立柱建物跡と時期が近いものと思われる。これら建物の重複や配置状況から3時期の変遷が考えられるが、新旧関係は不明である。性格は、形状から倉庫的な建物であったと思われる。

方形堅穴遺構は調査区域の北西部から確認され、床面には2か所もしくは、4か所の柱穴を配している。その性格については、住居、倉庫、埋葬施設など、遺跡の性格によって分類されているが、当跡周囲から火葬土坑が確認されており、遺体の仮安置所（殯所）の可能性が考えられる。

第1・2号火葬土坑は、方形堅穴遺構に近接して確認した。出土遺物がないため、明確な時期は不明であるが、篠瀬裕一氏によると²²、当跡のものはB類（T字形タイプ）となり、15世紀後半に位置づけられる。

第1号井戸跡は調査区北西部から確認できた。土師質土器皿（かわらけ）、古瀬戸灰釉鉢、内耳鍋、常滑甕、茶臼、軒丸瓦が出土している。古瀬戸灰釉鉢は藤澤編年の15世紀後半、常滑甕は中野編年²³12型式（15世紀後半）、内耳鍋は桃崎編年²⁴の16世紀前半に比定できる。従って、15世紀後半以降には井戸は廢棄されたものと考えられる。

第1号溝は、調査区北部の第1号井戸跡に近接して確認できた。形状は断面形が逆台形で、第1号道路跡の手前で掘り込みが止まっている。覆土は人為堆積で、中世の常滑甕細片や近世磁器、繩文土器片、弥生土器片、土師器、須恵器片が混入して出土している。全体的に出土遺物が少なく、明確な時期は不明であるが、周辺の井戸跡と近接し、土坑の配置などから墓域を区画する溝の可能性がある。また、第1号道路跡と重複がなく、手前で掘り込みが止まっていることから、第1号道路跡と共に存していた可能性も推測できる。

(7) 近世（第259図）

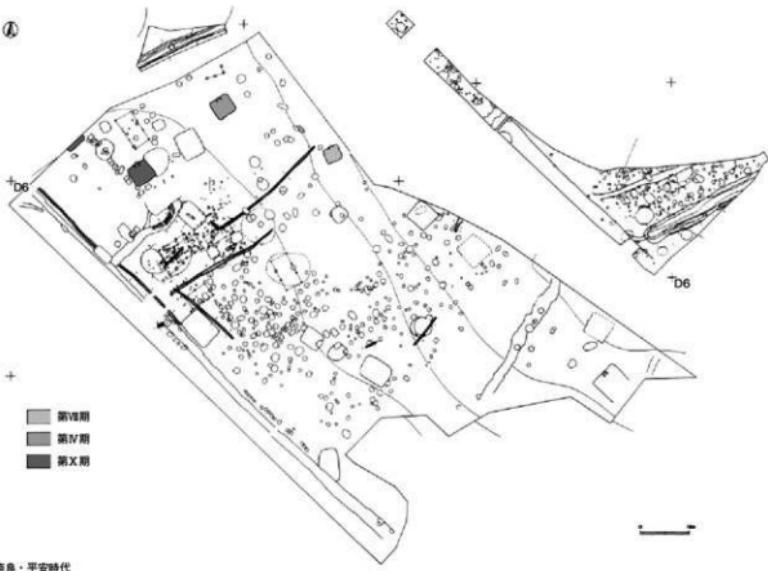
当時代の遺構は道路跡8条、墓坑10基、土坑2基を確認した。出土遺物から一時期（第XII期）とする。第1号道路跡については4で詳述する。

第XII期

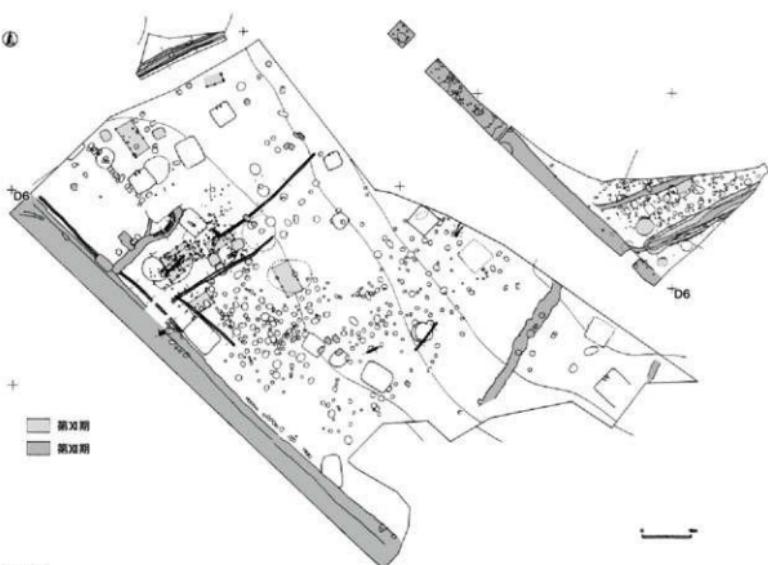
当期は第1～8号道路跡、第1・3～7・10～13号墓坑、第114・262号土坑が該当する。時期は、磁器碗、錢貨（寛永通寶・文久永寶）、煙管などの出土遺物から17世紀後半から19世紀前半に比定できる。

遺構は調査区北西部から南東部、標高22～24mの台地の緩斜面部から台地平坦部にかけて分布しており、当時代は道路と墓域であったと推測できる。

第2・3・8号道路跡は調査の結果、第1号道路跡第1期面の枝道として機能していたことが考えられる。第2・8号道路跡は幅1m未満、第3号道路跡も幅約2m未満と人が一人歩ける程度で轍の痕跡はみられない。このことから枝道は歩道専用道路であった可能性がある。



奈良・平安時代



中世・近世

第259図 中津川遺跡時期別造構配置図（2）

墓坑の覆土中からは、骨粉と磁器の細片が少量出土している。このことは、何らかの理由で、他の場所へ改葬したことを伝えていると思われる。「府中雜記」には、「今之東蓮寺は田崎勘ヶ由の開基にて富田山円通寺と号す。佐竹水戸上町寺町山号とも曳移して、富田円通寺也。沢山の末也。中興万福寺再興して東蓮寺と号す。(後略)」とある。中津川北側の田崎部落に東蓮寺があつたと伝えており³⁰⁾、当遺跡の墓坑群と関連する可能性がある。

2基の土坑は規模や長軸方向が同じで、出土遺物から19世紀後半(江戸末期~明治初頭)に比定できる。性格は、階段状の掘り込みが確認できることから、倉庫と考えられる。

3 中津川遺跡の弥生土器について

弥生時代後期中葉の土器は縦方向に区画を入れる頭部の文様構成が崩れ、さまざまな文様が施文される時期である。当遺跡を含む霞ヶ浦沼岸地では、口縁部の形態や胴部に施文される繩文においても、遺跡毎の個性が強くなり、「・・・式」という土器型式で特定の地域を括るのが非常に困難な様相を見せている³¹⁾。

文様構成をみていくと、口唇部は繩文原体押圧、繩文施文、無文の3種類に分けられる。また、口縁部は無文の複合口縁で口縁部下端に指頭押圧を施したものと、繩文施文の複合口縁で口縁部下端に刺突文を施したもの2種類に分けられ、前者が古い様相をもつものと考えられる。頭部は、無文のものと、櫛歯状工具による条線に格子目文を施した波状文や山形文、連弧文を施すものがみられる。底部は、木葉痕を残すものと無文のものに分けられる。

第11号住居跡の広口壺(第119図30)は、口縁下端の指頭による押圧が強調され、押圧隆起線になっているもので、茨城県北東部に分布する髭釜式土器の特徴を有している。しかし、胴部は髭釜式土器³²⁾の特徴である附加条一種(附加2条)繩文ではなく、単節繩文であることが特筆される。このように髭釜遺跡の第30号住居跡³³⁾出土の広口壺と器形や文様構成がよく似ているが、頭部に繩文が施文されず無文である点と胴部の単節繩文の違いが挙げられる。

第5号住居跡の広口壺(第114図24)は、口唇部に繩文原体押圧と複合口縁部下端の竹管による連続刺突文が施されており、頭部は附加条一種繩文と無文の組み合わせとなっている。胴部は附加条一種繩文で、底部は出土しておらず不明である。

第9・23号住居跡の広口壺(第116・124図)は繩文施文の複合口縁で、口唇部に繩文原体押圧、口縁部下端に刺突文が施されている。頭部は無文のものと櫛描き波状文や山形文、連弧文などが施されているものがある。胴部には附加条一種繩文と単節繩文が施されている。底部は木葉痕を残すものが大半であるが、無文のものが若干出土している。これらは、栃木県中央部から茨城県西部に分布している二軒屋式土器³⁴⁾の特徴を持っている土器である。

第21号住居跡の広口壺(第121図)は、頭部に山形の沈線、下端に刺突文が施されている。第23号住居跡出土の広口壺(32)は、上記と同様の施文がなされているが、頭部は櫛描きの山形文と簾状文で二軒屋式土器に類似している。しかし、口縁部と胴部の繩文は羽状構成をとっていない点で異なり、髭釜式の影響を受けているものと思われる。

つまり、これらの土器は茨城県北東部に分布する髭釜式土器と、栃木県中央部から茨城県西部に分布する二軒屋式土器の特徴を1個体の土器が兼ね備えていることになり、両者の土器を知っている人々が、当地域で独自の土器を作り出していたものと思われる。当地域は、二軒屋式文化と髭釜式文化の交わる地域と認識することができよう。

4 第1号道路跡について

本跡は、現在の県道石岡・田伏・土浦線（高浜街道）と並行して確認された。古くから石岡市街と高浜を結ぶ主要な道であったと考えられ、常陸国府が置かれた奈良時代（8世紀）の道を想定して調査を進めたが、道路構築土の出土遺物から古代までさかのほる手がかりはつかめなかった。また、道路幅も調査区域外へ拡がっており、今回の調査で、道の全容を確認することはできなかった。ここでは、調査で明らかとなったことをまとめ、将来的調査への橋渡しとしたい。

構築土内から出土した陶磁器片をもとに、路面を3時期に分けることができた。

第1期面の主な遺物は肥前染付磁器碗、皿、擂鉢であり、大橋編年³⁰のV期（1780～1860年代）に比定できる。しかし、染付皿とペロ藍（濁った色の濃い人工的な藍）は、19世紀前半以降に出現することから、さらに時期を限定して、第1期面は19世紀代の構築とした。

第2期面は肥前磁器碗、堺産擂鉢、瀬戸・美濃産擂鉢、中皿、龍泉窯青磁鍋連弁文碗、寛永通寶が出土している。見込みに五弁花文が描かれてる肥前磁器皿（第178図142）は、18世紀に入ってから出現するものであり、大橋編年の第IV期（1740～1780年代）に比定できる。また、17世紀後半から18世紀前半である堺産擂鉢、13世紀代の龍泉窯青磁鍋連弁文碗は伝世品か混入遺物であると思われる。これらの陶磁器から、第2期面を18世紀中葉から後葉の構築とした。

第3期面からは見込みに蛇の目釉剥ぎの肥前系陶器皿が出土しており、大橋編年の第III期（17世紀後半）に比定できる。よって、第3期面は17世紀後半から18世紀前半の構築とした。

以上の陶磁器片は細片が多く、細蹠と共に路面を強化するために構築土中に意図的に混ぜられていたと考えられる。また、構築土は第3章第3節6（4）でも述べたように、低地部にみられる暗灰色砂質粘土を基調とした土を用い、雨が降っても水はけが良く乾きを早くする工夫がなされている。

次の項では、構築土の下の遺構について考察する。

ア) 波板状凹凸面について

波板状凹凸面は「道路遺構に伴って、しばしば検出される。円形ないし椭円形の窪みが一定間隔で並ぶものをいう。古墳時代以降近世までの間、北は岩手県から南は鹿児島県まではほぼ全国的にまとめられるものである。」（近江俊秀2005）³¹とされている。

波板状凹凸面については早川泉氏が注目し、武藏国分寺周辺の遺跡から発見された道路跡の円形・椭円形の土坑列を比較検討し、波板状凹凸面と呼称した。その性格は、コロを敷き詰めた枕木の痕跡と推測している³²。その後、埼玉県所沢市東の上遺跡で飯田充晴氏は「波板状凹凸面は路面構築土下から確認されていること、凹凸面は椭円形に掘削されたものではなく、意図的な細かい単位の壇圧により造られていることなどから、枕木の痕跡と考えるより道路構築の基礎工事の痕跡である。」と見解を示している³³。

その他、東和幸氏による牛馬歩行痕説³⁴などがある。

近江俊秀氏はこれらの全国の事例を集成³⁵し、以下の4つに仮説をまとめた。

- ・木馬道のように枕木の痕跡と考えられるもの
- ・道路の基礎であると考えられるもの
- ・足掛け
- ・自然発生的なもの

その上で、国分寺周辺の西海道で「上層路面構築にあたり下層の路面をそのまま路床とし、砂質土に盛りその上に路面を作るといったような現在の道路工法がすでにあったことや、塗地などの重量物の基礎とされ

る部分から波板状凹凸面のようなものが検出されている」ことを指摘し、「このことから、作道に際し、路面維持のため地下になんらかの処置を施していた可能性がある。」と言及している。

また、竹田幸司氏は宮城県仙台市王ノ塙遺跡2次調査⁶において波板状凹凸面の性格について調査の成果をまとめ、次のように仮説を唱えている。「底面に壊圧があるものは、凹部の埋め土も含めて道路地下部の基礎工事の跡である。ただし、規則的に並ぶものは、人や車の往来による使用痕跡、重量物運搬のための梱子などの跡を利用して（補修も兼ねていた）工事をしたと考えられる部分もある。これらの波板状凹凸が施される部分は雨水の影響を受けやすい部分で、軟弱な地盤を土地改良し路盤を強化したり、掘削前に壊圧を加えることにより路床を強化することで道路の維持を図る必要があったと想定される。（中略）飯田充晴氏、近江俊秀氏の見解のような道路地下構造の強化による路面の流失防止・雨水の路面への滲出防止などの働きがあったと推定できよう。」と両氏の見解に賛成している。

以上、現在のところ波板状凹凸面の性格についての結論はでていないが、各々の仮説を参考に当跡について見解を述べる。

第3期面構築土の下は地山ローム面であり、道路の掘方と考えられる。早川氏はこの面も路面とする見解で、枕木説を説いているが、ローム面では雨が降ると滑って人や牛馬の歩行が困難であり、荷車も危険であると思われる。さらに波板状凹凸面は第1・2期面からは確認できず、轍痕や窪み痕のみであったことからも枕木説は否定できよう。

また、当遺跡の波板状凹凸面内には凹部の埋土の中に細かい磁器片と細縫が混入されており、筆者が過去に調査した茨城県玉造町（現かすみがうら市）井上庵寺跡⁷においても、道路跡の構築土の下から波板状凹凸面が確認され、充填された土の中に小さく破碎された瓦片が敷き詰められていた。このことからも竹田氏が述べているように雨水の影響の受けやすい軟弱な部分に波板状凹凸を掘削したという道路の基礎工事跡の可能性が強いと考えられる。

イ) 第8号溝跡・第13～16号溝跡について

第8号溝跡は、第1号道路跡の構築土下から確認できた。第1号道路跡と方向が同一で、断面形は逆台形、底面の掘方は楕円形の土坑を連ねたような形状をしていた。これは、土坑連結工法と呼ばれているものに似ており、古代道の側溝とも考えられるが、現時点では並行する対になる溝の確認ができていないので側溝とまでは言及できなかった。覆土は近世の段階で埋め戻されており、縄文土器片と近世磁器片が底面近くまで出土しており、混入と考えるのが妥当だと思われる。

第13号溝は第2期面で確認でき、構築土を振り込んでいる。第1号道路跡と並行しているので、当期の道路に伴う側溝と推測できる。

第14～16号溝跡は、第3期面構築土下のローム面から確認できた。出土遺物がないため時期は不明であるが、第1号道路跡と並行しているので、第3期面以前に構築された道路上に伴う側溝の可能性がある。

現在のところ第1号道路跡に関する文献資料や絵図は見つかっていない。一番古い地図とされるのは国土地理院所蔵の「明治17年迅速図」で、それには高浜・中津川・北根本・東田中が記載されており、現在の県道石岡・田伏・土浦線（高浜街道）とほぼ同じ位置に道が記されている。

木下良氏によると「『常陸國風土記』行方郡条にてくる曾尼駅家は、「香島に向かう陸路の駅道なり」とあるので、これに対応する「湖の駅道」の存在が考えられる。おそらく高浜が国府津兼水駅で、水路は板來駅を経て鹿島神宮に向かい、板來駅は水路と陸路の両方の駅であった。高浜が国府津として機能していたとすれば、常陸國府と国府津を繋ぐ官道が整備されていたであろう⁸」と推測されている。立地的な条件を

考慮し、本跡の原形が古代にさかのぼるのは否定できない。しかし、今回の調査では第1号道路跡全体を完掘することはできなかったため、その根拠を見出すことはできなかった。また、江戸時代の元禄10年5月「常陸国新治郡田中村差し出張」（佐藤武氏所蔵文書）では、府中松平藩が統治した時代、藩の年貢米や物資の輸送は高浜から江戸まで、霞ヶ浦の水運によるとの記録がある³⁰。高浜から府中（現在の石岡市街）までの陸路の記録は記載されてないが、立地条件からも本道路跡を使用した可能性が高く、荷車の轍痕からも推測できよう。

5 おわりに

今回の調査区域は中津川遺跡の一部に過ぎないが、縄文時代から平安時代までは断続的に集落として、中世・近世には墓域として利用されていたことが判明した。特に弥生時代の遺構から、他地域との交流から生まれた独自の弥生土器が出土したことや、調査例が数少ない近世道路跡の調査は、道路の構築方法を知る上でも貴重な成果であったと思われる。さらに、今後の類例の増加を待って、検討していきたい。

註

- 1) 石岡市道路分布調査会『石岡市分布調査報告』石岡市教育委員会 2001年3月
- 2) 瓦吹堅・桜井二郎・高村勇 「龍ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書7 週り地A遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』 XV 1982年3月
- 3) 山本静男 「龍ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書9 仲根台B遺跡 町田遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』 第25集 1984年3月
- 4) 奥沢哲也「茨城県における弥生時代の石英片について』『埋蔵文化財部年報25 平成17年度 研究レポート』茨城県教育財团 2006年10月
- 5) 江幡良夫「土浦工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告II 西原遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第85集 1994年3月
- 6) 中村哲也『野中遺跡 第2次調査報告』美浦村教育委員会 2000年3月
- 7) 関口満・窪田恵一『下郷遺跡・下郷古墳群』土浦市教育委員会 2001年7月
- 8) 黒澤春彦『土浦周辺における弥生時代後期の様相』『土浦市立博物館紀要』土浦市立博物館 2001年3月
- 9) 小川和博・大沢敦志『六十塚遺跡』『田村・沖宿土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第9集 土浦市教育委員会 1997年3月
- 10) 菊池実『長根安坪遺跡 関越自動車道（上越線）地域埋蔵文化財調査報告書第38集』『群馬県埋蔵文化財調査事業団教育財団文化財調査報告』第210集 1997年1月
- 11) (財) 京都埋蔵文化財研究所『柱跡に土器を納める -堅穴住居のマフラー-』『リーフレット京都』NO.224 2007年8月
- 12) 近藤広「弥生時代における柱穴埋納遺物について』『王権と武器と信仰』2008年3月 同成社
- 13) 註1) に同じ
- 14) 山内昭二・瓦吹堅・根本康光・沢田大多郎・山下房子『舟塚山古墳周塚調査報告書』石岡市教育委員会 1972年3月
- 15) 諸星政得・松本祐治・塙谷修・桜井康夫『府中愛宕山古墳周塚調査報告書』石岡市教育委員会 1980年3月
- 16) 緑川正實・海老澤稔『土浦北工業団地造成地内埋蔵文化財調査報告書I』『原田北遺跡I 原田西遺跡』『茨城県教育財団文化財調査報告』第80集 1993年3月
- 17) 小笠原好彦・黒沢彰哉・横山仁・塙谷修『茨城庵寺跡I第一次調査報告』石岡市教育委員会 1980年3月
- 18) 石岡市史編さん委員会『石岡市史（下巻）』石岡市 1985年3月『郡術は、郡名と同名の郷に設置するのが通例で、茨城郡の郡術は茨城郡に設けられたものと思われる。』

- 19) 高島英之『古代出土文字資料の研究』東京堂出版 2000年9月
- 20) 大竹憲治『九字切り呪法土器を論じ派生する神仏の墨書（墨書き土器）土器・刻書（範焼き）土器との関係に迫る』『福島考古』第50号記念号 福島考古学会 2009年3月
- 21) 藤澤良祐『産業別による生産技術の展開からの編年－瀬戸系』『全国シンポジウム 中世窯業の様相～生産技術の展開と編年～発表要旨』全国シンポジウム 「中世窯業の様相～生産技術の展開と編年～」実行委員会 2005年9月
- 22) 葉灘裕一『房総の中世墓2 火葬土坑について』『日本の中世墓』高志書院 2009年3月
- 23) 中野晴久『産業別による生産技術の展開からの編年－常滑・瀬戸系』『全国シンポジウム 中世窯業の様相～生産技術の展開と編年～発表要旨』全国シンポジウム 「中世窯業の様相～生産技術の展開と編年～」実行委員会 2005年9月
- 24) 桃崎裕輔『「常總地域の中世陶磁器と土器－中世びとのくらしうつわ』『焼き物にみる中世の世界－県内出土の土器・陶磁器を中心にして 第4回特別展図録』上高津貝塚ふるさと歴史の広場 1999年3月
- 25) 石岡市史編さん委員会『石岡市史（上巻）』石岡市 1985年3月
- 26) 小玉秀成『霞ヶ浦の弥生土器』平成16年度特別展図録』玉里村立史料館 2004年10月
- 27) 鈴木正義『「鉢釜」研究抄』『婆良岐考古同人会 1982年5月
- 28) 井上義安『鉢釜 塙島線建設に伴う埋蔵文化財調査概報』大洗地区遺跡発掘調査会 1980年3月
- 29) 鈴木正博『北関東弥生式後期「二軒屋式」の研究』『日本考古学学会第65回総会発表要旨』日本考古学協会 1999年5月
藤田典夫『栃木県における弥生時代後期の編年』第9回 東日本埋蔵文化財研究会『東日本弥生土器後期の土器編年』〔第2分冊〕
東日本埋蔵文化財研究会福島実行委員会・福島県立博物館 2000年1月
- 30) 大橋康二『肥前陶磁』考古学ライブラリー55 ニューサイエンス社 1989年10月
九州陶磁学会『九州陶磁の編年 九州近世陶磁学会10周年記念』2000年2月
- 31) 近江俊秀『第4章第3節：道路遺構に伴う凹凸について－波板状凹凸面に対する評価』『古代国家と道路 考古学からの検証』青木書店 2006年6月
- 32) 早川泉『古代道路跡に残された圧痕－波板状凹凸面の性格について－』『東京考古』9 東京考古講話会 1991年5月
- 33) 飯田充晴『道路築造の方法について－埼玉県所沢市東の上遺跡の道路跡を中心にして－』『古代交通研究』2古代交通研究会 1993年5月
- 34) 東和幸『波板状凹凸面に関する第三の見解』『大前徹夫先生古希記念論集 四国とその周辺の考古学』2000年5月
- 35) 註32) と同じ
- 36) 竹田幸司『大野田古墳群・王ノ塚跡・六反田跡－仙台市富沢駅周辺区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書I－5。考察とまとめ〔波板状凹凸面について〕』『仙台市埋蔵文化財調査報告書』第243集 仙台市教育委員会 2000年3月
- 37) 近江屋成陽『茨城県玉造町井上廐寺跡 県道山田玉造線歩道新設に伴う発掘調査報告』井上廐寺跡遺跡調査会 1994年3月
- 38) 現場にてコメントを頂いた
- 39) 註25) と同じ

参考文献

- 茨城県立歴史館『茨城県の縄文土器』『茨城県立歴史館資料叢書』9 2006年3月
鈴木保彦『関東・中部地方における縄文時代の集落』『よねしろ考古』第7号 よねしろ考古学会 1991年10月
瓦吹堅『茨城県における縄文集落の諸様相』第1回研究集会 基礎資料集『列島における縄文集落の諸様相』縄文時代文化研究会 2001年12月
海老澤伦『恋瀬川流域における弥生後期の土器変遷について』『茨城県史研究』第62号 茨城県立歴史館 1989年3月
小玉秀成『東関東における後期弥生土器の成立過程』『史館』第25号 史館同人 1994年5月

- 小玉秀成「茨城県における弥生時代後期土器編年の現状と問題点」十王台式土器制定 60 周年記念シンポジウム『茨城県における弥生時代研究の到達点』茨城県考古学協会・十王町教育委員会 1999 年 11 月
- 海老澤松「茨城県における弥生後期土器の編年」第 9 回 東日本埋蔵文化財研究会『東日本弥生土器後期の土器編年』〔第 2 分冊〕東日本埋蔵文化財研究会福島実行委員会・福島県立博物館 2000 年 1 月
- 奥沢哲也「玉取向山遺跡 縣立つくば養護学校（仮称）整備事業地内埋蔵文化財調査報告書」「茨城県埋蔵文化財調査報告 第 263 集 2006 年 3 月
- 櫻村宣行・土生剛治・白石真理「茨城県における 5 世紀の動向」「東国土器研究」第 5 号 東国土器研究会 1999 年 5 月
- 櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」「研究ノート」2 (財) 茨城県教育財團 1993 年 7 月
- 白石太一郎「常陸の後期・終末期古墳と風土記建評記事」「古墳と古墳群の研究」壇書房 2000 年 9 月
- 中山敏史「古代地方官衙遺跡の研究」壇書房 1994 年 2 月
- 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器（1）」「研究ノート」創刊号 (財) 茨城県教育財團 1992 年 7 月
- 浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器（2）」「研究ノート」2 (財) 茨城県教育財團 1993 年 7 月
- 赤井博之「茨城県の須恵器編年」「古代生産史研究会'97 シンポジウム東国の須恵器－関東地方における歴史時代須恵器の系譜－」古代生産史研究会・栃木県考古学会・栃木県立博物館 1997 年 3 月
- 小向正司編「陰陽道の本 日本書の闇を貫く秘儀・占術の系譜」学研 1993 年 5 月
- 浅野晴樹「中世在地の土器について」「国立歴史民俗博物館紀要」第 31 集 1991 年 5 月
- 藤澤良祐「産業別による生産技術の展開からの編年－戸田系」「全国シンポジウム 中世産業の様相～生産技術の展開と編年～発表要旨」全国シンポジウム「中世産業の様相～生産技術の展開と編年～」実行委員会 2005 年 9 月
- 中野晴久「産業別による生産技術の展開からの編年－常滑・渥美系」「全国シンポジウム 中世産業の様相～生産技術の展開と編年～発表要旨」全国シンポジウム「中世産業の様相～生産技術の展開と編年～」実行委員会 2005 年 9 月
- 松本直人「茨城県における方形堅穴造構の集成」「埋蔵文化財部年報 24」平成 16 年度 研究レポート (財) 茨城県教育財團 2005 年 8 月
- 東北中世考古学学会編「掘立と堅穴 中世造構論の課題」東北中世考古学叢書 2 高志書院 2001 年 11 月
- 江戸遺跡研究会「因説江戸考古学研究事典」柏書房 2001 年 4 月
- 東京都教育委員会「道路遺構等確認調査報告」(財) 古代學協会・古代學研究所東京支所 2000 年 3 月
- 木本雅康「古代の道路事情」歴史文化ライブラリー 108 吉川弘文館 2000 年 12 月
- 仲村浩一郎「道路跡にみられる波板状凹凸面について」「研究ノート」10 (財) 茨城県教育財團 2001 年 3 月
- 木下良「常陸の古代道路に関する二、三の問題」「常陸の歴史」第 16 号 塗書房 1995 年 11 月

付 章

茨城県中津川遺跡出土のウマについて

西本農弘（国立歴史民俗博物館）

はじめに

中津川遺跡から少量の動物骨が出土した。それらはかなり腐食が進んでおり、頭蓋骨や下顎骨は消滅しており、四肢骨もかろうじて部位がわかる程度であった。動物骨を分類した結果、それらはすべてウマの歯と四肢骨と思われる。それらは3つの地点で出土しているので、出土地点ごとに内容を表に示した。

1 第1号道路跡B区②地点

a. B区1期面構築土

ウマの左側第3前臼歯と思われる1点と部位不明の骨破片1点が出土しただけである。歯はかなり摩耗しており歯根の長さから10歳前後と推定される。

b. B区2期面c構築土

ウマ2個体分の歯が見られた。1個体は右上顎の歯2個と右下顎歯6個で磨耗の状態から見て1個体と思われる。摩耗が進んでおり歯根の長さから13～14歳程度の老獣と推測される。犬歯の有無歯確認できず雌雄歯不明である。

もう1個体は、左右の下顎歯が4本認められ歯根の長さから11～12歳程度の老獣である。

c. B区3期面構築土

ウマの左側下顎歯2個であり、前臼歯と思われる。摩耗が進んでおらず数歳程度の成獣であろう。

2 第8号墓坑（SK310）

ウマの歯や大腿骨や脛骨・寛骨などかろうじて残っていた。その内容からみるとウマの成獣1個体分と推測される。比較的小さなウマということ以外には年齢も分からぬ。

3 第9号墓坑（SK349）

ウマの臼歯破片がごく少量みられただけで、歯種と年齢も不明である。

まとめ

以上、この遺跡出土のウマについて分類結果を述べた。遺構ごとに別個体とすると、6個体のウマが埋葬されていたと推測される。いずれも断片的な資料だが、ウマの大きさはすべて小さく、おそらく体高120cm程度の小型馬と推測される。

遺構	区域	遺物番号	種類	部位	L・R	残存部分・状態	長さ	前幅	後幅	歯冠高	推定年齢	備考
第1号道路跡	B区②1期面 構築土	6	ウマ	下顎歯	L	P 3 ?	25.7 ±			28.8 ±	10歳前後?	歯冠・歯根とも破損
		7	不明	不明		破片						
第1号道路跡	B区②2期面 構築土	133	ウマ	上顎歯	R	M 1 or 2	22.5 ±			26.2 ±	13 ~ 14歳?	同一個体
					R	M 3	23.8 ±			29.5 ±		
					R	P 2	-	-	-	20.7		
					R	P 3	26.1	14.1	14.2	22.5		
					R	P 4	26.1	15.1		26.0		
					R	M 1	23.2	13.7	11.9	22.6		
					R	M 2	24.6	13.7	11.9	27.1		
第1号道路跡	B区②3期面 構築土	135	ウマ	下顎歯	R	P 4 ?	23.6			33.2	11 ~ 12歳?	同一個体
					R	M 1 ?	19.2					
						歯種不明破片						
					136	ウマ	下顎歯	L	P 3 ?	23.6	27.8	
					L	P 4 ?	23.6			33.1		
						歯種不明破片						
第8号墓坑	(SK310)	1	ウマ	四肢骨	R	臼歛破片	3本分?					
						破片						
					2	ウマ	脛骨	L	近位端・脛幹部破片			
					3	ウマ	大脛骨	L	脛幹部破片			
					4	ウマ	不明		破片			
					5	ウマ	寛骨	L	寛骨臼部破片			
					5	ウマ	大脛骨	L	骨頭破片			
					6	ウマ	不明		破片			
					7	ウマ	椎骨		破片			
					10	ウマ	椎骨		破片			
					11	ウマ	肩甲骨	L	間節・中間部破片			
					12	ウマ	四肢骨		破片			
					13	不明	不明		破片			
					14	ウマ	脛骨	L	遠位端破片			
					14	ウマ	距骨	L	破片			
					14	ウマ	足根骨					
第9号墓坑	(SK349)	1	ウマ	臼歛		破片						

<注> P: 前臼歛 M: 後臼歛 番号は歯の順序をあらわす



写真図版

SF-1B 区② 2期面c 出土のウマ右側下顎歯
(上段は内側で左が前方、下段は外側で右が前方)

2cm

写 真 図 版



第1号道路跡足跡剥ぎ取り作業風景



遺跡全景（北東から筑波山を望む）



調査区全景完掘状況

PL2



A区③完掘全景



B区完掘全景(北侧)



B区完掘全景(南侧)



第2号住居跡
完掘状況



第2号住居跡
炉完掘状況



第3号住居跡
完掘状況



第6号住居跡
完掘状況



第8号住居跡
完掘状況



第10号住居跡
完掘状況



第 14 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 14 号 住 居 跡
炉 完 挖 状 況



第 14 号 住 居 跡
炉 断ち割り 土層断面

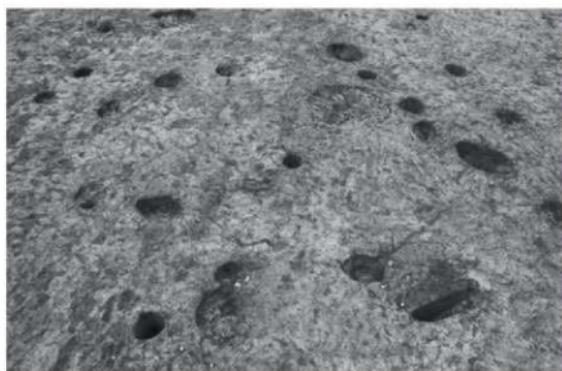
PL6



第15号住居跡
完掘状況



第15号住居跡
炉 完掘状況



第17号住居跡
完掘状況



第24・25号住居跡
完掘状況



第24号住居跡
遺物出土状況①



第24号住居跡
遺物出土状況②

PL8



第25号住居跡
遺物出土状況



第25号住居跡
埋設土器完掘状況



第25号住居跡
埋設土器断ち割り
土層断面



第28号住居跡
完掘状況



第1号陥し穴(SK116)
完掘状況



第3号陥し穴(SK483)
完掘状況

PL10



第 27 号 土 坑
完 挖 状 況



第 27 号 土 坑
遗 物 出 土 状 況 ①



第 27 号 土 坑
遗 物 出 土 状 況 ②



第15号土坑完掘状况



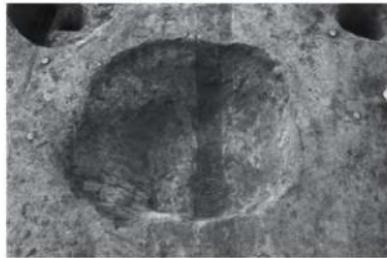
第53号土坑完掘状况



第36号土坑完掘状况



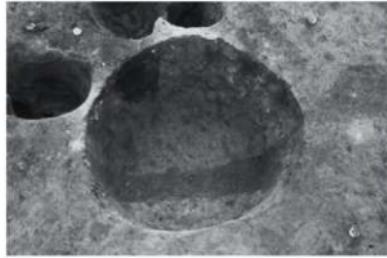
第72号土坑完掘状况



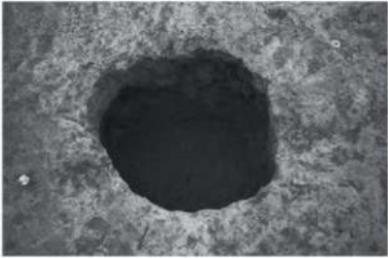
第41号土坑完掘状况



第80号土坑完掘状况



第51号土坑完掘状况



第81号土坑完掘状况

PL12



第5号住居跡
完掘状況



第9号住居跡
完掘状況



第9号住居跡
遺物出土状況



第11号 住居跡
完掘状況



第11号 住居跡P3
遺物出土状況



第16号 住居跡
完掘状況



第21号 住居跡
完 挖 状 況



第21号 住居跡
遺 物 出 土 状 況



第22号 住居跡
遺 物 出 土 状 況



第23号 住居跡
完掘状況



第23号 住居跡P8
遺物出土状況



第23号 住居跡P6
遺物出土状況

PL16



第19号住居跡
完掘状況



第20号住居跡
遺物出土状況



第20号住居跡P5
遺物出土状況



第 26 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 26 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況



第 26 号 住 居 跡
遺 物 出 土 状 況

PL18



第27号住居跡
完掘状況



第27号住居跡
遺物出土状況



第27号住居跡
竪遺物出土状況



第 7 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 18 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第 18 号 住 居 跡
完 挖 状 況



第1号住居跡
完掘状況



第1号住居跡
遺物出土状況①



第1号住居跡
遺物出土状況②



第4号住居跡完掘状況



第4号住居跡遺物出土状況①



第4号住居跡土層断面



第4号住居跡遺物出土状況②



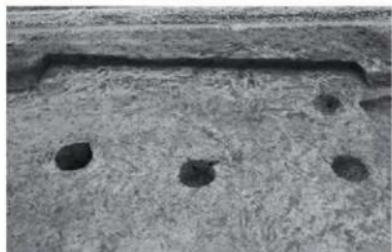
第4号住居跡遺物出土状況



第1号掘立柱建物跡完掘状況



第5号掘立柱建物跡完掘状況



第2号掘立柱建物跡完掘状況



第6号掘立柱建物跡完掘状況



第3号掘立柱建物跡完掘状況



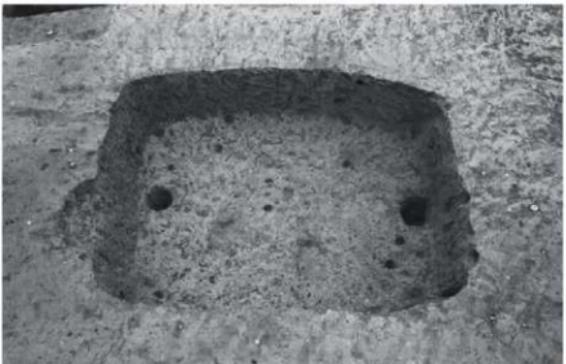
第7号掘立柱建物跡完掘状況



第4号掘立柱建物跡完掘状況



第8号掘立柱建物跡完掘状況



第2号方形竖穴遺構
(SK95) 完掘状況



第4号方形竖穴遺構
(SK156) 完掘状況



第5号方形竖穴遺構
(SK157) 完掘状況



第1号井戸跡
遺物出土状況①



第1号井戸跡
遺物出土状況②



第1号井戸跡
遺物出土状況③



第1号道路跡A区③1・2期面a完掘状況



第1号道路跡A区①1期面完掘状況



第1号道路跡A区③1期面歴痕確認状況



第1号道路跡B区①1期面遺物出土状況、第7号溝跡完掘状況



第1号道路跡B区②1期面完掘状況



第1号道路跡A区②2期面a遺物出土状況



第1号道路跡A区②2期面a遺物出土状況



第1号道路跡A区①2期面c・3期面確認状況



第1号道路跡A区②3期面確認状況



第1号道路跡A区①土層断面



第1号道路跡A区②土層断面



第1号道路跡A区②土層断面



第1号道路跡A区②波板状凹凸面土層断面



第1号道路跡A区②・③3期面掘方完掘状況



第1号道路跡A区③、第8号道路跡完掘状況



第1号道路跡A区③3期面掘方完掘状況



第1号道路跡A区③3期面掘方完掘状況



第1号道路跡B区①2期面a完掘状況



第1号道路跡B区①2期面a遺物出土状況



第1号道路跡B区①土層断面



第1号道路跡B区①土層断面

PL28



第1号道路跡B区②2期面a完掘状況



第1号道路跡B区③2期面a完掘状況



第1号道路跡B区③2期面a足跡



第1号道路跡B区②3期面完掘状況



第1号道路跡B区①3期面掘方完掘状況



第1号道路跡B区①3期面掘方補修痕土層断面



第1号道路跡B区①3期面掘方補修痕土層断面



第1号道路跡B区②波板状凹凸面土層断面



第1号道路跡B区②・③3期面掘方・第8号溝跡完掘状況



第1号道路跡B区②3期面掘方・第8号溝跡完掘状況



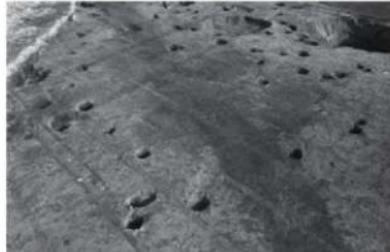
第1号道路跡B区②3期面掘方・第16号溝跡完掘状況



第1号道路跡B区②3期面掘方・第14号溝跡完掘状況



第8号溝跡完掘状況



第2号道路跡1期面、第1号ビット群完掘状況



第2号道路跡2期面完掘状況

第6号道路跡路面完掘状況



第3・4号道路跡遺物出土・完掘状況



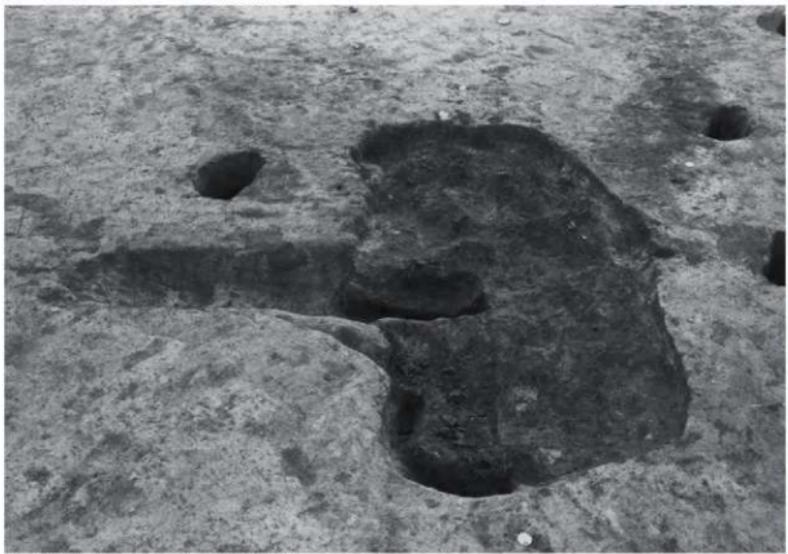
第6号道路跡遺物出土状況



第7号道路跡確認状況



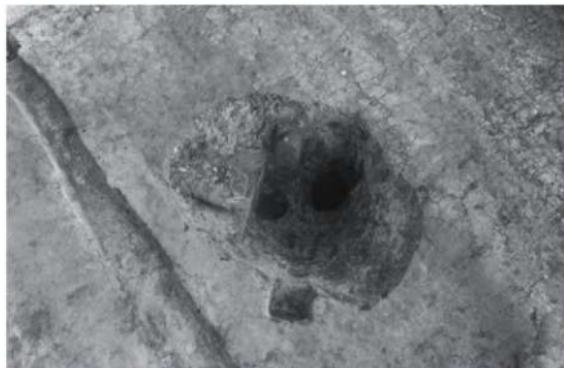
第2号火葬土坑(SK132) 完掘状况



第2号火葬土坑(SK132) 遗物出土状况



第8号墓坑 (SK310)
馬骨出土状況



第9号墓坑 (SK349)
遺物出土状況①



第9号墓坑 (SK349)
遺物出土状況②



第 68 号 土 坑
完 挖 状 況

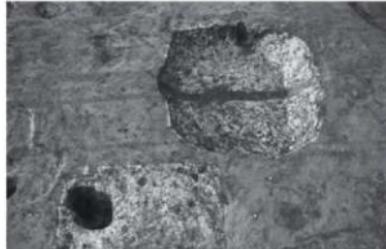


第 68 号 土 坑
遗 物 出 土 状 況,
第 1 号 道 路 踪
土 层 断 面

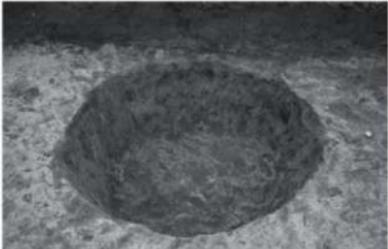


第 68 号 土 坑
土 层 断 面

PL34



第10号土坑完掘状况



第105号土坑完掘状况



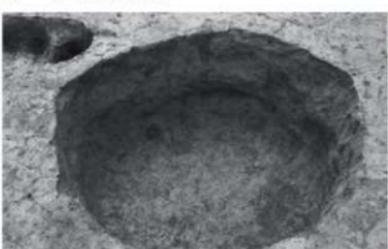
第11号土坑完掘状况



第114号土坑完掘状况



第20号土坑完掘状况



第120号土坑完掘状况



第59号土坑完掘状况



第127号土坑骨粉出土状况



第262号土坑完掘状况



第262号土坑遗物出土状况①



第262号土坑遗物出土状况③



第262号土坑遗物出土状况②



第262号土坑遗物出土状况④



第1号溝跡完掘状況①



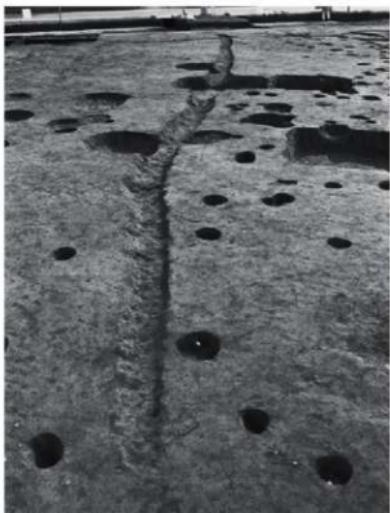
第1号溝跡完掘状況②



第1号溝跡土層断面



第4号溝跡完掘状況



第5号溝跡完掘状況



第6号溝跡完掘状況



SI6-2



4



5

SI6



第3号陥し穴-23



SK80-15



SI14-6



SI24-10

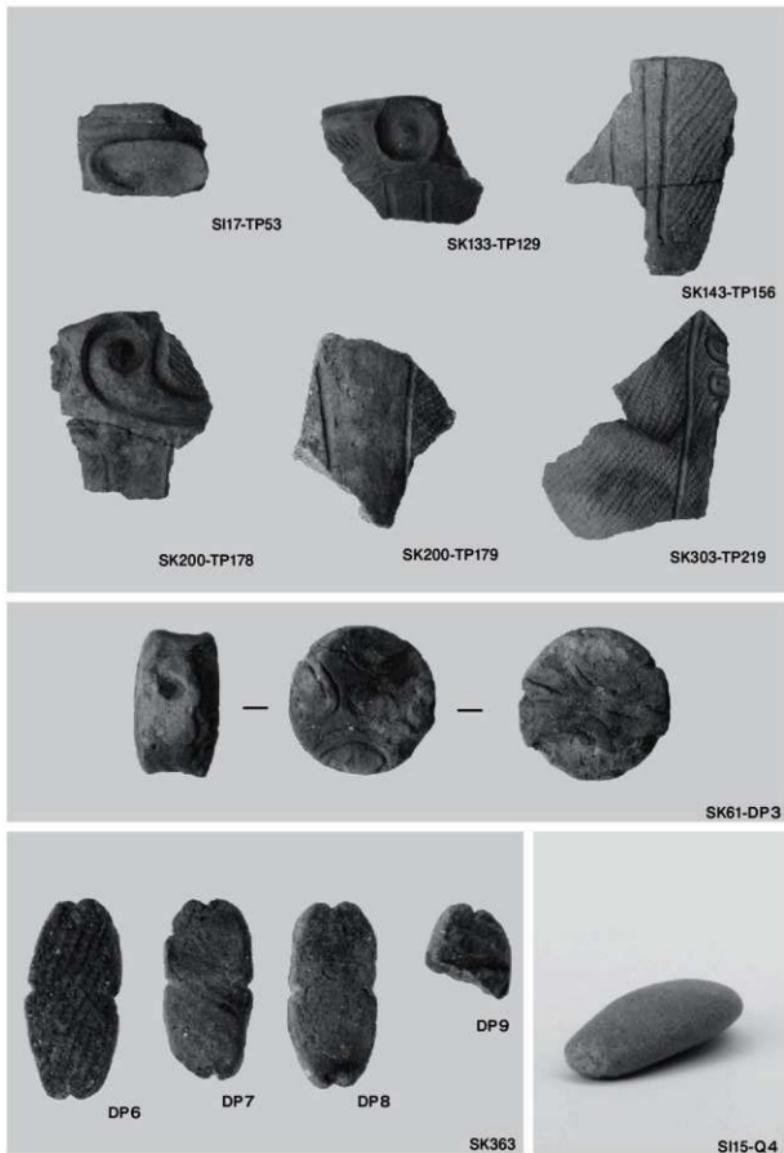


SI25-12

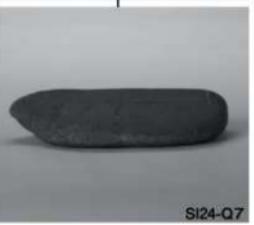


SK27-13

第6・14・24・25号住居跡、第3号陥し穴、第27・80号土坑出土遺物



第15·17号住居跡、第61·133·143·200·303·363号土坑出土遺物



SI5-24



SI9-27



SI11-30



SI23-32

第5·6·9·11·23·24号住居跡出土遺物

PL40



SI22-31



SK421-36



SI23-34



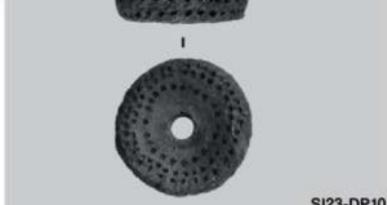
SI5-25



SI23-DP10



SI23-33



SI21-TP256



SI11-Q8

第5·11·21·22·23号住居跡、第421号土坑出土遺物



第19·26·27号住居跡出土遺物

PL42



第26·27号住居跡出土遺物



第26、27号住居跡出土遺物

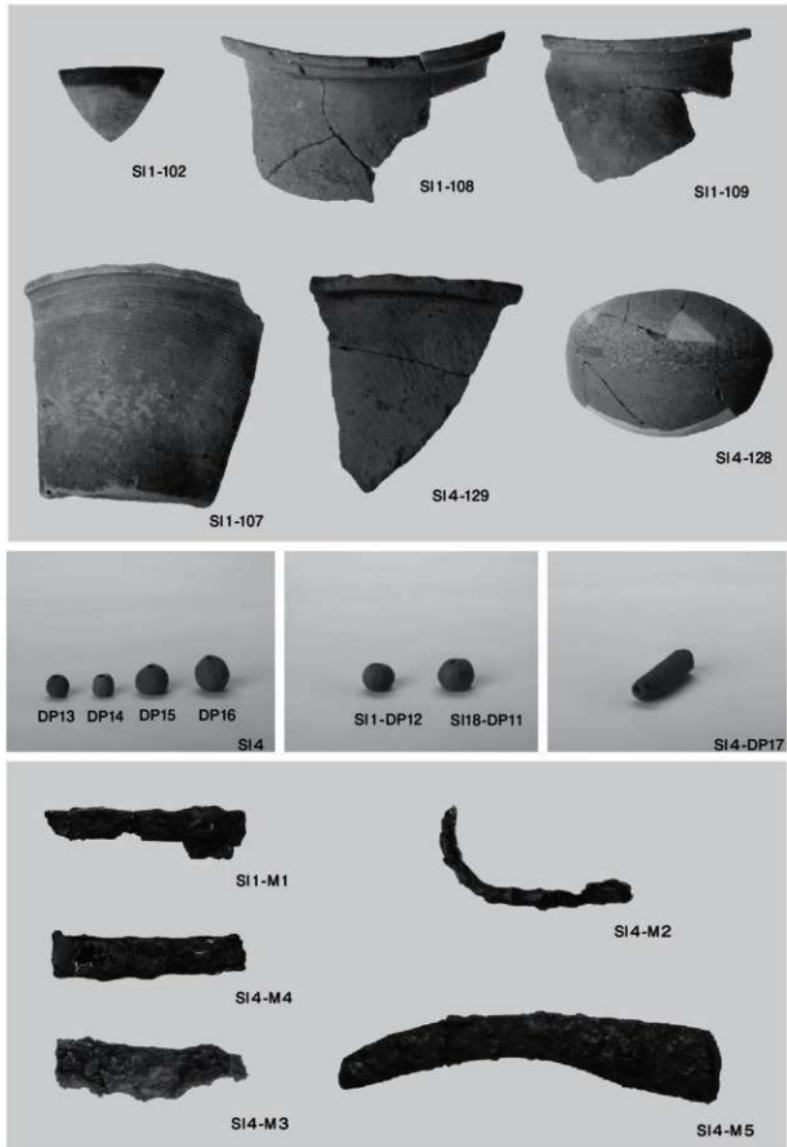
PL44



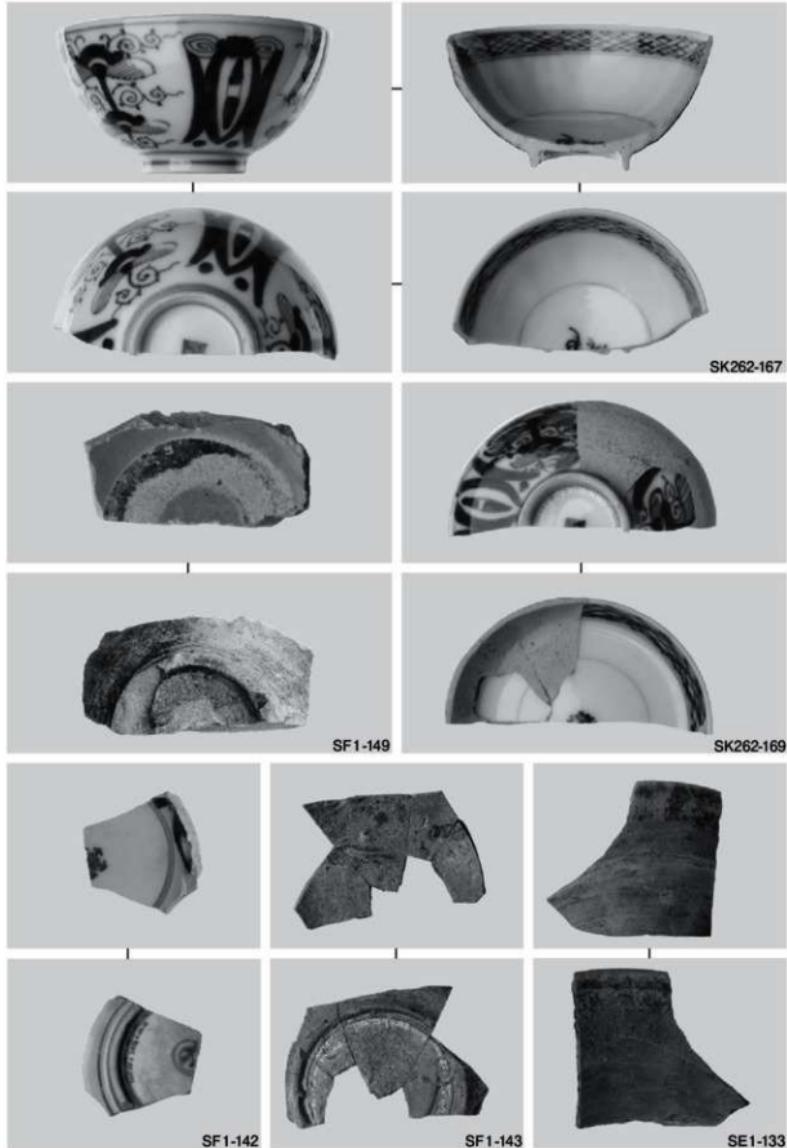
第19・26・27号住居跡出土遺物



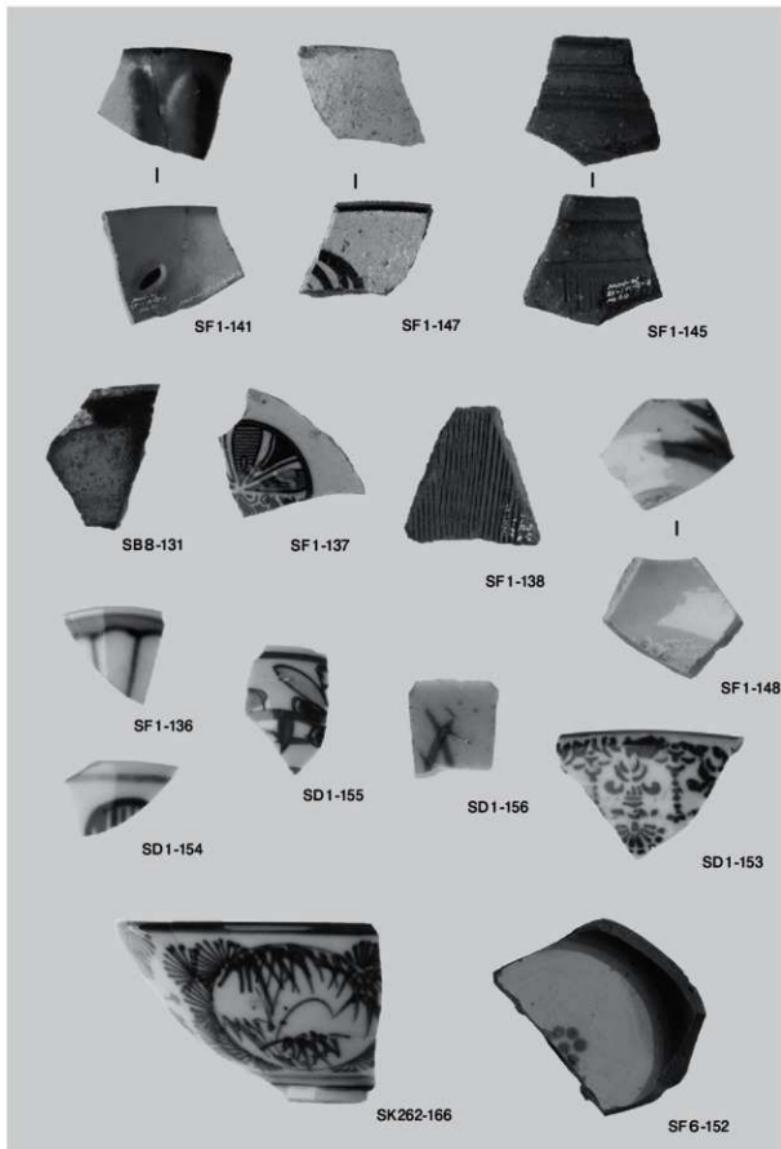
第4·18号住居跡出土遺物



第1·4·18号住居跡出土遺物



第1号井戸跡、第1号道路跡、第262号土坑出土遺物



第8号掘立柱建物跡、第1・6号道路跡、第262号土坑、第1号溝跡出土遺物



第1·6号道路跡、第262号土坑出土遺物

PL50



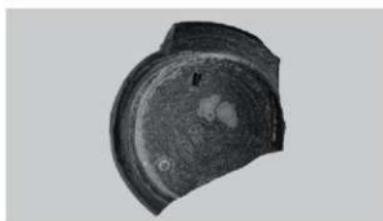
SK114-160



SX1-183



SF1-140



SK262-170



SK262-181

第1号道路跡，第114·262号土坑，第1号不明遺構出土遺物



SK114-159



SK123-163



SE1-134



SK262-180

SK262-182

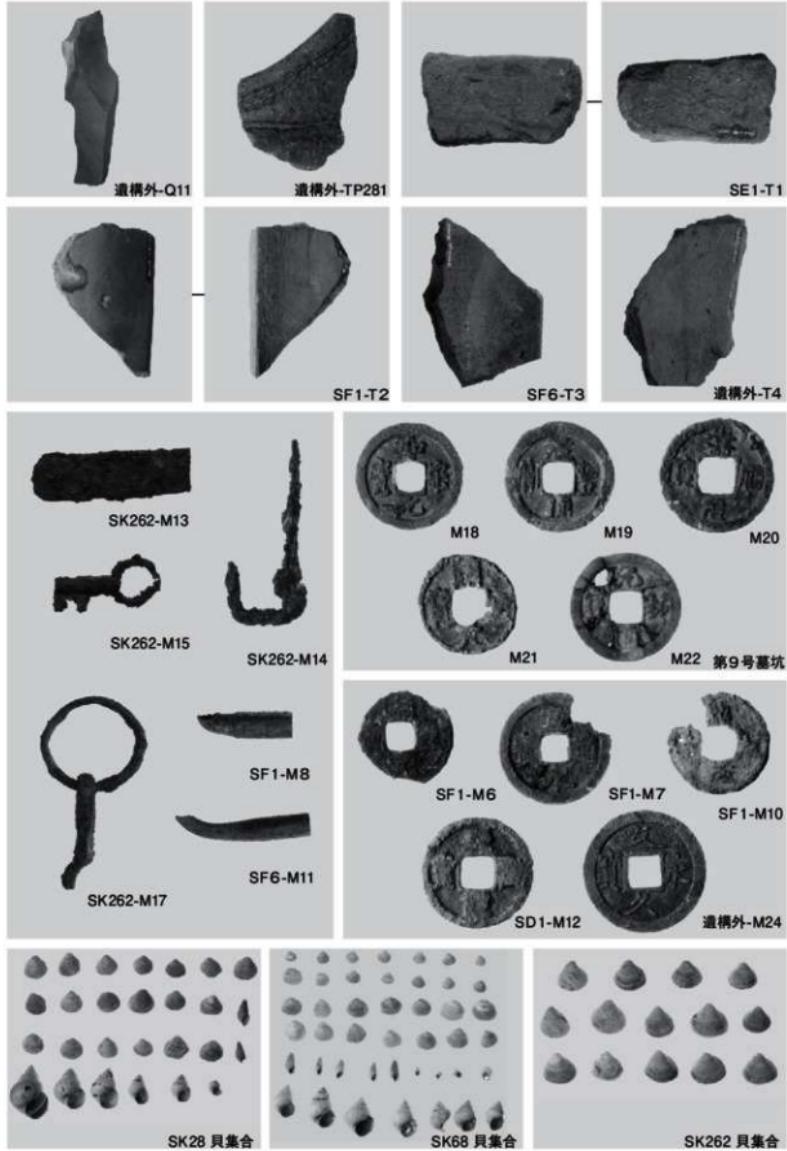


SK114-161



SK262-178

第1号井戸跡、第114・123・262号土坑出土遺物



第1号井戸跡, 第1・6号道路跡, 第9号墓坑, 第28・68・262号土坑, 第1号溝跡, 遺構外出土遺物

抄 錄

印 刷 仕 様

編 集 OS Microsoft Windows XP
Professional Version2002.ServicePack3
編集 Adobe Indesign CS4
図版作成 Adobe Illustrator CS4
写真整理 Adobe Photoshop CS4
Scanning 6×7film Nikon SUPER COOLSCAN9000
画面類 EPSON GT-X750
使用Font リュウミンPro・L
写 真 線数 モノクロ175線以上 カラー210線以上
印 刷 印刷所へは、Adobe Indesign CS4でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第338集

中 津 川 遺 跡

一般国道 6号千代田石岡バイパス
(かすみがうら市市川~石岡市東大橋)
事業地内埋蔵文化財調査報告書 5

平成23(2011)年 3月17日 印刷
平成23(2011)年 3月23日 発行

発行 財團法人茨城県教育財團
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
http://www.ibaraki-mabun.org/
印刷 ワタヒキ印刷株式会社
〒310-0012 水戸市城東1-5-21
TEL 029-221-4381㈹